

授業名	ブッダの教え			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1101
英文名	Teaching of Buddha			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	伊藤 茂樹			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は仏教の起源である開祖ブッダの時代に遡り、彼の生き方とその教えを中心として概説することにより、ブッダが残した「宗教真理」が我々の心の糧として、我々の生きる意義を示していることを理解させる。「宗教とは何か」「仏教成立の時代背景」「ブッダの生涯」「ブッダの教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然性、仏教の開祖ブッダの生涯、ブッダの教説（四諦説・縁起等）を概説する。								
学修成果到達目標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 仏教の宗教真理である「苦悩」の理念を自らの問題として理解出来る。 3) 仏教の宗教真理である「縁起」の理念を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	『ブッダと法然』（学術図書出版社、2019年）								
参考書	授業内で紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	発表についてはコメントする。								
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オフィスアワー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授業名	ブッダの教え	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「宗教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本の基本を学び、宗教の本質をざっくりと学びます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 仏教を学ぶ目的と意義について概説します。学園の建学の精神を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 建学の精神をまとめてください。
第3回	「仏教とは何か」	(学修内容) 私たちの日常生活にみえる仏教を確認してみましょう。インドの習俗は、私たちの生活にみえています。日常生活から仏教を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について一通り、教科書を読んでみてください。授業後、プリントを整理してください。
第4回	「仏教成立の時代背景-インドの歴史」	(学修内容) 仏教発祥の地であるインドの歴史を、その起源よりアリア人のインド侵入の時期までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代インドについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第5回	「仏教成立の時代背景-業思想について」	(学修内容) アリア人のインド定住と、そこに生じた新たな思想(業・輪廻)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 業思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第6回	「仏教成立の時代背景-六師外道」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダ出現年代に起こった思想的変革を概説し、仏教という新宗教誕生の必然性を考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六師外道について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業の後、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯-誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「ブッダの生涯-四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「ブッダの生涯-苦行」	(学修内容) ブッダの出家・修業時代から悟りへの道を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 苦行について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「ブッダの生涯-成道について」	(学修内容) ブッダの「さとり」を中心に概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さとりについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「ブッダの教え-縁起」	(学修内容) 縁起説について概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 縁起について、該当する教科書の範囲を読んでください。前回授業のノートを読み返しておくこと。
第12回	「ブッダの教え-四諦八正道」	(学修内容) 四諦説と八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「ブッダの教え-十大弟子」	(学修内容) 釈尊の伝道について概説します。また十大弟子の様々なエピソードを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十大弟子について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「ブッダの生涯-三宝の成立」	(学修内容) ブッダの成道後の教団形成とブッダの涅槃までを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 三宝について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダの教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでのノートを読み返してください。自分なりに釈尊の生涯をまとめること。

授 業 名	法然上人の思想と生涯			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1116
英 文 名	Saint Honen's Thought and His Life			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	伊藤 茂樹			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	本講義は浄土宗の開祖である法然上人の生涯とその教えを中心として学ぶことにより、日本仏教の改革者として現れる法然上人の「生き方」と「思想」から、我々人間としての在り方を考えさせる。「浄土教とは」「法然上人の生きた時代」「法然上人の生涯」「法然上人の教え」という4つのテーマの下に、浄土教、法然上人出現の必然性、浄土宗の開祖法然上人の生涯、法然上人の教説（本願念仏・浄土往生等）を内容とする。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 建学の精神を理解出来る。 2) 法然浄土教の「念仏観」を自らの問題として理解出来る。 3) 法然浄土教の「平等観」を自らの問題として理解出来る。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	『ブツダと法然』（学術図書出版社、2019年） 春学期の「ブツダの教え」で使用した教科書と同じ教科書を使用します。 （春学期に購入した学生は、秋学期に新たに購入する必要はありません）								
参 考 書	使用しない。授業内で適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	発表についてはコメントします。								
留 意 事 項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義にて指示します。								
実践的教育									

授業名	法然上人の思想と生涯	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み返すこと
第2回	「釈尊の仏教の意義」	(学修内容) 釈尊の生涯と思想を振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の生涯と思想を読み返す。
第3回	「釈尊滅後の仏教」	(学修内容) 大乘仏教について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第4回	「仏教の伝来とは」	(学修内容) インド・中国・日本にわたる仏教の伝来を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大乘仏教について、ノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第5回	「日本仏教の特色」	(学修内容) 日本仏教の特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 仏教伝来について、授業のノートを読み返しておくこと。授業後、ノートを整理する。
第6回	「法然上人の生きた時代 末法思想」	(学修内容) 法然上人の生きた時代の背景を学びます。末法思想を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 末法思想について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第7回	「法然上人の生涯 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生から出家まで概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 誕生から出家について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第8回	「法然上人の生涯 修学」	(学修内容) 法然上人の修学時代を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 比叡山修学、南都遊学について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第9回	「法然上人の生涯 浄土宗開宗」	(学修内容) 求道の遍歴から浄土宗開宗について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 立教開宗の過程について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然上人の教え」	(学修内容) 浄土宗の教えを概説します。理解度テストを行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然上人の教え 『選択本願念仏集』」	(学修内容) 法然上人の教え「選択本願念仏」について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の教えについて、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然上人の周辺」	(学修内容) 法然上人の信者、弟子たちについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 門弟や信者について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然上人の生涯 大原問答」	(学修内容) 東大寺講説、大原問答等について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答・東大寺講説について、該当する教科書の範囲を読んでください。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然上人の生涯 法難と臨終」	(学修内容) 念仏の興隆と法難、法然上人の入滅。専修念仏教団の展開について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難・臨終について、該当する教科書の範囲をよんでください。授業後、ノートを整理する。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、法然上人の教えが現代の我々と如何に関わるかを共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業のノートを読み返しておくこと。法然上人についてまとめてください。

授 業 名	総合基礎演習 s a ・ s b ・ s c ・ s d				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1102	
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修		
担 当 者	秋山 裕之・斧出 節子・柿本 真代・盧 珠妍				対 象 学 生	現代家政1回生					
授業の概要	何を身につけたいか、何を学びたいか、どのような学生生活を送りたいか、各学生が考える機会にする。他の学生と考えを交流し相互理解を深めながら、各学生の学びの方向性を明確にする。 発表資料の作成方法を学んで発表し、プレゼンテーション能力を身につける。また、レポート作成の方法を学んで、実際にレポートを作成し、意見を主張する技術を習得する。										
学 修 成 果 到 達 目 標	1) コミュニケーション能力の基礎力を身につけ、他者の意見をもとに自分の意見を述べることができる。 2) プレゼンテーション能力の基礎力を身につけ、発表資料を作成することができる。 3) マネージメント能力の基礎力を身につけ、課題を発見し、必要な資料を収集することができる。										
学位授与の 方針との関連	知識・理解				汎用的技能						
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力						
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技			
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)				
テ キ ス ト	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社										
参 考 書	初年次教育用の冊子を配布・使用する										
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションの際は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。 提出されたレポートは、コメントを書いて返却する。										
留 意 事 項	ゼミを通して大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境作りを目的とするため、個々の学生の積極的な取り組みが望まれる。										
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。										
実 践 的 教 育											

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高校と大学の違い(1) 履修登録	(学修内容)講義、演習、実習などの位置づけ、必修・選択・資格科目、インターンシップ等の授業形態の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修要項の該当部分を確認し、授業に持参する。
第2回	高校と大学の違い(2) 学生生活をデザインする	(学修内容)大学教員の役割(教育と研究、研究日、研究室の利用方法)や、ポータルサイト、Gmailの使い方(ITC自主学习含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) ポータルサイトを確認し、必要な情報を入手する。履修要項を持参する。
第3回	目標と方法(1) 学びの動機付け	(学修内容)大学生活における目標と方法、長期目標と短期目標の設定の仕方を学ぶ。(ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(45分) ディプロマポリシーについて振り返る。
第4回	目標と方法(2) 目標づくり	(学修内容)目標の立て方を学び、具体的な目標を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 資料を読んで過不足のない目標を確認する。
第5回	大学での学び方	(学修内容)講義の受け方、ノートの取り方、単位の実質的意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 学んだ内容を他の授業で実践する。
第6回	レポートの書き方(1) 書式	(学修内容)レポートと論文の違い、体裁や書式について(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(45分) レポートを作成する。
第7回	レポートの書き方(2) 添削	(学修内容)前回の事後学習課題を持参し、添削を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 添削された内容を基に、修正・再提出する。
第8回	発表用資料の作成方法	(学修内容)口頭発表のレジュメ作成の方法について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第9回	発表用資料の作成	(学修内容)レジュメ作成の実際について (事前事後学修課題の内容)(60分) レポートの内容をレジュメとして作成する。
第10回	個人別プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第11回	個人別プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第12回	個人別プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容)個人発表を行う。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第13回	PROGテストの活用	(学修内容)PROGテストの見方、活用方法、目標設定について (事前事後学修課題の内容)(30分) PROGテストのテキストを参照する。
第14回	1回生ゼミ連絡会	(学修内容)夏期休暇中のレポート課題発表・夏期ボランティア等紹介 (事前事後学修課題の内容)(45分) 夏期休暇中の課題に必要な情報を収集する。
第15回	レポート・文章の書き方(基本)まとめ	(学修内容)発表を終えての文章の書き方・1200字程度のレポート作成について (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期の振り返りをしておくこと。

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1102
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	ロシニョーリ 正代・猿渡 綾子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>大学で何を学び身に付けたいか。どのような学生生活を送りたいかを各学生が考える機会にする。 また、クラスメイトとの相互理解を深めるとともに、新しい環境に馴染み、積極的に学んでいく基本姿勢を身に付ける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 大学教育に必要な学修方法を身につける 2. 他者と適切なコミュニケーションをとることができる 3. プレゼンテーションの基礎を身につける</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	<p>総合基礎演習 (冊子は授業で配布) 『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 化学同人</p>								
参 考 書	<p>適宜紹介する 第1回目～第3回目は「Campus Life」と「履修要項」を持参する</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>各自の課題に対してコメントを返し指導を行う。グループワークの成果についてもクラスメイトと共有できるアドバイスを行う。</p>								
留 意 事 項	<p>ゼミを通して自ら大学でのネットワークづくりをし、楽しみながら学べる環境づくりを実現するために、積極的に取り組んでください。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>初回時に伝えます</p>								
実践的教育									

授 業 名		総合基礎演習 ta・tb	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション・履修登録	(学修内容)この授業の目的を確認する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自、履修内容の確認ができるよう準備する	
第2回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう(1) (授業について・学生生活について)	(学修内容)講義・演習・実習・実験の位置づけを理解する 必修・選択・資格取得・インターンシップなどの授業形態を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習	
第3回	高校と大学の学生生活の違いを知ろう(2) (学生生活をデザインする)	(学修内容)大学教員を知る ポータルサイト・Gメールの使い方を知り、連絡の取り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習	
第4回	目標の設定とその方法(1) (望む将来像について考える)	(学修内容)学科のディプロマポリシーを深く理解する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習	
第5回	レポートの書き方を学ぼう(1) (実験ノートの取り方・データの収集)	(学修内容)簡単な実験を通して、ノートの取り方、データ収集方法を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習	
第6回	レポートの書き方を学ぼう(2) (レポートで使う語句・作成手順)	(学修内容)前回の実験を通してレポート作成方法を習得する・レポートと論文の違いを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所の予習復習を行う 課題学習	
第7回	目標の設定とその方法(2) (実際に計画を立てる)	(学修内容)目標の立て方を学び、ステップアップシートを記入する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習	
第8回	大学での学び方(自分で学ぶとは) 図書館ツアー(文献検索と日々の学習)	(学修内容)自律的に学ぶための基本を理解する(講義の受け方・ノートの取り方) 図書館の利用方法を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 学生証を持参すること 課題学習	
第9回	学んだことを使って発表しよう(1)	(学修内容)レジュメ・口頭などの発表方法を学ぶ 要約の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習	
第10回	学んだことを使って発表しよう(2) (プレゼンテーション)	(学修内容)各自実際にプレゼンを行い、客観的な意見をもらう  (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で学んだことに配慮し、プレゼンの練習をすること 課題学習	
第11回	健康的な生活について考える (グループワーク)	(学修内容)健康に生活を送るためのスキルについて学ぶと共に、他者との意見を交換する (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習	
第12回	手紙・メール術を実践しよう	(学修内容)学んだルールに沿った文章をつくる  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習	
第13回	課題に取り組むためのPDCAサイクルとは	(学修内容)PDCAサイクルを通して、発見した課題の改善策や次への計画の立て方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの該当箇所を予習・復習すること 課題学習	
第14回	自己分析結果を見よう	(学修内容)ステップアップシートやPROGテストの結果を通して、自己の特性についての課題を見つける (事前事後学修課題の内容)(60分) じっくりと考えるだけではなく、家族や友人からコメントをもらうこと 課題学習	
第15回	自己分析結果と気づきから方針を立てよう	(学修内容)見つけた課題に対して、長所・短所などに気づき、今後の取り組み方針を決定する (事前事後学修課題の内容)(60分) 全体的な復習を行うこと 課題学習	

授 業 名	総合基礎演習 t a ・ t b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1117
英 文 名	Freshman Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	平 正 人・猿渡 綾子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	総合基礎演習 に続き、大学でのこれからの学びの基礎力を身につけるとともに、2年生以降の学びの目標をどこに置くかを考え、自分自身の課題設定を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 4年間の学生生活の基礎となる友人や教員との適切なコミュニケーションを実践できる。 2. 資料を収集し、レポートを作成する能力を身につける。 3. 他者に向けてプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 化学同人 『図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』化学同人								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの内容などに対し、個別でのアドバイスを行う。								
留 意 事 項	課題を期日までにしあげること。 テキスト以外の根拠ある情報の検索を積極的に行うこと。 他者のプレゼンテーションを真剣に聴き、積極的に質問すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		総合基礎演習 ta・tb	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 夏休み課題の確認	(学修内容) 秋学期の授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏休課題を忘れずに持参すること シラバスをよく読んでおき、授業の内容を確認しておくこと	
第2回	秋学期に向けての抱負	(学修内容) 原稿用紙の正しい使い方、文の構成について確認する 秋学期に向けての作文を書く (事前事後学修課題の内容) (60分) 春学期から秋学期への自己の生活について整理しておく	
第3回	プレゼンテーションについて 質疑応答について	(学修内容) 秋学期のプレゼンテーションの進め方について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 文章術ハンドブックの復習	
第4回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学1) 日本語学習1	(学修内容) 国試問題解答解説 書き言葉と話し言葉 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第5回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学2) 日本語学習2	(学修内容) 国試問題解答解説 言葉の選択 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第6回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学3) 日本語学習3	(学修内容) 国試問題解答解説 文の構成 (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第7回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学4) グループディスカッション1	(学修内容) 国試問題解答解説 テーマに沿って話す (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第8回	国試対策プレゼンテーション(基礎栄養学5) 日本語学習4	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第9回	国試対策プレゼンテーション(生化学1) 日本語学習5	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第10回	国試対策プレゼンテーション(生化学2) 日本語学習6	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第11回	国試対策プレゼンテーション(解剖学1) グループディスカッション2	(学修内容) 国試問題解答解説 テーマに沿って話す (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第12回	国試対策プレゼンテーション(解剖学2) 日本語学習7	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第13回	国試対策プレゼンテーション(食べ物と健康1) 日本語学習8	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第14回	国試対策プレゼンテーション(食べ物と健康2) 日本語学習9	(学修内容) 国試問題解答解説 日本語トレーニング (事前事後学修課題の内容) (90分) 課題作成 文章術ハンドブックの復習	
第15回	まとめ(2回生に向けて)	(学修内容) 1回生である1年間を振り返り、2回生に向けての課題を考える  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自己の学びと気づきをまとめておくこと	

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd				開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1117	
英 文 名	Freshman Seminar				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修		
担 当 者	秋山 裕之・斧出 節子・柿本 真代・盧 珠妍				対 象 学 生	現代家政1回生					
授業の概要	<p>大学生活に必要な、プレゼンテーションの方法、資料作成の方法、レポート作成の方法について学ぶ。プレゼンテーションの方法は、個人あるいはグループとし、適宜、アンケート調査を実施したり、文献調査を行ったり、インターネットの情報を収集したりして、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。また、その発表を期末レポートにまとめ、2年次以降の学びにつなげる。</p>										
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 資料を収集し、プレゼンテーションに必要な発表資料を作成することができる。  2) 4年間の学生生活の基礎となるプレゼンテーション能力を身につけ、発表することができる。  3) マネージメント能力を身につけ、発表した内容をレポートにまとめることができる。</p>										
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能						
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力						
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技			
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )					
テ キ ス ト	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社										
参 考 書	適宜紹介する										
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションや課題は、良かった点や改善点を口頭でフィードバックする。										
留 意 事 項	主体的にゼミ運営をしていくことが期待される。運営・発表の形式は各ゼミによって変更することがある。										
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。										
実践的教育											

授 業 名	総合基礎演習 sa・sb・sc・sd	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	夏季レポートのプレゼンテーション グループ 第1グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。(プレゼンテーション、ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の準備をしておく。
第2回	夏季レポートのプレゼンテーション グループ 第2グループ	(学修内容) 夏季レポートに基づく発表を行う。(プレゼンテーション、ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の準備をしておく。
第3回	企画に基づいたグループ活動 企画	(学修内容) 企画に基づいた活動計画をたてる。(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 企画実施に必要なことを考えておく。
第4回	企画に基づいたグループ活動 実践	(学修内容) 計画に基づいて役割分担を決め、必要な準備をする。(グループワーク含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自の役割に沿って、必要なものを用意する。
第5回	プレゼンテーションに向けた情報検索 資料(紙媒体)検索実践演習	(学修内容) 学術書等の紙媒体からの資料検索の実践 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの第2章を読んでおく。
第6回	プレゼンテーションに向けた情報検索 インターネット検索実践演習	(学修内容) インターネットを中心とした資料検索の実践(ICT自主学习含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの第2章を読んでおく。
第7回	プレゼンテーション資料の作成 PowerPoint	(学修内容) PowerPointによる発表資料作成について(ICT自主学习含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) PowerPointでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第8回	プレゼンテーション資料の作成 Word,Excel	(学修内容) Word,Excel等による発表資料作成について (事前事後学修課題の内容)(30分) Word,Excelでの作成に必要な資料を探し、持参する。
第9回	プレゼンテーションと討論 第1グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第10回	プレゼンテーションと討論 第2グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第11回	プレゼンテーションと討論 第3グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第12回	プレゼンテーションと討論 第4グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第13回	プレゼンテーションと討論 第5グループ	(学修内容) 資料に基づく口頭発表を行う。(プレゼンテーション含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 口頭発表に資料なPowerPointの資料を作ってくる。
第14回	レポートの書き方(応用)	(学修内容) 発表を踏まえたレポートの作成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表の資料を振り返り、持参する。
第15回	秋学期の到達度確認	(学修内容) 春学期、秋学期の自己到達点を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 次年度の課題を検討する。

授業名	英語 ua			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	山本 典子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。簡単な会話のディクテーションと音読、ペアワークを含め、授業を行う。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を進める。								
学修成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。初級者用テキストの内容の90%以上を把握し与えられた質問に対して英語で答えられる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	ENGLISH CONTRASTS by Robert Hickling 金星堂								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	テキストは毎回使用するので、必ず購入して持参すること。このテキストは秋学期も使用します。課題は対面・オンラインどちらも提出期限を守ること。予習できるところはしておいて、例えば「単語の意味がわからないので解けない」ということのないように。評価方法は上記にありますが、テキストを買っていない、忘れたなど持参しないことが続く、また、授業態度が目に見える場合は(寝ている、スマホをみている、喋っているなど)その通りではない。授業の進み具合によっては授業計画は変わる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		英語 u a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	Introduction Unit 1 See you soon 文型練習、現在形と現在進行形(過去形・未来形)	(学修内容) 文型練習テキストp.11~13, 102 現在形・現在進行形(過去形・未来形の演習) (事前事後学修課題の内容)(90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入し目を通しておくこと。p.102予習	
第2回	Unit 1 See you soon 文型練習、現在形・現在進行形(過去形・未来形) 不規則動詞変化表	(学修内容) テキストp.14~16 ディクテーションと音読、ペアワーク 文型復習、現在形・過去形・未来形の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳 p.116不規則動詞変化表下見	
第3回	Unit 2 Welcome to Japan 数えられる名詞と数えられない名詞 品詞について 月・曜日の名前	(学修内容) 名詞を含む品詞について学ぶ テキストp.17~19 月と曜日の名前 (事前事後学修課題の内容)(90分) p.104予習 テキストの予習	
第4回	Unit 2 Welcome to Japan 数えられる名詞と数えられない名詞 月と曜日の名前単語テスト	(学修内容) ディクテーションと音読、ペアワーク テキストp.20~22 (事前事後学修課題の内容)(90分) 名詞の復習 テキストの予習(Short Readingの訳も含む) 月と曜日の名前の単語テストの準備	
第5回	Unit 3 Sandys First Sushi! 代名詞の使い分け	(学修内容) 代名詞の使い分け テキストp.23~25 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習 p.105	
第6回	Unit 3 Sandy's First Sushi! 代名詞の使い分け	(学修内容) 代名詞の復習 p.26~28 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習 (Short Readingの訳も含む)	
第7回	Unit 4 Festival Fun 形容詞と副詞 感情を表す形容詞	(学修内容) 形容詞と副詞について学ぶ、感情を表す形容詞 テキストp.29~31 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、p.105	
第8回	Unit 4 Festival Fun 形容詞と副詞 感情を表す形容詞テスト	(学修内容) p.32~34 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、Short Readingの訳 感情を表す形容詞テストの準備	
第9回	Unit 5 Play Ball 場所の前置詞と時の前置詞	(学修内容) 前置詞全般について学ぶ テキストp.35~37,106 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、p.106	
第10回	Unit 5 Play Ball 場所の前置詞と時の前置詞	(学修内容) 前置詞の演習 p.38~40 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、Short Readingの訳	
第11回	Unit 6 Lucky Cats Yes/No疑問文とWh疑問文 数字	(学修内容) 疑問文の演習 大きな数字の読み方 テキストp.41~43,106 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、p.106	
第12回	Unit 6 Lucky Cats Yes/No疑問文とWh疑問文 数字テスト	(学修内容) 数字のリスニングテスト テキストp.44~46 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 数字の読み方の復習 テキストの予習、Short Readingの訳	
第13回	Unit Unit 7 No One Sings Like Brian 他動詞と自動詞	(学修内容) 動詞時制の復習 テキストp.47~49,107 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習、Short Readingの訳	
第14回	Unit 7 No One Sings Like Brian 他動詞と自動詞 Unit 8の準備	(学修内容) 動詞時制の復習 テキストp.50~52 (事前事後学修課題の内容)(90分) 動詞時制の復習 テキストの予習、Short Readingの訳	
第15回	Unit 8 Yui's Cooking Class 不定詞と動名詞	(学修内容) 不定詞と動名詞について学ぶ テキストp.53~58 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。	

授業名	英語 uc・ud			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	奥 尚子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	この授業ではリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を活用することによって、英語学習者初級用テキストの内容を90%以上把握し、与えられた質問に対して答えを英語で記述することができる。 2) テキストの音声ファイルの内容を90%以上聞き取り、口頭あるいは記述において、内容を伝えることができる。 3) native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することによって、発音が正確にできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	角山照彦/ Simon Capper著、English with Hit Songs、成美堂								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	担当授業前に実施する。(12時30分～13時00分)								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：高等学校英語科臨時講師、非常勤講師として4年間勤務								

授業名	英語 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず購入しUnit1に目を通しておくこと。
第2回	Unit 1 My Heart Will Go On (前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第3回	Unit 1 My Heart Will Go On(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。現在完了を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第4回	Unit 2 Open Arms(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落になれる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第5回	Unit 2 Open Arms (後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。分詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第6回	Unit 3 Life (前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。注意すべき母音になれる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第7回	Unit 3 Life (後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。品詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第8回	Unit 4 Don't Look Back In Anger(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の同化になれる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第9回	Unit 4 Don't Look Back In Anger(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。知覚動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第10回	Unit 5 A Whole New World(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落になれる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第11回	Unit 5 A Whole New World(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係副詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第12回	Unit 6 I Don't Want To Miss A Thing(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音声変化の複合の発音になれる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第13回	Unit 6 I Don't Want To Miss A Thing(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。助動詞の復習をする。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第14回	Unit7 Review Unit1 (前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。
第15回	Unit7 Review Unit1 (後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所の中に出てきた分からない単語や熟語を調べ、問題を解答しておくこと。聞いた英文を繰り返し音読すること。

授業名	英語 ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1103
英文名	English			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	早瀬 和栄			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	この授業では、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成します。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行います。簡単な会話のディクテーションと音読、ペアワークを含め、授業を行います。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を進めます。								
学修成果到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。 2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。 3) 英語四技能を段階的に修得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	English with Hit Songs 角山照彦/Simon Capper 著 株式会社成美堂								
参考書	なし								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	単語の意味を調べるなどの予習および、復習をしっかりとこなってください。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。参加者の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	授業時に相談。								
実践的教育									

授 業 名		英語 ub
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction Unit 1 My heart will go on 現在形・過去形・未来形 音の連結	(学修内容) テキストp.1~4 現在形・過去形・未来形の演習 (事前事後学修課題の内容) (90分) シラバスを読む。教科書を事前に購入し、必ず目を通しておく。Unit1の歌を聞いて( )埋め、リーディングを予習。
第2回	Unit 1 My heart will go on 現在完了形 不規則動詞変化表	(学修内容) テキストp.5~7 ディクテーションと音読、ペアワーク 現在形・過去形・未来形の復習と現在完了形 (事前事後学修課題の内容) (90分) Unit 2の歌を聞いて( )を埋めておく。不規則動詞変化表を覚える。
第3回	Unit 2 Open arms 音の脱落	(学修内容) 歌のチェック テキストp.9~12 (事前事後学修課題の内容) (90分) リーディングの予習。不規則動詞変化表テストに備える。
第4回	Unit 2 Open arm 音の脱落 分詞 不規則動詞変化表テスト	(学修内容) 不規則動詞変化表テスト ディクテーションと音読、ペアワーク テキストp.13~15 (事前事後学修課題の内容) (90分) 分詞の復習 Unit 3の歌を聞いて( )を埋めておく。
第5回	Unit 3 Life 注意すべき母音 感情を表す単語	(学修内容) 分詞の復習として感情を表す単語を見る。 テキストp.17~20 歌のチェック (事前事後学修課題の内容) (90分) リーディングの予習。
第6回	Unit 3 Life 注意すべき母音 品詞	(学修内容) 品詞の演習(名詞・動詞・形容詞・副詞) p.21~23 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容) (90分) 品詞の復習 Unit 4の歌を聞いて( )を埋めておく。
第7回	Unit 4 Don't look back in anger 音の同化 曜日・月の名前	(学修内容) 歌のチェック テキストp.25~28 曜日・月の名前単語 (事前事後学修課題の内容) (90分) リーディングの予習 曜日・月の名前単語テストに備える。
第8回	Unit 4 Don't look back in anger 音の同化 知覚動詞 曜日・月の名前単語テスト	(学修内容) p.29~31 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容) (90分) Unit 5の歌を聞いて( )を埋めておく。
第9回	Unit 5 A whole new world 音の脱落	(学修内容) 歌のチェック テキストp.33~36 関係代名詞・関係副詞 (事前事後学修課題の内容) (90分) リーディングの予習。関係代名詞・関係副詞の復習
第10回	Unit 5 A whole new world 音の脱落 関係代名詞・関係副詞	(学修内容) 関係代名詞・関係副詞の演習 p.37~39 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容) (90分) Unit 6の歌を聞いて( )を埋めておく。
第11回	Unit 6 I don't want to miss a thing 音声変化の複合 大きな数字の読み方	(学修内容) 歌のチェック 大きな数字の読み方 テキストp.41~44 (事前事後学修課題の内容) (90分) リーディングの予習。数字の読み方の復習
第12回	Unit 6 I don't want to miss a thing 音声変化の複合 助動詞 数字のリスニングテスト	(学修内容) 数字のリスニングテスト テキストp.45~47 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容) (90分) 身体の部分を表す単語1・2を覚える。
第13回	身体の部分を表す単語1テスト Unit 1~6復習	(学修内容) 時制の復習。身体の部分を表す単語1テスト (事前事後学修課題の内容) (90分) 身体の部分を表す単語2を覚える。
第14回	解答と解説 身体の部分を表す単語2テスト Unit 7 Review Unit 1 / Listening Section	(学修内容) Listening Sectionをテストとして行い、解答と解説を行う。 身体の部分を表す単語2テスト (事前事後学修課題の内容) (90分) Reading Sectionの予習。
第15回	Unit 7 Review Unit 1 / Reading Section 解答と解説 総復習	(学修内容) Reading Section をテストとして行い、解答と解説を行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 総復習

授 業 名	英語 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1118
英 文 名	English			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	奥 尚子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。ビデオを見たり、ペアワークを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題をする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的な知識を活用することによって、英語学習者初級用テキストの内容を90%以上把握し、与えられた質問に対して答えを英語で記述することができる。 2) テキストの音声ファイルの内容を90%以上聞き取り、口頭あるいは記述において、内容を伝えることができる。 3) native speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することによって、発音が正確にできる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	角山照彦/ Simon Capper著、English with Pop Hits、成美堂								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	採点し、返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留 意 事 項	授業前には必ず、単語の意味を調べてくること。予習復習をしっかりと行うこと。辞書を持参すること。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験を認めない。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席扱いとする。学生の習熟度にあわせて授業をするので、シラバスの進捗と異なる場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前に実施する。(12時30分～13時00分)								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：比叡山高等学校、桂高校などで英語科非常勤講師、臨時講師として勤務								

授業名	英語 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 本授業のシラバスを読む。教科書を事前に必ず目を通しておくこと。
第2回	Unit8 The Strange(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の弱化に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第3回	Unit8 The Strange(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。関係代名詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第4回	Unit9 Hey Now(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の連結に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第5回	Unit9 Hey Now(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。不定詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第6回	Unit10 Every Time I Close My Eye(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落の発音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第7回	Unit10 Every Time I Close My Eye(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。接続詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第8回	Unit11 Kiss Of Life(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第9回	Unit11 Kiss Of Life(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。完了不定詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第10回	Unit12 All I Want For Christmas Is You(前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。短縮形の発音に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第11回	Unit12 All I Want For Christmas Is You(後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。5文型を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第12回	Unit13 Livin' La Vida Loca (前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。音の脱落に慣れる。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第13回	Unit13 Livin' La Vida Loca (後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。使役動詞を復習する。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第14回	Unit14 Review Unit 2 (前半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。
第15回	Unit14 Review Unit2 (後半部分)	(学修内容) 前回指示した箇所の練習問題の解答解説をする。会話部分はペアワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 前回指示した箇所に出てくる分からない単語を調べ、問題を解答しておくこと。教科書に出てきた歌、文章の音読をすること。

授業名	英語 ua			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishII			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	山本 典子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行う。簡単な会話のディクテーションと音読、ペアーワークも含め授業を進める。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行う。								
学修成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。初心者用テキストの90%以上を把握し与えられた質問に英語で答えられる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話し方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	春学期に使用したテキストを引き続き使用するので新しく購入する必要はありません。 English Contrasts by Robert Hickling 金星堂								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	テキストは春学期に使用したテキストを使いますので新しく購入する必要はありません。毎時テキストを持参すること。あらかじめ予習できる箇所はしておいて、例えば「単語の意味がわからないので解けない」ということのないように。提出物は対面・オンラインどちらも提出期限を守ること。成績評価については上記にありますが、テキストを買っていない、忘れたなど持参しないことが続く、また、授業態度が目に見える場合は(寝ている、スマホをみている、喋っているなど)その通りではない。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大学・短期大学、中学校・高等学校での英語教員。								

授 業 名		英語 u a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Unit 9 Where's Sandy? 過去形・過去進行形と現在完了形	(学修内容) 動詞時制の復習 テキストp.59~61,108 大きな数字の読み方の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 本授業のシラバスを読む。テキストの予習。p.108
第2回	Unit 9 Where's Sandy? 過去形・過去進行形と現在完了形	(学修内容) 動詞時制の復習 テキストp.62~64 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳
第3回	Unit 10 Let's Take a Hike willとbe going to 不規則動詞変化表テスト	(学修内容) 未来形について学ぶ テキストp.65~67,111 不規則動詞変化表テスト (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。 不規則動詞変化表テストの準備
第4回	Unit 10 Let's Take a Hike willとbe going to	(学修内容) 未来形の復習 テキストp.68~70 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳
第5回	Unit 11 Time for a Tour 助動詞の使い分け	(学修内容) 助動詞について学ぶ テキストp.71~73, 113 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。
第6回	Unit 11 Time for a Tour 助動詞の使い分け	(学修内容) テキストp.74~76 助動詞の演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳
第7回	Unit 12 Photos from Hakone 比較級・最上級	(学修内容) 比較級・最上級について学ぶ テキストp.77~79,113 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。
第8回	Unit 12 Photos from Hakone 比較級・最上級 動詞の時制テスト	(学修内容) テキストp.80~82 比較級・最上級演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳
第9回	Unit 13 Sho's Barbecue Party 能動態と受動態	(学修内容) 能動態と受動態について学ぶ テキストp.83~85,114 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。
第10回	Unit 13 Sho's Barbecue Party 能動態と受動態	(学修内容) 能動態から受動態へ書き換え テキストp.86~88 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。Short Readingの訳
第11回	Unit 14 On the Go 接続詞の使い分け	(学修内容) 接続詞の使い分けについて学ぶ テキストp.89~91 前置詞の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。前置詞の復習
第12回	Unit 14 On the Go 接続詞の使い分け	(学修内容) テキストp.92~94 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 今までの文法事項をさらしておく。 テキストの予習。
第13回	Unit 15 Sandy's Farewell Dinner 関係詞の使い分け	(学修内容) 関係詞の使い分けについて学ぶ テキストp.95~97 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。
第14回	Unit 15 Sandy's Farewell Dinner 関係詞の使い分け	(学修内容) 関係詞の演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 関係詞の復習 テキストの予習。Short Readingの訳
第15回	文法の練習	(学修内容) 文法の総復習・定期試験準備 (事前事後学修課題の内容)(90分) 総復習。

授業名	英語 ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1118
英文名	EnglishII			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	早瀬 和栄			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能において総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成します。とりわけ速読型のリーディングとリスニングに重点を置き、それを補完する形でスピーキングとライティングの学習を行います。ペアワークなどを行いながら授業を進めます。予習をしていることを前提にテキストの内容確認と練習問題を行います。								
学修成果到達目標	<p>1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を獲得することができる。初心者用テキストの90%以上を把握し与えられた質問に英語で答えられる。</p> <p>2) テキストの音声ファイルをダウンロードしnative speakerの話方を模倣し、英語のアクセント・リズム・ピッチを反復練習することで発音が正確にできるようになる。</p> <p>3) 英語四技能を段階的に修得することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	春学期に使用したテキストを引き続き使用するので新しく購入する必要はありません。 English with Hit Songs 角山照彦/Simon Capper 著 株式会社成美堂								
参考書	なし								
課題に対するフィードバックの方法	採点し返却する際に模範解答を口頭で言う。								
留意事項	授業前には単語の意味を調べ、予習を行ってください。復習をしっかりと行ってください。必要に応じて、辞書を持参してください。全授業の1/3以上の欠席は定期試験の受験が認められません。また、演習授業のため30分以上の遅刻は欠席となります。学生の習熟度にあわせて授業するのでシラバスの進捗と異なる場合があります。								
オフィスアワー	授業時に相談。								
実践的教育									

授業名	英語 ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Unit 8 The stranger 音の弱化 大きな数字の読み方の復習	(学修内容) 授業の学習計画を立てる。テキストp.55~58 大きな数字の読み方の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 本授業のシラバスを読む。リーディングの予習。 Unit 8の歌を聞いて( )を埋めておく。
第2回	Unit 8 The stranger 音の弱化 関係代名詞	(学修内容) 歌のチェック 関係代名詞・関係副詞の復習 テキストp.59~61 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) Unit 9の歌を聞いて( )を埋めておく。
第3回	Unit 9 Hey now 音の連結	(学修内容) 歌のチェック テキストp.63~66 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習
第4回	Unit 9 Hey now 音の連結 不定詞	(学修内容) テキストp.67~69 不定詞の演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 不定詞を復習すること。Unit10の歌を聞いて( )を埋めておく。
第5回	音の脱落 Unit 10 Every time I close my eyes	(学修内容) 歌のチェック テキストp.71~74 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習
第6回	Unit 10 Every time I close my eyes 音の脱落 接続詞	(学修内容) テキストp.75~77 接続詞の演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 接続詞の復習 Unit 11の歌を聞いて( )を埋めておく。
第7回	Unit 11 Kiss of life 短縮形の音	(学修内容) 歌のチェック テキストp.79~82 テキストp.87~90 5文型の演習 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。5文型の復習テストに備える。
第8回	Unit 11 Kiss of life 短縮形の音 完了不定詞	(学修内容) テキストp.83~85 完了不定詞の演習 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) Unit 12の歌を聞いて( )を埋めておく。
第9回	Unit 12 All I want for Christmas is you 短縮形の音 5文型	(学修内容) 歌のチェック テキストp.87~90 5文型の演習 (事前事後学修課題の内容)(90分) テキストの予習。5文型の復習テストに備える。
第10回	Unit 12 All I want for Christmas is you 短縮形の音 5文型テスト	(学修内容) 5文型のテスト テキストp.91~93 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) Unit 13の歌を聞いて( )を埋めておく。
第11回	Unit 13 Livin'la vida loca 音の脱落	(学修内容) 歌のチェック テキストp.95~98 使役動詞の演習 (事前事後学修課題の内容)(90分) リーディングの予習。使役動詞の復習
第12回	Unit 13 Livin'la vida loca 音の脱落 使役動詞	(学修内容) テキストp.99~101 ディクテーションと音読、ペアワーク (事前事後学修課題の内容)(90分) 今までの文法事項を復習しておく。
第13回	Unit 8~13復習	(学修内容) 時制の復習を含む小テスト (事前事後学修課題の内容)(90分) Listening Sectionの予習。
第14回	Unit 14 Review Unit 2 Listening Section 解答と解説	(学修内容) Listening Sectionをテストとして行い、解答と解説を行う。 (事前事後学修課題の内容)(90分) Reading Sectionの予習。
第15回	Unit 14 Review Unit 2 Reading Section 解答と解説 定期試験の説明	(学修内容) Reading Section をテストとして行い、解答と解説を行う。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 総復習。

授 業 名	英語コミュニケーション uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1104
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読と言われる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学习支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere! Nagatomo, D. & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒコ前田著『TOEIC(R) L&Rテスト 究極の模試600問+』株式会社アルク 3,000円+税								
課題に対する フィードバック の方法	定期試験は解答と解説を付して、秋学期初回授業(答案返却期間)に希望者に返却する。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行うか、またはコメントを付して返却する。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。オンライン以外の提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON講師								

授業名	英語コミュニケーション uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介 Chapter 1の内容確認・練習 (事前事後学修課題の内容)(15分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	多読紹介@図書館 文法1:第1と第3文型	(学修内容)文法1の内容確認・練習、会話練習 図書館地下において多読図書の紹介と多読方法の説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第3回	文法2:第4文型	(学修内容)多読、文法2の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第4回	Chapter 1: Preparing for the Trip 文法3:第2文型	(学修内容)多読、Chapter 1・文法3の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第5回	Quiz 1 文法4:第5文型	(学修内容)小テスト1、多読、文法4の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第6回	Chapter 2: On the Airplane 文法1~4の復習	(学修内容)多読、Chapter 2の内容確認・練習、会話練習、文型復習 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:プリント ~ の復習。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第7回	Quiz 2 Chapter 3: Arrival and Passport Control 文法5:現在形と過去形	(学修内容)小テスト2、多読、Chapter 3・文法5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第8回	Quiz 3 Chapter 4: Banking and Leaving the Airport 文法6:未来形	(学修内容)小テスト3、多読、Chapter 4・文法6の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第9回	Quiz 4 Chapter 5: Checking Into the Hotel 文法7:進行形	(学修内容)小テスト4、多読、Chapter 5・文法7の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第10回	Quiz 5 Chapter 6: Hotel Facilities 文法8:現在完了形	(学修内容)小テスト5、多読、Chapter 6・文法8の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第11回	Quiz 6 文法5~8の復習	(学修内容)小テスト6、多読、文法復習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:プリント ~ の復習。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第12回	Chapter 7: Let's Eat! 文法9:助動詞	(学修内容)多読、Chapter 7・文法9の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第13回	Quiz 7 文法10:助動詞	(学修内容)小テスト7、多読、文法10の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第14回	Chapter 8: Sightseeing 文法の練習	(学修内容)多読、Chapter 8の内容確認・練習、会話練習、文法復習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:プリント ~ を見直す。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第15回	Quiz 8 総復習	(学修内容)小テスト8、総復習 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:授業内容を振り返り、質問を考える。 事後:定期試験に向けて復習する。

授業名	英語コミュニケーション ua・ub			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	GE1104
英文名	English Communication			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	松尾 章子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学修成果到達目標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について5往復程度の会話文で表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.7程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )		
テキスト	『Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere!』Nagatomo, D & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税								
参考書	検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 『幼保英検3級テキスト』株式会社ブックフォレ 1,900円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、後期第1回目の授業において希望者に返却する。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行う。								
留意事項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業前日までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。オンライン以外の提出物についても、同じく次回授業前日まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オフィスアワー	研究室(5号館3階)前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON講師								

授業名	英語コミュニケーション ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容)到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介、多読紹介  (事前事後学修課題の内容)(15分) 事前:本授業のシラバスを読む。 事後:英語本を5冊以上読む。
第2回	多読紹介@図書館 文法1:第1と第3文型	(学修内容)文法1の内容確認・練習、会話練習 図書館地下において多読図書の紹介と多読方法の説明 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第3回	文法2:第4文型	(学修内容)多読、文法2の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第4回	Chapter 1: Preparing for the Trip 文法3:第2文型	(学修内容)多読、Chapter 1・文法3の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第5回	Quiz 1 文法4:第5文型	(学修内容)小テスト1、多読、文法4の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第6回	Chapter 2: On the Airplane 文法1~4の復習	(学修内容)多読、Chapter 2の内容確認・練習、会話練習、文型復習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:プリント ~ の復習。 事後:授業内容の復習。本読み500単語以上。
第7回	Quiz 2 Chapter 3: Arrival and Passport Control 文法5:現在形と過去形	(学修内容)小テスト2、多読、Chapter 3・文法5の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第8回	Quiz 3 Chapter 4: Banking and Leaving the Airport 文法6:未来形	(学修内容)小テスト3、多読、Chapter 4・文法6の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第9回	Quiz 4 Chapter 5: Checking Into the Hotel 文法7:進行形	(学修内容)小テスト4、多読、Chapter 5・文法7の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第10回	Quiz 5 Chapter 6: Hotel Facilities 文法8:現在完了形	(学修内容)小テスト5、多読、Chapter 6・文法8の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第11回	Quiz 6 文法5~8の復習	(学修内容)小テスト6、多読、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:プリント ~ の復習。 事後:授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第12回	Chapter 7: Let's Eat! 文法9:助動詞	(学修内容)多読、Chapter 7・文法9の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第13回	Quiz 7 文法10:助動詞	(学修内容)小テスト7、多読、文法10の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:宿題プリントを解いて提出。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第14回	Chapter 8: Sightseeing 文法の復習	(学修内容)多読、Chapter 8の内容確認・練習、会話練習、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:宿題プリント ~ を見直す。 事後:授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第15回	Quiz 8 総復習	(学修内容)小テスト8、総復習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前:授業内容を振り返り、質問を考える。 事後:定期試験に向けて復習する。

授 業 名	英語コミュニケーション uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	GE1119
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文を表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル(YL)0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere! Nagatomo, D. & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税 春学期に使用したテキストを継続して使用します。								
参 考 書	TOEICテスト・保育英語検定受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 ヒコ前田著『TOEIC L&Rテスト究極の600問+』株式会社アルク 2,600円+税								
課題に対する フィードバック の方法	定期試験は解答と解説を付して、答案返却期間中に希望者に返却します。 授業内テストや提出物については、テスト終了時や返却時に解説を行います。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業時間前までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。オンライン以外の提出物についても、同じく次回授業時間前まで受け付けます。30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室(5号館3階)前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON講師								

授業名	英語コミュニケーション uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	文法11：不定詞と動名詞	(学修内容)多読、文法11の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第2回	Chapter 9: Making Small Talk 文法12：不定詞(名詞的用法)	(学修内容)多読、Chapter 9・文法12の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第3回	Quiz 9 Chapter 10: Shopping 文法13：不定詞(副詞的用法)	(学修内容)小テスト9、多読、Chapter10・文法13の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第4回	Quiz 10 文法14：不定詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト10、多読、文法14の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第5回	文法11～14の復習	(学修内容)多読、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：プリント～の復習。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第6回	外国人との交流について(調整により内容・日程の変更有)	(学修内容)英語でインタビュー、留学生との交流会、多文化共生社会における交流について(講演)のいずれかを実施予定(調整により変更有) (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前：授業内で説明する。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第7回	Chapter 11: Feeling Sick 文法15：受動態	(学修内容)多読、Chapter 11・文法15の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第8回	Quiz 11 Chapter 12: Getting Around 文法16：現在分詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト11、多読、Chapter 12・文法16の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第9回	Quiz 12 Chapter 13: Checking Out of the Hotel 文法17：過去分詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト12、多読、Chapter 13・文法17の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 1枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード1枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第10回	Quiz 13 Chapter 14: Heading Home 文法18：疑問詞疑問文と間接疑問文	(学修内容)小テスト13、多読、Chapter 14・文法18の内容確認・練習、会話練習 Secret Santa 2枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード2枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第11回	Quiz 14 Chapter 15: Talking About Your Trip 文法19：原級と比較級	(学修内容)小テスト14、多読、Chapter 15・文法19の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 3枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード3枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第12回	Quiz 15 文法20：最上級	(学修内容)小テスト15、多読、文法20の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 4枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード4枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第13回	Secret Santa(12月最終週の授業日に実施予定)	(学修内容)クリスマスについて、Secret Santa 5枚目提出  (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前：サンタカード5枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。
第14回	文法15～20の練習	(学修内容)多読、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：プリント～の復習。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。
第15回	総復習	(学修内容)総復習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：授業内容を振り返り、質問を考える。 事後：定期試験に向けて復習する。

授 業 名	英語コミュニケーション ua・ub			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1119
英 文 名	English Communication			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	英語コミュニケーションIに引き続き、自身や日常について平易な英語でコミュニケーションが取れるよう、英文作成と会話文を中心に学修する。多読といわれる英語の本読みと、検定試験の練習問題にも取り組む。ペアワーク、グループワークを多く取り入れた授業を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 既習の英語表現を使用し、自身や日常について7往復程度の会話文で表現できる。 2) Graded Readerの読みやすさレベル0.8~1.1程度の英語本を英語のまま理解し、あらすじを伝えることができる。 3) 新出単語の50%以上を覚えている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『Simply Traveling: Communication Anytime, Anywhere!』Nagatomo, D & 村瀬文子著 金星堂 2016年 1,800円+税 春学期に使用したテキストを継続して使用します。								
参 考 書	検定試験受験予定者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し学習に取り組むことが望ましい。 『TOEICテスト究極の模試600問』株式会社アルク 2,600円+税 『幼保英検3級テキスト』株式会社ブックフォレ 1,900円+税								
課題に対するフィードバックの方法	定期試験は、定期試験返却期間において希望者に返却します。 授業内テストについては、テスト終了時や返却時に解説を行います。								
留 意 事 項	積極的な授業参加を期待します。 提出物は期日に間に合うように提出してください。 遅刻・欠席等により授業内テストを受けられなかった場合、次回授業前日までに限り追試験を受けることができます。ただし、点数の上限は8割とします。提出物についても、同じく次回授業前日まで受け付けます。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席扱い、30分以上の遅刻については欠席扱いとします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室(5号館3階)前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクールAEON 講師								

授業名	英語コミュニケーション ua・ub	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	文法11：不定詞と動名詞	(学修内容)多読、文法11の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み500単語以上。
第2回	Chapter 9: Making Small Talk 文法12：不定詞(名詞的用法)	(学修内容)多読、Chapter 9・文法12の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,000単語以上。
第3回	Quiz 9 Chapter 10: Shopping 文法13：不定詞(副詞的用法)	(学修内容)小テスト9、多読、Chapter 10・文法13の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第4回	Quiz 10 文法14：不定詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト10、多読、文法14の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第5回	文法11～14の復習	(学修内容)多読、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：プリント～の復習。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第6回	外国人との交流について(調整により内容・日程の変更有)	(学修内容)英語でインタビュー、留学生との交流会、多文化共生社会における交流について(講演)のいずれかを実施予定(調整により変更有) (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前：授業内で説明する。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第7回	Chapter 11: Feeling Sick 文法15：受動態	(学修内容)多読、Chapter 11・文法15の内容確認・練習、会話練習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第8回	Quiz 11 Chapter 12: Getting Around 文法16：現在分詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト11、多読、Chapter 12・文法16の内容確認・練習、会話練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：宿題プリントを解いて提出。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第9回	Quiz 12 Chapter 13: Checking Out of the Hotel 文法17：過去分詞(形容詞的用法)	(学修内容)小テスト12、多読、Chapter 13・文法17の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 1枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード1枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第10回	Quiz 13 Chapter 14: Heading Home 文法18：疑問詞疑問文と間接疑問文	(学修内容)小テスト13、多読、Chapter 14・文法18の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 2枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード2枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第11回	Quiz 14 Chapter 15: Talking About Your Trip 文法19：原級と比較級	(学修内容)小テスト14、多読、Chapter 15・文法19の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 3枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード3枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第12回	Quiz 15 文法20：最上級	(学修内容)小テスト15、多読、文法20の内容確認・練習、会話練習、Secret Santa 4枚目提出 (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：宿題プリントを解いて提出。サンタカード4枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み1,500単語以上。
第13回	Secret Santa(12月最終週の授業日に実施予定)	(学修内容)クリスマスについて、Secret Santa 5枚目提出  (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前：サンタカード4枚目を書く。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。
第14回	文法15～20の復習	(学修内容)多読、文法復習  (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：プリント～を見直す。 事後：授業内容の復習。本読み2,000単語以上。
第15回	総復習	(学修内容)総復習  (事前事後学修課題の内容)(70分) 事前：授業内容を振り返り、質問を考える。 事後：定期試験に向けて復習する。

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義では運動活動が心身に及ぼす効果と運動活動の継続法について理解を深める。実技では各種スポーツがどのような運動特性に該当するかについて理解するとともに、ルールを理解し基本的な技術の習得により、生涯に亘り日常的に運動・スポーツを行う態度と能力を養う。また、体力測定を実施し、自己の運動・スポーツ実践状況の検討を加え、レポートにまとめる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 体力測定の結果をふまえ、自己の体力の現状を認識する。 2) 運動が心身に及ぼす影響について学習し、将来における健康についての理解をスポーツの実践をとおして深める。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション  (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、顔写真(3cm×3cm)
第2回	講義1:運動・スポーツと健康	(学修内容)運動・スポーツ活動が心身の健康に及ぼす影響  (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	講義2:運動・スポーツの継続	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法  (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第4回	体力測定1:筋力、柔軟性、投力、走力の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト  (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	体力測定2:跳躍力、筋持久力、敏捷性、持久性の測定	(学修内容)文部科学省新体力テスト  (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	バドミントン1:基礎スキルの習得	(学修内容)フォア・バックハンド、サーブ、スマッシュ  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの基本技術を調べる
第7回	バドミントン2:ルールの理解	(学修内容)バドミンントンの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンのルールを調べる
第8回	バドミントン3:基礎スキルの実践	(学修内容)バドミンントンの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第9回	バドミントン4:基礎スキルの応用	(学修内容)バドミンントンの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミンントンの戦術を調べる
第10回	ソフトバレーボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)パス、サーブ、レシーブ、スパイク  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの基本技術を調べる
第11回	ソフトバレーボール2:ルールの理解	(学修内容)ソフトバレーボールの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べる
第12回	ソフトバレーボール3:基礎スキルの実践	(学修内容)ソフトバレーボールの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第13回	ソフトバレーボール4:基礎スキルの応用	(学修内容)ソフトバレーボールの試合  (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールの戦術を調べる
第14回	講義3:体力測定データの評価	(学修内容)体力測定の結果を検討、評価  (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出  (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、体力測定の結果を検討・評価する

授 業 名	健康スポーツ科学 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1105
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本講義では、以下の3点に重点を置き、生涯を通して、日常的にスポーツを楽しむ態度と能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・体力・トレーニングについて理解を深める。</li> <li>・各種スポーツのルールを理解する。</li> <li>・基本的な技術を習得する。</li> </ul>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1)運動が身体に及ぼす影響についての学習を踏まえた上で、スポーツの実践を通して自身の健康についての理解を深めることができる。</p> <p>(2)スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを身につける事ができる。</p> <p>(3)運動習慣を身につけ生涯スポーツにつなげることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	必要に応じてプリントを配付する。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：ひかり幼稚園・復活幼稚園・篠村幼稚園(運動遊び・リズム遊びの指導) 奈良教育大学附属小学校・京都文教短期大学・佛光大学・大谷大学(非常勤講師) 社会活動として高齢者の健康体操やヨガの指導</p>								

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本授業に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	アイスブレイキング	(学修内容) コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容) (60分) アイスブレイキングについて調べて提出。
第3回	バドミントン1	(学修内容) 基本技術の習得(フォア・バックハンド・サーブ・スマッシュ) (事前事後学修課題の内容) (60分) バドミントンの特性と基本技術を調べて提出。
第4回	バドミントン2	(学修内容) ゲームを通して技術を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) バドミントンのルールを調べて提出。
第5回	バドミントン3	(学修内容) シングルゲームの実践を通してルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ダブルスのルールを調べて提出。
第6回	バドミントン4	(学修内容) ダブルスの戦術を活かして、ゲームを実践する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) バドミントンの戦術を調べて提出。
第7回	ソフトバレーボール1	(学修内容) 基本技術の習得(パス・サーブ・レシーブ・スパイク) (事前事後学修課題の内容) (60分) ソフトバレーボールの特性を調べて提出。
第8回	ソフトバレーボール2	(学修内容) 簡易ゲームで技術の習得 (事前事後学修課題の内容) (60分) ソフトバレーのルールを考えて提出。
第9回	ソフトバレーボール3	(学修内容) 実践を通してルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 公式ルールを理解し提出。
第10回	ソフトバレーボール4	(学修内容) 基本技術の向上と応用。戦術を活かしゲームを実践する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ソフトバレーボールの戦術を調べて提出。
第11回	講義	(学修内容) 健康と体力について (事前事後学修課題の内容) (60分) 健康と体力について自分の考えをまとめて提出。
第12回	卓球1	(学修内容) 基本技術の習得(フォア・バックハンド・サーブ・スマッシュ) (事前事後学修課題の内容) (60分) 卓球の特性と基本技術を調べて提出。
第13回	卓球2	(学修内容) シングルの試合を通してルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) シングルのルールを調べて提出。
第14回	卓球3	(学修内容) ダブルスの試合を通してルールを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ダブルスのルールを調べて提出。
第15回	まとめ	(学修内容) レポート作成、提出。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出。

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1120
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	石倉 忠夫			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	講義受講時と各種スポーツ実践時における気分と心拍数の変化を測定し、考察を加えレポートにまとめる。また、後半週には各種スポーツを実践する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 講義受講時と各種スポーツ実践時の気分と心拍数を測定し、運動活動が心身に及ぼす影響について検討する。 2) 健康の保持増進を目的としたスポーツの実践をとおして、適切な運動強度による運動・スポーツを生涯に亘り実践する意義について理解する。 3) 運動習慣を身に付ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	「健康スポーツの心理学」 竹中 晃二 編(大修館書店)								
課題に対するフィードバックの方法	レポート回収後、講評を口頭で行います。								
留 意 事 項	必要に応じてプリントを配付する。実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、体育準備室で行う。								
実践的教育									

授 業 名	健康スポーツ科学 u a ・ u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具
第2回	講義1:運動スポーツの継続法	(学修内容)運動・スポーツ活動の継続法の事例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、プリントを配付する
第3回	運動時の気分の測定1:ウォーキングの基礎	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第4回	運動時の気分の測定2:強制ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第5回	運動時の気分の測定3:快適自己ベースのウォーキング	(学修内容)ウォーキング前後の気分と心拍数の測定 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第6回	各種スポーツの実践1:からだのコントロール	(学修内容)縄跳び (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第7回	各種スポーツの実践2:ボール等を使ったからだのコントロール	(学修内容)ドッジボールまたはドッジビー (事前事後学修課題の内容)(60分) 体調管理
第8回	バスケットボール1:基礎スキルの習得	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールのルールを調べる
第9回	バスケットボール2:基礎スキルの実践	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第10回	バスケットボール3:基礎スキルの応用	(学修内容)バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バスケットボールの戦術を調べる
第11回	卓球1:基礎スキルの習得	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを調べる
第12回	卓球2:基礎スキルの実践	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第13回	卓球3:基礎スキルの応用	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球の戦術を調べる
第14回	講義2:運動前後の気分に関するデータの評価	(学修内容)測定資料の整理、検討、考察 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(60分) 筆記用具、測定資料の整理・検討・考察

授 業 名	健康スポーツ科学 uc・ud			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	GE1120
英 文 名	Health and Sports Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	佐東 恒子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>本講義では、以下の3点に重点をおき、生涯を通して、日常的にスポーツを楽しむ態度と能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ文化や、傷害予防について理解を深める。</li> <li>・自己の体力に応じた運動強度を認識する。</li> <li>・各種スポーツのルールを理解する。</li> </ul>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1)運動実践の心拍数、継続時間を測定して運動強度を判定し、運動内容について理解することができる。</p> <p>(2)スポーツを通してコミュニケーション能力・協調性・リーダーシップを身につけることができる。</p> <p>(3)健康の保持増進を目的としたスポーツの実践を通して、適切な運動強度による運動を生涯にわたり実践する意義について理解することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	「健康・スポーツ科学講義」 出村 慎一 監修(杏林書院)								
課題に対するフィードバックの方法	口頭で講評する。								
留 意 事 項	実技を行う際は、運動に相応しい服装と上履きを必ず用意すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育          教員の実務経験など：ひかり幼稚園・復活幼稚園・篠村幼稚園・(運動遊び・リズム遊びの指導)          奈良教育大学附属小学校・京都文教短期・佛教大学・大谷大学(非常勤講師)          社会活動として高齢者の健康体操やヨガの指導</p>								

授業名	健康スポーツ科学 uc・ud	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本授業に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	講義	(学修内容) スポーツ傷害と応急手当について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 応急手当について調べて提出。
第3回	有酸素運動と心拍数の測定	(学修内容) エアロビックダンスの実践を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 有酸素・無酸素運動について調べて提出。
第4回	ヨガストレッチ	(学修内容) ヨガストレッチの実践を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ヨガについて調べて提出。
第5回	パラバルーンで体カトレーニング	(学修内容) パラバルーンを使っているんな体カトレーニングを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 体カトレーニングの内容をまとめて提出。
第6回	各種スポーツの実践1: からだのコントロール	(学修内容) 縄跳び(短縄・長縄) (事前事後学修課題の内容) (30分) いろんな跳び方を調べて提出。
第7回	各種スポーツの実践2: フープを使ったからだのコントロール	(学修内容) フープを使っているんなゲームを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 大・中・小のフープを使ったゲームを考えて提出。
第8回	各種スポーツの実践3: ボールを使ったからだのコントロール	(学修内容) ボールを使っているんなゲームを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 楽しいボールゲームを考えて提出。
第9回	バスケットボール1	(学修内容) 基本技術の習得・試合 (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの特性と基本技術を調べて提出。
第10回	バスケットボール2	(学修内容) バスケットボールのゲームを通して技術を習得する (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールのゲームを考えて提出。
第11回	バスケットボール3	(学修内容) バスケットボールの実践を通してルールを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 公式ルールを調べて提出。
第12回	バレーボール1	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) バレーボールのルールを調べて提出。
第13回	バレーボール2	(学修内容) バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容) (30分) バレーボールの戦術について調べて提出。
第14回	バレーボール3	(学修内容) バレーボールの試合・チームの課題について話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) チームの課題をまとめて提出。
第15回	まとめ	(学修内容) レポート作成・提出 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を振り返りまとめて提出。

授業名	情報処理 u a ・ u b			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1107
英文名	Information Processing			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	堀出 雅人			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常的におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版（オーム社）								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留意事項	情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードを毎回必ず持参してください。 2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オフィスアワー	授業時間終了後教室で行います。まとまった時間が必要な場合はメールを下さい。日程調整をします。ku096horide@kyotokacho-u.ac.jp								
実践的教育									

授業名	情報処理 u a ・ u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用手法、Gメールの送受信 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章を読む 入学時に配布されたポータルサイトの冊子を読み持参
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) USBメモリを購入し持参する、教科書第1章1-3、第3章3-1、3-2を読む 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をメールに添付し提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-3、3-4を読む 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をメールに添付し提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をメールに添付し提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章3-5を読む、第5回課題 (Word・表) を印刷し提出 文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6回課題 (Word・レジメ) をメールに添付し提出
第7回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 第7回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をメールに添付し提出
第8回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-2を読む 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をメールに添付し提出
第9回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 第9回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出
第10回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる
第11回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 第11回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をメールに添付し提出
第12回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をメールに添付し提出
第13回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-7を読む 第13回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第14回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む 発表用スライドを完成させ、メールに添付し提出
第15回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表用原稿を作成する

授業名	人権と社会			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1106
英文名	Human Rights and Society			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	田中 真美			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>人権について考えることは、1人ひとりのいのちについて考えることです。私達のいのちは誰もが等しく尊いものです。高齢になっても、障害をもっても、病気に罹患しても、存在することの価値は、すべてに等しく大切なものです。ひとりひとりの人権が尊重されることにより、自己肯定感が生まれ、共感的な人間関係が築けることができる「共に生きる社会」を目指すために、本講義では、社会的事象から人権について具体的に考え、グループワークで議論し、多面的な視点をもって、人権を尊重する社会について考察する思考力を持つことを目指します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1)人権について、日常生活の中で考えることが出来るようになる。  2)人権に関わる社会的な事象を多面的なさまざまな角度から考え、伝えあう事が出来る。  3)障害、高齢、病（ハンセン病、難病、新型コロナウイルスなどの感染症）などから、人権、人のいのちの尊厳、について考え、「共に生きる」共生社会の大切さについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜資料を配布する								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。								
留意事項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。								
オフィスアワー	個別の質問など、授業後に受け付け、あるいはメールにも対応します。								
実践的教育									

授業名	人権と社会	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	私達と人権	(学修内容) 講義の内容を説明し、自分の生活の中で人権について考えた経験を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までの生活を振り返り、人権について考えたことを整理する。
第2回	人権に関わるいのちの尊厳について	(学修内容) 人権について考える上で、1番大切ないのちについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分がいのちについて考えたことを振り返り、整理する。
第3回	人権の歴史	(学修内容) 人権についての背景、歴史的に理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 人権についての歴史について整理する。
第4回	医療といのちと人権	(学修内容) 医療において、いのち、人権を考える場面が多く、さまざまな場面において、人権がどのように捉えられているかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が今まで医療を受けたときに感じた人権について整理する。
第5回	医療事例に学ぶ人権	(学修内容) 医療現場で実際の事例を提示し、人権について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例について、考えたことを整理する。
第6回	障害者問題に学ぶ人権	(学修内容) 人生において、病、事故、災害などをきっかけにして障害をもつことがある。障害者の人権がどのように考えられてきたことを理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活の中で障害について考えたことを整理する。
第7回	高齢者問題に学ぶ人権	(学修内容) 高齢者を総合的に理解し、人生の最終期を迎えた高齢者、特に認知症などの病の高齢者と人権について、考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の身近な高齢者の人権について具体的に考え整理する。
第8回	児童問題に学ぶ人権	(学修内容) 児童問題と人権について、ソーシャルワークの現場の実際の事例から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例について考えたこと、自分がソーシャルワーカーとしてどうするかを整理する。
第9回	グループワーク：事例について考えたことを話しあう	(学修内容) 今までの講義で取り上げた事例をグループワークにて、議論する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループワークでいろいろな人の意見を聞き、整理する。
第10回	ハンセン病に学ぶ人権(ハンセン病療養所の歴史から)	(学修内容) 全国の13カ所にある国立ハンセン病療養所の歴史から学び、療養所の成立と人権侵害について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ハンセン病の病気や療養所の歴史について整理する。
第11回	ハンセン病に学ぶ人権(ハンセン病療養所で生まれた文芸作品から)	(学修内容) ハンセン病療養所ではたくさんの文芸作品が生まれた。その作品の中から人権、いのちについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ハンセン病文学を読み、感想を整理する。
第12回	ハンセン病に学ぶ人権(まとめ)	(学修内容) ハンセン病に罹患し、療養所で暮らした人びとのことから、人権、いのちについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ハンセン病文学を読み、ハンセン病の療養所の人びとのことを読み取り、整理する。
第13回	グループワーク：ハンセン病の事例をもとに考えたことを話しあう。	(学修内容) ハンセン病について、学んだ事をグループワークにて深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分がハンセン病を学ぶ前と学んだ後の内的な変化を整理する。
第14回	ひとり1人の存在を大切に、共に生きる社会を目指すことを考える	(学修内容) 未来に向けて、障害者、高齢者、児童、様々な事情を抱えた人が共に生きる「共生社会」にとり、大切なことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が共生社会を作るためには具体的にどうするのかを整理する。
第15回	「人権と社会」まとめ	(学修内容) 「人権と社会」の講義をまとめ、振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 講義を受講して、人権についての考えをまとめる。

授 業 名	情報処理 u c ・ u e			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1107
英 文 名	Information Processing			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	猿渡 綾子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピューターを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピューターを用いた基本的な情報利活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	情報リテラシー教科書 Windows 10/Office 2016対応版 ( オーム社 )								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します								
留 意 事 項	・情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので入学時に配布されたユーザーIDとパスワードが分かる状態で授業に参加してください。 ・2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。 容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。 ・毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回にアナウンスします。研究室前にも掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	情報処理 u c ・ u e	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 情報セキュリティ、モラル メールの基本操作	(学修内容) 授業概要の説明, 情報処理室の使用手法, Gメールの送受信 アカウントの追加, 情報に関するリスク・対策・モラルについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章、入学時に配布された情報サービスの冊子を読み持参 事後: メール送信
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意, Wordの開始、保存、終了 コピー & 貼り付け, ページ設定, 書式設定、文字カウント (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: USBメモリを購入し持参 教科書第1章1-3、第3章3-1~2を読む 事後: 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をClassroomから提出
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換, ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入 インデントとTabキー、箇条書きなど (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-3、3-4を読む 事後: 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をClassroomから提出
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入, テキストの配置 Snipping Tool の使い方など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-5を読む 事後: 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をClassroomから提出
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成 文献検索について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章3-5を読む 事後: 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出。文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第3章を復習 事後: 第6回課題 (Word・レジメ) をClassroomから提出
第7回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更, スライドマスターの編集, 箇条書き インデント、Tabキーの使い方, 画像の加工、アニメーションの設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む 事後: 第7回課題 (PowerPoint・画像加工) をClassroomから提出
第8回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成, ノートの記入, 印刷設定 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-7を読む 事後: 第8回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出
第9回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法 最終プレゼンテーション用のスライドを作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 発表テーマを考えてくる 事後: 発表用スライドを完成させ、Classroomから提出
第10回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読む、発表用原稿を作成する 事後: プレゼンテーションの振り返りを行う
第11回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明, データ入力 簡単な計算式など (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-1、4-2-1を読む 事後: 第11回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をClassroomから提出
第12回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-2を読む 事後: 第12回課題 (Excel・関数を使用した計算) をClassroomから提出
第13回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 棒、折線、円、複合などのグラフ, 印刷設定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む 事後: 第13回課題 (Excel、Word・グラフ) をClassroomから提出
第14回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書第4章を読み復習 事後: 選んだ統計データの分析を行う
第15回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 選んだ統計データの分析とレポート案を作成 事後: 第14、15回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をClassroomから提出

授業名	京都の歴史			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1124
英文名	History of Kyoto			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	工藤 美和子			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	古代から近現代の日本において、政治・文化・宗教の中心に位置したといわれる京都の歴史をたどるとともに、時代によって作られた日本各地に影響を与えた文化について史資料・DVDなどの情報媒体を用いながら、知識と理解を深める。								
学修成果到達目標	1) 京都の歴史と文化の理解を深めることができる。 2) 京都の歴史と文化について説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	特に使用しません。授業内で資料を配付します。								
参考書	適宜、授業内で紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留意事項	授業以外の時間も活用して、自分の足で京都を散策して理解を深めてください。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示します。確認してください。								
実践的教育									

授業名	京都の歴史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス・世界遺産と京都	(学修内容) 授業概要を知る。京都の世界遺産について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前事後：シラバスの確認。授業内容をノートにまとめる。
第2回	古代の都と平安京	(学修内容) 古代の都城と平安京が都に選ばれた理由を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第3回	平安京の成立	(学修内容) 平安京はどのような都であったのか、1000年以上続いた理由を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第4回	平安貴族の生活	(学修内容) 平安貴族の人々の生活や風習を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第5回	宗教空間都市としての京都	(学修内容) 宗教都市の性格をもつ京都のはたらきを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第6回	応仁の乱から戦国時代の京都	(学修内容) 京都で起こった戦乱と戦国時代の京都の様相を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第7回	近世の京都：『洛中洛外図屏風』にみる東山	(学修内容) 『洛中洛外図屏風』に描かれる東山界限と現在の東山の景観を比較し、その変遷を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第8回	近世の京都：『都名所図会』にみる東山	(学修内容) 『都名所図会』に描かれる東山界限と現在の東山の景観を比較し、その変遷を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第9回	京都の近代化：首都東京の誕生	(学修内容) 京都の近代化と産業都市に導いた琵琶湖疏水計画と様々な産業について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第10回	京都の近代化：観光都市への道	(学修内容) 京都が観光都市となるまでの変遷を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第11回	京都の年中行事と行事食	(学修内容) 京都の祭礼や年中行事と、それに関連する行事食について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第12回	京都の年中行事と菓子文化	(学修内容) 京都の祭礼や年中行事と、それに関連する京都の菓子文化について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第13回	京都の伝統産業：京の焼き物	(学修内容) 京焼・清水焼の誕生と歴史の変遷について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第14回	京都の伝統産業：京の抹茶	(学修内容) 京抹茶と海外の抹茶文化を比較し、受容の仕方にもみる社会背景を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：配布資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返り。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後：授業内容をノートにまとめる。

授 業 名	こころの科学			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1109
英 文 名	Mental Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小川 徳子			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	心理学が“人間の心の働きと行動を理解する”ために、どのような研究をおこない、その結果何が明らかになってきたのか、解説していきます。視聴覚資料や紙媒体の資料も用い、主に、実験系の心理学によって蓄積されてきた基礎心理学の領域での知見を取り上げて紹介します。資料の内容を参考に、心の働きについて、自分なりに考えた内容や、ディスカッションを通して考えた内容をまとめるレポート課題を実施します。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 心理学の基礎領域について、全体像を把握できている。 2) 心にはどのような働きがあるのか、理解できている。 3) 人の心の動きについて、科学的・合理的に判断し、その内容を自分なりに説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (問に対する自分なりの考察があるか)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	心理学 心のはたらきを知る 第2版(コンパクト新心理学ライブラリ)								
参 考 書	北尾 倫彦、中島 実、他(1997)グラフィック心理学 サイエンス社								
課題に対する フィードバック の方法	授業時間中にレポート課題となる発問をし、考えた内容を記述する時間をとった後、発問内容について解説します。								
留 意 事 項	毎回、授業時間内に提出をを求めるショートレポートの課題を用意します。提示したテーマについて、自分の考えを記述する課題です。考えをまとめるにあたって、ディスカッションを導入する場合があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業前後の休み時間、教室にて実施。								
実践的教育									

授業名	こころの科学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学とは	(学修内容) 心理学の基礎領域 (事前事後学修課題の内容) (30分) 心の働きだと思いをリストアップしてみよう
第2回	感覚・知覚・認知	(学修内容) 体に備わる器官を通じて情報を取り入れることが、心の働きである理由を理解する。その理由について、他の受講生と意見交換する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 五感と心の関係とは? 説明してみよう
第3回	記憶(1): 記憶の種類	(学修内容) 「覚える」働きと「忘れる」働きである記憶について理解する。人が「覚える」内容にはどんな種類があるのか、他の受講生と意見交換する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶にはどんな種類がある? 考えておこう
第4回	記憶(2): 発達的な変化	(学修内容) 記憶の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 記憶の何が変わると発達? 考えておこう
第5回	言語(1): 5種類の機能	(学修内容) 言葉の働きについて理解する。日常生活で、何のために言葉を使っているか、他の受講生と共に検討する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の働きとは何? 考えておこう
第6回	言語(2): 発達的な変化	(学修内容) 言葉の発達過程 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言葉の習得に必要な力は? 考えておこう
第7回	思考(1): 思考の種類	(学修内容) 「考える」働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 「考える」とは何すること? 説明してみよう
第8回	思考(2): 発達的な変化	(学修内容) 思考の発達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 言語と思考のつながりを説明してみよう
第9回	行動	(学修内容) 学習と動機づけ (事前事後学修課題の内容) (30分) 人の行動を変える要因とは? 考えておこう
第10回	感情	(学修内容) 感情と他の心の働きの関係について学ぶ。喜怒哀楽以外に、どんな感情があるか、全部で何種類ありそうか、他の受講生と共に考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「感情」はどんな働き? 説明してみよう
第11回	知能	(学修内容) 知的な能力とはどのような能力なのか、知能検査について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「知能」について説明してみよう
第12回	パーソナリティ	(学修内容) 個性の捉え方、性格検査について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分や友人の性格を説明してみよう
第13回	自己の認知	(学修内容) 自己概念の発達と対人関係とのつながりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分を知る手がかりとは? 考えておこう
第14回	社会的認知	(学修内容) 他者の捉え方とそれに影響する要因を理解する。どんな人にとんな印象をもつか、他の受講生と意見交換する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) どんなことが他者の印象を左右しているのか、考えてみよう
第15回	社会的行動	(学修内容) 他者の存在が個人に及ぼす影響、集団の認知 (事前事後学修課題の内容) (30分) 集団で行動する時の傾向とは? 考えておこう

授 業 名	社会学概論			開 講 学 年	1・2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1111
英 文 名	Introduction to Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	人間関係のありかたを視点に、「何故、我々は悩むのか?」という日常生活の身近な問題を出発点として、映像資料を用いながら、次のように授業を進めていきます。まず、人の中で生じる相互作用についての考察から初めて、個人の側から現代社会のありかたを捉えていきます。次に、グローバル化という大きな社会現象から現代社会のありかたを捉えることを通じて、その現象によって個人のありかたはどのように変わったのかを捉えて行きます。これらのことを通じて、現代社会のありかたについて考察していきます。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 物事を観察する力を身につけ、現代社会のありかたを「自分なり」に客観的に分析することができる。 2) 人とのつながりを視点に、日常の問題を分析することができる。 3) 自分なりの視点で、新聞やニュースを見ることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『社会学』長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編，有斐閣 2007年。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対して、授業内あるいはメールにて評価基準の具体的な内容に関して解説します。								
留 意 事 項	普段の生活においても、新聞やニュース、ドキュメンタリー報道には目を通すように心がけ、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニツツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授業名	社会学概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	現代の社会問題について	(学修内容) 人間関係を視点に現代の社会問題を考察することの有効性を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常生活における自分の人間関係をめぐる問題について整理してください。
第3回	人間の相互作用について	(学修内容) 日常生活における分析に適用・応用できる人の間で生じる相互作用のありかたの類型について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の家族や友人など、どのような内容を持つ関係なのか整理してみてください。
第4回	相互作用の類型について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、映像資料を通じて、人間の感情の動きを考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常における自分の人間関係を分析し、整理してみてください。
第5回	人間関係の変化について	(学修内容) 「人間の相互作用」を踏まえた上で、相互作用を通じた人間関係の変化について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える人間関係を分析してみてください。
第6回	人間の絆について	(学修内容) 現代の社会において「人間の絆」はどのように捉えられるのかについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の周りに存在する「人間の絆」について整理してみてください。
第7回	グループワーク：人間の絆についての分析	(学修内容) グループワークで、家庭、学校、サークル・クラブ、バイト先などにおける人間の絆の強さのありかたを整理し、レポートとしてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークをふまえた上で、日常生活における「人間の絆」について、その純粋性とは何かを考察してみてください。
第8回	人間の絆とは何か	(学修内容) 「人間の絆について」を踏まえた上で、「純粋な人間関係」について考察を進めて行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第9回	組織と個人について	(学修内容) 人間は、どのようにすれば「一致団結=まとまる」ことができるのか。ここでは「組織」を捉える枠組みについて考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が、これまで所属している・してきた組織(クラブなど)は、どのように運営されていたのか、整理してみてください。
第10回	グループワーク：組織と個人の関係の分析	(学修内容) グループワークで、組織に関する分析組みを用いて、家庭、学校、バイト先などの組織を分析してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループにおいて、異なった意見などを整理してみる。
第11回	組織と個人の関係とは	(学修内容) クラブ活動などの経験を事例に、人間は、どうすれば、一致団結し、まとまるのか、を考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「組織と個人のありかた」について分析してみてください。
第12回	グローバル化について	(学修内容) グローバル化の進展により、どのような社会問題が生じているのか、説明して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食や衣服など、自分の身の周りの商品が、どこで作られているのか、注意深く観察してみてください。
第13回	グローバル化の現状	(学修内容) グローバル化が進展していく中で、必要となる異文化の理解について考察して行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから見える「グローバル化」という現象を分析してみてください。
第14回	日常生活を振り返って - コミュニケーション	(学修内容) 日常における他者との関係において自己を表現する問題、他者の存在を理解しようとする動き、そのなかで生じる相互作用について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、映像資料などから「純粋な人間の絆」について考察してみてください。
第15回	グループワーク：コミュニケーションについて考察する	(学修内容) グループワークで、仲間同士で盛り上がっているときなど、メンバーの各々の役割を考察し、レポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。

授業名	くらしと法律（日本国憲法）			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1122
英文名	Law and Our living (The Constitution of Japan)			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	大庭 弘継			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食 物栄養1回生・2回生・3回生・4回生				
授業の概要	憲法や法律を、日常生活で意識することは、あまりないかもしれませんが。しかし、憲法や法律は、私たちの日常生活を支える重要な仕組みです。この講義では、日常生活との関係から憲法や法律をまなぶとともに、犯罪のような事件に巻き込まれたときに役立つ知識、さらに主権者として必須の知識を習得します。								
学修成果到達目標	1) 日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解できる。 2) 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 3) 主権者として必要な知識を習得することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	プリントを毎回配布します。								
参考書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、その他、適宜授業中に紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認のための小テスト等を行い、授業時に解説・コメントを行います。								
留意事項	関連するニュースを取り上げ、発言・コメントを求めます。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	くらしと法律（日本国憲法）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）	（学修内容）講義概要を紹介し、憲法・法律と日常生活の関係についての概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、日本国憲法を一読しておくこと。
第2回	幸福追求権と公共の福祉	（学修内容）日本国憲法で規定する「幸福追求権」と「公共の福祉」の関係、「自己情報コントロール権」など新たな権利を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第3回	法の下での平等	（学修内容）平等の概念が、法律にどのように反映されているか、判例や男女雇用機会均等法などと共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第4回	表現の自由	（学修内容）SNSの普及によりネットでの中傷が社会問題化している。憲法に定めのある表現の自由と公共の福祉の関係などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第5回	経済的自由と労働権	（学修内容）いわゆるフリマアプリにより若年層にも身近になった経済活動について、「職業選択の自由」などの憲法規定、労働法規とともに考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第6回	婚姻	（学修内容）婚姻は両性の合意のみによって成立する。恋愛関係と婚姻の違い、事実婚について学習する。また離婚の問題について扱う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第7回	家族	（学修内容）家族には、相続や介護といった複雑な問題が付随してくる。家族関係で生じる権利や義務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第8回	子ども	（学修内容）子ども（未成年）の権利と制約について、また親と社会の義務について、少年法や児童の権利条約について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第9回	生存権と社会保障	（学修内容）憲法が定める「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関連する社会福祉、社会保障、公衆衛生の制度と共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第10回	教育と学問	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、義務教育と大学の教育の相違、学問の自由について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第11回	犯罪と刑罰	（学修内容）憲法は、犯罪と処罰について多くの条文を割いている。被疑者の権利や私人逮捕など、犯罪に巻き込まれた場合に必要となる知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第12回	財政と税金	（学修内容）納税の義務、納税の仕組み（確定申告と源泉徴収など）、納税に準じる年金などの制度、国家予算の仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第13回	行政と地方自治	（学修内容）現代の国家において、行政権は国民生活の広範に及んでいる。行政国家現象と称される実情、ならびに地方自治体が担う行政について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第14回	参政権、国会、憲法改正	（学修内容）選挙権年齢の18歳への引き下げ、多様な政治参加の進展、憲法改正問題など、現代の参政権とその課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。

授 業 名	ジェンダー論u			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2127
英 文 名	Gender Studies			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生・4回生				
授 業 の 概 要	「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という視点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、ジェンダーは現実の生活の中でどのような課題を含んでいるのかを探っていく。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) ジェンダーとは何かについて理解することができる。 2) 現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。 3) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門 第3版』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)								
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『未来をひらく男女共同参画-ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角(光文社新書)ほか、随時紹介する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。								
留 意 事 項	ジェンダーについて、遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行い、受講者は授業への積極的な参加が求められます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 登録研究員								

授 業 名		ジェンダー論u
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	セックスとジェンダーの違い	(学修内容)セックスとジェンダーの概念説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	(学修内容)男らしさ、女らしさについて考える(グループワーク含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第3回	男女二分法について	(学修内容)二つに分けることはどういうことを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の講義について復習すること。
第4回	性における多様性:性の複数の次元	(学修内容)性の複数の次元について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第5回	性における多様性:性の少数派	(学修内容)性の少数派について理解する。ビデオ学習し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第6回	文化とジェンダー	(学修内容)文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第7回	幼児期の性の社会化	(学修内容)親と子どもの相互作用について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第8回	「お姫様」とジェンダー	(学修内容)「お姫様」を扱った物語の映像を分析する(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グリム童話について調べておくこと。
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(学修内容)メディアが与える影響について考える(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題レポートを作成しておくこと。
第10回	教育とジェンダー:隠れたカリキュラムとは	(学修内容)隠れたカリキュラムについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業内容をまとめておくこと。
第11回	教育とジェンダー:隠れたカリキュラムの実態	(学修内容)自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える(グループワーク、ディスカッションを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第12回	デートDVとジェンダー	(学修内容)デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) DVとは何か調べておく。
第13回	性犯罪とジェンダー	(学修内容)ジェンダーと性犯罪の関連について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの関連箇所を読んでおく。
第14回	ジェンダーの視点からみた子育ての課題	(学修内容)ジェンダーの視点から、日本社会の子育ての課題は何かを考える (事前事後学修課題の内容)(30分) ジェンダーの視点からみて、子育てにはどのような問題があるか調べておく。
第15回	まとめ	(学修内容)これまでの授業の振り返りをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 疑問点をまとめておくこと。

授業名	国際理解			開講学年	1・2・3・4回生	単位数	2単位	科目コード	GE1112
英文名	International Understanding			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政1回生・2回生・3回生・4回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	<p>グローバル化の進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今なお国家、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>なぜ戦争が起きるのか？現在の国際情勢に関する知識をもとに考えてみましょう。</p> <p>学期の終盤でグループワークによるプレゼンテーションを行います。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 世界の諸国・諸地域の現状について、歴史的な経緯を含めた教養を身につける。</p> <p>2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができる。</p> <p>3) 調べ学習を通して、世界の多様性についての理解を深めることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	なし。毎回資料を配付する。								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業の最初に、前回授業で提出してもらったコミュニケーションペーパーから抜粋してコメントする。								
留意事項	世界のことに関する教養を身につけたい人は是非受講してください。グループワーク等への積極的な関わりを求めます。毎回事前学習としてキーワードの予習をしてもらいます。								
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	国際理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：知識の確認	(学修内容)世界の国々に関するクイズ (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスをしっかりと読んでくる
第2回	国とは	(学修内容)国の定義、国境、民族、言語などの関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：国家
第3回	東アジア	(学修内容)東アジアの近現代、台湾情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：漢字文化圏、台湾
第4回	東南アジア	(学修内容)東南アジアの近現代 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ASEAN
第5回	オセアニア	(学修内容)オセアニアの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ポリネシア、ミクロネシア、メラネシア
第6回	インド・イスラム	(学修内容)インドとイスラムを取り巻く国際情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：イスラム教、インド・パキスタン関係
第7回	サハラ以南アフリカ	(学修内容)アフリカの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：アフリカ分割、奴隷貿易
第8回	中南米	(学修内容)中南米の近現代 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ラテンアメリカ、インカ帝国
第9回	北米	(学修内容)アメリカの成り立ち (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：アメリカ独立戦争、南北戦争
第10回	ヨーロッパ(1)	(学修内容)ヨーロッパの国々の概要 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：北欧、旧東欧
第11回	ヨーロッパ(2)	(学修内容)冷戦後のヨーロッパ情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：NATO、EU
第12回	戦争・紛争	(学修内容)人類と戦争、その歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：戦争、紛争
第13回	世界のことについて調べ学習	(学修内容)グループに分かれて国際的な多様性を知るための調べ学習を行う。グループのテーマ決定、役割分担、下調べなど。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 調べ学習のテーマをいくつか考えてくる
第14回	復習テスト	(学修内容)これまでの授業で取り上げた事柄をクイズ形式で出題、その解答と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの総復習
第15回	発表「多様な世界」	(学修内容)グループワークの成果をパワーポイントを用いて発表 (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表用の資料を完成させて、担当者にメール添付にて送信

授業名	中国語			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	GE2125
英文名	Chinese			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生・4回生				
授業の概要	本授業では中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) 正確な中国語の発音ができる。 2) 基本的な単語や文法が理解できる。 3) 自力で簡単な文章を作ったり、相手と簡単な会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年)								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	中国語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「発音」(声調、単母音)	(学修内容)講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストを事前に一覧しておく。
第2回	「発音」(子音、複母音)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「発音」(声調変化、よく使う表現 など)	(学修内容)中国語の基本的な発音を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	「第一課」(人称代名詞、疑問文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第3回」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第二課」(いろいろな動詞、語気助詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	復習 「第一課」「第二課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第一課」「第二課」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	「第三課」(形容詞述語文、疑問詞など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第6回」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第四課」(数詞、量詞 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	復習 「第三課」「第四課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第三課」「第四課」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	「第五課」(方位詞、存在を表す“在” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第9回」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第六課」(時間の言い方、連動文 など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	復習 「第五課」「第六課」	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第五課」「第六課」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	「第七課」(完了、変化“了” など)	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第12回」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容)基本的な単語や文法を習得していく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「発音」から「第7課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容)今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。

授業名	中国語			開講学年	2・3・4回生	単位数	1単位	科目コード	GE2128
英文名	Chinese			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	中尾 弥継			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生・4回生				
授業の概要	本授業では「中国語 u」の学習成果をふまえ、引き続き中国語を耳と口で学ぶことに重点を置き、中国人と初歩的なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。授業は演習形式で行います。学期末には中国語によるプレゼンテーションにより、その学習成果を披露してもらいます。また適宜映像資料などを鑑賞し、文化や国内事情への理解も深めたい。								
学修成果到達目標	1) より正確な中国語の発音ができる。 2) より多くの単語や、より高度な文法が理解できる。 3) 自力で複雑な文章を作ったり、相手とより具体性のある会話を行ったりできる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『初級テキスト カンファー中国語』(坂井有・中尾弥継・楊韜 著、ブックウェイ、2018年) 「中国語 u」で購入したテキストを継続して使用								
参考書	『プログレッシブ中国語辞典 第2版』(小学館)								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは添削をして返却します。								
留意事項	前の方の席に座ること。発音する時は大きな声で。予習・復習をしっかりとやること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名	中国語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 「中国語 u」の復習	(学修内容) 講義の目標を理解し、学習計画を立てる。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「中国語 u」で学習した部分の復習。次回内容に関する予習。
第2回	「第八課」(助動詞、“会”“能”“可以”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」の復習。次回内容に関する予習。
第3回	「第九課」(進行“正在-?”、持続“-着”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第2回」の復習。次回内容に関する予習。
第4回	復習 「第八課」「第九課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第八課」「第九課」の復習。次回内容に関する予習。
第5回	「第十課」(補語 結果補語、比較 A“比”B“~”など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第4回」の復習。次回内容に関する予習。
第6回	「第十一課」(“是~的”構文、二重目的語 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第5回」の復習。次回内容に関する予習。
第7回	復習 「第十課」「第十一課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十課」「第十一課」の復習。次回内容に関する予習。
第8回	「第十二課」(補語 方向補語“来”“去”、“把”処置式の文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第7回」の復習。次回内容に関する予習。
第9回	「第十三課」(主述述語文、存現文 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8回」の復習。次回内容に関する予習。
第10回	復習 「第十二課」「第十三課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十二課」「第十三課」の復習。次回内容に関する予習。
第11回	「第十四課」(受身、使役 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第10回」の復習。次回内容に関する予習。
第12回	「第十五課」(複文、動詞A+也+動詞A+可能補語の否定形 など)	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第11回」の復習。次回内容に関する予習。
第13回	復習 「第十四課」「第十五課」	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第十四課」「第十五課」の復習。次回内容に関する予習。
第14回	総復習	(学修内容) 基本的な単語や文法を習得していく。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第8課」から「第15課」の復習。次回内容に関する予習。
第15回	プレゼンテーション	(学修内容) 今学期の学習内容を生かして中国語によるプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「第1回」から「第14回」の総復習。

授 業 名	日本語表現法			開 講 学 年	1・2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1108
英 文 名	Japanese Writing			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生、食物栄養1回生・2回生				
授業の概要	大学での学びに必要なとなる基礎的な日本語表現の方法を学び、調査した内容や自分の考察などを文章にし、口頭で発表できるようにトレーニングを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本語の基礎的な知識、紹介文や意見文を書くことができる。 2) ディスカッションやディベートの方法を理解し、実践することができる。 3) 調査結果や考察をレポートにまとめ、口頭で発表することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	銅直信子・坂東実子『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳 改訂第2版』国書刊行会、2021								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	課題は適宜添削を行い、返却します。								
留 意 事 項	文章作成や口頭発表の原稿作成などを行います。毎回課題があります。教科書をベースに授業を進めていきますので必ず持参してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回到提示します。								
実践的教育									

授 業 名	日本語表現法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方、教科書の活用の仕方を理解する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第2回	紹介文(自分の好きなもの・こと) 文章表現	(学修内容) 敬体を用いて四段構成で紹介文を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマをいくつか出しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第3回	紹介文(自分の故郷) 文章表現	(学修内容) 客観表現・主観表現を使い分け、四段構成で紹介文を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 故郷についての下調べをしておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第4回	自己紹介 口頭発表	(学修内容) 紹介文をもとに発表原稿を作成し、数分の自己紹介スピーチをする (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 紹介文を読み直し、資料を整理しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第5回	本の紹介 口頭発表	(学修内容) 発表時間や聞き手の興味を喚起するようスピーチする  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 紹介したい本を何冊か準備しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第6回	賛成・反対の意見文 文章表現 論理展開	(学修内容) 対立項を意識した論理展開を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマを概観し、自分の意見をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第7回	図書館の活用と新聞記事の探し方	(学修内容) 図書館での資料の探し方やデータベースの使い方、新聞記事などの探し方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 自分の利用しやすい図書館の場所などを調べておく (事後) データベース等を活用し、課題に取り組む
第8回	新聞・雑誌記事の紹介 口頭発表	(学修内容) グループワークを通してスクリプトの作成および発表を行う  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 取り上げる新聞記事を読み、要点をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第9回	賛成・反対の意見文 文章表現 根拠の提示	(学修内容) 根拠を示しながら主張する意見文を作成する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 図書館などを活用し、関連する資料を集めておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第10回	意見の主張・ディスカッション 口頭発表	(学修内容) ディスカッションのルールを学び、議論を行い結果を発表する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて自分の意見をまとめておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第11回	変化を説明する文 文章表現 自己の変化	(学修内容) 時間軸を意識しながら五段構成で文章を書く  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて考えておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第12回	変化を説明する文 文章表現 社会の変化	(学修内容) 社会の変化について調査した内容をふまえて文章にする  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) テーマについて予備調査を行う (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第13回	ディベート 口頭発表	(学修内容) グループで意見をまとめ、ディベートマッチを行う  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) グループメンバーと文章を交換し読み合っておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第14回	対立項と時間軸のある文章 文章表現	(学修内容) 調査年度の異なる統計資料を読み、比較しながら文章をまとめる (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 対立項・時間軸を意識した文章について復習しておく (事後) 教科書の内容を復習し、課題に取り組む
第15回	調査とプレゼンテーション 口頭発表	(学修内容) プレゼン資料をパワーポイントで作成し発表する  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 調査の内容をまとめ、発表の準備をしておく (事後) チェック表を確認し、今後の課題を整理する

授 業 名	自然科学 (生物)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1121
英 文 名	Natural Science I (Biology)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	猿渡 綾子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	この講義では、生命活動の構造の単位である細胞、その活動である代謝および体内環境の維持など生物に関する基礎的知識について学ぶことにより、生体について深く理解していく。授業はレクチャーを行った後、理解を深めるため少人数のグループワークを行いながら進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生物に関する基礎的事項について理解できる 2) 日常生活における生命科学における情報を理解できる 3) 生きていることについて考えることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (			)
テ キ ス ト	大学で学ぶ 身近な生物学、吉村成弘 著、羊土社								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	確認テスト返却時解説を行う。								
留 意 事 項	高校生物を履修していない者を対象とし、今後の学びの土台となるように講義を進めていく。 毎講義内でICT活用により確認小テスト、質問の受け付けを実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	自然科学 (生物)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食べることで生きること	(学修内容) 生物学を学ぶ意義について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと 普段の食事について、糖質、脂質、タンパク質を意識しておくこと
第2回	糖質 ～種類と性質～	(学修内容) 糖質とは何かについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P28-39を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第3回	糖質 ～代謝: エネルギーを得る仕組み～	(学修内容) エネルギーの消費と生成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P41-55を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第4回	脂質 ～種類と構造～	(学修内容) 脂質と脂肪酸の違い (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p56-69を読んでおくこと 前回までの復習をして小テストに備える
第5回	脂質 ～輸送と代謝～	(学修内容) 脂質の体内動態、エネルギー生成 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P70-82を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第6回	ビタミンとミネラル	(学修内容) ビタミンとミネラルの体内での働き (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p84-95を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第7回	細胞の構造と機能	(学修内容) 生命体をつくる細胞の構造と機能 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p98-111を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第8回	DNAの構造とはたらき	(学修内容) 遺伝物質とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p112-124を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第9回	タンパク質	(学修内容) DNAの遺伝情報からタンパク質へ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p125-137を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第10回	タンパク質の働き	(学修内容) 酵素反応、細胞膜、細胞骨格 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p138-149を読んでおくこと 前回までの復習をして小テストに備える
第11回	細胞内外の情報伝達	(学修内容) ホルモン、受容体、シグナル伝達 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p150-162を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第12回	細胞分裂のしくみと制御 受精	(学修内容) 体細胞分裂、減数分裂、受精卵 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p163-182を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第13回	細胞の分化、修復	(学修内容) 細胞の分化、器官形成、活性酸素による損傷、アポトーシス (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p182-201、238-249を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第14回	免疫システム	(学修内容) 免疫機構、自己免疫疾患 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p202-211を読んでおくこと 章末問題をまとめておくこと
第15回	発展が期待される分野	(学修内容) ES細胞、iPS細胞、再生医療 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p213-237を読んでおくこと 全体のまとめをしておくこと

授業名	自然科学（化学）			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	GE1110
英文名	Natural Science II (Chemistry)			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	根岸 裕子			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	化学は自然科学の基礎であり、化学の基礎的な知識を修得することによって、関連する生化学、栄養学、食品学等の科目の学習、実験実習が容易になる。本講義では高校の化学の復習を主とした内容とし、理解を深めるためふり返り小テストを行いながら進めていく。								
学修成果到達目標	1) 化学の基礎的事項について理解できる。 2) 溶液の性質を理解できる。 3) 溶液やモル濃度など実験に必要な具体的な計算ができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル、小野廣紀 日比野久美子 吉澤みな子 著、化学同人								
参考書	授業中に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	確認テスト後に解答の解説を行っていく。								
留意事項	講義内で理解できなかったことは質問シートに記入もしくは直接質問し、必ず解決していくこと。 自学自習として、ICTを活用した練習問題を課します。								
オフィスアワー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	自然科学（化学）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	これからの学びに必要な化学とは 実験器具、試薬調整方法 元素記号、周期表	(学修内容) これからの学びに必要な化学とは 実験器具名、試薬調整方法、元素、単体、同素体、化合物、周期表 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、教科書p10、p48-49を読んでおく
第2回	原子	(学修内容) 原子の構造、電子軌道 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p33-34、p37-38を読んでおく
第3回	分子とイオン	(学修内容) 分子、イオン、イオン式、組成式 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p42-44を読んでおく
第4回	化学結合：イオン結合 金属結合	(学修内容) 化学結合の種類 イオン結合、金属結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p53-58を読んでおく
第5回	化学結合：共有結合 配位結合	(学修内容) 化学結合の種類 共有結合、配位結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p41-42を読んでおく
第6回	分子の極性と分子間にはたらく力	(学修内容) 結合の極性、水素結合 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p67-69を読んでおく
第7回	化学量と物質質量	(学修内容) 質量数、原子量、分子量、アボガドロ数とモル数 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p72-75を読んでおく
第8回	物質の状態変化	(学修内容) 固体、液体、気体 溶液ができる仕組み、濃度計算 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p79-80、p85、p134-135を読んでおく
第9回	物質の化学変化	(学修内容) 化学変化を表す化学反応式 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p85-87を読んでおく
第10回	酸と塩基	(学修内容) 酸性 アルカリ性 アレニウスの定義、ブレンステッド・ローリーの定義 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p89-91を読んでおく
第11回	水素イオン濃度とpH	(学修内容) 水の電離、水素イオン指数pH、水溶液の水素イオン濃度 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p94-95を読んでおく
第12回	中和反応	(学修内容) 中和反応、中和滴定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p98を読んでおく
第13回	酸化と還元	(学修内容) 酸化と還元の意味、酸化数、酸化剤と還元剤 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p101-103を読んでおく
第14回	酸化還元反応	(学修内容) 酸化還元反応 電子の動き (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の演習プリントを用いて復習する
第15回	まとめ	(学修内容) 自然科学（化学）の講義内容のまとめと演習 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの講義内容についてまとめておく

授 業 名	消費者教育			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1123
英 文 名	Consumer Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大谷 和海			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>消費者教育は、2012年の「消費者教育の推進に関する法律」が制定されて以来、その在り方も変化しつつあります。ところで、私たちの多くは労働者として働いて賃金収入を得て、それを貯蓄や支出に利用しています。支出の多くは生活に必要な商品やサービスの購入にあてています。</p> <p>しかし、仮に高収入を得ても、商品等の価値が分からなかったり、騙されたりしては商品等の購入に使ったお金の値打ちを減少させることになりかねません。そこで、消費生活に関わる知識を習得し、これを適切な行動に結びつける実践的能力の育成や、主体的に消費者市民社会の形成に参画し、その発展に寄与できる資質を育むことが重要になっています。本講座では消費者教育の意義と課題について考えつつ、具体的な事例を通して、消費者教育についての理解を深め、その力量を形成することを目指します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要を理解することができる。</p> <p>2) 自らが、賢い消費者として、日常生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考えることができ、また行動することができる。</p> <p>3) 現代の消費生活の特徴や消費者問題を理解し、その事象や原因について説明することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	神山久美・中村年春・細川幸一編著『新しい消費者教育 第2版』慶應義塾大学出版会								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝える。								
留 意 事 項	消費者教育に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身に付けてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		消費者教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス：新しい消費者教育の推進に向けて	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者とは誰を指すのか」ということを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの序章を精読しておいてください。また、講義後は本時の課題に取り組んでおく。	
第2回	消費者教育とは 理念と目的(第1章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者教育の理念と目的」を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第3回	消費者教育の歴史と体系(第2章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者の権利とは何か」から「消費者教育の歴史と体系」を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第4回	経済社会の発展と消費者問題の発生(第3章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者の責任」から「消費者問題」の実態を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第5回	消費者政策の展開(第4章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「賢い消費者」になるために「消費者政策の展開」を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第6回	国・地方の消費者行政(第5章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者政策の展開」を受けて具体的な「国・地方公共団体の消費者行政」を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第7回	商品の安全性(第6章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「商品の安全性」に対する取り組みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第8回	契約と消費者トラブル(第7章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者トラブル」の実態から「契約」の意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第9回	生活設計(第8章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「生活設計」の重要性と意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第10回	消費者信用(第9章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者信用」の意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第11回	情報化社会と消費者(第10章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「情報化社会」が「消費生活」に与える影響を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第12回	幼児期・小学生期(第11章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「幼児期・小学生期」の消費者教育の実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第13回	中学生期・高校生期(第12章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「中学生期・高校生期」の消費者教育の実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第14回	成人期(若者・成人一般・高齢者)(第13章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「成人期」の消費者教育の実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	
第15回	消費者市民社会の構築に向けて(第14章)	(学修内容) 講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に「消費者市民社会の構築に向けて」消費者教育の経験をどう活用すべきかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでおく。	

授 業 名	産官学連携実践 u a ・ u b			開 講 学 年	1・2・3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1113
英 文 名	Practice of society cooperation			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	現代家政1回生・2回生・3回生、食物栄養1回生・2回生・3回生				
授業の概要	主に春期休暇中の一般企業へのインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。また、インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加してもらう場合がある。なお、会社見学や外部講師の講義日については、先方の都合により変更の場合がある。インターンシップを受講していることが望ましい								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授業名	産官学連携実践 u a ・ u b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	インターンシップ報告会1	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験者の報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第3回	インターンシップ報告会2	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験者の報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第4回	希望就職先の事前研究	(学修内容) 企業研究について (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集
第5回	希望就職先の研究発表	(学修内容) 企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果レジュメ
第6回	会社見学事前学習	(学修内容) 会社見学先について (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第7回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (30分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第8回	会社見学事後学習	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第9回	外部講師による講演1回目	(学修内容) 企業従業員による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第10回	外部講師による講演2回目	(学修内容) 経営者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第11回	外部講師による講演3回目	(学修内容) 自治体関係者による講演 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自治体先の研究。意見や質問を考えておく
第12回	学外授業	(学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (予定、変更あり) (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく
第13回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) 必要書類を作成しておく
第14回	インターンシップ事前学習	(学修内容) インターンシップ先についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第15回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく

授業名	和食学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2431
英文名	Japanese Food			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	人は生きていくために、食物を獲得し、貯蔵・加工し、安全でおいしく食べる工夫と努力を重ね、食文化を発展させてきた。世界には気候風土によって、特色ある食文化圏が形成されている。日本では稲作を基盤とする伝統的な和食文化が生まれ、魚や野菜など四季ごとの豊かな食材で彩られており、健康的な食文化として注目されている。この和食文化を社会的背景や歴史の変遷を追って理解を深めていく。和食の優れた点を把握して、将来の食のあり方を考えていくとともに、健康的な食生活の維持、増進に役立てていくことを目指す。理解を深めるために、適宜グループワークを行う。								
学修成果到達目標	1) 和食の特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などの面から捉えることができる。 2) 和食文化を自然風土、社会的背景、歴史的観点から考察することができる。 3) 世界の食文化を比較しながら、和食の優れた点を把握し、継承について考えることができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	江原絢子、石川尚子・編著『日本の食文化 和食の継承と食育』アイ・ケイ コーポレーション								
参考書	『聞き書 日本の食生活全集』農文協								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する。								
留意事項	食生活は何をどれだけ食べるかだけでなく、食べ方、文化、歴史、交流、楽しむ要素など多角的に把握していくこと。								
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。								
実践的教育									

授業名	和食学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	和食の特徴	(学修内容) 食文化とは何か。和食文化の特徴は何か。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食の特徴を箇条書きでまとめておく。
第2回	日本の食文化形成と展開	(学修内容) 自然環境や社会環境がどのように日本の食文化の形成に影響してきたか。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.31-40をよく読んでおくこと。
第3回	異文化接触と受容	(学修内容) 日本の食文化が影響を受けた主な異文化について、それぞれの接触と受容の過程を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.41-50をよく読んでおくこと。
第4回	主食の文化	(学修内容) 米だけに限らず、木の実やいも類、麦、雑穀などについても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.51-60をよく読んでおくこと。
第5回	副食の文化	(学修内容) 雑食文化からやがて主食・副食の形が明確化し、現在の欧米化が進む中で出てきた問題点まで歴史を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.61-70をよく読んでおくこと。
第6回	調味料、油脂、だし、香辛料	(学修内容) 日本料理に欠かせない発酵調味料やだしを中心に、その種類や歴史的背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.71-80をよく読んでおくこと。
第7回	菓子、茶、酒	(学修内容) 嗜好品としてその時代時代の社会状況や文化によって変動してきた菓子、茶、酒について、その変容をみる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.81-90をよく読んでおくこと。
第8回	日本料理の形成と発展	(学修内容) 日本料理がどのようにして今の形に発展してきたのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.91-100をよく読んでおくこと。
第9回	台所・食器・食卓の文化	(学修内容) 台所や調理に使う道具、食器、食卓について、その変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.101-110をよく読んでおくこと。
第10回	日常の食生活	(学修内容) 日常の食事について、その形態や地域性の変化等を時代を追ってみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.111-120をよく読んでおくこと。
第11回	非常の食生活	(学修内容) 天災や人災によって非日常となったときの非常食について、今日に伝わる工夫などを歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-130をよく読んでおくこと。
第12回	外食文化の成立と変化	(学修内容) 外食文化がどのような時代背景の中で成立し変容していったかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.131-140をよく読んでおくこと。
第13回	行事と地域の食文化	(学修内容) 古くから伝えられてきた行事食や儀礼食、また日本各地の地域独特の食材とそれを利用して伝えられてきた郷土料理についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.141-150をよく読んでおくこと。
第14回	家庭・地域、学校、社会における食育	(学修内容) 伝統的食文化の継承を含む食育の現状と課題をみていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.151-160をよく読んでおくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 和食文化の継承の課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 和食文化の優れた点をあげて、継承の課題をあげておく。

授 業 名	ライフステージ栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3443
英 文 名	Nutrition of Life			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	人間の一生を乳幼児期・児童期・成年期・高齢者期に区分し、妊娠や発育・加齢による人体の構造や機能などの生理的变化を学習し、各ライフステージでの栄養の特徴とそれらに合わせた栄養アセスメントの原理について理解する。また、各ライフステージと関連の深い疾病の病態と概要についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養状態の評価・判定について理解できる。 2) ライフステージ各期の栄養および食事に関する諸問題について理解できる。 3) 加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	・Nブックス 応用栄養学概論(第2版) 編者:渡邊早苗、松田早苗、真野由紀子 共著:小長井ちづる、他 (建帛社)								
参 考 書	日本人の食事摂取基準(2020年版)								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストは採点后、解答や留意点につき説明します。								
留 意 事 項	・学習項目に沿い予習をしておくこと。学んだ内容につき復習すること。 ・専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	・授業の中で紹介、連絡します。								
実 践 的 教 育									

授業名	ライフステージ栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 2, 13 栄養マネジメントと食事摂取基準	(学修内容) 授業の進め方と栄養ケア・マネジメントの定義、 食事摂取基準の基礎について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスと教科書を予習しておくこと。
第2回	1、成長・発達・加齢の概念と栄養	(学修内容) 誕生から成長過程における人体の発達や加齢の概念と、人の成長・発達 ・加齢における影響と栄養について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第3回	3、妊娠期の栄養	(学修内容) 妊娠期における母体・胎児の栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第4回	4、授乳期の栄養	(学修内容) 授乳期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第5回	5、乳児期の栄養	(学修内容) 乳児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第6回	6、幼児期の栄養	(学修内容) 幼児期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第7回	7、学童期の栄養	(学修内容) 学童期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第8回	8、思春期の栄養	(学修内容) 思春期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第9回	9、成人期の栄養	(学修内容) 成人期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第10回	10、更年期の栄養	(学修内容) 更年期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第11回	11、高齢期の栄養	(学修内容) 高齢期における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第12回	12、障がい者と栄養	(学修内容) 障がい者における栄養アセスメントと栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第13回	14、運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動・スポーツ時における生理的特徴と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第14回	15、環境と栄養	(学修内容) ストレス時における栄養ケア、及び特殊環境と栄養ケア (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をしておくこと。 教科書を予習しておくこと。
第15回	まとめと評価(到達度の確認)	(学修内容) まとめと総合評価 (グループワークでまとめを発表する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 全体の復習をしておくこと。

授 業 名	インターンシップ			開 講 学 年	2・3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	新矢 昌昭			対 象 学 生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生・4回生				
授業の概要	夏季休暇中に行う、主に一般企業へのインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される。特に、外部講師による講義や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える								
留 意 事 項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加してもらう場合がある。なお、会社見学や外部講師の講義日については、先方の都合により変更の場合がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室の扉に掲示する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	グループワークの実践	(学修内容) 課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく
第3回	インターンシップとは	(学修内容) インターンシップの概念と方向性 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第4回	会社見学の準備	(学修内容) 会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第5回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第6回	会社見学のまとめ	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	外部講師による講義1回目	(学修内容) 働くこととは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく
第8回	外部講師による講義2回目	(学修内容) 近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動に対する疑問を考えておく
第9回	外部講師による講義3回目	(学修内容) インターンシップは何故するのか (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで何をしたいのか、どこでしたいのかをを考えておく
第10回	インターンシップ先の確認	(学修内容) 就業体験先企業の確認と諸注意 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップに関する必要書類の作成
第11回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先企業分析 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についての資料、情報収集
第12回	インターンシップの事前学習1回目	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第13回	インターンシップの事前学習2回目	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第14回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) インターンシップの心構えと準備 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく
第15回	インターンシップに向けて	(学修内容) インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく

授 業 名	情報処理論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1407
英 文 名	Information Processing			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>コンピュータ及びインターネットの発展に伴い社会生活も大きく変化しつつあります。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人とのコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割や性質について学びます。</p> <p>授業では、現代の情報システムの事例について調べ学習を行い、授業内でプレゼンテーション資料を用いて発表する機会があります。また、レポート提出については原則ポータルサイトのアンケートを用いてやり取りをするので、web活用能力も求められます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 情報処理技術についての基礎的な知識について説明できる</p> <p>2) 情報処理システムの仕組みを理解し、知識を活用できる</p> <p>3) 情報社会の概要とその特徴について説明できる</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	適宜、資料を配布する。								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	発表については、その場で課題や長所について指導する。レポートはgoogleclassroomを行い、その都度に授業内でフィードバックを行います。								
留 意 事 項	カタカナやアルファベットの専門用語が多く出てきますが、できるだけかみ砕いて説明したいと思います。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週木曜日の昼休み								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：神戸親和女子大学 情報教育センター 勤務								

授業名	情報処理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション～コンピュータとは	(学修内容) コンピュータの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) コンピュータとスマートフォンの違いについて発表できるようにする。
第2回	ハードウェアとソフトウェア	(学修内容) コンピュータを構成するパーツとプログラム (事前事後学修課題の内容) (60分) HD、キーボード、ディスプレイとアプリの違いについて発表できるようにする。
第3回	Society 5.0 について考える	(学修内容) 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会の違いを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上記の社会の特徴について発表できるようにする。
第4回	SNSの光と影	(学修内容) SNSの特徴、長所、短所について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) LINE、Instagram、twitterの使い分けについて発表できるようにする。
第5回	ユーザインタフェース	(学修内容) キーボード、タッチパネル、スキャナの違い (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの長所と短所について発表できるようにする。
第6回	コンピュータネットワーク	(学修内容) LAN、WAN、PAN、通信インフラ (事前事後学修課題の内容) (60分) 有線LANと無線LANの違いについて発表できるようにする。
第7回	インターネット	(学修内容) WWWの仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットがなぜ発生したのか、調べてくる。
第8回	データベース	(学修内容) データベースの仕組みと活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活で一番使うデータベースを探し、その特徴を発表できるようにする。
第9回	情報セキュリティ	(学修内容) ウイルス、個人情報保護、暗号化 (事前事後学修課題の内容) (60分) なぜウイルスソフトをインストールしなければならないのか、理由をこたえられるようにする。
第10回	インターネットリテラシー	(学修内容) 情報の真偽、著作権、肖像権 (事前事後学修課題の内容) (60分) SNSのメリットとデメリットを発表できるようにする。
第11回	著作権	(学修内容) 著作権の概要、最新の法改正による事例 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネット上の著作権が侵害された事例を調べ、発表できるようにする。
第12回	IoTの実際	(学修内容) IoT活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) IoT活用されているものを調べ、パワーポイントで資料を作成し、発表できるようにする。
第13回	IoTの実際(2) どのような分野でIoTが進められているのか	(学修内容) IoTについての発表を行い、受講生同志の情報共有を図る (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表を聞いて一番印象に残った発表とその理由をレポートにまとめる。
第14回	高度情報社会の進展	(学修内容) ビッグデータの活用、自動運転システム、スマート家電 (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の社会の情報化はどんな方向に進むのかレポートにまとめる。
第15回	これからの情報社会のゆくえ	(学修内容) まとめ 身の回りの情報機器の変化について考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のもっている情報機器でもっとも進化したものを紹介する。

授 業 名	現代家政学論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1201
英 文 名	Theory of Contemporary Home Economics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>家庭生活と地球環境は密接に関連している。本科目ではその具体的な諸相をとりあげ、将来を展望する。          具体的には、伝統的な社会における人々の生活と自然環境との関係と、現代日本の都市部におけるそれとの対比を通して、日本の各家庭が持続可能な社会の形成に寄与するための方向性を探る。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 環境学の基礎を学び、資源利用への生態学的な視点を身につける。          2) 人類の伝統的な暮らしと自然環境との関係を知り、現代社会と対比して考えることができる。          3) 現代日本において持続可能な社会を目指すための指針をもち、自分で考えられるようになる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	使用しない。毎回プリントを配布する。映像資料もほぼ毎回用いる。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出するコメントからピックアップして翌週に全体で共有する。								
留 意 事 項	毎回のコメントをしっかりと書いてください。質問はそこに併記して構いませんし、メールや直接研究室でも受け付けます。座席は指定します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 環境とは何か	(学修内容) 本科目の進め方、環境について (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	持続的発展の理論形成史	(学修内容) 持続的発展、MSY理論、宇宙船地球号、SDGs (事前事後学修課題の内容) (30分) Sustainable (サステイナブル) という概念について予習しておく
第3回	地球温暖化のメカニズムと社会的影響	(学修内容) 地球温暖化、生態学的な視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地球温暖化について調べておく
第4回	地球温暖化への取り組み	(学修内容) 二酸化炭素排出量、家庭生活 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭生活でできることを考える
第5回	コモンズの悲劇の成立条件と回避条件	(学修内容) コモンズの悲劇 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「共有資源」とは何か調べてくる
第6回	食の問題 日本を中心に	(学修内容) 食料自給率、有機栽培 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本の食の問題について考える
第7回	持続的な環境利用 アフリカ狩猟採集社会	(学修内容) ブッシュマン、ピグミーの暮らし (事前事後学修課題の内容) (30分) 狩猟採集生活について想像する
第8回	人口抑制の制度 東アフリカ牧畜民社会	(学修内容) 牧畜、年齢階梯制 (事前事後学修課題の内容) (30分) 牧畜民の暮らしについて想像する
第9回	焼畑農耕の持続可能性	(学修内容) 焼畑農耕、自然のサイクルと人の営み (事前事後学修課題の内容) (30分) 生態学的に持続可能なモデルを考える
第10回	持続性を支える経済	(学修内容) 分配、交換、使用価値、生業経済、貨幣 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現金で買うことと物々交換との違いを考える
第11回	循環型社会への取り組み	(学修内容) 物質循環、ゴミ問題、リサイクル (事前事後学修課題の内容) (30分) リユース経験のリストを作る
第12回	プラスチックごみと3R	(学修内容) プラスチックごみ問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活から出るプラスチックごみを確認する
第13回	人類社会と自然環境	(学修内容) 汚染、自然保護、現代文明社会の持続可能性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自然のサイクルと人の営みの関係を考える
第14回	SDGsについて 概要と17目標	(学修内容) SDGsの概要、意義、17の目標 (事前事後学修課題の内容) (30分) SDGsの入門動画を視聴しておく
第15回	SDGsについて 内容と実践事例	(学修内容) 学生の関心度に応じていくつかの目標を選択し、解説と実践事例の紹介 (事前事後学修課題の内容) (30分) SDGsの入門動画を視聴しておく

授 業 名	現代家政学論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE1204
英 文 名	Theory of Contemporary Home Economics			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>私たちは多くのモノに囲まれ、これらを消費し、廃棄しながら生活している。こうした生活は、農業中心の社会から産業化社会へと変化し、生産力が向上したことによりもたらされた。</p> <p>本講義では、近現代に大量生産・大量消費社会となり、“便利な生活”がどのように形成されてきたのかを概観する。さらに、これまでの社会と生活の変化をふまえ、現代における生産と消費に関わる課題と今後の方向性について考える。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 近現代の社会の変化を理解できる。</p> <p>2) 産業化による生活の変化を説明できる。</p> <p>3) モノの消費に関わる課題と今後の方向性について考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	使用しない。適宜資料を配付する。								
参 考 書	随時参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	現代家政学論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (20分) (事前) シラバスを読んで、学びの目標を理解する
第2回	近代社会と生活 農村の生活	(学修内容) 近代における農村の生活を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第3回	近代社会と生活 都市の形成	(学修内容) 近代における都市の形成と生活の変化を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第4回	近代社会と生活 百貨店と消費生活	(学修内容) 百貨店の誕生と生活の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第5回	近代社会と生活 衣食住生活	(学修内容) 近代における衣食住生活を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第6回	戦後の生活と生活改善運動	(学修内容) 戦後の生活改善運動について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 生活改善運動について調べておく
第7回	高度経済成長期の生活 産業化の進展	(学修内容) 高度経済成長期における産業化の進展について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 高度経済成長について調べておく
第8回	高度経済成長期の生活 家電製品の普及	(学修内容) 高度経済成長期における家電製品の普及と生活の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第9回	高度経済成長期の生活 衣生活	(学修内容) 高度経済成長期の衣生活について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第10回	高度経済成長期の生活 住生活	(学修内容) 高度経済成長期の住生活について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第11回	グローバル化と生活の変化 グローバル化とは	(学修内容) グローバル化による社会の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) グローバル化について調べておく
第12回	グローバル化と生活の変化 衣生活	(学修内容) グローバル化による衣生活の変化 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第13回	グローバル化と生活の変化 食生活	(学修内容) グローバル化による食生活の変化 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んでおく
第14回	グローバル化と生活の変化 消費と廃棄	(学修内容) 大量消費と廃棄の問題について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 廃棄の問題について調べておく
第15回	現代生活の課題と今後	(学修内容) 生産と消費に関わる課題とこれからの生活のあり方を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) これまでの授業内容を振り返る

授業名	生活構造論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2206
英文名	Theory of Living Structure			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	流石 智子			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>私達は、家族、地域、社会の中で生活を営んでいる。生活の基盤となっているものは何かを把握する。また、生活の基盤は私達の生活でどのような関係性をもちながら、生活に活かされているかを具体的に考えてみる。</p> <p>私達の現在の生活、将来の生活に直結している社会の問題を様々な分野から取り上げ、理解を深め、その課題についても考察をする。</p>								
学修成果到達目標	<p>私達の生活を取り巻く日本の社会の仕組み、身近な法制度の現状と課題を理解することができる。</p> <p>人々の生活を豊かにするために良い社会環境、法制度・社会福祉制度は、人々の努力を結集してつくられてきていること、科学技術の進歩が大きく寄与していることを理解することができる。</p> <p>S D G s ( 持続可能な開発目標 ) , ジェンダーフリー等国際的な動きと私たちの生活の関係を理解することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	プリントを配布して、それを中心に授業をすすめる。								
参考書	『人間生活の理論と構造』(学文社)等、授業時に紹介する。*参考内容:Society 5.0で目指すべき人間中心の社会では、利便性や効率性の実現を主目的とするのではなく、デジタル技術・データを使いながら、人間が人ならではの多様な想像力や創造力を発揮して、社会を共に創造していくことが重要であると考えられる。これからの社会を、どう生きるか。どのように生活するかを、この授業で理解できることを期待する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートの返却時に、コメント等を伝える。								
留意事項	2回の課題レポート提出を予定している。平常試験であるので、必ず提出する。平常試験のレポートは評価全体の20%である。								
オフィスアワー	演習室に掲示する。研究室に在室していれば対応する。事前にGメールで連絡をすると、日時の調整をする。								
実践的教育									

授業名	生活構造論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 私達の生活と社会環境、自然環境	(学修内容)生活構造論について 私達の生活の基盤となるもの：インフラ、法制度、社会の仕組み、家族、自然環境 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)生活とはどのようなものか事前に調べる
第2回	家族(家庭)で営まれる生活	(学修内容)家族とは何か、日本の家族の特性、家族の変化 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)家族の営みについて調べる
第3回	婚姻と離婚後の女性の権利	(学修内容)夫婦別姓問題についての最高裁判所判断 民法改正に向けて、嫡出子問題、親の懲戒権削除 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事後)「夫婦別姓問題について」レポート にまとめて、次回の授業に提出する。800字程度。
第4回	A I ・ I T 社会、職業の多様化と生活	(学修内容)ハイテク技術と生活、エッセンシャルワーク、テレワーク 派遣労働、男女共同参画社会 (事前事後学修課題の内容)(45分) のレポート提出日。(事前)エッセンシャルワーカーについて調べる。
第5回	家事、育児の外部化と生活	(学修内容)家事、育児の外部化のプラス面と課題 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)外部化された家事について、どのように考えるかをまとめる。
第6回	家計収支と貧困問題	(学修内容)エンゲルの法則、日本の世帯の標準収入、自治体の取り組み (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)自分の食費を整理してみる。どのようなことがわかったか。
第7回	教育、学びの環境と教育格差	(学修内容)日本の教育の到達点、P I S A 学力国際比較、教育格差の現状、社会的損失 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)日本の教育について、考えることをまとめる。
第8回	ネット社会とマスコミ	(学修内容)マスコミの特性、ネット社会が変えたもの、メディアリテラシー (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)スマートフォンは、生活にどのような役割を果たしているかを考える。
第9回	デジタル教科書と子ども	(学修内容)子どもの思考発達とデジタル教科書の課題 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)教科書の思い出について、(小学校、中学校、高校)考える。
第10回	日本の年金制度と生活	(学修内容)年金制度の現状と課題、老後の生活、高齢化社会の課題 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)年金について、自分の考えをまとめる。
第11回	医療と国民生活 国民皆保険、介護保険制度と生活	(学修内容)世界に秀でた国民皆保険制度、医療技術高度化、介護保険制度の現状と課題 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)日本の医療について、どのように思うか考える。
第12回	生活と貧困、もし貧困に陥ったら。	(学修内容)生活保護制度の現状、課題 (事前事後学修課題の内容)(45分) (事後)「生活保護制度」について、自分の考え、思うところをレポート に論述する。800字程度。
第13回	S D G s (持続可能な開発目標)について	(学修内容)S D G s の意味、内容。何故国際的な目標なのか (事前事後学修課題の内容)(30分) レポート の提出日。(事前)S D G s にかかわると思われることを、自分で意識して行っているかをまとめる。
第14回	S D G s の実践例	(学修内容)S D G s : 諸外国の取り組み、日本の取り組みから (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)S D G s : 日本で行っていることを調べる。
第15回	まとめ ソサエティ5.0とはこれからの社会と生活	(学修内容)Society5.0で目指すべき人間中心の社会とは・デジタル技術と人間の多様な想像力、創造力の調和・社会課題の解決と価値の創造 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)これから自分はどのような生活をしたいか。どんな社会にしたいかをまとめる。

授 業 名	ライフデザイン論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2210
英 文 名	Theory of Life Design			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	必修		
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	現在、少子高齢化やグローバル化した経済の変化といった社会変動が生じている。一昨年来のコロナ感染も社会変動の大きな要因となっている。それに伴い、家族や個人の生活も変化しつつある。これまで一般的とされてきたライフコースも多様化し、個人の中での家族・職業の位置づけ方も再編成していかなければならない。本講義では、「ワーク・ライフ・バランス」、「ジェンダー」などの視点を含めながら、自分自身のライフデザインを新しい社会構築を含め考えていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の女性と男性のさまざまなライフコースの実態を知ることができる。 2) 自分自身のライフデザインを描くことができるようになる。 3) 社会的な課題を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	適宜資料を配布する。								
参 考 書	『ライフストーリー分析—質的調査入門』大久保孝治(学文社)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『育児は仕事の役に立つ』浜屋祐子ほか編(光文社新書)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)、『未来をひらく男女共同参画』西岡正子編(ミネルヴァ書房)、『仕事と家族』筒井淳也(中公新書)、『「家族の幸せ」の経済学』山口慎太郎(光文社新書)、その他適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーに対して、コメントする プレゼンテーションに対して、コメントする								
留 意 事 項	講義だけでなく半期間で大きな課題(インタビュー調査)に挑戦するので、積極的な取り組みが必要である。また、授業内容は、状況に合わせて順序を変更することがある。								
オフィスパワー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスパワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスパワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 登録研究員								

授 業 名		ライフデザイン論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業全体の内容を把握しておく
第2回	インタビュー調査の概要	(学修内容) インタビュー調査の概要について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第3回	インタビュー調査の方法	(学修内容) インタビューの方法について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第4回	社会変動と人生：ライフコースの変化	(学修内容) ライフコースとは何かを学び、その変動を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第5回	社会変動と人生：高度経済成長期の人生	(学修内容) ライフコースと社会変動の関連性についてビデオを用いながら学び、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第6回	女性と就労：事例からみる実態	(学修内容) 日本女性の就労の実態について、理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な女性の就労状況を調べておく
第7回	女性の就労状況と課題	(学修内容) 日本女性の就労の実態について統計資料から理解し、課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第8回	結婚・出産	(学修内容) 結婚・出産の現状を把握し、課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第9回	インタビュー調査の実施とケース報告書作成	(学修内容) インタビューの実施と、データの整理をする (事前事後学修課題の内容) (180分) インタビューを実施し、データの文字お越しをして発表の準備しておく
第10回	子育てとワーク・ライフ・バランス	(学修内容) 子育てと就労や他の生活とのバランスの実態と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ワーク・ライフ・バランスについて復習しておく
第11回	ケーススタディ1：インタビュー調査結果についてのグループワーク	(学修内容) グループワークを行うことにより、多くのインタビュー調査の結果を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備しておく
第12回	ライフデザインと政策：外国におけるライフコースと政策	(学修内容) 外国の仕事と家庭生活を支える政策について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布資料を読んでおく
第13回	ライフデザインと政策：外国におけるワーク・ライフ・バランスの実態	(学修内容) 外国のケースを例に考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをしておく
第14回	ケーススタディ2：さまざまな人々の生活実態	(学修内容) 実施されたインタビュー調査から選ばれたケースを、全体に対してプレゼンテーションしてもらう (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをし、発表者は発表の準備しておく
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間のまとめをしておく

授 業 名	現代家政学演習 s a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	社会学の入門書を輪読することにより、読む力とまとめる力を付ける。また、地域のさまざまな取り組みから1つを選び、調べてまとめたものをパワーポイントで発表する。毎回の発表と討論を通じて、視野を広げ、考える力をつける。個人研究のテーマを考えながら、地域が抱えている現代的課題について学ぶ。発表担当者は発表資料を必ず事前に提出する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 学術的な入門書を読み解き、まとめることができる。 2) 社会的な視点から現代的課題を説明することができる。 3) 適切な方法を用いた調査研究計画を立案することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	ケイン樹里安・上原健太郎 編著 『ふれる社会学』北樹出版 2019年								
参 考 書	寛裕介 監修、issue + design project 著 『地域を変えるデザイン』英治出版 2011年 篠原清夫・栗田真樹 編著 『大学生のための社会学入門』晃洋書房 2016年 筒井淳也・前田泰樹 著 『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣 2017年								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする								
留 意 事 項	課題には真摯に取り組んでください。夏休み中に個人研究を進めてもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 sa	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介、担当者決め	(学修内容)オリエンテーション、輪読の担当者決め (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスとテキストの「はじめに」を読んでおく
第2回	・社会学とは何か ・社会を観察する方法	(学修内容)レジュメの作り方、社会学の基礎 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第3回	・スマホにふれる ・飯テロにふれる ・就活にふれる	(学修内容)第1章・第2章・第3章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1章・第2章・第3章を読んでおく
第4回	・労働にふれる ・観光にふれる ・スニーカーにふれる	(学修内容)第4章・第5章・第6章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第4章・第5章・第6章を読んでおく
第5回	・よさこいにふれる ・身体にふれる ・レインボーにふれる	(学修内容)第7章・第8章・第9章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章・第8章・第9章を読んでおく
第6回	・「外国につながる子ども」にふれる ・「ハーフ」にふれる ・差別感情にふれる	(学修内容)第10章・第11章・第12章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章・第11章・第12章を読んでおく
第7回	・「障害」にふれる ・「魂」にふれる ・100年前の社会学にふれる	(学修内容)第13章・第14章・第15章 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第13章・第14章・第15章を読んでおく
第8回	・学ぶ/教える 地域での取り組み事例紹介の準備	(学修内容)教育社会学の基礎 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第9回	・変容する家族のかたち ・「格差」の社会学 地域の取り組み(見本)	(学修内容)家族と格差について、事例研究の例 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読んでおく
第10回	地域の取り組み1	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第11回	地域の取り組み2	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第12回	地域の取り組み3	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第13回	地域の取り組み4	(学修内容)調べ学習の発表(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当者は発表準備・他は資料を読んでおく
第14回	論文検索	(学修内容)参考文献(論文)の見つけ方 (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究のテーマを考えてくる
第15回	研究テーマと調査方法	(学修内容)個人研究のテーマ・方法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 研究テーマと調査方法を具体的に考えてくる

授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学では、生活に関わる課題を取りあげ、現状や解決の方向性を探究することが重要である。本演習では、テーマを設定し、資料を集め、考えをまとめて発表し、ディスカッションを行う。ディスカッションを行うことにより多様な視点、考え方があることを学ぶ。さらに、ディスカッションを踏まえて、課題に関するレポートをまとめる。								
学修成果到達目標	1. 現代家政学で取り組む課題を認識することができる。 2. 課題に対して人の意見を聞き、多様な視点があることを理解できる。 3. 課題に対して自分の考えをまとめて説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	適宜資料を配付する。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	主体的に取り組むことが重要。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方の説明 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読み、課題について考える
第2回	生活に関わる課題について考える	(学修内容) 生活を取り巻く課題について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 現代生活における課題について考えてくる
第3回	課題に対する記事を読む	(学修内容) 課題に関する記事を読み、自分の意見をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 記事を検索する
第4回	発表とディスカッション：Aグループ	(学修内容) 発表とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成
第5回	発表とディスカッション：Bグループ	(学修内容) 発表とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作りと発表準備
第6回	発表とディスカッション：Cグループ	(学修内容) 発表とディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作りと発表準備
第7回	発表の総括	(学修内容) 発表を総括し次の課題を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料を見直す
第8回	課題に対する資料を収集する	(学修内容) 課題を設定し、資料を収集する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える
第9回	課題に関する資料 を読む	(学修内容) 資料 を読み、自分の考えをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読む
第10回	課題に関する資料 を読む	(学修内容) 資料 を読み、自分の考えをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読む
第11回	発表準備	(学修内容) 発表の準備と資料作り (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読む
第12回	発表：1回目	(学修内容) 資料の内容を解説し、自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表レジュメの作成
第13回	発表：2回目	(学修内容) 資料の内容を解説し、自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表レジュメの作成
第14回	発表：3回目	(学修内容) 資料の内容を解説し、自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表レジュメの作成
第15回	総括	(学修内容) まとめとレポート課題の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの資料を整理する

授業名	現代家政学演習 SC			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2207
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>「社会の変化と教育の課題」を考え、その中から興味あるテーマを決め、取り組まれている事例を文献で調べたり、フィールドワークなどをおこなったりして調査研究を進め、結果や考察をまとめてパワーポイントで発表する。発表や討論を通して、多様な視点があることを学び視野を広げ、考える力をつける。</p>								
学修成果到達目標	<p>1)「社会の変化と教育の課題」を認識することができる。  2)自分の研究テーマに沿った調査研究の計画を立案し、進めることができる。  3)発表や討論を通して、自分の考えをまとめることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	適時 関連するものを用意して、配布								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適時アドバイスする。								
留意事項	課題に対して、自ら進んで積極的に取り組む。								
オフィスアワー	毎週1回設定								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実際経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭  京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭  京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長  京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与</p>								

授業名	現代家政学演習 SC	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(学修内容) 春学期の授業の進め方 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み、課題を考えておく
第2回	教育の課題について考える	(学修内容) 教育の今日的課題を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んで調べておく
第3回	課題別のグループを決める	(学修内容) グループ別に資料を収集し読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付した資料を読み、まとめておく
第4回	課題に対する資料収集をする フィールドワークについて	(学修内容) 課題に対する資料を収集し読む フィールドワークの仕方やまとめ方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題に対する資料を読む
第5回	産学公連携施設の調査研究	(学修内容) 産学公連携施設「京都まなびの街生き方探究館」の調査研究をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 調査研究結果を整理しまとめておく
第6回	調査研究結果を、グループで議論し意見を集約する	(学修内容) 調査研究でまとめた内容を、グループで議論し意見を集約する (事前事後学修課題の内容) (30分) 調査研究結果を整理しまとめておく
第7回	グループ発表の準備	(学修内容) グループワークの成果をPowerPointで作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料をまとめておく
第8回	グループ発表とディスカッション(1)	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめておく
第9回	グループ発表とディスカッション(2)	(学修内容) グループワークの成果をプレゼンテーションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の意見をまとめておく
第10回	個人研究のテーマの選定と研究方法	(学修内容) 個人研究のテーマを設定し研究方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究テーマを考えてくる
第11回	個人研究のテーマに対する文献資料を収集する	(学修内容) 個人テーマに対する文献を検索し資料を収集する (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献や資料を読む
第12回	発表準備	(学修内容) 研究の内容や自分の意見をまとめ、PowerPointで作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 考えをまとめてくる
第13回	個人発表(1)	(学修内容) 個人研究の成果を発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表者は発表準備、他の人は資料を読んでおくこと
第14回	個人発表(2)	(学修内容) 個人研究の成果を発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表者は発表準備、他の人は資料を読んでおくこと
第15回	春学期の総括 秋学期の研究テーマと調査方法	(学修内容) 春学期の総括 秋学期の研究テーマと調査方法 (事前事後学修課題の内容) (30分) 研究テーマと調査方法を具体的に考えてくる

授 業 名	現代家政学演習 s a			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2211
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生が自身の興味関心に基づいてより個別的・具体的なテーマを定め、深く調査研究をすすめる。自身の調査テーマが、現代日本社会においてどのように位置づけられるのかについて文献などから学び、個人研究を相対化するための視座をもつ。春学期と同様に、地域の取り組みを題材にした調べ学習も行う。地域社会・コミュニティを素材にして現場取材と発表と討論を重ね、調査研究の基礎を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調査研究の手法や論文へのまとめ方について、基本的なことを身につけることができる。 2) 自身や他の学生たちの発表を通して調査研究の実際について実践的に学ぶことができる。 3) 参考文献や現場取材などを通して視野を広げることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	学生の発表そのものが全員の学びのための教材になります。しっかりした準備と活発な発言を心がけてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		現代家政学演習 s a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	夏休みの成果報告	(学修内容)夏休み中に行った取材や読んだ論文、テーマの再検討などについて報告 (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告準備	
第2回	発表資料の作り方	(学修内容)発表資料の作り方について (事前事後学修課題の内容)(30分) 個人研究の概要を話す用意をしておく	
第3回	文献発表 1	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第4回	文献発表 2	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第5回	文献発表 3	(学修内容)読んだ論文の内容をプレゼンする (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (Word資料提出)	
第6回	パソコンでの資料作成	(学修内容)地図やExcelの図表を発表資料に用いる (事前事後学修課題の内容)(60分) 個人研究のデータを整理して持ってくる	
第7回	調査研究発表 1 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第8回	調査研究発表 1 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第9回	調査研究発表 1 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第10回	調査研究発表 1 ? 4	(学修内容)学生の調査研究発表 1 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第11回	PowerPointとWordによる成果物制作の実践	(学修内容)プレゼン内容をレポート文書に仕上げる (事前事後学修課題の内容)(60分) 資料やデータを用意して持ってくる	
第12回	調査研究発表 2 - 1	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第13回	調査研究発表 2 - 2	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第14回	調査研究発表 2 - 3	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	
第15回	調査研究発表 2 ? 4	(学修内容)学生の調査研究発表 2 回目 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表準備 (PowerPoint提出)	

授 業 名	現代家政学演習 ta・tb			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2211
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	富安 広幸・猿渡 綾子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	春学期での学びを踏まえて、個人で研究発表を行う。各自で興味関心のあるテーマを決め、先行研究を収集し、レジユメを作り、プレゼンテーションを行う。先行研究を学ぶことにより、研究方法、分析、考察などの論文の構成やまとめ方について学ぶことを目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) テーマに適した論文の収集ができる。 2) プレゼンテーション・コミュニケーション能力を高め、人を納得させる話ができる。 3) 論文の構成について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	必要に応じてプリントを配布								
参 考 書	・西川真理子 著 「栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック」化学同人2016 ・導入教育(信頼される専門職となるために)最新版 特定非営利活動法人 栄養改善学会 監修 伊達ちぐさ 他編 適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物はコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	積極的に個人研究や食育活動に取り組む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認してください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		現代家政学演習 ta・tb
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 現代家政学演習 の進め方の確認  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、まとめる。
第2回	個人プレゼンテーション1 - 1 (全体の前半1/3名が発表)	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考えまとめる。
第3回	個人プレゼンテーション1 - 2 (全体の中間1/3名が発表)	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考えまとめる。
第4回	個人プレゼンテーション1 - 3 (全体の後半1/3名が発表)	(学修内容) 春学期の振り返りの個人別プレゼンテーション  (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの準備 プレゼンに対するコメントへの対応策を考えまとめる。
第5回	現代社会における食の問題1 (現場の管理栄養士の視点から)	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 聞いた話をメモし内容を整理してレポートにする。
第6回	現代社会における食の問題2 (生活者の視点から)	(学修内容) 現代社会に存在する食の問題について多角的にとらえる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 視点を変えてみたときの問題点の違いについてまとめておく。
第7回	研究テーマの決め方	(学修内容) 研究テーマを決める方法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究テーマについて考えまとめておく。
第8回	研究資料収集について	(学修内容) 研究テーマに関連する資料収集の手法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 決定したテーマについての資料を検索する。
第9回	個人研究の発表テーマの決定	(学修内容) 研究テーマを決定し選択理由の発表  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が選んだ理由について簡潔にまとめておく。 他の人のテーマや選択した理由など他の人の視点について考えてみる。
第10回	個人研究のテーマに関する先行研究の収集	(学修内容) 先行研究の収集および閱讀について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を収集し読み、ポイントをまとめる。
第11回	個人研究の発表準備	(学修内容) 発表資料を作る  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の方法を考え資料準備をする。
第12回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 1 (全体の前半1/3名が発表)	(学修内容) 個人研究の発表 (グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 他の人の話の要点をまとめてみる。
第13回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 2 (全体の中間1/3名が発表)	(学修内容) 個人研究の発表 (グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 他の人の話の要点をまとめてみる。
第14回	個人研究のプレゼンテーションと意見交換1 - 3 (全体の後半1/3名が発表)	(学修内容) 個人研究の発表 (グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備 他の人の話の要点をまとめてみる。
第15回	秋学期到達度確認・次年度の取り組みについて	(学修内容) 秋学期の振り返りと次年度の取り組み  (事前事後学修課題の内容) (60分) 次年度に向けての課題を考えまとめておく。

授業名	現代家政学演習 s b			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 での考察をふまえ、各自が秋学期に取り組む課題を設定し、図書や論文を読み、考えをまとめて発表、ディスカッションを行う。課題に関する先行研究を読むことにより、論文の内容構成、書き方を理解する。一つの課題に主体的に取り組むことにより、問題意識を高め、卒論での研究テーマの設定につなげる。								
学修成果到達目標	1. 課題に関する文献を読み、理解することができる。 2. 自分の意見をまとめてプレゼンテーションすることができる。 3. 論文の構成を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	適宜資料を配付する。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	主体的に取り組むことが重要。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。 ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授 業 名		現代家政学演習 s b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	課題設定	(学修内容) 課題を決め、文献を検索する (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える
第3回	課題の発表	(学修内容) 探究したい課題内容と文献の紹介 (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献を読む
第4回	課題に関する文献を読む	(学修内容) 文献を読み、自分の意見をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 文献を読む
第5回	発表資料の作成	(学修内容) 発表内容を考え、資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表内容を考える
第6回	発表1: Aグループ	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第7回	発表1: Bグループ	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第8回	発表1: Cグループ	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第9回	論文検索	(学修内容) 課題に関する論文検索 (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文の検索
第10回	論文を読む	(学修内容) 課題に関する論文を読む (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文を読む
第11回	発表資料作成	(学修内容) 論文内容をまとめて資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) 論文内容をまとめる
第12回	発表2: Aグループ	(学修内容) 論文内容を説明し自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第13回	発表2: Bグループ	(学修内容) 論文内容を説明し自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第14回	発表2: Cグループ	(学修内容) 論文内容を説明し自分の意見を発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表資料の作成
第15回	総括	(学修内容) 意見交換と総括 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの資料を整理する

授業名	現代家政学演習 S C			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2211
英文名	Contemporary Home Economics Seminar			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	現代家政学演習 をふまえて、学生各自が自分の興味関心のあるテーマを設定し、それに関する文献資料やデータを収集し、また、必要に応じてフィールドワークを行い、より深く調査研究を推進する。調査研究結果をプレゼンテーションとディスカッションを行い、考えを深めレポートにまとめる。								
学修成果到達目標	1) 調査研究の方法やレポートのまとめ方について、基本的なことを身につけることができる。 2) 発表の場を通して、自分の考えをわかりやすくプレゼンテーションすることができる。 3) 参考文献や現場取材などを通して視野を広げることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	適時 関連するものを用意して配付								
参考書	特になし								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適時アドバイスする。								
留意事項	各自の発表は、全員の大切な学びの教材です。ゆとりを持って準備を行い、活発な意見交換を期待します。								
オフィスアワー	毎週1回設定								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与								

授 業 名		現代家政学演習 S C
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏休み中の研究成果について報告	(学修内容) 秋学期の授業の進め方 夏休み中の研究成果について報告 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告準備
第2回	調査研究経過報告資料の作成	(学修内容) 調査研究経過報告資料の作成について (事前事後学修課題の内容) (60分) 個人研究の概要の発表準備
第3回	調査研究経過報告 A - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第4回	調査研究経過報告 B - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第5回	調査研究経過報告 C - 1	(学修内容) 調査研究経過報告 1 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第6回	小学校の校内研究会の調査研究	(学修内容) 小学校の校内研究会に参加し調査研究をする (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの仕方やまとめ方を考えておく
第7回	調査資料作成	(学修内容) 発表用資料をパソコンで作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究のデータを整理しておく
第8回	調査研究経過報告 A - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第9回	調査研究経過報告 B - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第10回	調査研究経過報告 C - 2	(学修内容) 調査研究経過報告 2 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (Word 資料提出)
第11回	調査研究経過報告 A - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第12回	調査研究経過報告 B - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第13回	調査研究経過報告 C - 3	(学修内容) 調査研究経過報告 3 回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint 提出)
第14回	調査研究発表会まとめ (1)	(学修内容) 調査研究発表会まとめ (1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint・Word 資料提出)
第15回	調査研究発表会まとめ (2)	(学修内容) 調査研究発表会まとめ (2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備 (PowerPoint・Word 資料提出)

授 業 名	文献講読 a			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>取り上げるテキストは、そもそも結婚とは何か、なぜ結婚をする必要があるのかといったことを問い直し、結婚の正体を考察しています。著者は、今の日本は「結婚困難社会」であるとし、欧米の結婚のかたちと日本の結婚のかたちを比較し、戦後に作り上げた強固な日本人の意識を明らかにしていきます。また、日本社会の現状を考察していくことを通して、結婚困難を克服するヒントめいたものを示しています。</p> <p>テキストの講読を通して、話の筋道のたてかたとともに、データの見方についても、勉強していきます。授業では、毎回、話をまとめる練習として、要約の実践を進めていき、グループでディスカッションやプレゼンをします。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 文献内容を理解し、説明することができる。  2) 自分が理解したこと、疑問に思ったことを説明することができる。  3) 問題意識を持ち、さらにそれを深めることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	山田昌弘2021年『新型格差社会』朝日新書								
参 考 書	授業で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対して、評価基準の具体的な内容を授業内あるいはメールにて解説します。								
留 意 事 項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実践的教育									

授業名	文献講読 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業進め方。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。
第2回	文献の「読み方」	(学修内容) 文献の読み方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で紹介する作者の講演会の動画をみた上で、「はじめに」を読んでくる。
第3回	要約について	(学修内容) 実際に要約を試みる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 再び、「はじめに」を読み、大事なところに線を引いてくる。
第4回	家族格差 --震災以上のコロナ禍の衝撃	(学修内容) 家族におけるコロナ禍の衝撃について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP15-38を読む。
第5回	家族格差 --家族における格差について	(学修内容) 家族における格差について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP38-53を読む。
第6回	教育格差 --学習格差・教育力の差	(学修内容) 学習格差・教育力の差について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP55-68を読む。
第7回	教育格差 --親の格差	(学修内容) 親の格差について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP68-85を読む。
第8回	仕事格差 --エッセンシャルワーカーとリモートワーカー	(学修内容) エッセンシャルワーカーとリモートワーカーについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP87-104を読む。
第9回	仕事格差 --リモートワークの弊害	(学修内容) リモートワークの弊害について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP99-116を読む。
第10回	地域格差 --地域格差の広がり	(学修内容) 地域格差の広がりについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP118-134を読む。
第11回	地域格差 --地域コミュニティ	(学修内容) 地域コミュニティのありかたについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP135-152を読む。
第12回	地域格差 --パラサイトシングル	(学修内容) パラサイトシングルのありかたについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP152-170を読む。
第13回	消費格差 --豊かさの変化	(学修内容) 豊かさの変化について要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP172-182を読む。
第14回	消費格差 --個人消費	(学修内容) 個人消費のありかたについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP183-189を読む。
第15回	まとめ：令和の格差のゆくえ	(学修内容) 令和の格差のゆくえについて要約する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「おわりに」を読む。

授 業 名	文献講読 b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	盧 珠妍			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>「子ども」という存在について私たちはどのように理解しているのか。取り上げるテキストは、様々なメディア世界が開く子どもの生命世界について人間学、現象学の観点から論じている。「遊び」「身体」「体験」「表現」「生命」といったキーワードはそれぞれ子どもをめぐる諸問題とどのように結び合うのか。本書は、子どもに関心を持つ読者に、様々な面から有益な示唆を与えるものである。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 文献を正確にかつ批判的に読む力をつける。  2) 本テキストの講読を通して、教育学のみならず他の芸術、文化、思想、社会へと関心領域を拡げる。  3) 理論的・実証的に検討することを通して、「子ども」という存在についての考察が深まる。  4) レジュメにまとめたものを発表し、質疑応答を通して、自分の学びを他者と共有する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	矢野智司『幼児理解の現象学 メディアが開く子どもの生命世界』萌文書林、2014年								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	発表の都度、アドバイスする。								
留 意 事 項	テキストを精読し、著者が書いていることを正確に理解した上で、自分なりに考察すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	文献講読 b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明し、担当を決める。  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの目次に目を通し、全体の流れを把握しておく。
第2回	テキストの概要	(学修内容) テキストの内容を概略つかむ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストのキーワードについて調べておく。
第3回	子ども理解の臨界点と生命論的転回	(学修内容) テキスト序章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト序章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第4回	生命論とメディア身体の教育学(1)	(学修内容) テキスト第1章、第1～3節について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第1章、第1～3章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第5回	生命論とメディア身体の教育学(2)	(学修内容) テキスト第1章、第4～6節について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第1章、第4～6節を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第6回	健康領域論：運動体験がもたらす世界の転回	(学修内容) テキスト第2章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第2章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第7回	言語領域論：子どもに世界を開く言葉の力	(学修内容) テキスト第3章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第3章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第8回	表現領域論：メディアが開く子どもの表現世界	(学修内容) テキスト第4章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第4章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第9回	人間関係領域論：子どもが集団遊びのなかで作るメディア	(学修内容) テキスト第5章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第5章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第10回	環境領域論：子どもが動物と出会うことの畏れと喜び	(学修内容) テキスト第6章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第6章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第11回	生命の子どもとメディア変容	(学修内容) テキスト第7章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第7章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第12回	子どもの悪の体験と自己の変容	(学修内容) テキスト第8章について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第8章を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第13回	メディアが開く生命の幼児教育(1)	(学修内容) テキスト第9章、第1～2節について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第9章、第1～2節を読み、授業終了後はその内容についてさらに吟味する。
第14回	メディアが開く生命の幼児教育(2)	(学修内容) テキスト第9章、第3～4節について考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキスト第9章、第3～4節を読み、授業後はその内容についてさらに吟味する。
第15回	まとめと考察	(学修内容) テキスト全体についてまとめ、考察する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストを通して何を学んだかをまとめておく。

授 業 名	文献講読 c・d			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE3214
英 文 名	Literature Reading			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	豊原 容子・根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	文献を精読し、内容についてディスカッションすることにより、汎用な読解力を養う。また、自らがもつ疑問がどこまで明らかにされており、残されている課題がどこにあるのかについて考えていく力をつけていくことを目指す。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 図表を正しく読み取ることができる 2) 文献内容を理解し説明することができる 3) 問題点を明確にしていくことができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的思考能力)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	プリントを使用。各自で文献をプリントアウトして用意してもらうこともあります。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	文献を適切に読みこなすことができているか、コメントを付けて返却するとともに解説を行う。								
留 意 事 項	しっかりと自分で読んでいくことが大切ですので、授業時間中、ランダムに指名し質問をしていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	掲示にてお知らせします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方と資料についての説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく	
第2回	文献を読むための基礎 1 資料の検索方法	(学修内容) 自分の求める資料の検索方法について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の興味ある事柄について、キーワードを考えておく	
第3回	文献を読むための基礎 2 図表の読み方	(学修内容) 図表から読み取れることについてまとめ文章化する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 宿題に出された資料に目を通しておく	
第4回	文献を読むための基礎 3 統計について	(学修内容) 文献によく用いられる検定法等について理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 与えられた統計に関する基本事項に関する資料に目を通しておく	
第5回	論文を読む 和文論文 1 - 1 要旨について	(学修内容) 論文の輪読を通して、要旨、緒言から内容の概略について理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 論文に目を通し、わからない語句について調べておく でてくる参考文献についても調べておく	
第6回	論文を読む 和文論文 1 - 2 方法について	(学修内容) 論文の輪読を通して、研究方法について理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 行われている方法や測定事項について、何を明らかにするのかについて調べておく	
第7回	論文を読む 和文論文 1 - 3 データについて	(学修内容) 論文の輪読を通して、図表を読み取り明らかになったことについて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 図表に目を通しておく	
第8回	論文を読む 和文論文 1 - 4 考察	(学修内容) 論文の輪読を通して、この研究で明らかになったこと、問題点などをまとめていく (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を復習しておくこと	
第9回	白書を読む 1 令和3年食育白書 食育推進施策の基本的枠組み	(学修内容) 食育白書の位置づけについて理解する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 各年の白書の構成について目を通しておく	
第10回	白書を読む 2 令和3年食育白書 食育推進施策をめぐる状況	(学修内容) 白書の輪読・ディスカッションを通して白書に書かれた問題点を理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) わからない語句について調べておく	
第11回	白書を読む 3 令和3年食育白書 具体的取組について	(学修内容) 白書の輪読・ディスカッションを通してデータの意味について理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 白書中の図表に目を通しておく 理解できない語句を調べておく	
第12回	白書を読む 4 令和3年食育白書 目標と現状に関する評価	(学修内容) 論文の輪読・ディスカッションを通してデータの意味について理解していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 白書中の図表に目を通しておく 理解できない語句を調べておく	
第13回	英文論文の検索	(学修内容) 英文の文献検索の方法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のある事柄についてのキーワードを考えておく	
第14回	英文論文を読む	(学修内容) 自分の興味のある英文文献を読んで理解し、発表する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 選んだ論文の要旨を読んでおく	
第15回	まとめ	(学修内容) 文献の読み方について復習する  (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの文献講読でわからなかったことについてまとめておく	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s g			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之・西川 由紀子・馬場 まみ・山川 宏和・ 湯浅 俊郎・柿本 真代			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	3回生秋学期には、3回春学期の学習を踏まえて、先行研究や関連資料を収集し、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について学び把握する。ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して、卒業研究のテーマを確定する。同時に、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 対 象 業 務	1) 卒業研究テーマとして取り上げる自身の関心領域についてどのような面から分析し、考察を進めていくのかを明確に記述、説明することができる。 2) 卒業研究テーマを自ら決定し、何をどこまで、どのような方法で明らかにするのか、研究目的と研究方法を決定することができる。 3) 学士論文としてふさわしい卒業研究論文を完成させるための分析考察方法、結果のまとめ方などを身につけることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、内容に対してコメントをつけます。レポート、論文に関して、個別指導を行います。								
留 意 事 項	3回生春学期の学習を通して興味関心の幅を広げるとともに、積極的に先行研究や関連資料にあたる。3回生春学期に卒業演習プレゼミを実施することもある。 研究テーマにかかわる事象や事例に興味関心を持ち、意見交換・考察・討議する習慣をもつ。 主体的積極的に研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスパワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s g	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	3 回生秋学期ガイダンス 自己紹介、研究テーマの紹介、プレゼミ課題・夏期課題の提出	(学修内容) 3 回秋から 4 回秋のスケジュール、卒業論文作成要項、3 回秋ゼミの進め方の確認。プレゼミ課題・夏期課題提出。研究発表日程等を決める。 (事前事後学修課題の内容) (90分) プレゼミ課題・夏期課題の提出
第2回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第3回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第4回	研究発表 1 - (研究テーマ・問題意識・研究概要)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第5回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第6回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第7回	個別指導(面談) 1 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第8回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第9回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第10回	研究発表 2 - (先行研究・資料の研究)	(学修内容) 研究発表・質疑応答・討論(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第12回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第13回	個別指導(面談) 2 - (研究進捗状況の確認と検討)	(学修内容) 面談予定者は、研究進捗状況報告レポートを作成して面談時に提出 (事前事後学修課題の内容) (90分) 面談資料持参(ゼミ担当分 1部; 自外用 1部)
第14回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第15回	研究発表 3 - (研究テーマの確定)(3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握)	(学修内容) 研究テーマの確定・3 回生秋学期の振り返り・今後の課題の把握(発表者はレジュメ配布・発表) (事前事後学修課題の内容) (90分) 発表者: レジュメ配布準備・討論テーマ準備

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t f			開 講 学 年	3回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	坂本 裕子・豊原 容子・塩田 二三子・富安 広幸・ 根岸 裕子・林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	3回生秋学期の卒業演習（卒論ゼミ）では、卒業論文のテーマを決めるために、関心が高い分野の先行研究や関連資料を収集して、課題を整理し、研究方法、調査法、分析法、結果の出し方と考察法を学んでいく。ゼミの中で、関連文献を紹介し、意見交換し、卒論研究のテーマを絞っていく。課題探究力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 先行研究から学び、明らかにしたい課題を絞っていき、卒業研究テーマを自ら決定することができる。 2) 研究目的を明らかにし、そのための研究方法を検討し、決めていくことができる。 3) 様々な情報をもとに、論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的思考ができる)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	3回生春学期までの学習を通して、関心の幅を広げて、卒論研究のテーマを自ら決定できるよう、関連の先行研究や資料を集め、学んでおく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	ゼミ担当者より指示する。								
実 践 的 教 育									

授業名	卒業演習（論文を含む。） t a ~ t f	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	卒論研究の概要について	（学修内容）卒業演習のスケジュールと進め方について （事前事後学修課題の内容）（60分） プレゼミでの課題（卒業研究テーマ）について考えておく
第2回	研究発表1-1（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第3回	研究発表1-2（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第4回	研究発表1-3（研究テーマ・問題意識・研究概要）	（学修内容）関心の高い研究テーマの発表と関連文献紹介・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第6回	個別指導（面談）1-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究テーマを決めるための学びの進捗状況をレポートで報告する （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料の作成と提出
第7回	研究発表2-1（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第8回	研究発表2-2（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第9回	研究発表2-3（先行研究・資料の紹介）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの配布、討論テーマの準備
第10回	個別指導（面談）2-1（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する 検討事項を整理し、研究を進めていく
第11回	個別指導（面談）2-2（研究進捗状況の確認）	（学修内容）研究進捗状況の報告および検討を行う （事前事後学修課題の内容）（90分） 面談資料としてレポートを作成する
第12回	研究発表3-1（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第13回	研究発表3-2（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第14回	研究発表3-3（研究方法・分析方法の検討）	（学修内容）研究の手法について研究発表・質疑応答・討論：レジユメの配布と発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメ、討論テーマの準備を行う 問題点を整理し、方向性を検討する
第15回	3回生秋学期の卒論演習の振り返り	（学修内容）3回生秋学期の卒論演習の振り返る 研究進捗状況を確認し、研究計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒論研究進捗状況の報告と研究方法、研究計画を作成し提出する

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s h			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	馬場 まみ・秋山 裕之・流石 智子・西川 由紀子・ 山中 信子・川島 智生・湯浅 俊郎・柿本 真代			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	卒論テーマについて、先行研究や関連資料を読み込み、問題意識・研究方法・研究手続き・分析・考察の方法・結果のまとめ方等について、ゼミでの研究発表・意見交換・議論・個人指導を通して深めていく。課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を高めることを目指す。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 卒業論文題目を確定し、主体的積極的に研究を進めることができる。 2) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において研究の進捗状況、研究成果を発表することができる。 3) 各ゼミで実施する「卒業論文中間発表会」において、出された質問に対して適切に回答できると同時に今後の研究課題を認識できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表時においては、その都度アドバイスする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかむ。 意見交換・考察・討議する習慣をもち、主体的積極的に自らの研究を進める。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s h	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	研究進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の目的、研究進捗状況の確認をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 先行研究を読み込んでおく
第2回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第3回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第4回	研究発表1 - （研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表）	（学修内容）研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況の発表（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表、レジュメ、討論テーマの準備
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第9回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告レポートに基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第11回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第12回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（60分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備
第13回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第14回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）
第15回	個別指導（面談）2 - （現時点での進捗状況の確認と検討、論文の柱とまとめ方の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告に基づいて面談 （事前事後学修課題の内容）（60分） 面談資料持参（ゼミ担当分1部；自分身1部）

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）s a ~ s h			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	秋山 裕之・流石 智子・西川 由紀子・馬場 まみ・ 山中 信子・川島 智生・湯浅 俊郎・柿本 真代			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>先行研究や関連資料を読み込み、学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文を完成させる。4回生春学期7月に「論文題目」を提出。秋学期12月15日に「卒業論文」を提出。2月に「口頭試問」に臨む。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 自ら決定した研究テーマについて、主体的積極的に自らの研究を進めることができる。 2) 学士論文としてふさわしい内容を備え、かつ、書式等の所定の条件を満たす卒業研究論文として完成させることができる。 3) 卒業論文の作成でどのような研究成果があったかを「口頭試問」で明確に伝えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	ゼミ担当者より指示する。								
参 考 書	ゼミ担当者より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	研究進捗状況を確認し、適宜アドバイスをする。								
留 意 事 項	先行研究や関連資料に積極的にあたり、研究方法や到達点をつかみ、自分の研究を進めていく。 学士論文としてふさわしい内容の卒業研究論文を完成させる。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	毎週1回（休業期間中を除く）オフィスアワーを設けます（曜日・時間を研究室に掲示）。 研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出により事前予約が望ましい。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。）s a ~ s h	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認	（学修内容）研究の進捗状況の確認、論文作成手引の確認 （事前事後学修課題の内容）（90分） 先行研究を読み込んでおく	
第2回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第3回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第4回	研究発表1 - （研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献の確認）	（学修内容）研究目的・研究方法・分析・考察・引用文献・参考文献についての発表 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究発表、レジュメの準備	
第5回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第6回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第7回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第8回	個別指導（面談）1 - （研究進捗状況の確認と検討）	（学修内容）研究進捗状況報告と面談 （事前事後学修課題の内容）（90分） 研究進捗状況報告を準備する	
第9回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第10回	研究発表2 - （研究進捗状況の発表）	（学修内容）研究進捗状況の発表・質疑応答・討論（発表者はレジュメ配布・発表） （事前事後学修課題の内容）（90分） レジュメ配布準備・討論テーマ準備	
第11回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第12回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第13回	個別指導（面談）2 - （卒論の仕上げ）	（学修内容）卒論の仕上げ・提出 （事前事後学修課題の内容）（90分） 卒業論文の提出原稿の準備	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）口頭試問に向けての準備 （事前事後学修課題の内容）（90分） 口頭試問の質疑応答準備	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	富安 広幸・坂本 裕子・林 育代・豊原 容子・塩田 二三子・根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	各自が決定した卒論テーマに沿って、先行研究について調べ現状について理解するとともに、研究方法、結果の考察方法やまとめ方などについて学んでいく。研究方法については地域連携の取り組みや調査、実験など様々があるので適切な方法を考えて実践していく。さらに、ゼミ内での発表や意見交換および個人指導を通して自身の研究を深めていく。6月末には論文題目を提出する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが決定した課題について解決のために主体的に取り組むことができる。 2) 論理的に物事を考えることができる。 3) 得られた結果について適切な考察ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的思考ができる)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (論理的な文章の組み立てができる)				
テ キ ス ト	レジュメ等で行う								
参 考 書	各自に、ゼミ担当者が指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	個人指導において、各自の発表、研究成果における問題点など、さらに今後の進め方などを話し合う。								
留 意 事 項	積極的に自らのテーマに関して研究を進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当教員のオフィスアワーについては、曜日、時間を一覧にして掲示します。研究室に在室している場合は、対応します。 。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。） t a ~ t f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	卒論論文作成に向けて、手引き等の確認、および各自進める上での問題点の整理などについて	<p>（学修内容）先行研究で分かったことを整理し、研究の目的、方法、問題点などを明らかにし、研究の進め方について確認する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 先行研究論文などを読み問題点を整理しておく。</p>	
第2回	研究発表1-1 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第3回	研究発表1-2 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第4回	研究発表1-3 研究テーマ・研究目的・研究方法・進捗状況などについての発表	<p>（学修内容）各自の研究内容について発表を行い、他のゼミ生と問題点などについて討議するとともにアドバイスなどをもらい、内容を検討する。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究発表のためのレジユメの準備、およびアドバイスに対する対応等の検討を行う。</p>	
第5回	個別指導1-1 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。</p>	
第6回	個別指導1-2 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化しておく。論文構成について考えておく。</p>	
第7回	個別指導1-3 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第8回	個別指導1-4 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第9回	個別指導1-5 研究の進捗状況確認と内容の検討	<p>（学修内容）研究に関する発表をもとに面談を行い、今後の取り組みについて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 研究の目的について文章化していく。論文構成について考えておく。</p>	
第10回	研究発表2-1 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果について考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第11回	研究発表2-2 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第12回	研究発表2-3 問題点の解決策および進捗状況に関する発表	<p>（学修内容）研究に関する発表・質疑応答・討論を行う。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表レジユメの作成をしておく。データの解析結果についてよく考察しておく。指摘された問題点について解決策を考える。</p>	
第13回	個別指導1-1 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	
第14回	個別指導1-2 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	
第15回	個別指導1-3 研究の進捗状況確認とまとめ方の検討	<p>（学修内容）発表内容とその後の進捗状況について面談を行い、論文作成に向けて検討していく。</p> <p>（事前事後学修課題の内容）（60分） 発表時に出された意見等を踏まえ内容の検討を行っておく。論文の章立てを書いておく。</p>	

授 業 名	卒業演習（論文を含む。）t a ~ t f			開 講 学 年	4回生	単 位 数	6単位	科 目 コ ー ド	GE3216
英 文 名	Graduation Thesis			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必 修	
担 当 者	富安 広幸・坂本 裕子・林 育代・豊原 容子・塩田 二三子・根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	研究の進捗状況の報告やそれに関する討論や面談を行いながら、卒業論文内容を検討する。春学期に考えた章立てに沿って論文を仕上げていく。10月末に論文を提出し、12月末に口頭試問に臨む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自らが課題とした研究テーマについて、主体的に考察し研究を深めていくことができる。 2) 得られた結果を正確に分析することができる。 3) 卒業論文としてふさわしい構成内容の論理的な文章を書くことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (論理的に課題に対する考察ができる)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	各自に担当教員より指示する。								
参 考 書	各担当教員より指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	次週までに、提出された文章について問題点などの指摘を行う。								
留 意 事 項	わかったことを自分の言葉で表現するように、常に留意しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当者のオフィスアワーを一覧にして掲示板に掲示する。								
実践的教育									

授 業 名		卒業演習（論文を含む。） t a ~ t f	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	論文の書き方について確認および決定	（学修内容）論文作成手引きについて、特に参考文献の書き方などの確認を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 卒論の手引きをみて、自分の参考文献などを整理しておく。考察に関する問題点を把握しておく。	
第2回	発表1-1 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第3回	発表1-2 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第4回	発表1-3 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第5回	発表1-4 各自の論文内容、参考文献などについて	（学修内容）各自がこれまでにまとめた論文内容の報告を行い、討論する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 報告のためのレジメの準備をする。 得られた問題点について検討していく。	
第6回	個別指導1-1 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第7回	個別指導1-2 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第8回	個別指導1-3 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第9回	個別指導1-4 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第10回	個別指導1-5 論文内容についての検討・仕上げ	（学修内容）研究を論文にまとめていく。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 文章の校正を行ないながら、論文を仕上げしていく。	
第11回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容全体のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料の作成のため、研究内容を要約する。	
第12回	卒業論文内容の発表準備	（学修内容）研究内容のプレゼンテーションおよび質疑応答のための準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） プレゼン用の資料を作成する。	
第13回	卒業論文内容の発表	（学修内容）論文内容の発表を行い、質疑応答を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 質問事項の整理と解決策について考えておく。	
第14回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	
第15回	口頭試問準備	（学修内容）発表でだされた質問などをもとに、口頭試問での質疑応答に向けて内容の整理を行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 口頭試問に向けてレジメを準備する。	

授 業 名	食生活論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1303
英 文 名	Dietary Habits for Good Life			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	田中 恵子			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	生活の質の向上につながる健康で豊かな食生活をおくるための知識と考え方を習得し、実践する力を養う。食と健康、食文化の理解、食のリスク、および食と環境の4つテーマで、現代の食をめぐる諸問題をとりあげ、望ましい食生活のあり方を考える。他者の意見を共有することで、自分の考え方の幅を広げ、人と協同して課題解決を行う力を身につける事を目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の維持のために何をどれだけどのように食べると良いかを説明できる。 2) 若い世代の食の問題を説明して、その改善の方法を提案できる。 3) 食と健康に関わる情報を取捨選択し、適切に活用できる。 4) リスク分析の考え方に基づいて、食のリスクへの対処法を説明できる。 5) 環境に配慮した食生活について説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	プリントを配布する								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題へのコメントを授業内で共有する。								
留 意 事 項	食生活に関心を持ってください。課題にしっかり取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	食べるとは	(学修内容) 食べるという行動の意義、食事の役割について、課題とリスク (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読む、食事の役割に関わるキーワードを列挙する	
第2回	食事を楽しむ	(学修内容) 食の機能、おいしさの要因、食生活指針 (事前事後学修課題の内容) (45分) 予習として前回に提示された資料を読んでおく 授業内で提示する課題に取り組む	
第3回	食と健康(一日の食事のリズム)	(学修内容) 生体リズムと食生活、朝食について、若い世代の食の問題1 朝食の課題抽出と改善方法の検討 (事前事後学修課題の内容) (45分) 予習課題として1週間の朝食の記録をとる 授業内で提示する課題に取り組む	
第4回	食と健康(基本的な食事)	(学修内容) バランスのよい食事とは、6つの食品群、食事摂取基準、食事バランスガイド (事前事後学修課題の内容) (45分) 予習として、食品摂取頻度表を記入しておく 授業内で提示する課題に取り組む	
第5回	食と健康(健康ダイエット)	(学修内容) 適正体重を維持するための食事と運動 丈夫な骨と筋肉をつくる食事、若い世代の食の問題2 (事前事後学修課題の内容) (45分) 予習として食事の記録をとっておく 自分の食事の課題抽出と実現可能な具体的な改善方法をまとめる	
第6回	食と健康(美味しく減塩)	(学修内容) 食塩の過剰摂取の問題、美味しく減塩をする工夫、栄養成分表示の活用1 (事前事後学修課題の内容) (45分) 自宅の味噌としょうゆ等の栄養成分表示を記録しておく 授業内で提示する課題に取り組む	
第7回	食と健康(脂肪や糖質は質と量を考えて)	(学修内容) 脂肪と糖質の適切な摂り方、若い世代の食の問題3、栄養成分表示の活用2 (事前事後学修課題の内容) (45分) 予習として、おやつ食品包装に掲載の栄養成分表示を記録しておく 授業内で提示する課題に取り組む	
第8回	日本の食文化	(学修内容) ユネスコ無形文化遺産に登録されている和食とは、食事のマナー (事前事後学修課題の内容) (45分) 和食の特徴をまとめておく	
第9回	京都の食文化	(学修内容) 京の食文化を育んだ自然と歴史的背景、京の食の歳時記 (事前事後学修課題の内容) (45分) 京都の食文化あるいは食材から一つのテーマを選び、説明できるようにまとめる	
第10回	食のリスク(リスク分析)	(学修内容) リスク分析の考え方、食の問題に合理的にむきあうための科学的なものの見方や考え方、フードファディズム (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業内で提示する課題に取り組む	
第11回	食のリスク(病原性微生物、食品の窒息)	(学修内容) 病原性微生物による食中毒、食品の窒息のリスクについて、食品表示 (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業内で提示する課題に取り組む	
第12回	食のリスク(食品添加物、農薬など)	(学修内容) 食品添加物や農薬のリスクの考え方、食品表示 (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業内で提示する課題に取り組む	
第13回	食のリスク(健康食品)	(学修内容) 食薬区分と健康食品、サプリメント利用の考え方 (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業内で提示する課題に取り組む	
第14回	食と環境	(学修内容) エシカルで持続可能な食生活、食品ロス、フードマイレージ (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業内で提示する用語を調べてくる	
第15回	非常時の食事 健康で豊かな食生活とは	(学修内容) 災害食 健康で豊かな食生活を送るための具体的で実現可能な改善策を考える (事前事後学修課題の内容) (180分) 自宅の食料ストックを調べてくる 授業内で提示するレポートを作成する	

授 業 名	栄養学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1401
英 文 名	Dietetics			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 五大栄養素の種類と働きについて理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる。 3) 健康と栄養素の関連性が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	日本フードスペシャリスト協会編 「三訂 栄養と健康 第2版」建帛社 2020								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については採点し返却する。返却時解説を行う。								
留 意 事 項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	健康と栄養	(学修内容)健康と栄養の定義について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の1章を読んでおく
第2回	糖質とその働きについて	(学修内容)糖質の種類と構造及びその働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp40-45を読んでおく 糖質がどのような食品に多く含まれているかまとめておく
第3回	脂質とその働きについて	(学修内容)脂質の種類と構造およびその働きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習をしておく 教科書のp48-52を読んでおく
第4回	タンパク質とその働きについて	(学修内容)タンパク質の種類と構造およびその働き (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp53-58を読んでおく
第5回	ミネラルについて	(学修内容)ミネラルの種類と機能 (事前事後学修課題の内容)(60分) 三大栄養素について復習をしておく 教科書のp58-60を読んでおく
第6回	ビタミンについて	(学修内容)ビタミンの種類と機能 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp61-64を読んでおく
第7回	消化と吸収	(学修内容)消化器系の構造及び消化の流れおよび腸内細菌の働きについて 上皮細胞膜通過の仕組みについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書のp27-35を読んでおく
第8回	身体の仕組み	(学修内容)身体の働きの調節について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p9-27を読んでおく
第9回	エネルギー代謝	(学修内容)三大栄養素のエネルギー産生 基礎代謝量に関わる因子など (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p45-46、64-65を読んでおく
第10回	栄養状態の判定と評価	(学修内容)栄養状態の判定と評価のための情報と判断基準について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p67-76を読んでおく
第11回	日本人の食事摂取基準(2020版)について	(学修内容)食事摂取基準の概要について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p76-85を読んでおく 指針を使い毎日の食事内容を振り返ってみる
第12回	ライフステージと栄養 妊娠期、授乳期	(学修内容)妊娠期、授乳期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p129-134を読んでおく
第13回	ライフステージと栄養 乳幼児期、学童・思春期	(学修内容)乳幼児期、学童・思春期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p134-142を読んでおく
第14回	ライフステージと栄養 成人期、高齢期	(学修内容)成人期、高齢期の身体的特徴と栄養ケア・マネジメントについて 生活習慣病とその予防および食事療法について (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p142-168を読んでおく 自分のライフコースにおいて最も留意することは何か考えてみる
第15回	免疫と栄養	(学修内容)免疫の基本的な仕組みについて 食物アレルギーの理解 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p169-176を読んでおく 身近な食品の特定原材料表示について調べておく

授 業 名	健康マネジメント			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2432
英 文 名	Health Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	生涯を通じて健康な身体とこころを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因の知識を深めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを日常生活で実践し自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。健康や食に関するビデオを見たり、身の回りの食品を調査し、これをプレゼンテーションして意見交換を行う授業とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の大切さを理解することができる。 2) 生活習慣病の背景要因と疾病予防を理解することができる。 3) 女性のライフステージ別や高齢期における健康問題を理解し、予防に取り組むことができる。 4) 健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	日本健康マスター検定 公式テキスト( N H K 出版 )								
参 考 書	・ 大学で学ぶ食生活と健康のきほん 著：吉澤みな子・武智多与理・百木和 2020(化学同人) ・ 栄養科学シリーズNEXT 社会環境と健康 健康管理概論 第3版：東あかね・關戸啓子・久保加織編(講談社) ・ その他適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	・ レポートや課題に対する質問などへの回答や解説を行う。								
留 意 事 項	・ 積極的に発言するようにして、授業に臨んでください。 ・ 目指す行動が習慣化するよう継続して取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	・ 授業の中で紹介、連絡します。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実際経験など：</b> 私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 クリニックにおける栄養食事指導に従事。 地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。								

授 業 名	健康マネジメント	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・オリエンテーション ・健康マスターについて	(学修内容) ・健康とは何か! ・健康に生きることは(食事、運動、休養がバランスよく保持され、継続していること) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第2回	食生活と健康 - 1 (塩分について)	(学修内容) 健康と塩分の関係について学ぶ。 自己の塩分摂取について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる塩分を調べる。
第3回	食生活と健康 - 2 (エネルギー、糖質について)	(学修内容) 健康と糖質の関係について学ぶ 自己の糖質摂取量について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる糖質を調べる。
第4回	食生活と健康 - 3 (エネルギー、脂質について)	(学修内容) 健康と脂質の関係について学ぶ。 自己の脂質摂取について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる脂質を調べる
第5回	嗜好を見直す	(学修内容) 嗜好飲料、アルコール、タバコなどの嗜好品について学ぶ 自己の利用している嗜好品について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる嗜好品を調べる。
第6回	身体活動・運動と健康 - 1	(学修内容) 身体活動量をふやす工夫について学ぶ 有酸素運動とレジスタンス運動を理解し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 現在の身体活動量を調べておく
第7回	身体活動・運動と健康 - 2	(学修内容) 運動を継続するコツを学ぶ (100歳まで歩ける体づくり) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 運動量を増やし継続するために必要な事柄をまとめておく
第8回	睡眠と心の健康	(学修内容) ストレスの影響と対策を学ぶ (睡眠の影響と対策) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 ストレスについて、睡眠の時間と質についてまとめておく
第9回	がんの対策	(学修内容) 生活習慣でがんの予防方法を学ぶ (がん検診の役割) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自身の健康診断結果などを確認しておく
第10回	救急の知識	(学修内容) 万一の備え(事故、災害、非常時)を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが万一の場合に備えている対策をまとめておく
第11回	高齢の家族の健康	(学修内容) 100歳まで元気で過ごすための注意と工夫を学ぶ (認知症の予防) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 寿命について自らの考えを整理しておく
第12回	女性の健康	(学修内容) 少子化問題、妊娠と出産、サルコペニアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 少子化の問題、妊娠と出産、骨粗鬆症についてまとめておく
第13回	口の健康	(学修内容) 歯周病は万病の元であることを理解し、予防方法を学ぶ (8020運動について) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分の歯の状態を確認しておく
第14回	感染症を予防	(学修内容) 感染症と人の健康について学ぶ (ワクチンと健康) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 感染症の予防として自らが実行している内容をまとめておく
第15回	健康を支える仕組み 健康の啓発	(学修内容) 医療保険制度と介護保険制度について学ぶ 健康改善法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが継続できる健康法についてまとめておく

授 業 名	生涯学習論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2441
英 文 名	Theory of Lifelong Learning			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。  2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。  3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	生涯学習論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国における生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国における生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	OECDのリカレント教育	(学修内容)OECDのリカレント教育について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史の変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性和各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史の変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)生涯学習世論調査から生涯学習の実施状況を確認し、グループ討議を通して望ましい生涯学習の在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表	(学修内容)自分が住む地方自治体の生涯学習の取り組みについて、調べた内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体の生涯学習振興策及び実施状況を調べて、発表用資料にまとめる。

授 業 名	家族関係論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2212
英 文 名	Theory of Family Romance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	上田 有里奈			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方で、バブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に「家族」を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとって重要な心の拠り所でもある。</p> <p>本講義では、家族の歩みと現状、そして家族をめぐる現在の様々な問題について学ぶとともに、今後の家族と家族を取り囲む社会や制度のあり方について考察する。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 現代日本の家族が抱えている問題を客観的に把握することができる。</p> <p>2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解した上で、望ましい家族について考えることができる。</p> <p>3) 皆さんが今後自分の人生を歩んでいく中で、「家族」の存在や意味、社会のあり方などを考える何らかのきっかけになれば幸いです。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	授業の中で適宜紹介します。 テキストの購入の必要はありません。								
参 考 書	『21世紀の家族づくり』増子勝義(学文社) 『21世紀家族へ(第4版)』落合恵美子(ゆうひかく選書) 『現代家族を読み解く12章』日本家政学会家族関係学部会(丸善出版) 『家族社会学(第3版 基礎と応用)』木下謙治(九州大学出版会) 『孤立社会からつながる社会へ』藤本健太郎(ミネルヴァ書房)								
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で、何度か課題提出をしてもらいます。 随時フィードバックの方法を説明します。								
留 意 事 項	授業計画については、実際に授業を進めていく中で、多少変更が生じる可能性があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、在室できない場合があります。 あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにして下さい。								
実 践 的 教 育									

授業名	家族関係論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 今後の授業の流れについて説明します。  (事前事後学修課題の内容) (5分) シラバスを読んでくる
第2回	家族とは何か	(学修内容) 家族は歴史的に変化するか。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族の歴史的変化を概観し、理解する。 現在にも残る、日本特有の「家制度」の様々な問題点について考える。
第3回	家事と主婦の誕生 家族とジェンダー	(学修内容) 家族をジェンダーの視点から考察する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 戦後の家族とジェンダーの役割、母性と近代家族、フェミニズムと家族について理解する。
第4回	結婚	(学修内容) 結婚に対する人々の意識変化をはじめ、結婚をめぐる変化を考察する。 また、法・制度が結婚をどのように規定しているかについて考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 未婚化や離婚に関する変化など、結婚をめぐる変化や法・制度について理解する。
第5回	高齢者と家族	(学修内容) 現在の日本の少子高齢化社会における高齢者を取り巻く諸課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者の生活の変化や介護、社会的孤立など、現在の日本における高齢者を取り巻く諸課題について理解する。
第6回	人々の社会的孤立の実態に関するドキュメント映像を視聴	(学修内容) ドキュメント映像を視聴する中で、現在の日本における人々の社会的孤立の実態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 映像を視聴したなかで自身が考えたことをレポートに記述する。
第7回	様々な立場で進む社会的孤立	(学修内容) 家族や地域社会の変化に伴う高齢者や子育て世帯、若者など様々な立場で進む人々の社会的孤立の問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現在コロナ禍において人々の孤立の問題は益々深刻化しているが、どのような取組が解決策として考えられるかを自分自身で考えてみる。
第8回	ワークライフバランスと家族	(学修内容) 日本の働き方の特徴は性別によってどのように異なるのか、またどのような変化しているのか、家族と就業をめぐる様々な課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本における性別役割分業の実態を国際比較の視点から理解する。男女双方による仕事と家庭の両立に向けた諸制度や課題について理解する。
第9回	貧困と家族	(学修内容) 家族形態によって貧困リスクは異なるのか、家族形態と貧困リスクの関係は、国によって異なるのか。家族と貧困をめぐる課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本における「相対的貧困」の現状と、貧困がもたらす様々な課題について学ぶ。
第10回	子どもの貧困に関するドキュメント映像を視聴	(学修内容) 第9回目の授業を学んだ上で、日本における子どもの貧困の現状について、その実態を映像を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 映像を視聴したなかで自身が考えたことをレポートに記述する。
第11回	ファミリーバイオレンス	(学修内容) 日本におけるファミリーバイオレンスの実態について学ぶとともに、その背景や現在の課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ファミリーバイオレンスの実態やその背景、課題について理解する。
第12回	多様化する家族	(学修内容) 多様化する家族の実態について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族や親密な関係が多様化している中で、そこから生じる日本社会の様々な課題や対応策について学ぶ。
第13回	多様化する家族	(学修内容) 多様化する家族の実態について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 家族や親密な関係が多様化している中で、そこから生じる日本社会の様々な課題や対応策について学ぶ。
第14回	個々人が繋がりをもち、支え合える社会に向けて	(学修内容) 家族の多様化、個人化が進む中で、個々人が繋がりをもちながら支え合える社会の実現のために、どのような取り組みが重要かについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまで授業の中で学んできた家族の変化や諸課題から、個々人が安心して生活できる社会の実現のためにどのようなことが大切かを考える。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業の要点を総復習する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく。

授 業 名	幼児理解			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3444
英 文 名	Understanding Infants			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>子ども理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。そこで、子どもの生活や遊びの実態に即して、幼児期にいたるまでの過程を含めて発達を解説しつつ、そこでの子どもの学びや保育者の基礎的な態度を解説する。また、その過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法も解説する。また保護者支援を念頭に置いてカウンセリングについても解説する。カウンセリングの解説では、簡単なロールプレイを行い、ディスカッションを通して、相談に乗る際に大切なことを理解できるようにする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>子どもを理解し保育を展開する方法を学ぶ  子ども理解の意義を理解している。子ども理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 子どものつまずきを周りの子どもとの関係やその他の背景から理解している。保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。保育所や幼稚園における保育相談の意義と理論を理解している。保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( )		
テ キ ス ト	<p>保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」ひとなる書房 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版</p>								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭いくつかピックアップして紹介しコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	子どもを理解するために必要なことは何か	(学修内容) 子ども理解に必要なことを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んでくる	
第2回	0歳児の発達と保育	(学修内容) 0歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p54から読んでくる	
第3回	1歳児の発達と保育	(学修内容) 1歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p72から読んでくる	
第4回	2歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p126から読んでくる	
第5回	2歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 2歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章を読んでくる	
第6回	3歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p146から読んでくる	
第7回	3歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 3歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでくる	
第8回	4歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p200から読んでくる	
第9回	4歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 4歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる	
第10回	5歳児の発達と保育(ビデオ編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を保育場面から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでくる	
第11回	5歳児の発達と保育(場面記録編)	(学修内容) 5歳児の発達と保育の特徴を場面記録から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでくる	
第12回	子どもの問題行動のとらえ方	(学修内容) 子どもの問題行動をとらえる視点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p108からp119を読んでくる	
第13回	保育相談の留意点	(学修内容) ロジャースの3原則を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) プリントを読んでくる	
第14回	カウンセリングの実際(ロールプレイ)	(学修内容) ロールプレイを行い、ディスカッションする (事前事後学修課題の内容) (30分) 前週のプリントを復習する	
第15回	保護者と話す際の留意点	(学修内容) ロールプレイの振り返りを行い、その技法を保護者とのやりとりにか す方法を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) ロールプレイの振り返りしておく	

授 業 名	衣生活論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1302
英 文 名	Clothing and Human Life			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>私たちは、販売されている多くの既製のなかから衣服を選択し、購入して着用している。快適な衣生活を営むためには、衣服の材料やサイズ、管理の方法などの知識が必要である。本講義では、衣服の役割や機能、衣服に関する基礎的な知識について学ぶ。さらに、衣生活に関わる現代的課題について考える。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衣服の機能を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 衣服に関する総合的な知識を身につけ、説明することができる。</li> <li>3. 衣生活にかかわる課題を指摘することができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	消費者の視点からの衣生活概論 [ 井上書院 ]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで在室できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		衣生活論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義の目的と授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストに目を通しておく
第2回	衣服の役割	(学修内容) 衣服の役割について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	衣服材料1: 繊維の種類	(学修内容) 繊維の種類と特色について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	衣服材料2: 天然繊維	(学修内容) 天然繊維の種類と特徴について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	衣服材料3: 化学繊維	(学修内容) 化学繊維の種類と特徴について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	衣服材料4: 糸の種類	(学修内容) 紡績糸とフィラメント糸について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	衣服材料5: 布の構造	(学修内容) 織物と編物の構造について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	衣服のデザイン	(学修内容) 衣服と色彩、デザインについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	体型と衣服	(学修内容) 体型と衣服の形について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	身体計測	(学修内容) 身体計測の方法を理解する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	衣服と型紙	(学修内容) 原型、型紙の基本的な構造を理解する  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	衣服のサイズ表示	(学修内容) 衣服のサイズ規格と表示方法について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	快適な衣服: 気候と衣服	(学修内容) 衣服と体温調節について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	衣服の手入れと洗濯	(学修内容) 洗濯と洗剤について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	現代社会と衣服	(学修内容) 衣生活に関わる現代的課題について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 課題について考える

授 業 名	衣生活実習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE1305
英 文 名	Dress Making Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福山 未智			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>市場には多種多様な衣料品が出回り、素材は日々変化している。そのような中、実習を通して、衣服の形状や布の特性、生産過程、管理の方法など衣服の基礎知識を深めることは、衣服の適切な選択、管理を行う上でも大変重要である。本実習では、基礎縫いとズボンやトップスの布の選定から型紙作成、縫製、試着までを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 衣服材料の種類と性質、衣服製作に必要な道具の取り扱い方を説明できる。 2) 着用者に合わせたズボンとトップスを完成できる。 3) 人体と制作物のデザインや着心地との関係について説明できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (基本技術の習得)	プレゼンテーション能力 (制作物の完成度)	課題発見・解決能力 (制作物の完成度)				
テ キ ス ト	プリントを配布する。								
参 考 書	中学校技術・家庭および高等学校家庭科の教科書								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・レポートについては、点検し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	<p>教職を志望する学生は履修すること。 受講者の進捗状況などを鑑み、内容を変更することもある。 欠席・遅刻をすると製作に遅れが生じ、作品が完成できなくなるため、遅刻・欠席をしないように心掛けること。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回に提示する								
実践的教育									

授 業 名	衣生活実習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションとミシンの説明	(学修内容) 裁縫道具・パンツの生地の説明をして、ミシンの使い方の説明し構造を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 裁縫道具の点検と、パンツの生地を購入しておく。
第2回	ミシンの練習	(学修内容) 実際にミシンを使用して巾着袋を製作することでミシンの扱いに慣れる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 苦手だったところを復習して、巾着袋のひもを通しておく。
第3回	パンツの製作 パターン作成	(学修内容) パンツのパターン製図を行い、構造を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) なぜ前と後ろで構造が異なるのかを復習し、平面から立体へのイメージを理解しておく。
第4回	パンツの製作 裁断と印付け、ロックミシンの練習	(学修内容) 製図したパターンを用いて生地の裁断と印付けを行い、端処理のためのロックミシンの仕組みと練習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 必要な印はどこにするのか、ロックミシンでできることは何かをレポートにまとめておく。
第5回	パンツの製作 脇・内股・股ぐりの縫製	(学修内容) 脇と内股、股ぐりを縫製する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 縫製の順番を復習してレポートにまとめておく。
第6回	パンツの製作 ウェストベルトの作成	(学修内容) ウェストベルトを作成することで、しつけの方法、ウェストベルトとゴムベルトの幅の関係について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) しつけの必要性と種類についてレポートにまとめておく。
第7回	パンツの製作 ウェストベルト通し、裾の始末	(学修内容) 裾始末の方法を知り、生地に適した組み合わせを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ゴムベルトを通しておく。裾始末の種類と方法をレポートにまとめておく。
第8回	ブラウスの製作 構造の説明、生地の説明	(学修内容) パターンの説明と用いる生地の説明を行い、適切な生地を選択する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パターン構造の復習をし、生地を購入しておく。
第9回	ブラウスの製作 裁断と印付け、見返しの芯地貼り	(学修内容) 合印の意味を知り、見返しに芯地を貼ることで芯地の必要性を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような場合に合印が必要か、芯地の種類についてレポートにまとめておく。
第10回	ブラウスの製作 端処理と肩の縫製、見返しつけ	(学修内容) 脇にロックミシンをかけ、見返しを身頃につけることで必要性を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) どの衣服のどの部位に見返しをつけるか良いかをレポートにまとめておく。
第11回	ブラウスの製作 脇の縫製、袖の作成	(学修内容) 袖を作成し、ぐし縫いをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ぐし縫いを完成させ、どんな時に必要なかをレポートにまとめておく。
第12回	ブラウスの製作 袖つけ	(学修内容) 身頃に袖をつけることでいせこみを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いせこみが必要な衣服は何かをレポートにまとめておく。
第13回	ブラウスの製作 裾の始末、ボタン付け	(学修内容) 裾を始末して、ボタンをつける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ボタンの種類によって付け方が変わることをレポートにまとめておく。
第14回	製作の復習	(学修内容) パンツ製作やブラウス製作を通して、TPOに合った生地を選択ができるかを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いくつかの状況に合った生地を選択についてレポートにまとめておく。
第15回	着装評価	(学修内容) 実際に製作した衣服を着用して、発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が教育現場に立つことを想定して、どのようなポイントを伝えるのかをレポートにまとめておく。

授 業 名	食の科学 (調理学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1401
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	桐村 ます美			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	調理は、安全で栄養効率のよいおいしい食べ物を調製するために行なう操作である。食物のもつ特性を理解し、科学理論に基づいた操作を行なうことができるよう基礎的事項について学ぶ。実際の調理場面を想定し理論がどう活かされているかなどについてディスカッションし理解を深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理の目的・調理理論を理解できる 2) おいしさに関する因子について理解できる 3) 理論を理解し日常の調理で実践することができる								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	フードスペシャリスト協会 編『調理学 第2版』 建帛社 2021								
参 考 書	講義内で随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	前回の復習を講義冒頭に行い、返却課題に関する解説も同時に行う。								
留 意 事 項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理上の疑問を明らかにしておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：栄養士養成校に教員として勤務経験あり								

授業名	食の科学（調理学）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の意義と目的	（学修内容）調理の変遷、食事形態の特徴などについて知り調理の目的・意義について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p2-3を読んでおく 調理の目的について簡潔にまとめておく
第2回	おいしさに関する要因1（食べ物の因子）	（学修内容）おいしさに関与する食べ物の化学的・物理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p3-18を読んでおく 食べ物の基本味と味の相互作用例についてまとめておく
第3回	おいしさに関する要因2（食べる人の因子）	（学修内容）おいしさに関与する喫食者側の生理的・心理的因子などについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p17-29を読んでおく おいしさに大きく寄与する因子について考え、まとめておく
第4回	食事計画と調理	（学修内容）食事計画における調理環境などの因子についての考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 献立を立てるメリットについて考えておく 献立作成するときの留意点についてまとめておく
第5回	調理操作1（予備操作）	（学修内容）浸漬、洗浄、切断、混合他の操作と調理用具について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p42-52を読んでおく
第6回	調理操作2（非加熱操作）	（学修内容）生食料理の注意事項、冷凍・冷蔵について学ぶ 各家庭の冷蔵の仕方などについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p53-60を読んでおく
第7回	調理操作3（加熱操作）	（学修内容）湿式加熱、乾式加熱、誘電・誘導加熱の特徴について 誘導加熱のメリットについて意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 加熱調理器具の特徴について考えてまとめておく
第8回	調理操作4（調味）	（学修内容）調味料の特徴と調味操作について学ぶ 調味料の浸透と料理例および調理時間などの関連について意見交換 （事前事後学修課題の内容）（60分） 家庭にある調味料の種類と利用状況について調べておく
第9回	植物性食品の調理特性1（穀類）	（学修内容）米、小麦の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 米や小麦を使った調理例について調べておく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第10回	植物性食品の調理特性2（豆類、イモ類ほか）	（学修内容）豆、イモ類の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p86-97を読んでおく 特徴を生かすために注意しなければならない点はどこか考えてみる
第11回	植物性食品の調理特性3（野菜類、果実類など）	（学修内容）野菜、果実の成分と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p117-123を読んでおく 野菜の特徴を生かす料理法について考えてみる
第12回	動物性食品の調理特性1（食肉）	（学修内容）牛、豚、鶏肉の体組織の構造と調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p99-104を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第13回	動物性食品の調理特性2（魚介類）	（学修内容）魚介類の体組織の構造と調理特性について 魚の鮮度とテクスチャーとの関連性について話し合ってみる （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p105-109を読んでおく 肉の特徴をまとめ、調理例について考えてみる
第14回	動物性食品の調理特性3（卵類、乳・乳製品、油脂）	（学修内容）卵の構造・成分と調理特性、乳・乳製品の調理特性について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p109-115を読んでおく 卵の調理特性についてまとめ、調理例について考えておく
第15回	調理と摂食機能	（学修内容）食べる機能と調理の工夫について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p138-148を読んでおく 咀嚼と嚥下の仕組みについてまとめ、食べにくい食品・料理を考えてみる

授 業 名	住生活論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	GE2209
英 文 名	Living Life Theory			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	住むことと生活との関わり合いを考えていく。住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識の習得をおこない、住宅図面の基礎的な読解能力ならびに作図能力を学ぶ。現在のわれわれが抱える少子高齢化や居住福祉、ライフスタイルなどといった居住をめぐる問題の解決方法を、住居のありようから探り、本当に快適な住環境とはどのようなものかについて総合的に学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 今後のあるべき住居の理想像を生活の観点から説明することができる。 2) 住宅図面の基礎的な読解ならびに作図をおこなうことができる。 3) 住居に関する機能や歴史などの基礎的な知識を説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	授業中に適宜配付する								
参 考 書	図説・近代日本住宅史 内田青蔵 他 鹿島出版会 2001、住まいと家族をめぐる物語 西川祐子 集英社新書 2004								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして、住宅見学後に提出したレポートにコメントを付けて返却し、講評をおこなう。								
留 意 事 項	外部の住宅見学を実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住生活論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	住生活論を学ぶ意義	(学修内容) 住まいの意味・日本人の住居観・住まいの快適さ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が体験してきた住まいについてまとめておくこと
第2回	生活空間の計画	(学修内容) 生活の分析・各空間の機能・寸法と単位 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第3回	住居の計画	(学修内容) 間取りの意味・室空間の取扱 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第4回	現代の住宅	(学修内容) 和風と洋風の住まい (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第5回	日本の住宅史	(学修内容) 伝統的な住まいのありよう (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第6回	住宅見学・京都の名作住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の名作住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟
第7回	外国の住宅史	(学修内容) ヨーロッパ・アメリカ・アジア・アフリカ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第8回	集合住宅の意義	(学修内容) 共同して住む家 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第9回	環境と住まい	(学修内容) 気候風土と室内環境 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第10回	都市と住まい	(学修内容) 市街化住宅(町家と長屋)と郊外型住宅(ニュータウン) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストもしくは配布資料を事前学習
第11回	住宅見学・京都の集合住宅・フィールドワーク	(学修内容) 京都市内の集合住宅の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を事前に習熟
第12回	住宅見学についてのディスカッション	(学修内容) 住宅見学の講評ならびにディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が見学会の感想をまとめて用意する。
第13回	住宅図面の読解能力	(学修内容) 設計図面の内容・表記方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 物差しなどなどの使い方を事前に習熟
第14回	名作住宅の紹介	(学修内容) 町家など京都の住宅を事例に (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で見た内容を整理
第15回	より良き住生活への提案のプレゼンテーション	(学修内容) 住生活への提案のプレゼンテーションと講評 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小レポートとしてまとめ、提出

授 業 名	食の科学 (食品学)			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1408
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、多くの食品の中から適切な食品を選択することが重要である。そのためには、食品成分の特性、食品の物性さらに食品中の化学変化などをよく理解しておくことが必要である。本講義ではこれらの食品に関する基礎的事項について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品に含まれている成分の特性が理解できる。 2) 食品のもつ機能について理解できる。 3) 食品の加工・調理による変化について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	甲斐達男・石川洋哉 「最新食品学―総論・各論―」第4版 講談社								
参 考 書	講義の中で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストについては返却時に解説を行い、理解が進むようにしていく。								
留 意 事 項	毎日にげなく食べないで、食品に関心を持って生活してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	食の科学 (食品学)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品とは	(学修内容) 食品の定義および生活の変化により生じた食品の多様性について (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく 食品の定義についてまとめておく
第2回	食品の分類	(学修内容) 食品成分表の目的と概要、食品の分類法について (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品成分表の最初の解説について読んで理解を深めておく
第3回	食品中の一般成分 三大栄養素	(学修内容) 炭水化物、タンパク質、脂質の特性と食品中での働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 三大栄養素の特徴についてまとめ理解を深める
第4回	食品中の一般成分 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの特性と食品中での働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) ビタミン、ミネラルの働きについてまとめて理解を深める
第5回	食品中の一般成分 水	(学修内容) 水の働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品中の水の働きについて考えておく
第6回	食品中の嗜好成分	(学修内容) 色、香、テクスチャーに関わる成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) おいしいと感じるにはどのようなことが必要か考えておく
第7回	食品中のその他の成分	(学修内容) 機能性成分および有毒成分の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 機能性成分を含む市販食品について調べておく
第8回	食品の加工による変化 褐変	(学修内容) 酵素的褐変と非酵素的褐変について (事前事後学修課題の内容) (60分) 褐変を利用した食品についてまとめる
第9回	食品の加工による変化 油脂	(学修内容) 油脂の酸化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 脂質の特徴について復習しておく
第10回	微生物・酵素を用いた食品の加工	(学修内容) 微生物・酵素を用いた食品加工における食品成分の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 発酵食品についてどのようなものがあるか調べ、その特徴についてまとめる
第11回	植物性食品の特徴 穀類、芋類、豆類、種実類	(学修内容) 穀類、芋類、豆類、種実類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第12回	植物性食品の特徴 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類	(学修内容) 野菜類、果物類、キノコ類、海藻類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群について、食品成分表をみて理解を深めておく
第13回	動物性食品の特徴 肉類、魚類	(学修内容) 肉類と魚類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) 肉と魚の食品学的違いについてまとめる
第14回	動物性食品の特徴 卵類、乳類	(学修内容) 卵類、乳類の特性および加工について (事前事後学修課題の内容) (60分) それぞれの食品群の食品について、食品成分表をみて理解を深めておく
第15回	その他の食品の特徴	(学修内容) 新規に開発された食品などの特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 遺伝子組み換え食品などについて調べておく 食品の表示についてまとめる

授業名	家庭経済学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2213
英文名	Home Economics			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田 有里奈			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>家計とは、家庭の経済活動を貨幣で捉えたものであり、収入・支出関係から構成される。まずは家計に関する基本的概念を学び、家計の変化から見える暮らしの変化を分析する。そのほか、将来の生活を計画するために必要な「生活設計」とリスクマネジメントについて考えることや、労働環境の現状、格差と貧困、消費者信用と多重債務、夫婦間・親子間などの家族間の経済関係など、様々な視点から家庭経済学を捉える授業を行う。その中で、多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化、ジェンダーの問題も視野に入れながら、制度やシステムの課題も併せて考える。</p> <p>授業を通して、学生自身が家計管理や生活設計について考えるとともに、学生自身の生活および社会の中で共に暮らす様々な人の生活を視野に入れながら、豊かさを実現できる社会保障制度や経済の仕組みについて考える機会にしたい。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 現在の日本における家族の現状や家族をめぐる様々な問題について理解できる。</p> <p>2) 家庭経済学に関する基本的概念や用語などを含め、基礎的知識を習得できる。</p> <p>3) 家庭経済が果たしている機能を理解できる。</p> <p>4) 家庭経済学を通して見える日本の社会制度やシステムの課題を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	授業の中で適宜紹介します。 テキストの購入の必要はありません。								
参考書	<p>『新訂 生活経済学』重川純子(一般財団法人 放送大学教育振興会)</p> <p>『ジェンダーで学ぶ生活経済論【第2版】』伊藤純・斎藤悦子(ミネルヴァ書房)</p> <p>そのほか、授業時に適宜紹介します。 テキストの購入の必要はありません。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で、何度か課題提出をしてもらいます。 随時フィードバックの方法を説明します。								
留意事項	授業計画については、実際に授業を進めていく中で、多少変更が生じる可能性があります。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、在室できない場合があります。 あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにして下さい。								
実践的教育									

授業名	家庭経済学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・家庭経済の概念	(学修内容) 今後の授業の流れについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	家庭経済の単位としての個人・家族・世帯	(学修内容) 家庭経済の単位としての個人・家族の人口学的変化や世帯の構造変化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現在の日本における個人や家族の変化などについて理解する。
第3回	日本における家族の歴史の変遷と少子高齢化社会における家族を取り巻く諸課題	(学修内容) 日本における家族の歴史の変遷と少子高齢化社会における家族を取り巻く諸課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2回目の内容とともに、現在の日本の少子高齢化社会における家族を取り巻く様々な問題について理解する。
第4回	日本における高齢者福祉の歴史の変遷と高齢者を取り巻く諸課題の現状	(学修内容) 現在の日本の少子高齢化社会における高齢者を取り巻く諸課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 現在の日本の少子高齢化社会における高齢者を取り巻く諸課題について理解する。
第5回	高齢者をめぐる現状に関するドキュメント映像を視聴	(学修内容) 高齢者をめぐる現状に関するドキュメント映像を視聴する中で、現在日本で暮らす高齢者が抱える問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 映像を視聴したなかで自身が考えたことをレポートに記述する。
第6回	家計に関する基本概念と家計調査	(学修内容) 家計に関する基本的概念や用語を学ぶとともに、家計の変化から、戦後の生活がどのように変化してきたかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 戦後の消費構造の変化や消費行動への影響要因について学ぶ中で、戦後の生活がどのように変化してきたかについて理解する。
第7回	生活設計とリスク	(学修内容) 生活設計におけるリスクマネジメントの方法や、生活の保障としての自助・共助・公助の概念について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の今後予定するライフイベント、起こりうるリスクにどのようなものがあるか考えてみる。
第8回	労働環境の現状と最低賃金制度	(学修内容) 就業形態や年齢・性別などによる賃金の相違、就業に関する賃金・所得保障の制度、最低賃金制度の仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 賃金の相違が起こる背景や最低賃金が上がることによる利点と問題点について理解する。
第9回	格差と貧困	(学修内容) 日本における「相対的貧困」の現状と、貧困がもたらす様々な問題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分達の身近にある貧困問題について考える。相対的貧困率が低い国々の雇用制度や社会保障制度を調べ、日本の課題を考える。
第10回	子どもの貧困に関するドキュメント映像を視聴。	(学修内容) 第9回目の授業を学んだうえで、日本における子どもの貧困の現状について、その実態を映像を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 映像を視聴したなかで自身が考えたことをレポートに記述する。
第11回	消費者信用と家計問題	(学修内容) 消費者信用の仕組みや成り立ちと、利用実態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 多重債務化の原因等問題状況を踏まえ、多重債務や家計の問題を予防するためにはどのようなことが必要か考える。
第12回	妻と夫の経済関係 親と子の経済関係	(学修内容) 妻と夫・親と子の経済的な分担、共同について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ライフスタイルの選択に影響する可能性のある税制や社会保障制度について考える。
第13回	NPOと家計	(学修内容) 家計とNPOとの関わりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非営利組織(NPO)とはどのようなものか理解する。
第14回	持続可能なライフスタイルを創造するための生活主体者としての取り組みについて	(学修内容) 私達一人一人が、男女を問わず、生活を営む主体として行動するにはどうしたら良いのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分達の周りにある、持続可能なライフスタイルを創造するための活動を探してみる。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業の要点を総復習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく。

授業名	生活経営学			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	GE3315
英文名	Theory of Life Management			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養学科3回生				
授業の概要	個人における日常の生活は、家族や家庭外のさまざまなシステムとかがわっている。それらといかにかうまく連携し、新たなシステムを作っていくかが生活の質を決定していく。つまり、生活者がいかに自分自身のもっている資源や自分の外にある外部資源をうまくマネジメントしていくかが重要なこととなる。そこで本講義では、くらしを取り巻くシステム、システム間の連関、課題など、生活の諸次元の現状と問題点を学び、生活経営の新たな試みの現状を探っていく。								
学修成果到達目標	1) 自分自身の生活を営むことには、さまざまな社会の領域がかかわっているということを理解できる。 2) どのようなシステムが、個々のウェルビーイングの達成を可能にするのかを考えることができる。 3) 生活経営に関連する事象についてまとめ、考察し、発表できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	適宜資料を配布する								
参考書	『暮らしをつくりかえる生活経営力』日本家政学会生活経営学部会編(朝倉書店)、『下層化する女性たち：労働と家庭からの排除と貧困』宮本みち子ほか編(勤草書房)、『働く女子のキャリア格差』国保祥子(ちくま新書)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『「家事のしすぎ」が日本を滅ぼす』佐光紀子(光文社新書)、『ジェンダーで学ぶ生活経済論 第2版』伊藤純ほか(ミネルヴァ書房)、『「女性活躍」に翻弄される人びと』奥田祥子(光文社新書)、その他適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	発表においては、コメントします。 リアクションペーパーに対して、コメントします。								
留意事項	アクティブ・ラーニングの方法を積極的に用い、ワークショップを催し、グループワーク、プレゼンテーションの機会を設ける。受講者数や発表テーマにより、授業の順序が異なることがある。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 登録研究員								

授 業 名		生活経営学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について 生活経営とは何かについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	変わる生活実態：経済・雇用	(学修内容) 国の経済や雇用のシステムについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 新聞の経済に関する記事を読んでおく
第3回	変わる生活実態：人口・世帯	(学修内容) 人口や世帯の変化について理解し、それがどのような生活と関連するの か考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 日本の人口の変化について調べておく
第4回	生産と消費	(学修内容) 資本主義社会における生産と消費について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 資本主義とは何か調べておく
第5回	ウェルビーイングに影響を与える要因について ワークショップについて	(学修内容) ウェルビーイングの意味を理解する。またワークショップとはどのよう なことが理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「しあわせ」とはどのようなことを意味するのか考えておく
第6回	グループワーク：ワークショップの計画	(学修内容) 各グループでワークショップのテーマを設定する(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークショップのテーマの候補を考えておく
第7回	ペイドワークとアンペイドワーク	(学修内容) 労働のペイドワークとアンペイドワークの側面について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分や周りの人がペイドワークとアンペイドワークにどれほど時間を費 やしているのか調べておく
第8回	公助としての社会保障	(学修内容) 社会保障のしくみについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会保障とはどのようなものがあるか調べておく
第9回	生活経営とNPOなどの市民組織	(学修内容) 共助としてどのようなものがあるのか理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 市民組織にはどのようなものがあるか調べておく
第10回	ワークショップ：ペイドワーク マミートラックという働き方	(学修内容) ペイドワークをテーマとしたワークショップを行う(プレゼンテーシ ョン・ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークショップの準備をしておく
第11回	ワークショップ：アンペイドワーク 生活時間とアンペイドワーク	(学修内容) アンペイドワークをテーマとしたワークショップを行う(プレゼンテー ション・ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークショップの準備をしておく
第12回	ワークショップ：多様な生活経営主体 ひとり親・共働き・別姓	(学修内容) 多様な生活経営主体をテーマとしたワークショップを行う(プレゼンテ ーション・ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークショップの準備をしておく
第13回	ワークショップ：高齢期の生活 年金のしくみ	(学修内容) 高齢期の生活をテーマとしたワークショップを行う(プレゼンテーシ ョン・ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークショップの準備をしておく
第14回	ワークショップ：共助・協働 NPO	(学修内容) 共助・協働をテーマとしたワークショップを行う(プレゼンテーシ ョン・ディスカッション含む) (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークショップの準備をしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業のふりかえりをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 半期間の授業のまとめをしておく

授 業 名	家族社会学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2307
英 文 名	Family Sociology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>家族の歴史と現状、これらの課題について考える手がかりを示していきたい。多くの人が自分自身の「家族にかかわる体験」をもっている。そのため、個々が経験したり見聞きしたりすることを「当たり前」としてとらえている傾向にある。本講義では、家族にかかわる現象を理解するため、家族社会学についての基礎的な概念や家族社会学の方法を学び、家族の多様なありかたをとらえていく。グループワークなどの手法も用いながら、参加型の授業を目指したい。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 家族の多様なありかたについて理解できる。  2) データを正確に読むことができる  3) 自分自身の家族体験を相対化することができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適宜資料を配布する								
参 考 書	岩間 暁子・大和 礼子・田間 泰子 2022年『問いからはじめる家族社会学 -- 多様化する家族の包摂に向けて 改訂版』有斐閣								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項	授業の状況によって、進度と内容の順番など変更することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業後に実施します。								
実践的教育									

授 業 名		家族社会学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	家族とは何か	(学修内容) 家族の定義について考えてみる(ディスカッションを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく	
第2回	日本の家族の変化 --世帯、ライフイベント、価値観に着目して	(学修内容) 日本の家族の変化について理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第3回	近代家族の成立	(学修内容) 近代家族の成立について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第4回	家族の地域的多様性と歴史的变化	(学修内容) 家族の地域的多様性と歴史的变化について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第5回	家族と貧困	(学修内容) どのような家族が貧困状態にあるのか、とらえていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第6回	日本の生活保障の特徴とその限界	(学修内容) 日本の生活保障の特徴とその限界についてとらえていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第7回	結婚とは何か	(学修内容) 結婚に関する定義について考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第8回	未婚化・晩婚化	(学修内容) 晩婚化・未婚化の実態について考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第9回	パートナーシップの多様化	(学修内容) パートナーシップについて考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第10回	就業と家族	(学修内容) 男女で大きく異なる働き方について考察していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第11回	男女格差	(学修内容) 就業における男女の格差について考察していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第12回	少子化と戦後の日本の家族	(学修内容) 少子化の問題について考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第13回	なぜ子どもをもつのか	(学修内容) なぜ子どもをもつのかについて、考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第14回	新たな家族の像について	(学修内容) 個人、家族、親密性のゆくえについて考察していく(グループワークを含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の授業をまとめておく。	
第15回	まとめ	(学修内容) 半期間の学びの振り返りとまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 半期間のまとめをし、家族に関する自分なりの見方をまとめる。	

授 業 名	比較家族論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2318
英 文 名	Comparative Study of Family			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。ほぼ毎回グループワークを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを知ることができる。  2)家族の形と社会のあり方の関係を理解することができる。  3)子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内でコメントする。								
留 意 事 項	グループワークを重視します。積極的に発言してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授 業 名		比較家族論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家族とは何か～はじめに	(学修内容) 家族の定義について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、「家族とは何か」について考えておく
第2回	家族の起源	(学修内容) 霊長類の社会集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(学修内容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第5回	東アフリカ牧畜民	(学修内容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第6回	アフリカ農耕民	(学修内容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第7回	極北インディアン	(学修内容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第8回	イスラム圏	(学修内容) イスラム教圏における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第9回	西洋	(学修内容) 西洋キリスト教社会における家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第10回	タイ	(学修内容) 仏教圏の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第11回	韓国	(学修内容) 家父長制と儒教理念 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第12回	一妻多夫	(学修内容) 一妻多夫性の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読んでおく
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(学修内容) 家族と社会の関係・日本の家族 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく
第14回	子を育てる社会的装置	(学修内容) 子育ての比較文化論 (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく
第15回	家族とは何か～おわりに	(学修内容) 授業をふまえて家族について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 討論に備えて自分の考えをまとめておく

授 業 名	食文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2418
英 文 名	Food Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	食べ物と食べること、食物学や栄養学ではそれらの科学性を追求し、生理的な機能や発達的手段として捉えられがちである。一方、食べるという行為には、共に食べることで幸せを感じる、といった食べることをめぐる様々な現象の間の複雑な相互作用によって構築される社会文化性がある。地域社会の歴史と環境から生み出され、過去、変貌しながら伝承されてきた食文化について、世界的な視点から、また日本の状況について、総合的な観点から学んでいく。理解を深めるために適宜グループワークやディスカッションを行う。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 世界の食を取り巻く様々な課題について考える。 2) 国際的な視野から日本の食文化を捉えることができる。 3) 日本の食の特徴を理解し、紹介することができる。 4) 世界の多様な食に対する意識や価値観について学び、異文化と付き合うための基礎知識を身につける。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力・創造力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (思いやる力)				
テ キ ス ト	岡田哲・著 『食文化入門』 東京堂出版								
参 考 書	授業中に指示する								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する								
留 意 事 項	今日の食を取り巻く課題や食文化に関する情報を、異文化の食を含め、新聞記事などから積極的に得るように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業でお知らせする								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション：食文化って何だろう？	(学修内容) 授業概要説明  (事前事後学修課題の内容) (45分) 自分が住んでいる地域をはじめ、日本や世界の人々の食に対する課題について、新聞などの情報を見聞きし、興味、関心、疑問をもつ。	
第2回	世界の食を取り開く課題と食文化：食と開発	(学修内容) 世界の食を取り巻く様々な課題について学び、食を取り巻く世界の食と日本の食を考える視点を養う。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第3回	世界の食を取り巻く課題と食文化：飢餓と飽食	(学修内容) 様々な社会の側面から食を捉え、アジア諸国(インドネシア)の事例より、食を取り巻く社会課題を考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第4回	世界の食を取り巻く課題と食文化：世界の食料システム	(学修内容) 世界の食料システムというマクロの視点から、人間、食物、地域のかかわりを考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第5回	世界の食文化の発祥と伝搬：主食の確保と食べ方	(学修内容) 主作物の伝播ルートと食べ方の地域性や主食類型について学び、日本人が米を主食とすることを考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第6回	世界の食文化の発祥と伝搬：食の多様性	(学修内容) 土地や民族の違いによる食べ物や食べ方の違いについて、世界各国の地域、民族の例を用いて紹介する。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第7回	世界の食文化の発祥と伝搬：民族と米とのかかわり	(学修内容) 民族と米の関りについて、アジアやアフリカ諸国の例を参照して考える  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第8回	共食：集まって食べると、なぜ美味しい？	(学修内容) 共食することの意味や、食べ物に関わる年中行事について考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) 自分の出生地、在住地の郷土食や郷土料理について調べ、発表の準備をする。	
第9回	日本の郷土料理(発表)	(学修内容) 自分の出身地の郷土食・郷土料理について調べたことを発表する。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第10回	民族による食べ方の違い	(学修内容) 民族による食べ方の違いを知り、各国料理の発展を日本料理の発展と対比して考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第11回	各国料理の歴史と特徴：中国	(学修内容) 中国料理圏の特長について考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) 発表準備	
第12回	各国料理の歴史と特徴：ヨーロッパ	(学修内容) ヨーロッパ料理圏の特長について考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第13回	各国料理の歴史と特徴：インド	(学修内容) インド料理圏の特長について考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第14回	異文化の食べ物を理解する	(学修内容) 人種や民族の異なる食文化について、日本と同じ魚食文化をもつカナダ・北米大陸の少数民族を事例として考える  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、配布資料について調べておく。	
第15回	食の思想、授業の総括	(学修内容) 授業全体を通じた学びより、自らの食に対する意識や価値観、今後の取り組み方を考える。  (事前事後学修課題の内容) (45分) 授業全体の学びを整理する。	

授 業 名	子育て支援論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3325
英 文 名	Theory of Child-care Support			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>本講義では、保育に関する専門的知識、技術、倫理観、価値観等を基本とし、子育て支援に関する保育士の役割及び実践方法を理解できるよう様々な講義形態で学びを深めていきます。さらに保育所をはじめとする児童福祉施設や地域の中での子育て支援実践にも触れつつ、子育て支援の汎用性や実践力が習得できるよう授業を進めていきます。さらに保育士としての実務経験をいかし、具体的な事例を用いて講義を進めていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て家庭に対して、保育士の行う相談等の支援の展開方法を具体的に理解する。</li> <li>2. 子育て支援について、様々な場での展開方法や対象に合わせた支援の内容と実践方法を具体的に理解する。</li> <li>3. 子育て支援に関する保育士の役割を理解し、専門職としての倫理、知識、技術の基本事項が活用できる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	西村重稀他編集『新基本保育シリーズ 子育て支援』中央法規 2019年								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題の返却時に、課題について解説を行う。								
留 意 事 項	毎回の授業終了時にシャトルカードの提出を課す。 プレゼンテーション、グループワーク、個人ワークの成果物の提出があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了時、教室及び研究室で対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の实務経験など：児童福祉施設及び高齢者施設での実務経験あり。 保育士、社会福祉士、介護福祉士の資格を所持しています。</p>								

授 業 名	子育て支援論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの保育とともに行う保護者の支援	(学修内容) オリエンテーション(授業の進め方について) 保育所保育と家庭育児の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp2~11を読む。
第2回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係	(学修内容) 保護者との相互理解と信頼関係の形成方法について知る。ワークシートを使用し、セルフチェックする。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: テキストp14~24を読む。
第3回	保護者や家族のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解	(学修内容) 保護者の状況に配慮した個別の支援の方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: テキストp26~33を読む。
第4回	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	(学修内容) 子育て支援におけるプロセスの意義について、具体的事例を通して理解する。個別の意見の発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp36~46を読む。
第5回	支援の計画と環境の構成	(学修内容) 目標の設定、支援内容や方法の計画の方法を学び、グループワークを通して実際に立案し、プレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp48~58を読む。
第6回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	(学修内容) 支援の実践について具体的事例を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp60~70を読む。
第7回	職員間の連携・協働	(学修内容) 職員間の連携・協働の必要性について、具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp72~82を読む。
第8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	(学修内容) 社会資源の活用、関係機関の役割と連携について、学ぶ。事前学習の発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp84~94を読む。社会資源について調べる。
第9回	保育所等における支援	(学修内容) 保護者の子育てに関する悩みと相談内容等について、グループワークを通して学び、意見交換する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp96~106を読む。
第10回	地域の子育て家庭に対する支援	(学修内容) 地域での子育てニーズについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: テキストp108~118を読む。
第11回	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援	(学修内容) 障害の理解。家庭支援、子育てへの悩みや不安、について学ぶ。また、医療的ケア児の家庭の現状についても理解する。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: テキストp120~130を読む。
第12回	特別な配慮を要とする子どもおよびその家庭に対する支援	(学修内容) 家庭に特別な配慮が必要な場合の具体例と支援方法を理解する。実際の方法について、学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp132~142を読む。
第13回	子ども虐待の予防と対応	(学修内容) 子ども虐待問題の背景と経緯について理解し、早期発見の視点について理解する。虐待としつけの違いにもふれる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: p144~154を読む。事後: コラム「ステップファミリーと子ども虐待」について800字程度で考察して、次回に提出。
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援	(学修内容) 社会的養護の理解(施設養護と家庭養護)ゲストスピーカー(里親支援専門員)具体的事例を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前: テキストp156~166を読む。レポートを提出。
第15回	多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解	(学修内容) 日本の多文化共生社会の現状と政策について理解する。本授業のまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: テキストp168~178を読む。

授業名	ボランティア論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1305
英文名	Theory of Volunteer			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	一人ひとりが一人の人間として尊重され、あたりまえに生きていくことができる社会を築くためには、法律や制度の充実はもちろんのこと、市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。その参加の方法として重要な意味を持つのがボランティア・市民活動、さらにNPO活動である。本授業ではそれらの活動の意味や具体的な内容について、さらに現代社会における必要性などについて様々な角度から学習する。 授業内容やテーマに応じて適宜グループワークやまとめの発表などのアクティブラーニングも組み入れて能動的に学べるようにする。								
学修成果到達目標	1) ボランティア・市民活動の基本的な考え方を説明することができる。 2) 多様な場面でのボランティアコーディネートの必要性とその具体的な方法について理解できる。 3) 専門職と市民ボランティアとの協働のあり方を理解できる。 4) ワークキャンプ等の実践活動におけるボランティア学習について、現代社会におけるその必要性を理解し説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	使用しない 適宜プリントを配布する								
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行								
課題に対するフィードバックの方法	日常的な課題やレポートについて記載内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し適宜プレゼンテーションできるようにする。								
オフィスアワー	水曜日 昼休み								
実践的教育									

授業名	ボランティア論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・主体性・社会性	(学修内容) ボランティア活動の基本的な要素である自発性、主体性、社会性などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティアにおける自発性・主体性」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第3回	ボランティア活動の基本 自発性・主体性の根本にある思想	(学修内容) ボランティア活動の根本にある思想「ボランタリズム」について、基本的な考え方やその歴史的な変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランタリズムという思想」について、参考文献や事前配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第4回	ボランティア活動の変遷 1 欧米・日本の戦前の動向	(学修内容) イギリス、アメリカ、日本における戦前のボランティア活動について、社会福祉の変遷と関連させながらその歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「社会福祉の変遷とボランティア活動の関係性」について参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第5回	ボランティア活動の変遷 2 社会福祉協議会を中心とした活動支援の変遷	(学修内容) 社会福祉協議会を中心としたボランティア活動支援の変遷を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア活動と社会福祉協議会」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第6回	ボランティア活動の変遷 3 民間中間支援組織の活動支援の広がり	(学修内容) 社会福祉協議会とは違った民間のボランティア活動支援の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「民間ボランティア活動推進センター」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第7回	ボランティア活動の変遷 4 ボランティア・市民活動の転換期	(学修内容) ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災が大きな転換期になったことについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア活動支援の歴史的変遷」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第8回	災害支援とボランティア活動	(学修内容) 災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「災害時のボランティア活動」について、参考文献や配布プリントを読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第9回	ボランティア学習の理解 1 ワークキャンプ運動	(学修内容) ワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性和可能性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットでワークキャンプを行っている団体を3つ探し、活動内容などを調べてまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第10回	ボランティア学習の理解 2 ボランティア活動実践と学び	(学修内容) ボランティア活動に内在する学びとしてあるボランティア学習に関して、その意味と意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア学習の考え方やその内容について」参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第11回	ボランティア学習の理解 3 学びの実践事例	(学修内容) ボランティア学習の具体的な学習効果について、DVDなどの教材から理解しそれぞれの可能性や学習効果を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットからボランティア学習の実践事例を調べ、今後のボランティア学習のあり方を整理しまとめる。その日の授業を振り返る。
第12回	ボランティアコーディネートの理解 1 インターメディアリーとしてのボランティアセンター	(学修内容) ボランティアセンターの必要性とその現状について、あわせてインターメディアリーの構造について理解する理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア・コーディネート」について、参考文献や配布資料を読み整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第13回	ボランティアコーディネートの理解 2 ボランティアコーディネートの実際	(学修内容) ボランティアコーディネート実践を踏まえ、コーディネーターの役割や業務の特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「ボランティア・コーディネート」の専門性について、ここまでの話を整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめておく。
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点を考える	(学修内容) ボランティア活動のこれからの可能性について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 「今後のボランティア活動に期待されること」を、参考文献や配布資料を読み、整理しまとめておく。その日の授業を振り返りまとめる。
第15回	授業全体のまとめ	(学修内容) 全体の総括をしながら、今後のボランティア活動の在り方について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理しておく。その日の授業を振り返りまとめておく。

授 業 名	地域福祉論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2433
英 文 名	Theory of Community Welfare I			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	田中 真美			対 象 学 生	現代家政2回生				
授 業 の 概 要	<p>社会福祉法では、「地域福祉の推進について福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活ができるように、社会、経済、文化、その他、あらゆる分野の活動に参加する機会が提供される」ように目的を明言しています。</p> <p>この様に地域福祉の目的は、個人の尊厳を大切にして、福祉サービスの利用者がその有する能力を發揮し、自立した日常生活を営むことが出来るように支援するものです。</p> <p>誕生から死を迎えるまで、地域社会で生活する私たち、近年、地域包括支援システム、社会福祉法人改革、地域共生社会、地域においての高齢者問題、子どもの居場所作りなどの活動が生まれています。</p> <p>本講義では地域福祉について学び、これからの地域福祉のあり方について考え、グループワークも取り入れて、自分たちの住む地域福祉について考察する思考力を高めることを目指します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)地域に根づく福祉的な援助システム、住民自治の役割を理解出来る。</p> <p>2)地域の暮らしと住民の創意と工夫で新しい地域福祉の取り組みを考えることができる。</p> <p>3)地域福祉と私たちの暮らしの関わりが理解できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業時、適宜、資料配布する								
参 考 書	適宜紹介する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。								
留 意 事 項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	個別の質問など、授業後に受け付け、あるいはメールにも対応します。								
実 践 的 教 育									

授業名	地域福祉論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	地域福祉とは？	(学修内容) 地域福祉の理念と理論について理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活を送っている地域について整理する。
第2回	地域福祉の歴史	(学修内容) 地域福祉が生まれた背景を知り、戦前、戦後の地域福祉の進歩が理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の住む地域の地域福祉の歴史を整理する。
第3回	地域福祉と包括的支援体制	(学修内容) 2018年の改正社会福祉法で新設された体制がどの様に構築されたかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 新しい支援体制により変化する社会環境を考える。
第4回	地域福祉と権利	(学修内容) 地域福祉の重要な課題である権利擁護は、一人ひとりの権利を脅かす問題について、どのように解決するかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉と人の関わりで大切なもの考える。
第5回	地域福祉の推進方法	(学修内容) 地域福祉の機能を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのように個別に対応するのが地域で対応するのかを考える。
第6回	地域福祉を担う専門職の役割	(学修内容) 地域福祉を推進し、住民の生活課題を解決していくためには、直接、生活の困りごと、広い意味での「ケア」に携わる人の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の地域で、自分がコミュニティワーカーとして仕事をする時、最初に取り組むことを考える。
第7回	地域福祉と社会福祉協議会	(学修内容) 社会福祉協議会の役割について理解し、住民の福祉課題の活動について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の住む、地域の福祉課題について整理する。
第8回	地域福祉と地域生活移行	(学修内容) 地域移行が必要とされた背景を理解し、また、地域生活移行についての課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域生活移行の実際について整理する。
第9回	地域福祉と子育て支援	(学修内容) 子どもの権利に基づいた子育て支援が地域社会で行われることが理解出来る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域社会における子どもの権利が守られる為に大事なことを考える。
第10回	地域福祉と社会的養護と子ども達	(学修内容) 社会的養護の意味を理解し、子どもたちを地域で支える仕組み作りを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもを地域で支える取り組みについて考える。
第11回	地域福祉計画の内容	(学修内容) 2000年、社会事業法が改正され、社会福祉法が施行され、地域福祉の推進が規定され、地域福祉計画が立てられた内容を理解出来る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の住む地域の地域福祉計画を学ぶ。
第12回	地域福祉計画の実際	(学修内容) 地域福祉計画の実際の事例から具体的な地域福祉計画を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実際の事例から学んだことを整理する。
第13回	参加型地域社会の創造	(学修内容) 地域福祉における住民の主体的な参加が大切であることが理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 住民として参加することの意義を整理する。
第14回	地域福祉プランを考えてみましょう。	(学修内容) 地域福祉計画を自分自身でたててみて、具体的に理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の住む地域で自分自身がコミュニティワーカーとなり立案、整理する。
第15回	まとめ 地域福祉の課題	(学修内容) 講義を通じて、地域福祉の課題について、まとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域福祉について、学んだ内容を整理する。

授業名	高齢者福祉論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2314
英文名	Theory of Welfare for Elderly People I			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	田中 真美			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>高齢化社会を迎え、100歳以上の高齢者が8万人以上になった現状を踏まえ、また、一方で、要介護高齢者や認知症高齢者の増加と言う課題が深刻化し、このような高齢者の課題を解決し、すべての高齢者が安全、安心な生活を送るにはどうしたらよいかを考えていきましょう。</p> <p>この授業では、高齢者はどのような存在で高齢者が多くを占める社会の特性や高齢者を取り巻く社会的環境を学び、高齢者を総合的、全人的に捉えていくことを目指します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1)高齢者の定義、特性を理解する  2)高齢者に対する法律や制度を理解する  3)これからの超高齢社会に向けた課題を考える</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業時、適宜、資料配布する。								
参考書	適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。								
留意事項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。								
オフィスアワー	個別の質問など、授業後に受け付け、あるいはメールにも対応します。								
実践的教育									

授 業 名	高 齢 者 福 祉 論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	高齢者の定義	(学修内容) 高齢者について、具体的に定義内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者に対して、今までもっていたイメージを整理する。
第2回	高齢者福祉の変遷	(学修内容) 高齢者が歴史的にどのようにとらえられていたかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今までに学んだ歴史的な中に登場する高齢者について発表する。
第3回	高齢者福祉の現状と課題	(学修内容) 世界的な高齢化率第一位の日本の現状を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢化社会において、どのような問題がおきるかを考える。
第4回	高齢者の精神的な変化、疾患	(学修内容) 「老いる」ことにより、精神的な変化、疾患を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な高齢者の変化について調べる。
第5回	高齢者の生活の実際	(学修内容) 高齢者の日常の生活の実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近な高齢者の生活を具体的に聴き取りをしたりするなどをして発表する。
第6回	高齢者を取り巻く社会的環境	(学修内容) 高齢者が住む社会的環境と社会について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の住む地域が高齢者にとり住みやすい地域かどうかを再検討して考える。
第7回	介護保険制度の成り立ち、概要	(学修内容) 2000年に介護保険が初めて実施されたが、介護保険の成立の成り立ちを知り、現在の状況も理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の身近な地域の役所には介護保険課があり、自分の地域で使われている介護保険の実際を知り、まとめる。
第8回	介護保険を使う高齢者の実際－ケアマネージャの事例－	(学修内容) 介護保険を使う高齢者の実際の事例から理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 要介護の高齢者の事例を聴いて、考える。
第9回	高齢者と医療	(学修内容) 高齢者になり、病気の罹患率は高くなり、病院に入院する高齢者、高齢者を退院援助するソーシャルワークから、高齢者の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分がソーシャルワーカーとして具体的にどのように支援するのかを考え、グループディスカッションをする。
第10回	家族の変化と高齢者介護の課題	(学修内容) 家族の歴史も理解しながら、日本における家族形態の変化が高齢者問題にどのように影響を受けているかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の家族と高齢者の関わり、あるいは、自分の住む地域の中での高齢者の関わりを考え、まとめる。
第11回	老人福祉サービスと高齢者行政	(学修内容) 老人福祉サービスは、高齢者の日常を支援し、直面する問題を軽減、もしくは、解決する、その具体的な内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 老人福祉サービスを使っている身近な家族、近隣の方々にも関心を持ち、実際に調べて発表する。
第12回	認知症高齢者に対する課題－音楽療法の事例－	(学修内容) 認知症高齢者に対して音楽療法を通じて行っている事例から、認知症高齢者の特性、生活を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 認知症高齢者の特性を調べて発表する。
第13回	高齢者に対する政策	(学修内容) 高齢化社会で膨張する医療、介護費用などの問題、総合的な高齢者福祉政策などの実情を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これからの高齢者問題について、法律制度の側面を考え、自分達が高齢者になる時代の状況も予測する。
第14回	高齢者を取り巻く今後の課題について	(学修内容) 社会参加、生きがい活動などが、高齢期にとり極めて重要な課題であることなどから今後の課題について考え、理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分たちの住む地域社会で高齢者にとり、どのような活動が行われているかを調べてグループで発表する。
第15回	まとめ	(学修内容) 高齢者福祉論のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者福祉論を学んで、新たに自分が考えたことを整理する。

授業名	障害者福祉論			開講学年	2・3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3454
英文名	Theory of Welfare for Persons with Disability			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政2回生・3回生				
授業の概要	<p>障害者福祉とは、障害によって生じた生活課題を抱えながら自分の人生を生きている当事者を側面から支えていくことである。また「障害」と一口に言っても、実に多種多様なニーズが考えられる。この講義では、障害者福祉を「生活」の視点から捉えることを通して、障害をもつ人達が生活していく上で必要な援助について考えていく。つまり、障害または障害者を単に医学レベルで理解するのではなく、社会モデルとしての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」と、それを支援するソーシャルワークの視点を前提に障害者福祉について理解を深めていく。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別とソーシャルワーク等について扱っていく。単なる知識の習得だけではなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生によるディスカッションを取り入れながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 障害者福祉の歴史的展開について、社会の動向と関連づけて理解している。  2) ノーマライゼーションや自立支援、ICFといった障害者福祉の基本理念を理解している。  3) 障害をもつ人を援助する制度、施策、専門職その他を体系的に理解している。  4) ソーシャルワークの視点から障害者の生活、障害者福祉について説明できるようになる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	小澤温編『よくわかる障害者福祉 第7班』ミネルヴァ書房								
参考書	必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	前回の授業を踏まえて整理してきた質問に対しては次回の授業で解説する。レポートについては必要に応じて口頭解説しながらまたはコメントを付けて返却する。								
留意事項	随時ディスカッションを交えて授業を進めるため、積極的な発言を期待する。								
オフィスアワー	授業中に知らせる。								
実践的教育									

授業名	障害者福祉論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	障害者福祉とは何か？（導入）	（学修内容）隣接領域と比較しながら独自性を解説する。障害者あるいは障害者福祉に対するイメージを発言しクラスで共有する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションと自立支援	（学修内容）障害者福祉の基本理念について学ぶ。講義を聞き、自分の考えを発言する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、ノーマライゼーション、自立支援について自分なりに説明できるようになっておく。
第3回	障害者福祉の基本理念 リハビリテーション	（学修内容）障害、障害者の歴史の変遷とリハビリテーションの考え方について。学び、ノーマライゼーション、自立支援と並べて説明できるようになる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、リハビリテーションの具体例をいくつか挙げられるようになる。
第4回	障害者福祉の基本理念 ICF	（学修内容）ICIDHからICFへの変遷とICFの考え方について学び、ICFの各要素について具体的な内容を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、疑問点をまとめてくる。
第5回	身体障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）身体障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、身体障害の種類と生活のしづらさをノートにまとめる。
第6回	知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）知的障害児・者の生活ニーズと福祉サービスについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、知的障害、発達障害の特徴についてノートにまとめる。
第7回	精神障害児・者の生活ニーズと福祉サービス	（学修内容）精神障害児・者の基礎理解と生活のニーズについて学び、生活支援について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、精神障害の特徴について気付いたことをノートにメモしてくる。
第8回	制度とサービスの変遷に関する理解	（学修内容）歴史的経過を追い、障害者福祉の動向を学び、措置、契約、支援費制度の各時期について意見交換をしながら考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、年号と時代背景、時代の特徴について書き出しておく。
第9回	障害者総合支援法の内容 法成立までの経過と経緯	（学修内容）障害者総合支援法（障害者自立支援法）の成立背景と考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、流れとキーワードを書き出しておく。
第10回	障害者総合支援法の内容 支給決定のプロセスほか	（学修内容）障害者総合支援法の申請から支給決定（サービス等利用計画と個別支援計画など）までの流れを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、疑問点をノートにまとめておく。
第11回	障害者総合支援法の内容 自立支援給付の構成	（学修内容）障害者総合支援法の事業、サービス内容について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、各事業の特徴をノートにまとめておく。
第12回	専門職の役割と実際に関する理解	（学修内容）障害者に関わる専門職の価値・倫理について学ぶ。授業を踏まえ意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、ソーシャルワークの視点から意見をまとめておく。
第13回	障害者福祉の実際 多職種の専門性	（学修内容）障害者総合支援法に基づく支援について、主な専門職について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当項目と事前配布した資料に目を通し、他職種についてまとめておく。
第14回	障害者福祉の実際 多職種連携	（学修内容）自立支援協議会の事例を活用し、多職種連携とネットワーキングについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配布する自立支援協議会に関する資料に目を通し、疑問点をまとめておく。
第15回	障害者福祉の展望	（学修内容）講義内容を総括し、今後の在り方について考える。授業を振り返り意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの内容を確認し、疑問点を整理しておく。

授 業 名	消費科学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2319
英 文 名	Consumption Science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	三室 久枝			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現代の消費生活を取り巻く問題は、情報化、グローバル化に伴って刻々と変化し、複雑になっています。本授業では、その現状と消費者の権利・役割を理解し、トラブルの未然防止や早期解決のための基礎知識を身につけるとともに、「食」に注目して、人々の暮らし方の変化に伴う、食生活や食品流通の変化、食料消費の課題や動向を考えていきます。理解を深め、考えを発表するために、グループワークやプレゼンテーションも取り入れます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	消費生活問題の現状や消費者の権利を理解し、消費者トラブルへの対処法を説明することができる。 主要食品の流通過程の特徴や変化について、7分間程度のプレゼンテーションができる。 食生活の変化や食料消費の課題を理解し、消費や環境の観点から考えを述べることができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	(公社)日本フードスペシャリスト協会編 『四訂 食品の消費と流通』建帛社 2021年(四訂版)								
参 考 書	2022年版 『くらしの豆知識』国民生活センター								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題はコメントをつけて返却し、次回授業で解説を行います。グループワークに取り組む姿勢やプレゼンテーションについては、その時にコメント、評価します。								
留 意 事 項	消費や食をめぐる問題は社会の変化と密接に関連しているため、ニュースなど社会の動きに関心を持ち、わからない用語は調べる。予習のほか、毎回授業の初めに前回授業の知識確認チェックを実施するので復習しておくこと。特に、フードスペシャリスト資格試験受験希望者は教科書、配布資料を読み返し、理解を深めておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校の家庭科非常勤講師、消費生活センターの消費生活相談員（消費者教育含む）として勤務。								

授 業 名	消費科学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	消費生活問題の現状、成年年齢引下げ、「フードスペシャリスト」について	(学修内容)消費生活問題と成年年齢引下げのポイント、食に関連する仕事について、受講に関する注意点、 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、食生活や消費生活で関心のあることをまとめて提出。
第2回	消費者の権利と責任、契約の基本とキャッシュレス社会	(学修内容)消費者の権利と責任、契約の基礎知識、クレジットカード、電子マネーについて(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として資料を読み返し、指定されたweb教材を視聴して要点をまとめて提出。
第3回	若い世代の消費者トラブルと社会背景	(学修内容)若い世代の消費者トラブル事例と社会背景、心理、対処法について(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、国民生活センターのwebサイトで相談事例を読み、要点をまとめて提出。
第4回	消費者を守る法律と消費者行政、消費者市民社会	(学修内容)消費者関連法(消費者契約法・特定商取引法等)と消費生活センターの役割について (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として資料を読み返し、指定されたweb教材を視聴して要点をまとめて提出。
第5回	広告のルール(景品表示法等)とネットを利用した新しい形の消費	(学修内容)問題のある広告について、グループで検討し、発表。ネットを利用した新しい形の消費について調べたことを発表。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、ネットを利用した新しい形の消費の例を調べて、発表準備をする。発表後、提出。
第6回	エシカル消費とSDGs、消費者志向経営	(学修内容)エシカル消費の意味と、SDGsの取り組みや企業の動きについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、エシカル消費とSDGsについて学んだことをどう消費行動に取り入れるかをまとめて提出。
第7回	食市場の変化	(学修内容)食生活の変化をもたらした社会的要因や技術について (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、食品売り場や食卓で子どもの頃と比べて変化したと思う点を調べてまとめ、提出。
第8回	消費者の食品消費の変化と食生活の多様化	(学修内容)主要食品や加工食品の消費の変化、食生活の多様化について (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、身近にある、便利な加工食品とその特徴について調べ、まとめて提出。
第9回	食品流通の役割	(学修内容)卸売市場と食品問屋について。プレゼンテーションの説明。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、指定されたweb教材を視聴して、要点をまとめて提出。プレゼンテーションを担当したい食品の希望を提出。
第10回	食品の小売流通、食品表示	(学修内容)食品小売業、食品表示(グループワーク)について。プレゼンテーションの担当決定。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、食品の表示を調べて、学習のための食品パッケージを選び、発表準備をして持参。
第11回	外食産業・中食産業のマーチャンダイジング	(学修内容)外食産業、中食産業の仕組みや食材供給システムについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、関心のある企業のwebサイトを見て、特徴を調べ、まとめて提出。
第12回	商品特性による分類と温度帯別食品流通、主食・副食の流通	(学修内容)温度帯別流通の意味、主食・副食の食品別流通について(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表者は事前にプレゼンテーションの資料を提出し、発表後、報告を提出。それ以外は受講後、発表内容の要点をまとめて提出。
第13回	調味料、惣菜、嗜好食品の流通	(学修内容)調味料、惣菜、嗜好食品の食品別流通について(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表者は事前にプレゼンテーションの資料を提出し、発表後、報告を提出。それ以外は受講後、発表内容の要点をまとめて提出。
第14回	フードマーケティング	(学修内容)フードビジネスの動向、フードマーケティング、デジタル・マーケティングについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、デジタル・マーケティングについての考えをまとめて提出。
第15回	食料消費の課題	(学修内容)食料消費を取り巻く課題について (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、消費生活・食生活の課題について、考えをまとめて提出。

授 業 名	ライフスタイルと法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2422
英 文 名	Lifestyle and Law			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	大庭 弘継			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	日常生活において、法律を意識する機会は少ないかもしれませんが。しかし法律は日常生活を支える屋台骨であり、就職・結婚・出産・養育・老後といった私たちの人生の様々な段階で法律がかかわってきます。この講義では、人生の各段階で生じる問題を法的観点から考えていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 身近な生活のなかで法（法律）がどのような役割を果たしているかについて理解できる。 2) 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的問題として対処ができる。 3) 市民生活の諸側面を、法的観点から理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	副田隆重/浜村彰/棚村政行/武田万里子『ライフステージと法 第8版』（有斐閣） また補足資料として、プリントを毎回配布します。								
参 考 書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、その他、適宜授業中に紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポート等について、講評・コメントを行ったうえで返却します。								
留 意 事 項	講義に関連するニュースについて、適宜、受講者に発表してもらいます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授業名	ライフスタイルと法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要の説明、現代における日常生活で直面する問題と法律の関係の概要を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 本授業計画(シラバス)に目を通すとともに、関心がある法的問題を選定しておく。
第2回	労働と法(1)	(学修内容) アルバイトや就職で直面するブラック企業や賃金未払いなどの問題を、労働基準法など法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第3回	労働と法(2)	(学修内容) 生活と仕事の両立の問題について、育児介護休業法など法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第4回	消費者と法	(学修内容) 消費者契約法や特定商取引法などの消費者保護を法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第5回	不動産・事故と法	(学修内容) アパートの賃貸借契約や自動車事故などの問題を法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第6回	恋愛と法	(学修内容) 恋愛に関連する犯罪、DV(ドメスティック・バイオレンス)やストーカーなどの問題について、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第7回	結婚と法	(学修内容) 婚姻時の財産の扱いなどの問題について、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第8回	離婚と法	(学修内容) 離婚の種類や親権などについて、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第9回	出産と法	(学修内容) 出産にかかわる問題を、母体保護法やリプロダクティブ・ヘルス/ライツなどを含め、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第10回	子どもと法	(学修内容) 親権の内容や改正の動き、児童福祉法や児童虐待防止法など、子どもの権利と親の義務について、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第11回	介護と法	(学修内容) 老人福祉法や介護保険法などとともに、家族内で生じる介護の問題を、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第12回	相続と法	(学修内容) 遺産相続、遺言の効力、相続税など相続に関連する問題を、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第13回	犯罪と法	(学修内容) 犯罪に巻き込まれた場合に直面する問題について、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第14回	外国と法	(学修内容) 海外渡航に伴う問題や訪日する外国人が巻き込まれる問題について、法的側面から学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をしておく。

授 業 名	<b>社会保障論</b>			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3321
英 文 名	Theory of Social Security I			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	田中 真美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>社会保障は、私たちの人生や生活と深く関わっています。誕生し、成長し、働き、結婚をし、子育てをして、高齢期を迎え、やがて、この世を去るときまで、人生を生きる上で様々な社会保障制度が関わっています。</p> <p>病気や事故、災害、出産、子育て、障害、失業、老齢になり、生活に支援が必要になった場合でも、さまざまな社会保障制度が適用されることにより、私たちの日常生活の安定、安心の支えになります。</p> <p>社会保障の分野は極めて幅広く、制度も多岐に渡っており、また、年金や医療保険など個別の制度改正も頻繁に行われています。</p> <p>この講義では社会保障の歴史を学び、全体像を理解することを目指します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会保障の概念、対象、理念などを理解する</p> <p>2) 公的保険、民間保険制度について理解する</p> <p>3) 社会保障と私たちの関わりを理解する</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業時、適宜、資料配布する。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。								
留 意 事 項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	個別の質問など、授業後に受付け、あるいはメールにてでも対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育</p> <p>教員の実務経験など：急性期病院の医療社会事業部、医療ソーシャルワーカー</p>								

授 業 名	社会保障論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会保障の理念と機能	(学修内容) 社会保障の言葉の意味、日本国憲法とのつながりを理解して、社会保障と私たちの生活との関わりについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分が生活している中で社会保障との関わりについて考え整理する。
第2回	社会保障の歴史	(学修内容) 社会保障は、近代国家が存続することが前提であり、人々に安定した生活を保障する基礎である事を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 歴史的なことを具体的に学び、年表を作成するなど整理する。
第3回	社会保障、社会福祉の発展	(学修内容) 日本における社会保障の発展を理解し、日本型福祉と社会保障の変容を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 戦後の社会福祉の発展を整理する。
第4回	社会保障制度の仕組み、役割、機能	(学修内容) 社会保障制度の発展に伴い、さまざまな制度が創設され、役割、機能が多様化した事を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分達が生まれてから、今日までどのような制度を使ったかを整理する。
第5回	社会保障制度と生活	(学修内容) 社会保障制度を使って、自分たちが成長した過程を振り返って、理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 現在までの自分達と関わった社会保障制度、次は、これから、未来に関わる社会保障制度について整理する。
第6回	社会保障の費用、財源	(学修内容) 社会保障の費用に関する仕組みを知り、社会保障の財源がどのように確保されているかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会保障の財源と自分たちの生活の関わりを整理する。
第7回	医療保険制度の歴史と種類	(学修内容) 我が国の医療保険制度の歴史からその歩みを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の加入している医療保険の種類を調べる。
第8回	医療福祉の事例	(学修内容) 医療保険を使った医療現場に於いての医療福祉実践の事例から、医療制度の中の人のいのちについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分が当事者だったら、どう考えるか、一方、援助をする人だったらどう考えるかを整理する。
第9回	介護保険制度の概要と歴史	(学修内容) 介護保険制度は2000年に出来た新しい制度であるが、その内容を具体的に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護保険、医療保険についての違いなどを整理する。
第10回	医療、介護を巡る最近の動向	(学修内容) 社会保障の中で医療、介護の費用が膨大になり社会的な問題になっているが、近年の医療、介護を巡る実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 新聞記事やニュース報道などにおいて社会保障制度についての問題に関心をもち整理し、発表する。
第11回	社会保障制度と社会福祉制度	(学修内容) 社会福祉の各分野において行われるサービス給付や金銭給付など社会保障と深く結びついていることを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分に関わっていたり、家族が利用したりしている社会福祉制度などを整理し、グループディスカッションして意見を交換する。
第12回	社会保障と民間保険	(学修内容) 入びとが助けあう仕組みとしての社会保障は、国や自治体のサービスに加え、民間保険もその役割を担っていることを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分たちが利用している民間保険などを整理する。
第13回	社会保障と少子高齢化問題	(学修内容) 社会保障の基盤を支える若年層の労働者人口の減少は少子化問題と関わっているを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 現在の人口動態を整理する。
第14回	社会保障の今後の課題	(学修内容) 社会保障制度が出来てから半世紀が過ぎ、家族形態や社会環境の変化などによる社会保障制度の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 本講義を通じて、社会保障制度と自分の生活との関わりについて、まとめて、発表する。
第15回	まとめ	(学修内容) 社会保障Iの講義を通じてのポイントをまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 講義を通じて学んだ社会保障について、考えたことを整理する。

授 業 名	男女共同参画社会論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3323
英 文 名	Theory of Gender Equality			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	斧出 節子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	男女が共同参画しながら社会を形成していくことは、男女平等を達成するために必要であるとともに、多様な人々のウェルビーイングの達成に必要不可欠なことである。グローバル化、脱工業化といった社会の仕組みが変化するにしたがって、なぜ男女共同参画が重要となってくるのかを、ジェンダー・人権という視点を基底におきながら考える。男女共同参画の現状は諸領域においてどのような状況であるのかを検証し、これからの課題を探る。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本社会の男女共同参画の現状について、国際動向に照らし合わせながら理解できる。 2) 受講生一人一人が、男女共同参画社会の担い手になる自覚をもつことができる。 3) 具体的な課題を設定し、その課題解決に向けての提言ができるようになる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)								
参 考 書	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公男ほか(有斐閣アルマ)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか(有斐閣)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『男女共同参画白書』(内閣府)、『女性活躍に翻弄される人々』奥田祥子(光文社新書)、『最後の講義 完成版』上野千鶴子ほか(主婦の友社)、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角(光文社新書)、『生き延びるための思想』上野千鶴子(岩波現代新書)、『女性活躍に翻弄される人びと』奥田祥子(光文社新書)、そのほか適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションに対して、コメントします。								
留 意 事 項	ジェンダー論を履修しておくことが望ましい。参加型の授業を目指すので、グループワークやディスカッションを多く取り入れる。また、グループワークの状況により授業内容の順序を入れ替えることがある。授業内での積極的な発言を求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪市立高校教諭(家庭科・保健科) 大阪市阿倍野保健所非常勤心理相談員 (財)21世紀ひょうご創造協会 兵庫県家庭問題研究所非常勤嘱託研究員 (公財)京都市男女共同参画推進協会 理事長 (公財)世界人権研究センター 登録研究員								

授 業 名	男女共同参画社会論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 男女共同参画とは	(学修内容)男女共同参画社会・男女平等とは何かについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの目次をみて全体の構成を把握しておく。
第2回	ジェンダーの多様性	(学修内容)ジェンダーという概念について確認する。ディスカッションも含む。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第3回	メディアのなかの男女共同参画	(学修内容)メディアが男女共同参画に与える影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第4回	広告分析(グループワーク)	(学修内容)グループごとに現在の広告について男女共同参画の視点から分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第5回	広告分析のグループ発表	(学修内容)各グループごとに広告分析の結果を発表する(プレゼンテーション、ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第6回	教育における男女共同参画	(学修内容)教科書における男女共同参画について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第7回	教科書分析(グループワーク)	(学修内容)男女共同参画の視点からスウェーデンの小学校・中学校の教科書について分析する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第8回	教科書分析のプレゼンテーション	(学修内容)前回の分析についてプレゼンテーションを行う(プレゼンテーション、ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第9回	法律と男女共同参画	(学修内容)法律における男女共同参画の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第10回	司法における男女共同参画の実態	(学修内容)司法における男女共同参画の課題について考える(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第11回	雇用における男女共同参画	(学修内容)雇用に関する法律の成立過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第12回	雇用に関連する法制度の現状	(学修内容)雇用関連の法制度について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの該当箇所を読んでおく。
第13回	家族における男女共同参画	(学修内容)家族内での労働の現状と課題について理解する(ディスカッション含む)。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読んでおく。
第14回	政治分野における男女共同参画	(学修内容)政治分野における男女共同参画について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 政党のマニフェストを調べておく。
第15回	男女共同参画社会に向けて:全体のまとめと振り返り	(学修内容)これまでのまとめと振り返りをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業全体を振り返っておく。

授 業 名	社会調査の基礎			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2311
英 文 名	Basics of Social Survey			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授 業 の 概 要	<p>&lt; 授業の概要 &gt;</p> <p>社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することを目的とする。社会調査の歴史の変遷を押さえながら、その意義と目的、調査方法としての「量的調査」（全数調査・標本調査・横断調査・縦断調査等）、「質的調査」（観察法・面接法等）の基本をふまえ、社会調査の方法（郵送法、留め置き法、訪問聴き取り法等）とその活用方法（社会福祉サービスの再考、社会福祉計画の策定等）について、実際の調査例をまじえながら概観する。講義形式の授業を通して、社会調査の倫理、社会調査における個人情報保護の重要性についても説明する。また、授業において、データセットの方法などデータ整理の実習も進めていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 社会調査の種類や方法・手順が理解できる。</p> <p>2) 調査設計の流れが理解できる。</p> <p>3) 新聞などマスコミが公表している調査結果の妥当性など検討することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート	I C T 活用（双方向型授業）	グループワーク	I C T 活用（自主学習支援）			プレゼンテーション	
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技		平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (			)
テ キ ス ト	授業にて、適宜資料を配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項	積極的・主体的な学習参加を期待する（受講者の状況や授業の進展の程度により、データ分析に関する実習を増やしていく）。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	社会調査の基礎	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容について確認する。
第2回	社会調査の目的と意義について 社会調査にできることについて説明します。	(学修内容) 社会調査の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査どんなものか』P15-27の内容を整理してみる。
第3回	社会調査の倫理について	(学修内容) 社会調査における倫理について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などでおこなわれるアンケート調査など収集してみる。
第4回	社会調査の歴史 質的調査・量的調査の展開過程について	(学修内容) 社会調査の歴史について説明し、質的・量的調査は、どのように展開していったのか説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料『社会調査はどんなものか』P27-P39の内容を整理してみる。
第5回	社会調査の種類 目的による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査はどうやってやるか」P41 53の内容を整理してみる。
第6回	社会調査の種類 方法による分類について--量的調査?	(学修内容) アンケート調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「社会調査はどうやってやるか」P53 61の内容を整理してみる。
第7回	社会調査の種類 方法による分類について--質的調査?	(学修内容) インタビューなど質的調査について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 友人や家族にインタビューをしてみる。
第8回	社会調査の種類 統計的研究について	(学修内容) 統計的な検定の考え方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料「統計的な考え方」を読んでおく。
第9回	社会調査の種類 事例研究について	(学修内容) 事例研究について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 対象を決めて、「どのようなことを調べてみるか」、調査計画をたててみる。
第10回	社会調査の種類 調査対象による分類について?	(学修内容) 社会調査の3つの方法の組み合わせ方などについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さらに詳しい自分の調査計画をたててみる。
第11回	実習：聞き取り調査の方法と手順	(学修内容) インタビューの方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 雑誌・新聞などのインタビュー記事を集めてくる。
第12回	実習：統計データを加工する	(学修内容) 統計データへのアクセスの仕方と加工について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 総務統計局のホームページに入り、興味のあるデータを集めてみる。
第13回	実習：アンケート調査の方法と手順	(学修内容) アンケート調査の方法と手順について実習します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞の世論調査の記事など、きちんとサンプリングされているアンケート調査を収集する。
第14回	実習：質問文の作成	(学修内容) アンケートにおけるワーディングの問題について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまで行われたアンケートを参照しながら、アンケートの構成を念頭において、質問文を作成する。
第15回	実習：アンケートの作成	(学修内容) アンケート調査について大事なポイントを整理していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問の順番やワーディングの問題など確認しながら、アンケートの作成を進めていく。

授 業 名	消費者調査法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3324
英 文 名	Consumer Survey			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	石川 智子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	消費者を取り巻く状況が大きく変化しているなかで、行政、企業、大学など様々なところで消費および消費者に関する調査が行われています。本授業では、消費および消費者に関する調査事例を通して、社会調査に重要な調査設計や調査方法、サンプリングの諸方法、実施方法などを理解することを目的とします。理解を深めるため、講義だけではなく、グループディスカッション、グループワークなども取り入れながら、消費者への調査票調査の検討も行います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調査設計の流れと調査設計の重要性を説明できる。 2) 調査方法、サンプリングの方法、実施方法を説明できる 3) 実査後のデータ整理について説明できる。 4) 既存の調査を調査設計の観点から考察することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	授業内に適宜資料を配布します。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては確認して返却します。								
留 意 事 項	日頃から新聞やインターネットなどで掲載されている調査や調査結果に関心を持つようになしてください。コロナ感染状況などにより、グループディスカッション、グループワークが変更になることがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	質問など、何かあれば授業後に聞いてください。								
実践的教育									

授業名	消費者調査法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認しておく。
第2回	消費および消費者に関する社会調査と調査目的	(学修内容) 消費および消費者に関する様々な調査を取り上げ、社会調査の目的について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 消費および消費者に関する調査をネットや新聞等で調べてくる。
第3回	調査企画・調査設計	(学修内容) 調査企画および調査設計の流れについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題のテーマから調査に必要な基礎資料や先行研究を収集してくる。
第4回	調査設計と仮説(グループディスカッション)	(学修内容) 調査設計における仮説を説明し、グループディスカッションをします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 調査設計における仮説の重要性をまとめ提出する。
第5回	社会調査の調査方法	(学修内容) 質的調査および量的調査とそれらの具体的手法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 質的調査および量的調査のメリット・デメリットをまとめ提出する。
第6回	調査対象者の選定	(学修内容) 全数調査と標本調査、標本数と誤差、サンプリングの方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 社会調査で公表されている調査票を収集する。
第7回	調査票調査の調査票	(学修内容) 調査票の表紙部、質問本体部、フェイスシートの作り方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題に対する質問文を考えて提出する。
第8回	社会調査の実施方法	(学修内容) 調査票調査およびインタビュー調査の実施方法を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 公表されている社会調査を調査方法、抽出方法、実施方法などの項目に整理し提出する。
第9回	調査票調査のデータ整理	(学修内容) 調査票調査の実施後のデータ整理と基本的な分析について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 既存の消費および消費者に関する調査を設定した項目ごとに整理し提出する。
第10回	報告書の作成と社会調査の課題	(学修内容) 報告書の作成を説明するとともに社会調査の課題を考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 消費者に関する調査報告書の内容を調べてくる。
第11回	消費者の実態と消費者を取り巻く社会状況について	(学修内容) 現在の消費者がおかれている状況を様々なデータをもとに説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 消費者に調査したい内容を考え、それに関連する資料を収集しておく。
第12回	調査票調査の調査設計(グループワーク)	(学修内容) グループごとに消費者に関する調査票調査の調査設計をします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 調査票の調査項目を考えてくる。
第13回	調査票の作成(グループワーク・実習)	(学修内容) グループごとに調査項目、質問・回答形式を検討し、調査票を作成します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループの調査票の担当部分を完成させる。
第14回	調査の実施(プリテスト・実習)	(学修内容) 作成した調査票の予備調査をします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各々のグループの調査票の感想および改善点を提出する。
第15回	総括	(学修内容) 社会調査の重要事項を振り返ります。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を振り返っておく。

授業名	経営学総論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1411
英文名	Outline of Business Administration			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	大谷 和海			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>本講座では、受講生がはじめて経営学を学ぶことを意識して、経営学入門テキストを利用しわかりやすく講義をするようにとめます。具体的には、経営学の対象である企業事例を利用し、現代の企業経営の概要を把握する。テキストとスライドを用いて授業を展開します。受講者には、積極的な授業参加を期待します。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 企業とは何か、特に株式会社の特徴や企業経営の特徴について理解し、説明することができる。  2) 組織を運営・管理するための体系と関連する理論を理解する。  3) 企業や組織の運営・管理について、意見提言できる力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	上林憲雄ほか著『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス								
参考書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	制作物に関しては、課題発見・解決能力の観点から評価を伝える。また、プレゼンテーション等の口述に関しては、発表後に評価を伝えます。								
留意事項	経営学に関する基本的な知識・理解をもとに、積極的な授業参加のもと、Q & Aの力や、プレゼンテーション能力を身につけてもらいます。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	経営学総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：経営学と現代家政学、経営学とはどんな学問か、会社の経営とはどんなことが（企業経営入門）（補章、第1章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第2回	会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業）（第2章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第3回	会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス）（第3章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第4回	会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略）（第4章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第5回	会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態）（第5章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第6回	会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係）（第6章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第7回	会社はどのようにしてモノを造るのか（生産管理）（第7章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第8回	社員は仕事をどのように分担しているのか（職務構造と職務設計）（第8章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第9回	社員はなぜ働くのか（モチベーションとリーダーシップ）（第9章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第10回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのか（雇用システム）（第10章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第11回	社員はどのような報酬を求めるのか（報酬制度）（第11章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第12回	社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度）（第12章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第13回	会社はどのようにして商品を提供するのか（マーケティング）（第13章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第14回	会社は海外でどのようにして経営しているのか（国際経営）（第14章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。
第15回	会社の利益はどのようにして測定するのか（会計制度）（第15章）	（学修内容）講義を注意深く聴き、スライド内容を参考に理解を進めてください。メモをとり、まとめる能力を同時に養ってください。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前にテキストの指定部分を精読しておいてください。また、講義後はテキストの演習課題に取り組んでください。

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1303
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会と言われているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。グループワークの回以外においても、各回、自分で考え、それを書く時間を設けます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができる。  2) 現代のライフスタイルを客観的に見ることができる。  3) 環境に関するデータを読むことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題(ミニツペーパー)にも、その成果を出せるようにする。(受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります)。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容と進め方について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。	
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(学修内容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください。	
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(学修内容) 現代における環境問題を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください。	
第4回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください。	
第5回	開発と環境問題の歴史	(学修内容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください。	
第6回	グループワーク：開発と環境問題の現状に関して考察する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第7回	地球環境問題	(学修内容) 地球環境問題の概要について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第8回	グループワーク：地球環境問題を整理する。	(学修内容) 授業で習ったことを適用・応用し、グループワークで、地球環境問題の整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで、異なった意見などを整理してみる。	
第9回	リスク社会	(学修内容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください。	
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(学修内容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください。	
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(学修内容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、消費のありかたについて整理してみてください。	
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(学修内容) 生物多様性の問題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の問題について調べてきてください。	
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(学修内容) 豊岡市の事例について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください。	
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(学修内容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください。	
第15回	グループワーク：循環型社会の形成に向けて考察する。	(学修内容) 総括として、グループワークで循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの内容を整理する(整理するポイントは授業時に説明する)。	

授業名	現代企業論			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3457
英文名	Theory of Modern Company			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	村上 紗央里			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	現代社会において、私たちの生活はさまざまな企業によって支えられています。「企業で働く」という視点と近年企業経営において重視されている「Sustainable Development Goals : SDGs (持続可能な開発目標)」という視点を含めながら、これからの社会における企業のあり方と私たちの生活の関係について考えていきます。授業ではペアやグループ、教室全体でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて学びます。								
学修成果到達目標	現代企業の特徴と課題について理解できる。 現代企業の経済活動による社会や個人への影響について考え述べることができる。 現代企業と私たちの生活の関係について「企業で働く」という視点や「SDGs」と関連づけ考え、述べることができる。 他者と協働して、現代企業の問題や労働環境について議論することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	必要に応じて関連する書籍や資料を紹介します。								
参考書	必要に応じて随時紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留意事項	授業では、グループワークを積極的に取り入れます。グループワークを円滑に進めるためにも、お互いのことを知ることから始めます。第1回から第5回の授業では、授業の最初にチェック・イン(近況や今の状況について簡単に紹介)を行い、グループワークなどのアクティブ・ラーニングに慣れるように進めていきます。								
オフィスアワー	毎回の授業後に実施します。								
実践的教育									

授業名	現代企業論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(学修内容) 授業のねらいと進め方について紹介、講師及び受講生の自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容について確認すること
第2回	企業とは何か	(学修内容) 企業の目的と役割から企業とは何かを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第3回	現代企業の諸形態、株式会社とは	(学修内容) 企業形態と株式会社の仕組みと株式投資について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第4回	企業と社会	(学修内容) 企業と社会の関係について、SDGsを踏まえ考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第5回	企業とCSR	(学修内容) 企業のCSRについて歴史の変遷と新動向について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第6回	企業と労働、女性の労働環境	(学修内容) 企業における雇用形態や従業員の労働環境について近年の情勢を踏まえ学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第7回	地域と企業	(学修内容) 京都市の企業が地域に果たす役割について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第8回	グローバル化と企業	(学修内容) 国境を超える企業活動、多国籍企業について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第9回	企業分析 1	(学修内容) 企業経営を分析する枠組みについて学び、具体的に企業を取り上げ分析する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第10回	企業分析 2	(学修内容) 企業経営を分析する枠組みについて学び、具体的に企業を取り上げ発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第11回	企業で働くこと 1	(学修内容) 企業で働くために必要な力として、産業界が学生に求める資質や知識、社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第12回	企業で働くこと 2	(学修内容) 女性の働き方と働き方改革について歴史の変遷を踏まえながら、具体的な事例を通じて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のまとめをすること
第13回	グループによる発表(準備)	(学修内容) 現代企業論の授業で学んだことを踏まえ、関心のある企業についてグループを作りパワーポイントを使って発表する準備を行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 事例発表の準備
第14回	グループによる発表	(学修内容) 現代企業論の授業で学んだことを踏まえ、関心ある企業についてパワーポイントを使ってグループで発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ発表を通じて学んだことをまとめること
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	(学修内容) これまでの授業内容を振り返り、授業で学んだことについて述べる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に授業で学んだことをまとめること

授 業 名	保育内容（環境）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3446
英 文 名	Child Care : Environment			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 瞳			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>他の校種に先駆け、幼稚園では平成30年度より新幼稚園教育要領が施行され、「幼児期の終わりに育みたい10の力」を育てるための「環境」をどのように構成するのか、保育者一人ひとりの力量が問われている。</p> <p>保育内容・環境は5領域のひとつであり、自然や数量、標識など日常生活にあるさまざまなものと子どもの生活につなげ、子どもたちの生活をよりよいものにするためにはどのような指導・援助が必要なのかを考える領域である。</p> <p>たとえば、指導案を考える時の「環境構成」であったり、子どもたちが十分に遊びに没頭できるために、保育者はどのような配慮が必要なのか、保育者に求められる資質能力は年々高くなっている。</p> <p>この授業では、幼稚園および保育所で活動する上で必要な保育内容環境のねらい及び内容を踏まえ、幼児の活動を支える上で必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などを理解できることを目的としている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。</p> <p>2) 1を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。</p> <p>3) 保育内容環境のねらい及び内容を踏まえた活動指導案を作成することができる。</p> <p>4) みずから作成した指導案にもとづき、それらの活動を実践することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	近藤幹生監修 徳安敦・瀧川光治著・編 『生活事例からはじめる保育内容環境』（青踏社）								
参 考 書	文部科学省 『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省 『保育所保育指針』（フレーベル館）								
課題に対する フィードバック の方法	提出された小レポートは適宜フィードバックを行う。								
留 意 事 項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動事例をとりあげ、教材研究や体験を通し学生達自身で深め、レジュメなどに簡潔にまとめ、発表する。 授業の後半ではグループごとに環境を前提とした指導案を作成し、ほとんどのグループに5分程度の活動を実践発表してもらおう。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回目の授業にて告知。								
実践的教育									

授 業 名	保育内容（環境）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「環境」とは	（学修内容）授業の進め方の説明・人と環境との関わりを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.12-14に目を通し、環境についての小レポートをまとめる（事後）
第2回	幼児教育において育みたい資質・能力として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「環境」	（学修内容）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における改訂の趣旨と領域「環境」について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.34-39を参考に教育要領と保育指針の改訂の特徴をまとめる
第3回	子どもの環境と保育者	（学修内容）環境への積極的なかかわりのあそびと子どもについて考え、意見交換をする （事前事後学修課題の内容）（60分） 境領域の発表の準備及び話し合いをする
第4回	子どもの活動や生活と「環境」	（学修内容）乳幼児の発達と環境のかかわりについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 幼稚園教育要領および保育所保育指針の「環境」の該当部分を読み、特徴をまとめておく
第5回	乳幼児の主體的な生活と「環境」	（学修内容）乳幼児の主體的な生活と領域「環境」とのかかわりについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.21-26を読み、環境を通して行う保育の重要性についてまとめる
第6回	園外活動によって育つもの	（学修内容）散歩、遠足、社会見学などのねらい、保育者の留意点 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.118-129を参考に園外保育の重要性についてまとめる
第7回	季節による保育活動	（学修内容）身近な植物と保育活動でのかかわり （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.129-134を参考に季節を取り入れた保育について考える
第8回	身近な動物と保育活動	（学修内容）身近な動物の飼育など子どもとのかかわり、保育活動について調べて発表する （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書p.111-116をもとに動物とのかかわりについて考える
第9回	環境を前提とした指導案の作成 指導案の作成	（学修内容）グループで環境を前提とした指導案を作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 季節や動植物など、子どもたちの発達や園の環境を前提とした指導案についてグループで考える
第10回	環境を前提とした指導案の作成 指導案のチェック	（学修内容）グループで提出された指導案の添削を行い、指導案を修正する （事前事後学修課題の内容）（60分） 修正された指導案の内容を考える
第11回	環境を前提とした指導案の作成 教材を考える	（学修内容）指導案で考えた教材を実際に作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案で想定される制作物を作成する
第12回	環境を前提とした指導案の作成 教材チェック	（学修内容）作成した教材を提出し、子どもたちの発達状況や季節に沿ったものかどうか検証する （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導を受けた教材の工夫を増やす
第13回	環境を前提とした模擬保育の実践	（学修内容）これまでの指導案および教材をもとに1グループ5分程度の模擬保育を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬保育での課題をまとめる
第14回	環境を前提とした模擬保育の実践	（学修内容）これまでの指導案および教材をもとに1グループ5分程度の模擬保育を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬保育での課題をまとめる
第15回	環境を通して子どもたちの保育を考える	（学修内容）領域「環境」と保育の関係性について振り返る （事前事後学修課題の内容）（60分） 15回の授業を振り返る小レポートを作成する

授 業 名	人間福祉論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1302
英 文 名	Theory of Human Welfare			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会におけるわたしたちの暮らしを、少子化、高齢化、子育て、障害、社会保障などの視点から切り込んでいながら、社会福祉の役割について考えます。社会福祉の歴史的社会的必然性、社会福祉の研究対象となる対象・主体・方法、社会福祉制度の概要について、社会福祉に関する法律に基づきながら理解をします。そのため、一方的な講義ではなくグループディスカッションなどを交えながら進めることとなります。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 時事問題に目を向け、授業との関連性を認識できるようになる。 2) わたしたちの暮らしにおいて社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) 社会福祉の主体・対象・方法について理解し、説明ができるようになる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	テキストは、ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2022』を使用します ただし、社会福祉士受験資格取得を目指す学生については、秋学期『現代社会と福祉』において使用するテキストを併せて購入することを推奨します。 (最新)社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第4巻『社会福祉の原理と政策』中央法規								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却します。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行います。								
留 意 事 項	履修人数によっては、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れながら進めていく。 平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名	人間福祉論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 講義の進め方、概要、評価方法について説明をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「社会福祉」に対するイメージについて考える。
第2回	現代社会の様相と諸課題	(学修内容) データから見た現代社会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 人口動態について調べておくこと。
第3回	社会福祉と人間	(学修内容) 人間とは、社会とは、福祉とは、について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自で「人間」「社会」「福祉」について考えておくこと。
第4回	日本における社会福祉の歴史? ~ 古代・中世 ~	(学修内容) 古代・中世の事象を取り上げながら、現代に生かすことのできる福祉実践について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 聖徳太子、行基、叡尊、忍性について調べておくこと。
第5回	日本における社会福祉の歴史 ~ 近世 ~	(学修内容) 近世の事象を取り上げながら、現代に生かすことのできる福祉実践について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幕藩体制、往生伝、臨終行儀について調べておくこと。
第6回	日本における社会福祉の歴史? ~ 明治・大正・昭和 ~	(学修内容) 明治期から戦前までの歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に自己学修の内容については説明をする。
第7回	子ども家庭福祉の現状と課題? ~ 子どもの権利 ~	(学修内容) 子どもの権利について社会課題とともに考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 子どもの権利条約、児童虐待防止法など権利擁護に関する法制度について調べておくこと。
第8回	子ども家庭福祉の現状と課題? ~ 保育現場が抱える課題 ~	(学修内容) 障がいのある子どもが保育・教育を受けることができるのかについてビデオを鑑賞しながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 障がいのある子どもの保育や教育について考えておくこと。
第9回	高齢者福祉の現状と課題? ~ 介護保険制度 ~	(学修内容) 介護保険制度の成立過程と諸課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 介護保険制度について調べておくこと。
第10回	高齢者福祉の現状と課題? ~ 施設が抱える課題 ~	(学修内容) 高齢者の施設が抱える課題についてビデオを鑑賞しながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 高齢者施設の種類とそのサービス内容について調べておくこと。
第11回	障害者福祉の現状と課題? ~ 制度の概要と課題 ~	(学修内容) 障害者福祉に関する制度の概要とその課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 障害者福祉に関する制度や障害の種類について調べておくこと。
第12回	障害者福祉の現状と課題? ~ 障害者の子育て ~	(学修内容) 障害者に子育ては可能なのか、ビデオを鑑賞しながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 障害の種類によってどのような生活困難が起きるのかについて、各自で考え、ノートに記述しておくこと。
第13回	社会福祉専門職と倫理	(学修内容) 社会福祉の専門機関とその資格について学び、専門性と倫理について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会福祉に関する専門機関と社会福祉専門職について調べておくこと。
第14回	ソーシャルワークの意味とその方法	(学修内容) ソーシャルワークの意味について整理し、その展開過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ソーシャルワークについてどのような種類があるのかを調べておくこと。
第15回	社会福祉のこれから ~ 豊かな生の充実に向けて ~	(学修内容) ビデオを鑑賞しながら、社会福祉の果たす役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 新聞や雑誌等から今日の話題をつかむ。

授 業 名	室内デザイン実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3322
英 文 名	Interior Design Training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	快適な室内空間を上げるために必要な知識を学び、それらを具体的な形にする力を身につける。床、壁、カーテンなどの住空間のデザイン、家具や照明など室内で使用されるモノのデザインについて実習を通して学ぶ。生活するうえで大切な場である住いを総合的にデザインし、さまざまな状況にある生活者にとって豊かな室内空間を創出する力を養う。製図と模型の制作などの実習をおこなう。2年時の「住空間とインテリア実習」にも関連する授業である。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な室内空間の仕組みが理解できる。 2) 簡易な部屋を設計できる力を身につけることができる。 3) 簡単な模型を作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートならびに作成した作品(図面・模型・プレゼンテーションボード)を回収後、良い点・悪い点を含めた評価コメントを記し、各受講生に返却する。								
留 意 事 項	簡単な製図道具ならびに模型制作道具が必要。現地見学がある								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	室内デザイン実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 室内デザイン実習を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容の確認
第2回	寸法体系	(学修内容) 寸法体系の話・畳の大きさ (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第3回	部屋の構成	(学修内容) 部屋の仕組み (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第4回	床・壁・天井の仕上げと素材	(学修内容) 室内の仕上げ・教室内で実地見学 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおく
第5回	家具	(学修内容) 家具の種類と特質 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第6回	室内環境工学	(学修内容) 室内と採光・換気・空調・騒音の関係 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおく
第7回	現地見学1住宅	(学修内容) 優れた室内空間の見学 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の住宅についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第8回	インテリア製図・平面図	(学修内容) 室内のプランニングの理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第9回	インテリア製図・展開図	(学修内容) 室内の立体方向の図面の理解と図面作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第10回	インテリア・パース作図	(学修内容) 室内の完成予想図の作成 (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第11回	模型制作1	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第12回	模型制作2	(学修内容) スチレンボードで室内の模型の制作 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模型道具の使い方に慣れる
第13回	現地見学2店舗	(学修内容) 優れた商業空間の見学 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 見学先の建物についての確認とカメラ・メジャーなどの用意
第14回	部屋の設計	(学修内容) 与えられた条件で部屋の内部空間の設計 (事前事後学修課題の内容) (45分) プリントを読んでおくことと製図道具などの用意
第15回	設計作品の発表ならびに講評	(学修内容) プレゼンテーションと講評会 ICT活用 (事前事後学修課題の内容) (120分) プレゼンテーションの準備

授業名	家庭工学演習			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3455
英文名	Home Engineering Practice			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	住まいの安全ならびに設備・機器について基礎科学を学ぶ。近代生活は電気・ガス・水道なくしてはなりたらず、近年はあらかじめ設備計画に基づいて設備はビルトイン化している。そのためにそのしくみを知ることは重要である。また電気・ガス・水道に繋がれたそれらの機器類や家庭内の電化製品は生活上、大きな役割を果たしている。この授業では設備の工学ならびに、家庭生活に必要な電気・機械工学の基礎知識を習得し、機器類の安全な取り扱い方法から機器の適切な活用法など、能率的な生活の維持ができる技術を学習する。ビデオをみたりプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 住宅内の電気・ガス・給排水の仕組みを理解できる。 2) 用いられる電化機器の科学的内容を理解できる。 3) 理想的な設備計画の提案をおこなうことができる。 4) 住まいの安全を総合的に考えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	授業中に配布								
参考書	飯野秋成『図とキーワードで学ぶ 建築設備』学芸出版社 柏木博『日用品の文化誌』(岩波新書)								
課題に対するフィードバックの方法	課題レポートを回収後、各自にコメントをつけて返す。								
留意事項	住宅見学を実施する。								
オフィスアワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出をしていただければ対応します。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授業名	家庭工学演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	家庭工学演習を学ぶ意義	(学修内容) 家庭工学演習ガイダンス (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	住まいの性能1安全	(学修内容) 安全耐震・火災・防犯 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第3回	住まいの性能2設備	(学修内容) 給排水・電気・ガス・照明計画 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第4回	設備図面	(学修内容) 設備図面の読解ならびに簡単な作図 (事前事後学修課題の内容) (60分) 定規類
第5回	家庭の電気と安全性	(学修内容) 屋内電気配線・感電防止・安全マークなどを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第6回	現地見学1 市街地の町家	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ
第7回	空調機器・家庭の機器	(学修内容) エアコン・冷蔵庫・洗濯機などのしくみを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習と自宅の様態を観察、製品の使用書を確認
第8回	照明のシステムと器具	(学修内容) 照明器具の種類と選択のポイント (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第9回	給排水システムと器具	(学修内容) 湯沸かし機器・給湯システム・排水システム (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第10回	現地見学2 郊外型住宅	(学修内容) 京都市内の住宅の内部見学 (事前事後学修課題の内容) (90分) 見学先の住宅についての事前調査と方眼紙とメジャー、カメラなどの使い方を学ぶ方眼紙とメジャー、カメラなど
第11回	インテリア材料	(学修内容) インテリア材料に要求される性能を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第12回	ヘルシーハウジングに向けて	(学修内容) シックハウス症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を事前学習
第13回	望ましい住まいの設備計画(1)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第14回	望ましい住まいの設備計画(2)	(学修内容) 与えられた条件で設備計画をおこなう (事前事後学修課題の内容) (60分) 製図道具の用意
第15回	計画作品の発表ならびに講評とディスカッション	(学修内容) プレゼンテーションと講評会、ディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自がプレゼンテーションできる用意、ディスカッションの準備

授業名	販売論			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3790
英文名	Sales Theory			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	本下 真次			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>商品・サービスを取引する行為は貨幣経済が始まる前、物々交換の時代から続いています。講義では、販売の歴史、販売と営業の違い、マーケティングとの関係などの理論と事例を学び、販売を実践する上での基礎知識を身につけます。また、近年のデジタル・トランスフォーメーション（DX）と言われる環境変化や、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取り組みの中で、販売をどのように変革するかについてグループワークやディスカッションを行いながら考えます。</p>								
学修成果到達目標	<p>(1)販売の概念、理論を理解し、説明することができる。  (2)販売革新の事例について分析することができる。  (3)企業の販売活動を考察し、見解を述べるすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (販売におけるDX・SDGsの課題認識)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	授業中に適宜紹介します。								
参考書	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング 第4版』（碩学舎,2019年） 『ハーバード・ビジネス・レビュー 営業論文ベスト11 営業の教科書』（ダイヤモンド社,2019年） 中西正雄・登坂一博編著『顧客価値創造型営業への進化 新たな営業戦略の論理と実践』（JTB能力開発,2010年） 佐藤善信・脇穂積・本下真次編著『営業学入門』（同文館出版,2022年（夏出版予定）） この他、授業中に適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	発表は授業内で適宜講評、レポートはコメントをつけて返却します。								
留意事項	講義形式が基本ですが、知識を得るだけでなく、皆で考える授業です。予習復習はもちろん、普段からテレビ、新聞、インターネットなどで企業のニュースに関心を持ち、授業で発言、質問することで理解を深めましょう。								
オフィスアワー	毎回の授業前後に実施する。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実際経験など：広告制作会社での営業、営業マネジメント経験、さらに自身が設立したベンチャー企業における経営全般の実際経験をもとに、販売について実践的に解説します。								

授業名	販売論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	販売とは何か	(学修内容)モノやサービスを売るという行為と意味について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品・サービスについて調べておく。
第2回	販売の歴史	(学修内容)販売の歴史的背景について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 江戸時代の商人の活動について調べておく。
第3回	販売の理論	(学修内容)販売の理論の系譜について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 企業が行う販売の管理方法について考えておく。
第4回	販売とマーケティング	(学修内容)販売とマーケティングの関係について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 販売とマーケティングの関係について考えておく。
第5回	販売と営業	(学修内容)販売と営業の違いについて解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 販売と営業の違いについて考えておく。
第6回	競争戦略と販売	(学修内容)マーケティングのSTPについて解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 競合していると思われるブランドについて調べておく。
第7回	マーケティングミックスと販売	(学修内容)マーケティングミックスの4Pと4Cについて解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 競合していると思われる商品について調べておく。
第8回	製品と販売	(学修内容)製品と販売の関係について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品の開発背景について調べておく。
第9回	価格と販売	(学修内容)価格と販売の関係について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある商品の価格について調べておく。
第10回	流通と販売	(学修内容)流通経路の選択・管理と販売の関係について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 店舗販売と通信販売の違いについて考えておく。
第11回	販売促進と販売	(学修内容)広告、プロモーションと販売の関係について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 興味・関心のある広告について調べておく。
第12回	販売組織と販売担当者	(学修内容)販売組織、販売担当者の実態と課題について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 販売に関わる組織や人員について調べておく。
第13回	販売環境の変化	(学修内容)インターネット、SNSの普及が販売に与えた影響について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) SNSから販売に繋げる事例について調べておく。
第14回	これからの販売	(学修内容)デジタル化やSDGs達成推進が販売に与える影響について解説します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 販売の未来について考えておく。
第15回	まとめ	(学修内容)これまでの講義内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの授業の総復習をしておく。

授業名	子どもの食と栄養 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2440
英文名	Infant Nutrition			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	ロシニョーリ 正代			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	小児にとって食生活は単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本演習では、食生活に関する基本的な知識や小児の食生活の問題点などについて学び、実習やグループ討議などを通じて望ましい小児の食生活について理解していく。小児が望ましい食生活を営むことができる力をつけていくための食育の進め方などについても考えていく。								
学修成果到達目標	1) 栄養に関する基礎的事項について理解できる。 2) 小児の食生活のありかたについて正しく理解できる。 3) 子どもたちに食育していくことのできる力をもつ。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思いやる力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	『子どもの食と栄養演習』 建帛社 最新版								
参考書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストやレポートについては、返却時に理解が深まるように解説を行う。								
留意事項	子どもの発達を復習して臨み、食育を保育という広い視点でとらえるように。								
オフィスアワー	授業始まりにお知らせします。来る際は事前にメールで知らせてください。 また、授業の後に質問を受けつけます。								
実践的教育									

授業名	子どもの食と栄養 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食の重要性について	(学修内容) 授業の進め方についての説明および「食べる」ことの重要性についてグループで話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の食生活を振り返っておく
第2回	子どもの健康と食生活	(学修内容) 子どもの健康と心身の発育・発達における食生活の役割について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 大人と子どもの食の違いについて考えておく。教科書p1-2を読んでおく
第3回	栄養の基礎知識 糖質、脂質、タンパク質	(学修内容) 糖質、脂質、タンパク質の種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの食生活の重要性について復習しておく。教科書p11-16を読んでおく
第4回	栄養の基礎知識 ビタミン、ミネラル	(学修内容) ビタミン、ミネラルの種類とその役割について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p16-21を読んでおく
第5回	栄養の基礎知識 食事摂取基準、食構成、献立作成	(学修内容) 必要な栄養素をどのように考えて充足するかについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 栄養素について復習しておく、教科書p34-40を読んでおく
第6回	乳児期の栄養の特性	(学修内容) 乳児期の栄養の留意点などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p41-60を読んでおく
第7回	乳汁栄養の特徴	(学修内容) 母乳栄養、人工栄養の特徴について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p72-92を読んでおく
第8回	離乳の進め方	(学修内容) 離乳の必要性和授乳・離乳の支援ガイドについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p92-114を読んでおく 離乳各期にふさわしい調理例についてまとめておく
第9回	離乳食の実際(実習含む)	(学修内容) 離乳食の進め方と留意点について、調理例を実際に見て違いなどを学んでいく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p199-202を読んでおく、市販のベビーフードを観察しておく ベビーフードの長所と短所についてまとめておく
第10回	幼児期の栄養の特性	(学修内容) 幼児の食事摂取基準と食構成および献立作成時の留意点 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p114-126を読んでおく 幼児期に食べにくい食べ物についてまとめておく
第11回	幼児期の食生活の実際(実習含む)	(学修内容) 幼児期の食生活におけるおやつ的重要性、内容などについてグループで話し合い発表し、適切な内容・量・与え方などを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p122,128の演習をやってみる 咀嚼力をつけるための取り組みについて考えてみる
第12回	幼児期の食生活上の問題点、学童期の食生活	(学修内容) 幼児期の偏食、遊び食べなどの問題行動および学童期の食の留意点について、グループで話し合い対応策などを発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p126-134を読んで幼児期の問題行動の原因について、さらに教科書p140-143を読んで学童期の留意点について考えておく
第13回	特別な配慮を要する子どもの食生活の実際	(学修内容) 食物アレルギーや疾病のある子どもへの対応、障害のある子どもへの対応について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p183-198を読んでおく 食物アレルギーを持つ子供への対応について考えておく
第14回	児童福祉施設における食事	(学修内容) 児童福祉施設で提供される食事について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p172-182を読んでおく 給食の役割についてまとめる
第15回	食育計画	(学修内容) 幼児につけてあげたい力を理解し、食育指導計画をたてる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p154-164、保育所保育指針・保育所における食育に関する指針などを読み直しておく

授 業 名	保育内容（造形表現）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2435
英 文 名	Child Care : the Formative Arts for Expressions			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	造形表現の様々な演習を通して造形的感性、表現力、創造力などを養い、用具や材料に関する知識や技能の向上を図る授業です。また、学修を通して子どもの表現活動の指導・支援について考察する機会でもあります。個人の創作活動だけでなく相互の助言、グループでの協働の取り組みやプレゼンテーションなど様々なアプローチで学修を深めるようにします。描く、形に表すにとどまらず、試す、完成したのから新しい表現や遊びを展開するなど直接体験し学びます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 授業の取り組みで自ら考えて表現する、ねらいをもとに試したり表現を工夫したりする。 2) 友だちからのアドバイスを自身の表現に生かすことができる。友だちの表現に適切な助言をすることができる。 3) 授業の取り組みから子どもの姿を想定し、表現力を育てる指導・支援のあり方について考察することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	樋口一成編『幼児造形の基礎』（萌文書林）2018年（1回生春学期「子どもの図画工作」で購入のものを使用）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	共同制作やなどの取り組みについては教員がその都度口頭で評価する。 表現活動の取り組みや鑑賞に関する受講生のコメントをプリントするなどクラス全体で学修の成果を共有できるようにする。								
留 意 事 項	1) 普段から造形表現とつながりのある「遊び」や「美術」に関心を持つようにすること。 2) 汚れを気にしなくても良い、活動しやすい服装・持ち物で受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。（担当授業の前を希望する場合は事前に連絡をすること）								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など：</b> 京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与								

授 業 名		保育内容（造形表現）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 造形表現について	（学修内容）造形表現について、本科目の概要と学修の意義を知る。履修上の留意事項。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P9-P48）「幼児造形」の部分を目を通しておく。
第2回	材料体験：ねんど遊び	（学修内容）小麦粉でねんどをつくり、触感を確かめたり遊んだりするとともに、子どもの造形について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P74-P75）に目を通しておく。 ねんどを持ち帰り材料の変化を確認する。
第3回	触覚を重視した描画活動	（学修内容）自分で絵の具をつくり、フィンガーペインティングで身体全体を使って大きな画面に描く。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P108-P109,P112）に目を通しておく。
第4回	身近材による立体造形 ～友達とつくるタワー～	（学修内容）新聞紙を用いたタワー（立体表現）づくりに挑む(共同で考えて一つのものをつくる) （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料に目を通しておく。
第5回	多様な平面表現 ～凸凹を写し取る（フロッターージュ）～	（学修内容）もの、場所の凸凹を発見しフロッターージュで紙に写し取る。重ねたりずらしたりして新しい平面の表現を工夫する。（ペアで活動する） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P128-P129）に目を通しておく。
第6回	多様な平面表現 ～前回の制作物によるコラージュの制作～	（学修内容）フロッターージュの作品をもとにアイデアを練り、構成して貼り絵（コラージュ）の作品に仕上げる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P128-P129,P130-P131）に目を通しておく。
第7回	鑑賞体験 ～そぞろ歩きながら鑑賞～	（学修内容）そぞろ歩きながら、校内のまわりを観察し、いろいろな場面を造形的にとらえる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料に目を通し、テーマを考えておく。
第8回	鑑賞体験 ～そぞろ歩きながら鑑賞～	（学修内容）そぞろ歩きながら鑑賞をまとめ、パワーポイントを作成する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 造形的にとらえた写真を準備し、プレゼンテーション内容を考えておく。
第9回	森の贈りもの ～自然材を使って～	（学修内容）自然材（木片・枝・葉・実など）準備し、つくるものを考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P166-P169）に目を通しておく。
第10回	森の贈りもの ～自然材を使って～	（学修内容）自然材（木片・枝・葉・実など）で作品をつくる。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P166-P169）に目を通しておく。
第11回	森の贈りもの ～自然材を使って～（鑑賞会）	（学修内容）作品を学内の空間を利用して設置し、鑑賞する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 作品のプレゼンテーションが出来るように準備しておく。
第12回	紙を使って ～動くおもちゃづくり～	（学修内容）動く仕組みを使った動くおもちゃづくりをする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P142-P143）に目を通しておく。
第13回	紙を使って ～動くおもちゃづくり～	（学修内容）動く仕組みを使った動くおもちゃづくりをする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト（P144-P145）に目を通しておく。
第14回	紙を使って ～動くおもちゃづくり～	（学修内容）動く仕組みを使った動くおもちゃづくりをする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配付資料に目を通しておく
第15回	「保育内容(造形表現)」学修のまとめ	（学修内容）各自の授業の振り返りと指導者のまとめ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自身の授業の取り組みを振り返っておく。

授 業 名	保育内容（音楽表現）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3458
英 文 名	Child Care : Musical Expression			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子・坂口 みゆき			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	子どもの生活の様々な表現活動を音楽の側面から支援する意義と方法について学ぶ。音（楽）あそびの実践等を通し、乳幼児の豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる保育者となるための指導法を習得する。このため、グループによる実践発表とそれに対するディスカッションを交えながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現について理解することができる。 2) 領域（表現）に含まれる様々な音楽的表現と、造形およびリズムの表現との有機的関連性について理解することができる。 3) 音楽的表現を伴った模擬保育を通して、発達に応じた実践方法および援助方法を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 感性と実践力豊かな保育者へ』 萌文書林								
参 考 書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 文部科学省								
課題に対する フィードバック の方法	授業課題に対して理解度確認のための小レポートを課し、回収後、学生にコメントをつけて返却する。グループ発表に関しては発表後に全員が無記名でコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。シートは回収した後コメントの再共有を授業で行い、その後発表したグループに返却する。								
留 意 事 項	グループでの実践発表を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実 践 的 教 育									

授業名	保育内容（音楽表現）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業計画について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	鍵盤和声復習	（学修内容）歌唱の伴奏パターンの復習 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調の主要3和音を復習しておくこと。
第3回	鍵盤和声実践演習・小試験	（学修内容）主要3和音の復習を踏まえた歌唱伴奏付けの演習（和音進行の把握）・和声・非和声音の把握 （事前事後学修課題の内容）（60分） 鍵盤和声の予習・復習をしておくこと。
第4回	保育実践における手あそびとその展開	（学修内容）手あそびとそのバリエーションについて。導入から展開方法について （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として、今まで習得した手あそびとその展開方法について思い出し、実践できるよう準備しておくこと。
第5回	簡易楽器を使った合奏と楽器の活用	（学修内容）鈴・カスタネット等の簡易楽器を用いた合奏とその活用のバリエーションについて （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.114 - 123 「各簡易楽器の基本的持ち方や奏法」に関する小レポートを作成し、提出すること。
第6回	音あそび	（学修内容）様々な音素材を扱った音あそびについて（ICT機器の使用含む） （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め、楽器以外の身の回りの音素材を探し、授業時に持参すること。
第7回	歌唱を使った音楽あそび（基礎）	（学修内容）幼児に歌唱を使った音楽あそびを指導をする際の流れ・留意点等について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第8回	歌唱を使った音楽あそび（応用）	（学修内容）歌唱指導教材の年齢別検討について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストp.34 「指導計画の立案とその考え方」を再度読み返し、返却された小レポートを再構成して提出すること。
第9回	歌唱を使った音楽あそび（発展）	（学修内容）歌唱指導の指導案の作成について （事前事後学修課題の内容）（60分） p.40-「音楽的表現の活動」を読み、小レポートを作成して提出すること。
第10回	歌唱を使った音楽あそび発表（基礎）	（学修内容）基本的な指導の流れを踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表準備をしておくこと。
第11回	歌唱を使った音楽あそび発表（応用）	（学修内容）第1回目の発表を踏まえた歌唱指導の発表 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。 歌唱指導小レポートを作成して提出すること。
第12回	歌唱を使った音楽あそび発表（発展）	（学修内容）第2回目の発表を踏まえたグループ発表・小討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと。
第13回	その他音楽あそびの展開の可能性と実践	（学修内容）その他種々の音楽あそびの可能性とその実践方法について。（ICT機器の使用含む） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回授業での留意点を踏まえた発表準備をしておくこと
第14回	その他音楽あそび（討議）	（学修内容）全ての発表を終えてのグループディスカッション・クラスでの全体討議 （事前事後学修課題の内容）（60分） 個別グループでの実践発表の反省点をまとめたレポートを作成し、提出すること。
第15回	まとめ	（学修内容）音楽表現指導に関する総括（レポートを踏まえた振り返り） （事前事後学修課題の内容）（60分） 実践発表および授業全体の総合的な振り返りをしておくこと。

授 業 名	保育内容（健康）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3445
英 文 名	Child Care : Health			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	子どもにとって健康は、健全な成長・発達に必要なものである。心身の健康に関する領域「健康」の意義を理解し、子どもの健康増進と健やかな育ちを支援するための保育と教育のあり様を学ぶ。就学後(小学校入学後)の教育へつなげる乳幼児保育・教育を意識できるよう観点について学習する。また家庭や地域における子どもの現状、乳幼児の生活行動や生活習慣の確立と健康教育について学習する。学びを深めるために、適宜、グループワークやディスカッションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容が言える。 乳幼児の成長・発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣の指導など子どもの健康を保障するための具体的方法を理解できる。 子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たす役割について説明できる。 現代の子どもの健康を取り巻く諸問題を知る。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	河邊貴子・吉田伊津美・内田裕子・金澤妙子・鈴木康弘「演習保育内容健康」建帛社								
参 考 書	秋田喜代美・三宅茂夫 監、國土将平・上田恵子 編「シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康」株式会社みらい 無藤隆・倉持清美「事例で学ぶ保育内容 <領域>健康」萌文書林 その他は適宜提示。								
課題に対する フィードバック の方法	課題や小テストは解答後に解答もしくは解説を表示。								
留 意 事 項	教科書とノート持参で受講してください。子どもの健康や育ちに関心を持ち、健康増進と健やかな育ちを支援するための保育・幼児教育の中で求められる観点を身につける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業ガイダンスで案内。								
実践的教育									

授 業 名	保育内容（健康）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 乳幼児の健康、安全な生活とふさわしい生活と保育者の役割	（学修内容）授業ガイダンス。乳幼児の健康、安全な生活とふさわしい生活と保育者の役割について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書の該当箇所を読み子どもにとっての健康、保育の中での保健活動の意義を考えておく。第1章
第2回	子どもの身体的発育発達と健康	（学修内容）子どもの身体的発育発達と健康について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み身体的発達過程を整理しておく。第2章
第3回	子どもの生理的機能発達と健康	（学修内容）子どもの生理的機能の発達と健康について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み生理機能の発達過程を整理しておく。第2章
第4回	乳幼児期の運動（0～2歳児の運動発達と環境）	（学修内容）乳幼児期の運動（1～2歳児の運動発達と環境）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容と教科書の該当箇所を読み3歳未満児の発達特徴を復習しておく。第3章1
第5回	乳幼児期の運動（3歳以上児の運動発達と環境）、現代の子どもの現状	（学修内容）乳幼児期の運動（3歳以上児の運動発達と環境）、現代の子どもの現状について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み3歳以上児の発達特徴を復習しておく。第3章2
第6回	乳幼児期の安全管理（ケガや事故の実態、予防と安全教育）	（学修内容）乳幼児期の安全管理（ケガや事故の実態、予防と安全教育）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み保育場での安全を考えておく。第4章
第7回	乳幼児の生活習慣の形成と環境（排泄、睡眠）	（学修内容）乳幼児の生活習慣の形成と環境（排泄、睡眠）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み生活行動の自立時期を整理する。第4章
第8回	乳幼児の生活習慣の形成と環境（食事、生活）	（学修内容）乳幼児の生活習慣の形成と環境（食事、生活）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 「子どもの保健」の学修内容の復習と教科書の該当箇所を読み生活行動の自立時期を整理する。第4章
第9回	乳幼児期の遊びと運動	（学修内容）乳幼児期の遊びと運動について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読み子どもにとっての運動の意義を理解しておく。第6章
第10回	乳幼児期の生活と食（食育、アレルギー）	（学修内容）乳幼児期の生活と食（食育、アレルギー）について学ぶ。食の安全について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書の該当箇所を読み乳幼児の食の大切さについて考えておく。第7章
第11回	領域「健康」の理解	（学修内容）領域「健康」について学び理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書の該当箇所を読み領域「健康」についてねらいや内容を知っておく。第8章
第12回	領域「健康」をめぐる現状の課題	（学修内容）領域「健康」をめぐる現状の課題について知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書を読み子どもを取り巻く現状と領域「健康」の留意点、保育者の役割を考える。第9章
第13回	指導計画・指導案の作成と保育の展開	（学修内容）指導計画・指導案の作成と保育の展開について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読みこれまで自分が書いた指導案・計画書を見直してみる。第10章
第14回	指導案作成の視点	（学修内容）指導案作成の視点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当箇所を読み立案の流れと考える時の視点や留意点を挙げてみる。第9章
第15回	全体の振り返り 定期試験の案内	（学修内容）全体の振り返り、保育の現場で活かしたいことについて考える。定期試験の案内。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 全体を復習しまとめておく。（60分）

授 業 名	保育内容（人間関係）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2436
英 文 名	Child Care : Human Relations			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	現在、子どものコミュニケーション能力の不足や自制心の不足などが指摘されている。人との関わる力の問題には、社会や家庭のあり方が関わっている。このような状況の中、乳幼児期の子どもたちの保育を担う幼稚園や保育所の役割は大きいものとなっている。ここでは、様々な体験を通して、人と関わる力をつけていくことができるような保育や親等との愛着関係、その他、親子関係を構築するための保護者支援について学ぶ。グループで相互交流をして、考え、思考について相互理解を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育領域としての「人間関係」の基本原則を理解することができる。 2) 体験を通して成長、発達する子どもたちの人間関係について理解することができる。 3) 家庭の変容から子どもたちの成長、発達において、人間関係をどのように獲得していくかを理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	小櫃智子・谷口明子編著『新版 実践 保育内容シリーズ2 人間関係』一藝社、2018年								
参 考 書	授業中に、随時、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題レポートは、返却時し解説する。								
留 意 事 項	3回のレポート提出、ミニレポート（授業内で数回）を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をする。在室の時は可能である。（Gメール等で流石まで、連絡をお願いします。予定を調整して連絡します。）								
実践的教育									

授 業 名	保育内容（人間関係）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育の基本	（学修内容）保育とは何かについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト9頁から18頁を読み、理解しておく。
第2回	領域「人間関係」	（学修内容）領域「人間関係」とは何かについて、ねらいと内容を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト19頁から28頁を読み、理解しておく。
第3回	新生児の「人への関心」	（学修内容）赤ちゃんが持つ優れた能力について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト29頁から37頁までを読み、理解しておく。
第4回	人との関係の始まり	（学修内容）人から情報を得ることについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト38頁から47頁を読み、理解しておく。
第5回	人との関わりの基盤	（学修内容）アタッチメント関係の形成について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト48頁から56頁を読み、理解しておく。事後：「アタッチメントについて」レポート 800字程度でまとめ、次の授業で提出。
第6回	自我の発達	（学修内容）自我の発達によって獲得されるものと保育者との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前：テキスト57頁から66頁を読み、理解しておく。この時間にレポートを提出する。
第7回	道徳性の芽生え	（学修内容）道徳性の定義と発達を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト67頁から76頁までを読み、理解しておく。事後：P72-73の事例を読み考察し、レポート 800字程度にして提出。
第8回	思いやりと社会性の発達	（学修内容）思いやりの心理と行動、共感性の発達について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 事前：テキスト77頁から85頁までを読み、理解しておく。この時間に、レポートを提出。
第9回	家族との関わり	（学修内容）依存と自立、家庭の中で身につける様々なルールについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト86頁から95頁までを読み、理解しておく。
第10回	保育者との関わり	（学修内容）子どもを送迎等における保育者とのかわりや、日々の保育について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト96頁から105頁までを読み、理解しておく。
第11回	遊びの中での関わりの育ち	（学修内容）遊びの発達と人との関わりについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト106頁から116頁までを読み、理解しておく。
第12回	友達との関わり	（学修内容）友達との関わりの発達過程について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト117頁から126頁までを読み、理解しておく。
第13回	関わりが「気になる子」	（学修内容）特別な支援を必要とする子どもについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：テキスト127頁から135頁までを読み、理解しておく。
第14回	関わりの育ちを支える	（学修内容）親子の関係づくりを支援することについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前：136頁から145頁を理解しておく。事後：レポート「連絡帳」を作成する。保育士から親あて。800字程度で、次の授業で提出。
第15回	領域「人間関係」の新しい課題	（学修内容）「人間関係」の授業を受け、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（50分） 事前：テキスト146頁から154頁までを読み、この時間にレポートを提出。

授 業 名	保育内容（言葉）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3447
英 文 名	Child Care : Language			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	ことばの特性を理解した上で、乳幼児期のことばの発達に基づいて、保育の留意点を解説する。その上で、絵本、ことばあそび、紙芝居、劇遊びなどの展開について体験的に学び、授業を進めていく。劇遊びについては、実際に上演することで、ものがたりの内容を深く理解し、劇をつくりあげる楽しさを実感できるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	西川由紀子 子どもの思いにこころをよせて 0 . 1 . 2 歳児の発達 かもがわ出版 西川由紀子 かかわりあって育つ子どもたち 2 歳から 5 歳の発達と保育 かもがわ出版 文部科学省『幼稚園教育要領』厚生労働省『保育所保育指針』								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	課題の成果やレポートについては、授業で発表や紹介などしながら解説する。質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の初回に連絡する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育内容（言葉）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ことばとは何か	（学修内容）ことばのもつ機能について解説し、授業の展開を説明する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） シラバスを読んでおく。
第2回	0歳、1歳、2歳児のことばの発達	（学修内容）0歳、1歳、2歳児のことばの発達を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の0歳、1歳、2歳、の2歳の部分のことばの発達の部分を読んでくる。
第3回	3歳、4歳、5歳児のことばの発達	（学修内容）3歳、4歳、5歳児のことばの発達を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の3歳、4歳、5歳児のことばの発達の解説部分を読んでくる。
第4回	絵本の楽しみ 絵の楽しさ	（学修内容）子どもの視点に立って、絵本を見る経験をし、絵本の楽しさを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） さまざまな絵本を見てくる。
第5回	絵本の楽しみ 絵本の特徴を考える	（学修内容）絵本の特徴を、他のメディアとの比較から捉え、絵本の楽しさを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 絵本の基本的な読み方について考えておく。
第6回	書きことばの世界の展開	（学修内容）幼児にとっての文字の魅力を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） の4歳、5歳児のことばの解説部分を読んでくる。
第7回	ことばあそび	（学修内容）おはなしづくり、しりとりをはじめとする、さまざまなことばあそびを体験しながら、幼児にとってのことばあそびの意義を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） ことばあそびについて、振り返ってくる。
第8回	絵本読みの実際	（学修内容）小グループで読み聞かせの体験をし、絵本の読み方のコツをつかむ。 （事前事後学修課題の内容）（90分） 自分が子どもの頃好きだった絵本を探し出し、絵本紹介のレポートを作成し、読み聞かせをする練習をしてくる。
第9回	紙芝居の読み方	（学修内容）紙芝居の読み方の基本を解説する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 紙芝居を聞いた経験を振り返ってくる。
第10回	教材研究の方法・指導案の作成	（学修内容）絵本や紙芝居の読み取りをどのように深めていくかを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 興味のある絵本や紙芝居を探し出し、読み深めてくる。
第11回	劇遊び 3歳児	（学修内容）3歳児の劇遊びのビデオ鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 3歳児の発達について復習しておく。
第12回	劇遊び 4歳児	（学修内容）4歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、子どもの好きな物語創作のポイントを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 4歳児の発達について復習しておく。
第13回	劇遊び 5歳児	（学修内容）5歳児の劇遊びのビデオを鑑賞し、保育における絵本の活用について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 5歳児の発達について復習しておく。
第14回	劇あそびの実際	（学修内容）小グループで劇をつくり上演する。 （事前事後学修課題の内容）（180分） 小グループで劇を練習してくる。
第15回	ビデオ画像による模擬保育のふりかえり	（学修内容）劇発表会を通して感じた、ものがたりの力、演じる楽しさを確認し、保育でたいせつにすべきことを解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表会の振り返りをレポートとしてまとめてくる。

授業名	キャリア教育			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	GE2208
英文名	Career Design			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	竹本 記子			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	現在の雇用・労働を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、個人の選択肢も多様化し、それに伴ってチャンスとリスクも拡大する傾向にある。同時に、企業組織と従業員個人の関係も変化してきており、かつてのような「会社任せ」ではなく、自ら主体的に自分自身のキャリアをデザインしながら、その目標に向かって学習と経験を積み重ねていくことが必要になっている。そのためには大学生活の中で学びや経験を積み重ねながら、働き方や生き方を模索し、意志決定していくことが必要となります。本講義では自分自身や社会について考える機会を知識と情報を提供すると共に、自ら気づき、研究する。社会がどのような人材を求めているのかに気づき、社会から求められる人材になるためには今何をしたら良いかをキャリア理論を通じて自分のキャリアを切り拓く手がかりを得ます。「考える」ことが基本ですので、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを含んだ内容です。								
学修成果到達目標	1)自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2)自分の大学生活の送り方について明確な意識と進路実現に向けた具体的な行動計画を立てることができる。 3)進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 4)課題解決に向けて自主的に、また、仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して臨むことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (グループワークでの貢献度)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	適宜ワークシートや資料またはデータを配布します。 データの配布はGoogle classroomを使って行いますので必ず確認してください。								
参考書	授業時に随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で振り返りレポートやワークシートなどを提出します。提出を求める課題に対して、授業中での講評、あるいは、適宜、コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。グループでのプレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に全体やグループへコメントを返します。								
留意事項	必ずキャリアデザイン専用のノート(1冊)・グループワークなどで使用するための裏写りしない黒の水性のペンを準備してください。ノートは授業中に書き込みながら進め提出を求めることがあります。職場で求められる対人関係に関する基本的な力を習得をめざしているため、授業中にグループワークをおこないます。多くの受講生と対話できるワークを実施するので積極的に関わりを持ってください(対人関係など配慮事項のある受講生は早めに相談してください)。毎回の授業時にふりかえりシートやプリントを配布します。授業担当の指示をよく聴き適切に提出してください。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の業務経験など：企業や行政・教育機関でのファシリテーションを活用した、対話の場づくり(各種モチベーションアップやダイバーシティ&インクルージョンなどのヒューマンスキル研修・ワークショップ企画・運営)や大学生や社会人に対するキャリア開発や大学生や社会人の学び交流機会も数多く実施している。特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会理事・会長								

授 業 名	キャリア教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・学生と社会人の違い	(学修内容)オリエンテーション授業の目的と趣旨、内容をイメージする、シラバス全体の説明と学生と社会人の違いについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:シラバスを読み、授業の概要を把握する 事後:授業で学んだことを周囲の社会人と話をする
第2回	キャリアデザインと社会求められる能力	(学修内容)キャリアデザインと社会のキャリアの潮流を理解する。社会に求められる能力データとともに考える。社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:社会人に求められる能力とはなにかを考えてくる 事後:配布資料「社会人基礎力シート」を完成させる
第3回	社会求められる能力を高める	(学修内容)コミュニケーションの重要性・コミュニケーションについてコミュニケーションスタイル診断を参考に個人ワークおよびグループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料社会人基礎力シートを他者に見せてコメントをもらう 診断の結果を他者に伝えてコメントをもらう
第4回	キャリアデザインのための自己理解1	(学修内容)自己分析とワークを通じて、自己認識を深めると共に自分の高め方・活かし方について理解する。私の大切にしていること価値観の共有 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定されたテーマについて考えてくる 私の大切にしていること価値観から気づいたことをノートにまとめる
第5回	キャリアデザインのための自己理解2	(学修内容)「相互理解・共有」のスキルアップからインタビューを通じて自己理解を深める。聴く、質問することの重要性を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:授業で気づいた発見は、どんな経験があるのかノートにまとめる
第6回	チームから学ぶ社会と組織1	(学修内容)グループワークを実施し、チーム力の検証に加えて、個人と協同の違いを体感する。展開力・要約力・プレゼン力の強化も図る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:チームの中の自分の役割はいつもどんな役割だったか考えてくる 事後:配布資料
第7回	チームから学ぶ社会と組織2	(学修内容)グループワークを実施し、個人と協同の違いを体感する。グループワークに必要な合意形成・要約力・プレゼン力の強化も図る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:チームでの討議をうまく進めるための工夫点について記入
第8回	キャリア理論と自分の弱みを強みに変える	(学修内容)キャリア理論を知ることで自分のキャリアデザインのヒントにする。リフレームにより、弱みを強みに変える方法でものの見方・視野を広げる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについて考えてくる 事後:3つ以上のリフレームを私生活で実施してノートに記入
第9回	自分の強みを活かした自己紹介・自己効力感	(学修内容)ビジネス場面で使用される文書の構成と表現方法を取り上げる。今学んだ論理構成で自己PRを書いてみる。質問力を強化する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:ここまでの授業を活かし、自分の強みや自己PRを書いてくる 事後:学んだ論理構成を活かして自己PRを完成させる
第10回	社会の中で働くことの意義社会・業界・職種を知る	(学修内容)働くことの意義について実際に働く人の人生から学ぶ。質問力向上する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定された内容について調べて質問を考えてくる 事後:興味を持ったことを調べてノートにまとめる
第11回	社会・業界・職種を知る	(学修内容)社会について知るためには多くの情報ツールがある。情報をどう選択し集めるのか。視野を広げるヒントを得る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:気になるニュースを調べておくこと 事後:次回授業までに気になる企業・団体・組織を調べてくる
第12回	職場や社会人の理解	(学修内容)各自が興味をもつ企業や団体等について調べた結果、どのような情報が入手でき、何が入手しにくいかを考えます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:いくつかの企業や団体のHPを閲覧し、調べておくこと 事後:配布資料「行動計画表」を次回までに完成させ提出
第13回	目標設定と表現スキルを高める	(学修内容)ビジネス場面で使用される目標設定の仕方、伝えるように伝えるための論理構成を活かす (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:配布資料「目標設定シート」を完成させる
第14回	自分らしいキャリアデザイン	(学修内容)話の組み立てと表現方法を学ぶ。実際に役立てるための視点を考えます プレゼンテーションで伝える (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:「指定されたテーマについてノートにまとめてくる 事後:プレゼンテーションについての振り返りをまとめておく
第15回	まとめ・私のキャリアデザイン	(学修内容)キャリアデザイン全体の振り返り、授業全体のまとめを行う。自己成長について具体的に。キャリアをデザインするための計画をする (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:理解できた点、不十分である点がどこであるかを振り返っておく 事後:最終レポート作成に向けて、どのように生かせるかをまとめる

授業名	統計学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2421
英文名	Statistics			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の基礎的な知識をまじえながら、基本統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、サンプリングと統計的な検定の原理や、分散、相関に関する分析手法について解説する。すべての授業を通じて、具体例を用いて作業しながら学べるよう心がける。なお、この授業内容は、秋学期に開講予定の「統計」と連続している。本授業で、統計の基本的なルールを理解した上で、「統計」においては統計を研究や仕事の場面で活用できるよう実践的な力を伸ばすため応用的な課題を自ら解決する態度がもとめられる。								
学修成果到達目標	1) テキスト内に紹介されている活用事例を通して、統計の基本的な考え方やルールを説明することができる 2) 統計処理ソフト（Excel）を用いて、自ら、統計の分析ができるようになる。 3) 統計の分析の結果をグラフや表などで視覚化できる。また、分析結果に対して考察を加えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜、資料を配布する。								
参考書	授業の進捗に合わせて、適宜、参考となる書籍や記事などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留意事項	初回到授業の進め方の詳細を提示するので必ず出席すること（受講者の状況によって、進度・内容を調整することがあります）。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	統計学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業を進める手順と、統計データの集め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでくる。
第2回	平均・度数分布	(学修内容) Excelを用いて平均値を求め、度数分布表の作成ができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、平均値を求め、度数分布表を作成してみる。
第3回	分散と標準偏差	(学修内容) 数字のばらつきの意味を説明でき、標準偏差を算出することができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、自分で標準偏差を出してみる。
第4回	標本と推定値	(学修内容) 推定値の意味が説明できるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに推定値を出してみる。
第5回	区間推定と信頼区間	(学修内容) 信頼区間を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、信頼区間を出してみる。
第6回	相関	(学修内容) 相関に関する統計的な考え方を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するクロス集計表の説明をする。
第7回	相関係数	(学修内容) 相関係数を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに相関係数を求めてみる。
第8回	統計的検定 : 帰無仮説	(学修内容) 統計的分析における仮説の立て方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとにクロス集計表を作成し、帰無仮説と対立仮説をたててみる。
第9回	統計的検定 : 2群の平均値の差の検定	(学修内容) tの値を求めることができる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、tの値をもとめてみる。
第10回	統計的検定 : 独立性の検定	(学修内容) カイ二乗値を求めることができるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに、カイ二乗値をもとめてみる。
第11回	分散分析 (1要因)	(学修内容) 1要因の分散分析を説明できる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに1要因の分散分析を試してみる。
第12回	分散分析 (2要因)	(学修内容) 2要因の分散分析を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 集めた統計データをもとに2要因の分散分析を試してみる。
第13回	分散分析のまとめ	(学修内容) 分散分析に関する復習をおこなう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでおこなってきた分散分析の結果を見直し、まわりに分かりやすく伝えられるように整理する。
第14回	科学的研究の方法	(学修内容) 仮説検証の手順など整理していく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでくる。
第15回	総括	(学修内容) これまでのことをふりかえる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時の意見交換を踏まえレポート試験を準備する。

授 業 名	教育相談（家庭・栄養）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC4796
英 文 名	School Counseling			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	現代家政4回生、食物栄養4回生				
授業の概要	<p>教育現場では現代社会の多様性や急激な変化を背景にしたさまざまな課題が生じている。児童・生徒の教育的ニーズを把握し、問題への理解を深め、解決への糸口を探ることは重要なことになっている。教育相談では児童・生徒の心理的成長を図り、問題解決への道筋を図りながら成長発達をめざすことが必要である。この授業では、教育相談における心理学的アプローチを学び、児童・生徒の発達状況に即して人格の成長を支援する方法について学ぶ。児童・生徒の心理的特性をふまえた教育的課題を支援するために予防的開発的技法や教育相談の活用について知識や実践力を身につける。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1)教育相談の意義および理論、教育相談に関わる心理学の基本的知識を学んでいる。（第1回 第3回）  2)教育相談に関連のある心理学の基礎的な知識をもとに教育相談の進め方や方法を理解している。（第4回 第6回）  3)教育相談の展開、具体的な方法を理解し、組織的な取り組みができる。（第7回 第12回）  4)児童・生徒および保護者に対する教育相談を実施する時の目標、計画、方法を学び、実際に行えるように実践力を身につけている。（第13回 第15回）</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (教育相談に関する知識の習得)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (教育相談の知識をもとにした応用力)			
テ キ ス ト	テキストは使用しないが、PPT,配布資料、視聴覚教材を用いる。								
参 考 書	『教育相談の理論と実践』内田利広編著(ふくろう出版) 『学校カウンセリングの考え方・進め方』福島脩美・監修(金子書房) 『生徒指導提要』文部科学省(教育図書)								
課題に対するフィードバックの方法	理解度の確認の後、解説を行う								
留 意 事 項	事前学習・事後学習を行い学習効果を高める								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：2000年度から教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザーとして勤務。生徒や保護者の教育相談および教員研修を担当した。								

授業名	教育相談（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（10分） シラバスを確認しておくこと
第2回	教育相談の意義と役割、学校教育と教育相談、生徒指導と教育相談、学校をとりまく環境の変化	（学修内容）教育相談の意義や役割・教育相談の位置づけ、生徒指導との共通点と相違点について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（40分） 資料を読み、まとめをしておく 課題（教育相談・カウンセリング・ヘルピング）に取り組む
第3回	教育相談の3つの種類とその特徴を学ぶ。心理学の基礎知識、カウンセリングマインド、組織的な取り組み	（学修内容）一次的教育援助、二次的教育援助、三次的教育援助について特徴を把握する。チーム学校、組織としての連携について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく 課題（教育相談の3種類）に取り組む
第4回	乳幼児期・児童期・思春期の子どもの発達の特徴	（学修内容）教育相談の対象となる子どもの発達の特徴、発達過程について学び、教育に携わる際に必要な視点について学びを深める （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第5回	校内組織における教育相談の位置づけ、教育相談の組織	（学修内容）教育相談の学校教育における位置づけを学ぶ。障がいのある子どもへの組織的対応を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第6回	子どもの多面的理解、およびカウンセリングの基礎知識の習得	（学修内容）子どもへの多面的な理解を深める。カウンセリングの基本的な知識を応用し、子ども理解、保護者理解につなげる。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んで前回のまとめをしておく
第7回	教育相談の展開（1）コンサルテーション	（学修内容）学校への不適応の内容と理解、支援のためのコンサルテーションの方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読んでコンサルテーションについてまとめをしておく
第8回	教育相談の展開（2）心理教育、不適応行動に対する心理教育の成果	（学修内容）問題行動の内容、背景を理解し、解決のための方策の一つとして、心理教育やストレス・マネジメントについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、不適応行動への理解と心理教育とは何か学ぶ
第9回	教育相談の展開（3）家族の理解と支援	（学修内容）保育者や教員による家族支援のあり方を学び、実践できる力を身につける。肯定的配慮や親支援について学びを深める （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み家族支援について理解を深める
第10回	教育相談の展開（4）関係機関との連携	（学修内容）保育園や幼稚園、学校と地域の専門機関との連携や協働について学ぶ。情報共有と情報管理、関係者会議についてまなぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、関係機関の役割と連携についてまとめる
第11回	教育相談の実践（1）発達障害	（学修内容）発達障害、自閉症スペクトラム障害等について学び、支援の実践力を身につける。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、課題（発達障害）に取り組む
第12回	教育相談の実践（2）不登校	（学修内容）増加する不登校とその背景、教育機会のリソース、小1プロブレムや中1ギャップについて学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、課題（不登校の要因と支援）に取り組む
第13回	教育相談の実践（3）いじめの問題	（学修内容）いじめの実態、いじめの定義、いじめ防止対策推進法について学び、教育相談におけるいじめ問題解決への取り組みを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、いじめの問題への理解と支援についてまとめをしておく
第14回	教育相談の実践（4）問題行動、危機管理	（学修内容）問題行動を理解し、問題行動が生じる背景を理解する。園や学校の危機管理と事故発生の予防、事前対策を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、課題（事故発生予防、安全対策、PTSD）に取り組む
第15回	保育・教育相談の中でのメンタルヘルス、全体授業のまとめ	（学修内容）授業全体のまとめ、学校や保育園、幼稚園におけるメンタルヘルスの向上について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、全体を通して学んだこと・自ら考えたことのまとめに取り組む

授 業 名	生徒・進路指導論（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3768
英 文 名	Theory of Student Guidance			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	岡田 敏之			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論や方法を習得する。</li> <li>・進路指導・キャリア教育について論究し、学校現場での実践を考察する。</li> </ul>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導の全体像が理解でき、それを具現するために不可欠な内容・方法を認識できる。</li> <li>(2) 進路指導・キャリア教育について理解でき、それを教育実践に生かせることができる。</li> <li>(3) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。</li> <li>(4) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	文部科学省『生徒指導提要』（文部科学省ホームページよりダウンロード可）								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。 また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付し、必要に応じてコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える学びを重視します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に行います。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：中学校、教育委員会、警察の勤務において経験した具体的実践例を話します。								

授 業 名		生徒・進路指導論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション、教育を取り巻く社会の状況	（学修内容）本講義の概要。現代の教育を取り巻く社会の状況を理解する。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 「生徒指導提要」の予習	
第2回	生徒指導・進路指導の基本概念	（学修内容）生徒指導及び進路指導の基本概念を理解する。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第3回	望ましい集団づくり	（学修内容）集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第4回	学級担任が行う教育相談	（学修内容）教育相談の全体像と生徒指導とのつながり、学級経営のあり方を学ぶ。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第5回	問題行動への対応	（学修内容）問題行動の発生時の対応のあり方や未然防止について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第6回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	（学修内容）実際に非行防止教室を体験し、規範意識の育成について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第7回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	（学修内容）いじめ発生時の対処のあり方について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第8回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	（学修内容）いじめ問題の基本認識を深め、未然防止について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第9回	不登校の理解と対応	（学修内容）不登校の現状を理解し、支援のあり方を考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第10回	保護者対応	（学修内容）保護者対応の基本的なあり方を学ぶ。 ロールプレイ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第11回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	（学修内容）コーチングの基本的な考え方を理解し、そのスキルを身につける。 ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「生徒指導提要」の予習	
第12回	「職業指導」から「進路指導」そして、「キャリア教育」へ	（学修内容）「キャリア教育」で身につけるべき能力について理解する。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「予習資料」の学習	
第13回	個々の発達を踏まえたキャリア教育	（学修内容）個々の発達を踏まえたキャリア教育と職場体験学習について学ぶ。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「予習資料」の学習	
第14回	キャリア意識を育むカリキュラムの構成	（学修内容）キャリア教育を踏まえたカリキュラムマネジメントについて考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク （事前事後学修課題の内容）（60分） 前講の復習と「予習資料」の学習	
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」 生徒指導・進路指導のまとめ	（学修内容）本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション （事前事後学修課題の内容）（20分） 前講の復習	

授 業 名	教育心理学（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3766
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	個人のもつ潜在的能力の実現は、教育による個々人の学習と、加齢に伴う心身の発達を通じて達成される。本講義は、特別支援教育の視点も加味しながら、学習や発達とはいかなる過程なのか、学習や発達を促進させる要因と障害となる要因は何か、それらはどのように理論化されるのかななどの問題を考える。また、教育現場で生起するさまざまな心理的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から、対処法も含めて考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	人間の発達の諸側面について説明できる。 人間の学習の諸側面について説明できる。 人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	テキスト・配付資料を積極的に読み込むこと。 事前学習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：小・中スクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師								

授 業 名	教育心理学（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の内容や研究領域について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認し疑問点をまとめる。
第2回	発達（1）発達の規定因、発達と教育	（学修内容）発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のこれまでの育ちについて振り返る。
第3回	発達（2）エリクソンの生涯発達理論	（学修内容）各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 家族など、自分の周囲にいる人たちの発達課題を考える。
第4回	発達（3）ピアジェの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 同化、調節の具体例を考える。
第5回	発達（4）ヴィゴツキーの発達理論	（学修内容）代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 足場かけの具体例を考える。
第6回	学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ	（学修内容）学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第7回	学習（2）観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	（学修内容）学習理論の教育への応用を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第8回	学習（3）動機づけ、原因帰属	（学修内容）動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループで意見をまとめ、発表の準備をする。
第9回	思考と知能	（学修内容）知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第10回	パーソナリティ（1）類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	（学修内容）パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第11回	パーソナリティ（2）性格検査法、質問紙法、投影法、作業検査法	（学修内容）学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第12回	学級集団における人間関係	（学修内容）学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配布プリントを読んでまとめる。
第13回	教育現場における心理・社会的問題	（学修内容）いじめや不登校など、学校現場でみられる心理・社会的問題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自分のこれまでの学校生活を振り返る。
第14回	特別な配慮が必要な子どもの理解と支援	（学修内容）発達障害などについて学び、合理的配慮の必要性を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 特別支援教育について調べる。
第15回	教育相談	（学修内容）カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） ノートや資料を整理し、不足分について確認しておく。

授 業 名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3742
英 文 名	Teaching Methods and Techniques			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>家庭科教諭及び栄養教諭の教育内容を理解し、効果的な授業を展開するために必要な教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術、プレゼンテーションの方法を学習する。</p> <p>また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコン、電子黒板や各種デジタルコンテンツ等のICTを活用した授業設計に関わる知識・技術を学ぶとともに、教育データの活用や遠隔・オンライン教育の基本を理解することにより、情報通信技術を活用した効果的な学習を推進する方法を習得する。</p> <p>以上の内容を踏まえて、グループワークやディスカッションを通して教育の方法・技術に関する考察を深めるとともに、デジタル教科書や電子黒板を実際に活用した模擬授業を行う。</p> <p>さらに、校務支援システム等の活用によって実現する校務の情報化については、課題も含め認識できる内容とする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>(1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史の変遷・理論など）を理解する。</p> <p>(2) 情報通信技術の活用の意義や在り方を踏まえ、教育データを活用した学習指導や遠隔・オンライン教育等の基本を理解する。</p> <p>(3) ICTを用いた授業設計の方法を理解し、デジタル教科書や電子黒板等のICTを活用した授業を行うことができる。</p> <p>(4) グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 )			
テ キ ス ト	随時指示する。								
参 考 書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房、2016年 稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（ICT活用含む）	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育方法に関する諸概念	（学修内容）家庭科教諭及び栄養教諭として効果的な授業を実践するために必要な教育方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷 近代の教授法	（学修内容）教授法の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷 教育の現代化と教授理論	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	協働的な学習の理論	（学修内容）仲間との協同による学習の意義と方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	ICT活用の意義と理論	（学修内容）ICTを用いた指導について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	ICTを活用した学習指導	（学修内容）教育データや遠隔オンライン教育の活用を踏まえた学習指導方法について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	情報活用能力を育成するための指導法	（学修内容）情報活用能力の定義とその育成の動向を概観し、情報活用能力の指導法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第12回	授業の設計	（学修内容）ICT活用を含めた学習指導案の書き方について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第13回	模擬授業準備（ICTを活用した具体的な授業の設計）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第14回	模擬授業（ICTを活用した授業の実践）	（学修内容）各グループがICTを活用した授業を実践する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第15回	まとめ（ICT活用含む）	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回までの資料を読み返しておくこと。

授 業 名	総合的な学習の時間（家庭・栄養）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3741
英 文 名	The Period of Integrated Study			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	寺田 博幸			対 象 学 生	現代家政3回生（発展科目）、食物栄養3回生（資格独自科目）				
授業の概要	総合的な学習の時間の先進事例をもとに、総合的な学習の時間の意義や、各学校における目標及び内容を定める際の考え方を解説する。本授業を通して、指導計画作成の考え方や指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解するとともに、その目標達成のために必要な基礎的な資質・能力を身に付けるようにする。								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1. 学習指導要領に基づいて、教員の求められる総合的な学習の時間に関する具体的な指導の在り方、並びに学習活動の評価などの基本的知識・技能を修得することができる。</p> <p>2. 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための指導法を理解することができるようにする。</p> <p>3. 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用・応用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現できるような指導計画を作成することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編 平成29年7月 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編 平成30年7月 文部科学省								
参 考 書	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間 令和2年7月 文部科学省、 国立教育政策研究所教育課程研究センター 中学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月 告示 文部科学省 東洋館出版 京都・宇治発地域協働の総合的な学習「宇治学」副読本による教育実践 橋本祥夫編著 ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたコメントカードの声を受け止めながら受講生が課題を共有する。								
留 意 事 項	到達目標に迫るため、15回の授業に出席し学びを深めるとともに、その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日の昼休憩時、及び授業後の時間								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭、同教頭、京都市教育委員会指導主事（生活科、総合的な学習担当）、京都市立小学校校長として勤務								

授 業 名	総合的な学習の時間（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	総合的な学習の時間の創設とその背景	（学修内容）総合的な学習の時間の創設とその背景 （事前事後学修課題の内容）（90分） 配布した資料に基づき、提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	総合的な学習の時間の意義と目標、目指す資質・能力	（学修内容）総合的な学習の時間の意義と目標、目指す資質・能力 （事前事後学修課題の内容）（90分） 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第1章、第2章、第3章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導、及び評価の基本的な考え方	（学修内容）総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導、及び評価の基本的な考え方 （事前事後学修課題の内容）（90分） 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第4章から第8章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法	（学修内容）総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法 （事前事後学修課題の内容）（90分） 配付する資料を基に、提示する課題について小レポートにまとめる。
第5回	総合的な学習の時間の実践事例(1)「地域の伝統と文化」	（学修内容）「地域の伝統と文化」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「地域の伝統と文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第6回	総合的な学習の時間の実践事例(2)「地域と自然環境」	（学修内容）「地域と自然環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第7回	総合的な学習の時間の実践事例(3)「地域の町づくり」	（学修内容）「地域の町づくり」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「地域の町づくり」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第8回	総合的な学習の時間の実践事例(4)「地域と福祉」	（学修内容）「地域と福祉」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「地域と福祉」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第9回	総合的な学習の時間の実践事例(5)「エネルギー資源と環境」	（学修内容）「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第10回	総合的な学習の時間の実践事例(6)「地域と防災」	（学修内容）「地域と防災」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第11回	総合的な学習の時間の実践事例(7)「和食の文化」	（学修内容）「和食の文化」を課題とする学習指導の教材研究 （事前事後学修課題の内容）（90分） 「和食の文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。
第12回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備 （事前事後学修課題の内容）（90分） グループ協議の基づく学習指導計画案作成と提案に向けての準備をする。
第13回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成、プレゼンテーションの作成	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画案の作成、プレゼンテーションの作成 （事前事後学修課題の内容）（90分） グループ協議に基づく学習指導計画案の提案に向けてプレゼンテーションを作成する。
第14回	グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(1)	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案 （事前事後学修課題の内容）（90分） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに、相互評価を行う。また、提示するレポート論題についてまとめる。
第15回	グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(2)、及び総合的な学習の時間の展望	（学修内容）グループ協議に基づく学習指導計画作成案の提案(2)、及び総合的な学習の時間の展望 （事前事後学修課題の内容）（90分） グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに、相互評価を行い、総合的な学習の時間についてまとめる。

授 業 名	特別支援教育（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2722
英 文 名	Special Needs Education (Home Economics・Nutrition)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	現代家政2回生、食物栄養2回生				
授業の概要	<p>近年、教育現場には全体の6.5%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれるなかで、さまざまな支援の必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要がある。</p> <p>本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようにすすめていく。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいく。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる</p> <p>2) 発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする児童・生徒の心身の発達について理解を深めることができる</p> <p>3) 支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学び、理解することができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	前田泰弘編著『実践に生かす「障害児保育・特別支援教育」』（2019）萌文書林								
参 考 書	<p>山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ 2019年</p> <p>玉村公二彦編著『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ 2019年</p>								
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。								
留 意 事 項	授業内で出る課題については必ず期日に提出してください。（期日後の提出は減点、未提出の場合は欠席となります） 教育、特別支援についての時事問題は意識して学び、受講して下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 6号館 幼児教育演習室にて受け付けます								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設で勤務								

授 業 名		特別支援教育（家庭・栄養）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ 障害者差別解消法、合理的配慮についての理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身のイメージする障害像をまとめておく
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 個別の支援計画について理解する （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態	（学修内容）支援の必要な子どもたちにどのような支援方法が（教育形態、加配制度）があるのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 3章を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともにどのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 5章を読んでおく
第6回	発達に課題のある子どもについての理解	（学修内容）発達障害者支援法について理解し、どのような困難を抱える人が支援の対象となるのか、どのような援助方法がのぞまれるのかを理解する （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 5章を読んでおく
第7回	自閉症スペクトラム障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 6章を読んでおく
第8回	学習障害（LD）児、注意欠如・多動性障害児への理解と援助、配慮すべき留意点小テスト	（学修内容）学習障害、注意欠如・多動性障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） テキスト第 部 第 6章を読んでおく
第9回	小テスト ふりかえり	（学修内容）講義内容を自身でどれだけ理解できているか確認する （事前事後学修課題の内容）（20分） 今までの講義内容を復習しておくテスト終了後、解答の困難だった部分についてしっかりと復習しておく
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害・聴覚障害・言語障害び特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 4章-1を読んでおく
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）聴覚障害・言語障害び特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 4章を読んでおく
第12回	身体に障害のある子ども（肢体不自由児・医療ケア児）への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体障害にはどのようなものがあるのかを理解するとともに、各々に求める援助について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 4章-1を読んでおく
第13回	特別な支援が必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）支援が必要とされる家庭環境で育つ子どもに関する理解とともに援助方法について学ぶ（外国籍家庭・貧困家庭など） （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部 第 8章を読んでおく
第14回	ユニバーサルデザインについて	（学修内容）ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて理解を深め、支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについて調べて置く
第15回	まとめ インクルーシブ教育への転換	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 章を読んでおく

授 業 名	道徳教育論（家庭・栄養）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1705
英 文 名	Theory of Moral Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	毛利 豊和			対 象 学 生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授 業 の 概 要	<p>いじめ・不登校・SNS問題をはじめとする生きる力を育てる上での現代の課題を考えた場合、道徳教育に求められるものは大きい。その道徳教育の基本的な理論と実践方法を理解し、日々の生活に生かす道徳の授業づくりのスキルを身につける。また、一人の大人として教育者として、自分自身の道徳性を高めていこうとする態度を身につける。</p> <p>授業内容 道徳授業の実践例から、道徳教育の魅力を知る。 実践例と指導要領から、道徳教育の基本知識を身につける。 指導案作成・模擬授業とスピーチ学習から、道徳教育観を確かなものにする。</p> <p>学習方法 講義 議論（全体・グループ） 演習（全体・グループ） 模擬授業（考察・実習） 授業外活動：宿題（資料収集・実施演習） 一人学習</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>到達目標 道徳教育の意義と魅力を実感する。 生活に生きる道徳の授業づくりのスキルを身につける。 道徳教育を推進するためのスキルを身につける。 社会の一員として、よりよく生きていこうとする（道徳性）意欲を高める。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>「先生が楽しい！道徳授業の作り方」 出版社：三晃書房 定 価：¥ 1 5 0 0 - 発 行：平成31年3月29日 図書分類コード：C 3 0 3 7 I S B Nコード：9 7 8 - 4 - 7 8 3 0 - 8 0 1 8 - 3</p>								
参 考 書	文科省 中学校学習指導要領の解説 特別の教科道徳編（平成29年）								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	レポート：添削後返還 テスト：希望者のみ返還								
留 意 事 項	資料及び実践例は、既存のものからオリジナルまで、多様に紹介します。 授業者（毛利）による実践例や模擬授業は、学生が「面白い・大事だ」と実感するものを用意します。 今までの道徳に対する固定観念を見直し、新たに、今あるべき道徳の授業づくりの道を自分自身で見つけてください。まずは、そのための基本的な知識を身につけることから始めます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に、実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実践してきた授業を模擬授業として紹介し、道徳授業を実感させる。 ・小学校道徳授業・中学校道徳授業 実践してきた取り組みを紹介し、地域保護者との連携を理解させる。 ・保護者会・学校運営（掲示物等）・家庭教育学級</p>								

授業名	道徳教育論（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 道徳教育の魅力	（学修内容）オリエンテーション(学習計画、授業の進め方、評価等) 理 論：道徳教育に求められること 実践例：「もしも私が神様に」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 目標
第2回	道徳教育の目標と内容 特別の教科 道徳	（学修内容）理 論：道徳教育と内容 実践例：絵本で学ぶ「リンゴが一つ」「1こでも100このりんご」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント
第3回	道徳教育における発達段階 教材の持つ力	（学修内容）理 論：内容と発達段階 実践例：アニメに学ぶ「ドラえもん（僕の生まれた日）」他 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント
第4回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 中心教材・補助教材	（学修内容）理 論：道徳教育と規範意識・自己有用感 実践例：読み物資料で学ぶ「生協の白石さん」漢字で学ぶ「辛・優」 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第5回	現代的な課題 豊かな心 指導技術 1時間の流れ	（学修内容）理 論：道徳教育と情報モラル・いじめ 実践例：言葉の力に学ぶ「CM」ポスターで学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前時のプリント 身の回りの教材収集
第6回	現代的な課題 豊かな心 指導案の書き方 主題	（学修内容）理 論：道徳教育とアドラー・ピグマリオン・論語 実践例：プラス思考に学ぶ「でも、いっか」 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント 中心発問を考える
第7回	道徳教育と保護者・地域との連携 指導案の書き方 中心発問・導入・終末	（学修内容）理 論：考え議論する道徳授業 実践例：先人に学ぶ「ヘレンケラー」「鑑真」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第8回	道徳教育における発達段階 スピーチ学習（チームザ〜）	（学修内容）理 論：問題解決的な道徳授業 実践例：エンカウンターで学ぶ「数字送り」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第9回	道徳教育における評価 スピーチ学習（リーダーシップ）	（学修内容）理 論：道徳教育における評価 実践例：トランプマジックで学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案
第10回	道徳教育の内容 Aの領域 スピーチ学習（フォロアーシップ）	（学修内容）理 論：Aの領域 実践例：TPOに学ぶ「謙虚・寛容」 （事前事後学修課題の内容）（15分） 前時のプリント・指導案・教材
第11回	道徳教育の内容 Bの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Bの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・声・立ち位置 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第12回	道徳教育の内容 Cの領域 模擬授業 グループ	（学修内容）理 論：Cの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・教材の魅力提示の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第13回	道徳教育の内容 Dの領域 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：Dの領域 模擬授業指導：評価者・応援者としての分析・発問の工夫 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第14回	指導計画と全体計画 模擬授業 全体	（学修内容）理 論：指導計画と全体計画 模擬授業指導：評価者・分析・教材の力・全体協議の在り方 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前時のプリント・指導案・教材
第15回	まとめ	（学修内容）・指導者の研究（指導力向上への意欲と自己研鑽） ・教育指導者としてのプラス思考・テストについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 1～14回の授業プリント

授業名	教育の基礎と制度（家庭・栄養）			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	LC1704
英文名	Principles of Education			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	盧 珠妍			対象学生	現代家政1回生（発展科目）、食物栄養1回生（免許科目）				
授業の概要	人間は一生（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義ではまず、「教育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育は必要なのか」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育という営みの必要性と可能性について様々な思想を読み解きながら、理念的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育の役割や課題、学校と地域との連携について検討する。その上で最終的に、生涯学習と教育の現状と今後を展望し、将来教育の実践者としての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。								
学修成果到達目標	1) 教育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。 2) 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解し説明できる。 3) 教育の制度について理解し説明できる。 4) 現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。 5) 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解し説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	特定のテキストを使用せず、資料を配布する。								
参考書	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年。 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レスポンスペーパーを含む小レポートについては翌週の授業時にコメントする。								
留意事項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	教育の基礎と制度（家庭・栄養）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。私たちにとって教育とはどのような意味をもつのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスを確認する。自分がこれまで受けてきた教育を振り返りまとめる。
第2回	教育とは何か（1） 教育の意味と意義	（学修内容）自分の教育経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。教育について理念的・思想的・原理的に考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、自分が抱く教育観について検討を加える。
第3回	教育とは何か（2） 教育の必要性	（学修内容）人間にとってなぜ教育は必要なのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育の必要性について自分の考えをまとめる。
第4回	教育とは何か（3） 教育の可能性	（学修内容）人間の能力と教育について人間学的な視点から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育の可能性について自分の考えをまとめる。
第5回	教えることと学ぶこと	（学修内容）教育について「教える」「学ぶ」という視点から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育についての考えを深める。
第6回	教育と人間形成	（学修内容）「人間形成」という語を通して教育という営みを吟味する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「人間形成」の意味について調べておく。
第7回	教育思想と歴史（1） 近代学校教育の成立とその背景	（学修内容）学校がなぜ生まれ、どのように発展したのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学校の歴史を踏まえて学校の意味について理解を深める。
第8回	教育思想と歴史（2） 日本の教育制度	（学修内容）日本の教育制度がどのように変容してきたのかを歴史的に考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 日本の近代公教育がどのように成立してきたのかについてまとめる。
第9回	子どもと教育思想（1） 近代教育と子ども	（学修内容）近代ヨーロッパにおける子どもについての考えの転換と教育の変化について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、各思想家の人間観を比較しまとめる。
第10回	子どもと教育思想（2） 現代教育と子ども	（学修内容）現代教育における子どもの存在についてアリエスの『子供の誕生』をもとに考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、「子ども」「子ども期」について理解を深める。
第11回	子どもと成長（1） カリキュラム	（学修内容）学校教育の系統主義と経験主義を比較しながら、子どもの成長とカリキュラムの関係について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、学修内容についてまとめる。
第12回	子どもの成長（2） 学力と評価	（学修内容）学校における教育目標と学力、またその評価が子どもの成長とどのように関わっているのかを考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教師の立場から子どもの成長について吟味する。
第13回	子どもと成長（3） 発達と生成	（学修内容）子どもの成長を「子ども 大人」の関係性から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、子どもの成長について理解を深める。
第14回	現代における教育の課題	（学修内容）現代における教育の課題について議論し考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教育の課題について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第15回	まとめと考察 教育のあり方について	（学修内容）これまでの授業内容を踏まえて、教育とは何かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 5～10分程度の発表準備をする。

授 業 名	教育相談（幼・小）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE4463
英 文 名	School Counseling			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤井 裕子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>保育・教育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育・教育現場における教育相談の意義と役割、教育相談の前提となる幼児・児童の心理的特性を学ぶ。教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、教育相談を具体的な進める実践的な方法や、組織的な仕組み、地域の専門機関との連携について理解を深める。教育相談の理論をしっかりと身につけたうえで、実際に相談に応じ適切な助言指導が行えるように教育相談の実践力が向上することを目的に授業を進める。</p>								
学 修 成 果 対 象 業 務	<p>1) 保育・教育の現場における教育相談の理論や意義、役割について理解している。  2) 幼児・児童のさまざまな心理や行動上の問題について理解し、支援できる保育者、教員の専門性を理解する。  3) 保護者からの相談に応じ適切な助言を行うことや必要に応じ関係機関との連携について理解している。  4) 幼児・児童の心理的成長が支えられるように発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (教育相談に関する知識の習得)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (教育相談の知識をもとにした応用力)			
テ キ ス ト	テキストは使用しないが、PPT,配布資料、視聴覚教材を用いる								
参 考 書	<p>内田利広「教育相談の理論と実践」ふくろう出版  春日井敏之・伊藤美奈子「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房</p>								
課題に対する フィードバック の方法	課題やレポートについては口頭で回答するほか、必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留 意 事 項	主体的な授業への参加が必要であり意見発表やグループ討議を取り入れる。積極的に取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に行う。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー・スーパーバイザー、緊急支援時の教育支援活動、教職員・保育者の研修講師等</p>								

授 業 名		教育相談（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育相談・カウンセリング、教育相談の意義と役割	（学修内容）本講義の目標を理解する。教育相談・カウンセリング・相談支援の概要について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスに目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第2回	教育相談の基本的知識（1）教育相談の意義と役割、保育園や幼稚園、学校をとりまく環境の変化	（学修内容）保育現場や学校における教育相談の意義や役割を学ぶ。子どもの周りの社会的環境の変化について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 資料を読んでおく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第3回	教育相談の基本的知識（2）教育相談の3つの種類とその特徴	（学修内容）一次的教育援助、二次的教育援助、三次的教育援助の特徴を把握する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第4回	教育相談の基本的知識（3）乳幼児期、児童期、思春期の心理的発達の特徴、発達課題	（学修内容）教育相談の対象となる子どもの発達特徴、発達過程について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み各時期の心理的発達が説明できるようにする。
第5回	教育相談の基本的知識（4）教育相談の位置づけ、教育相談システムの構築	（学修内容）教育相談の学校や保育園、幼稚園での位置づけを学ぶ。教育相談の組織やシステムについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第6回	教育相談の実践（1）子どもの多面的理解およびカウンセリング的アプローチ	（学修内容）子どもの行動に対する多面的理解を深める。共感的理解からのアプローチを身につける。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 子どもの行動への多面的理解を深める。
第7回	教育相談の実践（2）コンサルテーション	（学修内容）園や学校への不適応について学び、支援のためのコンサルテーションの方法を身につける。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を確認し、コンサルテーションの意義や方法を復習する。
第8回	教育相談の実践（3）心理教育、不適応行動に対する心理教育の成果	（学修内容）問題行動や不適応行動について理解し、アプローチの方法として心理教育やストレス・マネジメントの方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第9回	教育相談の実践（4）保護者への支援	（学修内容）保護者自身のおかれている状況や課題について理解し、信頼関係の構築や保護者カウンセリングの方法について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第10回	教育相談の実践（5）校内の相談システムの構築と関係機関との連携や協働	（学修内容）園内・校内ネットワークとチームアプローチのあり方を学ぶ。関係機関の種類や連携について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第11回	教育相談の展開（1）発達障害	（学修内容）発達障害、自閉症スペクトラム障がい等について学び、支援の実践力を身につける （事前事後学修課題の内容）（40分） 配付資料を読み、発達障害の原因、特徴、支援について理解する。演習問題を解く。
第12回	教育相談の展開（2）不登校	（学修内容）登園渋りや不登校について、背景や要因について学ぶ。教育機会のリソース、小1プロブレムについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配付資料を読み、不登校についての演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第13回	教育相談の展開（3）いじめの問題	（学修内容）幼児期のいじめや学校でのいじめ問題について学ぶ。いじめの定義、いじめ防止対策推進法について学び、いじめに対する取り組みを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配布資料を読み、いじめ問題に関する演習問題を解く。
第14回	教育相談の展開（4）子どもの問題行動	（学修内容）事例から子どもの変化や成長について検討し、教育相談が担った役割を学ぶ。実際の場面を想定してグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 配付資料を読み、演習問題を解く。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようにする。
第15回	振り返りとまとめ、メンタルヘルスの向上	（学修内容）講義全体を通して振り返り、資料をまとめ学んだことを確認する。自分自身のメンタルヘルスの向上について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） 配付資料やノートを整理する。全体を自分でも総括し、レポートを作成する。

授 業 名	子ども家庭支援論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3462
英 文 名	Theory of Child and family support			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策をどのようにするのか、検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、現代の家庭に必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。グループに分かれて、課題についての討議をし、他の人の考えについて理解を深める。できれば、ロールプレイも行いたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できる。 2) 家庭における子育て支援策を具体的に理解することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	松原康雄他編集『新基本保育シリーズ 子ども家庭支援論』中央法規 2019年								
参 考 書	授業中に、紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートの返却時に、課題について解説を行う。								
留 意 事 項	レポート提出(2回)、授業時にミニレポート(数回)提出を行う予定である。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前に掲示、演習室にも掲示をするので、確認してください。在室の時は可能です。Gメールにて事前に連絡をいただくと、流石の予定を返信します。流石との調整をお願いします。								
実践的教育									

授 業 名	子ども家庭支援論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	(学修内容) 家庭支援の意義と子育て支援  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 2 ~ 12を読む。事後: コラム「新しいタイプの子育て支援」について考察し、レポート 800字程度、次回の授業に提出。
第2回	子ども家庭支援の目的と機能	(学修内容) 家庭支援の制度、目的等について  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト p 14 ~ 24を読む。レポート の提出日。
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援の推進	(学修内容) 保育所、幼稚園における新制度の理解をする。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 26 ~ 36を読む。
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(学修内容) 社会資源について理解を深める。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 38 ~ 48を読む。
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	(学修内容) 保育者の専門性と子ども家庭支援について学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 50 ~ 60を読む。
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	(学修内容) 子どもの育ちを共有することは  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 62 ~ 72を読む。
第7回	保育者および地域が有する子育てを自らが実践する力の向上に資する支援	(学修内容) 地域での子育て・保育士に求められる支援について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 74 ~ 84を読む。
第8回	保育士に求められる基本的態度	(学修内容) 保育士と保護者との信頼関係とは  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 86 ~ 95を読む。
第9回	家庭の状況に応じた支援	(学修内容) 家庭状況の把握とその支援について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 98 ~ 107を読む。
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	(学修内容) 子ども家庭支援と地域資源の活用  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 110 ~ 120を読む。事後: コラム「ストレングスの視点」を読み、理解したことを800字程度のレポート 提出。次回に提出。
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	(学修内容) さまざまな子ども家庭支援の対象: 子ども、保護者、地域。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 122 ~ 132を読む。レポート の提出あり。
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	(学修内容) 家庭がかかえる生活課題と保育者等の役割  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 134 ~ 143を読む。
第13回	地域の子育て家庭への支援	(学修内容) 地域の子育て「家庭への支援・支援者の姿勢  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト p 146 ~ 156を読む。
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	(学修内容) 要保護児童とその家庭に対する支援について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: p 158 ~ 168までを読む。
第15回	子育て支援に関する課題と展望	(学修内容) 子育て支援のニーズの多様化と連携機関  (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前: テキスト p 176 ~ 185を読む。学びのまとめに、発表をお願いすることがある。

授 業 名	生徒・進路指導論(小)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3461
英 文 名	Theory of Student Guidance			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	岡田 敏之			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に学校で生起している具体的な問題について考え、生徒指導の理論や方法を習得する。</li> <li>・進路指導・キャリア教育について論究し、学校現場での実践を考察する。</li> </ul>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導の全体像が理解でき、それを具現するために不可欠な内容・方法を認識できる。</li> <li>(2) 進路指導・キャリア教育について理解でき、それを教育実践に生かせることができる。</li> <li>(3) 実際に学校で生起している具体的な問題に関心を持ち、その解決に向けて主体的に考察できる。</li> <li>(4) 仲間と協働し、問題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	文部科学省『生徒指導提要』(文部科学省ホームページよりダウンロード可)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中の実習や口述については、その都度コメントを返します。 また、実習におけるレポート等については、要点にアンダーラインを付し、必要に応じてコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	単に覚える学びでなく、自ら調べ仲間と共に考える学びを重視します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に行います。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：中学校、教育委員会、警察の勤務において経験した具体的実践例を話します。								

授業名	生徒・進路指導論(小)	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、教育を取り巻く社会の状況	(学修内容)本講義の概要。現代の教育を取り巻く社会の状況を理解する。 ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 「生徒指導提要」の予習
第2回	生徒指導・進路指導の基本概念	(学修内容)生徒指導及び進路指導の基本概念を理解する。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第3回	望ましい集団づくり	(学修内容)集団におけるコンセンサスの在り方を学ぶ。 グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第4回	学級担任が行う教育相談	(学修内容)教育相談の全体像と生徒指導とのつながり、学級経営のあり方を学ぶ。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第5回	問題行動への対応	(学修内容)問題行動の発生時の対応のあり方や未然防止について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第6回	子どもの規範意識を育てる - 非行防止教室 -	(学修内容)実際に非行防止教室を体験し、規範意識の育成について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習
第7回	いじめ問題の理解と対応 - いじめの原因 -	(学修内容)いじめ発生時の対処のあり方について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第8回	いじめ問題の理解と対応 - 未然防止に向けて -	(学修内容)いじめ問題の基本認識を深め、未然防止について考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第9回	不登校の理解と対応	(学修内容)不登校の現状を理解し、支援のあり方を考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第10回	保護者対応	(学修内容)保護者対応の基本的なあり方を学ぶ。 ロールプレイ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第11回	子どもの意欲を育てる - コーチングスキルより -	(学修内容)コーチングの基本的な考え方を理解し、そのスキルを身につける。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「生徒指導提要」の予習
第12回	「職業指導」から「進路指導」そして、「キャリア教育」へ	(学修内容)「キャリア教育」で身につけるべき能力について理解する。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「予習資料」の学習
第13回	個々の発達を踏まえたキャリア教育	(学修内容)個々の発達を踏まえたキャリア教育と職場体験学習について学ぶ。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「予習資料」の学習
第14回	キャリア意識を育むカリキュラムの構成	(学修内容)キャリア教育を踏まえたカリキュラムマネジメントについて考える。 PBL、ディスカッション、グループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前講の復習と「予習資料」の学習
第15回	特別講義「学びの原点を追究する」 生徒指導・進路指導のまとめ	(学修内容)本講義のポイントを整理して理解する。 ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(20分) 前講の復習

授 業 名	子どもの理科			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3459
英 文 名	Children and Science			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 浩			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	自然科学に関する知識や素朴概念についての児童理解を深め、小学校理科で扱う観察や実験の実習を通して、指導に必要な基礎的な知識や技能を習得する。さらに、グループワークやディスカッションで観察や実験の結果をもとにした考察を深め、科学的な表現力を身に付けていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 自然事象に関する子どもの素朴概念について理解を深める。 2) 学習指導要領に基づいて小学校理科の指導内容を説明できる。 3) 学習問題に基づいて見通しをもって観察・実験の準備ができ、考察や結論を科学的に表現できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (思考・判断・表現)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	「イラスト図解ですっきりわかる理科」鳴川哲也ほか(2019年)東洋館出版社 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」をダウンロードしておくこと。								
参 考 書	小学校理科の観察、実験の手引き(平成23年3月:文部科学省)をダウンロードしておくことと参考になる。								
課題に対する フィードバック の方法	レポート課題について簡単なコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	演習を伴う学修内容については、材料準備などの都合により変更することもありうる。 課題として、授業で行った観察・実験をもとにレポートを作成する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など:元京都市立小学校長。元京都市教育委員会学校指導課指導主事(初等理科担当)。元京都理科研究会 会長。								

授 業 名	子どもの理科	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ガイダンス 講義(1) 「子どもが捉える身近な自然事象について」	(学修内容) 講座の概要、教材・資料、評価についてのガイダンス  (事前事後学修課題の内容)(30分) 復習として、身近な自然現象についての疑問や不思議をレポートにまとめる。
第2回	「理科の観察・実験」 3年「電気の通り道」	(学修内容) 問題解決の過程: 8つのステップ(学習問題から結論まで)  (事前事後学修課題の内容)(30分) 復習として、実験を伴う学習の流れをレポートにまとめる。
第3回	「理科の観察・実験」 3年「磁石の性質」	(学修内容) 問題づくりに結びつく活動(遊びから学びへ)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第4回	「理科の観察・実験」 3年「風とゴムの力の働き」	(学修内容) 測定の手と結果の整理(表やグラフの活用)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第5回	「理科の観察・実験」 3年「身の回りの生物」 4年「植物の発芽、成長、結実」	(学修内容) 観察をもとにした学び(種子の観察と記録)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、観察用のワークシートを完成させる。
第6回	「理科の観察・実験」 4年「電流の働き」	(学修内容) 関係付けを調べる活動(自然事象の変化と要因)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する
第7回	「理科の観察・実験」 4年「空気と水の性質」	(学修内容) 根拠に基づく予想と結果の見通し  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第8回	「理科の観察・実験」 4年「金属・水・空気と温度」	(学修内容) 対話的な学びにつながる予想や結果の表現  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第9回	「理科の観察・実験」 5年「振り子の運動」	(学修内容) 条件を制御して調べるための工夫  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第10回	「小学校理科の観察・実験」 5年「物の溶け方」	(学修内容) 予想に基づく実験方法の発想  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第11回	「小学校理科の観察・実験」 5年「動物の誕生」 6年「人の体のつくりとはたらき」	(学修内容) 資料調べをもとにした学び(問題解決のための調べ学習)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、資料調べをもとにした学習の要点をまとめる。
第12回	「小学校理科の観察・実験」 6年「燃焼のしくみ」	(学修内容) より妥当な考えをつくりだすための工夫  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第13回	「小学校理科の観察・実験」 6年「水溶液の性質」	(学修内容) 自然事象を多面的に調べるための工夫  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、実験をもとにレポートを作成する。
第14回	「小学校理科の観察・実験」 4年「月と星」 6年「月と太陽」	(学修内容) 観測をもとにした学び(観測データに基づいた多面的な考察)  (事前事後学修課題の内容)(40分) 復習として、観測をもとにした学習の要点をレポートにまとめる。
第15回	「まとめと振り返り」 ・講義およびグループワーク	(学修内容) 学習内容の系統性について  (事前事後学修課題の内容)(90分) 定期試験に向けて、これまでの内容を整理しておく。

授 業 名	保育の計画と評価			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3453
英 文 名	Child Care Planning and Assessment			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	近本 佳子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>・ 保育の指導計画の作り方と活用の仕方を理解するために、保育現場での実践を紹介しながら授業を行う。</p> <p>・ 設定保育を行うにあたってのねらいや留意点、子どもの生活との関わりをおさえた上で、本学の様式で指導案を作成・修正の後、少人数グループでの模擬保育と振り返りを行い、次に活かせるようにする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>保育の指導計画の作り方・活用の仕方について理解できる。</p> <p>設定保育指導案を作成し、実施することができる。</p> <p>振り返りを通して次への課題を明らかにすることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>・ 片山紀子編著 荒木美知子・西村美佳著 新版「保育実習・教育実習の設定保育」 朱鷺書房 2012年</p> <p>・ 厚生労働省 保育所保育指針</p> <p>・ 保育計画研究会編 「実践に学ぶ保育計画の作り方・いかし方」 ひとなる書房</p>								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	少人数グループでの振り返りで子ども役の学生から客観的な意見を貰った後、様式の「反省」欄を記入して提出、教員がコメントする。								
留 意 事 項	実習生として子どもの前に立つ（=子どもにとっては保育士と同じ）という自覚と責任を持ち、授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：元風の子保育園(京都市)保育士・主任保育士</p>								

授 業 名		保育の計画と評価
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 指導計画の作り方・活用の仕方 保育園の保育はどのようにしてまわっているのか	(学修内容) 保育園はどのようにしてまわっているのか  (事前事後学修課題の内容)(10分) 自らの保育園幼稚園時代を振り返って、印象に残っている遊びについて
第2回	指導計画の作り方・活用の仕方 設定保育	(学修内容) 保育実習における設定保育・つなぎの部分保育について 「特別な日」のねらいと留意点から (事前事後学修課題の内容)(15分) いつでも応えられる手あそびと絵本を一つずつマスターする(乳児向け)
第3回	指導計画の作り方・活用の仕方 保育者発信型の活動	(学修内容) 保育者発信型の活動のなかで大切にしたいこと、保育のねらいと留意点 について(造形・表現活動から) (事前事後学修課題の内容)(15分) いつでも応えられる手あそびと絵本を一つずつマスターする(幼児向け)
第4回	設定保育指導案の作り方	(学修内容) 模擬保育と指導案の説明、素案から指導案へ  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案を書いてくる
第5回	設定保育指導案の修正 6~8回の実施方法について	(学修内容) 指導案の修正 少人数グループでの「実施と振り返り」のやり方についての説明 (事前事後学修課題の内容)(20分) 設定保育の準備、自身での模擬保育を行う
第6回	設定保育指導案の実施と振り返り(幼児) 設定保育の流れを体験する	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第7回	設定保育指導案の実施と振り返り(幼児) 設定保育を実施する	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第8回	設定保育指導案の実施と振り返り(幼児) 設定保育を振り返る	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第9回	指導計画の作り方・活用の仕方 夏の保育・異年齢保育	(学修内容) 夏の保育や異年齢保育でのねらいと留意点(水遊び・プール遊び、異年 齢での活動「きょうだいすずめ」から) (事前事後学修課題の内容)(10分) 水遊びのオノマトペを生活から実感して見つけてくる
第10回	指導計画の作り方・活用の仕方 子どもとともに創る保育	(学修内容) 保育はいきもの、子どもとともに創る(4歳児の保育から)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案を書いてくる
第11回	設定保育指導案の実施と振り返り(乳児) 設定保育の流れを体験する	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第12回	設定保育指導案の実施と振り返り(乳児) 設定保育を実施する	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第13回	設定保育指導案の実施と振り返り(乳児) 設定保育を振り返る	(学修内容) 少人数グループ単位で、実施と振り返りを行う  (事前事後学修課題の内容)(15分) 実施した学生は、振り返りを受けて「反省」を書いて提出
第14回	指導計画の作り方・活用の仕方 保育者発信型の活動のねらい	(学修内容) 卒園に向かう活動と子どもの姿から、改めて保育者発信型の活動のねら いとしたことを考える(年長クラス1月~3月の保育から) (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育実習設定保育でやってみたい活動を1~2つ考え、乳児版幼児版のイ メージを持つ
第15回	まとめ 保育実習設定保育(つなぎの部分保育含む)直前 指導	(学修内容) 「設定保育指導案の実施・振り返り」のコメント 実習での設定保育を楽しむために (事前事後学修課題の内容)(30分) 14回課題をふまえ「ねらい」を考え、「導入・活動・まとめ」のイメ ージを膨らませ可能性を探る

授 業 名	総合的な学習の時間（小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3452
英 文 名	The Period of Integrated Study			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	寺田 博幸			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	総合的な学習の時間の先進事例をもとに、総合的な学習の時間の意義や、各学校における目標及び内容を定める際の考え方を解説する。本授業を通して、指導計画作成の考え方や指導と評価の考え方や実践上の留意点を理解するとともに、その目標達成のために必要な基礎的な資質・能力を身に付けるようにする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 学習指導要領に基づいて、教員の求められる総合的な学習の時間に関する具体的な指導の在り方、並びに学習活動の評価などの基本的知識・技能を修得することができる。</p> <p>2. 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための指導法を理解することができるようにする。</p> <p>3. 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用・応用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現できるような指導計画を作成することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編 平成29年7月 文部科学省 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省，国立教育政策研究所教育課程研究センター								
参 考 書	小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月 告示 文部科学省 東洋館出版 京都・宇治発地域協働の総合的な学習「宇治学」副読本による教育実践 橋本祥夫編著 ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたコメントカードの声を受け止めながら受講生が課題を共有する。								
留 意 事 項	到達目標に迫るため、15回の授業に出席し学びを深めるとともに、その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日の昼休憩時、及び授業後の時間								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市立小学校校長として勤務								

授 業 名		総合的な学習の時間（小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	総合的な学習の時間の創設とその背景	(学修内容) 総合的な学習の時間の創設とその背景 (事前事後学修課題の内容) (90分) 配布した資料に基づき、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第2回	総合的な学習の時間の意義と目標、目指す資質・能力	(学修内容) 総合的な学習の時間の意義と目標、目指す資質・能力 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第1章、第2章、第3章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第3回	総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導、及び評価の基本的な考え方	(学修内容) 総合的な学習の時間の学習指導計画作成と学習指導、及び評価の基本的な考え方 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第4章から第8章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第4回	総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法	(学修内容) 総合的な学習の時間における探究学習過程とその指導法 (事前事後学修課題の内容) (90分) 配布する資料を基に、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第5回	総合的な学習の時間 実践事例(1)「地域の文化と伝統」	(学修内容) 「地域の文化と伝統」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「地域の文化と伝統」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第6回	総合的な学習の時間 実践事例(2)「地域と自然環境」	(学修内容) 「地域と自然環境」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「地域と自然環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第7回	総合的な学習の時間 実践事例(3)「地域の町づくり」	(学修内容) 「地域の町づくり」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「地域の町づくり」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第8回	総合的な学習の時間 実践事例(4)「地域と福祉」	(学修内容) 「地域と福祉」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「地域と福祉」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第9回	総合的な学習の時間 実践事例(5)「エネルギー資源と環境」	(学修内容) 「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「エネルギー資源と環境」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第10回	総合的な学習の時間 実践事例(6)「地域と防災」	(学修内容) 「地域と防災」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「地域と防災」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第11回	総合的な学習の時間 実践事例(7)「和食の文化」	(学修内容) 「和食の文化」を課題とする学習指導の教材研究 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「和食の文化」を課題とする学習指導計画作成のための単元を構想する。	
第12回	グループ協議に基づく学習指導計画案の作成と提案準備(1)	(学修内容) グループ協議に基づく学習指導計画案作成 (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ協議に基づく学習指導計画案作成と提案に向けての準備をする。	
第13回	グループ協議に基づく学習指導計画案作成とプレゼンテーションの作成	(学修内容) グループ協議に基づく学習指導計画案の提案準備とプレゼンテーション作成 (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ協議に基づく学習指導計画案の提案に向けてのプレゼンテーション作成する。	
第14回	グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(1)	(学修内容) グループ協議に基づく学習指導計画案の提案 (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに、相互評価を行う。また、提示するレポート論題についてまとめる。	
第15回	グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(2)、及び総合的な学習の時間の展望(まとめ)	(学修内容) グループ協議に基づく学習指導計画案の発表(2)、及び総合的な学習の時間の展望(まとめ) (事前事後学修課題の内容) (90分) グループ協議に基づく学習指導計画案を全体提案するとともに、相互評価を行い、総合的な学習の時間についてまとめる。	

授 業 名	子どもの家庭科			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3450
英 文 名	Children and Home Economics			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校「家庭科」の教育理念、教育目標、教育内容を理解する。学習指導要領で示された「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の3つの領域を基底に、家庭科を学ぶ意義を考える。また、家庭科の授業を行うために必要な知識を学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 家庭科を学ぶ意義を説明できる。 2. 小学校家庭科の内容構成を理解できる。 3. 小学校で家庭科を教授するための基礎的知識が身につく。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領解説 家庭編』文部科学省 東洋館出版								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもの家庭科	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 科目の概要と目的  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	家庭科を学ぶ意義	(学修内容) 家庭科の特徴と学ぶ意義について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第3回	家庭科で育む能力	(学修内容) 子どもの発達と家庭科で育む資質・能力について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第4回	家庭科のあゆみ	(学修内容) これまでの家庭科の歩みについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第5回	現代の生活様式の成立と課題	(学修内容) 現代の生活の成立と課題について 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第6回	学習指導要領：家庭科の目標	(学修内容) 学習指導要領の理解：家庭科の目標と内容構成について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領：家族・家庭生活	(学修内容) 学習指導要領の理解：「家族・家庭生活」について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	学習指導要領：衣食住生活	(学修内容) 学習指導要領の理解：「衣食住の生活」について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	学習指導要領：消費生活・環境	(学修内容) 学習指導要領の理解：「消費生活・環境」について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	家族・家庭生活分野の基礎	(学修内容) 「家族・家庭生活」に関する基礎知識を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第11回	食生活分野の基礎	(学修内容) 「食生活」に関する基礎知識を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第12回	衣生活分野の基礎	(学修内容) 「衣生活」に関する基礎知識を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第13回	住生活分野の基礎	(学修内容) 住生活に関する基礎知識を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第14回	消費生活・環境分野の基礎	(学修内容) 消費生活と環境に関する基礎知識を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第15回	総括	(学修内容) 家庭科の授業内容について考えをまとめる  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの内容を整理する

授 業 名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）（幼・小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3449
英 文 名	Teaching Methods and Techniques			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育制度に位置づけられる幼稚園と小学校の特質を理解し、その教育の方法と技術について学ぶ。今日の学校教育現場では、従来の知識伝達を重視した伝統的な一斉授業に加えて、創造性・主体的な学習を重視する情報発信型の教育が必要とされている。こうした教育方法・技術を習得するために、基礎となる学習理論、カリキュラム開発、授業設計、教材開発、指導技術、プレゼンテーションの方法を学習する。</p> <p>また、インターネット機能やプレゼンテーションソフトが搭載されたパソコン、電子黒板や各種デジタルコンテンツ等のICTを活用した授業設計に関わる知識・技術を学ぶとともに、教育データの活用や遠隔・オンライン教育の基本を理解することにより、情報通信技術を活用した効果的な学習を推進する方法を習得する。</p> <p>以上の内容を踏まえて、グループワークやディスカッションを通して教育の方法・技術に関する考察を深めるとともに、デジタル教科書や電子黒板を実際に活用した模擬授業を行う。</p> <p>さらに、校務支援システム等の活用によって実現する校務の情報化については、課題も含め認識できる内容とする。</p>								
学 修 成 果 対 象 業 績	<p>(1) 教育の方法と技術に関わる基礎的な内容（史の変遷・理論など）を理解する。</p> <p>(2) 情報通信技術の活用の意義や在り方を踏まえ、教育データを活用した学習指導や遠隔・オンライン教育等の基本を理解する。</p> <p>(3) ICTを用いた授業設計の方法を理解し、デジタル教科書や電子黒板等のICTを活用した授業を行うことができる。</p> <p>(4) グループ学習を通して、今日の教育課題を解決するための教育方法を提示できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）	グループワーク ICT活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	随時指示する。								
参考書	岡田涼〔ほか〕『自ら学び考える子どもを育てる教育の方法と技術』北大路書房、2016年 稲垣忠『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房、2019年								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	プレゼンテーションはグループ単位で行う。グループ内で活発に意見交換をして、主体的に活動することが望ましい。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	教育の方法と技術（ICT活用を含む）（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス（ICT活用含む）	（学修内容）本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の方法・技術に関する諸概念	（学修内容）幼稚園及び小学校における教育方法にはどのようなものがあるか。教育方法、教授法、学習指導などの諸概念について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	教育方法の史的変遷 近代の教授法	（学修内容）教授法の始まりから近代の教授法の理論と実践について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第4回	教育方法の史的変遷 教育の現代化と教授理論	（学修内容）教育の現代化と教授理論について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第5回	カリキュラム開発	（学修内容）カリキュラム開発の概念について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	教育課程と学習指導要領	（学修内容）教育課程に関わる法規と学習指導要領の内容について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第7回	教育評価とは	（学修内容）教育における評価の意味や意義について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第8回	協働的な学習の理論	（学修内容）仲間との協同による学習の意義と方法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第9回	ICT活用の意義と理論	（学修内容）ICTを用いた指導について概説する。効果的な授業設計の方法についてグループディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	ICTを活用した学習指導	（学修内容）教育データや遠隔オンライン教育の活用を踏まえた学習指導方法について概説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に提示する課題に対して、適切な学習指導方法を考えておくこと。
第11回	情報活用能力を育成するための指導法	（学修内容）情報活用能力の定義とその育成の動向を概観し、情報活用能力の指導法について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第12回	授業の設計	（学修内容）ICT活用を含めた学習指導案の書き方について解説する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第13回	模擬授業準備（ICTを活用した具体的な授業の設計）	（学修内容）提示された課題に対して適切な学習指導方法を提示できるよう準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第14回	模擬授業（ICTを活用した授業の実践）	（学修内容）各グループがICTを活用した授業を実践する。 （事前事後学修課題の内容）（120分） グループの各人が事前に与えられたそれぞれの役割を果たす。
第15回	まとめ（ICT活用含む）	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回までの資料を読み返しておくこと。

授 業 名	教育心理学 u ( 幼・小 )			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE3448
英 文 名	Educational Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	個人のもつ潜在的能力の実現は、教育による個々人の学習と、加齢に伴う心身の発達を通じて達成される。本講義は、特別支援教育の視点も加味しながら、学習や発達とはいかなる過程なのか、学習や発達を促進させる要因と障害となる要因は何か、それらはどのように理論化されるのかななどの問題を考える。また、教育現場で生起するさまざまな心理的問題について、発達・学習・認知・人格・社会心理学などを含めた多角的な視点から、対処法も含めて考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1.人間の発達の諸側面について説明できる。 2.人間の学習の諸側面について説明できる。 3.人間の発達や学習の特質を踏まえて、より良い教育のあり方を考えられる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	事前事後の学修を行うこと。学んだ内容について、都度確認テストを実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に知らせる。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：実務経験など：教育委員会のスクールカウンセラー、教員や保育者研修の講師								

授 業 名		教育心理学 u (幼・小)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育心理学の意義、目的、方法	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 教育心理学の内容や研究領域について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートやファイルを準備する。
第2回	発達(1)発達の規定因、発達と教育	(学修内容)発達とはどのような現象を指すのか、代表的な理論を学ぶ。教育との関係性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のこれまでの育ちについて振り返る。
第3回	発達(2)エリクソンの生涯発達理論	(学修内容)各時期の発達課題について学ぶ。人間の一生についておおよその見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族など、自分の周囲にいる人たちの発達課題を考える。
第4回	発達(3)ピアジェの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達段階の考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 同化、調節の具体例を考える。
第5回	発達(4)ヴィゴツキーの発達理論	(学修内容)代表的な認知発達理論を学ぶ。発達の最近接領域の考え方を学ぶ。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 足場かけの具体例を考える。
第6回	学習(1)古典的条件づけ、オペラント条件づけ	(学修内容)学習理論に基づく人間観を学ぶ。また、条件づけの基本的な考え方を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な条件づけの例を考える。
第7回	学習(2)観察学習、学習性無力感、学習理論の教育への応用	(学修内容)学習理論の教育への応用を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習理論を教育活動に取り入れる方法を自分なりに考える。
第8回	学習(3)動機づけ、原因帰属	(学修内容)動機づけや原因帰属について学び、人間の行動の生じる背景を理解する。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) やる気について考える。
第9回	思考と知能	(学修内容)知能の構造、記憶、メタ認知について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 知能検査について調べる。
第10回	パーソナリティ(1)類型論、特性論、フロイトのパーソナリティ論	(学修内容)パーソナリティについての代表的な理論を学ぶ。自我の防衛機制とその働き、適応と不適応について学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第11回	パーソナリティ(2)性格検査法、質問紙法、投影法、作業検査法	(学修内容)学校現場で用いられる心理検査、知能検査について基本的知識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめる。
第12回	学級集団における人間関係	(学修内容)学級集団で生じる人間関係を様々な角度から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読み、事例について考える。
第13回	教育現場における心理・社会的問題	(学修内容)いじめや不登校など、学校現場でみられる心理・社会的問題について学ぶ。具体例などをもとにディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のこれまでの学校生活を振り返る。
第14回	個人差や発達課題に応じた支援	(学修内容)発達の個々差について理解し、個別のニーズに応じた支援を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ユニバーサルデザイン教育や合理的配慮について調べる。
第15回	教育相談	(学修内容)カウンセリングの基本的な考え方と態度や、多職種との連携の重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ノートや資料を整理し不足分について確認する。

授 業 名	服飾と社会			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3442
英 文 名	Theory of Clothing Society			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>服装は、社会生活を営むうえで重要な役割を果たしている。歴史的にも、社会階層やジェンダーなどを反映して形成されてきた。本講義では、近代以降、服装が社会状況や規範意識を反映してどのように変化してきたのかをたどる。また、民族服が形成された過程や意味づけについて考える。民族服については、各自が国を選んで特徴と現状を調べ、プレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 服装の社会的機能について理解できる。 2. 近代に日本の服装がどのように変化したのか説明することができる。 3. 民族服の成り立ちと現状を理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	適宜資料を配付する。								
参 考 書	授業で随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授業名	服飾と社会	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 授業の概要 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み、服装と社会の関係について考える
第2回	資料にみる近代の生活と服装	(学修内容) 近代初期の資料にみられる人々の服装について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	近代社会と服装 - 近代化と服装の変化	(学修内容) 近代化による社会と服装の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	近代社会と服装 - 和服の意味づけ	(学修内容) 和服に付与された近代的な意味づけについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	近代化と服装 - 近代的和服の形成	(学修内容) 近代における和服の変化の諸相について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	近代社会と服装 - 洋服・和服とジェンダー	(学修内容) 近代の服装にみるジェンダーについて (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーについて調べておく
第7回	近代化と民族服の成り立ち	(学修内容) 近代化と洋服の導入、民族服の形成について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	民族服について調べる 国の歴史と民族服の特徴	(学修内容) 選んだ国の歴史と民族服の特徴について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を収集する
第9回	民族服について調べる 現代社会における民族服	(学修内容) 選んだ国の現代における民族服の用いられ方について調べる (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を収集する
第10回	プレゼンテーション：Aグループ	(学修内容) 民族服について調べたことをプレゼンテーションし、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーション資料を作成する
第11回	プレゼンテーション：Bグループ	(学修内容) 民族服について調べたことをプレゼンテーションし、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーション資料を作成する
第12回	プレゼンテーション：Cグループ	(学修内容) 民族服について調べたことをプレゼンテーションし、ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) プレゼンテーション資料を作成する
第13回	現代の和服に関する政策：文化財保護法と染織技法	(学修内容) 文化財保護法に指定された和服に用いられる染織技法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 文化財保護法について調べる
第14回	現代の和服に関わる政策：伝産法と染織産業	(学修内容) 伝産法に指定された和服に関わる染織産業について (事前事後学修課題の内容) (30分) 伝産法について調べる
第15回	総括	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業を振り返り考えたことをまとめる

授業名	都市と景観			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	HE3326
英文名	city and scenery			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>都市と景観の授業では、都市が歴史的、伝統的に培ってきた固有の町並みや景色の意味を考え、都市景観の鑑賞・分析の視点および、景観整備の意義について学ぶ。まず景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方、および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を学ぶ。次に、都市や地域の歴史文化的差異に配慮したデザイン手法の基礎を、伝統的市街地、都心の商業業務地区、郊外住宅地など、土地利用特性ごとに、理解する。適宜日本各地や世界各国の景観やまちなみを映像資料を用いて紹介していくことで、都市環境のデザインやまちづくりへと視野を広げる。フィールドワークを実施することでより体験的に習得する。風景の読み解き方、その特色を具体的に記述・評価するための視点を学習する。この授業をととして都市や建築を見学し、まちを見る目を養い、都市空間や建築の魅力を景観という観点から体感する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1)風景、景色、景観という視点から都市や建築、生活空間を説明することができる。  2)景観価値がどのように生まれたかを説明することができる。  3)よりよい環境を保全するための具体的な手法と仕組みを説明することができる。  4)都市の景観を守り、育てる取り組みについて説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜、プリント配付								
参考書	『日本の風景 西欧の景観』オーギュスタン・ベルグ(講談社現代新書) 『風景学入門』中村良夫(中公新書) 『まちづくりと景観』田村明(岩波新書) 『京・まちづくり史』(昭和堂)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートはコメントをつけて返却します。								
留意事項	フィールドワークがあり、私語・飲食は禁止								
オフィスアワー	授業初回に提示します。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得 二級建築士の審査委員を務めた								

授業名	都市と景観	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業ガイダンス 授業の進め方、ねらいについて  (事前事後学修課題の内容) (45分) シラバスの内容の確認
第2回	景観の意味	(学修内容) 景観という概念を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 景観、風景の特徴についての確認
第3回	都市の意味	(学修内容) 都市について、都市計画や都市形成、都市史から学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 都市についての物理的側面(建築や道路・公園・河川)からの見方の確認
第4回	都市景観とまちなみ	(学修内容) 視覚的な美しさから都市景観をみる。まちなみの見方も学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 都市景観とまちなみの見方の確認
第5回	都市景観の見方・調べ方	(学修内容) 現地調査と文献調査の手法をみる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 地図、古写真(絵葉書を含む)、古書によるイメージを事前学習
第6回	京都の都市空間と景観	(学修内容) 京都の都市空間と景観を読み解き、その意義を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都の都市空間のイメージを事前学習
第7回	フィールドワーク1	(学修内容) 白川界限・祇園新橋の現地調査 わが国最初の伝統的町並み保存地区の現況把握  (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先のまちなみの確認・地図の用意・カメラなどの準備
第8回	フィールドワーク2	(学修内容) 鴨川界限・先斗町・三条通り 繁華街の都市景観の現況把握  (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先のまちなみの確認・地図の用意・カメラなどの準備
第9回	中間発表・プレゼンテーション	(学修内容) 各自が選び、フィールド調査をおこなった都市景観について発表する  (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自パワーポイントの作成と発表の準備
第10回	景観を分析・評価する視点	(学修内容) 自然(緑・水)、時間(歴史)、デザイン(人がつくるもの)、の3要素による評価。また全体としての調和と地域らしさを学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 景観をつくる3要素の確認
第11回	西洋における景観・歴史的環境保全の歩み	(学修内容) 都市計画のなかで生まれた景観保全の手法を学ぶ。またアーツ&クラフツ運動や都市美運動との関連をみる  (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋での景観・歴史的環境保全の歩みを整理する
第12回	日本における景観・歴史的環境保全の歩み	(学修内容) 日本の景観保全の歩みをたどる。景観法や世界遺産など、歴史的環境を保全するための具体的な手法と仕組みについて学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本での景観・歴史的環境保全の歩みを整理する
第13回	フィールドワーク3	(学修内容) 岡崎公園と円山公園の現況把握  (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先のまちなみの確認・地図の用意・カメラなどの準備
第14回	都市景観の現状と問題点	(学修内容) 都市景観の現状と問題点を都市論や都市問題、歴史から考える。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 都市景観の現状と問題点を整理しておく
第15回	まとめ	(学修内容) 振り返りと総括  (事前事後学修課題の内容) (60分) 半年間の授業内容を振り返り、ポイントを整理する

授 業 名	特別支援教育（幼・小）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2439
英 文 名	Special Needs Education (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	林 静香			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>近年、教育現場には全体の6.5%の幼児・児童たちが特別な支援が必要といわれています。さまざまな支援が必要な子どもたちに多角的な支援を展開するためには、障害のもつ特性についてしっかりと学んでおく必要があります。</p> <p>本講義では、障害種別の特性を学ぶとともに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の仕組みを理解できるようにすすめていきます。また、教育現場の事例検討も取り入れながら実践的に学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる</p> <p>2) 発達障害（疑いを含む）や知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなどが原因で、支援を必要とする幼児・児童の心身の発達について理解を深めることができる</p> <p>3) 支援を必要とする幼児・児童の家庭との協力や関係機関との連携について学び、理解することができる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	前田泰弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』（2019）萌文書林								
参考書	山田章『教室で使える発達の知識』クリエイツかもがわ 2019年 玉村公二彦編著『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』クリエイツかもがわ 2019年								
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、一人ひとり添削して返却します 全体的に共通して助言が必要な場合は講義内で解説します。								
留意事項	授業内で出る課題については必ず期日までに提出してください。（期日後の提出は減点、未提出の場合は欠席となります）								
オフィスアワー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 6号館 幼児教育演習室にて受け付けます								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設にて勤務（保育士）								

授 業 名		特別支援教育（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	（学修内容）教育・保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ 障害者差別解消法、合理的配慮についての理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） 障害のイメージについて発表してもらうので、自身の考える障害像をまとめておく	
第2回	発達の法則（発達段階）、障害の早期発見	（学修内容）発達の法則（発達段階）について理解を深める 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト第 部を読んでおく	
第3回	支援の必要な子どもへの教育形態 （手帳のしくみ・個別支援計画）	（学修内容）支援の必要な子どもたちの支援方法が（教育形態、個別支援計画）を理解する。手帳（身体・療育・精神）の仕組みについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部分を読んでおく	
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第3章を読んでおく	
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	（学修内容）気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともにどのような特性を持っているのかを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第5章を読んでおく	
第6回	発達に課題のある子どもについての理解	（学修内容）発達障害について（分類、定義）理解する 発達障害者支援法について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第5章を読んでおく	
第7回	自閉症スペクトラム障害（ASD）への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第6章を読んでおく	
第8回	学習障害（LD）児、注意欠如・多動性障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）学習障害、注意欠如・多動性障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第6章を読んでおく	
第9回	小テスト ふりかえり	（学修内容）講義内容をどれだけ確認できているのが各自確認する  （事前事後学修課題の内容）（40分） 今までの講義内容を復習しておく テスト終了後、解答の困難だった部分についてしっかりと復習しておく	
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）視覚障害児の特性を理解するとともに、具体的にどのような援助、配慮すべき留意点があるのか（教材など）を考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第4章を読んでおく	
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）聴覚障害児・言語障害児の特性を理解するとともに、どのような援助、配慮すべき留意点があるのかのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 部第4章を読んでおく	
第12回	身体に障害のある子ども（肢体不自由児・脳性まひ・医療ケア児）への理解と援助、配慮すべき留意点	（学修内容）身体に障害をもつ子どもたちの分類および各々の特性を理解し、どのような援助、配慮すべき留意点があるのかのぞましいかを考え、学ぶ （事前事後学修課題の内容）（40分） テキスト第 部第4章-1を読んでおく	
第13回	特別に支援の必要な子どもたちを取り巻く環境の理解（家庭との協力、関係機関との連携）	（学修内容）特別支援教育に該当する子どもの環境を理解するとともに、その子どもを取り巻く社会時事について理解する（外国籍家庭・貧困家庭など） （事前事後学修課題の内容）（40分） テキスト第 部第8章を読んでおく	
第14回	ユニバーサルデザインについて	（学修内容）ユニバーサルデザインや障害者マークなどについて理解を深め、支援の必要な子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについて調べておく	
第15回	まとめ インクルーシブ教育への転換	（学修内容）今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（20分） テキスト第 章を読んでおく	

授 業 名	子どもの外国語			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2438
英 文 名	Children and Foreign Language			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	松尾 章子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けることを目標とします。授業では、英語4技能（聞く、話す、読む、書く）を中心に運用力を高める練習を行います。また、英語に関する背景的な知識（音声、文構造、第二言語習得、児童文学、異文化理解など）について講義形式で学びます。</p>								
学 修 成 果 対 象 業	<p>1) 英語に関する背景的な基礎知識を説明することができる。  2) 授業実践に必要な英語力（主に4技能）を身に付けている。  3) 人と分け隔てなくコミュニケーションを取ること（やり取り）ができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『小学校英語教育の基礎知識』村野井仁著 大修館書店 2,000円＋税								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物・実技については、その都度コメントを返します。								
留 意 事 項	小学校の授業見学、ボランティアを積極的に行ってください。 多文化交流も積極的に行ってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室（5号館3階）前に日時を掲示しますので、確認してください。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の業務経験など：精華町立精華西中学校、精華町立川西小学校 非常勤国際理解教育講師  京都市立横大路小学校、京都市立洛央小学校 外国語指導助手  Mount Carmel R.C. Primary School インターンシップ2か月（小学校1年生英語、算数担当）  英会話スクールAEON講師</p>								

授業名	子どもの外国語	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	Introduction	(学修内容) 授業の進め方、英語での自己紹介、ミニトークについて  (事前事後学修課題の内容) (15分) 事前: シラバスを読む 事後: 振り返りを書く
第2回	6章: クラスルーム・イングリッシュ/授業に必要な なずびーキング力について	(学修内容) 英語でのインタラクション・英語授業に必要な基本表現について (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 教科書第6章を読む 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第3回	7章: 英語コミュニケーション能力の高め方(多 読・多聴による理解力向上)	(学修内容) 多読・多聴を用いて英語力を伸ばす学習方について  (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 教科書第7章を読む 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第4回	14章: 異文化間コミュニケーション	(学修内容) ステレオタイプ、異文化適応、英語話者と日本語話者のコミュニケー ション等について (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 教科書第14章を読む 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第5回	13章: 英語文学と児童文学(代表的な英語文学作 品)	(学修内容) 体系的な英語文学作品と覚えておきたい英語表現について  (事前事後学修課題の内容) (120分) 事前: 教科書第13章(前半)を読む 事後: 1作品を読み、感想文を提出する
第6回	13章: 英語文学と児童文学(児童文学)	(学修内容) 児童文学とその知識・背景について  (事前事後学修課題の内容) (100分) 事前: 教科書第13章(後半)を読む 事後: 作品の感想文を書いて提出する
第7回	2章: 第二言語習得に関する知識と外国語教育実 践への応用	(学修内容) 中間言語、認知スタイル、第二言語習得における個人差等について (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: 教科書第2章を読む 事後: 第2章をまとめて提出する
第8回	8章: 英語コミュニケーション能力の高め方(表 現力の向上)	(学修内容) 英文を読む力・書く力等について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第8章を読む、サンタカード1枚目を書く 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第9回	9章: 英語コミュニケーション能力の高め方(シ ャドウイングによる聴く・話す力の向上)	(学修内容) シャドウイングの英語学習法やことばの処理メカニズムについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第9章を読む、サンタカード2枚目を書く 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第10回	10章: 英語音声のしくみ	(学修内容) 音声記号、子音と母音、強勢とイントネーション等について  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: 教科書第10章を読む、サンタカード3枚目を書く 事後: 第10章をまとめて提出する
第11回	11章: 英文法	(学修内容) 品詞、5文型、時制等について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第11章を読む、サンタカード4枚目を書く 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第12回	Secret Santa体験(12月最終週に実施する) バーンガ体験	(学修内容) Secret Santaを体験して英語を使う楽しみを知る バーンガ体験をして異文化コミュニケーションを疑似体験する (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: サンタカード5枚目を書く 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第13回	15章: 小学校における異文化間交流	(学修内容) 小学校における異文化交流実践例等について  (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 教科書第15章を読む 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第14回	12章: 英語の歴史	(学修内容) 変化し続ける英語の歴史について  (事前事後学修課題の内容) (50分) 事前: 教科書第12章を読む 事後: 振り返りを書く、英語力向上に向けて練習する
第15回	異文化間コミュニケーションに関する講演(調整 により、内容・日程の変更有)	(学修内容) 異文化間コミュニケーションに関する講演に参加する  (事前事後学修課題の内容) (70分) 事前: 試験に向けて復習する 事後: 感想文を書いて提出する

授 業 名	子どもの国語（書写を含む。）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2437
英 文 名	Children and Japanese Language (including Calligraphy)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	学習指導要領にもとづきながら、小学校国語科の目標および内容を理解するとともに、保育所・幼稚園等との接続について考察する。また、絵本や童話などの物語、昔話や言葉遊びなどの言語文化、情報機器など、各教材の効果的な活用方法を理解し、それらの特性を活かした授業設計について実践的に学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)小学校国語科の目標および内容、ならびに保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「言葉」の要点を理解し、小学校教育とのつながりについて説明できる。 2)物語や説明文、言語文化、情報機器などの活用方法や特徴を理解し、それらを扱った授業構想案を作成できる。 3)教師として求められる基本的な日本語表現の能力を身に付けている。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	佐藤喜一『基礎からのジャンプアップノート 漢字2500 書き取り 改訂版』旺文社、2017年 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』文部科学省、2017年 『こくご 一年上』光村図書 『しょしゃ 一ねん』『書写 三年』教育出版								
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、2018年								
課題に対する フィードバック の方法	漢字テストは毎回返却しますので復習に役立ててください。プレゼンについては次週に受講生の感想ふくめてフィードバックを行います。								
留 意 事 項	毎回漢字の小テストを行いますので、テキストを予習してきてください。また、発表も行いますので各自十分な準備をしてください。すべてのテキストを毎回使用するわけではありません。次週の持ち物は毎回説明します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業の際に説明します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子どもの国語（書写を含む。）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の進め方や評価の方法、小テストの範囲、プレゼンの内容と担当について理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）シラバスを読んでおく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第2回	領域「言葉」と国語科	（学修内容）幼稚園教育要領から領域についての考え方をおさえ、領域「言葉」と「国語科」それぞれのねらいや内容と共通点・相違点を理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）学習指導要領の目次と内容を概観しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第3回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と国語科	（学修内容）事例をもとにディスカッションによって「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と国語科の接続について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）保育関係の既習科目での学びを振り返っておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第4回	学校図書館と「読書」「読むこと」「伝統的な言語文化」	（学修内容）学校図書館の機能と役割を理解し、小学校での図書館の活用を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）自分自身の学校図書館での経験をまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第5回	ことばの育ちと「話すこと・聞くこと」	（学修内容）子どものことばの育つ道すじをおおまかに把握するとともにロールプレイを通して話すこと・聞くことの指導法を検討する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）幼稚園教育要領の領域「言葉」について復習しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第6回	ことばの育ちと「書くこと」 幼児	（学修内容）子どもの書きことばの育つ道すじをおおまかに把握するとともに幼児教育における文字の指導について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）幼稚園教育要領の文字に関する部分を復習しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第7回	ことばの育ちと「書くこと」 小学校1年	（学修内容）「話すこと・聞くこと」でのロールプレイをワークシートに書き起こすことで小学校1年国語科での「書くこと」の授業構想を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書「こくご」の該当箇所を復習しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第8回	文学教材の研究 教材研究とは	（学修内容）文学教材の教材研究の方法を「スイミー」を題材にしながらか理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）「スイミー」の学習経験を振り返りまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第9回	文学教材の研究 素材研究から教材研究へ	（学修内容）素材として作品を鑑賞したあと、指導事項と照らし合わせながら単元を構想する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）素材文の魅力や気になったところをまとめておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第10回	文学教材の研究 指導計画	（学修内容）単元のねらいや目標、指導事項や評価規準について学習指導案例をふまえて理解を深める （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）学習指導要領の該当箇所を復習しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第11回	小学校国語科の授業構想	（学修内容）同じ作家の絵本と読み比べグループディスカッションを行うことを通して単元のねらいや言語活動、授業構想について検討する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）配布した教材を読み比べておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第12回	書写 指導事項・姿勢・筆記用具	（学修内容）小学校国語科の「書写」指導事項を理解し、低学年で指導する姿勢や筆記用具の持ち方などの指導方法を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書「しょしゃ」に一通り目を通しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第13回	書写 水書用紙を用いた指導法	（学修内容）水書用紙をもちいながら筆順や走筆について理解を深める （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書「しょしゃ」の該当教材を読んでおく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第14回	書写 毛筆の指導法	（学修内容）毛筆の使い方や姿勢の指導方法および基本点画を理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）小学校教科書「書写」に一通り目を通しておく （事後）配布資料を読み直し、要点を整理しノートなどにまとめる
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業内容を振り返り、試験にむけての課題を理解する （事前事後学修課題の内容）（120分） （事前）これまでの資料をまとめ、質問事項を整理しておく （事後）配布資料と教科書から要点を整理しまとめる

授 業 名	ファッション論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2430
英 文 名	Clothing Culture			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	ファッションは、時代により、また地域によって多様である。本講義では、日本と西洋のファッションの流れをたどり、現代的なファッションの成立過程、現代におけるファッションデザイナーの活動について講義する。様々な社会のファッションのあり方を知ることにより、ファッションが果たしてきた役割や現代的意味について考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞しディスカッションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. ファッションの多様性について理解することができる。 2. 日本と西洋のファッションの変化を説明することができる。 2. ファッションの役割について理解することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適宜資料を配付する。								
参 考 書	授業で随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授業名	ファッション論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおく
第2回	社会とファッション	(学修内容) 様々な社会のファッションを知り、ファッションの多様性について考える  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	日本のファッション：平安時代の男性ファッション	(学修内容) 平安時代の服飾と身分、男性のファッションについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	日本のファッション：平安時代の女性のファッション	(学修内容) 平安時代の女性の生活とファッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	日本のファッション：江戸時代の社会と服装	(学修内容) 江戸時代の身分制と服装について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	日本のファッション：江戸時代の女性の服装	(学修内容) 衣装比ベと奢侈禁止令について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	日本のファッション：江戸時代の女性のきもの	(学修内容) きもの文様について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	日本のファッション：江戸時代の女性ファッション	(学修内容) きもの・帯・化粧について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	西洋のファッションの歴史	(学修内容) 西洋ファッションの歴史と近代的な洋服の成立について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	西洋のデザイナー：近代社会とシャネル	(学修内容) 近代社会のファッションとシャネル  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	西洋のデザイナー：シャネルのファッション	(学修内容) シャネルのファッションについて 映像鑑賞とディスカッションを行う  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第12回	西洋のデザイナー：ディオールのファッション	(学修内容) ディオールのファッションについて  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第13回	日本のデザイナー 海世界で活躍したデザイナー	(学修内容) 世界で活躍した日本人デザイナーとファッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第14回	日本のデザイナー 川久保玲のファッション	(学修内容) 川久保玲の活躍とファッション  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第15回	ファッションの社会的意味	(学修内容) ファッションの多様性と社会的意味  (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容を振り返る

授 業 名	乳児保育 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2429
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	乳児保育が果たしている役割を解説した後、0歳から2歳の発達と保育園の生活とあそびを解説する。そうした乳児保育の知識を得た上で、保育所の環境構成について理解を深め、子どもにとって過ごしやすい環境をつくる方法を具体的に考える。また、乳児向けの絵本をどのように子どもと楽しむかを考えたり、子どもがどのようにあそぶかを考えて、おもちゃをみたり作ったりする。そうした作業を通して、0歳から2歳の子どものイメージを把握し、子どもが集団の中で安心して過ごせるようになるための指導計画やその実際の展開の工夫を理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児保育の歩み、現状と課題について理解することができている。 2) 0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラスの保育での生活とあそびについて理解している。 3) 絵本や手遊びなど3歳未満児との関わりに有効な教材を使いこなせるようになっている。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テ キ ス ト	乳児保育研究会編 『改訂新版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』(ひとなる書房) 保育計画研究会編 『改訂版 実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方(ひとなる書房)』 西川由紀子 『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 厚生労働省 『保育所保育指針』								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートなどについては、授業で解説を行う。授業への質問や感想については、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		乳児保育 u
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育のとらえかた	(学修内容) 子どもの発達を考えた上で、乳児保育の意義をどうとらえるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第5章を読んでくる 第2章1、2を読んでくる
第2回	乳児保育のあゆみ	(学修内容) 乳児保育の歴史を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第7章を読んでくる
第3回	0歳児保育の生活とあそび	(学修内容) 0歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の0歳児の部分、の0歳児の部分を読んでくる
第4回	0歳児の保育の実際	(学修内容) 0歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) の0歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第5回	1歳児保育の生活とあそび	(学修内容) 1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の1歳児の部分、の1歳児の部分を読んでくる(30分)
第6回	1歳児の保育の実際	(学修内容) 1歳児保育の実際の動画をみたのち、保育の留意点を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) の1歳児の部分を読んでくる。前の週の授業を復習しておく
第7回	2歳児の生活とあそび	(学修内容) 1歳児保育の生活とあそびについて解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章2、第2章3、第3章の2歳児の部分、の2歳児の部分を読んでくる
第8回	乳児にとっての絵本の役割	(学修内容) 絵本の特性を解説した後、乳児にとっての絵本の楽しさを解説きいたあと、小グループで絵本を読み合う (事前事後学修課題の内容) (15分) 乳児向け絵本を1冊選んでもってくる
第9回	0・1・2歳児クラスの保育環境づくり：保育のねらいとそれに応じた環境	(学修内容) 保育室の環境づくりの特徴を、子どもの発達や保育のねらいとの関連で解説する それに応じた保育室のアレンジを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分なりに保育室のイメージをもてるよう調べてくる
第10回	保育室のイメージづくり	(学修内容) 保育室のイメージをグループで交流する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の思い描く保育の目標と保育室のイメージをグループの人に伝えられるよう準備する。
第11回	各グループの保育の目標に応じた保育室の環境のアレンジを発表する	(学修内容) 各グループで作成した保育室の環境のアレンジを視覚的にとらえられるよう工夫して発表する (事前事後学修課題の内容) (120分) 発表の準備をグループで協力して行う
第12回	手作りおもちゃの魅力	(学修内容) 手作りおもちゃを子どもたちがどのようにあそぶかを考え、魅力的なおもちゃ像を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) さまざまな手作りおもちゃを本やネットで調べてくる。
第13回	乳児保育とかみつきについて	(学修内容) 乳児の集団保育にみられる困った行動のひとつであるかみつきについて解説した上で、保育を見直す視点を伝える (事前事後学修課題の内容) (90分) のp75からp79を読んでくる
第14回	乳児保育の指導計画、記録と評価	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる 第1章3を読んでくる
第15回	手作りおもちゃの交流	(学修内容) 各自が作ってきた手作りおもちゃの解説を行い、さまざまな手作りおもちゃのよさを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (180分) 手作りおもちゃを作成し持参するとともに、そのレポートをまとめてくる。

授 業 名	子どもの保健 U			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2428
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	福井 百合子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育の現場では、適切に養育する力量が求められる。専門家としての養育に必要な育児技術、健康管理、安全管理について学ぶ。「子どもの保健」で学んだ基礎知識と融合し、乳幼児のお世話と保健的対応、疾病予防、感染予防、応急・救急処置の基本的知識と技術を理解する。また安全の確保、事故予防等の基礎知識を学ぶ。理解を深めるために、適宜、動画視聴、演習、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>子どもの健康増進、心身の発育・発達を促す保健活動や保育環境を考え、保育場面での安全管理と衛生管理を学び、具体的な方法がわかる。</p> <p>子どもの成長、発達についての観察、判断について理解し、一部行える。</p> <p>子ども(乳幼児)の健康と子育てに必要な日常的な養護について、子どもの特徴をふまえて考え、一部実践できる。</p> <p>子どもの病気やケガの看護や処置、予防対策が理解でき、一部行える。</p> <p>疾病や障害をもつ乳幼児の保育について理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (子どものことを考える気持ちの表れ)			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	飯島一誠・稲垣由子・本田順子・八木麻理子「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」 日本小児医事出版社								
参 考 書	大西文字・遠藤幸子・興水めぐみ ほか「子どもの健康と安全」中山書店 中根淳子/佐藤直子編著、北川好郎/濱口典子著 「子どもの保健」ななみ書房 その他は適宜提示。								
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストは解答後に解答を表示。								
留 意 事 項	教科書とノートを持参して受講してください。 授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱い扱うこと。 専門家として子どもの健康と発育・発達を支援し、病気やケガの保健的対応や、保育環境の衛生管理・安全管理について必要な知識と技術を身につけることが求められる。 まずは子どもや自分自身の健康に関心を持つことが大切である。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業ガイダンスで案内。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師、教員としての実務経験から、乳幼児の様子や、病気・ケガの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていきます。								

授業名	子どもの保健 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 保育の中での子どもの健康と保健の意義、望ましい保育環境	(学修内容) 授業ガイダンス。 保育の中での子どもの健康と保健の意義、望ましい環境について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの保健 で学んだ子どもにとっての健康や保健活動の意味を復習しておく。
第2回	保育の中での子どものお世話 (心地よい環境づくり、環境の3つの視点、安全、衛生、生活習慣の確立)	(学修内容) 保育の中での子どものお世話 (心地よい環境づくり、環境の3つの視点、安全、衛生、生活習慣の確立) (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの保健 の教科書p46～80、本授業の教科書第 部第2章を読みポイントをとめる。
第3回	保育の中での子どものお世話 (声掛け、抱っこ、おむつ交換)	(学修内容) 乳幼児の声掛け、抱っこ、おむつ交換について学び、一部演習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業資料、教科書の該当箇所を読みイメージトレーニングをしておく。第 部第5章1+資料
第4回	保育の中での子どものお世話 (着替え、沐浴)	(学修内容) 乳幼児の着替え、沐浴について学び、一部演習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業資料、教科書の該当箇所を読みイメージトレーニングをしておく。第 部第5章1+資料
第5回	保育場での衛生管理と感染症予防(感染の予備知識、予防接種、吐物や汚物の処理)	(学修内容) 保育場での衛生管理と感染症予防(感染の予備知識、予防接種、吐物や汚物の処理)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもの保健 教科書p107～110、本授業教科書を読みまとめる。第 部第4章+資料
第6回	保育場での健康管理(日々の観察と健診、体調不良などへ対応、冷電法)	(学修内容) 保育場での健康管理(日々の観察と健診、体調不良などへ対応、冷電法)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み観察ポイントと留意点をまとめておく。第 部第3章
第7回	保育の中での安全管理 (子どもの事故やケガ：予防と安全管理)	(学修内容) 子どもの事故やケガ、安全管理、防犯・防災・安全教育について学び子どもの特徴や危険予知についてグループディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を読み子どもの特徴と起こりやすい事故やケガを知っておく。第 部第2章、第3章
第8回	保育の中での安全管理 (子どもの事故やケガ：応急手当、誤飲・誤嚥時の対処、救命処置)	(学修内容) 保育現場の子どもの事故やケガについて、応急手当、誤飲・誤嚥時の対処、救命処置について学び、一部演習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み事故やケガ発生時の状況をイメージしておく。第 部第2章2、第3章2～3
第9回	アレルギー疾患を持つ子どもへの対応	(学修内容) アレルギー疾患を持つ子どもへの対応(気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み生活管理表の活用とアナフィラキシーショックについて知っておく。第 部第5章2
第10回	慢性疾患を持つ子どもへの対応(心臓、腎臓、てんかん発作、糖尿病)	(学修内容) 慢性疾患を持つ子どもへの対応(心臓、腎臓、てんかん発作、糖尿病)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み概要を理解し低血糖症状とてんかん発作を知っておく。第 部第5章
第11回	障害のある子どもへの対応 (肢体不自由、感覚器の障害、発達障害、医療的ケアが必要な子ども)	(学修内容) 障害のある子どもへの対応(肢体不自由、感覚器の障害、発達障害、医療的ケアが必要な子ども)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み障害の内容と留意点を知っておく。第 部第5章
第12回	園内の職員の連携と計画性、母子保健と地域での保健活動	(学修内容) 園内の職員の連携と計画性、母子保健と地域での保健活動について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読み他職種との存在と母子保健にかかわる法律を知っておく。第 部第6～7章
第13回	養護支援と連携・協働、虐待について	(学修内容) 養護支援と連携・協働、虐待について知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当箇所を読んでおくこと。第 部第8～9章
第14回	保育における保健活動 子どもの可能性を伸ばす	(学修内容) 保育における保健活動 子どもの可能性を伸ばすについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書の該当箇所を読み子育てや保育の中での保健活動について考える。第 部第1章、第 部第6章
第15回	授業での学びの振り返り 定期試験の案内	(学修内容) 授業での学びの振り返り、保育場面で活かしていきたいことを考える。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書を読み返し復習しておく。全体の振り返りまとめておく。

授 業 名	子どもの音楽			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2426
英 文 名	Children and Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子・永峯 翠子・服部 さやか			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	保育士および幼稚園・小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、音楽 に引き続き、子どもの歌の歌唱、ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌い、音楽理論を学ぶ。ピアノ教則本および子どもの歌の弾き歌いに関しては毎回課題を課し、習熟度確認のための個別レッスンをを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの歌の基本的な発声法と弾き歌いの技術を習得することができる。 2) ピアノ教則本は最低でもバイエルを終了を目標とする。 3) 音楽理論を通して音楽の諸活動に必要な基礎的知識を習得することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	小試験はその都度解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンをを行う。								
留 意 事 項	レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの音楽	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画の説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの授業の内容に目を通しておくこと
第2回	歌唱・ピアノレッスン・ハ・ヘ長調の伴奏付け	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 伴奏付け(ハ・ヘ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ハ・ヘ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第3回	歌唱・ピアノレッスン・ト長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ト長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ト長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第4回	歌唱・ピアノレッスン・ニ長調の伴奏付け	(学修内容) および伴奏付け(ニ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・ニ長調の伴奏付けの復習をしておくこと
第5回	歌唱・ピアノレッスン・伴奏付け総復習	(学修内容) および伴奏付けの総復習と様々な伴奏パターンについて  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・伴奏付けの復習をしておくこと
第6回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ハ長調)	(学修内容) および視唱(ハ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ハ長調)の復習をしておくこと
第7回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ヘ長調)	(学修内容) および視唱(ヘ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ヘ長調)の復習をしておくこと
第8回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ト長調)	(学修内容) および視唱(ト長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ト長調)の復習をしておくこと
第9回	歌唱・ピアノレッスン・視唱(ニ長調)	(学修内容) および視唱(ニ長調)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱(ニ長調)の復習をしておくこと
第10回	歌唱・ピアノレッスン・視唱小試験	(学修内容) および視唱小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・視唱課題の復習をしておくこと
第11回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(付点)	(学修内容) およびリズム打ち(付点)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(付点)の復習をしておくこと
第12回	歌唱・ピアノレッスン・リズム打ち(シンコペーション)	(学修内容) およびリズム打ち(シンコペーション)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱復習・ピアノ練習・リズム打ち(シンコペーション)および既習の音楽理論の復習をしておくこと
第13回	歌唱・ピアノ総復習および演習・音楽理論小試験	(学修内容) の総復習と演奏上の諸注意事項について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱・ピアノ課題の復習をしておくこと
第14回	歌唱総復習・歌唱小試験	(学修内容) の総復習および小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習の歌唱課題の復習をしておくこと
第15回	ピアノ総復習・ピアノ小試験	(学修内容) の総復習および小試験  (事前事後学修課題の内容) (60分) 既習のピアノ課題の復習をしておくこと

授 業 名	子どもの算数			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2425
英 文 名	Children and Arithmetic			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	青山 泰浩			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	算数科学習は小学校教育において、ひときわ高い関心もたれています。しかし、何をどのように学ぶのが正しく理解されているとはいいがたい現状があり、とりわけ算数とは計算技能の習熟を図り、繰り返し練習をさせればよいという現在の学習指導要領の主旨に合わない指導も見られます。そこで、算数とは何を学ぶ教科なのか、また、その教材にはどんな数学的な価値があるのかを見直し、理解することが必要です。授業では、これらの点についてグループワークやディスカッションを交えながら授業を進め、算数で学ぶ学習内容の理解を深めていきます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 学習指導要領に示されている算数科学習の内容を正しく理解することができる。 2) 算数科学習における問題解決の特徴を理解し、自らの力で算数の問題を解決する能力を高めることができる。 3) 算数科の教材研究を積極的に進め、その内容を協議し、発表したりレポートにまとめたりすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	毎回の授業時に資料（プリントなど）を配布します。また、資料の一部はclassroomにアップします。								
参 考 書	文部科学省「小学校学指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版）								
課題に対する フィードバック の方法	次時の授業やclassroomにてコメントを返します。								
留 意 事 項	小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持った人の受講を望みます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業後の教室で、またはメールで対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教員，京都教育大学附属京都小学校教員，京都市総合教育センター指導主事・研修主事，京都市立小学校校長								

授 業 名	子どもの算数	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションと算数科の目標	(学修内容) 本授業のねらい, 15回の学修の進め方と学修にのぞむ態度について 算数を学ぶ意義, 算数科学習の目標について (事前事後学修課題の内容)(45分) 算数とは何を学ぶ教科なのかについて自己の経験を踏まえて考え, レポートにまとめる。
第2回	算数科の特徴: 算数と数学の特徴とそのつながり	(学修内容) 「ちがいをみて解く問題」と「きまりに目をつけて解く問題」の解決, 算数で解く場合と数学で解く場合の違いとつながりについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 自分の学習経験を振り返り, 算数と数学の違いについて研究し, レポートにまとめる。
第3回	算数科の学習内容と内容の取扱い(1): 数と数の構成, 集合, 時刻と時間	(学修内容) 数の構成, 数の読み方, 集合の意味, 時刻と時間について 日常生活と算数のかかわりについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 日常生活の中で使われている(役に立っている)算数の事例を見つけ, レポートにまとめる。
第4回	算数科の学習内容と内容の取扱い(2): たしざんとひきざん	(学修内容) 具体物を使った操作によるたしざんとひきざんの定義について 2種類のたしざんの意味, 3種類のひきざんの意味について (事前事後学修課題の内容)(45分) 2種類のたしざん, 3種類のひきざんについて, 具体的な事例を研究し, レポートにまとめる。
第5回	算数科の学習内容と内容の取扱い(3): かけ算とわり算	(学修内容) かけ算, わり算の定義と性質, かけ算とわり算の関係について 「0のかけ算」「0のわり算」の意味について (事前事後学修課題の内容)(45分) 「0の意味」「0を含んだ計算」について調べ, レポートにまとめる。
第6回	算数科の学習内容と内容の取扱い(4): 分数の意味, 分数の計算	(学修内容) 分数が誕生した経緯, 分数がもつ様々な意味について 分数の計算方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 分数の乗除について, その計算の仕方を図や逆数を使って説明し, レポートにまとめる。
第7回	算数科の学習内容と内容の取扱い(5): 図形の構成, 図形の性質	(学修内容) 色板を使った面構成, 棒を使った線構成, 点をつないだ点構成, おり紙を使った形作り, 図形の要素や名称について (事前事後学修課題の内容)(45分) 日常生活, 街角から様々な図形を見つけ, レポートにまとめる。
第8回	算数科の学習内容と内容の取扱い(6): 作図, 面積	(学修内容) 三角定規の形が持つ意味, 三角定規を使った作図法, コンパスの使い方, 合同な図形の作図法について, 基本図形の面積の公式について (事前事後学修課題の内容)(45分) 様々な図形の面積の求め方を研究し, レポートにまとめる。
第9回	算数科の学習内容と内容の取扱い(7): さまざまな量, 単位	(学修内容) 日常生活に使われている様々な量とその単位, 測定方法について (事前事後学修課題の内容)(45分) 日常生活で使用されている量と単位について, その使われ方を調べ, レポートにまとめる。
第10回	算数科の学習内容と内容の取扱い(8): 統計, データの処理, 確率	(学修内容) 統計で用いる表, グラフの意味や作成のしかたについて データに基づいた分析・考察のしかたについて (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自でテーマを決めてデータを集め, 統計グラフを作成し, 考察する。
第11回	算数科の学習内容と内容の取扱い(9): 比例, 関数	(学修内容) 比例の定義と意味, 算数で重要なはたらきをする関数について きまりを使った問題解決について (事前事後学修課題の内容)(45分) きまりを見つけ, そのきまりを使った問題解決を研究し, レポートにまとめる。
第12回	学習指導要領と算数科(1): 算数科の目標, 数学的活動	(学修内容) 学習指導要領に示されている目標, 算数科学習の内容, 数学的活動について (事前事後学修課題の内容)(45分) 数学的活動の具体的事例を研究し, レポートにまとめる。
第13回	学習指導要領と算数科(2): 数学的な見方・考え方	(学修内容) 学習指導要領に示されている「数学的な見方・考え方」について 児童の発達段階と特徴について (事前事後学修課題の内容)(45分) 数学的な見方・考え方の具体的事例を研究し, レポートにまとめる。
第14回	学習指導要領と算数科(3): 今日の課題, 情報機器の活用	(学修内容) 全国学力・学習状況調査からわかることはなにか, タブレットなどの教育機器はどのように活用するのかなどの今日の課題について (事前事後学修課題の内容)(45分) 全国学力・学習状況調査問題を調べ, ねらいと特徴を考察し, レポートにまとめる。
第15回	学習指導要領と算数科(4): 校種間連携と今後の算数科学習が目指すもの, 学修のまとめ	(学修内容) 幼児教育と小学校教育のつながり, 小学校教育と中学校教育のつながり, 算数科学習の課題と今後の発展について (事前事後学修課題の内容)(45分) 自己の学習経験, 本授業で学んだことを振り返りながら算数科学習に対する自分の思いをレポートにまとめる。

授業名	子どもの社会			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2424
英文名	Children and Social Studies			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	湯浅 俊郎			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	戦後誕生した社会科の歴史と意義について理解を深め、戦後の社会科学学習指導要領の変遷や、社会科教材づくりの視点と方法、社会科授業案づくりなどを学ぶ。具体的には、教材づくりとして、基礎的なデータを用いた地域社会の捉え方など実践しながら、イメージ豊かに社会の現場をとらえ、社会科の授業のありかたについて考察していく。								
学修成果到達目標	1) 戦後社会科の歴史を理解したうえで、社会科教材づくりの視点と方法を踏まえて社会科授業案作りができる。 2) 民間社会科の理論と実践の成果を理解した上で、21世紀の社会科の展望と課題をとらえることができる。 3) 現代の社会の状況を「自分の言葉」で分かりやすく伝えることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業時に資料を配布します。								
参考書	前田賢次・荒井真一編『学力と教育課程の創造 社会認識を育てる教育実践とその歩み』同時代社 2013年、また適宜、紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留意事項	授業前に復習をしておくこと(受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります)。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスで内容を確認する。	
第2回	学習指導要領について	(学修内容) 社学習指導要領についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第3回	社会的な見方・考え方について	(学修内容) 指導要領にある社会的な見方・考え方についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第4回	社会的事象の地理的な見方・考え方について	(学修内容) 指導要領にある社会的事象の地理的な見方・考え方についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第5回	社会的事象の歴史的な見方・考え方について	(学修内容) 指導要領にある社会的事象の見方・考え方についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第6回	現代社会の見方・考え方について	(学修内容) 指導要領にある現代社会の見方・考え方についてみていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第7回	地域学習について	(学修内容) 地域に根ざす教材づくり (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の住んでいる地域の魅力を紹介するレジユメの作成	
第8回	産業学習について	(学修内容) 産業学習と日本社会の産業構造 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第9回	グローバル化と情報化社会の学習について	(学修内容) グローバリゼーションが進展し、情報化社会となった時代における日本社会の位置 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	
第10回	指導案づくりの実習(1)--生活の道具、交通、公共施設について	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成	
第11回	指導案づくりの実習(2)--地理、歴史、産業について	(学修内容) 各自で授業プランを作成して、相互に批評し合う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業プランの作成	
第12回	模擬授業(1):グループワーク --生活の道具について	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成	
第13回	模擬授業(2):グループワーク --交通、公共施設について	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成	
第14回	模擬授業(3):グループワーク --地理、歴史、産業について	(学修内容) 担当者による指導案に基づく模擬授業を行い、相互に批評する (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習指導案の作成	
第15回	まとめ	(学修内容) グローバリゼーションが進展している現在における将来の社会科のありかたについて考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の実践例をみて、気づいたことをまとめる。	

授業名	子どもの運動			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	HE2423
英文名	Children and Exercise			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	眞崎 雅子			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	子どもの心と体の健康、発育発達、体力などの視点から、「運動」の意義・役割について多角的に捉え、子どもの運動遊びの実践を通して、体を動かす楽しさや遊びの特性について理解を深める。同時に、多様な運動遊びの指導や援助について学ぶ。授業後半に取り組み模擬授業やグループでのリズム体操創作では、協働的に取り組む態度を身に付け、保育者・教育者としての資質やコミュニケーション能力を高めることを目指す。								
学修成果到達目標	1) 楽しく様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた運動遊びを自分で工夫する事ができる。 2) 遊びを展開・発展させていく上で、重要な着眼点や基本的な配慮点に気づく事ができる。 3) 運動遊びの重要性と楽しさを理解する事ができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜プリントを配布する								
参考書	『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 前橋明編著 樹村房 『幼児の運動遊び』 菊池秀範・石井美晴編著(相川書房) 『0~5歳児の運動遊び指導百科』 前橋明著(ひかりにくに株式会社)								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却する。実技については、その都度コメントをする。								
留意事項	保育者として現場に立つ時の事を考えて、積極的に運動遊びに取り組んでもらいたい。 毎回の学習内容・課題で提示される内容について、事前に調べておくこと。 ボランティア活動にも積極的に参加してもらいたい。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など：</b> ダンスインストラクターとして、子どもから大人を対象に活動。以下活動実績； <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者を対象にズンバ指導</li> <li>・小学校での土曜教育プログラムにおける「リズム遊び・からだの遊び」等の講師</li> <li>・教育委員会主催体育研究会の講師、親子体操の講師</li> </ul>								

授 業 名	子どもの運動	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業内容や進め方を説明し、幼児期の運動の重要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 後: 授業内容の振り返りを提出する
第2回	幼児期における運動の重要性	(学修内容) 幼児期の子どもの体力や運動能力の現状を学び、体力を高めるための保育者の支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児期に必要な運動について調べる 後: 授業内容の振り返りを提出する
第3回	リズム遊び	(学修内容) 多様なリズム・リズムの変化を楽しみ、手遊びやわらべ唄の表現遊びを体遊びへと発展させ、遊びの展開について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 様々なリズムパターンを考えておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第4回	リズムダンス	(学修内容) 様々なリズムダンスの実践を通して表現力を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 曲のイメージに合った動きや、発達年齢に合った運動を考える 後: 授業内容の振り返りを提出する
第5回	鬼遊びとボール遊び	(学修内容) 様々な鬼遊びや、子どもの投力を高めるための遊びの展開方法を学ぶ 後: 授業内容の振り返りを提出する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 年齢に応じた投球フォームを確認し、ボール遊びの種類を調べる 後: 授業内容の振り返りを提出する
第6回	フープ遊び・縄あそび	(学修内容) フープや縄の特性について知る。まわす・くぐる・転がす・跳ぶなどの遊びを楽しむ。少人数の遊びや大人数の遊びを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 色々なフープ遊びを考えておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第7回	マット遊び	(学修内容) マットを利用した遊びを通して、動きのパリエーションについて学ぶ。 前転・後転・側転遊びの補助の方法を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) (30分) マット遊びとして動物のなりきり遊びについて調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第8回	マット・跳び箱・平均台を使った遊び サーキット遊びの計画・実践	(学修内容) マット・跳び箱・平均台の特性について理解し、それらを利用した遊びを通してレパトリーを広げる。前転や横転等の補助の仕方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) マット・跳び箱・平均台の特性と多様な遊びについて調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第9回	遊びの紹介1 (模擬授業)	(学修内容) 様々な遊びの紹介を通して保育者としての支援や言葉がけについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 運動遊びの計画を立てる 後: 授業内容の振り返りを提出する
第10回	遊びの紹介2 (模擬授業)	(学修内容) 様々な遊びの紹介を通して保育者としての支援や言葉がけについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 運動遊びの計画を立てる 後: 授業内容の振り返りを提出する
第11回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの特性を知り、基本の動きから大技まで表現方法を学ぶ。 グループで協働的に作品を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パラバルーンの特性や表現方法について調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第12回	リズム体操の曲・テーマ・グループ決め	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を創作する。幼児の年齢に合った体操を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 人気のあるキッズダンスを参考に年齢に合わせた曲や動きを考える 後: 授業内容の振り返りを提出する
第13回	リズム体操の動きの創出・空間構成について	(学修内容) 体操の動きを見直し、様々な動きを取り入れたリズムカルで効果的な体操に仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子ども達が楽しめる効果的な体操の流れについて確認し修正する 後: 授業内容の振り返りを提出する
第14回	リズム体操の完成に向けて	(学修内容) グループでリズム体操を創作し、練習する (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで考えた動きを復習しておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第15回	創作したリズム体操の発表会	(学修内容) グループで創作したリズム体操を発表し、評価する (事前事後学修課題の内容) (30分) リズムカルに大きく動き表現できるように練習する 後: 授業内容の振り返りを提出する

授 業 名	介護学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2420
英 文 名	Introduction to Nursing Care			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>みなさんは「介護」と聞いて何を思い浮かべますか？寝たきり老人、認知症、障害者等への身の回りのお世話をすることを想像された方もいるでしょう。しかし、「寝たきり」状態や「障害のある方」は、老人に限るのでしょうか？さらには、「介護」には「介護する人」と「介護される人」の双方向の関係性が生じてきます。</p> <p>本講では、通俗的に使用される「介護」と専門分野としての「介護」を情緒的かつ科学的な視点で切り込みながら、次代を生きる上で欠かすことのできない概念として生活支援の一助となるような「介護」を理解することを目的とする。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 介護を取り巻く社会情勢について説明できる。</p> <p>2) 介護を活かす場とそこに関わる多職種の役割を説明できる。</p> <p>3) 全人的存在としての対象に対して、こころとからだの両側面より介護することの必要性を理解できる。</p> <p>4) 生活を支援する「介護」の場において生じる「なぜ」に対して、根拠に基づいた説明ができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	宮崎和加子著『認知症の人の歴史を学びませんか』中央法規 2011年								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	グループワークやプレゼンテーションでの発表後は、講評ならびに解説を行います。								
留 意 事 項	講義を中心に進めていきますが、グループワークや口頭発表を取り込んでいくので、学生自身の主体的かつ積極的な授業参加を期待します。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	講義初回時に連絡します。 基本的に研究室(1R 404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名	介護学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「介護」って何？～	(学修内容) 講義の進め方や成績評価の方法について説明する。 ミニ・グループワーク；「介護」って何？ (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおくこと。テキストを必ず購入すること。
第2回	グループワーク 「介護」から何をイメージしますか？	(学修内容) 「介護」のイメージについてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「歴史を学ぶ前に (pp.2-11) を読んでおくこと。
第3回	介護の概念と法制度	(学修内容) 介護の定義や法制度の位置づけを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その1 認知症の人の居場所の変遷」(pp.14-21) を読んでおくこと。
第4回	グループワーク 介護における専門職倫理	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士の倫理綱領を読みながら、それぞれの専門性についてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第5回	「介護」はなぜ社会問題となっているのか？	(学修内容) 人口動態より日本社会の「介護」をめぐる諸課題について整理する。 ワークシートを配布する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「その2 四十年前のこと」「その3 精神病院という場で」(pp.24-51) を読んでおくこと。
第6回	介護は誰がするのか？	(学修内容) 介護は誰が、誰に、どのような方法で、何をするのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その4 身体拘束禁止にたどりつくまで」(pp.54-72) を読んでおくこと。
第7回	介護の過去・現在・未来	(学修内容) 歴史的背景を通じてどのような変遷をしているのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までの内容をまとめておくこと。
第8回	介護の基本・演習 ～「わたし」って...～	(学修内容) 自分知るワークを通して他者を知ることの意味を体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第9回	介護の基本・演習 ～障害を体験する～	(学修内容) ブラインドウォーク、車イスなどを通して障害について体験的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回配布したワークシートを作成しておくこと。
第10回	介護の実際 ～特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その5 動き出した特養ホーム」(pp.74-90) を読んでおくこと。
第11回	介護の実際 ～小規模特別養護老人ホームでの介護～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その6 老人保健施設とE型デイサービス」(pp.92-98) を読んでおくこと。
第12回	介護の実際 ～宅老所でのかいご～	(学修内容) 介護の現場を視聴覚教材(DVD)を通して理解し、利用者への介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その7 宅老所・グループホームの試み始まる」(pp.100-115) を読んでおくこと。
第13回	認知症の理解と介護	(学修内容) 認知症の種類や原因、周辺症状について理解し、介護の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト「その8 「呆け老人をかかえる家族の会」発足と市民活動」(pp.118-125) を読んでおくこと。
第14回	グループワーク 介護の未来	(学修内容) 介護がどのような場で展開されていくのか、グループワークを通して考え、新たな介護のあり方を提案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト「その11 未来に向けて 私の歴史とともに」(pp.150-162) を読んでおくこと。
第15回	わたしが提案する「介護の未来」	(学修内容) 「介護の未来」に関して受講生がプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 紙ベースのレジュメとスライド(PowerPoint)を必ず準備すること。

授 業 名	住居文化			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2419
英 文 名	Housing Culture			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	住居文化の授業では住むことを歴史的に捉えることを主眼とする。町家、長屋、農村住宅、郊外住宅、団地、マンションと日本の住宅が辿ってきた住居の歴史を学習することで、日本人がどのような生活をおこなってきたのかを振り返り、今後どのような空間に住めばよいのかを総合的に考えていく。また日本の住居に影響を与えた欧米や中国、東南アジア、アラビア・アフリカの住居についても学び、共通点を探り、文化史的なつながりを理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)すまいの文化について歴史的な観点から説明することができる。 2)町家や集合住宅などについて特徴や成立を説明することができる。 3)日本と外国の住居について、違いと共通点を説明することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	現地見学会がある。私語・飲食は禁止								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住居文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 住居文化を学ぶ意義 (事前事後学修課題の内容) (45分) シラバスの内容の確認
第2回	日本古代・中世・近世の家	(学修内容) 日本古代・中世・近世の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) この時代の家の特徴ならびにイメージをつかむ
第3回	明治期の家	(学修内容) 明治期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第4回	大正期の家	(学修内容) 大正期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第5回	昭和戦前期の家	(学修内容) 昭和戦前期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料から気に入った家を見つけ、予習する
第6回	昭和戦後期の家	(学修内容) 昭和戦後期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第7回	平成の家	(学修内容) 平成期の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 身近なところにある気に入った家を見つけ、予習する
第8回	歴史的住宅の現地見学	(学修内容) 歴史的住宅の現地見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 見学先の住宅建築の確認とカメラなどの用意
第9回	見学建物の評価に対するディスカッション	(学修内容) 見学建物の評価ならびに感想に対するディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションに対する自分自身の考えをまとめる
第10回	ヨーロッパの家	(学修内容) ヨーロッパの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) ヨーロッパの家のイメージを事前学習
第11回	アメリカの家	(学修内容) アメリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アメリカの家のイメージを事前学習
第12回	中国・韓国の家	(学修内容) 中国・韓国の家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中国・韓国の家のイメージを事前学習
第13回	東南アジアの家	(学修内容) 東南アジアの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) 東南アジアの家のイメージを事前学習
第14回	アラビア・アフリカの家	(学修内容) アラビア・アフリカの家 (事前事後学修課題の内容) (60分) アラビア・アフリカの家のイメージを事前学習
第15回	住居のプレゼンテーション	(学修内容) 住居のプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) (90分) 各自パワーポイントの作成と発表の準備

授 業 名	住空間とインテリア実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2316
英 文 名	Living space and interior training			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川島 智生			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	住空間とインテリアについて基礎的な知識を学ぶ。それらを具体的な形にする力を身につける。住空間を成り立たせる三次元空間を理解するために、平面・率面・断面・展開の各図の作図をおこなう。くわえて椅子の模型を作成する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1)住空間の仕組みが理解できる。 2)立体と平面の関係が理解でき、そのことを表現することができる。 3)簡単なインテリア空間の設計ができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	プリント配付								
参 考 書	特になし								
課題に対するフィードバックの方法	提出した作品・レポートについてコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	簡単な製図道具と模型制作道具が必要。現地見学がある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業初回に提示します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：大阪府立工業高等学校で建築・デザイン系コースの学科長経験。 一級建築士ならびにインテリア・コーディネーターの資格取得。 二級建築士の審査委員を務めた。								

授 業 名		住空間とインテリア実習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)住空間とインテリア実習を学ぶ意義  (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認
第2回	住空間の構成1 独立住宅	(学修内容)独立住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第3回	住空間の構成2 集合住宅	(学修内容)集合住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第4回	住空間の構成3 最小限住宅	(学修内容)最小限住宅の特質と意義  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第5回	現地見学・現代建築フィールドワーク	(学修内容)現代の建築見学  (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第6回	平面図の読解	(学修内容)平面図の内容  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第7回	平面図の作図	(学修内容)簡単な室内平面図の作図  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第8回	展開図の読解	(学修内容)展開図の内容  (事前事後学修課題の内容)(60分) プリントを読んでおく
第9回	展開図の作成	(学修内容)簡単な展開図の作図  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第10回	現地見学・歴史的建築フィールドワーク	(学修内容)歴史的な住宅見学  (事前事後学修課題の内容)(60分) 見学先の住宅の事前確認、カメラの準備
第11回	家具模型の制作・基礎	(学修内容)ペーパー模型  (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備
第12回	家具模型の制作・応用	(学修内容)ペーパー模型、着色  (事前事後学修課題の内容)(60分) 模型作成道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備
第13回	家具の設計・作図	(学修内容)椅子とテーブルの設計  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、プリントを読んでおく
第14回	家具の設計・図面の着色・透視図の作成	(学修内容)椅子とテーブルの設計・図面の着色・透視図の作成  (事前事後学修課題の内容)(60分) 製図道具の準備、絵の具・クレパス・色鉛筆の準備、プリントを読んでおく
第15回	設計作品の発表と講評	(学修内容)プレゼンテーションと講評会  (事前事後学修課題の内容)(120分) プレゼンテーションの準備

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	HE2315
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	細辻 珠紀			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	食生活実習 で学んだ基本的な知識を基に、栄養面や安全性、嗜好性を考慮した食事の整え方の理解を高める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身に付ける。また、日本人の食事摂取基準および日本食品標準成分表についてその基本を理解する。さらに、中学校、高等学校で指導するうえで必要な技術の実習を行い、知識を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 日本独自の食文化である季節のもてなし料理や行事食、郷土食について知識を持ち、提供できる力を修得している。 2) 日本だけでなく西洋や中国の食文化についても理解を深める。 3) 中学校、高校生の1日の献立や日常食の献立のための調理計画と調理ができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	新調理研究会編「これからの調理実習 - 基本手法から各国料理、行事食まで - 」オーム社 2014年								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、確認の上返却する。								
留 意 事 項	4名程度を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なる場合がある。オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。また、コロナ対応等で実習内容が変更となる場合がある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回到授業で指示する。								
実践的教育									

授 業 名	食生活実習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意 献立作成	(学修内容) 諸注意、レポートの書き方 日本人の食事摂取基準や食品成分表の説明、夕食の献立を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 女子中学生・高校生の栄養素の必要量を調べる。自分の1日の食生活を振り返っておく。夕食の献立を作成し、11月中に提出する。
第2回	京のおばんざい	(学修内容) ナスの田楽、肉じゃが、青菜とあげの炊いたん(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) みその種類を調べてまとめる レポートを作成し、次回に提出する。
第3回	和食の基本的な調理	(学修内容) 粟飯、土瓶蒸し、黄身酢和え(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 味付け飯についてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第4回	西洋料理の魚介だしや油脂の調理特性	(学修内容) プイヤベース、パウンドケーキ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 西洋料理のだしの取り方について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第5回	郷土料理について	(学修内容) 鯖の味噌煮、けんちん汁、わらび餅(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 背の青い魚の効用について調べる。 レポートを作成し次回に提供する。
第6回	パン生地応用	(学修内容) 肉包子・豆沙包子、中華風クッキー(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 中国の地方による料理の特徴について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第7回	基本の中国料理	(学修内容) 古老肉、魚と卵白のスープ、さつまいもの飴からめ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 砂糖の加熱による変化について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第8回	西洋の肉料理、シュー生地	(学修内容) ボルシチ、シュークリーム(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) ロシア料理、ウクライナ料理について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第9回	もてなし料理	(学修内容) ぶりの照り焼き、炊き合わせ、赤飯(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 赤飯の作り方について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第10回	小麦粉の調理特性 卵の調理特性	(学修内容) マカロニグラタン、ロールケーキ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) スポンジケーキの泡立て方について調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第11回	中国料理の点心	(学修内容) 粽子、水菓西米露(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 変わったフルーツについて調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第12回	行事食1(クリスマス料理)	(学修内容) ローストチキン、キャロットスープ(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 世界のクリスマスケーキについて調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第13回	行事食2(正月料理)	(学修内容) 正月吉例料理、雑煮(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 正月料理の食材のいわれについて調べてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第14回	パイ生地について	(学修内容) アップルパイ、コーヒー(調理実習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 折込パイについてまとめる。 レポートを作成し、次回に提出する。
第15回	1回目の課題で作成した献立を実習	(学修内容) 自由献立 (事前事後学修課題の内容) (60分) 作成した献立の栄養計算をしておく。

授 業 名	統計学の基礎			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE2312
英 文 名	Statistics for Business			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>Society5.0(内閣府)は経済の持続可能発展と社会的課題の解決を人工知能、ロボット、ビッグデータなど情報通信技術を駆使することで達成するが目指されています。センシング技術をはじめ、さまざまな情報を瞬時に一つのデータとして収集することが可能であり、その有効な活用が成功の鍵を握ります。有効に活用するために、データを分析する方法をわたしは習得する必要があります。それは統計的手法です。これからの社会、職場や地域活動を担う皆さんにとって分析者として統計のスキルを発揮する場合もあるでしょうし、自ら統計に携わらなくてもメディアで公表される統計データなどを読み解く感覚を身に付けることはますます重要となるでしょう。この授業では統計を学ぶ導入として基本的な知識理解をExcelソフトなどを使用しながら実践的に獲得することをテーマに進めます。</p> <p>受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) カイ2乗検定を説明できる 2) t検定を説明できる 3) 分散分析を説明できる</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	授業時に資料を配布する。								
参 考 書	授業中に紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項	ゆっくりと進めていきますので、問題が解けるまで頑張る。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業終了後に行います。								
実践的教育									

授業名	統計学の基礎	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容、進め方を理解し学修計画を立てることができる  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読んでおく 事後: 授業の気づきを書き出し提出
第2回	平均と度数分布	(学修内容) 平均と度数分布を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第3回	分散と標準偏差	(学修内容) 分散と標準偏差を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第4回	母集団の平均と分散	(学修内容) 母集団の平均と分散を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第5回	区間推定と信頼区間	(学修内容) 区間推定と信頼区間を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第6回	帰無仮説	(学修内容) 帰無仮説を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第7回	カイ2乗検定	(学修内容) カイ2乗検定を説明できる。教科書pp.62-77  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 教科書の範囲を読んでおく 事後: 授業の気づきを書き出し提出
第8回	t検定	(学修内容) t検定を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第9回	対応のあるt検定	(学修内容) 対応のあるt検定を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第10回	分散分析	(学修内容) 分散分析を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第11回	分散分析(1要因)	(学修内容) 分散分析(1要因)を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第12回	分散分析(2要因)	(学修内容) 分散分析(2要因)を説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第13回	交互作用	(学修内容) 交互作用について説明できる。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第14回	確認問題	(学修内容) これまで習った知識をもとに関連する問題に答えることができる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。
第15回	確認問題のふりかえり	(学修内容) これまで習った知識をもとに関連する問題に正しい答えを導くことができる。教科書の各章巻末 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の気づきを書き出す。

授 業 名	労働法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2310
英 文 名	Labor Law			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	村上 紗央里			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	労働法は、働くことに関する法律の総称を意味します。私たちの生活では、働くことが様々な形で関わってきます。本授業では、労働法の知識や考え方を活用して、実際の働く経験の場面という事例（ケーススタディ）を通じて学びます。授業ではペアやグループ、教室全体でのディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて学びます。								
学 修 成 果 到 達 目 標	アルバイトや就職して働く際に必要な知識を説明することができる。 労働に関するトラブルに遭った際に、どのように対応したらいいか考え行動することができる。 自分自身のキャリアと実際の労働環境や労働条件を踏まえ、働く意義を明確にすることができる。 他者と協働して、労働問題について議論したり、考えたりすることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	必要に応じて関連する書籍や資料を紹介します。								
参 考 書	道幸哲也・加藤智章・國武英生編（2018）『18歳から考えるワークブック（第2版）』法律文化社。								
課題に対する フィードバック の方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項	授業では、グループワークを積極的に取り入れます。グループワークを円滑に進めるためにも、お互いのことを知ることから始めます。第1回から第5回の授業では、授業の最初にチェック・イン（身の回りの出来事について簡単に紹介）を行い、グループワークなどのアクティブ・ラーニングに慣れるように進めていきます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎回の授業後に実施します。								
実践的教育									

授業名	労働法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、自己紹介	(学修内容)授業のねらいと進め方について紹介、講師及び受講生の自己紹介 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容について確認すること
第2回	労働法の必要性と働くことを考える	(学修内容)なぜ労働法が必要か、日本社会の雇用や職場をめぐる問題から考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをすること
第3回	就職活動と有期雇用・無期雇用	(学修内容)就職活動や労働条件として重要な有期雇用と無期雇用の違いについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 就職活動の際に必要な履歴書とはどのようなものか実際に記入してみる こと
第4回	労働条件1 賃金のルール	(学修内容)労働基準法や就業規則を踏まえ、賃金のルールについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをすること
第5回	労働条件2 労働時間	(学修内容)労働基準法や就業規則を踏まえ、労働時間について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをすること
第6回	労働条件3 ワークライフバランス	(学修内容)現在の生活を踏まえ、仕事(勉強)と生活のバランスについて考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをすること
第7回	ケーススタディ1 セクハラやいじめ	(学修内容)実際の事例を踏まえ、職場におけるセクハラやいじめに遭った時の対応 策について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 企業におけるセクハラやパワハラ、いじめにはどのような問題があるの か調べておくこと
第8回	ケーススタディ2 ブラック企業	(学修内容)実際の事例を踏まえ、ブラック企業の問題点について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) ブラック企業と呼ばれる企業にはどのような特徴があるか調べておく こと
第9回	ケーススタディ3 仕事と家庭生活、子育て	(学修内容)実際の事例を踏まえ、家庭を持ち子育てをしながら働ける環境や支援制 度について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 仕事と家庭を両立するには、どのような働き方がいいのか考えておく こと
第10回	金融リテラシー	(学修内容)自分の持っている資産を貯蓄や投資に配分する方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておくこと
第11回	雇用保険	(学修内容)失業や休業した時の支援制度について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておくこと
第12回	労働組合	(学修内容)労働組合の役割とその活動内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回のまとめをしておくこと
第13回	グループによる発表(準備)	(学修内容)労働法の授業で学んだことを踏まえ、大学卒業後、どのように働きたい のかをグループを作りパワーポイントを使って発表する準備を行う (事前事後学修課題の内容)(90分) グループ発表の準備を進めること
第14回	グループによる発表	(学修内容)労働法の授業で学んだことを踏まえ、大学卒業後、どのように働きたい のかパワーポイントを使ってグループで発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業後、グループ発表を通じて学んだことについてまとめること
第15回	授業全体の振り返りとまとめ	(学修内容)労働法の授業で何を学んだのか、これまでの授業内容を振り返り、学ん だことについて言語化する (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で学んだことを事前にまとめておくこと

授 業 名	生活とメディア			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2309
英 文 名	Life and Media			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	堀出 雅人			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>車の自動運転の実現、遠隔操作によって家の中の家事を進める「スマート家電」など、IoT(Internet of Things),人工知能(AI;Artificial Intelligence)といった技術革新によって私たちの生活は大きく変わりつつあります。また、SNSや動画投稿サイトなどスマートフォン・アプリによって国内外を問わずひととひととのつながりが広がり、新しい文化が生まれています。携帯電話の所持率の低年齢化または所持する年代の高年齢化、今後更にスマートフォンを中心としたインターネット上の各種メディアを老若男女が使用しそれぞれの生活をより善くしていこうとする傾向が強まると予想されます。一方で、日々のニュースで取り上げられるようにインターネット上のトラブルが絶えません。大学生をはじめ若者の被害も深刻です。そこで、本授業を通して、わたしの「生活とメディア」の現状を捉え、見つめ直す中で、最終的にメディアを介したコミュニケーション上で被害者にも加害者にもならない情報倫理を学修し、実践できる力の習得をめざします。ルールやマナーを理解するためには、自己理解と他者理解が欠かせないプロセスのため、グループワークを授業内で実施します。また、授業内容の理解を深めるために、自らの言葉で発表する、書くといった方法を取り入れます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしの生活を支えるメディアの特徴を説明できる</li> <li>・メールや各SNSの特徴を把握した上で適切な情報発信ができる</li> <li>・情報セキュリティの基本的な知識・技術を説明し、また実践できる</li> <li>・ネットトラブルの具体例と解決方法を説明できる</li> <li>・Society 5.0が目指す社会像を説明できる</li> </ul>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	noa出版『情報倫理ハンドブック』								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者庁ホームページ「インターネットをめぐる消費者トラブル」 <a href="https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/categorization/internet/">https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/categorization/internet/</a></li> <li>・警察庁ホームページ「サイバー犯罪対策プロジェクト」 <a href="https://www.npa.go.jp/cyber/">https://www.npa.go.jp/cyber/</a></li> <li>・内閣府ホームページ「Society5.0 科学技術政策」 <a href="https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html">https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html</a></li> <li>・そのほか授業中に適宜指示します。</li> </ul>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>毎回提出を求めるコメントカードを後日チェックし全体的あるいは個別にコメントを返す          プレゼンテーションを行う場面では、評価項目を事前に伝え、プレゼンテーション終了後に、講評を行う</p>								
留 意 事 項	<p>テキストでの学習をおこなうため必ず購入すること          グループワークやプレゼンテーション等には積極的に参加すること          配慮事項がある場合は、事前に相談にくること          ( 授業を欠席する場合も事前連絡を )</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業時間終了後教室で行います。まとまった時間が必要な場合はメールを下さい。日程調整をします。ku096horide@kyotokacho-u.ac.jp								
実 践 的 教 育									

授業名	生活とメディア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「生活とメディア」を通して学ぶこと	(学修内容) シラバス、テキストpp.1-3を読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: シラバスを読み、授業の概要を把握し、授業を受ける際の質問事項を整理しておく
第2回	インターネット上の著作権、肖像権	(学修内容) インターネット上の著作権と肖像権について事例を挙げて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.4-10を読む。 事後学修: 著作権、肖像権の侵害に関する一事例をまとめる
第3回	さまざまなSNSの特徴	(学修内容) 生活を送る上でSNSを使用する際のメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.11-17を読む。 事後学修: SNSを一つ選び、その特徴をまとめる
第4回	情報を発信する際に意識すること	(学修内容) インターネット上で情報発信する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.18-19を読む 事後学修: To, Bcc, Ccの使い分け方法をコメントカードにまとめる
第5回	1対1、1対特定多数、1対不特定多数の情報送受信	(学修内容) メールやSNS上の情報の送受信の範囲を説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.20-22を読む 事後学修: SNS上のトラブルを調べコメントカードにまとめる
第6回	情報セキュリティの3つの観点	(学修内容) パスワード管理、バックアップ、データ整理によるセキュリティ強化の方法を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストpp.23-28を読む 事後学修: 情報セキュリティについて調べまとめる
第7回	データの安全を脅かすもの	(学修内容) マルウェア、不正アクセス、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.29-33まで読む 事後学修: データの脅威となる1事例を調べ書き出す
第8回	データの安全性を守る技術的対策	(学修内容) 情報を守るセキュリティソフト等の機能を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.34-40まで読む 事後学修: 情報を守る技術の特徴をコメントカードにまとめる
第9回	ネットワーク上のトラブル事例	(学修内容) 【グループワーク】大学生や若者に被害がでているネットトラブルについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.41-44まで読む 事後学修: ネットトラブル事例から1つ選び回避方法を考える
第10回	ネットトラブルを避けるための注意点	(学修内容) 【プレゼンテーション】大学や若者がネットトラブルに遭わないための注意点を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: pp.45-52までを読む 事後学修: ネットトラブル防止の周知策を考え書き出す
第11回	ネット依存	(学修内容) ネット依存の特徴と対策を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 日本のネット依存の現状を調べてくる 事後学修: ネット依存のスクリーニングを行い結果をまとめる
第12回	子育てとメディア	(学修内容) 子どもたちの間で起こるネットトラブルとその予防を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 子どものインターネット使用時間等を調べる 事後学修: 家庭のルールづくり案をコメントカードにまとめる
第13回	わたしたちの生活とSociety5.0	(学修内容) Society5.0が目指す社会像について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 内閣府のSociety5.0のホームページを検索し、予習してくる 事後学修: わたしたちの生活の変化を予想しコメントカードにまとめる
第14回	情報倫理と生活	(学修内容) 【グループワーク、プレゼンテーション】授業2~10回を振り返って、情報倫理に関する要点を発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: テキストで興味をもった部分を再読 事後学修: グループワークの内容をコメントカードにまとめる
第15回	これからの「生活とメディア」	(学修内容) 【PBL】授業11~13回を振り返って、これからの私の暮らしとメディアについて話し合い発表できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修: 授業11~13回を振り返って興味をもった箇所を調べる 事後学修: グループワークの内容をコメントカードにまとめる

授 業 名	アパレルと流通			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2308
英 文 名	apparel and circulation of goods			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	私たちの生活とかかわりの深いアパレル産業の現状と課題について講義する。アパレル産業の発展過程、流通構造や業態、振興政策などについて現状と課題を概観する。さらに、マーケティングやマーチャンダイジングに関する基本的な事項を説明する。これらの知識をふまえ、アパレル産業の実態を調査、発表し、アパレル産業の今後のあり方について考える。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アパレル産業の業態と現状を説明できる。</li> <li>2. アパレル産業の課題を理解できる。</li> <li>3. アパレル産業の課題に対して自分の考えを説明することができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	適宜資料を配付する。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く）設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授業名	アパレルと流通	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスを読み、アパレル産業とは何かを調べておく
第2回	アパレル産業の発展	(学修内容) 戦後のアパレル産業の発展を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	アパレル産業の業態	(学修内容) アパレル産業の多様な業態を知る (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第4回	アパレル産業の現状	(学修内容) アパレル産業の現状をデータから読み取る：産業規模 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第5回	アパレル産業の現状	(学修内容) アパレル産業の現状をデータから読み取る：輸出量と輸入量 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第6回	アパレル産業と労働問題	(学修内容) アパレル産業に関わる労働問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第7回	アパレル産業と環境問題	(学修内容) アパレル産業に関わる環境問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第8回	アパレル産業に関する政策	(学修内容) アパレル産業振興のための政策 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第9回	マーケティングの基礎知識	(学修内容) マーケティングに関する基礎知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第10回	アーチャングダイジングに関する基礎知識	(学修内容) マーチャンダイジングに関する基礎知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第11回	アパレル産業の資料収集	(学修内容) アパレル企業に関する資料を収集する (事前事後学修課題の内容) (60分) アパレル企業について調べる
第12回	発表資料の作成	(学修内容) アパレル産業について発表資料を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料の作成
第13回	発表とディスカッション：A班	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料の準備
第14回	発表とディスカッション：B班	(学修内容) プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料の準備
第15回	総括	(学修内容) アパレル産業の今後を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業の振り返り

授 業 名	食生活実習			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	HE2306
英 文 名	Dietary Life Training			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	細辻 珠紀			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	基本的な調理技術を習得するとともに、その理論を科学的な視点から理解することを目的とする。また、グローバル化が進む今だからこそ、日本食の伝統的文化を再確認するとともに、諸外国の食文化についても理解を深める。さらに、中学校、高等学校の調理実習で指導するうえで必要な技術と知識を習得するとともに食育についての知識の習得を目指す。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 基本的な調理技術の習得。 2) 調理技術や食品の調理性について科学的に理解する。 3) 中学校、高等学校の調理実習で指導できる力を習得する。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	新調理研究会編『これからの調理学実習 基本手法から各国料理、行事食まで』オーム社 2014年								
参 考 書	必要な場合は、授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、提出されたレポートは、確認の上返却する。								
留 意 事 項	4名程度を1グループとして実習を行う。食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なる場合がある。オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。また、コロナ対応等で実習内容が変更となる場合がある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で指示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	オリエンテーション 授業計画と諸注意 基本的な調理操作		(学修内容) 実習の諸注意、グループの形成、レポートの書き方 計量の基本的な調理操作について調べる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) よく使う調味料について容量と重量の関係を確かめる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第2回	食品の廃棄率 基本的な調理操作		(学修内容) 食品の廃棄率を調べる。廃棄率の求め方を知る。 包丁法などを知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食材の切り方について調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第3回	米を利用した粉の電子レンジによる糊化、 緑茶のうま味成分の抽出		(学修内容) 電子レンジを利用した和菓子の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米を利用した粉の種類とそれらを使った和菓子の作り方を把握しておく。 お茶の種類を調べておく。レポートを作成して、次回に提出する。
第4回	基本のクッキー		(学修内容) 基本のクッキーの作り方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 油脂について種類と特徴を調べる。 レポートを作成して、次回に提出する。
第5回	小麦粉の膨化調理(イースト発酵)、 野菜の調理(カロテンの理解)		(学修内容) パン生地、野菜の煮物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) イースト菌の発酵の工程や野菜の特性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。
第6回	炊飯の科学、野菜の調理(クロロフィルの理解)、 煮干しのうま味成分の抽出		(学修内容) 炊飯、青菜の茹で方、みそ汁の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 米の糊化の原理について調べておくこと。煮干しだしの取り方について まとめる。レポートを作成して次回に提出する。
第7回	加熱調理の科学 (揚げ物、炒め物)、 和え物の調理		(学修内容) 揚げ物(炸菜)、炒め物(炒菜)、和え物(拌菜)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 揚げ油の温度変化や和え衣の種類について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。
第8回	米飯調理(すし飯)の基本、 卵の熱凝固性(希釈卵液)		(学修内容) すし飯、希釈卵液の蒸し物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卵の調理特性である熱凝固性について調べておく。 レポートを作成して、次回に提出する。
第9回	鶏骨からのうま味成分の抽出、 ひき肉調理の科学、エマルジョンの科学		(学修内容) コンソメスープ、ひき肉料理、サラダの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 肉類の種類と調理特性やマヨネーズとドレッシングの違いを 調べておく。レポートを作成し、次回に提出する。
第10回	米飯調理(炒飯)の基本、 中華食材(干貝柱等)の理解		(学修内容) 炒飯(点心)、湯菜の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 点心の種類や作り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第11回	魚の調理、ゲル化剤(ゼラチン)を用いた調理		(学修内容) ムニエル、サラダ、ゼリーの調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 魚の種類や旬、調理特性を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第12回	加熱調理の科学 (焼き物、炒め物)、 ゲル化剤(寒天)を用いた調理		(学修内容) 焼き物、炒め物、寒天の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 寒天とゼラチンの違いについて調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第13回	衣揚げの基本、和え物の要点、 昆布とかつお節のうま味成分の抽出		(学修内容) 天ぷら、和え物、汁物の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) 昆布やかつお節のうま味成分やだしの取り方を調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第14回	乾麺の扱い方、焼き菓子の科学、 油脂のショートニング性		(学修内容) パスタ、クッキー(応用)の調理 (事前事後学修課題の内容) (60分) パスタの種類について調べておく。 レポートを作成し、次回に提出する。
第15回	テーブルセティングとマナー 食育について学ぶ 振り返り		(学修内容) 和洋の基本的なセティングとマナーについて 食育について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テーブルセティングについてまとめる。

授 業 名	保育内容総論u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1417
英 文 名	Outline of Child Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	保育所、幼稚園、認定こども園の特徴について解説した後、保育の目標と保育内容の関連を解説する。続いて、保育の内容の歴史的な変遷を学ぶ。その後、実際の指導計画を参照しながら、保育内容の展開（長時間保育なども含む）を解説する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育所保育の特性を、保育内容の面で理解する。 2) 保育内容の変遷を理解する。 3) 保育内容の展開について理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（チャイルド本社） 保育計画研究会編「実践に学ぶ保育計画のつくり方・いかし方」（ひとなる書房）								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートについては、いくつかを紹介しつつ、コメントする。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育内容総論Ⅱ
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育所保育における保育の特性 1	(学修内容) 幼稚園、認定こども園との比較から特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所、幼稚園、認定こども園について予習してくる
第2回	保育所保育における保育の特性 2	(学修内容) 保育の目標と保育内容の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる
第3回	保育内容の変遷 1 明治期	(学修内容) 明治期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 明治期の生活を調べてくる
第4回	保育内容の変遷 2 大正から昭和初期	(学修内容) 大正から昭和初期の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大正から昭和初期の生活を調べてくる
第5回	保育内容の変遷 3 系統的保育案の実際	(学修内容) 系統的保育案の実際と現代の保育への継承 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第6回	保育内容の変遷 4 戦時下	(学修内容) 戦時下の保育 (事前事後学修課題の内容) (60分) 戦時下の生活について調べてくる
第7回	保育内容の変遷 5 終戦後	(学修内容) 戦後の保育を教育要領・保育指針から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 終戦後の生活について調べてくる
第8回	保育内容の変遷 6 1950年代	(学修内容) 戦後の保育の映像をみて、当時の保育を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでくる
第9回	保育内容の変遷 7 1960年代以降	(学修内容) 今日の教育要領・保育指針ができるまでの経過 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる
第10回	保育内容の展開 1 指導計画	(学修内容) 指導計画にみる保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針第1章を読んでくる。テキストp54～、p147～を読んでくる
第11回	保育内容の展開 2 保育の実際	(学修内容) 生きた保育の展開と指導計画の関連 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp184～を読んでくる
第12回	保育内容の展開 3 保育の過程	(学修内容) 保育の過程の実際 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp72～を読んでくる
第13回	保育内容の展開 4 保育の評価と長時間保育	(学修内容) 保育の評価の視点を考える。長時間保育の配慮点を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの自分の評価について振り返っておく
第14回	長時間保育における保育内容	(学修内容) 長時間保育における保育者連携と保育の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp249～を読んでくる
第15回	異年齢保育における保育内容	(学修内容) 異年齢保育における保育内容の展開 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp216～を読んでくる

授 業 名	子どもの保健 U			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1416
英 文 名	Infant Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>子どもの保健活動の意義、子ども心身の発育・発達、健康状態の把握、子どもの病気の予防と対応について、子どもの健康管理に必要な知識について学ぶ。          理解を深めるために適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を知り、子どもの保健活動を意義を説明できる。          子どもの成長・発達（形態、運動機能、精神機能、生理機能の発達）を学び、年齢に応じた成長・発達がイメージし説明できる。          子ども（乳幼児）の健康と子育てに必要な日常的な擁護をふまえて考えられる。          子どもの病気や障害についての基礎知識を学び、特徴的な症状などが言える。          子どもを守り育てるための安全管理や、保健活動に必要な保護者支援、関係機関との連携について学び、考えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	小林美由紀編者 「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト」改訂第2版 診断と治療社								
参 考 書	大西文子・興水めぐみ・神道邦実・増尾美穂 ほか「子どもの保健 演習」(改訂第2版) 中山書店								
課題に対するフィードバックの方法	授業後の小テストは解答後に答えと解説を表示する。								
留 意 事 項	教科書とノート持参で受講してください。子どもの健康については小児医学や保健知識も含まれるため、授業内容の理解に備え、事前に教科書や授業資料を読んでおくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	第1回授業オリエンテーションでお知らせします。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの保健 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 子どもの保健とは 保健活動の意義と目的	(学修内容) 授業の目的・内容・評価等についての説明。 子どもの保健、保健活動の意義・目的を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス等を事前に確認しておくこと。教科書P1～7、9～13を読んでおくこと。
第2回	&#034;子どもの健康と保健 (現状と課題) 子どもの発育・発達と保健&#034;	(学修内容) 母子保健の意義と、統計指標などから子どもの保健に関する現状と課題について知る。ヒトの成り立ち、胎児期から新生児について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P14～27を熟読しておくこと。(60分)P16図4を見て胎児循環と新生児循環の違いを考えておくこと。
第3回	&#034;子どもの成長・発達と保健 子どもの身体発育、運動機能の発達と評価&#034;	(学修内容) 子ども(乳幼児)の身体発育、神経、運動機能の発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P30～42を熟読。運動機能の発達について動作獲得のめやす時期についてまとめておく。
第4回	子どもの生理機能の発達と生活習慣	(学修内容) 子ども(乳幼児)の体温調節、呼吸、循環、消化、排泄、水分代謝、睡眠について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P44～51を熟読し、乳幼児の体温調節と水分代謝について教科書の内容を予習しておくこと。
第5回	子どもの精神機能の発達と感覚機能の発達	(学修内容) 子ども(乳幼児)の精神機能の発達(情緒の発達、言語の発達)、感覚器の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 感覚器からの情報が及ぼす、子どもの成長・発達への影響を考えておくこと。
第6回	&#034;子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 虐待防止と保健活動&#034;	(学修内容) 子どもの心身の健康状態の把握(観察)、健康診断などについて学び、体調観察についてグループワークを行う。虐待防止等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P62～65、53～60、授業資料(後日提示)を読んで、健康状態の観察点を考えておく
第7回	子どもの病気 (免疫の発達と子どもに多い感染症)	(学修内容) 子どもの免疫の発達と、子どもに多い感染症について学ぶ。 感染予防について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P67～82を熟読。保育所における感染対策ガイドラインと学校保健安全法を調べておくこと。
第8回	子どもの病気 (新生児の病気、先天性疾患)	(学修内容) 新生児の病気、先天性疾患とスクリーニング検査について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P94～99、133～134を熟読。新生児スクリーニング検査とは何かを調べておくこと。
第9回	&#034;子どもの病気 (アレルギー疾患とアナフィラキシー症状) 子どもの重篤な状態の判断と対応&#034;	(学修内容) アレルギー疾患とアナフィラキシー症状、対処について学ぶ。 急変や重篤な状態の判断と対処(異物誤嚥と心肺蘇生)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P101～107、84～92を熟読。
第10回	子どもの病気 (慢性疾患)循環器、腎泌尿器、呼吸器の病気	(学修内容) 消化器、呼吸器、循環器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P109～117の該当箇所を熟読。
第11回	子どもの病気 (消化器、血液、内分泌、神経の病気)	(学修内容) 血液、腎・泌尿器、腎泌尿器の疾病について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P112～114の該当箇所を熟読。
第12回	子どもの病気 (神経、感覚器の病気)	(学修内容) 内分泌、神経、整形外科系、感覚器(皮膚、目、耳)の病気、外傷、骨折等について学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P114～118の該当箇所を熟読。
第13回	子どもの事故とケガ 環境整備(安全と衛生)	(学修内容) 子どもの特徴と起こりやすい事故と安全管理について学び、危険要因について考える(危険予知)。資料や動画を視聴する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P85～86、授業資料(後日提示)を見ておく。
第14回	保育環境の整備、健康診断と保健活動との連携 保護者との情報共有と家族支援	(学修内容) 保育環境の管理・整備について学ぶ。また、職員間の連携、保護者との情報共有と協力について、グループワーク・ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業資料(後日提示)と教科書P122～130を見ておくこと。
第15回	子どもを取り巻く環境と保健活動 母子保健の役割、母子保健対策 定期試験についてオリエンテーション	(学修内容) 母子を取り巻く環境と保健活動の役割や母子保健対策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書P132～140を読んでおく。授業全体の教科書・配布資料の全ての確認・見直しをしておく。

授 業 名	社会的養護 U			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1415
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>保育士として必要な社会的養護の知識を深めるために、以下の内容で授業を進める。  1. 社会的養護とは何か 2. 児童養護施設や乳児院、母子生活支援施設等について 3. 児童虐待の定義やその対応について 4. 里親ケアの概要について  映像資料などを用いて理解を深め、自分自身の問題として捉えらえるよう、ディスカッションを行う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭に関する制度について説明できる。 2) 児童養護施設等の入所施設や里親家庭で生活する児童の現状が理解できる。 3) 社会的養護を必要とする児童の保護者支援について考え、職員の働きが分かる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	芝野松次郎 新川泰弘 山川宏和 編著 「社会的養護入門」[ ミネルヴァ書房 ]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業期間中に2度、小テストを行い、採点して返却する。								
留 意 事 項	視聴するDVDや映像素材の内容も試験の範囲となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授業名	社会的養護 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	児童虐待の理解 身体的虐待、ネグレクト	(学修内容) 身体的虐待とネグレクトの実際について (事前事後学修課題の内容)(45分) 厚生労働省が示している身体的虐待とネグレクトの定義を学ぶ
第2回	児童虐待の理解 性的虐待、心理的虐待	(学修内容) 性的虐待と心理的虐待について (事前事後学修課題の内容)(45分) 厚生労働省が示している性的虐待と心理的虐待の定義を学ぶ
第3回	家庭養護について 養育里親	(学修内容) 里親ケアの登録、委託、手当について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を確認しておく
第4回	家庭養護について 養育里親と専門里親	(学修内容) 里親ケアの研修、里子について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を確認する
第5回	家庭養護について 養子縁組里親と親族里親	(学修内容) 里親養育の特質について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布した資料を読む
第6回	特別養子縁組制度	(学修内容) 特別養子縁組制度と民間あっせん機関 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第7回	乳児院のケア 入所児童と入所理由	(学修内容) 乳児院に入所する児童の特徴と入所理由の変遷について (事前事後学修課題の内容)(45分) 児童虐待の種類を調べておく
第8回	乳児院のケア 実家族との交流と養子縁組	(学修内容) 実家族との交流の実際と、養子縁組あっせん団体の実際 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第9回	児童養護施設について 入所児童と入所理由	(学修内容) 児童養護施設入所児童の特徴について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料を読む
第10回	児童養護施設について 実家族との交流と自立支援	(学修内容) 入所中の家庭との関係と家庭復帰について (事前事後学修課題の内容)(30分) 厚生労働省の資料を読む
第11回	少年非行について	(学修内容) 家庭裁判所の役割と社会的養護の機能について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読む
第12回	保護処分について	(学修内容) 保護処分の仕組みと保護司のはたらき (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護観察の種別を調べておく
第13回	アタッチメント障がいについて	(学修内容) アタッチメント(愛着)障がいについて (事前事後学修課題の内容)(45分) 発達障害の定義を調べておく
第14回	児童心理治療施設について	(学修内容) 児童心理治療施設について (事前事後学修課題の内容)(45分) 配布資料を読む
第15回	社会的養護児童の自立支援	(学修内容) 経済的支援と住居支援について (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料を読む

授 業 名	子ども家庭福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1414
英 文 名	Theory of Child Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・待機児童・児童虐待など様々なものがある。それらは、現代の家庭状況と関連を密にしており、社会保障や社会福祉の動向からも大きな影響を受けている。そこで、本講義では、わが国と欧米諸国の児童福祉の歴史、子どもの権利、児童福祉法制、家族政策、実践の特徴、について内容を解説し、理解することを目的としている。各種法制度を理解するために、授業内でレポートを作成する。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士・社会福祉士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 64 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 36 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	芝野松次郎 宮野安治 新川泰弘 山川宏和 編著 「子ども家庭福祉入門」[ ミネルヴァ書房 ]								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、採点し、必要があればコメントをつけて返却する。								
留 意 事 項	レポートの出来が評価に影響する。予習・復習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出を。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	超少子高齢化社会における子ども家庭福祉	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1章を参照しておく ひのえうまや少子化など、学んだ内容をまとめる
第2回	子どもの権利擁護について	(学修内容)コルチャック、子どもの権利条約について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第4章を参照しておく 批准や署名など、学んだ内容をまとめる
第3回	子ども家庭福祉の歴史	(学修内容)日本・欧米の子ども家庭福祉史  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第3章を参照しておく 石井十次、バナードなど学んだ内容をまとめる
第4回	子ども家庭福祉の実施機関	(学修内容)児童相談所ほか行政機関について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章を参照しておく 児童相談所の4つの業務など学んだ内容をまとめる
第5回	児童福祉法について 1997、2001年の改正	(学修内容)児童福祉六法、児童福祉法改正について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく 保育政策の変化などをまとめる
第6回	児童福祉法について 2004～2008年の改正	(学修内容)児童福祉法と児童虐待防止法について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく 虐待対応などの内容をまとめる
第7回	児童福祉法について 2012～2020年の改正	(学修内容)近年の児童福祉法改正について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を参照しておく さらなる虐待対応など学んだ内容をまとめる
第8回	児童虐待について 身体的虐待・ネグレクト	(学修内容)児童虐待の定義と対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく 虐待の定義などの内容をまとめる
第9回	児童虐待について 心理的・性的虐待	(学修内容)児童虐待の定義と対策  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を参照しておく 児童虐待防止法の内容をまとめる
第10回	子ども家庭福祉の専門職について	(学修内容)児童福祉に従事する専門職について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章を参照しておく 児童福祉司や保育士について内容をまとめる
第11回	母子保健について	(学修内容)妊産婦死亡率や保健所、未熟児医療について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9章を参照しておく 乳児死亡率など学んだ内容をまとめる
第12回	少子化対策について 日本	(学修内容)日本の保育政策・サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を参照しておく エンゼルプランなどの内容をまとめる
第13回	少子化対策について 諸外国	(学修内容)諸外国の保育政策・サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) スウェーデンの取り組みの内容をまとめる
第14回	ひとり親家庭の福祉について	(学修内容)ひとり親家庭への福祉サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8章・第10章を参照しておく ひとり親家庭支援の4本柱をまとめる
第15回	障がい児の福祉について	(学修内容)障がい児の現状と福祉サービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第8章・第10章を参照しておく 放課後等デイサービスなどをまとめる

授業名	道徳教育論（小）			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1413
英文名	Theory of Moral Education			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	若松 秀一			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>理論的な内容から実践的な内容へ。道徳授業の実践例を挙げて展開する。  また、一般的な内容から具体的な内容へ。出来るだけ具体例を挙げて展開する。  適宜、授業のレジュメ及びプレゼンテーションの授業資料、参考資料等の提示を行う。  適宜、指名発問等も実施する。  演習形式を取り入れた主体的な学習を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎回、学びシートで学習後の思いの記入を行い、課題解決能力を高める。</li> <li>2) 毎回、数名の学びシートを紹介し、課題を共有する。</li> <li>3) 適宜、学生同士で話し合うなどの演習を取り入れ、コミュニケーション力を高める。</li> <li>4) レポートとして作成した道徳学習指導案に従い、代表者による模擬授業を行う。  代表者はプレゼンテーション力を、授業参加者（児童役）はコメントを通して分析力、思考力を養う。</li> </ol>								
学修成果到達目標	<p>社会人として道徳教育の振興に果たす役割について理解し、実践への意欲を持つことができる。  道徳授業づくりの基本型に沿って指導案を書くことができる。  代表者は自作の指導案に基づいて模擬授業を行うと同時に、他の学生は児童役を行うことで児童理解をする。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( ) ( )			
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領解説・特別の教科 道徳編」廣済堂あかつき 平成29年7月								
参考書	赤堀博行「『特別の教科 道徳』で大切なこと」 東洋館出版社 2018 小寺正一・藤永芳純[編]「四訂道徳教育を学ぶ人のために」 世界思想社 2017								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業で記入した振り返りに対して、毎回解説を行う。								
留意事項	教職を志望する学生の履修を望む。授業で提示するパワーポイント資料や「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」を授業前に目を通し、メモを取っておくこと。また、授業の復習をすること。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市の教員として、37年間勤務。京都市道徳教育研究会で30年間研究活動に携わる。教科書会社で小学校道徳科用教科書編集委員に従事。								

授業名	道徳教育論（小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーションと道徳の本質の理解	（学修内容）授業オリエンテーション（本講義のねらいと内容、評価の方法などについて）と道徳教育の意義及び必要性・重要性を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第2回	我が国の道徳教育の変遷と道徳性の理解	（学修内容）我が国における道徳教育の変遷（特に「特別の教科 道徳」設置の経緯）と「道徳性とは何か？」について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第3回	学校における道徳授業	（学修内容）道徳の授業開きの必要性と「特別の教科 道徳」の目標について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第4回	道徳科の授業づくり 1	（学修内容）道徳の年間計画を作成する必要性と道徳授業で使われる教材の特徴・教材分析・教材提示の仕方などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第5回	道徳科の授業づくり 2	（学修内容）道徳授業のねらい・めあての作成及び導入と展開前段の構成の仕方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第6回	道徳科の授業づくり 3	（学修内容）道徳授業の特質に応じた指導法の種類（多面的・多角的に考えるための話し合い活動や役割演技など）と特徴について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第7回	道徳科の授業づくり 4	（学修内容）自己の生き方を考える展開後段の発問や終末の構成及び道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第8回	道徳科の授業づくり 5	（学修内容）道徳授業の指導案の作成のポイントと板書計画の作成について学ぶ。模擬授業をする教材を決定する。（2つの中から選ぶ。） （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第9回	道徳科指導案作成 1	（学修内容）自分が選んだ教材の道徳科の指導案を作成（主題設定の理由の中の「価値について」と「児童について」を作成する。） （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第10回	道徳科指導案作成 2	（学修内容）自分が選んだ教材の道徳科の指導案を作成（主題設定の理由の中の「教材分析」と「ねらい・めあて」・「導入」「展開前段」を作成する。） （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第11回	道徳科指導案作成 3	（学修内容）自分が選んだ教材の道徳科の指導案を作成（「展開後段」「終末」と「板書計画」を作成する。） （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第12回	道徳模擬授業と協議 1	（学修内容）作成した指導案をもとに代表の学生が、30分間の模擬授業を行うと共に児童役を体験する。授業後、授業の振り返りや修正点の協議をする。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 模擬授業の感想をまとめる。模擬授業をもとに指導案の修正。
第13回	道徳模擬授業と協議 2	（学修内容）作成した指導案をもとに代表の学生が、30分間の模擬授業を行うと共に児童役を体験する。授業後、授業の振り返りや修正点の協議をする。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 模擬授業の感想をまとめる。模擬授業をもとに指導案の修正・提出。
第14回	新しい発想での道徳授業	（学修内容）新しい発想での道徳授業の方法について具体例をもとに学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り
第15回	道徳教育を充実させるためのよりよい学級経営	（学修内容）道徳教育及び授業を支える学級経営の果たす役割について具体的な指導のポイントを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（15分） 学習内容の振り返り

授業名	子どもの音楽 u a ~ ue			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	HE1412
英文名	Children and Music I			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	山中 信子・服部 さやか・永峯 翠子			対象学生	現代家政1回生				
授業の概要	保育士および幼稚園、小学校教諭に求められる音楽の基礎力をつけるため、子どもの歌の歌唱・ピアノ教則本のレッスン・ピアノによる弾き歌い・音楽理論とを組み合わせる授業を行う。また、ピアノ実技に関しては毎回課題を課し、個別レッスンによって実技の習熟度を確認しながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 子どもの歌の基本的な歌唱やピアノの技術を習得することができる 2) 弾き歌いの基礎を習得することができる 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を習得することができる								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編)								
参考書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	小試験は回収後、解答の解説を行う。 実技に関しては毎回課題を与え、それに対する個別レッスンを行う。								
留意事項	授業に出席するだけでなく、毎日のピアノ練習が必須。保育士・幼稚園・小学校免許取得希望者は必ず受講すること。 レベルに合わせてクラス分けを行う。								
オフィスアワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの音楽 u a ~ ue	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) ピアノのレベルチェック、進度確認。  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。
第2回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音部記号」	(学修内容) 子どもの歌の歌唱 ピアノレッスン 音楽理論「音部記号」について (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノおよび歌唱の予習復習・音楽理論「音部記号」の復習をしておくこと。
第3回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「音価」	(学修内容) および 「音価」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「音価」の復習をしておくこと。
第4回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「リズム」	(学修内容) および 「リズム」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「リズム」の復習をしておくこと。
第5回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「調性」 音楽理論小試験	(学修内容) および 「調性」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「調性」の復習をしておくこと。
第6回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「八長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「八長調とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「八長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第7回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「へ長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「へ長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「へ長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第8回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「ト長調とそのカデンツ」	(学修内容) および 「ト長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「ト長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第9回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「二長調とそのカデンツ」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「二長調の音階とそのカデンツ」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「二長調とそのカデンツ」の復習をしておくこと。
第10回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「平行調」	(学修内容) および 「平行調」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「平行調」の復習をしておくこと。
第11回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「和声進行」	(学修内容) および 「和声進行」について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「和声進行」の復習をしておくこと。
第12回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(基本形)」	(学修内容) および 「コードネーム」(基本形)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(基本形)の復習をしておくこと。
第13回	歌唱・ピアノレッスン・音楽理論「コードネーム(転回形)」・音楽理論小試験	(学修内容) および 「コードネーム」(転回形)について  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ・歌唱の予習復習、音楽理論「コードネーム」(転回形)の復習をしておくこと。
第14回	歌唱総復習、歌唱小試験	(学修内容) 歌唱の総復習・小試験の実施  (事前事後学修課題の内容) (60分) 正しい発声・音程での歌唱および既習得のピアノ実技課題の復習をしておくこと。
第15回	ピアノ総復習、ピアノ小試験	(学修内容) ピアノ実技の総復習、小試験の実施  (事前事後学修課題の内容) (60分) ピアノ実技課題の総復習をしておくこと。

授 業 名	保育原理 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1406
英 文 名	Principles of Child Care			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	流石 智子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	子どもの育ちを考えると、保育の問題は社会状況と深くかかわっている。この授業では、保育の理念や概念、保育制度などの理解を深める。また、保育所保育指針や保育の特性、保育実践等について乳幼児の発達を理解しながら学ぶ。また、保育の歴史の変遷にもふれ、保育の現状と課題についても考える。保育についてどのような考えをもっているかなど、グループでの討議も行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代家庭の保育事情を理解することができる。 2) 保育の理念、保育制度、保育所保育指針の内容、保育実践などについて理解することができる。 3) 保育の歴史を学び、これからの日本の保育について考察することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	天野珠路・北野幸子編著 『新基本保育シリーズ 保育原理』中央法規 2019年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートの返却時に、解説をする。授業時のレポートについても、説明をして返却する。								
留 意 事 項	授業中に課題を出し、レポート提出をすることもある。そのテーマは、事前学習や事後学習との関連で行う。グループ討議の内容について、授業時間内にミニレポートを作成し提出することもある。平常試験は、シラバスに掲載している。レポートは3回を予定し、各10点とする(合計30点)。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室前、演習室に掲示する。在室の時は可能である。(時間が取れない時は、あとで連絡する。メールにより、予約も可能。)								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育原理 u		
第1回	保育の理念と概念	(学修内容) 保育の理念、概念・子どもを育てること (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p2～12を読み、理解する。	
第2回	保育の社会的役割	(学修内容) 保育の社会的役割と責任 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p14～26を読み、理解する。	
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	(学修内容) 保育の制度的位置づけ (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、p28～38を読み、理解する。(事後に、コラム:「保育士の確保策」を読み、レポート提出・800字程度、提出は次回の授業)	
第4回	保育の実施体系	(学修内容) 保育の実施体系について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p40～50を読み理解する。 (36ページ) レポート 提出あり。	
第5回	保育所保育指針に基づく保育	(学修内容) 保育所保育指針等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p52～66を読み、理解する。	
第6回	保育の目標と方法	(学修内容) 保育の目標と方法について理解を深め、「遊び」との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、68～78を読み、理解する。(事後に、コラム:「保育の目標と方法」を読み、レポート提出。800字程度、提出は次回の授業)	
第7回	乳児の保育	(学修内容) 乳児の発達過程や保育の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p80～90を読み、理解する。レポート 提出あり。	
第8回	1歳以上3歳未満児の保育	(学修内容) 1歳以上3歳未満児の保育 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p92～102を読み、理解する。	
第9回	3歳以上児の保育	(学修内容) 3歳以上の幼児期の保育のあり方 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前に、p104～114を読み、理解する。(事後に、「スタートカリキュラムについて」、レポート提出、800字程度、提出は次回の授業)	
第10回	子ども理解に基づく保育の過程:理論	(学修内容) 保育過程について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p116～126を読み、理解する。レポート 提出あり。	
第11回	子ども理解に基づく保育の過程:実践	(学修内容) 学びの連続性と小学校との接続について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p128～138を読み、理解する。	
第12回	諸外国の保育の思想と歴史	(学修内容) 諸外国の保育の思想と歴史から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p140～149を読み、理解する。	
第13回	日本の保育の思想と歴史	(学修内容) 日本の保育の思想と歴史から現在を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p152～162を読み、理解する。	
第14回	諸外国の保育の現状と課題	(学修内容) 諸外国の保育の現状と課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p164～174を読み、理解する。	
第15回	日本の保育の現状と課題・まとめ	(学修内容) 日本の保育の現状と課題について、理解する。本授業のまとめ行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に、テキスト p176～186を読み、理解する。	

授 業 名	子どもの図画工作			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1405
英 文 名	Children and Art and Handicraft			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	絵を描いたり、ものをつくりたりする活動は、子どもの発達にとって「知識を知恵に変える」大切な活動である。この授業では子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶ。製作活動を楽しみながら、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力、構成力、集中力、計画性、正確さ、優しさや思いやり、伝統文化に対する「誇り」などが育つことに気付くことのできる授業にしたい。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な表現方法を自らの体験を通して学び、その表現方法から柔軟な発想で作品をつくることできる。 2) 作品や試みた表現方法について考察し、その記録を美しく分かりやすくまとめることできる。 3) 製作した作品のプレゼンテーションをすることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	小学校図画工作の基礎 樋口一成(萌文書林)2020年1月24日発行								
参 考 書	必要に応じて授業で指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出した作品は、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	製作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参する。 小学校の公開授業参加、作品展(絵画造形展・アイデア展など)鑑賞、トイコンテストや作品展のボランティアを積極的に行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与								

授 業 名	子どもの図画工作	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習指導要領 図画工作科の目標	(学修内容) 授業の概要説明、学習指導要領、受講のための諸注意。  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの全体に目を通しておく。
第2回	水彩絵の具による表現(1) にじみ絵・ぼかし絵の技法	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法(1) (にじみ絵・ぼかし絵など) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.42~P.43を読んでおく。
第3回	水彩絵の具による表現(2) デカルコマニーの技法	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法(2) (デカルコマニーなど) (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.42~P.43などを読んでおく。
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 製作した作品をスケッチブックにまとめる。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 水彩絵の具による表現・作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第5回	パスによる表現 スクラッチの技法	(学修内容) パスによる技法(スクラッチなど)  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストP.50~P.51などを読んでおく。
第6回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 製作した作品をスケッチブックにまとめる。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学習した技法について調べておく。 パスによる表現・作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第7回	身近な作品の鑑賞(1) ~ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞~	(学修内容) 校内をそぞろ歩きながら、校内のまわりを観察し、いろいろな場面を造形的にとらえ直す。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、テーマを考えておく。デジタルカメラなど準備。 鑑賞したことの内容をまとめておく。
第8回	身近な作品の鑑賞(2) ~ 校内をそぞろ歩きながら鑑賞~ (発表)	(学修内容) そぞろみポイントをまとめ、プレゼンテーションを行い、鑑賞し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 造形的にとらえた写真を準備しプレゼンテーション内容を考えておく。 鑑賞したことの内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第9回	動くおもちゃ製作の導入(折紙による創作) しゃくとりむし・紙プロペラ製作	(学修内容) 子どものための造形活動と課題の説明。 動くおもちゃ製作(折紙による創作) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、配布プリントを読んでおく。 製作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第10回	動くおもちゃ製作 クルクルロケット・折紙だこの製作	(学修内容) 感性と創造性を育てる活動を計画する。 折紙による創作について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 凧が飛ぶための条件を考えておく。 製作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第11回	動くおもちゃ製作 風車鳥の製作	(学修内容) 鳥の動きから発想し、空を飛ぶ鳥を製作する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 鳥が飛ぶ様子を観察する。飛ぶ仕組みを理解しておく。 製作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第12回	ドリームカーの製作(車体づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の車体と車輪製作。  (事前事後学修課題の内容) (30分) ドリームカーのデザインを考え、動く仕組みを理解しておく。 製作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第13回	ドリームカーの製作(外装づくり)	(学修内容) ゴム動力で走る車の外装デザイン制作。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 外装デザインを考えておく。 製作した内容をスケッチブックにまとめ完成しておく。
第14回	ドリームカー競技大会・鑑賞会	(学修内容) ドリームカー競技会・鑑賞会の企画運営をグループで分担して考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンテーションの内容を考えておく。
第15回	まとめ・プレゼンテーション	(学修内容) 授業全体の振り返り 作品返却。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 製作した作品をスケッチブックにまとめ完成しておく。

授 業 名	音楽の基礎（ピアノ・歌）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1404
英 文 名	Fundamentals of Music (Piano and Song)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	音楽のごく初学者向け。秋学期開講の音楽（基本的に児童学コース・保育士・幼小教免取得希望者対象）に先立ち、ピアノ・歌唱および音楽理論の基本を学ぶ。毎回実技課題の到達度を個別レッスンによって確認しながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 読譜のための基礎的な音楽理論を理解することができる 2) 正しい音程で発声することができる 3) 簡単な楽譜のピアノ演奏ができる								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『子どものうた』京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編 『新訂 バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の授業において実技課題の到達度を個別に確認する。								
留 意 事 項	実技練習を重視する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	音楽の基礎（ピアノ・歌）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ト音記号の読譜および視唱 ピアノを弾く際の注意事項および試奏	（学修内容）ト音記号による読譜と視唱およびピアノを演奏する際の基本的注意事項について （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読んでおくこと。
第2回	ト音記号およびヘ音記号および視唱・試奏（個別レッスンを含む）	（学修内容）ト音記号およびヘ音記号による読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第2章「音の高さ」の項目を読み、教則本での読譜練習をしておくこと。
第3回	音価 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の基本的な考え方について （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章「音の長さ」の項目を読み、教則本およびテキストでの読譜練習（視唱・演奏）をしておくこと。
第4回	音価 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の作品中でのとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） テキスト第1章・第2章のワークシートを記入し、音の長さについて理解しておくこと。
第5回	音価 発展（個別レッスンを含む）	（学修内容）音価の相対的な違いについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 音価に関する小品課題を復習しておくこと。
第6回	拍子 導入（個別レッスンを含む）	（学修内容）基本的な拍子について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 基本的な拍子のとり方を復習しておくこと。
第7回	拍子 基本（個別レッスンを含む）	（学修内容）子どもの歌によく用いられる拍子とその拍のとり方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で取り上げた子どもの歌の拍子のとり方を復習しておくこと。
第8回	拍子とリズム 4分の4拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の4拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の4拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第9回	拍子とリズム 4分の2拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の2拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の2拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第10回	拍子とリズム 4分の3拍子（個別レッスンを含む）	（学修内容）4分の3拍子の小品の中での拍感と音価のとらえ方について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 4分の3拍子を用いた課題の復習をしておくこと。
第11回	拍子とリズム 総合演習（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出の拍子・リズムについて（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 拍子・リズム等既学習事項を復習しておくこと。
第12回	さまざまなリズム シンコペーション・タイ等（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズム以外のリズム型（シンコペーション・タイ等）について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・タイ等既学習事項の復習をしておくこと。
第13回	さまざまなリズム 応用（個別レッスンを含む）	（学修内容）既出のリズムバリエーションの総合的な理解について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（120分） 既出のリズムの復習をしておくこと。
第14回	加線による読譜（ト音記号・ヘ音記号）（個別レッスンを含む）	（学修内容）加線が用いられた楽譜の読譜について（演奏・視唱を通しての体感的な理解） （事前事後学修課題の内容）（60分） 加線読譜の復習をしておくこと。
第15回	既学習事項の総復習と課題の克服（個別レッスン・個別相談を含む）	（学修内容）14回目迄の既学習事項の確認と、読譜および演奏上の課題の解決方法について （事前事後学修課題の内容）（120分） 既学習事項の総復習と、授業で克服できなかった課題をまとめておくこと。

授 業 名	発達心理学（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	HE1403
英 文 名	Developmental Psychology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	発達を学ぶ意義を確認した上で、変化の著しい乳幼児期に焦点を当てて、運動、認知、言語、自我の発達などを、年齢をおって解説してゆく。また、発達の遅れや、偏りがある場合の援助についても紹介する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 子どもの発達を学ぶ意義を理解する。 2) 子どもの発達を理解する。 3) 子どもの発達の援助を行う際に留意すべき視点を獲得する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	西川由紀子「子どもの思いにこころをよせて」かもがわ出版 西川由紀子「かかわりあって育つ子どもたち」かもがわ出版								
参 考 書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	授業に対する感想や質問を毎時回収し、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授 業 名		発達心理学（幼・小）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	なぜ発達を学ぶのか	（学修内容）保育における発達理解の必要性を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 1章を読んでくる
第2回	乳児期前半	（学修内容）乳児期前半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第3回	乳児期後半	（学修内容）乳児期後半の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第4回	1歳児（運動・認知）	（学修内容）1歳児の運動発達、認知発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第5回	1歳児（言語・社会性）	（学修内容）1歳児の言語発達・社会性の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第6回	2歳児	（学修内容）2歳児の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 2章を読んでくる
第7回	3歳児	（学修内容）3歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 3章を読んでくる
第8回	4歳児	（学修内容）4歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 4章を読んでくる
第9回	5歳児	（学修内容）5歳の子どもの発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト 5章を読んでくる
第10回	乳幼児期の発達のまとめ	（学修内容）乳幼児期の6年間を通してたいせつなことを解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） ここまでの授業で扱った箇所を復習してくる
第11回	児童期	（学修内容）児童期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第12回	思春期前期	（学修内容）思春期前期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第13回	思春期後期	（学修内容）思春期後期の発達を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） プリントを読んでくる
第14回	発達の援助のあり方 自閉症スペクトラム	（学修内容）自閉症スペクトラムの障害の特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる
第15回	発達の援助のあり方 ADHD	（学修内容）ADHDの特性と援助方法を解説する （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト p108 - 119を読んでくる

授 業 名	教育の基礎と制度（幼・小）			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1402
英 文 名	Principles of Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	盧 珠妍			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	人間は一生（誕生から死に至るまで）変容し続け、成長を遂げていくものである。本講義ではまず、「教育・保育とは何か」「子どもとは何か」「人間にとってそもそもなぜ教育・保育は必要なのか」という根本的な問いについて議論する。つぎに、教育・保育という営みの必要性和可能性について様々な思想を読み解きながら、理想的・歴史的・制度的に考察する。つづいて、教育法規・制度の成立と展開を辿りながら、現在の学校教育および保育の役割や課題、学校・園と地域との連携について検討する。その上で最終的に、生涯学習とも関連づけながら教育・保育の現状と今後を展望し、将来教育・保育の実践者としての自らの仕事を理解するための基礎を身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育・保育の意義、目的及び子ども、家庭、学校、社会等との関わりについて理解し説明できる。 2) 教育・保育の思想と歴史の変遷について学び、教育・保育に関する基礎的な理論について理解し説明できる。 3) 教育・保育の制度について理解し説明できる。 4) 現代社会における教育の課題について、教育の歴史と関連付けながら理解し説明できる。 5) 生涯学習社会における教育・保育の現状と課題について理解し説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	特定のテキストを使用せず、資料を配布する。								
参 考 書	田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年。 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年。 その他、授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レスポンスペーパーなどの小レポートについては翌週の授業時にコメントする。								
留 意 事 項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	教育の基礎と制度（幼・小）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	（学修内容）授業の内容・評価等についての説明。私たちにとって教育・保育とはどのような意味をもつのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） シラバスを確認する。自分がこれまで受けてきた教育・保育について振り返る。
第2回	教育・保育とは何か（1） 教育・保育の意味と意義	（学修内容）自分の教育経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。教育・保育について理想的・思想的・原理的に考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、自分が抱く教育観・保育観について検討を加える。
第3回	教育・保育とは何か（2） 教育・保育の必要性	（学修内容）人間にとってなぜ教育・保育は必要なのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育・保育の必要性について自分の考えをまとめる。
第4回	教育・保育とは何か（3） 教育・保育の可能性	（学修内容）人間の能力と教育・保育について人間学的な視点から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育・保育の可能性について自分の考えをまとめる。
第5回	教えることと学ぶこと	（学修内容）教育・保育について「教える」「学ぶ」という視点から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教育・保育についての考えを深める。
第6回	教育と人間形成	（学修内容）「人間形成」という語を通して教育・保育という営みを吟味する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「人間形成」の意味について調べておく。
第7回	教育思想と歴史（1） 近代学校教育の成立とその背景	（学修内容）学校がなぜ生まれ、どのように発展したのかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学校の歴史を踏まえて学校の意味について理解を深める。
第8回	教育思想と歴史（2） 日本の教育制度	（学修内容）日本の教育制度がどのように変容してきたのかを歴史的に考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 日本の近代公教育がどのように成立してきたのかについてまとめる。
第9回	子どもと教育思想（1） 子どもの発見	（学修内容）近代ヨーロッパにおける子どもについての考えの転換と教育の変化について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、各思想家の人間観を比較しまとめる。
第10回	子どもと教育思想（2） 近代教育と子ども	（学修内容）近代教育における子ども教育の変遷について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読み、各思想家の人間観を比較しまとめる。
第11回	子どもと教育思想（3） 現代教育と子ども	（学修内容）現代教育における子どもの存在についてアリエスの『子供の誕生』をもとに考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、「子ども」「子ども期」について理解を深める。
第12回	子どもと成長（1） カリキュラム	（学修内容）学校教育の系統主義と経験主義を比較しながら、子どもの成長とカリキュラムの関係について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、学修内容についてまとめる。
第13回	子どもと成長（2） 発達と生成	（学修内容）子どもの成長を「子ども 大人」の関係性から考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、子どもの成長について理解を深める。
第14回	現代における教育・保育の課題	（学修内容）現代の教育の課題について議論し考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教育の課題について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第15回	まとめと考察 教育・保育のあり方について	（学修内容）これまでの授業内容を踏まえて、教育・保育とは何かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 5～10分程度の発表準備をする。

授 業 名	未来につなぐ生活学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE1301
英 文 名	Life Science for the Future			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政1回生				
授 業 の 概 要	<p>現代家政学を広い範囲の領域から学ぶ。各先生の専門分野の授業を受け、現代社会の現状や問題の発見、その対策を考察する手がかりになる学びをする。担当の先生によっては、グループワーク等の授業が実施される。その中で、ディスカッションをし課題発見の力をつけてもらいたい。</p> <p>授業内容のリレー講義部分については、担当者決定後に記入します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1、現代社会の現状を把握することができる。</p> <p>2、生活に関する現状、課題、その解決方法について自分なりの考えをまとめることができる。</p> <p>3、各先生からの学びのヒントをしっかりと理解し、これからの専門分野の学びに活かすことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業にて資料を配布する。								
参 考 書	授業担当より、提示する。								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	授業時のミニレポート、レポート課題の提出等は、各先生方の授業によって異なる。返却等についても、各先生の方法で実施され、解説等のことが行われる。								
留 意 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、6人のゲストスピーカーの先生に2回ずつ授業をしていただく。（詳しくは1回目の授業で説明する）</li> <li>・授業で印象に残った点等を、授業ごとにノートに整理しておくこと、定期試験の時に役立つ。</li> <li>・自分のノート作成に工夫をして取り組むことが必要。</li> </ul>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	先生方のオフィスアワーを各自で確認する。演習室等に掲示している。								
実 践 的 教 育									

授業名	未来につなぐ生活学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) これからの授業について説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 私たちの生活状況で、気になることについて(コロナ以外のことで)、400字程度にまとめておく。1回目の授業終了後、提出する
第2回	児童福祉分野: 社会的養護における自立の問題	(学修内容) 支援を必要とする若者、特に高校生に焦点を当て、18歳の自立について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「自立」と聞いてイメージするものを、40字前後でまとめておく
第3回	児童福祉分野: 社会的養護における自立の問題?	(学修内容) 大学進学に伴う問題と、支援コーディネーター制度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 大学を卒業するまでに不安なことを、40字前後でまとめておく
第4回	生活と読書 - 読書世論調査から生活と読書の関係について考える -	(学修内容) 読書世論調査の結果から現代人の読書の傾向を読み取り、私たちの生活と読書との関係について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 配付プリントを読み、自らの小学校時代から現在までの読書生活を振り返る
第5回	読書教育について - 読書へのアニメーションについて考える -	(学修内容) 子どもを読書好きに育てるための読書教育の手法の一つである「読書へのアニメーション」について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 配付プリントを読み、自らが体験した読書教育の内容を振り返る
第6回	動くおもちゃの文化は京都から	(学修内容) 動くおもちゃの教材を通してどのような資質や能力が育つか。また、その仕組みが身近な生活の中でどのように活躍しているかを学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 自分の生活の中で、どのような動く仕組みがあるか調べておく 事後: 授業内容をまとめておく
第7回	未来の扉をみんなの力で拓こう ~ ビオトープづくりからの学び ~	(学修内容) 学校・地域・家庭と協働して共に汗を流し、つくりあげた「コミュニティパーク」実践記録をもとに、「生きて働く知恵」を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: ビオトープについて調べておく 事後: 授業内容をまとめておく
第8回	「近代家族」の誕生	(学修内容) 「近代家族」とは何か、またその特徴を探る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 家族とはどのような人で構成されているのか、考えておく
第9回	「近代家族」のゆくえ	(学修内容) 多様性の価値が浸透していくなか、これからの家族のあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 親密な人とのつながり方の多様性について、考えておく
第10回	食べることと生きること	(学修内容) バランスの良い食事がなぜ必要なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 今まで学校や家庭で、食事について指導を受けた内容を思い出ししておく
第11回	食事とエネルギー	(学修内容) 肥満とやせの問題点とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 自分の理想とする身長と体重を考えておく
第12回	子どもの居場所と子ども食堂	(学修内容) 子ども食堂の役割について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 子ども食堂について、調べておく
第13回	日本の少子社会について	(学修内容) 「あなたは働き続けますか」を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 「あなたは、就職後働き続けるか」について、考えをまとめておく
第14回	生活学ワーク	(学修内容) 未来と今をつなぐグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) 未来の自分たちの生活を想像し、今やっておくべきことを考えてくる
第15回	ワーク発表	(学修内容) グループワークの発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ発表のポスターを完成させ、発表の準備をする

授 業 名	公衆栄養学実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3423
英 文 名	Practical training for Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	公衆栄養関連のサービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。地域や職域等の健康・栄養・食生活にかかる情報を収集・分析・診断し、その改善のための活動・事業とそのマネジメント、活動・事業評価などに関する実習を行う。日本人の食事摂取基準や国民健康・栄養調査データの活用、食物・栄養摂取量のデータ処理・統計解析などを行い理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 地域や職域等の健康・栄養情報を収集し、それを分析・診断し、集団の特性を把握できる。 2) 情報の分析・診断の結果から、問題点を把握し、公衆栄養プログラムの計画が作成できる。 3) 地域の公衆栄養プログラムや関連サービスに参加し、協力することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考力・創造力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 (思いやる力)				
テ キ ス ト	現場で役立つ公衆栄養学 学内編 同文書院 配布プリント								
参 考 書	日本人の食事摂取基準2020年版 栄養士必携 調理のためのベーシックデータ 公衆衛生の動向								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、添削し返却します。								
留 意 事 項	班員と協力して積極的に課題に取り組み、時間内にまとめるよう努力すること。 実際に行われている取り組み事例を学ぶことを目的として、フィールドワークを取り入れることが有ります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業時に伝えます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国内外の公衆栄養活動の計画・実施・評価・報告に携わった実務経験を生かし、公衆栄養活動の基本ステップについて、地域診断を含めた実務的な内容に取り組みます。								

授 業 名	公衆栄養学実習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆栄養学実習オリエンテーション	(学修内容) 公衆栄養学実習オリエンテーション： 地域で展開されている公衆栄養活動について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 履修済みの公衆栄養学を復習しておく
第2回	社会アセスメント： 健康・栄養・食生活状況の評価概要	(学修内容) 健康・栄養・食生活状況の評価方法の概要について学ぶ 摂取頻度調査法・24時間思い出し法について学ぶ(ロールプレイング) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの復習 各自食事メモを持参
第3回	社会アセスメント： 食物・栄養摂取状況調査法	(学修内容) 秤量法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト復習
第4回	社会アセスメント： 質問紙調査法	(学修内容) プリシード・プロシードモデルなどを用いて、学生の健康・栄養・食生活状況について考えるとともに、質問紙法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト復習
第5回	栄養疫学： データ集計	(学修内容) 質問紙法の実施とテータ集計の方法を学ぶ (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 社会調査法について復習しておくこと
第6回	栄養疫学： データ解析	(学修内容) データ解析の方法を学ぶ(カイ2乗検定・t検定など) (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本人の摂取基準 総論をよく読んでおくこと
第7回	栄養疫学： データ分析	(学修内容) 各調査結果を総合的に分析する 「日本人の食事摂取基準2020年度版」の活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) PDCAサイクルの意義、目的について復習しておくこと
第8回	公衆栄養マネジメント： 地域診断	(学修内容) 地域や住民の健康・栄養・食生活状況を調べる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (120分) 既存資料の活用について復習し、準備しておくこと
第9回	公衆栄養マネジメント： 地域診断	(学修内容) 地域や住民の健康・栄養・食生活状況をまとめる(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回に調べた内容について整理しておくこと
第10回	公衆栄養マネジメント： 地域課題の抽出	(学修内容) 地域分析結果などから、課題を見極め対策を考える (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 計画策定のための方法と配慮点について復習しておくこと
第11回	公衆栄養プログラム計画： 目標設定	(学修内容) 長期・中期・短期目標を設定する (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの復習
第12回	公衆栄養プログラム計画： 運営面・政策面のアセスメント	(学修内容) 実際のプログラムなどを確認し、地域アセスメントを進める (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 改善案の事例等を確認しておくこと
第13回	公衆栄養プログラム計画： 社会資源の活用	(学修内容) 実際のプログラムなどを確認し、地域アセスメントを進める (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 公衆栄養プログラムについて復習しておく 改善案の事例等を確認しておくこと
第14回	公衆栄養プログラム計画： 計画策定	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開について考える(PDCAサイクル) 先進的なプログラムを計画する(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの復習
第15回	公衆栄養プログラム： 計画発表と質疑応答 実習のまとめ	(学修内容) 公衆栄養改善計画を発表する 各班の発表に対する自分考えをまとめる(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表の準備と練習を行っておくこと

授 業 名	臨床栄養学実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3422
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	栄養ケア・マネジメントのうち、治療食の提供による栄養補給法についての実習を行う。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために必要な献立作成を含めた栄養ケアプランを作成し、治療食の調理を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 対象者にあわせた栄養ケアプランを立てることができる。 2) 病態や栄養状態に応じた献立の作成と調理ができる。 3) 傷病者の栄養状態に応じた栄養補給法について理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	臨床栄養学実習 -medical nutrition manual- 岩井 達 編(みらい)								
参 考 書	臨床栄養学実習書 第12版 玉川和子他編・著(医歯薬出版) 日本食品標準成分表(文部科学省) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 編(文光堂)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	臨床栄養学の学習内容を理解しておくこと。 主にグループでの実習となる。グループ内での役割分担等を決め、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院での管理栄養士及び部門責任者としての勤務経験を活かし、栄養管理業務の実際及び関連業務について実習及び講義する。								

授 業 名		臨床栄養学実習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養管理の意義 栄養アセスメント	(学修内容) 栄養管理の意義、栄養アセスメント  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。
第2回	栄養ケア・マネジメント 特定保健指導	(学修内容) 栄養ケア・マネジメント、特定保健指導  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。
第3回	病院食の種類と献立作成	(学修内容) 病院食の種類と献立作成  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。
第4回	高血圧症患者の食事計画(高血圧症の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 高血圧症患者の食事計画(高血圧の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第5回	高血圧症食の実習	(学修内容) 高血圧症食の実習  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所および作業工程表等をまとめておくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第6回	糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 糖尿病患者の食事計画(糖尿病の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第7回	糖尿病食の実習	(学修内容) 糖尿病食の実習  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所および作業工程表等をまとめておくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第8回	脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 脂質異常症患者の食事計画(脂質異常症の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第9回	脂質異常症食の実習	(学修内容) 脂質異常症食の実習  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所および作業工程表等をまとめておくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第10回	膵臓病患者の食事計画(膵臓病の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 膵臓病患者の食事計画(膵臓病の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第11回	慢性膵炎食の実習	(学修内容) 慢性膵炎食の実習  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所および作業工程表等をまとめておくこと。 手順をよく理解しておくこと。
第12回	要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。)	(学修内容) 要介護者の食事計画(要介護者の栄養ケアプラン、献立を含む。) 食事計画等をパワーポイントで発表し、他の受講生と共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。 発表に必要な資料を集めておくこと。
第13回	摂食・嚥下障害食のとりみ調整実習	(学修内容) 摂食・嚥下障害食のとりみ調整実習  (事前事後学修課題の内容) (60分) とりみ調整食品の特徴等をまとめておくこと。
第14回	経管栄養法、胃瘻、濃厚流動食品	(学修内容) 経管栄養法、胃瘻、濃厚流動食品  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読み、まとめておくこと。
第15回	評価、報告、まとめ	(学修内容) 評価、報告、まとめ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 評価方法の検討を行いまとめておく。 報告会発表の準備をしておく。

授 業 名	応用栄養学実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3420
英 文 名	Practical Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学、 、 で学んだ成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能および栄養状態の変化、スポーツ時等における栄養状態の変化について、実習を通して理解を深める。対象者に応じた栄養スクリーニング、栄養アセスメント、短期・中期・長期の栄養管理目標の設定と栄養ケアプランを作成し、プランに即した献立を作成する力をつける。それら献立プランを実習し、評価・判定を行い、栄養管理の方法について理解を深め実践力を身につける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養アセスメントを理解し実践することができる。 2) 栄養管理の考え方を理解し、対象者に応じた栄養管理が実践できる。 3) 献立作成をはじめ栄養ケアプランを実践できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>「四訂 応用栄養学実習」 五関正江・小林三智子編著 建帛社 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」 第一出版 配布プリント</p>								
参 考 書	<p>応用栄養学、 、 で使用するテキスト 「応用栄養学実習ワークブック」 山本由喜子編 みらい 「日本食品標準成分表(文部科学省)」</p>								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題や小テストは点検後、返却します。授業内で解説し、理解を深めます。								
留 意 事 項	<p>応用栄養学、 、 を復習しておく。 プリントを配布しますので、予習する。配布プリントや提出した課題プリントは各自、ファイルにまとめておくこと。 調理実習もしますので、身支度の準備をしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	応用栄養学実習		
第1回	オリエンテーション 栄養マネジメントの概要	(学修内容)オリエンテーション、栄養マネジメントの理解、栄養スクリーニングと栄養アセスメントの方法と実際 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバス、テキスト(第1,2章)を読んでおく。	
第2回	日本人の食事摂取基準の活用とPDCAサイクル 必要栄養量の科学的根拠	(学修内容)食事摂取基準の復習 エネルギーと栄養素について (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第3回	栄養管理計画とその実践について	(学修内容)食品構成、荷重平均成分表の理解、 適正栄養量の算定と献立作成 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第4回	妊婦・授乳婦を対象とした栄養管理(ケーススタ ディの検討)	(学修内容)妊婦(妊娠前期、中期、後期)・授乳婦を対象とした栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第5回	非妊娠時と妊娠期の指定献立の実習	(学修内容)非妊時と妊娠期(妊娠前期、中期、後期)に適した展開食を調理し、栄 養評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第6回	乳児期、離乳期の栄養管理	(学修内容)乳児期の栄養管理(調製粉乳と特殊ミルク、調乳法、離乳食の進め方) 食物アレルギーについての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第7回	幼児期の栄養管理(ケーススタディの検討)	(学修内容)幼児期の栄養管理の実際 ケーススタディの課題と改善、各班のまとめと発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第8回	乳児期、離乳期、幼児期の栄養管理の実際	(学修内容)離乳食の展開、食物アレルギー対応食の献立作成と評価 保育所給食と間食の献立作成と評価 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第9回	調乳、離乳食とアレルギー食の指定献立の実習	(学修内容)調乳を行い、離乳食と食物アレルギーに適した献立を実習し、栄養評価 を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第10回	学童、思春期の栄養管理の実際(ケーススタ ディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(肥満児、学校給食、貧血、やせの場合)の課題と改善 、各班のまとめと発表、献立作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第11回	成人期、更年期の栄養管理の実際(ケーススタ ディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(メタボリックシンドローム、更年期障害の場合)の課 題と改善、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第12回	高齢期、運動負荷に対応したの栄養管理の実際(ケ ーススタディの検討と献立作成)	(学修内容)ケーススタディ(低栄養、咀嚼力低下、運動負荷の場合)の課題と改善 、各班のまとめと発表、献立の作成 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第13回	学童期~高齢期、スポーツ時の課題解決に向けた 食事の提供(作成献立の実習)	(学修内容)学童期~高齢期、スポーツ時の各班の作成献立を実習し、栄養評価を行 う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第14回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班のまとめ	(学修内容)各ライフステージにおけるケーススタディーの課題について、各班で改 善に向けた検討を行いまとめる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト、配布プリントを読む。 授業時に提示する課題をしておくこと。	
第15回	各ライフステージに応じた栄養管理の実際 各班の発表	(学修内容)各班の検討課題に対する栄養ケア、食事プランを発表する。全体で評価 を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各班で課題をまとめ、発表準備をしておくこと。 授業時に提示する課題を提出する。	

授 業 名	給食経営管理実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3419
英 文 名	Practice of Food Service Management			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	富安 広幸・石橋 朋美			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	本実習は、給食経営管理論 および で学んだ給食の経営の理論について、実習に取り組むことで理解を深め、P D C A サイクルに基づいたマネジメントができる力を修得する。給食の運営だけではなく、組織づくり、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーション力などの全てが経営管理にとって不可欠なものであり、実習ではそれらの能力も養う。1 クラスを3グループ(試作、管理、支援)に分け、グループごとにローテーションすることで全員が全ての役割を実習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 給食業務を総合的に理解し、給食運営に対する実践力と応用力を修得している。 2) 給食経営管理に関して臨地実習に生かす基本内容を修得している。 3) 給食の運営に必要な業務内容を理解し、マネジメントする方法を修得している。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	給食経営管理論実習 石田裕美 編(建帛社) 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本裕子・森美奈子 編(化学同人)								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	給食経営管理論 ・ 等関連科目の復習を十分しておくこと。 グループでの実習となるため、グループ内での役割分担等を把握し、調理実習前には作業工程等を理解して授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授業名	給食経営管理実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方、実習を行う上での注意事項 (事前事後学修課題の内容)(30分) 給食の流れ等について復習しまとめておくこと。
第2回	給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成)	(学修内容)給食計画 (給食対象者のアセスメント、献立作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成)	(学修内容)給食計画 (食材購入計画、調理作業手順書の作成) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:試作の準備、C班:試作の準備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第5回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第6回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第7回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第8回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第9回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第10回	給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:試作、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第11回	給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:管理、B班:支援、C班:試作) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第12回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:試作、C班:管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第13回	給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援)	(学修内容)給食の実施運営 (A班:支援、B班:管理、C班:支援) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に自分の役割について考え、まとめておくこと。
第14回	評価	(学修内容)評価 (事前事後学修課題の内容)(60分) 評価方法を検討をし、まとめておくこと。
第15回	報告会	(学修内容)報告会 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をし、スムーズな発表ができるようにまとめておくこと。

授 業 名	公衆栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN3418
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>公衆栄養学I、IIを通して、国や地域、職域等の集団を対象とした人々の健康・栄養状態と、それを取り巻く自然・社会・文化・経済等の要因やニーズを評価・把握し（公衆栄養アセスメント）、それらの特徴に基づいた栄養関連サービスを提供するための活動（公衆栄養活動）をマネジメントするための知識や方法を修得する。</p> <p>公衆栄養学IIでは、地域集団や職域等における保健・医療・福祉・介護システムにおける栄養関連の各種サービス、プログラムの調整、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理など、総合的にマネジメントするための理論と方法について学ぶ。また、実際に行われている公衆栄養プログラムの具体的取り組み事例から学び、人的資源など社会的資源の活用について理解する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 地域における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムが作成できる。</p> <p>2) プログラムを実施し、評価し、総合的にマネジメントする方法を修得している。</p> <p>3) 地域の健康、栄養、食生活に関わる課題を明確にし、施策を推進することの大事さに気づくことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	栄養科学シリーズ NEXT 公衆栄養学 最新版								
参 考 書	<p>栄養士必携(2020年度版) 日本栄養士会編 第一出版</p> <p>日本人の食事摂取基準[2020年版] 第一出版</p> <p>公衆衛生が見える MEDICMEDIA</p>								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションに対し、評価・改善策を伝える。								
留 意 事 項	総合的に理解できるよう、公衆栄養学 で学んだ国内外の食や栄養にかかる課題や関連法規を良く復習しておいてください。それらを理解したうえで、具体的な公衆栄養活動としての実践の幅を広げることを意識して取り組んでください。実際に行われている取り組み事例を学ぶことを目的として、フィールドワークを取り入れることが有ります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	最初の授業で案内します								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国内外にて公衆栄養活動に携わった経験から、実技や計画策定などについて、実務に即した話をします。								

授 業 名		公衆栄養学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養疫学の概要	(学修内容) 栄養課題を把握・評価するための栄養疫学の役割と概要を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習 公衆衛生学のテキストを持参
第2回	暴露情報としての食事摂取量	(学修内容) 暴露情報としての食事摂取量や栄養素の考え方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習 疫学的手法について論文を検索しまとめる。
第3回	食事摂取量の測定方法	(学修内容) さまざまな食事摂取量の測定方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第4回	食事摂取量の評価方法	(学修内容) 栄養疫学の指標と研究デザインについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第5回	公衆栄養マネジメント マネジメント	(学修内容) 公衆栄養マネジメントとは何かについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第6回	公衆栄養マネジメント アセスメント	(学修内容) 食事摂取基準や既存資料の活用方法について学ぶ。 公衆栄養アセスメントの目的と方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第7回	公衆栄養マネジメント 目標設定	(学修内容) 改善課題の抽出方法について学ぶ。 改善目標の設定の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト関連箇所の予習・復習 目標の種類について確認し、ワークを仕上げる
第8回	公衆栄養マネジメント 計画・実施	(学修内容) 課題を改善するための計画を作成・実施の方法や留意点について学ぶ。 実際に計画を立案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト関連箇所の予習・復習 各機関の計画書などを参照し、取り入れる
第9回	公衆栄養マネジメント 評価	(学修内容) 評価についてその方法や分析の視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第10回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養の課題	(学修内容) 地域栄養の課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域データを収集する
第11回	公衆栄養プログラムの展開 地域栄養マネジメント	(学修内容) 各地域で実施されている施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習 地域での各種施策を収集する。
第12回	公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 妊娠期、授乳期、新生児期、乳幼児期のプログラムの実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト必要箇所を読んでおくこと
第13回	公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 成長期、成人期のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第14回	公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラム	(学修内容) 公衆栄養プログラムの展開 高齢者のプログラムの実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習
第15回	公衆栄養プログラムのまとめ	(学修内容) 特定健診特定保健指導、在宅栄養、地域ネットワークなどの包括的なシステムについて学ぶ。(レポート提出) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト関連箇所の予習・復習

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN3417
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	臨床栄養学、 で学んだ知識を基に臨床における管理栄養士が傷病者を対象とした適切な栄養管理について学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。さらに、チーム医療や在宅医療における栄養ケアについて学ぶ。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 栄養ケアの概念を理解し、栄養アセスメント、栄養ケアプランの実施、症候や各ライフステージでの栄養ケアを理解できる。 2) 各疾病の病態に応じた栄養食事療法と栄養アセスメント、栄養管理目標の設定、栄養食事療法の効果・判定を説明できる。 3) チーム医療や在宅医療における栄養ケアの実践について説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解							汎用的技能
		態度・志向性							総合的な学習経験と創造的思考力
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	・ Visual栄養学テキスト 臨床栄養学 総論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子(中山書店) ・ Visual栄養学テキスト 臨床栄養学 各論 監修：津田謹輔、伏木亨、本田佳子(中山書店) ・ 糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂) ・ 腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社)								
参 考 書	・ 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第7巻 臨床栄養学 Nutrition Care Processに沿った傷病者の栄養管理(医歯薬出版) ・ その他適宜、参考文献などを紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	毎回小テストにより理解度の確認を行う。必要に応じ重要箇所や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・ 栄養指導場面で、対象者へ栄養・食事指導の理解が深められる指導媒体なども調べて臨むこと。 ・ 学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。 ・ 臨床栄養学、 を復習して臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実際経験など：</b> 私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 クリニックにおける栄養食事指導に従事。 地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。								

授 業 名	臨床栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養ケアの基礎： 臨床栄養学の意義、医療としての臨床栄養について	(学修内容) 授業の進め方。栄養学確立への道のり、疾病構造の変化と栄養指導、臨床栄養学の意義と教育目標を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第2回	栄養ケアの基礎： 医療、福祉・介護と臨床栄養について	(学修内容) 医療・介護制度の基本、医療における臨床栄養、福祉・介護における臨床栄養を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第3回	栄養アセスメント： 栄養アセスメントの意義と必要性、栄養サポートチーム (NST) について	(学修内容) 傷病者への栄養アセスメントの意義と目的を理解し、チーム医療を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第4回	栄養アセスメント： 主観的評価と客観的評価、臨床診査、臨床検査について	(学修内容) 主観的評価 (SGA) と客観的評価 (ODA)、臨床診査、臨床検査を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第5回	栄養アセスメント： 身体計測と摂食状態の評価について	(学修内容) 身体計測、摂食状態の評価を学ぶ。(相互に身体計測し、摂食記録を集計・評価) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第6回	栄養ケアプランの実施： 栄養ケアプランの目標と作成、問題志向型システム、栄養補給方法について	(学修内容) 栄養ケアプランの目標と作成、問題志向型システム (POS)、栄養補給方法を学ぶ。(問題志向型システムを理解し、SOAPを作成) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第7回	栄養ケアプランの実施： 栄養教育とクリニカルパス、特別用途食品、保健機能食品について	(学修内容) 栄養教育、栄養カウンセリング、クリニカルパス、特別用途食品、保健機能食品を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第8回	栄養ケアプランの実施： 栄養ケアと薬物療法、モニタリングと評価について	(学修内容) 栄養ケアと薬物療法、モニタリングと評価を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第9回	症候への栄養ケア： 発熱・体温調節、ビタミン欠乏症について	(学修内容) 発熱・体温調節、ビタミン欠乏症の診断、治療、栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第10回	症候への栄養ケア： 下痢、便秘について	(学修内容) 下痢 (浸透圧性・滲出性・分泌性)、便秘 (器質性・機能性・全身疾患等) の診断、治療、栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第11回	症候への栄養ケア： 褥瘡について	(学修内容) 褥瘡 (床ずれ) の診断と評価 (DESIGN-Rスケール)、治療、栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第12回	新生児期、乳幼児期の栄養ケアについて	(学修内容) 新生児、正規産児、低出生体重児の栄養ケアと乳幼児の健康診査を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第13回	回復を促す栄養ケア： 外科療法について	(学修内容) 待機手術、緊急手術、周術期の栄養管理、術後合併症発生時の栄養療法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第14回	回復を促す栄養ケア： 化学療法、放射線療法について	(学修内容) 術後合併症発生時の栄養療法、がん化学療法、抗がん剤、副作用と支持療法、栄養障害、NSTの関わり。放射線療法と副作用を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第15回	終末期の栄養ケアについて 全体のまとめ	(学修内容) 終末期の栄養ケア (状況の評価と診断、ガイドライン、栄養ケアの進め方) を学ぶ。全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。

授 業 名	栄養教育論実習			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3416
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>栄養状態や食行動などのライフスタイルに応じた個人への栄養教育のあり方や方法について学ぶ。 個人を対象とする栄養マネジメント力および栄養教育の実践力を養うため、自らが対象者および教育者となってロールプレイングを行い、教材を用いた模擬教育を体験する他、食行動の変容が必要な個人を対象としたカウンセリングの実施について、講義で学んだ行動科学の理論を活用してその技術を身につけ、展開できる力を身につける。</p>								
学 修 成 果 対 象 業 績	<p>1) 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析から、それらを総合的に評価・判定できる。 2) 対象者個人に応じた栄養教育を計画・実施・評価できる。 3) 行動変容技法を用いて、食生活の変容に寄与する栄養教育が実施できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	栄養教育・指導実習ワークブック 第3版 山下静江・岩間範子 編 出版社：みらい								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	各グループの模擬栄養教育の実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名	栄養教育論実習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養カウンセリングの対象者と場面、態度と倫理	(学修内容) 栄養カウンセリングの概要について理解する。管理栄養士が持つべき態度と倫理を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリングの基本的技法	(学修内容) 栄養カウンセリングの基本的技法である傾聴・受容・開かれた質問と閉ざされた質問・要約について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークブックp99~110を読んでおく。
第3回	個人を対象とした栄養教育：栄養カウンセリングの話し方・聴き方(ロールプレイ) 行動変容技法の適用	(学修内容) 傾聴・受容・開かれた質問と閉ざされた質問・要約の仕方を体験型で学ぶ。栄養カウンセリングで用いる行動変容技法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークブックp107~115を読んでおく。行動変容技法について復習しておく。実習後に課題を提出する。
第4回	個人を対象とした栄養教育：成人(妊婦)への栄養教育計画	(学修内容) 対象の栄養課題に対応した栄養教育を計画する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターネットなどで栄養教育例を探し、イメージづくりをしておく。妊娠期の食生活アセスメント、バランスガイドについて復習しておく。
第5回	個人を対象とした栄養教育：成人(妊婦)への栄養教育；教材の用い方の修得、指導献立案の作成	(学修内容) 教材の扱い方を習得する。 指導献立を立案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 妊娠期のバランスガイドについて復習しておく。 献立作成の資料を準備する。実習後に指導献立を提出する。
第6回	個人を対象とした栄養教育：成人(妊婦)への栄養教育(リハーサル)	(学修内容) 栄養指導計画に基づき、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習後に、グループメンバーによるフィードバックに対応したレポートを提出する。
第7回	個人を対象とした栄養教育：成人(妊婦)	(学修内容) 栄養指導計画に基づき、管理栄養士・対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養教育の振り返り表を完成させ、提出する。
第8回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への栄養アセスメント	(学修内容) 食生活、身体計測や生化学的指標のアセスメントを行い、対象を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食事評価のツールや生化学指標の基準値等について予習しておく。 実習後、アセスメントシートを完成させ、提出する。
第9回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への栄養教育計画の作成	(学修内容) 成人(生活習慣病)への栄養教育計画案を各自で作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 生活習慣病の種類・予防・アセスメントについて勉強しておく。 実習後、栄養教育計画を完成させ、提出する。
第10回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への献立案の作成	(学修内容) 各自、栄養教育で使用する対象者への献立案を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養指導のための献立作成の資料を準備する。
第11回	カウンセリング技法と行動変容技法を用いた個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への栄養教育の実施(リハーサル)	(学修内容) 成人(生活習慣病)への栄養教育を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養指導の準備をする。
第12回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)の栄養指導媒体の作成	(学修内容) 成人(生活習慣病)への栄養教育の評価に基づいて、各自で指導媒体を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 使用する指導用資料などの準備をする。
第13回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)を対象とした栄養指導の実施と評価	(学修内容) 成人(生活習慣病)への栄養教育について、グループ全体で評価し、改善点をディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養教育の振り返り表を完成させ、提出する。
第14回	カウンセリング技法と行動変容技法を用いた個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への栄養教育の実施(継続指導)	(学修内容) 初回の栄養指導結果に基づいた継続指導案を作成し、模擬栄養指導を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 食事評価のツールや生化学指標の基準値等について復習しておく。 実習後、アセスメントシートを完成させ、提出する。
第15回	個人を対象とした栄養教育：成人(生活習慣病)への栄養指導の実施内容の評価	(学修内容) 改善案に基づき、教育者・模擬対象者・観察者のローテーションによるロールプレイを行い、振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養指導のための準備する。 実習後、栄養教育の振り返り表を完成させ、提出する

授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN3415
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	人の生涯におけるそれぞれのライフステージ、ライフスタイルにおける栄養課題と必要な栄養教育について理解し、栄養教育論 ・ で学んだ基礎知識を実践として活用する方法を修得する。 また、傷病者、要介護者への栄養教育のあり方について、臨床栄養学 ・ の学びと関連付けながら、その方法を修得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ライフステージの特性に応じた栄養教育を行うためのアセスメント項目について説明できる。 2) ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の特徴について説明できる。 3) 傷病の特性に応じ、栄養教育を行うために必要なアセスメントと実施上の注意点を説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子 編著 『カレント 栄養教育論』第2版 建帛社 栄養教育・指導実習ワークブック 第3版 山下静江・岩間範子 編 出版社：みらい								
参 考 書	その他、適宜参考書を紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	栄養教育論、応用栄養学、臨床栄養学で学んだ内容を理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務								

授 業 名		栄養教育論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ライフステージ別の栄養教育の対象と場 食生活指針、食事バランスガイドと栄養教育	(学修内容) 授業の進め方の説明をする。 ライフステージ別の栄養教育の対象と場について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく。 食生活指針・食事バランスガイドの復習をしておく。
第2回	妊娠期・授乳期の栄養教育	(学修内容) 食妊娠期・授乳期の特性と栄養教育について理解する。妊娠期・授乳期における食事バランスガイドを用いた栄養教育の実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99~108を読んでおく。 ワークブックp.138~147を読んでおく。
第3回	妊娠中に特徴的な疾患と食事療法	(学修内容) 妊娠中の身体的変化に伴い起こりやすい疾患と栄養教育について理解する。妊娠糖尿病の栄養教育例について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99~108を読んでおく。
第4回	乳児期・幼児期の栄養教育	(学修内容) 乳児期の特性、哺乳や離乳食/補完食と養育者への栄養教育について理解する。乳児の発育段階に応じた哺乳や離乳食の進め方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.109~111を読んでおく。 ワークブックp.148~151を読んでおく。
第5回	幼児期の栄養教育 - 子育て支援と栄養教育	(学修内容) 幼児期の特性および幼児期の食生活のあり方について理解し、保育所における食育と養育者への栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.112~116を読んでおく。 ワークブックp.152~156を読んでおく。
第6回	学童期の栄養教育	(学修内容) 学童期の特性および学童期の食生活のあり方について理解し、学校給食および養育者や地域への栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.117~123を読んでおく。 ワークブックp.161~167を読んでおく。
第7回	食育基本法にみる「生きる力」の育成 - 実践例 -	(学修内容) 幼児期、学童期、思春期の具体的な実践例を探し、紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 小学校の取り組み例を検索し、1枚のプリントにまとめておく。
第8回	思春期の栄養教育	(学修内容) 思春期の特性および思春期の食生活のあり方と栄養教育について理解するとともに、栄養教育の課題について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.123~127、ワークブックp.168~171を読んでおく。 確認テストの内容を復習しておく(妊娠・授乳期~思春期まで)
第9回	成人期の栄養教育 社員食堂の整備、単身者の栄養教育	(学修内容) 食環境の整備の1つである社員食堂における栄養教育について学ぶ。単身者の食生活の特徴と栄養教育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.129~147を読んでおく。 ワークブックp.172~175、183~185を読んでおく。
第10回	成人期の栄養教育 特定健診・特定保健指導	(学修内容) 特定健診・特定保健指導のシステムを理解する。特定健診・特定保健指導における管理栄養士の役割と栄養教育のあり方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.129~147を読んでおく。 ワークブックp.199~207を読んでおく。
第11回	傷病者の栄養教育 高血圧	(学修内容) 高血圧の栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.161~174を読んでおく
第12回	傷病者の栄養教育 糖尿病	(学修内容) 糖尿病の栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.161~174を読んでおく
第13回	傷病者の栄養教育 慢性腎不全	(学修内容) CKDのステージに応じた栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.161~174を読んでおく
第14回	高齢期の栄養教育	(学修内容) 高齢期の栄養教育について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.149~160を読んでおく。 ワークブックp.176~182を読んでおく。
第15回	アスリートの栄養教育	(学修内容) アスリートの栄養教育について理解する。 第8回~14回の授業の理解度確認テストと解説を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.188~195、ワークブックp.186~194を読んでおく。 確認テストの内容を復習しておく(成人期~アスリートまで)

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN3414
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、ライフステージの中で特に成人期以降の加齢による身体的・生理的变化とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、および栄養管理について学ぶ。さらに、運動や特殊環境下など身体への影響が考えられる状況でのリスク管理を踏まえた栄養管理のありかたについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 加齢による身体の変化について理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。  2) 加齢による変化に対応する食事のあり方について理解できる。  3) 運動負荷や特殊環境下における生体の状態を理解し、その栄養管理のありかたについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>「応用栄養学 第5版」福渡 努、岡本 秀己編 化学同人（応用栄養学 、 で使用のテキスト）  「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 第一出版</p>								
参 考 書	<p>応用栄養学 日本栄養改善学会監修 医歯薬出版（株）</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。</p>								
留 意 事 項	<p>応用栄養学 、 を復習しておくこと。  課題プリントを配布しますので、必ずやってくること。  単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。  急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	成人期・更年期の身体の変化と栄養	(学修内容) 更年期の身体状況の変化と栄養状態の変化 (事前後学修課題の内容) (30分) テキスト(第7章)を読んでまとめる。	
第2回	成人期の生活習慣病のリスクと栄養管理について	(学修内容) 生活習慣病のリスクと予防、栄養管理について (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第3回	高齢期の栄養管理?	(学修内容) 高齢期の生理的特徴 (事前後学修課題の内容) (45分) テキスト(第8章)を読んでまとめる。 配布された課題プリントをする。	
第4回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の病態・疾患と栄養 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第5回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養アセスメント、食事摂取基準 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第6回	高齢期の栄養管理	(学修内容) 高齢期の栄養ケア・マネジメント、後期高齢者の食事支援 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第7回	運動・スポーツと栄養?	(学修内容) 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 (事前後学修課題の内容) (45分) テキスト(第9章)を読んでまとめる。 配布された課題プリントをする。	
第8回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 健康づくりと運動 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第9回	運動・スポーツと栄養	(学修内容) 運動と栄養ケア (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第10回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における生理的特徴 (事前後学修課題の内容) (45分) テキスト(第10章)を読んでまとめる。 配布された課題プリントをする。	
第11回	ストレス環境と栄養	(学修内容) ストレス環境下における栄養ケア・マネジメント (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第12回	特殊環境と栄養?	(学修内容)?高温・低温環境下における代謝変化と栄養ケア・マネジメント (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第13回	特殊環境と栄養	(学修内容) 高圧・低圧環境下における栄養管理 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第14回	特殊環境と栄養	(学修内容) 無重力による影響と栄養管理 (事前後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。	
第15回	栄養管理の実践上の問題点について まとめ	(学修内容) 栄養管理の実践上の問題点について (事前後学修課題の内容) (90分) 前回の復習をし、課題プリント、ノートをまとめる。	

授 業 名	食品衛生学実験			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN3325
英 文 名	Experiment of food hygiene			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	食品の安全性の確保と衛生管理に必要な測定・分析の基礎技術を修得する。食品の生物学的汚染（微生物）、食品の化学的汚染（農薬、重金属、毒物など）、食品添加物の検出、食品の腐敗、変質の検査法、環境水の安全管理について学ぶ。衛生的管理の仕組みについては、調理行程の具体例を取り上げ、重要管理点の決定や管理基準の設定と実際のチェックなどを行いHACCPシステムの実際について学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の安全確保と衛生管理のための実験手法を修得している。 2) 食品の生物学的汚染、化学的汚染を検出し、安全管理ができる。 3) HACCPシステムを理解でき、重要管理点のチェックができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (論理的に課題に対する考察ができる)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	後藤政幸 編著 Nボックス実験シリーズ 三訂食品衛生学実験 建帛社 2021								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回提出されるレポートを確認し、見直し点をフィードバックする。								
留 意 事 項	食品衛生学を復習しておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	食品衛生学実験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎	(学修内容)オリエンテーション 食品の安全性の確保と食品衛生学実験の基礎 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1章1-4.食品衛生学実験の基礎の項(1-9頁)の予習
第2回	微生物検査 手指の細菌検出	(学修内容)手指の細菌をグローブジュース法で分離し、培養し、検出する。皮膚の常在菌と手洗いの重要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1.微生物の検査の項、手指の細菌をグローブジュース法(105-106頁)の予習
第3回	微生物検査 スタンプ法 ふき取り法	(学修内容)調理器具等について スタンプ法 ふき取り法で微生物検査を行い、一般衛生管理手法を修得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2衛生管理手法の項(105-113頁)の予習
第4回	油脂の変質試験 チオバルビツール酸価の測定	(学修内容)油脂の変質をチオバルビツール酸価を用い判定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章2.油脂の変質試験の項(21-24頁)の予習
第5回	魚肉の変質・鮮度試験 ヒスタミンの検出	(学修内容)魚肉中のヒスタミンの検出を行い、新鮮度の判定を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章3.魚肉の変質・鮮度試験の項(25-29頁)の予習
第6回	水分活性	(学修内容)各種食品の水分活性について調べる (事前事後学修課題の内容)(30分) 水分活性について復習しておく
第7回	器具および容器・包装の有害化学物質の溶出 ホルムアルデヒドの検出	(学修内容)器具および容器・包装からのホルムアルデヒドの溶出について確認する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章7.器具・容器・包装の有害化学物質の項(48-50頁)の予習
第8回	食品添加物試験 発色剤(亜硝酸ナトリウム)の検出 酸化防止剤の検出	(学修内容)食品添加物の発色剤と酸化防止剤を検出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章1-4 食品添加物試験の項(53-67頁)の予習
第9回	食品添加物試験 酸性タール色素の抽出と検出	(学修内容)食品中の酸性タール色素を羊毛法で抽出し、薄層クロマトグラフィー法で同定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第3章5.着色料の検出の項(68-70頁)の予習
第10回	飲料水の水質検査 アンモニア性窒素 亜硝酸性窒素 硝酸性窒素	(学修内容)インドフェノール法によるアンモニア性窒素、ジアゾ法による亜硝酸性窒素、サリチル酸Na定量法による硝酸性窒素を測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、窒素形態別分析(11-13頁)の予習
第11回	飲料水の水質検査 残留塩素の測定	(学修内容)飲料水の水質検査の項、残留塩素をDPD法で測定する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第2章飲料水の水質検査の項、残留塩素の分析(16-19頁)の予習
第12回	HACCPシステムについて 清浄度検査 ATP測定 たんぱく質測定法 マスターテーブル法	(学修内容)ATP測定、たんぱく質測定法で調理器具清浄後の清浄度のチェックを行い衛生管理の重要性について理解していく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第5章1-2.衛生管理手法の清浄度検査の項(113-117頁)の予習
第13回	HACCPシステムについて 重要管理点の設定	(学修内容)ハンバーグ調理を例にとり、重要管理点の設定を行いHACCPシステムの構築について考えていく。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品衛生学の教科書の「HACCPシステムについて」p156~164を読んでおく
第14回	HACCPシステムについて 管理基準について	(学修内容)ハンバーグ焼成時の内部温度測定や食中毒細菌の検出、使用器具のタンパク質の検出などをおこない、管理基準の設定について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食中毒菌について復習しておくこと
第15回	食品表示について	(学修内容)実際の食品の表示の分析を通して食品表示について理解するとともに、イムノクロマトグラフィー法によるアレルギー物質の検出を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品表示に関して食品衛生学で学んだことを復習しておくこと

授 業 名	給食経営管理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2413
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食経営管理論 では、P D C A サイクルに基づいたマネジメントを理解し、品質を管理された給食の経営管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。さらに、大量調理の特性、生産工程管理、会計・財務管理、危機管理、情報管理、顧客管理についても給食経営管理論 で得た知識を基に、各種特定給食施設ごとの給食経営管理の実際を理解することで、対象者や社会環境に応じた給食のマネジメントが実習で実施できる能力を養う。								
学 修 成 果 対 象 業 業	1) 各種給食施設における特徴を理解しマネジメントできる力を修得している。 2) 対象とする人や集団に応じた健康・栄養政策や制度を理解し活用できる力を修得している。 3) 給食施設での経営管理の基本的な考え方や方法について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用(双方向型授業)	グループワーク I C T 活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論(第4版) 幸林友男 編(講談社) 春学期の「給食経営管理論」で使用したテキストを継続して使用します。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	給食経営管理論 を復習しておくこと。 専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授 業 名		給食経営管理論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）	（学修内容）オリエンテーション（給食経営管理論 の復習）  （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスとテキストの関連個所を読み、まとめる。
第2回	栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事管理の概要・意義・目的）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事のアセスメント）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	栄養・食事管理（栄養・食事の計画）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事の計画）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第5回	栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）	（学修内容）栄養・食事管理（栄養・食事計画の実施、評価、改善）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第6回	給食の品質	（学修内容）給食の品質  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第7回	給食施設別経営管理（病院給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（病院給食） （病院給食での栄養管理方法等について話し合う） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第8回	給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（高齢者・介護福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第9回	給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（児童福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第10回	給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（障害者福祉施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第11回	給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（学校・幼稚園給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第12回	給食施設別経営管理（事業所給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（事業所給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第13回	給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）	（学修内容）給食施設別経営管理（自衛隊給食・矯正施設給食）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 関連個所のポイントをまとめる。
第14回	給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）	（学修内容）給食施設別経営管理（院外給食・配食サービス・その他）  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。
第15回	健康増進法における特定給食施設の経営	（学修内容）健康増進法における特定給食施設の経営  （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連個所を読み、ポイントをまとめる。

授 業 名	公衆栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2412
英 文 名	Public Health Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>公衆栄養学では、国や地域、職域等の集団を対象とした人々の健康・栄養状態と、それを取り巻く自然・社会・文化・経済等の要因やニーズを評価・把握し（公衆栄養アセスメント）、それらの特徴に基づいた栄養関連サービスを提供するための活動（公衆栄養活動）をマネジメントするための知識や方法を修得する。公衆栄養活動は、主に政策として実施されていることを中心として説明するが、管理栄養士の知識と技能を持って、いかにその推進に多角的に貢献できるかを学ぶ。また、公衆栄養アセスメントに基づき、目標を設定し、栄養関連政策及び施策（公衆栄養プログラム）を中心とした複数の公衆栄養活動を総合的に計画・実施・評価・フィードバックするためのマネジメント能力を育成する。</p> <p>公衆栄養学Iでは、主に概念や理論を理解するための基礎知識の習得を目標とし、公衆栄養学の概念と意義、国や地域等の健康・栄養課題の把握方法、栄養行政（栄養政策・施策）、市民社会（住民団体、NPO、学術機関）や民間企業との協調、世界が直面している健康・栄養課題と主要な活動、を中心に講義をおこなう。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公衆栄養学の概念と公衆栄養活動を理解できる。</li> <li>2) 日本の健康・栄養状態、食環境等のデータから現状と課題を読み取ることができる。</li> <li>3) 日本の国レベルにおける課題と解決のための政策・施策について、概要を説明できる。</li> <li>4) 日本の地域レベルにおける自治体（都道府県と市町村）の役割について説明できる。また、市民社会（住民団体、NPO等）、学術機関（大学、研究所等）や民間企業との協調による公衆における栄養活動について理解できる。</li> <li>5) 国際的な健康・栄養課題と主要な対策について理解できる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズ NEXT 公衆栄養学 最新版								
参 考 書	国民衛生の動向（最新版）財）厚生統計協会 国民健康・栄養調査報告（最新版）健康栄養情報研究会編（第一出版） 日本人の食事摂取基準（最新版）（第一出版） 栄養士必携（最新版）日本栄養士会編 公衆衛生がみえる MEDICMEDIA								
課題に対する フィードバック の方法	レポートにはコメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	教科書や配布資料をしっかりと読むこと。 積極的に発言し、また他の意見への傾聴を心がけること。 実際に行われている取り組み事例を学ぶことを目的として、フィールドワークを取り入れることが有ります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：公衆栄養学領域の実務経験（研究機関、NPO、政府、民間企業、国際機関）を生かし、現状や課題の具体例やプログラム展開にかかる事例を取り入れた授業を行います。								

授 業 名		公衆栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	公衆栄養学の概念と意義	(学修内容) 公衆栄養学の考え方を学ぶ。管理栄養士として習得する知識・技能を通して、社会にどの様に貢献できるかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 在住地域をはじめ、日本や世界の人々の食や栄養に関わる課題について興味、関心、疑問をもつこと。	
第2回	公衆栄養学の歴史	(学修内容) 公衆栄養学の歴史や背景について学び、施策との繋がりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞やニュース、ソーシャルメディア等の情報を日頃から見聞きし、食や栄養に関わる課題、その原因、対策について考えてみる。	
第3回	国民健康・栄養調査の実施と食生活の変遷	(学修内容) 日本人の健康・栄養状態を把握する基礎データとなる国民健康・栄養調査の実施方法、および日本人の食生活の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 食や栄養に関わる課題について、既存の情報を調べてみる。	
第4回	国民健康・栄養調査と健康・栄養課題	(学修内容) 国民健康・栄養調査の結果などを基に日本人の健康・栄養に関わる課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学習：テキストの関連箇所の予習・復習 食や栄養に関わる課題についてまとめる	
第5回	公衆栄養関連法規	(学修内容) 公衆栄養活動に関わる法律や他職種との業務の兼ね合いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法律原案の参照とテキストの関連箇所の予習・復習	
第6回	健康政策：健康日本21（第二次）と健康づくり	(学修内容) 日本人の健康づくり運動“健康日本21（第二次）”と健康づくりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読んでおくこと	
第7回	社会環境と健康・栄養課題	(学修内容) 人々を取り巻く社会環境と現存する健康・栄養問題の関係について学ぶ。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習 環境問題の検索とまとめ	
第8回	食生活と健康栄養問題 情報の収集と分析	(学修内容) 身近な人々の食生活と健康や栄養の情報収集と分析の方法を学ぶ。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第9回	食生活と健康栄養問題 地域の健康・栄養問題	(学修内容) 地域毎の健康・栄養問題の相違点や格差について学び、その取り組みを学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第10回	食生活と健康栄養問題 職域の健康・栄養問題	(学修内容) 職域としてとらえた食生活と健康・栄養問題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第11回	地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用	(学修内容) 地域における栄養サービスのプランと食事摂取基準の活用 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第12回	わが国の健康栄養施策 地域における保健・医療・福祉・介護システム	(学修内容) わが国の保健・医療・福祉・介護システムについて学び、他職種との連携の大切さを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第13回	わが国の健康栄養施策 ハイリスク集団への提供サービス	(学修内容) わが国の健康ハイリスク集団への考え方やプログラムについて学ぶ。特定検診・特定保健指導のシステムを理解する。(演習) (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第14回	諸外国の健康栄養課題と施策	(学修内容) 諸外国の健康・栄養問題と施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	
第15回	地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの展開	(学修内容) 地域栄養マネジメントと公衆栄養プログラムの計画や展開について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所の予習・復習	

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2410
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	臨床栄養学 に引き続き、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。さらにライフステージ別の疾病・病態と栄養との関係についても学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。 2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。 3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。 4) ライフステージ別の疾患について説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	・サクセス管理栄養士養成講座 臨床栄養学 総論(第一出版) ・サクセス管理栄養士養成講座 疾患・病態別臨床栄養学(第一出版) ・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂) ・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修:黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社)								
参 考 書	・管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第7巻 臨床栄養学 Nutrition Care Processに沿った傷病者の栄養管理(医歯薬出版) ・その他適宜、参考文献などを紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	毎回小テストにより理解度の確認を行う。必要に応じ重要箇所や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	・学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。 ・臨床栄養学 をよく復習して、理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付することで確認すること。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など:</b> 私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 クリニックにおける栄養食事指導に従事。 地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。								

授 業 名		臨床栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	腎・尿路・泌尿器疾患（急性糸球体腎炎～血液透析、尿路結石症）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）急性糸球体腎炎～血液透析、尿路結石症を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的を達成し栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第2回	腎・尿路・泌尿器疾患 腎臓病の食事療法における献立作成と工夫について（腎臓病食品交換表を用いて）	（学修内容）腎臓病の食事療法における「腎臓病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫について学ぶ。（普段の食事から腎臓病の治療食を作成する） （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。腎臓病の食品交換表の使い方を必ず読んでまとめておくこと。	
第3回	内分泌疾患（甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第4回	神経疾患（認知症、パーキンソン病）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）認知症、パーキンソン病などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第5回	摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第6回	呼吸器疾患（呼吸器疾患、気管支喘息や肺炎）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）呼吸器疾患、気管支喘息や肺炎などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第7回	血液系疾患（貧血や出血性疾患）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）貧血や出血性疾患などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第8回	筋・骨格疾患（骨粗鬆症、変形性関節症、サルコペニア）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）骨粗鬆症～サルコペニアなどを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第9回	免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、膠原病、免疫不全）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）食物アレルギー、膠原病、免疫不全などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第10回	感染症（病原微生物）、癌疾患（消化器癌）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）感染症、癌疾患及び緩和ケア、終末期医療などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第11回	手術、周術期、クリティカルケアの栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）手術、周術期やクリティカルケアなどを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第12回	摂食機能障害（咀嚼・嚥下、口腔障害）、身体・知的障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）咀嚼・嚥下、口腔障害～身体・知的障害などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第13回	乳幼児・小児（消化不良、先天性代謝異常、小児糖尿病、腎疾患）の栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）消化不良症～小児腎臓病などを理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第14回	妊産婦（妊娠糖尿病、妊娠高血圧症）・授乳婦の疾患における栄養アセスメント・ケアプランについて	（学修内容）妊産婦期及び授乳婦期での疾患を理解し、治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	
第15回	老年症候群（誤嚥、転倒、褥瘡、フレイル）の栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	（学修内容）老年症候群の治療方針に沿い栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。総まとめ （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。	

授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2408
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育マネジメントのP D C Aサイクルを理解し、栄養教育に必要な情報の収集と分析を行い、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる力を身につける。 また、主体的な食生活形成の支援に必要なアセスメントと評価方法を修得し、対象の健康やQOLの向上につながる栄養教育を実践する力を身につける。</p>								
学 修 成 果 対 達 目 標	<p>1) 栄養教育のマネジメントサイクルを説明できる。 2) 栄養教育のアセスメントの種類と方法を説明できる。 3) 栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	<p>健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 改訂第5版 武見ゆかり 編集 栄養教育・指導実習ワークブック 第3版 山下静江・岩間範子 編 出版社：みらい</p>								
参 考 書	<p>厚生労働省・農林水産省決定 食事バランスガイド フードガイド(仮称)検討会報告書 第一出版 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 栄養管理プロセス 公益財団法人 日本栄養士会 監修</p>								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解説を行う。								
留 意 事 項	実際の栄養教育プログラムに関心を持ち、実施者の立場を想定しながら学修してもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務</p>								

授 業 名	栄養教育論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養教育マネジメント ・栄養教育のPDCAサイクル ・栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	(学修内容)対象を理解するためのモデルについて理解する。 栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスの内容を確認しておく。 テキストp.79~93を読んでおく。
第2回	栄養教育のための調査とアセスメント ・アセスメントの目的 ・栄養アセスメントのための情報収集の種類と方法 ・食事調査の種類と特徴	(学修内容)栄養教育のための調査およびアセスメントの種類・方法について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.95~103を読んでおく
第3回	(演習)食事調査の種類と特徴	(学修内容)(演習)食事調査を体験型で学ぶ。(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業終了後、課題プリントを提出する
第4回	(演習)身体検査値・臨床検査値の種類と特徴	(学修内容)身体検査値や臨床検査値の種類を理解し判定する。(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業終了後、課題プリントを提出する
第5回	個人の栄養アセスメントー食事・栄養の評価・栄養素レベル、食品・食材料レベル、料理レベルの判定	(学修内容)栄養アセスメントのツールとしての食事摂取基準と食事バランスガイドを理解し、栄養評価ができる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食事摂取基準を復習しておく。
第6回	個人の栄養アセスメントと栄養教育計画 栄養診断システム	(学修内容)(演習)個人に対応した栄養教育を計画することができる。 栄養診断のステップについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 行動科学、行動変容技法を復習しておく。
第7回	集団の栄養アセスメント - 栄養教育の目標設定と栄養教育計画の立案	(学修内容)集団の栄養アセスメントを行い、栄養教育計画が作成できるようになる。 。栄養教育において、目標設定の意義とその種類について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.105~113を読んでおく。
第8回	栄養教育計画の立案 ・学習形態の種類と方法 ・教材の選択	(学修内容)栄養教育に用いる教材の種類と特徴、学習形態の種類と特徴について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.113~128を読んでおく。
第9回	栄養教育プログラムの作成 学習者の設定、教材の選択、学習形態の選択、 実施者のトレーニング	(学修内容)栄養教育のプログラムの作成のための、学習者の決定、時間・場所の設定、教材の選択、学習形態の種類と特徴などについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.128~131を読んでおく。
第10回	栄養教育の実施と評価 栄養教育の評価デザイン	(学修内容)栄養教育計画と学習指導案を作成し、栄養教育全体を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.133~146を読んでおく。
第11回	栄養教育プログラムの継続的な実施とモニタリングの意義 実施記録・報告	(学修内容)栄養教育におけるモニタリング、実施記録と報告のあり方について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストp.133~146を読んでおく。
第12回	食事評価・指導ツール：糖尿病食事療法のための食品交換表	(学修内容)(演習)食事評価ツールの1つである糖尿病食品交換表を理解し、摂取量や食生活の評価ができる。(グループワークを含む) (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業終了後、課題プリントを提出する。
第13回	対象に応じた献立の作成(指導ツールとしての献立)	(学修内容)(演習)健康的な食のモデルとなる献立を立案し、栄養教育に活用されることを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業終了後、課題プリントを提出する。
第14回	食環境の整備と健康	(学修内容)食環境の整備がヒトの健康に寄与することを理解し、社会の中における食のあり方について考察する。例)スマートミール認証制度 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前)生活の中で健康的な食を提供する飲食店をリサーチしておく。 事後)授業終了後、レポートを提出する。
第15回	栄養教育マネジメント：まとめ	(学修内容)対象(個人や集団)の行動変容に寄与する栄養教育のあり方(計画・実施・評価・モニタリング)について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 栄養教育論の内容を復習し、疑問点などの質問の準備をしておく 授業終了後、課題プリントを提出する。

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2407
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 で学んだ栄養管理のあり方、および成長・発達、加齢による人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化について理解したうえで、応用栄養学 では、妊娠期・授乳期および新生児期から成人期のライフステージごとの身体的・生理的特徴とその栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の考え方、およびその栄養管理について理解を深める。同時に関連する疾病や健康に影響するリスク管理の基本的な考え方や方法について学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ライフステージ各期の身体的・生理的特徴と栄養状態の評価・判定について理解できる。  2) ライフステージ各期の栄養管理について理解できる。  3) リスク管理の基本的な考え方について理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 思考・判断力 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>「第2版 ライフステージ栄養学」 鈴木 和春編著 光生館（応用栄養学 で使用のテキスト）  「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 第一出版</p>								
参 考 書	<p>「応用栄養学」 柏下 淳、上西一弘 羊土社  「食事摂取基準 そのところを読む」 佐々木 敏 同文書院</p>								
課題に対するフィードバックの方法	課題プリントは授業で解説し、小テストは実施後、答え合わせを行い説明します。								
留 意 事 項	<p>応用栄養学 を復習し、専門用語の理解を深める。  ノートをまとめておく。  単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。  急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実践的教育									

授 業 名	応用栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	妊娠期の胎児の成長と母体の変化	(学修内容) 妊娠期? 胎児の成長と母体の変化、栄養ケア  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト(4章)を読んでノートにまとめておく。
第2回	妊娠期の栄養評価	(学修内容) 妊娠期 妊娠期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第3回	妊娠期の栄養管理	(学修内容) 妊娠期 妊娠期の栄養管理について  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第4回	授乳期の栄養	(学修内容) 授乳期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理について (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第5回	乳児の成長・発達と健康	(学修内容) 乳児期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト(5章)を読んでノートにまとめておく。 配布された課題プリントをする。
第6回	乳児期の栄養	(学修内容) 乳児期 栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理、食物アレルギーについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第7回	幼児の成長・発達と栄養	(学修内容) 幼児期 幼児期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト(6章)を読んでノートにまとめておく。 配布された課題プリントをする。
第8回	幼児の栄養アセスメント、ケア	(学修内容) 幼児期 幼児期の栄養状態の評価と判定、栄養必要量、栄養管理、食物アレルギーについて (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第9回	学童期の成長・発達と栄養	(学修内容) 学童期 身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第10回	学童期の栄養アセスメントとケア	(学修内容) 学童期 栄養状態の評価と判定および栄養必要量について  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第11回	学童・思春期の学校給食の役割	(学修内容) 学童・思春期の学校給食の役割と栄養管理  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第12回	思春期の身体の成長・発達と栄養	(学修内容) 思春期の身体の成長・発達の特徴と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第13回	成人期の身体の変化と栄養	(学修内容) 成人期? 身体状況の変化および生理的特徴  (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト(7章)を読んでノートにまとめておく。 配布された課題プリントをする。
第14回	成人期の生活習慣病リスクと栄養	(学修内容) 成人期 生活習慣病のリスク因子と栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第15回	成人期の栄養管理について 全体のまとめ	(学修内容) 妊娠・授乳期、成長期、成人期の栄養アセスメントと栄養特性  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習をし、課題プリント、ノートをまとめる。

授 業 名	給食経営管理論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2406
英 文 名	Food Service Management			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	富安 広幸			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	給食の運営に必要な給食実務（栄養・食事管理、組織・人事管理、会計・原価管理、施設設備管理、食材の流通・生産管理など）の基礎知識を修得し、効率的、かつ効果的な継続実施のためのシステム構築について理解する。さらに、給食経営の資源（食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等）とあわせて総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理を理解し、給食におけるマーケティングの意義や目的、その機能について学ぶ。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 給食の意義を理解できる。 2) 給食経営管理を総合的にマネジメントできる力を修得している。 3) マーケティングの原理を理解し、組織経営などのマネジメントの基本的な方法を修得している。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学シリーズNEXT 給食経営管理論（第4版） 幸林友男 編（講談社）								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	専門用語について充分理解しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を貼付しますので、確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院で管理栄養士及び部門責任者として勤務								

授業名	給食経営管理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 授業の進め方と給食の概要について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスとテキストの関連箇所を読み、まとめる。
第2回	給食の概念 (給食の概要)	(学修内容)給食の概念 (給食の概要) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第3回	給食の概念 (給食システム)	(学修内容)給食の概念 (給食システム) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第4回	給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規)	(学修内容)給食の概念 (給食を提供する施設と関係法規) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第5回	給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営管理の概要) (経営に関する問題点を話し合う) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第6回	給食経営管理の概念 (マーケティングの原理)	(学修内容)給食経営管理の概念 (マーケティングの原理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第7回	給食経営管理の概念 (給食とマーケティング)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食とマーケティング) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第8回	給食経営管理の概念 (給食経営と組織)	(学修内容)給食経営管理の概念 (給食経営と組織) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第9回	給食の生産(調理) (原価管理、食材管理)	(学修内容)給食の生産(調理) (原価管理、食材管理) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第10回	給食の生産(調理) (生産と提供)	(学修内容)給食の生産(調理) (生産と提供) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第11回	給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際)	(学修内容)給食の安全・衛生 (安全・衛生管理の概要と実際) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第12回	給食の安全・衛生 (事故・災害時対策)	(学修内容)給食の安全・衛生 (事故・災害時対策) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第13回	給食の施設・設備 (生産施設・設備計画)	(学修内容)給食の施設・設備 (生産施設・設備計画) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第14回	給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備)	(学修内容)給食の施設・設備 (食事環境の設計と設備) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。
第15回	給食の人事・事務	(学修内容)給食の人事・事務 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の復習を実施し、不明な点を明確にする。 テキストの関連箇所を読み、ポイントをまとめる。

授 業 名	臨床栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2405
英 文 名	Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>傷病者を総合的に評価・判定するために必要な栄養スクリーニング・アセスメントについて学ぶ。  傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、疾病・病態の栄養ケアプランについて学ぶ。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 様々な疾患・病態に対し、その疾患の定義、原因、疾病構造、社会的背景などの概要を正しく理解できる。  2) 傷病者の病態や栄養状態の特徴を説明できる。  3) 栄養アセスメント・栄養ケアプランの実施・評価について説明できる。  4) ライフステージ別の疾患について説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクセス管理栄養士養成講座 臨床栄養学 総論(第一出版)</li> <li>・サクセス管理栄養士養成講座 疾患・病態別臨床栄養学(第一出版)</li> <li>・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病学会 編・著(文光堂)</li> <li>・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修:黒川清、中尾俊之、小沢尚、酒井謙、他編(医歯薬出版株式会社)</li> </ul>								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレント臨床栄養学〔第3版〕編著者:明渡陽子、長谷川輝美、山崎大治(建帛社)</li> <li>・その他適宜、参考文献などを紹介する。</li> </ul>								
課題に対するフィードバックの方法	毎回小テストにより理解度の確認を行う。必要に応じ重要箇所や留意点につき説明する。								
留 意 事 項	学習項目に沿い予習をしておくこと。授業で配布の資料は整理し、学んだ内容につき復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など:私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。  クリニックにおける栄養食事指導に従事。  地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。</p>								

授業名	臨床栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、臨床栄養の概念について	(学修内容) 授業の進め方。臨床栄養の意義と目的、及び傷病者や要介護者への栄養ケア・マネジメントの理解。医療・福祉の制度と栄養管理を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第2回	傷病者・要介護者の栄養アセスメントの意義と目的、栄養ケア計画と実施について	(学修内容) 栄養アセスメントの意義と方法(栄養スクリーニング～栄養必要量の算定)、栄養ケアの計画と実施を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第3回	傷病者・要介護者への栄養・食事療法と栄養補給方法について	(学修内容) 栄養・食事療法・栄養補給法(経口栄養補給法・経腸栄養補給法・静脈栄養補給法)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第4回	傷病者・要介護者への栄養教育とモニタリング・再評価について	(学修内容) 傷病者・要介護者への栄養教育。臨床経過のモニタリングと再評価を学ぶ。(身体計測などの評価方法) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第5回	薬と栄養・食事の相互作用及び栄養ケア記録(POS)について	(学修内容) 栄養・食事が医薬品に及ぼす影響と、栄養ケア記録(POS)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第6回	栄養障害(PEM)、ビタミン、ミネラル障害の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 栄養障害、ビタミン、ミネラル欠乏・過剰症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第7回	肥満と代謝性疾患(肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第8回	肥満と代謝性疾患(糖尿病とその合併症)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 糖尿病とその合併症を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第9回	肥満と代謝性疾患(糖尿病の食事療法における献立作成と工夫について(糖尿病交換表を用いて))	(学修内容) 糖尿病の食事療法における「糖尿病食品交換表」の使い方、献立作成と工夫を学ぶ。(普段の食事から糖尿病の治療食を作成する) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。糖尿病食品交換表の使い方を必ず読んでまとめておくこと。
第10回	肥満と代謝性疾患(高尿酸血症・痛風)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 高尿酸血症・痛風を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第11回	消化器疾患(口内炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出性胃腸症)などの栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(口内炎～たんぱく漏出性胃腸症)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第12回	消化器疾患(炎症性腸疾患:クローン病、潰瘍性大腸炎)過敏性腸症候群、便秘の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(炎症性腸疾患～便秘)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第13回	消化器疾患(肝炎・肝硬変、脂肪肝・NAFLD、NASH)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(肝炎～NASH)を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第14回	消化器疾患(胆石症・胆嚢炎、膵炎など)の栄養アセスメント・ケアプランについて	(学修内容) 消化器疾患(胆石症～膵炎)などを理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。
第15回	循環器疾患(高血圧症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、心不全、脳出血・脳梗塞など)の栄養アセスメント・ケアプランについて 全体のまとめ	(学修内容) 循環器疾患を理解し、治療方針に沿った栄養ケアの目的達成に向けた栄養アセスメント・ケアプランを学ぶ。全体のまとめと評価。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容をよく復習しておくこと。テキストの関連箇所を予習してまとめておくこと。

授 業 名	栄養教育論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2404
英 文 名	Nutrition Education			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>栄養教育論 では、栄養教育・指導の概念・定義、目的について学ぶ。また、食行動の変容の指導に必要な行動科学やカウンセリングについての理論と技法を学ぶとともに、健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。</p>								
学 修 成 果 対 達 目 標	<p>1) 栄養教育の概念・目的・必要性を説明できる。  2) 食行動の変容の指導に必要な行動科学と技法について説明できる。  3) 栄養カウンセリングの理論と技法を説明できる。  4) 栄養教育に必要な対象者の健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論 改訂第5版 武見ゆかり 編集  栄養教育・指導実習ワークブック 第3版 山下静江・岩間範子 編 出版社：みらい</p>								
参 考 書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを行い、解答の解説を行う。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：企業、病院、県民局、公益財団法人において管理栄養士として勤務</p>								

授 業 名		栄養教育論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 栄養教育の定義と目的 食の支援者としての管理栄養士と栄養教育	(学修内容) 栄養教育の目的、意義を理解する 栄養士法および管理栄養士の職業倫理を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく。 テキストp. とp.1~3を読んでおく。
第2回	ライフステージ・ライフスタイルと栄養教育 健康・疾病予防と栄養教育	(学修内容) 栄養教育の対象について理解し、栄養教育は様々な年齢・生活スタイル・健康状態の対象に行われることを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.4とp.82~87を読んでおく。
第3回	適切な食生活の基本的な考え方 ・料理レベルにおける理解 - 食事バランスガイド	(学修内容) [演習] 食事バランスガイドを理解し、自身の食生活を客観的に評価できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.4を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する
第4回	栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション・食育 食行動に関連する要因、生態学モデル、食環境づくりと栄養教育	(学修内容) ヘルスプロモーションについて理解する。食行動に関する要因は個人のみならず環境との関連性も視野に入れ考察することの重要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.5~14を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する
第5回	栄養教育と行動科学 個人要因に焦点を当てた行動変容の理論 - ヘルスピーرفモデル、計画的行動理論、など	(学修内容) ヘルスピーرفモデルや計画的行動理論などの行動変容に関する理論について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.1~24を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する
第6回	個人要因に焦点を当てた行動変容の理論 - トランスセオレティカルモデル、など	(学修内容) トランスセオレティカルモデルなどの行動変容に関する理論について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.24~26を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する
第7回	対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論 - 社会的認知理論、ソーシャルサポート、自己効力感、など	(学修内容) 社会的認知理論、ソーシャルサポート、自己効力感などの行動変容に関係する理論について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.26~29を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する
第8回	個人の栄養教育と栄養カウンセリング 栄養カウンセリングの特徴、基本的な考え方 ・カウンセラーとクライアントの関係 ・カウンセリングマインド	(学修内容) 栄養カウンセリングの特徴、基本的な考え方、クライアントとの関係、カウンセリングマインドについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.37~43を読んでおく。
第9回	個人の栄養教育と栄養カウンセリング ・栄養カウンセリングの方法論 ・対人コミュニケーション	(学修内容) 栄養カウンセリングの方法論について学ぶ。カウンセリングに特徴的な対人コミュニケーションのあり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.44~47を読んでおく。
第10回	個人の栄養教育と栄養カウンセリング ・問題解説の構造 ・系統的アセスメント	(学修内容) 食行動を行動科学に照らし合わせて分析することができ、行動変容のために食行動を系統的にアセスメントする必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.47~53を読んでおく。
第11回	個人の栄養教育と栄養カウンセリング ・認知行動療法 ・動機づけ面接	(学修内容) 栄養カウンセリングにおける認知行動療法と動機づけ面接について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.53~63を読んでおく。
第12回	行動変容のための技法 刺激統制法、行動置換、オペラント強化法、など	(学修内容) 行動変容のための技法のうち、刺激統制法、行動置換、オペラント強化法などについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.65~71を読んでおく。 (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する。
第13回	行動変容のための技法 行動契約、セルフモニタリング、ソーシャルスキルトレーニング、など	(学修内容) 行動変容のための技法のうち、行動契約、セルフモニタリング、ソーシャルスキルトレーニングなどについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.71~77を読んでおく。 (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する。
第14回	栄養カウンセリングの実際	(学修内容) [演習] 栄養カウンセリングの基本技法と手順を理解する。(グループワークによる実践を含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.37~77を復習しておく。 (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する。
第15回	大規模集団や地域レベルの行動変容の理論 セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、 イノベーション普及理論、など まとめ	(学修内容) 集団の特性を活かした行動変容のあり方や大規模集団や地域レベルの行動変容について学ぶ。 栄養教育論 のまとめをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) テキストp.29~36を読んでおく (事後) 授業終了後、課題プリントを提出する。

授 業 名	応用栄養学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2403
英 文 名	Applied Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>応用栄養学 では、健康の維持増進や生活習慣病の発症予防、重症化予防を目指して、ライフステージの様々な対象者に応じた栄養管理のための基礎的事項について学ぶ。そのために栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の考え方を身につけ、「日本人の食事摂取基準」について策定の理論や管理栄養士として正しく活用するための基本的な事項について理解を深める。</p> <p>応用栄養学 、 、 を通して各ライフステージ別やスポーツ時、特殊環境下の栄養管理の考え方を詳しく学んでいくが、 では基本となる成長、発達、加齢に伴う人体の構造や機能の変化と栄養状態の変化、およびそれらの特徴について理解する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養管理の考え方を正しく理解できる。  2) 食事摂取基準について正しく理解できる。  3) 成長・発達・加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化について理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (思考・判断力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>「第2版 ライフステージ栄養学」 鈴木 和春編著 光生館  「日本人の食事摂取基準（2020年版）」 第一出版</p>								
参 考 書	<p>「応用栄養学 第5版」 福渡 努、岡本 秀己編 化学同人  「応用栄養学」 柏下 淳、上西一弘 羊土社  「食事摂取基準 そのところを読む」 佐々木 敏 同文書院</p>								
課題に対するフィードバックの方法	課題プリントを配布し授業で解説します。小テストは実施後、答え合わせを行い理解を深めます。								
留 意 事 項	<p>専門用語の理解に努めること。  まとめたノートは提出することとします。  また、単元が終わると授業内で小テストをします。復習をしっかりとしておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間を研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授 業 名	応用栄養学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ 栄養管理（栄養ケア・マネジメント）の概念と意義	（学修内容）オリエンテーション 応用栄養学の位置づけ 栄養ケア・マネジメントとは PDCAサイクルについて （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを見て、教科書（第1章）を予習する。
第2回	栄養管理の進め方	（学修内容）栄養学的リスクの有無の判断と栄養スクリーニングについて （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第3回	栄養評価・栄養診断について	（学修内容）栄養評価の方法と栄養アセスメントの種類、方法について （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第4回	栄養管理計画の作成および実施について 栄養モニタリングと評価、修正	（学修内容）目標設定と栄養管理計画の作成、実施方法（栄養モニタリングと評価・検証、修正、フィードバックおよびアウトカム評価） （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第5回	日本人の食事摂取基準の策定方針	（学修内容）食事摂取基準の策定の方向性、対象、対象とするエネルギー及び栄養素、指標の目的と種類 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキスト（第2章）を予習し、配布された課題プリントをする。
第6回	食事摂取基準の策定の基本的事項	（学修内容）指標の概念と特徴、科学的根拠と留意事項 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第7回	推定エネルギー必要量の策定	（学修内容）推定エネルギー必要量の策定方法 エネルギー代謝と身体活動レベル （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第8回	栄養素の策定について	（学修内容）栄養素（たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス、ビタミン、ミネラル）の策定方法？ （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第9回	栄養素の策定について	（学修内容）栄養素（たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス、ビタミン、ミネラル）の策定方法 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第10回	栄養素の策定について	（学修内容）栄養素（たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス、ビタミン、ミネラル）の策定方法 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第11回	食事摂取基準の活用に関する基本的事項 食事改善を目的とした食事摂取基準の活用	（学修内容）活用の基本的考え方と留意点、食事摂取状況に関する調査方法、個人の食事改善と集団の食事改善を目的とした食事摂取基準の活用について （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第12回	成長・発達・加齢と身体的変化	（学修内容）成長・発達・加齢に伴う身体的変化 発育の5原則、スクヤモンの発育曲線 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキスト（第3章）を予習し、配布された課題プリントをする。
第13回	成長・発達・加齢と身体的変化	（学修内容）成長・発達・加齢に伴う身体的変化 体組成、消化・吸収、代謝 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第14回	成長・発達・加齢に伴う身体的、精神的变化と栄養	（学修内容）社会性の発達と栄養状態の変化 摂食機能の発達 （事前事後学修課題の内容）（45分） 前回の復習をし、課題プリントをまとめておく。 テキストを予習し、配布された課題プリントをする。
第15回	加齢に伴う身体的変化と栄養状態 全体のまとめ	（学修内容）加齢に伴う身体的変化と栄養状態の変化、評価 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の復習をし、課題プリント、ノートをまとめる。

授 業 名	食品衛生学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2324
英 文 名	Food Hygiene			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>食物を介してもたらされる健康被害を予防することは、食にかかわる者にとって重要な責務である。この授業では食品に関するさまざまな危険因子とその予防法さらに食品の安全性確保のための社会の仕組みについて学んでいく</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品衛生の課題をつかみ、食物による健康被害を起こす原因物質と対策が理解できる。  2) 食を介した健康被害を予防するために、食品の衛生的取扱い、安全管理が理解できる。  3) 食品衛生管理のためのHACCPシステムを理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	矢野俊博編著、『最新食品衛生学』食物と栄養学基礎シリーズ5 学文社 2021								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	小テストを実施し理解度の確認を行う。 調べてきたことなどについては、ノート提出などにより確認を行いコメントをつけて返却する								
留 意 事 項	常に身近な発生例などを情報収集しておくこと								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授業名	食品衛生学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生と法規	(学修内容) 食品衛生に関する「食品安全基本法」、「食品衛生法」など関連法規と食品衛生行政の仕組みについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p1~11までを読んでおくこと
第2回	食品衛生と微生物	(学修内容) 微生物による食品の変質について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p13~16を読んで、腐敗と発酵の違いについて考えておく
第3回	微生物の増殖因子とその制御について	(学修内容) 微生物の特性について学びその制御方法について考えていく (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p17~28を読んでおく
第4回	食中毒と発生状況	(学修内容) 食中毒の発生状況を季節、病因物質別、施設別、年代別に分析し、食中毒を起こさない予防策について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p30~33を読んでおく
第5回	細菌性食中毒 感染性食中毒	(学修内容) 細菌による食中毒の特徴と、感染型の食中毒の原因となる細菌とその特徴について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p33~p45を読んで、近年の発症例について調べておく
第6回	細菌性食中毒 毒素型食中毒	(学修内容) 毒素型食中毒の原因となる細菌とその特徴について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p45~p49を読んで、近年の発症例について調べておく
第7回	経口感染症、ウイルス性食中毒、人獣共通感染症について	(学修内容) ウイルスや動物に由来する細菌の食品媒介感染症について (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活環について理解しておく
第8回	自然毒、化学性食中毒	(学修内容) カビ毒や動植物に由来する自然毒について (事前事後学修課題の内容)(30分) 微生物以外の食中毒にはどのような例があるか近年の例を調べておく
第9回	食品による寄生虫症	(学修内容) 食品による寄生虫症について (事前事後学修課題の内容)(30分) 経寄生虫症について、近年の例を探しまとめ予防策について考える
第10回	食品中有害物質	(学修内容) 食品中の有害物質である化学物質、放射性物質、発がん物質、混入異物などとそれらの環境への影響について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p91~101を読んで、過去の事例について調べておく
第11回	食品添加物	(学修内容) 食品添加物の分類と表示、用途について および安全性の評価法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な食品にどのような添加物が入っているか調べておく
第12回	食品衛生管理と対策	(学修内容) HACCP概念と衛生管理方法について (事前事後学修課題の内容)(30分) HACCPについて調べておく
第13回	食品用の器具、容器包装材の安全性	(学修内容) 食品用の器具、容器包装材の安全性を素材ごとに学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p138~145を読んでおく
第14回	新規食品とその安全性	(学修内容) 食品の新しい安全性問題である「遺伝子組換え食品」「ゲノム編集食品」「放射線照射食品」「アレルギー物質を含む食品」について (事前事後学修課題の内容)(30分) 身の回りの食品において「遺伝子組換え食品」「ゲノム編集食品」「放射線照射食品」がないか調べておく
第15回	食品表示制度	(学修内容) 食品表示法の役割と不適切表示に関わる措置などについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の安全に対する表示の重要性について具体例を基にまとめておく

授 業 名	病理病態学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2323
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 惠理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	病理病態学 に引き続き、循環器系、腎/尿路疾患系、神経・精神疾患系、呼吸器系、血液系、運動器系、皮膚系、免疫・アレルギー系、生殖器系などの主要疾患および感染症の成因、病態、診断、治療等を理解する。それぞれの系統の疾患の成り立ちと、結果として起こる病態と多彩な治療について、栄養学の関わりの可能性も含めて学習する。それぞれの臓器の構造と機能については、解剖生理学のテキストを復習しながら、学習を進める								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 疾患の発症や進行のメカニズムを解剖生理学から引き続いて理解できる。 2) 疾患の症状や治療法をガイドラインも含めて理解できる。 3) 疾病の回復促進や予防などの知識が理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (疾患患者の課題の発見)	プレゼンテーション能力 (患者に寄り添える態度)	課題発見・解決能力 (患者に寄り添える態度)				
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド 「臨床医学」疾病の成り立ち 第3版 1刷 編/田中 明、藤岡由夫 羊土社								
参 考 書	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾惠理他著 第15刷 化学同人社 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 編/志村二三夫、岡 純、山田和彦 羊土社								
課題に対するフィードバックの方法	講義毎にClassroomに課題を提出し解答を講義終了後24時間以内に送付して理解度をフィードバックする。この理解度については成績に反映する。								
留 意 事 項	病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」、「病理病態学」を理解しておく。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回講義時に知らせます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導を行っていた。現在も臨床病理指導継続中。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行っている。								

授 業 名	病理病態学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	循環器系疾患I (心不全、動脈硬化、虚血性心疾患の理解)	(学修内容)循環器系疾患I (心不全、動脈硬化、虚血性心疾患の病態と治療を理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第4章 1, 2, 5を復習しておくこと 事前にテキスト第8章( )を読んでおくこと。
第2回	循環器系疾患II (高血圧症について発症機序、治療を理解)	(学修内容)循環器系疾患II (高血圧症について発症機序、合併症、治療を理解、ガイドライン、栄養治療についても学習する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第4章 6を復習しておくこと 事前にテキスト第8章( )を読んでおくこと。
第3回	循環器系疾患III (不整脈、静脈血栓塞栓症、脳血管障害を理解)	(学修内容)循環器系疾患III (不整脈、静脈血栓塞栓症、脳血管障害の発症、治療を理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第4章 3, 4, を復習しておくこと 事前にテキスト第8章( )を読んでおくこと。
第4回	腎・尿路系疾患I (腎・尿路系の構造と働き、臨床症候分類を理解し、糸球体疾患である急性腎炎、急速進行性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、無症候性蛋白尿・血尿、ネフローゼ症候群について学ぶ)	(学修内容)腎・尿路系疾患I(腎・尿路系の構造と働き、臨床症候分類、各種糸球体疾患、急性、慢性、急速進行性腎炎やネフローゼ症候群を理解) (事前事後学修課題の内容)(50分) 解剖生理学 第6章 1, を復習しておくこと 事前にテキスト第9章( )を読んでおくこと。
第5回	腎・尿路系疾患II (急性腎障害、慢性腎臓病、末期腎不全の病態、治療、悪性腫瘍を含む尿路系疾患を理解)	(学修内容)腎・尿路系疾患II (急性腎障害、慢性腎臓病、末期腎不全の病態、治療を理解し食事療法も学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第6章 を復習しておくこと 事前にテキスト第9章( )を読んでおくこと。
第6回	腎・尿路疾患III (尿路系疾患、結石症などと尿路系癌の理解)	(学修内容)腎・尿路疾患III (尿路系疾患、結石症などと尿路系癌の理解)解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第6章 を復習しておくこと 事前にテキスト第9章( )を読んでおくこと。
第7回	神経・精神系疾患 (摂食障害、認知症、アルコール依存症、神経変性疾患、精神疾患、脳腫瘍を理解する)	(学修内容)神経・精神系疾患(摂食障害、認知症、アルコール依存症、神経変性疾患、精神疾患、脳腫瘍の病態を理解し、治療法を学ぶ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第11章 を復習しておくこと 事前にテキスト第10章を読んでおくこと。
第8回	呼吸器系疾患 (呼吸器の概要と上気道感染性疾患、COPD、気管支喘息、肺がんについて理解する)	(学修内容)呼吸器系疾患 (呼吸器の概要と上気道感染性疾患、COPD、気管支喘息、肺がんの理解、呼吸機能検査の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第5章を復習すること 事前にテキスト第11章を読んでおくこと。
第9回	血液系疾患I (貧血についてその病態の種類と治療を理解する)	(学修内容)血液系疾患I (貧血についてその病態の種類と治療を、鉄代謝を含めて理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第3章 1, 2, 3について復習する。 事前にテキスト第12章( )を読んでおくこと
第10回	血液系疾患II (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血傾向をきたす疾患について理解する)	(学修内容)血液系疾患II(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血傾向をきたす疾患について治療法を含めて理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第3章 4~7について復習する。 事前にテキスト第12章( )を読んでおくこと
第11回	運動器(骨格系)疾患 (骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性関節症、フレイルティ、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解)	(学修内容)運動器(骨格系)疾患 (骨粗鬆症、骨軟化症、くる病やフレイルティ、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第9章を復習すること 事前にテキスト第13章を読んでおくこと。
第12回	免疫・アレルギー系疾患I (免疫応答の仕組み、現象の概要、アレルギー疾患、皮膚疾患を含む疾患の理解)	(学修内容)免疫・アレルギー系疾患I (免疫応答の仕組み、現象の概要、アレルギー疾患、皮膚疾患を含む疾患の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第13章 免疫系を復習すること 事前にテキスト第14, 15章( )を読んでおくこと。
第13回	免疫・アレルギー疾患II (AIDS、膠原病、自己免疫疾患各種の理解)	(学修内容)免疫・アレルギー疾患II (AIDS、膠原病、自己免疫疾患各種の理解、全身性、局所性自己免疫疾患の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第13章 免疫系を復習すること 事前にテキスト第15章( )を読んでおくこと。
第14回	婦人科疾患 (腫瘍性疾患、子宮内膜症など、妊娠時の疾患について理解する)	(学修内容)婦人科疾患 (腫瘍性疾患、子宮内膜症など、妊娠時の耐糖能異常、高血圧、貧血について治療も含めて理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第7章 1, 3~5を復習しておくこと 事前にテキスト第16章( )を読んでおくこと。
第15回	感染症 (感染症の成因と病態、病原体、食中毒、性感染、院内感染について理解する)	(学修内容)感染症(感染症の成因と病態、病原体、食中毒、性感染、院内感染について、予防制度や抗菌剤の治療についても理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第17章を読んでおくこと。

授 業 名	解剖・生理学実験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN2322
英 文 名	Experiment of Anatomy and Physiology			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	泉谷 泰行			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	この実験では、臓器の模型や実際の組織標本の観察および微細構造のスケッチを通して、各臓器の構造と機能について理解する。さらに各自の身体で機器類を用いた各種測定を行い、正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織・器官レベルの構造や機能についての理解を深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 人体の基本構造や機能を理解できる。 2) 特に消化器系・循環器系・内分泌系・呼吸器系・泌尿器系について肉眼レベル、顕微鏡レベルで説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( スケッチおよびレポートの完成度 )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	プリントを配布								
参 考 書	解剖生理学 (人体の構造と機能) 第3版 志村二三夫、岡純、山田和彦編 羊土社								
課題に対するフィードバックの方法	実験結果に対する考察を重視する。提出したレポートを返却し講評する。								
留 意 事 項	解剖生理学で学んだことを復習しながら進めていく。配布する資料をよく理解し、積極的、主体的に参加する。レポートの提出は、期限を厳守すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		解剖・生理学実験
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション、実験の目的、実験方法、顕微鏡の使い方他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第2回	消化管(胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓)	(学修内容)消化管の一般的な構造、胃底腺を構成する細胞、筋層、アウエルパッハの神経叢他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第3回	組織標本の光学顕微鏡的観察とスケッチ組織観察	(学修内容)小腸、大腸、肝臓、膵臓他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第4回	組織観察(心臓、動脈、静脈、毛細血管、脾臓)	(学修内容)「肝臓における基本的構造体(肝小葉)の構造と機能」「膵臓における内分泌と外分泌」 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第5回	組織標本の光学顕微鏡的観察とスケッチ	(学修内容)心筋の構造と機能・動脈・静脈・毛細血管の構造と機能、3種類の毛細血管の構造と機能、脾臓の構造と機能他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第6回	組織観察(大脳、脊髄、副腎)	(学修内容)大脳皮質、脊髄、副腎髄質、消化管の筋層間結合組織、副腎髄質 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第7回	組織標本の光学顕微鏡的観察とスケッチ	(学修内容)神経細胞の存在、大脳皮質の内外錐体細胞の分布、脊髄の前角細胞、副腎髄質の交換神経細胞 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第8回	組織観察(肺、腎臓)	(学修内容)下気道-肺胞の構造と肺胞でのガス交換、腎臓の構造と尿生成・血流量調整の仕組み、神経系と内分泌系によるホメオスタシス他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第9回	組織標本の光学顕微鏡的観察とスケッチ	(学修内容)肺、腎臓、大脳、副腎、甲状腺他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第10回	組織観察の復習	(学修内容)解剖生理学の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第11回	組織観察の復習	(学修内容)解剖生理学の復習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第12回	特殊感覚(味覚)	(学修内容)味覚の種類と基本味、味覚の神経支配、味覚の特徴、味覚の形態他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第13回	実験の実行	(学修内容)味覚の分布、味覚の感度検出とウェバーの法則、味覚の相乗効果と対比効果、味覚と嗅覚他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第14回	血圧測定	(学修内容)血圧に関する知識の確認、測定器具の取り扱い方、測定時の状況環境の影響、圧受容器反射と化学受容器反射、血圧調節因子、心音他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実験ノートの作成
第15回	実験の実行	(学修内容)様々な状態における最高血圧・最低血圧・脈拍数・呼吸数の測定と2種類の心音の確認他 (事前事後学修課題の内容)(90分) 提出課題を成し遂げる

授 業 名	健康栄養概論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN2321
英 文 名	Health and Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	生涯を通じて健康な身体とこころを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因の知識を深めるとともに、より健康に生活するための思考やスキルを身に付ける。それらを日常生活で実践し自分だけではなく、周囲の人たちの健康長寿を目指すことを目標とする。健康や食に関するビデオを見たり、身の回りの食品を調査し、これをプレゼンテーションして意見交換を行う授業とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 健康の大切さを理解することができる。 2) 生活習慣病の背景要因と疾病予防を理解することができる。 3) 女性のライフステージ別や高齢期における健康問題を理解し、予防に取り組むことができる。 4) 健康を維持するためのさまざまな実践方法を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	・日本健康マスター検定 公式テキスト( NHK出版) ・栄養学科学シリーズNEXT 社会環境と健康 健康管理概論 第3版: 東あかね・関戸啓子・久保加織編(講談社)								
参 考 書	・日本栄養士会編『管理栄養士・栄養士必携・データ・資料集』第一出版 2022年版 ・その他適宜、参考文献などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートに対する質問への回答と解説を行う。								
留 意 事 項	食に関する報道や話題に関心を持ち、常に正しい情報を得るように心掛けておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> <b>教員の業務経験など:</b> 私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 クリニックにおける栄養食事指導に従事。 地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。								

授業名	健康栄養概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 健康とは何か！	(学修内容) 授業計画 健康とは何か！・健康に生きるための要因 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連箇所を読んで予習し、まとめておくこと。
第2回	食生活と健康-1 (塩分について)	(学修内容) 健康と塩分の関係について学ぶ 自己の塩分摂取について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる塩分を調べる
第3回	食生活と健康-2 (エネルギー、糖質について)	(学修内容) 健康と糖質の関係について学ぶ 自己の糖質摂取について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる糖質を調べる
第4回	食生活と健康-1 (エネルギー、脂質について)	(学修内容) 健康と脂質の関係について学ぶ 自己の脂質摂取について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる脂質を調べる
第5回	嗜好を見直す	(学修内容) タバコ、アルコール、飲料などの嗜好品について 自己の利用している嗜好品について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分が食べている料理や間食に含まれる嗜好品を調べる
第6回	身体活動・運動と健康-1	(学修内容) 身体活動量を増やすには 有酸素運動とレジスタンス運動を理解し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 現在の身体活動量を調べておく
第7回	身体活動・運動と健康-2	(学修内容) 運動を継続するコツ 100歳まで歩ける体づくりを理解し、今後に役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 運動量を増やし継続するために必要な事柄をまとめておく
第8回	睡眠と心の健康	(学修内容) ストレスの影響と対策 睡眠の影響と対策を把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 ストレスについて、睡眠の時間と質についてまとめておく
第9回	がんの対策	(学修内容) 生活習慣でがんを予防するには がん検診の役割を理解し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自身の健康診断結果などを確認しておく
第10回	救急の知識	(学修内容) 万一に備え(事故、災害、非常時) 救急の対処法を把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが万一の場合に備えている対策をまとめておく
第11回	高齢の家族の健康	(学修内容) 100歳まで元気に過ごすためには 認知症の予防法を理解し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 寿命について自らの考えを整理しておく
第12回	女性の健康	(学修内容) 少子化問題、妊娠と出産、サルコペニアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 少子化の問題、妊娠と出産、サルコペニアについて調べておく
第13回	口の健康	(学修内容) 歯周病は万病の元であることを理解する 8020運動について把握し、健康づくりに役立てる (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自分の歯の状態を確認しておく
第14回	感染症を予防	(学修内容) 感染症と人の健康を学ぶ (ワクチンと健康) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 感染症の予防として自らが実行していることをまとめておく
第15回	健康を支える仕組み 健康の啓発	(学修内容) 医療保険制度と介護保険制度について学ぶ 健康改善法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の復習と、今回の関連箇所を読んで予習しまとめておくこと。 自らが継続できると考える健康法についてまとめておく

授 業 名	微生物学実験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN2319
英 文 名	Experiment of microbiology			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	小川 順			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	食中毒微生物、病原微生物の感染を防御するために、微生物を扱うための基本的操作、滅菌操作技術、培地調製、培養法と単離法、検出法を学び、菌数測定、植菌の方法、微生物の正しい扱い方を修得する。また食品有用微生物を中心に形態を顕微鏡観察し、スクリーニング法を学ぶ。実験は、グループワークを基本として取り組む。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 微生物の培養法、単離法、検出法などの基本操作が理解できる。 2) 食中毒微生物、病原微生物の取扱法の基本を理解できる。 3) 有用微生物の形態、利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	適時資料を配付する。								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、適時コメントを行う。								
留 意 事 項	微生物学を復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	開講日の微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		微生物学実験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション、微生物を扱うための基本、無菌操作と滅菌 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第2回	微生物の培養と形態観察(培養)	(学修内容)培地調製、微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第3回	微生物の培養と形態観察(細菌)	(学修内容)細菌の培養、細菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第4回	微生物の培養と形態観察(酵母)	(学修内容)酵母の培養、酵母の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第5回	微生物の培養と形態観察(糸状菌)	(学修内容)糸状菌の培養、糸状菌の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第6回	微生物の採集とコロニーの分離(培養)	(学修内容)環境からの微生物の培養と単離 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第7回	微生物の採集とコロニーの分離(観察)	(学修内容)空中落下菌、表面付着菌の測定、微生物の形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第8回	大腸菌の増殖観察(培養)	(学修内容)培地調製、大腸菌の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第9回	大腸菌の増殖観察(測定)	(学修内容)大腸菌の生育の定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第10回	抗生物質による細菌の生育阻害(培養)	(学修内容)培地調製、細菌の抗生物質処理 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第11回	抗生物質による細菌の生育阻害(測定)	(学修内容)生育阻害の観察、定量分析 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第12回	食品からの発酵微生物の分離(培養)	(学修内容)培地調製、食品微生物の培養 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第13回	食品からの発酵微生物の分離(観察)	(学修内容)食品微生物の単離と形態観察 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第14回	乳酸発酵と乳酸の測定(培養)	(学修内容)乳酸菌を用いた乳酸発酵 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	
第15回	乳酸発酵と乳酸の測定(測定)	(学修内容)乳酸発酵物中の乳酸測定 適時プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストの予習とレポート	

授業名	微生物学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2318
英文名	Microbiology			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	小川 順			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	人と微生物との相互関係を理解し、微生物の特徴と一般的性状について学ぶ。微生物の分類法を把握し、食中毒微生物、病原微生物の感染から発症、免疫、防御の機構を理解する。食品加工有用微生物についても、細菌、酵母、カビそれぞれの特性を理解し、その利用法を修得する。また、授業の双方向性を高めるべく、適時プレゼンテーションを求めます。								
学修成果到達目標	1) 微生物と人間とのかわりについて理解できる。 2) 食中毒菌や病原微生物による危害を防ぐ方法を理解できる。 3) 有用微生物の特性と利用法が理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テキスト	エキスパート管理栄養士養成シリーズ 微生物学 小林秀光、白石淳 編集 化学同人								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	各回に簡単なレポートを求め、それに対してコメントします。								
留意事項									
オフィスアワー	開講日の午後、微生物学実験終了後に対応しますが、あらかじめ、メールまたは直接予約をお願いいたします。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	微生物学イントロダクション	(学修内容) 微生物学とは、微生物学の歴史 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第2回	微生物の基礎(分類など)	(学修内容) 微生物の基礎、種類、一般性状、分類について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第3回	微生物の基礎(代謝など)	(学修内容) 微生物の基礎、代謝について 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第4回	食品と微生物(食中毒微生物)	(学修内容) 食品中の微生物相と食中毒微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第5回	食品と微生物(腐敗と保存)	(学修内容) 食品の腐敗と保存 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第6回	微生物を利用した食品(細菌の例)	(学修内容) 微生物を利用した食品、細菌の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第7回	微生物を利用した食品(酵母・カビの例)	(学修内容) 微生物を利用した食品、酵母、カビの例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第8回	病原微生物(感染機構)	(学修内容) 病原微生物の感染機構 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第9回	病原微生物(腸内細菌)	(学修内容) 病原微生物、細菌(腸内細菌)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第10回	病原微生物(消化器系感染)	(学修内容) 病原微生物、細菌(消化器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第11回	病原微生物(呼吸器系感染)	(学修内容) 病原微生物、細菌(呼吸器系感染)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第12回	病原微生物(真菌症)	(学修内容) 病原微生物、真菌(真菌症)の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第13回	病原微生物(ウイルス・原虫)	(学修内容) 病原微生物、ウイルス、原虫の例 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第14回	免疫	(学修内容) 免疫の仕組みと微生物 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	
第15回	応用微生物学	(学修内容) 微生物のバイオテクノロジー 適時、プレゼンテーションを求めます (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を事前学習しておくこと	

授 業 名	病理病態学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2317
英 文 名	Physiological Pathology			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 惠理			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	<p>病理病態学Ⅰでは、正常の細胞、組織の疾患による変性を理解し、疾患を持つ患者の診察から検査、診断への経過を理解し、栄養療法を含む治療の全容を理解する。主要疾患特に栄養障害と代謝疾患、特に糖尿病、脂質異常症、痛風、肥満、メタボリックシンドローム、やビタミン、ミネラル代謝病と、内分泌系疾患、消化器系疾患（上部、下部消化管、肝臓、胆嚢膵臓疾患）等の病態について、疾病の成り立ちと進行、病態とその診断および治療法について学んでいく。特に栄養療法が重要となる、代謝疾患については十分な理解を促す。これらの診断に不可欠な臨床検査による病態の評価や診断について、昨今のガイドラインも含めて学び治療の基本的な考え方に加えて、臨床現場での活用のできる病理病態学について理解する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 疾病の成り立ちについて細胞、組織の変化およびから疾病にいたる機序について理解する。  2) 疾病を持つ患者さんへの診断から治療にいたるアプローチの方法を理解する。  3) 特に代謝疾患（糖尿病、高脂血症、メタボリックシンドローム）などについて、発症機序と栄養との関連を理解し、治療のガイドラインを学習して実践につながることを理解する。  4) 内分泌腺の多彩な疾患を理解し、これらが及ぼす全身臓器への影響とその対処法が理解出来る。  5) 食物の消化吸収に関わる消化管と、代謝に関わる肝臓、胆嚢、膵臓の疾病が理解し、その治療法における栄養学のかかわりを理解する。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 疾患患者の課題の発見 )	プレゼンテーション能力 ( 患者に寄り添える態度 )	課題発見・解決能力 ( 患者に寄り添える態度 )				
テ キ ス ト	<p>栄養科学イラストレイテッド 「臨床医学」 疾病の成り立ち 第3版第1刷版 編/田中 明、藤岡由夫 羊土社</p>								
参 考 書	<p>エキスパート管理栄養士養成シリーズ 臨床病態学 伊藤節子編 武曾惠理他著 第14刷版 化学同人社  栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 編/志村二三夫、岡 純、山田和彦 羊土社</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回の講義毎にClassroomに課題を提出し、これに解答を講義終了後24時間以内に返答することとして、その課題の理解度を確認する。毎回の返答内容を確認して、成績に反映する。</p>								
留 意 事 項	<p>病理病態学を理解するためには、基礎知識といえる「解剖生理学」や「生化学」を理解しておく。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>初回講義時に知らせます。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：医師。国立大学病院での教官（講師）として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院（699床）での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導を行っていた。現在も臨床継続中。学会での療養指導士（管理栄養士を含む）認定制度の整備を行っている。</p>								

授 業 名	病理病態学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	加齢・疾患に伴う変化 (加齢による細胞組織の変化、炎症と創傷治癒、変性萎縮、腫瘍などの理解)	(学修内容)加齢・疾患に伴う変化 (加齢による変化、炎症と創傷治癒、変性萎縮、腫瘍など理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第1章 細胞と組織を復習しておくこと 事前にテキスト第2章をよんでおくこと
第2回	診断のための身体診療と検査(問診・全身状態の測定、全身症候、その他の主な症候)	(学修内容)疾患診断の概要(問診・診察、主な症候で実地での状況を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第1章 ~ を読んでおくこと。
第3回	臨床検査I (臨床検査の種類と特性、基準値と検体の理解 検体検査の理解)	(学修内容)臨床検査I(種類と特性、基準値と検体の臨床現場で状況を理解する。 一般臨床検査、血液学、生化学、免疫学検査、腫瘍マーカーを理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第1章( ~ )を読んでおくこと。
第4回	臨床検査II (生理学検査、画像検査の実際)	(学修内容)臨床検査II 微生物学、生理学、画像検査の実際について理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第1章( ~ )を読んでおくこと。
第5回	疾患の治療 (治療の種類と特徴、治療の方法の理解)	(学修内容)疾患の治療I(種類と特徴、治療の方法を末期、急性期、ターミナルケアについても理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第3章を読んでおくこと。
第6回	栄養障害と代謝疾患I (栄養障害、飢餓、糖尿病の病因と症状の理解)	(学修内容)栄養障害と代謝疾患I (栄養障害、飢餓、糖尿病の病因と症状の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章( , A,B)を読んでおくこと。
第7回	栄養障害と代謝疾患II (糖代謝との診断、治療、小児糖尿病について理解)	(学修内容)栄養障害と代謝疾患II(糖代謝との診断、治療、小児糖尿病について理解し栄養療法を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章( C,D,E)を読んでおくこと。
第8回	栄養障害と代謝疾患III (脂質代謝異常、肥満、肥満症、メタボリックシンドローム、痛風:脂質の種類、疾患の病因、肥満の成り立ち、メタボリックシンドローム、痛風の理解)	(学修内容)栄養障害と代謝疾患III(脂質代謝異常、肥満、肥満症、メタボリックシンドローム、痛風の病態、診断基準と治療の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章( ~ )を読んでおくこと。
第9回	栄養障害と代謝疾患IV (先天性代謝異常症、ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症、血液pH異常の理解)	(学修内容)栄養障害と代謝疾患IV(先天性代謝異常症、ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症、血液pH異常の理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前にテキスト第4章( ~ )を読んでおくこと。
第10回	内分泌系疾患I (ホルモンの特性の調節を理解。脳下垂体異常疾患を理解)	(学修内容)内分泌系疾患I(ホルモンの特性の調節を理解。脳下垂体異常疾患を理解し、代謝への影響と治療を理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第10章 内分泌系を復習しておく 事前にテキスト第5章( , )を読んでおくこと。
第11回	内分泌系疾患II (甲状腺異常、副甲状腺異常、副腎異常について理解する)	(学修内容)内分泌系疾患II(甲状腺異常、副甲状腺異常、副腎異常についてその治療法も含めて理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第10章 内分泌系を復習しておく 事前にテキスト第5章( ~ )を読んでおくこと。
第12回	消化器系-消化管疾患I (上部消化管の疾患:口腔内疾患と嚥下、食道、胃までの疾患の理解)	(学修内容)消化器系-消化管疾患I(上部消化管の疾患:口腔内疾患と嚥下、食道、胃までの疾患についての病態と治療) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第2章 消化器系 を復習しておく 事前にテキスト第6章( , )を読んでおくこと
第13回	消化器系-消化管疾患II (下部消化管疾患:炎症性腸疾患をはじめとする小腸、大腸の疾患を理解)	(学修内容)消化器系-消化管疾患II(下部消化管疾患:炎症性腸疾患をはじめとする小腸、大腸の疾患を理解し治療についても学習する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第2章 消化器系 を復習しておく 事前にテキスト第6章( )を読んでおくこと
第14回	消化器系-肝・胆・膵疾患I (肝疾患について、ウイルス肝炎、脂肪肝、NAFLD.NASH,肝がんなどを理解)	(学修内容)消化器系-肝・胆・膵疾患I(肝疾患について、ウイルス肝炎、脂肪肝、NAFLD.NASH,肝がんなどを理解) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第2章 6, 消化吸収 を復習すること 事前にテキスト第7章( )を読んでおくこと。
第15回	消化器系-肝・胆・膵疾患II (胆石症、胆嚢炎、膵炎、胆・膵のがんについて理解する)	(学修内容)消化器系-肝・胆・膵疾患II (胆石症、胆嚢炎、膵炎、胆・膵のがんについて理解する) (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖生理学 第2章 6, 消化吸収 を復習すること 事前にテキスト第7章( )を読んでおくこと。

授 業 名	生化学実験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN2316
英 文 名				開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	生化学、生化学 / 栄養生化学において学んできた生体内成分と栄養素の代謝について、実験を通して理解を深めていく。特に栄養状態による生体の成分の変化や代謝にかかわる酵素の活性に影響を与える因子などについて検討し生体成分と代謝について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体成分の多様性を理解できる。 2) 栄養素の代謝と生体成分の関連性について解説できる。 3) 代謝にかかわる酵素の特性を説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	生化学実験・田代操 編著・化学同人、配布プリント								
参 考 書	「生化学」教科書、「基礎栄養学」教科書、生化学実験実習書								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	「生化学」、「基礎栄養学」、「生化学 / 栄養生化学」の関連部分を読んで復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		生化学実験
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験項目の概略説明 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	実験の基本操作(1) 溶液の調製	(学修内容) 溶液の調製と濃度表示 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第3回	実験の基本操作(2) 比色定量	(学修内容) 希釈と吸光度との関係、検量線 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第4回	血清タンパク質の定量(1) 血清総タンパク質	(学修内容) ビウレット法による血清総タンパク質の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第5回	血清タンパク質の定量(2) 血清アルブミン	(学修内容) BCG法による血清アルブミンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第6回	タンパク質発現解析	(学修内容) タンパク質の分析(SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動) (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第7回	タンパク質の分子量決定	(学修内容) クマシーブリリアントブルー(CBB)染色法 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第8回	血清ミネラルの定量(1) 鉄	(学修内容) 血清鉄の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第9回	血清ミネラルの定量(2) カルシウム	(学修内容) 血清カルシウムの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第10回	尿中成分の定量(1) 尿素窒素	(学修内容) 尿中尿素窒素の定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第11回	尿中成分の定量(2) 尿酸、クレアチニン	(学修内容) 尿酸、クレアチニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第12回	血清酵素(1) AST	(学修内容) アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第13回	血清酵素(2) ALT	(学修内容) アラニンアミノトランスフェラーゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第14回	肝臓酵素(1) 酵素試料の調製	(学修内容) 肝臓ホモジネイトからの試料調製 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく
第15回	肝臓酵素(2) 酵素の活性測定	(学修内容) 肝臓グルコース 6 ホスファターゼの活性測定 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書、配布プリントの該当部分をノートにまとめておく

授 業 名	解剖・生理学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN2315
英 文 名	Anatomy and Physiology			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武曾 恵理			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	解剖・生理学 に続き、正常な人体の各組織・器官の構造と機能および恒常性の維持に必要な調節機構について系統的に理解していく。解剖・生理学 では、生殖器系、運動器系、内分泌系、神経系、感覚器系および免疫系について学ぶとともに、人が行う食事、運動、休養などの基本的な生命維持活動の仕組み、並びに生活環境の変化に対する調節機構を理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生殖器系、運動器系、内分泌系、神経系、自律神経系、免疫系、感覚器系およびの構造とその機能が理解できる。 2) 日常生活に関わる身体機能および生体防御とそのバランスについて理解できる。 3) 身体恒常性を保つシステムの生理学について理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 羊土社 志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版 羊土社								
参 考 書	高野廣子著 解剖生理学 南山堂 多久和 紀子、多久和 陽 著 なるほど なっとく! 解剖生理学 南山堂								
課題に対するフィードバックの方法	教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで各自理解度を確認させる。 Google Classroomに毎回の講義内容に関して、授業終了前に主に国家試験問題を中心に課題をだし、24時間以内に回答することを求めて理解度を確認、評価する。								
留 意 事 項	解剖・生理学 で学んだことは復習しておく。 あらかじめGoogle Classroomに講義資料PDFを添付してあり、学習項目に沿って予習しておく。 さらにClassroomで課題が毎回出されており、これに回答して、授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を復習する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実際経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行っていた。現在も腎臓病学を中心に病理診断、治療を継続、後進の指導もあっている。								

授 業 名		解剖・生理学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	生殖器系 (男性生殖器、女性生殖器の発育過程・構造・機能、生殖器の発生)	(学修内容) 生殖器の構造と機能および生殖器の発生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 男性生殖器の構造と機能について調べておく 「解剖生理学」pp140-142
第2回	生殖器系 (女性生殖器 性周期、排卵の機序、受精・分娩)	(学修内容) 女性性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について (事前事後学修課題の内容) (60分) 女性生殖器の構造、性周期、排卵の機序および受精・妊娠分娩について調べておく「解剖生理学」pp143-146
第3回	運動器系 I (全身の骨格の構造とその運動機能)	(学修内容) 運動器系 (全身の骨と骨格) の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の骨格の構造とその構造、成長、形成と吸収について調べておく 「解剖生理学」pp148-158
第4回	運動器系 II (全身の筋系の構造とその運動機能)	(学修内容) 全身の筋系の構造とその運動機能、収縮について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の筋系の構造とその運動機能、収縮について調べておく 「解剖生理学」pp160-164
第5回	運動器系 III (骨格筋の構造とエネルギー代謝)	(学修内容) 全身の骨格筋系の構造とエネルギー代謝について (事前事後学修課題の内容) (60分) 全身の筋系の構造とエネルギー代謝、骨格筋の赤筋、白筋について調べておく「解剖生理学」pp165-172
第6回	内分泌系 I (ホルモン分泌の調節機構)	(学修内容) ホルモン分泌の受容体、情報伝達、フィードバック調節について (事前事後学修課題の内容) (60分) ホルモン分泌の受容体、情報伝達、フィードバック調節について調べておく「解剖生理学」pp173-177
第7回	内分泌系 II (ホルモンの種類とその働き)	(学修内容) ホルモン分泌器の種類とその働きについて (事前事後学修課題の内容) (60分) ホルモン分泌器の種類とその働きについて (視床下部から性腺まで) 調べておく「解剖生理学」pp178-191
第8回	神経系 (神経系の一般的特性と、中枢神経系の構造と機能)	(学修内容) 神経系のニューロンの構造、電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 神経細胞の電気生理学的特性、中枢神経系の構造と機能について調べておく「解剖生理学」pp204-208、193-199
第9回	神経系 II (反射系および末梢神経系、自律神経系の構造と機能)	(学修内容) 末梢神経の機能と、自律神経の全身の臓器への影響と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 末梢神経の機能と、自律神経の全身の臓器への影響と機能について調べておく「解剖生理学」pp200-213
第10回	感覚器系 (感覚器の構造とその機能、味覚、嗅覚について)	(学修内容) 体性感覚器と内蔵感覚の特徴、味覚、嗅覚についてその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体性感覚器と内蔵感覚の特徴、特殊感覚の味覚、嗅覚について調べておく「解剖生理学」pp216-219
第11回	感覚器系 (特殊感覚、視覚、聴覚、平衡覚について)	(学修内容) 特殊感覚; 視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 特殊感覚、視覚、聴覚、平衡覚の構造とその機能について調べておく 「解剖生理学」pp219-224
第12回	免疫系 I (免疫系の構造とその機構)	(学修内容) 免疫系の構成と機構、非特異的防御機構について (事前事後学修課題の内容) (60分) 免疫系の構成と機構、非特異的防御機構について調べておく 「解剖生理学」pp225-227
第13回	免疫系 II (生体防御機構)	(学修内容) 特異的生体防御機構の仕組み、体液性免疫、細胞性免疫、免疫寛容とその破綻について (事前事後学修課題の内容) (60分) 特異的生体防御機構の仕組み、体液性免疫、細胞性免疫、免疫寛容とその破綻について調べておく「解剖生理学」pp227-233
第14回	皮膚組織と体温調節 (皮膚の構造と体温の調節機能)	(学修内容) 皮膚の構造と体温調節機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 皮膚の構造と体温調節機能について調べておく 「解剖生理学」pp234-240
第15回	体液の恒常化 (体液の組成、酸塩基平衡、生活の恒常性)	(学修内容) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について (事前事後学修課題の内容) (60分) 体液の恒常性維持、体液の組成、酸塩基平衡について調べておく 「解剖生理学」pp131-132

授業名	公衆衛生学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	FN2314
英文名	Public Health			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養2回生				
授業の概要	健康の概念、健康増進や生活習慣病等疾病予防の考え方やその取り組みについて理解する。WHO憲章における健康の定義、国民健康づくり運動、健康管理の実際を学ぶ。個人および集団での健康管理、データヘルス計画等を学ぶ。テーマに沿ったディスカッションを行い、理解を深める。								
学修成果到達目標	健康の概念とその変遷について理解する。 世界と日本の保健・医療・福祉制度の歴史、仕組み、法律、問題点と今後の方向を理解する。 EBM(Evidence-based medicine)の考え方や方法を理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テキスト	社会・環境と健康 健康管理概論 東あかね/関戸啓子/久保加織・編 講談社サイエンティフィック								
参考書	公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所編 メディックメディア社 プリント配布								
課題に対するフィードバックの方法	レポートに対する質問への回答と解説を行う。								
留意事項	自分の健康、家族の健康、地域社会の健康を捉えながら、理解すること。 復習に充分時間をとること								
オフィスアワー	授業終了後に実施								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床医。産業医。京都府内、兵庫県内、滋賀県内の複数の市の健康づくり部会長。滋賀県後期高齢者医療広域連合健康づくり基盤事業アドバイザー。国際協力機構(JICA)「フィリピン共和国母子保健・家族計画プロジェクト」専門家。認定特定非営利活動法人AMDAのボランティア医師として国内外の災害被災地、難民キャンプなどにおける保健医療活動に従事								

授 業 名	公衆衛生学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界の健康	(学修内容) 健康の概念の変遷 健康の概念についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、世界保健機構(WHO)憲章の成り立ちと健康を阻害する各種要因についてノートにまとめておく
第2回	日本の健康 1. 日本における健康の概念の変遷	(学修内容) 第一次国民健康づくり対策。第二次国民健康づくり運動。健康日本21 健康づくり政策についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、健康日本21についてノートにまとめておく
第3回	日本の健康 2. 日本における健康の現状	(学修内容) 寿命と死亡。日本の健康管理システムの変遷と現状 日本の医療と福祉施設 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本の健康管理システムについて調べておく
第4回	健康管理を担う施設と従事するスタッフ	(学修内容) 健康管理にかかわる施設。メディカルスタッフとコメディカルスタッフ 介護・福祉関連スタッフ (事前事後学修課題の内容) (60分) 保健医療、介護・福祉施設について調べておく
第5回	胎児と妊婦の健康 1. 胎児と妊婦の健康管理システム	(学修内容) 母子保健法。妊婦健康診査。健やか親子21 (事前事後学修課題の内容) (60分) 健やか親子21について調べておく
第6回	胎児と妊婦の健康 2. 胎児と妊婦の健康の現状と課題	(学修内容) 胎児と妊婦の健康にかかわる指標 (事前事後学修課題の内容) (60分) 胎児と妊婦における食育について調べておく
第7回	乳児の健康 1. 乳児の健康管理システム	(学修内容) 乳児健康診査と予防接種 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児健康診査について調べておく
第8回	乳児の健康 2. 乳児の健康の現状と課題	(学修内容) 乳児の健康にかかわる指標 乳幼児突然死症候群 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児における食育について調べておく
第9回	幼児の健康	(学修内容) 幼児の健康管理システム 幼児の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼児における食育について調べておく
第10回	児童の健康	(学修内容) 児童の健康管理システム 児童の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童における食育について調べておく
第11回	生徒の健康	(学修内容) 生徒の健康管理システム 生徒の健康現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中学生、高校生における食育について調べておく
第12回	学生の健康	(学修内容) 学生の健康管理システム。学生の健康の現状と課題 学生の健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 学生における食育について調べておく
第13回	成人の健康 1. 成人の健康管理システム	(学修内容) 成人、就業者における健康管理システム (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの関連部分を読んで、成人の健康管理システムについてノートにまとめておく
第14回	成人の健康 2. 成人期における健康の現状と課題	(学修内容) ストレス、薬物、運動、喫煙 成人期における健康についてのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 成人における食育について調べておく
第15回	高齢者の健康	(学修内容) 高齢者の健康管理システム 高齢者の健康の現状と課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 高齢者における食育について調べておく

授 業 名	基礎栄養学実験			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1402
英 文 名	Experiment of Basic Nutrition			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	田中 恵子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学で学んだ知識と考え方について、実験を通して理解を深める。栄養素の消化・吸収に関わる実験や生体内の栄養素の測定を行い、その結果を栄養素の体内動態と関連付けて考察する。さらに、自身の身体活動と食事の簡易調査を行い、エネルギー代謝と身体活動の関連性を理解する。実験結果をまとめ、考察してレポートを作成する作業を通して、科学的な思考を身につけるとともに、グループで実験を行うことで、人と協同する力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 消化吸収のしくみを説明できる。 2) 栄養素の代謝と生理的な意義について説明できる。 3) エネルギー代謝と身体活動の関連性について説明できる。 4) 順序や段取りを考えて実験を進めることができる。 5) 実験結果を論理的に考察することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	生化学実験 田代 操 編著 化学同人、およびプリント 「生化学実験」と同じテキストを使用します。								
参 考 書	基礎栄養学、生化学の教科書								
課題に対する フィードバック の方法	提出レポートにコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	基礎栄養学と共に生化学の内容についても復習しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学実験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験の意義、実験の心構え、およびレポートの作成についての説明 (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストの該当部分の予習と授業ノートの整理
第2回	実験の基礎(1)	(学修内容) 実験器具と機器操作の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第3回	実験の基礎(2)	(学修内容) %濃度やモル濃度の溶液調製 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読んで濃度の単位を理解しておく 授業ノート及びレポートの整理
第4回	in vitro 酵素消化(1) 糖質	(学修内容) パンクレアチンによるデンプンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第5回	in vitro 酵素消化(2) 脂質とタンパク質	(学修内容) パンクレアチンによる乳脂肪とゼラチンのin vitro消化 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第6回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(1) 分離	(学修内容) 肝臓からのグリコーゲンの抽出分離 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第7回	肝臓グリコーゲンの分離と定量(2) 定量	(学修内容) グリコーゲンの定量 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第8回	肝臓脂質の分離と定量(1) 分離	(学修内容) 肝臓からの脂質の抽出分離 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第9回	肝臓脂質の分離と定量(2) 定量	(学修内容) 肝臓からの中性脂肪とコレステロールの定量 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第10回	尿中ビタミンの定量(1) 前処理	(学修内容) 尿中ビタミンC 試料の調製 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第11回	尿中ビタミンの定量(2) 定量	(学修内容) 尿中総ビタミンC の定量 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第12回	ミネラルの定性と定量(1) 定性	(学修内容) 尿中ミネラルの定性 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第13回	ミネラルの定性と定量(2) 定量	(学修内容) 尿中Cl <sup>-</sup> イオンの定量 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当部分の予習と授業ノート及びレポートの整理
第14回	エネルギー代謝(1) 行動調査	(学修内容) 行動調査による消費エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容) (30分) 1日間の行動記録を整理する 授業ノート及びレポートの整理
第15回	エネルギー代謝(2) 食事調査	(学修内容) 食事調査による摂取エネルギーの算出 (事前事後学修課題の内容) (30分) 1日間の食事記録を整理する 授業ノート及びレポートの整理

授 業 名	<b>基礎栄養学</b>			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1401
英 文 名	Basic Nutrition			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	<b>根岸 裕子</b>			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	基礎栄養学では栄養の概念、食物摂取のメカニズム、栄養素の消化・吸収・排泄の仕組みについて学び、栄養とは何かについて正しく理解する。さらに健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割および体内における栄養素やエネルギーの代謝とその生理的意義について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 栄養の概念について解説できる。 2) 食物摂取のメカニズムと栄養素の消化・吸収の仕組みについて説明できる。 3) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について解説できる。 4) 体内における栄養素の利用やエネルギー代謝について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学、田地陽一 編、羊土社								
参 考 書	配布資料								
課題に対する フィードバック の方法	質問シートおよび小テストについて解説を行います。								
留 意 事 項	テキストの予習と授業で配布した資料をしっかりと読むこと。 自学自習として、ICTを活用した小テストを実施します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	基礎栄養学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養の概念	(学修内容) 栄養の定義、健康・疾患予防における栄養の役割  (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p14-26を読んでおく 章末の問題について解答、解説をノートにまとめておく
第2回	食物の摂取	(学修内容) 摂食行動について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p28-37を読んでおく 章末の問題について解答、解説をノートにまとめておく
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態(1) 消化器系	(学修内容) 消化器系の構造と機能 消化の概要  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p39-50を読んでおく 章末の問題Q1-3について解答、解説をノートにまとめておく
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態(2) 消化の調節	(学修内容) 管腔内消化と膜消化 栄養素別の消化・吸収  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p50-64を読んでおく 章末の問題Q4-8について解答、解説をノートにまとめておく
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態(3) 栄養素の体内動態	(学修内容) 門脈系とリンパ系  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p64-66を読んでおく 課題プリントについて解答、解説をノートにまとめておく
第6回	糖質の栄養(1) 分類	(学修内容) 糖質の分類 エネルギー源  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p68-72を読んでおく 章末の問題Q1-3、Q7-10について解答、解説をノートにまとめておく
第7回	糖質の栄養(2) 血糖	(学修内容) 血糖とその調節 食物繊維  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p73-84を読んでおく 章末の問題Q4-6、Q11-18について解答、解説をノートにまとめておく
第8回	脂質の栄養(1) 種類	(学修内容) 脂質の種類 脂質の臓器間輸送  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p87-97を読んでおく 章末の問題Q1-10について解答、解説をノートにまとめておく
第9回	脂質の栄養(2) 代謝	(学修内容) 脂質の体内代謝 脂肪酸由来生体活性物質  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p98-103を読んでおく 章末の問題Q11-12について解答、解説をノートにまとめておく
第10回	たんぱく質の栄養(1) 構造と機能	(学修内容) たんぱく質の構造・機能 合成と分解  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p107-112を読んでおく 章末の問題Q1-2について解答、解説をノートにまとめておく
第11回	たんぱく質の栄養(2) 代謝	(学修内容) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 摂取するたんぱく質の量と質の評価  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p112-123を読んでおく 章末の問題Q3-5について解答、解説をノートにまとめておく
第12回	ビタミンの栄養	(学修内容) ビタミンの種類と構造 ビタミンの栄養学的機能  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p125-140を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第13回	ミネラルの栄養	(学修内容) ミネラルの種類と機能  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p142-152を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第14回	水・電解質の意義	(学修内容) 水の出納と電解質代謝  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p154-166を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく
第15回	エネルギー代謝	(学修内容) エネルギー代謝の概念と測定法  (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p169-180を読んでおく 章末の問題Q1-5について解答、解説をノートにまとめておく

授 業 名	食品学実験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1313
英 文 名	Experiment of food science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	高村 仁知			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	食品中に存在する一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）の定性・定量分析などの実習を通して、食品成分に関する理解を深め、日本食品標準成分表で示されている数値を理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品中の一般成分（水分、灰分、タンパク質、炭水化物、脂質）について理解する。 2) 分析器具および分析機器の使用法、ならびに食品の一般成分の分析法を修得する。 3) 食品成分の定性分析と定量分析を通して、それぞれの成分の特性を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	基礎からの食品・栄養学実験 村上俊男編著 建帛社、配布プリント								
参 考 書	日本食品標準成分表（文部科学省）								
課題に対する フィードバック の方法	必要に応じ、コメントを付けてレポート返却								
留 意 事 項	食品学で学んだことを実験で確認していくので、食品学の復習もしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	食品学実験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、基本操作法	(学修内容) 食品成分分析の基本操作  (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第2回	卵の比重測定と鮮度検査	(学修内容) 卵の比重測定と原理 食品の鮮度検査と原理 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第3回	比色分析 - 検量線の利用	(学修内容) 吸光度測定 検量線の作成と利用 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第4回	pH試験紙を用いた固体食品のpH測定	(学修内容) pH試験紙 固体食品のpH測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第5回	pHメーターを用いた液体食品のpH測定	(学修内容) pHメーター 液体食品のpH測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第6回	中和滴定による牛乳の酸度測定	(学修内容) 中和滴定 牛乳の酸度測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第7回	ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離と同定	(学修内容) ペーパークロマトグラフィー アミノ酸の分離同定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第8回	薄層クロマトグラフィーによる色素の分離と同定	(学修内容) 薄層クロマトグラフィー 色素の分離同定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第9回	キレート滴定法による水の硬度測定	(学修内容) キレート滴定 水の硬度測定 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第10回	糖質の定性反応による構造決定	(学修内容) 糖質の構造 糖質の定性反応 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第11回	食品中のビタミンの分析 - 飲料に含まれるビタミンCの定性と定量	(学修内容) 飲料に含まれるビタミンCの定性と定量  (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第12回	食品中のビタミンの分析 - 食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用	(学修内容) 食品に含まれるビタミンCに対する酸化酵素の作用  (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第13回	食品中の機能性成分の分析 - 緑茶飲料に含まれる緑茶タンニンの定量	(学修内容) 没食子酸エチルを用いた検量線の作成 緑茶タンニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第14回	食品中の機能性成分の分析 - 茶葉抽出液に含まれる緑茶タンニンの定量	(学修内容) 茶葉抽出液の調製 緑茶タンニンの定量 (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成
第15回	食品中の成分検出と特性のまとめ	(学修内容) 食品中の成分検出と特性のまとめ  (事前事後学修課題の内容) (90分) テキスト該当部分の予習 実験レポート作成

授 業 名	食品学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1312
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	食品を様々な視点から分類する方法とその特徴について知り、そのうえで食品成分表について理解していく。さらに、日常よく用いる食品の個々の食品の特性と取り扱いについて理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品成分表について深く理解できる。 2) 食品の嗜好性成分、食品の調理・加工特性などが理解できる。 3) 食品の三次機能成分について健康に与える影響と役割を理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (応用力)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	栢野新市、水品善之、小西洋太郎 編著、『栄養科学イラストレイテッド 食品学 改訂第2版』羊土社 2021								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	小テストを課して、理解度を確認し学習内容の定着をはかる。参考図書の食品成分表を用いて小テストを行い、食品についての知識を増やしていく								
留 意 事 項	食品成分表も持参すること。								
オフィスアワー	掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		食品学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の分類	(学修内容) 食品の様々な分類方法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p13 15を読んでおく 春学期に学んだ食品中の成分について復習しておく
第2回	食品成分表の理解	(学修内容) 食品成分表の構成や収載品目さらに成分の分析方法などについて学んでいく (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品成分表に書かれている使用法のところを読んで予習しておく
第3回	植物性食品 1 穀類、イモ類	(学修内容) 植物性食品の中の、炭水化物を主体とする穀類やイモ類の個々の特徴およびその取扱いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p28 43を読んでおく 炭水化物について復習しておく
第4回	植物性食品 2 豆類、種実類	(学修内容) 植物性食品の中の、豆類と種実類について種類と特徴について学ぶ 特に大豆についてはその加工品に関しても加工方法など学んでいく (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p43 55を読んでおく 食品成分表で大豆の加工品について調べておく
第5回	植物性食品 3野菜類、果実類	(学修内容) 植物性食品の中の、野菜類と果実類の種類と性質について学び、さらに青果物の鮮度保持についても学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p55 67を読んでおく 日常生活の中で青果物の鮮度維持のために行われていることについてまとめておく
第6回	植物性食品 4キノコ類、藻類	(学修内容) 植物性食品の中の、ビタミンと無機質に富んだ食品である キノコ類、海藻類の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p68 75を読んでおく スーパーなどに置かれているキノコや海藻の種類について調べておく
第7回	動物性食品 1 肉類	(学修内容) 畜肉の種類と性質および成分の変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p83 91を読んでおく 熟成肉について調べておく
第8回	動物性食品 2 魚介類	(学修内容) 魚介類の種類と特徴および死後変化と鮮度判定について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p92 103を読んでおく
第9回	動物性食品 3 乳類、卵類	(学修内容) 乳類、卵類の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p104 116を読んでおく 乳類の加工品について調べておく
第10回	食用油脂 1 植物性油脂	(学修内容) 植物性油脂の特徴および種類について 油脂の取り扱いについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p121 130を読んでおく 各自の家庭で使われている食用油脂のラベルや表示などを調べておく
第11回	食用油脂 2 動物性油脂	(学修内容) 動物性油脂の特徴および種類について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の132 135を読んでおく 食品成分表で動物油脂について調べておく
第12回	調味料、香辛料、飲料	(学修内容) 調味料の特徴と性質について、香辛料の種類とその成分について、お茶やコーヒーなどの製法と成分について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p148 158を読んでおく
第13回	発酵食品 1 アルコール飲料	(学修内容) アルコール飲料の種類と製法について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p181 185を読んでおく
第14回	発酵食品 2 調味料など	(学修内容) 日本の伝統的な発酵食品である味噌や醤油などについて その製法と特徴について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p186 191を読んでおく
第15回	総まとめ 食品の摂取と健康	(学修内容) 総まとめ 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりをまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 食品の摂取が健康に与える影響、食品と健康との関わりについて、考えをまとめる。

授業名	調理学実習			開講学年	1・2回生	単位数	1単位	科目コード	FN1311
英文名	Practical Exercise Cooking			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田 二三子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	調理学実習 で学んだ基本的な技術や知識を基に、栄養面、安全面、嗜好面を考慮した食事の整え方の理解を深める。日本料理、西洋料理、中国料理の各様式別に実習を行い、それぞれの国の食文化についても学ぶことで、幅広い献立作成の力を身につける。また、献立作成についてその基本を修得し、実際に調理し、それについてグループで討論して献立構成や嗜好性の評価、また栄養評価を行い、計画の改善につなげることができる力を修得する。4～5名単位のグループで実習を行う。								
学修成果到達目標	1) 日本、西洋、中国、それぞれの食文化について理解し、説明できる。 2) 季節のもてなし料理や行事食についての知識を持ち、提供できる。 3) 給食実習に向けて、献立作成、調理、評価まで行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (調理技術の習得)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	調理学実習 で購入したテキストを使用する。 新調理研究会編『これからの調理学実習 基本手法から各国料理・行事食まで』オーム社 『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部 『新ビジュアル食品成分表』大修館書店 坂本裕子・森美奈子編『調理・献立作成の基礎』化学同人								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削後返却する。								
留意事項	4～5名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。 また、状況によっては予定を大幅に変更することもある。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	調理学実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 調理学実習を受講するにあたっての諸注意  (事前事後学修課題の内容) (10分) 実習のに必要な白衣、帽子等を準備しておく。
第2回	日本料理1 (煮物、でんぷんの種類と特徴)	(学修内容) 鯖のみそ煮、けんちん汁、わらびもち  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第3回	日本料理2 (味付飯、和え物の応用)	(学修内容) 栗飯、土瓶蒸し、黄身酢和え  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第4回	日本料理3 (もてなし料理・もち米の調理)	(学修内容) 赤飯、プリの照り焼き、炊き合わせ、赤だし  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第5回	西洋料理1 (魚介だし、油脂の調理特性)	(学修内容) ブイヤベース、パウンドケーキ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントおよびテキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第6回	西洋料理2 (塊肉の調理、シュー生地)	(学修内容) ボルシチ、サラダ、シュークリーム  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第7回	西洋料理3 (パイ生地)	(学修内容) アップルパイ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第8回	中国料理1 (パン生地の応用、砂糖の調理特性)	(学修内容) 肉包子・豆沙包子、西湖魚羹、拔絲地瓜  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第9回	中国料理2 (魚介の調理、中国の特殊材料の扱い方)	(学修内容) 炒墨魚、冷拌  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第10回	中国料理3 (点心)	(学修内容) 粽子、水果西米露  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第11回	行事食1 (クリスマス料理)	(学修内容) ローストチキン、ポタージュ、サラダ  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第12回	行事食2 (正月料理)	(学修内容) 正月吉例料理、雑煮  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回の栄養価計算とポイントのまとめ。
第13回	・テーブルセッティングとマナー ・実技テスト	(学修内容) ・テーブルセッティングとマナーの基本 ・実技テストの内容については後日発表する  (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストをよく読んでおくこと。 実技テストの内容を発表したら、しっかり練習をしておくこと。
第14回	自由献立1 (計画)	(学修内容) 班ごとにメニューを考案  (事前事後学修課題の内容) (30分) 参考にするレシピを集めておくこと。
第15回	自由献立2 (調理と評価)	(学修内容) 班ごとに調理、全体で評価  (事前事後学修課題の内容) (30分) 材料の準備、手順の確認をしておくこと。

授 業 名	生化学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1309
英 文 名				開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	選 択		
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	本講義では、生化学で学んだ栄養素成分や生体構成成分について、体内での代謝とそれらの成分の相互関係およびホメオスタシスの仕組みについて分子・遺伝子レベルで学び、正常な人体の構造と機能について理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 摂取された栄養素の化学エネルギーが生命活動に必要な種々のエネルギーに変換される道筋を説明できる。 2) 摂取された栄養素が生体成分に変化する道筋を説明できる。 3) 生体成分の代謝について相互の関連性を説明できる。 4) 生体成分の代謝と生体のホメオスタシスとの関連性を説明できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」改定第3版 園田勝 編 羊土社								
参 考 書	授業中に適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	質問シートおよび小テストに対し解説を行います。								
留 意 事 項	生化学の復習をしっかりとしておくこと。 自学自習として、ICTを活用した小テストを実施します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		生化学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	代謝について	(学修内容)物質代謝(異化と同化)とエネルギー代謝の基本概念について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと。巻頭の代謝早わかりマップを確認しておくこと。	
第2回	糖質の代謝(1)解糖系とクエン酸回路	(学修内容)解糖系とクエン酸回路の全体像と関連を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p100-109を読んでおくこと	
第3回	糖質の代謝(2)糖新生	(学修内容)糖新生を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p110-117を読んでおくこと	
第4回	糖質の代謝(3)血糖値の調節、疾病	(学修内容)血糖値調節の意義を知り、代謝異常について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p117-122を読んでおくこと	
第5回	脂質の代謝(1)脂肪酸の代謝	(学修内容)脂肪酸の合成分解系とエイコサノイドの代謝を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p124-131を読んでおくこと	
第6回	脂質の代謝(2)脂肪の代謝	(学修内容)中性脂肪の合成分解系と体内輸送を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p132-139を読んでおくこと	
第7回	アミノ酸代謝	(学修内容)タンパク質の合成分解系を理解し、アミノ酸プールとの関連性を知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p142-149を読んでおくこと	
第8回	アミノ酸の体内変化	(学修内容)アミノ酸の炭素成分と窒素成分の代謝、生理活性成分への代謝を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p149-155を読んでおくこと	
第9回	生体エネルギー	(学修内容)呼吸鎖と酸化的リン酸化を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p157-164を読んでおくこと	
第10回	中間代謝の概要	(学修内容)糖質代謝と脂質およびアミノ酸代謝の関連を知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p166-178を読んでおくこと	
第11回	ヌクレオチドの代謝	(学修内容)プリンヌクレオチドとピリミジンヌクレオチドの合成分解系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p180-189を読んでおくこと	
第12回	遺伝子発現とその調節(1)セントラルドグマ	(学修内容)核酸とタンパク質の生合成を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p191-201を読んでおくこと	
第13回	遺伝子発現とその調節(2)調節	(学修内容)遺伝子発現の調節を理解し、遺伝子工学の流れを知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p201-212を読んでおくこと	
第14回	ホメオスタシス	(学修内容)ホルモンと生体調節の関連を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p214-228を読んでおくこと	
第15回	生体防御機構	(学修内容)免疫の仕組みと特徴を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p230-242を読んでおくこと	

授業名	生化学実験			開講学年	1回生	単位数	1単位	科目コード	FN1308
英文名	Experiment of Biochemistry			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	根岸 裕子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>生体の構成成分を中心に分析し、人体の成り立ちと生体の化学反応(代謝)を理解する。生化学の講義で学習した知識をさらに深く理解するために、具体的な事象について実験し、その結果を考察することにより、個々の生命現象の基礎知識を身につける。実験を円滑に進めるため、実験課題はグループ毎に進め、結果についてディスカッションをした後、個人でレポートにまとめる。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 生体を構成する成分について深く理解できる。  2) 生体における遺伝子の発現について理解できる。  3) 生体材料の取り扱いについて理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	生化学実験 田代操 編著 化学同人 および 配布資料 「基礎栄養学実験」と同じテキストを使用します。								
参考書	生化学、基礎栄養学の教科書								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却する。								
留意事項	「生化学」、「基礎栄養学」の教科書を読んで復習しておくこと。 教科書および実習書(配布資料)を読んで、実験内容を予習すること。								
オフィスアワー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	生化学実験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験についての注意事項、実験ノート・実験レポート作成について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容をよく確認し、教科書の実験の心得 (p3-5) を読んでおくこと。
第2回	実験の基本操作 (1) 溶液濃度の表し方	(学修内容) 実験器具・実験機器の取り扱い方について理解する 希釈法を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 重量・容量の単位、溶液濃度の表し方について復習し、それぞれについてまとめておく。
第3回	実験の基本操作 (2) ピペット操作、比色定量	(学修内容) 種々のピペットの取り扱い方について理解する 波長と吸光度の関係、検量線を理解する (事前事後学修課題の内容) (80分) 教科書、実習書を読んでおくこと。実験後、実験レポート作成する。
第4回	細胞分画 (1) 核および細胞小器官の分離	(学修内容) 細胞に含まれる細胞小器官について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書、実習書を読んで、フローチャートを作成すること。
第5回	細胞分画 (2) ミトコンドリア画分	(学修内容) クエン酸回路について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第6回	生体成分の定性 (1) アミノ酸	(学修内容) アミノ酸の定性と同定 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書、実習書を読んで、フローチャートを作成しておくこと。
第7回	生体成分の定性 (2) タンパク質	(学修内容) タンパク質の定性反応 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポート作成する。
第8回	遺伝子・タンパク質 (1) DNA抽出	(学修内容) 生体試料からDNAの抽出を行い、DNAの塩基配列がタンパク質の設計図であることを理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書、実習書を読んで、フローチャートを作成しておくこと。
第9回	遺伝子・タンパク質 (2) タンパク質、DNAの紫外光吸収スペクトル	(学修内容) タンパク質、DNAの紫外光吸収スペクトルを測定し、その特徴を基に未知試料のタンパク質、DNAを定量する。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポート作成する。
第10回	酵素反応 (1) 酵素活性と基質濃度	(学修内容) ペプシン活性と酵素量・基質量の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 生化学の教科書、第5章酵素を読んで、復習し、実験フローチャートを作成しておくこと。
第11回	酵素反応 (2) 酵素活性と至適pH	(学修内容) ペプシン活性とpH・温度の関係 (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポート作成する。
第12回	尿中成分 (1) 一般的性状	(学修内容) 色調、混濁、pHを測定し、外観観察を理解する (事前事後学修課題の内容) (80分) 教科書、実習書を読んで、フローチャートを作成しておくこと。
第13回	尿中成分 (2) 定性反応	(学修内容) 検査紙による簡易検査、尿中カルシウム、リン、塩素などの定性反応を実施し、尿中成分を理解する (事前事後学修課題の内容) (80分) 実験後、実験レポートを作成する。
第14回	血糖値に関する実験 (1) 糖質と食物繊維	(学修内容) 糖の消化吸収について理解する (事前事後学修課題の内容) (80分) 教科書、実習書を読んで、フローチャートを作成しておくこと。
第15回	血糖値に関する実験 (2) 血糖曲線	(学修内容) グルコース濃度を定量する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実験後、実験レポートを作成する。

授業名	解剖・生理学			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1307
英文名	Anatomy and Physiology			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武曾 恵理			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	<p>正常な人体の各組織・器官の構造とその機能および内部環境の恒常性の維持を保つためのシステムを学び、理解を深める。解剖・生理学では、身体の概要およびその構造と機能を理解するために必要となる細胞・組織および循環器系、血液・造血器・リンパ系、消化器系、呼吸器系および泌尿器系について学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 人体を構成する各組織・器官の構造およびその機能について理解できる。  2) 細胞レベルから、臓器レベルまでの構造およびその機能について系統的に理解できる。  3) 各臓器の生理学的機能について原理から実際の機能との関連を理解できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	<p>栄養科学イラストレイテッド  志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 羊土社  志村二三夫、岡 純、山田和彦編 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版 羊土社</p>								
参考書	<p>高野廣子著 解剖生理学 南山堂  多久和典子、多久和 陽著 なるほどなっとく 解剖生理学 改訂2版 南江堂</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>Google classmateであらかじめ資料を提供し、復習に役立てる。  教科書で用いる「解剖生理学ノート」のテストで予習、復習を行う。  毎回Google classmateに課題を、おもに国家試験問題から出題し、終了後24時間に解答をうながし、理解度を確認する。</p>								
留意事項	<p>学習項目に沿って予習しておく。授業で用いた資料はよく整理し、学んだ内容を「解剖生理学ノート」で復習する。</p>								
オフィスアワー	<p>担当授業終了後に実施します。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の業務経験など：医師。国立大学病院での教官(講師)として、病理、解剖学、臨床内科学講義、ベッドサイドティーチングおよび、公益財団法人研究所病院(699床)での主任部長、大学病院臨床教授として総合内科臨床診断、治療の指導、病理学指導。学会での療養指導士(管理栄養士を含む)認定制度の整備を行った。現在専門の腎臓病学における日常病理学診断、外来臨床業務を継続中。</p>								

授 業 名		解剖・生理学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養と解剖生理学 (栄養と生命、人体の階層構造、器官系と栄養) 細胞 I (細胞の基本構造と細胞膜の機能)	(学修内容) 栄養と生命とのかかわり、人体の構造と機能と栄養、各器官系と栄養のかかわりを大きく把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 細胞一般について把握し、細胞膜の構造と機能について調べておく 「解剖生理学」 pp18-31
第2回	細胞 I (細胞の基本構造と細胞膜の機能)	(学修内容) 細胞一般、細胞膜について、理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 細胞の基本構造、細胞の生体膜の機能について調べておく、 「解剖生理学」 PP33-34、38-39
第3回	細胞 II (細胞の核と細胞内小器官の機能)	(学修内容) 細胞の核と細胞内小器官の機能と細胞分裂時の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 細胞の核と細胞内小器官の機能と細胞分裂時の変化について調べておく 「解剖生理学」 pp19-36
第4回	組織 (上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴)	(学修内容) 上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 上皮細胞と支持組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴について調べておく 「解剖生理学」 pp40-44
第5回	組織 (筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴) 身体の概要 (各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の機能の概説)	(学修内容) 筋組織、神経組織の役割とそれらを構成する細胞の特徴について 体内の各臓器・器官の位置および構造について (事前事後学修課題の内容) (60分) 筋組織、神経組織の役割と細胞の特徴について、 体内の各臓器・器官の構造について調べておく 「解剖生理学」 pp43-48
第6回	消化器系 (消化器系の構成と働き、咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動の仕組み)	(学修内容) 咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 咀嚼・嚥下の機構、上部消化管運動について調べておく 「解剖生理学」 pp49-54
第7回	消化器系 II (食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門まで)	(学修内容) 食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門まで (事前事後学修課題の内容) (60分) 食べ物の消化・吸収の仕組み、胃から大腸、肛門までにわたり調べておく 「解剖生理学」 pp50-58
第8回	消化器系 III (肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能)	(学修内容) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 肝臓・胆嚢・膵臓の構造とその機能について調べておく 「解剖生理学」 pp58-72
第9回	血液・造血器・リンパ系 (血液・造血器・血球系の機能)	(学修内容) リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) リンパ系、胸腺、扁桃、免疫機構について調べておく。 「解剖生理学」 pp73-76
第10回	血液・造血器・リンパ系 (各血球系の機能と血漿タンパク質、止血凝固線溶系)	(学修内容) 各血球系の機能と血漿タンパク質、止血凝固線溶系について (事前事後学修課題の内容) (60分) 各血球の組成と機能と血液型、血液凝固、線溶について調べておく 「解剖生理学」 pp79-89
第11回	循環器系 I (心臓と血管の構造と機能)	(学修内容) 心臓および血管の構造と機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 心臓および血管の構造と機能について調べておく 「解剖生理学」 pp90-101
第12回	循環器系 (血圧・循環調節機構)	(学修内容) 血管と血圧の調節機能について (事前事後学修課題の内容) (60分) 血管と血圧の調節機能について調べておく 「解剖生理学」 pp101-109
第13回	呼吸器系 (呼吸器系の構造、気道・肺の構造と機能、呼吸運動ガス交換、呼吸調節機構)	(学修内容) 呼吸器系の概観、肺の構造とガス交換の仕組み (事前事後学修課題の内容) (60分) 呼吸器系の構造とガス交換の仕組みについて調べておく 「解剖生理学」 pp111-125
第14回	腎・泌尿器系 (腎臓の構造と尿の生成機構)	(学修内容) 腎臓の構造と尿の生成機構、体液調節について (事前事後学修課題の内容) (60分) 腎臓の構造と尿の生成機構、体液調節について調べておく 「解剖生理学」 pp126-132
第15回	腎・泌尿器系 (腎に作用するホルモン・血管作動物質、排尿機構)	(学修内容) 循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 循環血液量および血圧維持にかかわる因子、排尿の仕組みについて調べておく 「解剖生理学」 pp133-138

授 業 名	公衆衛生学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1306
英 文 名	Public Health			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	人は年齢、居住地、社会生活等によって、さまざまな生活方法がある。これらすべての人々の心身の健康を維持することについて、衛生・公衆衛生学の観点から講義をすすめる。社会や環境と健康との関係を理解するとともに、健康情報の利用方法、情報管理や情報処理について理解する。また保健・医療・福祉・介護システムの概要を理解し、地域医療の現状や地域ケアシステム等を学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会や環境と健康との関係が理解できる。 2) 日本の現状について学び、健康情報の利用方法、情報管理、情報処理を理解できる。 3) 保健・医療・福祉・介護のシステム概要を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	カレント 社会・環境と健康 公衆衛生学、 北田善三 須崎尚 編著、建帛社								
参 考 書	授業中に適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	質問シートおよび小テストについて解説を行う。								
留 意 事 項	新聞やニュースなどを通じて、日本や世界の健康や公衆衛生に関する社会的な話題に関心を持つこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名	公衆衛生学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	公衆衛生と健康の概念	(学修内容)健康の概念、公衆衛生の定義。プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p1-9を読んでおく
第2回	環境と健康	(学修内容)地球環境の保全。公害対策。環境衛生生態系 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p10-25を読んでおく 主要な公害について比較してまとめる
第3回	健康、疾病、行動に関わる統計資料	(学修内容)人口静態統計・人口動態統計。生命表。傷病統計 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p26-38を読んでおく 各統計に用いられている値、保健指標を理解する
第4回	健康状態・疾病の測定と評価(1) ～概念・方法～	(学修内容)疫学概念、方法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p40-46を読んでおく 疫学の指標をまとめる
第5回	健康状態・疾病の測定と評価(2) ～スクリーニング・根拠・倫理～	(学修内容)確認小テストの実施、疫学研究に伴うスクリーニング、根拠(エビデンス)、倫理上配慮について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p46-52を読んでおく。疫学について方法、指標を理解しておく。 語句をまとめる
第6回	生活習慣の現状と対策(1) ～健康日本21～	(学修内容)生活習慣病、身体活動(運動)について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p53-60を読んでおく 健康日本21に関するニュースを検索する
第7回	生活習慣の現状と対策(2) ～喫煙・飲酒・睡眠～	(学修内容)喫煙・飲酒の現状および対策、睡眠指針、歯科保健行動 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p60-79を読んでおく 語句をまとめる
第8回	疾患の疫学と予防対策(1) ～がん、循環器疾患、代謝疾患～	(学修内容)がん、循環器疾患、代謝疾患について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p80-93を読んでおく 各疾患の特徴をまとめる
第9回	疾患の疫学と予防対策(2) ～骨・関節疾患、感染症、その他～	(学修内容)ロコモティブシンドローム、感染症、CKD、難病対策について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p93-105を読んでおく 各疾患の特徴をまとめる
第10回	保健・医療・福祉の制度(1) ～社会保障の概念、行政のしくみ、医療制度～	(学修内容)社会保障制度、医療保険などの制度について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p106-117を読んでおく 各制度の特徴をまとめる
第11回	保健・医療・福祉の制度(2) ～福祉制度、地域保健、母子保健～	(学修内容)社会福祉事業、保健所、市町村保健センター、母子保健法について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p117-133を読んでおく 語句をまとめる
第12回	保健・医療・福祉の制度(3) ～成人保健、高齢者保健～	(学修内容)生活習慣病発症予防、特定健康診査、後期高齢者医療制度、地域包括支援センターについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p133-143を読んでおく 語句をまとめる
第13回	保健・医療・福祉の制度(4) ～産業保健～	(学修内容)労働安全衛生法、3管理、職業病について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p144-152を読んでおく 職場での健康についてまとめる
第14回	保健・医療・福祉の制度(5) ～学校保健～	(学修内容)保健教育、保健管理、健康診断、学校感染症について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p152-157を読んでおく 感染症の発生要因と予防対策についてまとめる
第15回	保健・医療・福祉の制度(6) ～国際保健～	(学修内容)多国間協力。二国間協力。日本の経済協力 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書p157-162を読んでおく これまで学習した内容を復習する

授 業 名	食品学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	FN1304
英 文 名	Food Science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	健康を維持し豊かな食生活を送るためには、食品に関する知識を駆使し上手に食品を選択することが必要である。食品学では食品のもつ三つの機能について理解し、その機能を果たす成分や物性について詳しく学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の持つ三つの機能について理解できる。 2) 食品に含まれる各種成分の特性が理解できる。 3) 食品中の成分の変化について理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 ) (			
テ キ ス ト	水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎 編著 『栄養科学イラストレイテッド 食品学 改訂第2版』羊土社 2021								
参 考 書	新しい食生活を考える会・編著 『新ビジュアル食品成分表』大修館書店 2021								
課題に対する フィードバック の方法	小テストを課して理解度を確認し、学習内容の定着をはかる。								
留 意 事 項	授業の復習をしっかりとすること。また、食品の知識を増やしていくために、参考図書の食品成分表を用いて随時小テストを行うため、読むだけでなく日常の中で食品に関して関心を持って取り組むこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室前に掲示します。								
実 践 的 教 育									

授業名	食品学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割	(学修内容) 食品と食品を取り巻く課題、食品学の役割、環境と食の課題について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の役割をまとめておく
第2回	食品の三次機能について	(学修内容) 食品の持つ三つの機能について 一次機能を担う五大栄養素について (事前事後学修課題の内容)(20分) 教科書p27 28を読んでおく
第3回	食品の成分 1 炭水化物	(学修内容) 食品中の炭水化物、多糖類、少糖類、食物繊維の構造と特性を把握する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p28 43を読んでおく 食品成分表を用いて糖質を多く含む食品について理解を深めておく
第4回	食品の成分 2 脂質	(学修内容) 食品中の脂質の特性と性状、生理作用、油脂の種類と管理の仕方について (事前事後学修課題の内容)(20分) 教科書p43 54を読んでおく 食品成分表を用いて脂質を多く含む食品について理解を深めておく
第5回	食品の成分 3 タンパク質	(学修内容) 食品中のタンパク質の特性について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p57 68を読んでおく食品成分表を用いてタンパク質を多く含む食品について理解を深めておく
第6回	食品の成分 4 ビタミン、ミネラル、核酸・核酸構成成分	(学修内容) 食品中のビタミン、ミネラル、核酸関連物質の特性と働きについて (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p69 85を読んでおく 食品成分表を用いて、ビタミンやミネラル、さらに核酸関連物質を多く含む食品について理解を深めておく
第7回	食品の成分 5 水分	(学修内容) 食品中の水の働きと特性、水分活性と微生物の増殖 (事前事後学修課題の内容)(30分) 食品の成分について復習しまとめておく
第8回	食品の嗜好成分 1 色素	(学修内容) 食品中に含まれる色素成分の種類と特性について (事前事後学修課題の内容)(40分) 教科書p100 106を読んでおく 食品成分表を用いてビタミンまたはミネラルを多く含む食品について理解を深めておく
第9回	食品の嗜好成分 2 呈味成分、香気成分	(学修内容) 食品中の呈味成分や香気成分の種類と特性について (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p107 114を読んでおく 味の相互作用の例についてまとめておく
第10回	食品の機能性成分	(学修内容) 食品の機能性と食品中の機能性成分の種類とその生理作用について (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習したことをまとめる 市販の機能性食品を探し、表示を確かめレポートにまとめる
第11回	食品成分の変化 1 炭水化物・脂質	(学修内容) でんぷん、糖、脂質の変化について 変化にかかわる緒因子について (事前事後学修課題の内容)(30分) 調理学で学んだことを復習しておく
第12回	食品成分の変化 2 タンパク質・ビタミン	(学修内容) タンパク質、ビタミンの変化について 栄養素の相互作用による変化について (事前事後学修課題の内容)(40分) タンパク質の構造・特性などについて復習しておく 教科書p143 - 149を読んでおく
第13回	食品の物性	(学修内容) レオロジー、テクスチャーなど食品の物性の特徴と測定・評価方法などについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p163 - 173を読んでおく 物性を変化させて食用とする食品例について考えておく
第14回	食品の表示と規格基準	(学修内容) 法律により制定されている食品表示に関して、さらに特定保健用食品や栄養機能食品について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 健康食品と特定保健用食品の違いについてまとめておく 教科書p176 192を読んでおく
第15回	食品の製造・加工・保存基準および器具・容器包装の安全基準	(学修内容) 食品の製造にまつわる規格基準について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書p192 194を読んでおく 身近な食品の包装素材について調べておく

授 業 名	調理学実習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN1303
英 文 名	Practical Exercise Cooking			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	本実習では、基本的な調理操作と調理の基礎知識を修得する。また、食品の安全性や衛生管理についての基本的な手法を学び、その重要性の理解につなげる。また、栄養的効率を高め、嗜好的に美味しい食事を提供できる実力を身につけるとともに、調理学と関連させながら、調理過程における食品材料の化学的・物理的变化を確認および把握する。4～5名を単位としたグループで実習を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 調理に関する基礎知識を修得し、基本的な操作ができる。 2) 安全・栄養・嗜好性を考慮した食事を提供できる。 3) 調理学の理論と調理過程で生じる化学的・物理的变化を関連付けて説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (基本的な調理技術の習得)			課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	新調理研究会編『これからの調理学実習 - 基本手法から各国料理・行事食まで - 』オーム社 『調理のためのベーシックデータ』 女子栄養大学出版部 『新ビジュアル食品成分表』 大修館書店 坂本裕子・森美奈子編『調理・献立作成の基礎』化学同人								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削後返却する。								
留 意 事 項	4～5名を1グループとして実習を行う。実習の前にはしっかり予習をし、調理手順を理解して授業に臨むこと。 食材の季節等の関係上、実習の順番は計画と異なるので、オリエンテーション時に配布する予定表を確認すること。 また、状況によっては、大幅に予定を変更することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で連絡します。								
実 践 的 教 育									

授業名	調理学実習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（食品の安全性、衛生管理、調理の基本操作 等）	（学修内容）調理学実習を行う上での基本的な注意事項と基本操作  （事前事後学修課題の内容）（15分） 「実習書」第1章の1と2、「調理・献立の基礎」第1章をよく読んでおく。
第2回	献立作成のための基礎知識	（学修内容）食品成分表の使い方、栄養価計算、調味パーセント  （事前事後学修課題の内容）（15分） 「調理・献立の基礎」p.26～51をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。
第3回	日本料理の基礎1（炊く、ゆでる、だしをとる）	（学修内容）白飯、青菜のお浸し、みそ汁  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第4回	日本料理の基礎2（すし飯、蒸す）	（学修内容）ちらしずし、茶碗蒸し  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第5回	日本料理の基礎3（揚げる、和える）	（学修内容）天ぷら、和え物、すまし汁  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第6回	日本料理の基礎4（焼く、煮る）	（学修内容）魚の照り焼き、炊き合わせ  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第7回	西洋料理の基礎1（スープストックをとる、ひき肉の調理）	（学修内容）コンソメスープ、ハンバーグ、サラダ  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第8回	西洋料理の基礎2（魚の扱い方、ゼラチンの扱い方）	（学修内容）ムニエル、サラダ、ゼリー  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第9回	西洋料理の基礎3（パスタの扱い方）	（学修内容）スパゲティ、クッキー  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第10回	中国料理の基礎1（湯をとる、炒める）	（学修内容）炒飯、湯菜  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第11回	中国料理の基礎2（乾物の扱い方、寒天の扱い方）	（学修内容）炸菜、炒菜、点心  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第12回	中国料理の基礎3（特徴的な調理法）	（学修内容）溜菜、拌菜  （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第13回	パン生地づくりの基本	（学修内容）ピザ、ラタトゥイユ  （事前事後学修課題の内容）（15分） テキストを読み、手順をよく理解しておくこと。 今回のポイントのまとめと栄養価計算。
第14回	実技テスト	（学修内容）実技テストの内容については、後日連絡する  （事前事後学修課題の内容）（30分） 内容が発表になったら、しっかり練習をしておくこと。
第15回	包丁について	（学修内容）包丁の種類や扱い方  （事前事後学修課題の内容）（30分） 「調理・献立の基礎」p.11～14をよく読んでおくこと。 今回のポイントをまとめておくこと。

授業名	調理学			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	FN1302
英文名	Introduction on Cooking			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	塩田 二三子			対象学生	食物栄養1回生				
授業の概要	本授業では、調理にかかわる食品の栄養特性、物性を理解し、さらに栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める調理について、その原理と方法を学ぶ。また、これらの調理に関する基礎的な知識とともに、日本の食生活の歴史の変遷について学び、献立作成を含む食事計画を立案する力を修得する。								
学修成果到達目標	1) 調理過程でおこる食品成分の変化を科学的な視点で理解できる。 2) 献立作成を含む食事計画のための基礎知識を修得し、説明できる。 3) 食生活の指導において必要な調理や食事計画の基本的な知識を修得し、説明できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				
テキスト	山崎英恵編『食べ物と健康 調理学 食品の調理と食事設計』中山書店								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する。								
留意事項	常に自分の「食べているもの」を意識し、調理の役割について考えていくこと								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授業名	調理学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	調理の役割1 (調理の目的と意義・調理と嗜好性)	(学修内容)・栄養効果・安全性・嗜好性それぞれを高めるための調理の意義と方法 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキストp.1~15をよく読んでおくこと。
第2回	調理の役割2 (嗜好性の主観的・客観的評価)	(学修内容)・嗜好性の主観的評価の種類と内容 ・嗜好性の客観的評価の種類と内容 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.16~22をよく読んでおくこと。
第3回	非加熱調理	(学修内容)・非加熱調理操作の種類と特徴 ・非加熱調理操作により生じる食品材料の変化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.23~36をよく読んでおくこと。
第4回	加熱調理	(学修内容)・加熱調理時の伝熱方式と少佐の原理および特徴 ・加熱調理に用いる熱源と加熱用機器の特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.37~47をよく読んでおくこと。
第5回	調味操作・化学的な調理	(学修内容)・個々の調味料による操作と特徴 ・代表的な化学的調理操作の理論と特徴 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.48~53をよく読んでおくこと。
第6回	調理と栄養:植物性食品1 (穀類・豆類・いも類)	(学修内容)米・小麦・いも類・豆類の種類と構成成分および調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.54~69をよく読んでおくこと。
第7回	調理と栄養:植物性食品2 (野菜類、果物類など)	(学修内容)野菜類、果物類、種実類、きのこ類、藻類それぞれの種類と構成成分および調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.70~79をよく読んで復習しておくこと。
第8回	調理と栄養:卵類、乳類	(学修内容)卵類、乳類それぞれの成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.80~94をよく読んでおくこと。
第9回	調理と栄養:食肉類	(学修内容)食肉類の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.95~103をよく読んでおくこと。
第10回	調理と栄養:魚介類	(学修内容)魚介類の成分と調理特性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.104~114をよく読んでおくこと。
第11回	調理と栄養:油脂類、ゲル化材料、調味料類、香辛料、嗜好品	(学修内容)油脂類、ゲル化材料、調味料類、香辛料、嗜好品それぞれの種類と特性および使用方法 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.115~128をよく読んでおくこと。
第12回	調理による栄養学的・機能的利点	(学修内容)調理によっておこる物理変化や化学変化とそれによって得られる栄養学的・機能的利点 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.129~135をよく読んでおくこと。
第13回	食事設計の意義と内容	(学修内容)食生活指針、食事摂取基準、食事バランスガイド、食品群、食品成分表について (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.136~143をよく読んでおくこと。
第14回	献立作成	(学修内容)献立作成の手順と留意点および評価(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.144~152をよく読んでおくこと。
第15回	供食・食卓構成・食事環境	(学修内容)・日本料理、西洋料理、中国料理それぞれの特徴と献立構成および食卓構成 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の復習をしておくこと。 テキストp.153~160をよく読んでおくこと。

授 業 名	生化学			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	FN1301
英 文 名	Biochemistry			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	根岸 裕子			対 象 学 生	食物栄養1回生				
授業の概要	生体を構成する成分について、その構造と機能、遺伝子の発現と調節などを学び、正常な人体の仕組みについて分子および遺伝子レベルで理解していく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生体を構成する物質の性質および機能について説明することができる。 2) 5大栄養素それぞれの特徴と相互の違いについて説明することができる。 3) 遺伝子の発現とその調節について説明することができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	栄養科学イラストレイテッド「生化学」第3版、園田勝編、羊土社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	質問シートおよび小テストについて解説を行います。								
留 意 事 項	生化学 の学習につながり、他の科目の基礎となる科目であるので復習をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名		生化学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	細胞の構造	(学修内容) 細胞の基本構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第1章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q1-3をノートにまとめておくこと
第2回	タンパク質の種類と構造	(学修内容) 生体を構成するタンパク質の種類と構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q3をノートにまとめておくこと
第3回	アミノ酸について	(学修内容) タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q1-2をノートにまとめておくこと
第4回	アミノ酸の構造と高次構造	(学修内容) アミノ酸の構造とタンパク質の高次構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第4章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題Q4-5をノートにまとめておくこと
第5回	糖質の構造	(学修内容) 生体を構成する糖質の構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第2章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第6回	糖質の分類	(学修内容) 糖質の種類とその特徴を理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第2章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第7回	脂質の構造	(学修内容) 生体を構成する脂質の種類と構造について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを(第3章)読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第8回	リン脂質と糖脂質の構造と機能	(学修内容) 脂質の誘導体の種類と構造、役割について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキストを(第3章)読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第9回	ミネラルの機能	(学修内容) 生体内に分布するミネラルの種類と役割について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第8章)を読んでおくこと 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと。
第10回	生体膜と物質輸送	(学修内容) 生体膜の構造と性質、物質輸送における役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第1章)を読んでおくこと 授業終了後は章末問題Q4-5をノートにまとめておくこと
第11回	電子伝達系	(学修内容) エネルギー生成における電子伝達系の役割を理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第12章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第12回	酸化的リン酸化	(学修内容) 酸化的リン酸化と基質レベルのリン酸化について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第13章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第13回	核酸	(学修内容) 核酸分子を形成する基本単位であるヌクレオチドの構造を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第6章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第14回	染色体とDNA	(学修内容) 生物の設計図である染色体について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第14章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと
第15回	遺伝子の転写と調節	(学修内容) 遺伝子の発現とタンパク質の合成について理解する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前にテキスト(第15章)を読んでおくこと。 授業終了後は章末問題をノートにまとめておくこと

授 業 名	子ども家庭支援の心理学			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	00205
英 文 名	Psychology of Child and Family Support			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渋谷 郁子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	本講義は子どもや家庭という概念を改めて問い直すところから出発する。講義の主要な柱は、生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得することと、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係などについて発達の観点から理解することの2点である。これらを通して、子どもと家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに子育て家庭をめぐる社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためには問題をどうとらえるべきなのか、洞察を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1.子どもとその家族の置かれた状況を理解し、発達の観点から説明することができる。 2.家庭の機能を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。 3.子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	本郷一夫・安藤智子(編)「子育て支援の心理学」(2018)建帛社								
参 考 書	授業の中で適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題にはコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	事前事後学修を行うこと(60分)。全部で4回、理解度を問う小テストを実施する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時にお知らせします。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務した経験を有する。								

授 業 名	子ども家庭支援の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと家庭	(学修内容) 子どもと家庭をめぐる諸問題について学び、子どもの権利を尊重する態度を形成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 本講義に期待すること・自分の問題意識を整理し、自分の子ども観・家族観について考えてみる。
第2回	生涯発達(1) 乳幼児期から学童期にかけての発達	(学修内容) 生涯発達の考え方・発達の連続性について理解し、特に就学後の学童期までの子どもの発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 家族などに聞き取りを行い、自分自身の幼少期を振り返る。
第3回	生涯発達(2) 思春期・青年期の発達	(学修内容) 思春期の心と体の変化、思春期・青年期の親子関係や友人関係、思春期・青年期の心理的葛藤や悩みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身の思春期・青年期についてどのような変化や葛藤が生じたか振り返り、その意味について考える。
第4回	生涯発達(3) 成人期・老年期における発達	(学修内容) 成人初期、中年期、老年期までの発達と心理的葛藤について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な中年期・老年期世代(親や祖父母など)と自分自身や他世代との関係性について理論をふまえて考える。
第5回	家族・家庭の意義と機能: 親子関係・家族関係の理解	(学修内容) 現代における家族・家庭の意義や機能について、文化や歴史的文脈もふまえて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自身の家族観・家庭観について分析する。
第6回	子育てを取り巻く社会的状況	(学修内容) 現在の日本における社会的状況が、子育て家庭にどのような影響を及ぼしているかについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 現代の子育てを取り巻く社会的状況に関する統計データを調べ、どのような現状があるのかについて分析する。
第7回	ライフコース: 恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭	(学修内容) 青年期以降の恋愛、結婚、子育て、仕事と家庭のワークライフバランスの問題などについて学び、多様な状況と価値観があることを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分自身のライフコースについて具体的に考える。
第8回	子育ての経験と親としての育ち	(学修内容) 妊娠期から出産、子育て期の経験を通じた親としての成長・発達を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子育て経験者に体験談を聞き(あるいは事例を読み)、理論をもとに考察する。
第9回	多様な家庭の形とその理解	(学修内容) 多様な家庭のあり方について理解し、必要となる配慮や支援について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 多様な家庭のあり方について事例を読んだりWEBで調べるなどして理解を深める。
第10回	子どもの生活・生育環境と心の健康	(学修内容) 生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの精神疾患について調べ、症状や支援について理解する。
第11回	災害後の心理的問題とその支援	(学修内容) 災害の後に生じる子どもたちの変化やストレス障害について学び、保育者としての支援のあり方を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 東日本大震災など近年生じた災害の後に、子ども達にどのような変化や問題が生じたか、どのような支援が行われたかについて調べる。
第12回	発達の課題とその理解(1) 自閉スペクトラム症	(学修内容) 子どもの様々な発達の課題とその支援方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発達の課題を抱える子どもの事例について読み、支援のポイントについて考える。
第13回	発達の課題とその理解(2) 注意欠如多動症、学習症	(学修内容) 子どもの様々な発達の課題とその支援方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発達の課題を抱える子どもの事例について読み、支援のポイントについて考える。
第14回	誰もがケアできる世の中に	(学修内容) これまでに学んできた基礎知識をもとに、ケアし、ケアされる関係について改めて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントを理解する。
第15回	特別な配慮を要する家庭への支援	(学修内容) 多様な課題を抱える現代の家庭に対し、他職種と連携しながら支援する方法を考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学んだ知識を整理し、最終レポートにむけて復習をしておく。

授業名	カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Color Coordinates			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	山部 泰司			対象学生	現代家政1回生、食物栄養1回生				
授業の概要	<p>色彩理論を学び、色彩についての基礎知識と基礎能力の修得を目指すとともに、生活の衣食住の場面において色彩が持ち得る役割について理解し、それを実際の場面計画できるを能力を深める。</p> <p>また、授業ではワークシートに実際に配色することで、色彩に対する実践的力を学び、できた作品を相互に鑑賞することで色彩理論を感覚で確認する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 衣食住における色彩についてその意味と効果を理解できる。</p> <p>2) 科学的、心理的、文化的アプローチや様々な色彩理論によって色彩計画を読解できる。</p> <p>3) 配色や色彩計画の演習を行って、さまざまな場面で色彩を計画できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	「カラーコーディネーターのための配色入門」 川崎英昭著 財団法人日本色彩研究所監修								
参考書	配色カード199cを使用（授業時に配布）								
課題に対するフィードバックの方法	各課題のワークシートを確認、適時指導する。								
留意事項	実際に色カードによる配色演習を行なう 色彩検定などのアドバイスは必要に応じて適時行う。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施、その他、可能時間を授業時に伝える。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の實務経験など： 実践的教育教員の實務経験などについて、 美術家としての絵画作品の創作活動、色彩研究、美術館等での指導や表現ワークショップの指導</p>								

授 業 名		カラーコーディネート論（現代家政-HE1409）、生活色彩（食物-FN1305）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	色彩表現の世界	（学修内容）導入 色彩を学ぶこと、楽しむこと。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 色彩について考える。
第2回	色彩体系を学習（1） ～色相の構成要素と特徴～	（学修内容）色相の構成要素と特徴を理解する。 PCCSの色相環を配色カードを使って理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.4～13を読んでキーワードをマーキングする。
第3回	色彩体系を学習（2） ～明度・彩度の特徴～	（学修内容）明度・彩度の設定方法と特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） ワークシートを振り返り完成させる。
第4回	色彩体系を学習（3） ～トーン概念～	（学修内容）日本色研配色体系（PCCS）や、トーン概念についてワークシートを作成し理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.14～15を読んでおく。
第5回	色彩調和の基礎（1） ～色彩調和論～	（学修内容）自然色の秩序、色彩調和論の要約を理解する。 色相を基準にした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.16～19を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第6回	色彩調和の基礎（2） ～明度を基準とした配色～	（学修内容）明度を基準とした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.20～21を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第7回	色彩調和の基礎（3） ～彩度を基準とした配色～	（学修内容）彩度を基準とした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.22～23を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第8回	色彩調和の基礎（4） ～トーンを基準にした配色～	（学修内容）トーンを基準にした配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.24～25を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第9回	配色技法（1） ～いろいろな効果による配色～	（学修内容）ベースカラーとアソートカラー、アクセント効果による配色、セパレーション効果、ドミナントカラーによる配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.26～32を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第10回	配色技法（2） ～グラデーション効果による配色～	（学修内容）グラデーション効果による配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.33～35を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第11回	配色技法（3） ～トーンの配色～	（学修内容）トーンオントーン配色、トーンイントーン配色、トータル配色を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.36～40を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第12回	色彩心理	（学修内容）色の見えの効果を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.41～646を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第13回	色のイメージと配色（カラープランニング）（1） ～日常空間の配色とイメージと配色の関係～	（学修内容）配色技法の応用：日常空間の配色を考えるイメージと配色の関係を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.47～59を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第14回	色のイメージと配色（カラープランニング）（2） ～個人空間、住空間、都市空間の配色～	（学修内容）個人空間、住空間、都市空間の配色を考え、意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストp.60～77を読んでおく。 ワークシートを振り返り、完成させる。
第15回	まとめ	（学修内容）色彩についてのまとめ。 ワークシートを完成させる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでのワーキングシートを振り返り、完成させて提出する。

授業名	子どもの生活 u			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名	Children and Life			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	上田 有里奈・山川 宏和			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>小学校及び幼稚園の生徒が、身近な人々や地域とのかかわりに関心を持つための生活について学ぶ。集団や社会への愛着、その中で果たす自らの役割について考え、適切に行動するためには何が必要かについても学ぶ。そのために、家族や学校、自然、動植物、公共が子どもの生活にどのようにかかわりを持つかについて総合的に学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 子どもが、自らをはじめ、身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもつような具体的な活動や体験とは何かが説明できる。  2) 生活が、子どもの成長・発達にどのような影響を及ぼすかを知り、身につけるべき生活上必要な習慣や技能とは何かが説明できる。  3) 近年の教育環境や教育目標の変化が、生活科に及ぼした影響について説明できる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』文部科学省(東洋館出版社)								
参考書	適宜配布する								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは、授業内で紹介しコメントする。								
留意事項	幼稚園・小学校教諭に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持つ人に履修してほしい。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、担当者によってはメールによる対応が主になるため、対面を希望する場合は事前に予約してください。								
実践的教育									

授 業 名	子どもの生活 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもと生活（オリエンテーション）	（学修内容）子どもと生活の目標、授業方法について （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを読んでおく
第2回	生活科の解説	（学修内容）生活科創設の経緯・変遷について説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第3回	教育指導要領の解説	（学修内容）生活科に関する指導要領の内容を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第4回	教科目標と学年目標	（学修内容）生活科における教科目標と学年目標を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 指導要領解説を読んでおく
第5回	学年目標と指導計画	（学修内容）生活科における学年目標に基づく指導計画を説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 他の教科の学年目標を参照しておく
第6回	授業計画の目的と意義について	（学修内容）生活科の9領域を説明し、グループに分かれる （事前事後学修課題の内容）（30分） 生活科の9つの領域を調べておく
第7回	グループセッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） グループ内で出された意見をまとめておく
第8回	グループセッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行う （事前事後学修課題の内容）（30分） グループ内で出された意見をまとめておく
第9回	グループセッション	（学修内容）グループを移動しながら意見交換を行い、グループを決定する （事前事後学修課題の内容）（30分） グループ内での方向性を基に、どのグループにするか検討する
第10回	季節の変化と生活 秋を体験する	（学修内容）学外の自然に触れ、季節の変化について体験する （事前事後学修課題の内容）（30分） 体験するための準備をしておく
第11回	単元の授業計画を作成する	（学修内容）授業計画のポスターを作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 計画作りに必要な材料や資料を用意しておく
第12回	教育現場における変化と生活科	（学修内容）今後の生活科の展望や教育現場の変化を説明する （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導要領解説を読んでおく
第13回	ポスターセッション	（学修内容）ポスターセッションを行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表内容をまとめておく
第14回	季節の変化と生活 秋を伝える	（学修内容）学外で体験した季節の変化について振り返る （事前事後学修課題の内容）（30分） 観察体験をまとめておく。学外での体験を授業計画に反映させる方法を考えておく
第15回	まとめ	（学修内容）半期の学びを総括し、レポートについて説明する （事前事後学修課題の内容）（30分） 半期間のまとめをしておく

授 業 名	現代家政学演習 ta・b			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	GE2207
英 文 名	Contemporary Home Economics Seminar			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	豊原 容子・平 正人			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	現代家政学演習 では、1回生で学んできた管理栄養士科目に関連させ、現代日本における健康問題や管理栄養士の職場での役割などについてプレゼンテーションやディスカッション、グループワークなどを行いながら総合的に考える力を醸成する。 さらに現代家政学部で学ぶ学生として、生活者の立場で視野を広げ、社会の食にかかわるものとして寄与していく力を培っていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 適切なプレゼンテーション方法を選択することができ、分かりやすく説明することができる。 2) 要点を把握して聞き取ることができる。 3) プレゼンテーション・コミュニケーションの力を高め、人とのかかわりの場面で活かすことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )							
テ キ ス ト	・西川真理子著『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』最新版(化学同人) ・導入教育(信頼される専門職となるために)最新版 特定非営利活動法人 栄養改善学会監修 伊達ちぐさ、他編(医歯薬出版) ・管理栄養士国試試験 合格のためのワークノート150日 第8版(女子栄養大学出版部)								
参 考 書	・新版 大学生のためのレポート・論文術:小笠原 喜康著(講談社) ・その他、適宜参考書などを紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	・返却時に解説などを行い、問題点について討議する。								
留 意 事 項	・積極的に発言・発表するよう心がけてほしい。								
オフィスアワー	・研究室に日時を添付するので確認すること。								
実践的教育									

授業名	現代家政学演習 ta・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)現代家政学演習 の進め方と授業予定を確認  (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んで,内容を確認し授業に臨むこと
第2回	プレゼンの方法について	(学修内容)パワーポイント、レジメなどのプレゼンの方法について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 1回生で行ったプレゼンテーションの方法を振り返っておくこと
第3回	個人別プレゼンテーション1-1 1回生の学びの振り返り プレゼン準備	(学修内容)個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用)  (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンテーションの準備(プレゼンテーションについて再確認しておく)
第4回	個人別プレゼンテーション1-2 1回生の学びの振り返り 発表	(学修内容)個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用)  (事前事後学修課題の内容)(60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第5回	個人別プレゼンテーション1-3 1回生の学びの振り返り 発表	(学修内容)個人別プレゼンテーション(パワーポイント使用)  (事前事後学修課題の内容)(60分) わかりやすい発表について考えておく 聞いた内容の要点をまとめて書く
第6回	現代社会の食に関する話題を抽出し、これをまとめて発表する(個人別に情報収集)	(学修内容)テーマに沿って文献・資料検索を行い、これらを分かりやすくまとめて発表する力を養う。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 調べたい事柄をどうすれば効率よく情報収集することができるか、分かりやすく発表するための工夫も考えておくこと
第7回	現代社会の食に関する話題を抽出し、これをまとめて発表する(個人別に取りまとめと発表の準備)	(学修内容)テーマに沿って文献・資料検索を行い、これらを分かりやすくまとめて発表する力を養う  (事前事後学修課題の内容)(60分) プレゼンの方法について、分かりやすく発表し、理解が深まる工夫点も整理し準備を進めること
第8回	現代社会の食に関する話題についてプレゼンテーション1-1	(学修内容)プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取(グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料に作り直して、提出する
第9回	現代社会の食に関する話題についてプレゼンテーション1-2	(学修内容)プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取(グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料に作り直して、提出する
第10回	現代社会の食に関する話題についてプレゼンテーション1-3	(学修内容)プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取(グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料に作り直して、提出する
第11回	現代社会の食に関する話題についてプレゼンテーション1-4	(学修内容)プレゼンテーションを行い、聞いた人の意見聴取(グループワーク・ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 聞く人にわかりやすくするための工夫についてまとめておく 聞いた人の意見を反映させたプレゼン資料に作り直して、提出する
第12回	臓器別に疾病の病態と食事療法についてまとめて発表する(発表の準備)	(学修内容)臓器別の疾病について整理し、食事療法を主体とした治療方法についてまとめる(担当臓器別を配分)  (事前事後学修課題の内容)(60分) 解剖学、病態栄養学より疾病ごとの病態を整理し、食事療法(治療方法)について整理しておくこと
第13回	臓器別に疾病の病態と食事療法のプレゼンテーション1-1	(学修内容)各グループで取り組んだ臓器別について口頭発表  (事前事後学修課題の内容)(60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明(指導)するためにどのようにしたらよいか考えておく、食事療法の献立表もまとめて提出
第14回	臓器別に疾病の病態と食事療法のプレゼンテーション1-2	(学修内容)各グループで取り組んだ臓器別について口頭発表  (事前事後学修課題の内容)(60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明(指導)するためにどのようにしたらよいか考えておく、食事療法の献立表もまとめて提出
第15回	臓器別に疾病の病態と食事療法のプレゼンテーション1-3、全体のまとめ	(学修内容)各グループで取り組んだ臓器別について口頭発表  (事前事後学修課題の内容)(60分) 言葉でわかりやすく決められた時間内で説明(指導)するためにどのようにしたらよいか考えておく、食事療法の献立表もまとめて提出

授 業 名	保健医療サービス			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>保健医療サービスの变化と社会福祉専門職の役割について理解する。時代によって求められる保健医療サービスは変化しているため、高齢化による社会構造の変化や歴史を理解することから始まります。</p> <p>保健医療サービスは社会福祉士国家試験の必修科目となっていることから、社会福祉士がなぜ保健医療サービスについて学ぶのかについて理解するために、医療ソーシャルワークの技術や、価値、多職種との連携等について学びます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度、特に医療保険制度について説明できる。</li> <li>2. 医療ソーシャルワーカーの業務内容・方法等の概要を説明できる。</li> <li>3. 保健医療サービスの関連従事者を理解し、連携する際の留意点について説明できる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	最新社会福祉養成講座 『保健医療と福祉』 中央法規出版、2021年								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	授業後、振り返りシートへ記載されたものについてコメントをいれて返却を行う。								
留 意 事 項	ひとつひとつ確実に知識をつけるために、わからないところは質問をしてください。テキストは必ず持ってきてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に発表します。								
実践的教育									

授 業 名		保健医療サービス	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	授業の進め方 社会福祉士が保健医療サービスを学ぶ意味	(学修内容) シラバスをもとに授業の進め方を理解する。 ライフサイクルにおける保険医療サービスについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢化になった原因について調べてくる。	
第2回	保健医療サービスの歴史の変遷についての理解1 家族の変容と病者や家族の理解	(学修内容) 少子高齢化による人口構造の変化と家族形態の変容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 日本における「疫学転換」：人為的な疾病の変化について調べてくる。 A4用紙1枚まで。	
第3回	保健医療サービスの歴史の変遷についての理解2 保健医療の動向	(学修内容) 医療施設から在宅医療への変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト p 90～95を読んで、大切なところにラインを引いてください。	
第4回	保健医療の政策制度 保健医療の動向と医療法の改正	(学修内容) 医療法の改正ポイントをおさえ、医療政策を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 医療保険証のコピーを持ってくる。5つの社会保障を言えるようにしておく。	
第5回	医療保険制度の理解1 社会保険制度の理解	(学修内容) 社会保障制度のひとつである医療保険制度のしくみについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身の加入している医療保険について調べてくる。A4用紙1枚まで。	
第6回	医療保険制度の理解2 医療費の保障	(学修内容) 医療保険制度の特徴と種類、医療保険の給付について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 優生保護法と母体保護法について調べてくる。	
第7回	医療倫理と倫理的課題	(学修内容) 優生保護法を事例に患者の意思決定をめぐる課題についてディスカッションを行い考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を受けて感想を書く。A4用紙1枚まで。	
第8回	保健医療サービスの提供体制1 医療法の概要	(学修内容) 病院の定義や役割、病院の類型について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が選択した部分について調べてまとめる。	
第9回	保健医療サービスの提供体制2 医療機能と種類の理解	(学修内容) 病院の類型について調べてきたことを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が選択した部分について人に説明できるようにしておく	
第10回	保健医療サービスの提供体制3 医療機能と種類の理解2	(学修内容) 病院の類型について調べてきたことを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保健所の役割について調べてくる。	
第11回	保健医療領域における専門職の役割と連携1 保健所と保健センターの役割理解	(学修内容) ゲストスピーカーから保健所を保健センターの役割、保健師の役割について話を聞く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト p 162～170を読んで、大切なところにラインを引いてください。	
第12回	保健医療領域における専門職の役割と連携2 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	(学修内容) 社会福祉士医療ソーシャルワーカーの業務指針を概観しながら、グループワークを取り入れながら業務を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト p 150～159を読んで、大切なところにラインを引いてください。	
第13回	保健医療領域における専門職の役割と連携3 医療ソーシャルワーカーが行う医療関係者との連携と 実際	(学修内容) ゲストスピーカーから退院援助、社会復帰援助の実際について話を聞く。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を受けて感想を書く。A4用紙1枚まで。	
第14回	保健医療領域における専門職の役割と連携4 他職種の種類役割と連携の理解	(学修内容) チーム医療で連携する主な医療等の専門職について学ぶ。また、グループワークを通して「連携」について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト p 128～136を読んで、大切なところにラインを引いてください。	
第15回	まとめ 意思決定をめぐる今日的課題	(学修内容) 意思決定支援やアドバンスケアプランニングについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 意思決定をめぐる今日的課題についてまとめる。	

授 業 名	社会福祉サービス運営			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	箱田 成司			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	社会福祉事業の立ち上げ準備から事務職と言われている経理や労務管理について理解する。 また、福祉サービスに必要な組織や人材について理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	社会福祉事業の経営と運営の知識も身につけ、社会課題が多い現代でもニーズに合わせた福祉運営ができる人材育成を目指す。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学习支援）	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	福祉サービスの組織と経営（中央法規）								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	講義の時にその都度、対応する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		社会福祉サービス運営	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	福祉サービスの運営と経営について	(学修内容) 日本の福祉事業所の数の把握やこれからの福祉について理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習の施設についての特徴をまとめておく。	
第2回	法人格について	(学修内容) 福祉事業の立ち上げるために必要な法人格の種類と性質について理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 日本の法人の種類について調べておく。	
第3回	NPO法人の設立について	(学修内容) NPO法人の設立の方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) NPO法人について調べておく。	
第4回	事業所の認可について	(学修内容) 福祉事業の認可の方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 行政書士について調べておく。	
第5回	労務管理について	(学修内容) 給与規定、給与計算、社会保障、福利厚生について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 社会保険労務士について調べておく	
第6回	財務管理と会計管理について	(学修内容) 複式簿記、給料計算、融資、住民税、所得税、法人税、請求業務について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 税理士と会計士について調べておく。	
第7回	理念経営について	(学修内容) 理念経営について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 社会福祉法人の理念について調べてくる。	
第8回	広報と営業について	(学修内容) ホームページの作成、SNS戦略について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 福祉事業所の良いと思うホームページを探してくる。	
第9回	組織について1	(学修内容) 組織運営について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ティール組織について調べておく。	
第10回	組織について2	(学修内容) 人事考課、処遇改善について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 処遇改善について調べておく。	
第11回	組織について3	(学修内容) リーダーシップ、人材育成について理解する。 人材の多様性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ダイバーシティインクルージョンという言葉の意味を調べておく。	
第12回	社会と福祉について	(学修内容) 福祉業界と企業の違いについて理解する。 組織間連携について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) CSR、CSV、SDGsについて調べておく。	
第13回	労働者の幸せと社会の幸せについて	(学修内容) 人の幸福と自己の幸福について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 趣味(好きなこと)について資料の作成を行う。	
第14回	プレゼンテーション 1	(学修内容) 講義を通して理想とする理念の作成と想い描く施設のプレゼン発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼン資料をGoogleスライドもしくはパワーポイントで作成する。	
第15回	プレゼンテーション 2	(学修内容) 講義を通して理想とする理念の作成と想い描く施設のプレゼン発表 これからの社会福祉について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼン資料をGoogleスライドもしくはパワーポイントで作成する。	

授 業 名	調理学実験			開 講 学 年	2回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	
英 文 名				開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	塩田 二三子			対 象 学 生	食物栄養2回生				
授業の概要	調理学実験では、調理操作によっておこる化学的、物理的变化を観察し、その諸現象について科学的に解明することで、調理学の理論を理解する。また、これによって、食品の栄養特性、物性、食品材料の調理特性や調理操作の火gカウの必要性を理解し、科学的かつ合理的な調理を行える能力を身に着ける。加えて、嚥下、咀嚼困難者用の食事などの理解を目的に、官能評価の方法や機器による物性測定などについても学ぶ。基本的にグループ単位で実験を行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実験を通して、調理操作による物質の変化を科学的に解明できる。 2) 調理操作の科学的必要性をw理解し、科学的かつ合理的な調理を行うことができる。 3) 官能評価や機器による物性測定を行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	プリント配布。 1回生時の調理学のテキスト「Visual栄養学テキスト 食べ物と健康 調理学」(中山書店)を復習のため用いる。								
参 考 書	特に使用しないが、授業中に適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出のレポートは添削後返却する。								
留 意 事 項	事前に配布するプリントに目を通し、実験方法等をしっかり予習しておくこと。グループ単位で実験を行い、実験後はレポートを作成し、期日に提出すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回にアナウンスします。								
実践的教育									

授 業 名	調理学実験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 実験を行う上での注意と基本操作、次回の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 調理用の白衣、帽子等の準備をしておく 事後: 次回の操作をノートにまとめておく
第2回	植物性食品の調理特性1(野菜): 実験	(学修内容) 生野菜の放水と吸水  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第3回	植物性食品の調理特性1(野菜): 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第4回	植物性食品の調理特性2(小麦粉): 実験	(学修内容) 小麦粉の種類とグルテン  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第5回	植物性食品の調理特性2(小麦粉): 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第6回	動物性食品の調理特性(鶏卵): 実験	(学修内容) 卵白の起泡性と安定性  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第7回	動物性食品の調理特性(鶏卵): 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第8回	抽出素材の調理特性1(砂糖): 実験	(学修内容) 砂糖の加熱による変化  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第9回	抽出素材の調理特性1(砂糖): 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第10回	抽出素材の調理特性2(ゲル化剤): 実験	(学修内容) 寒天、ゼラチン、カラギーナンの特徴  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第11回	抽出素材の調理特性2(ゲル化剤): 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第12回	だしに関する実験・食品の官能評価: 実験	(学修内容) さまざまなだし汁のうま味の特徴、官能評価の手法  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第13回	だしに関する実験・食品の官能評価: 解説	(学修内容) 前回の実験についての解説と次回の実験の操作説明  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成
第14回	塩分の摂取量: 実験	(学修内容) 様々な食品の塩分濃度を塩分摂取量の確認  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験操作の流れを確認しておく 事後: 実験結果を整理しておく
第15回	塩分の摂取量: 解説 総括	(学修内容) 前回の実験についての解説とこれまでの総括  (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 実験結果をまとめておく 事後: レポートの作成

授 業 名	食品学実験			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Experiment of food science			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	小西 康仁			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	食品学実験 を踏まえ、主要な食品成分の特性を捉えるとともに、食品成分間の化学反応による変化や脂質の酸化など食品に起こる現象について学ぶ。さらに、食品の加工や調理工程が、栄養や安全、嗜好に関する様々な特性を高めることを理解して、加工原理やその加工方法を修得する。また、共同実験者とのコミュニケーションを図りながら、協力して実験を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 食品の成分やその変化について、専門用語を用いて説明することができる。 2) 食品の加工特性について理解し、加工方法を説明することができる。 3) 実験で得られた数値を正確に計算し、正しい単位で表現することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (観察力)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	村上俊男 編著 「改訂 基礎からの食品・栄養学実験」 建帛社 *実験で使用したテキストを継続して使用します。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却いたします。								
留 意 事 項	食品学で学んだことを実験で確認するため、食品学の復習もしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		食品学実験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	実験器具の取り扱いや注意点に関するオリエンテーション	(学修内容) 食品成分の分析や加工実験に必要な器具の取り扱いに関するオリエンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載の器具の取り扱い等に関する予習 実験レポートの作成	
第2回	食品加工実験 微生物を用いた加工食品(味噌の原材料の特性)	(学修内容) 微生物を用いた加工食品として味噌の原材料を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) 味噌作り必要な微生物や原材料の大豆に関する予習 実験レポートの作成	
第3回	食品加工実験 微生物を用いた加工食品(味噌の加工原理と方法)	(学修内容) 微生物を用いた加工食品として味噌作りを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 味噌の種類とその特徴に関する予習 実験レポートの作成	
第4回	食品加工実験 水産物を用いた加工食品(水産練り製品の原材料の特性)	(学修内容) 水産物を用いた加工食品として水産練り製品の原材料を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) 水産練り製品の原材料となる魚類の成分に関する予習 実験レポートの作成	
第5回	食品加工実験 水産物を用いた加工食品(水産練り製品の加工原理と方法)	(学修内容) 水産物を用いた加工食品として水産練り製品を作る (事前事後学修課題の内容) (90分) 水産練り製品の種類とその特徴に関する予習 実験レポートの作成	
第6回	非酵素的褐変反応 アミノカルボニル反応の原理	(学修内容) 非酵素的褐変反応として、アミノカルボニル反応の条件を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載のアミノカルボニル反応に関する予習 実験レポートの作成	
第7回	非酵素的褐変反応 アミノカルボニル反応を利用した主な食品	(学修内容) 非酵素的褐変反応として、アミノカルボニル反応を利用した食品を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) アミノカルボニル反応に関与する糖質とアミノ酸の構造に関する予習 実験レポートの作成	
第8回	酵素的褐変反応 ポリフェノールオキシダーゼ反応の原理	(学修内容) 酵素的褐変反応として、ポリフェノールオキシダーゼの反応条件を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載のポリフェノールオキシダーゼの反応に関する予習 実験レポートの作成	
第9回	酵素的褐変反応 ポリフェノールオキシダーゼ反応を利用した主な食品	(学修内容) 酵素的褐変反応として、ポリフェノールオキシダーゼを利用した食品を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) 酵素的褐変反応を利用したお茶の種類に関する予習 実験レポートの作成	
第10回	デンプンの分離・確認 ジャガイモデンプンの分離	(学修内容) ジャガイモに含まれるデンプンの分離を行う (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載のデンプンの分離・確認に関する予習 実験レポートの作成	
第11回	デンプンの分離・確認 ジャガイモデンプンの顕微鏡観察	(学修内容) ジャガイモから分離されたデンプンの構造を顕微鏡にて観察を行う (事前事後学修課題の内容) (90分) デンプンを多く含む穀類やいも類などに関する予習 実験レポートの作成	
第12回	油脂の変敗 酸価の測定	(学修内容) 油脂の変敗を評価するため、食用油の酸価を測定する (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載の油脂の酸価に関する予習 実験レポートの作成	
第13回	油脂の変敗 過酸化物価の測定	(学修内容) 油脂の変敗を評価するため、食用油の過酸化物価を測定する (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載の油脂の過酸化物価に関する予習 実験レポートの作成	
第14回	官能評価法	(学修内容) 味噌を用いた官能評価の手法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (90分) テキストに記載の官能評価に関する予習 実験レポートの作成	
第15回	食品成分の分析や加工実験に関するまとめ	(学修内容) 食品成分の分析や加工実験に関するまとめを行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 今まで提出した実験レポートを見て到達目標の振り返りを行う 実験レポートの作成	

授 業 名	臨床栄養学実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	FN2411
英 文 名	Practical training for Clinical Nutrition			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	平 正 人			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>・臨床栄養学実習 では、臨床栄養業務に必要な栄養ケアマネジメント手法を修得するため、各種疾患に対する症例検討を行う。</p> <p>・症例のアセスメントパラメーターから栄養状態の評価、栄養補給方法の検討、栄養教育など、専門的な知識及び技術を備えるための実習を行う。</p> <p>・この授業は、グループ単位で行うことからチームワーク力を発揮して、患者さん向けの栄養指導媒体を作成し、その内容をプレゼンテーションする。対象者が多い疾患については、献立作成と調理実習を行う。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 疾患ごとの症例に対して、栄養アセスメントを実施し問題点を見つけ出し、解決するためのケアプランが作成できる。</p> <p>2) グループ単位でスライドや栄養指導媒体を作成し、これをプレゼンテーションできる。</p> <p>3) 疾患ごとの食事療法について理解し、献立作成から食材準備、調理、提供まで実行できる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート	I C T 活用 ( 双方向型授業 )	グループワーク	I C T 活用 ( 自主学習支援 )	プレゼンテーション			
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( グループワークでの相互協力と連携 )	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	<p>・臨床栄養学実習書 第12版：玉川和子 富安広幸他 第12版第10刷発行 2022年01月10日 ( 医歯薬出版 )</p> <p>・糖尿病食事療法のための食品交換表「第7版」日本糖尿病協会 編・著 ( 文光堂 )</p> <p>・腎臓病食品交換表「第9版」治療食の基準 監修：黒川清、中山俊之、他編 ( 医歯薬出版 )</p>								
参 考 書	<p>・臨地実習・郊外実習ハンドブック より深い学びのために 編集：藤原政嘉、田中俊治、赤尾正 ( 株式会社 みらい )</p> <p>・適宜、参考文献などを紹介する。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>・グループワーク発表では「質疑への解答とわかりやすさ」を評価シートで判定する。課題提出により理解度の確認を行う。</p>								
留 意 事 項	<p>・臨床栄養学 を復習しておくこと。</p> <p>・毎回の疾患について事前予習および課題の提出を欠かさず行うこと。</p> <p>・グループワークを主体とする授業であるため、欠席、遅刻、早退はしないこと。( 出席重視 )</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>・研究室に日時を添付するので確認すること。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：私立病院、官公立病院で栄養士・管理栄養士業務や栄養部門責任者として勤務。 クリニックにおける栄養食事指導に従事。 地域栄養士会、保健所を通じて、地域病院と委託業者間の災害対応協定に関わる活動など。</p>								

授業名	臨床栄養学実習 a・b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 臨床の実際と診療記録および栄養管理業務について	(学修内容) 授業概要の説明、臨床における患者心理、プライバシー保護、診療記録の見方と理解および栄養管理に必要な帳票と作成方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストのp2~24までを予習し、まとめておくこと。 栄養ケア記録(POS)を復習して臨むこと。
第2回	栄養ケアマネジメント手法による疾病の症例検討 症例検討:(例題)メタボリック・シンドロームについて( )	(学修内容) メタボリックシンドローム症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント・診断・ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) SOAPについて復習しておくこと。メタボリック・シンドロームと肥満症の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第3回	症例検討: 肥満症について	(学修内容) 肥満症の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント・診断・ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回発表のSOAPにつき修正を行い提出する。脂質異常症の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習し臨むこと。
第4回	症例検討: 脂質異常症について	(学修内容) 脂質異常症の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント・診断、ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回発表のSOAPにつき修正を行い提出する。うつ血性心不全の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習し臨むこと。
第5回	症例検討: うつ血性心不全について	(学修内容) うつ血性心不全の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント、診断、ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回発表のSOAPにつき修正を行い提出する。糖尿病の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアについて予習し臨むこと。
第6回	症例検討: 糖尿病について	(学修内容) 糖尿病の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント、診断、ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回発表のSOAPにつき修正を行い提出する。糖尿病の食事療法と献立作成のために食品交換表を予習して臨むこと。
第7回	糖尿病の食事療法について(実践)	(学修内容) 前回の糖尿病症例に望ましい栄養量を算出し、糖尿病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回発表のSOAPにつき修正を行い提出する。糖尿病食品交換表を使いこなせるように予習して授業に臨むこと。
第8回	症例検討: 腎臓病(CKD)について	(学修内容) 腎臓病(CKD)の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント、診断、ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回作成の糖尿病食の献立表を提出する。腎臓病(CKD)の病態と栄養管理を予習して臨むこと。
第9回	腎臓病(CKD)の食事療法について(実践)	(学修内容) 前回の腎臓病(CKD)症例に望ましい栄養量を算出し、腎臓病食品交換表を用いて1日分の献立表を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の腎臓病(CKD)のSOAPをまとめて提出する。腎臓病食品交換表を使いこなせるように予習して授業に臨むこと。
第10回	糖尿病の食事療法について(実践) 準備	(学修内容) 糖尿病食の献立表より試作し、修正点などを調整の上、使用する食材料を集計し、発注量を割り出して調理実習に向けた準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 試作の結果から、分量・組合せ、調理手順・食器等を確認の上、食材料を集計できるよう準備をして臨むこと。
第11回	腎臓病(CKD)の食事療法について(実践) 準備	(学修内容) 腎臓病食の献立表より試作し、修正点などを調整の上、使用する食材料を集計し、発注量を割り出して調理実習に向けた準備を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 試作の結果から分量・組合せ、調理手順・食器等を確認の上、食材料を集計できるよう準備をして臨むこと。
第12回	糖尿病食と腎臓病(CKD)食の調理実習	(学修内容) 糖尿病食、腎臓病(CKD)食の調理実習を行い、これを評価し他の学生と共有する。また、献立・調理の改善点も提案する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。
第13回	症例検討: 摂食・嚥下障害について	(学修内容) 摂食・嚥下障害の症例をSOAPにまとめ発表し、他受講生と評価を共有し、栄養アセスメント、診断、ケア計画と栄養ケアを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の糖尿病、腎臓病の修正済献立表を提出する。摂食・嚥下障害の病態と栄養診断、栄養ケア計画と実践、栄養ケアにつき予習し臨むこと。
第14回	摂食・嚥下障害の食事療法について(実践) 準備	(学修内容) 摂食・嚥下障害の症例をSOAPにまとめてPowerPointで発表し、症例からの栄養量に基づき、献立、食材料の集計、発注準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の糖尿病食、腎臓病食のまとめを提出する。摂食・嚥下障害の状態や特徴、使用食品や調理上の留意点を十分予習して臨むこと。
第15回	摂食・嚥下障害食の調理実習 まとめ、定期試験に向けて	(学修内容) 摂食・嚥下障害食の調理実習を行い、これを評価する。改善点は他の受講生と共有し、その対応案も考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前の準備・確認を必ず行う。調理手順や自分の役割をよく理解し、他の受講生と協力して臨むこと。

授 業 名	栄養教育論実習 a・b			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	FN2409
英 文 名	Practice in Nutrition Education			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	林 育代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>栄養教育論実習 では、集団を対象とした模擬栄養教育を計画・実施する。          指導案の立案や様々な教材・媒体を工夫し用いることで、様々な場・対象集団における栄養問題のアセスメントからカリキュラムの作成・栄養教育の実施・評価のPDCAサイクルを実践できる力を養う。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 集団を対象にした栄養教育を計画し、評価できる。          2) 対象に適した教材・媒体を作成し、栄養教育を実施できる。          3) 栄養教育のプレゼンテーション技術を修得する。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	栄養教育・指導実習ワークブック 第3版 山下静江・岩間範子 編 出版社：みらい								
参 考 書	杉山みち子・赤松利恵・桑野稔子編著『カレント 栄養教育論』第2版 建帛社								
課題に対する フィードバック の方法	各グループの模擬栄養教育実施後に講評を行う。								
留 意 事 項	グループごとの実習にそれぞれが積極的に関わって進めていくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を添付するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		栄養教育論実習 a・b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 対象集団の栄養アセスメント、 栄養課題の抽出、優先課題の選定	(学修内容) 実習の概要と進め方の確認をする。対象集団の栄養・健康状態の特徴を把握し、栄養課題を抽出した後、優先課題の選定を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく。 食事・栄養アセスメントの方法を復習しておく。	
第2回	健常者を対象とした集団教育：教育目標・評価項目の設定、栄養教育カリキュラムの作成	(学修内容) 栄養教育を行う対象を選定し、結果目標、行動目標、環境目標、学習目標を設定する。教育対象に応じた栄養教育カリキュラムを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp74～88を読んでおく。 栄養課題に対応した栄養教育の例を検索しておく。	
第3回	健常者を対象とした集団教育：栄養課題に対応した指導案の作成、使用教材の立案、調査票の作成について	(学修内容) 指導案を作成し、使用教材を検討する。評価のための調査票を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp74～89を読んでおく。 栄養課題に対応した栄養教育例を検索しておく。	
第4回	健常者を対象とした集団教育：指導案に応じた教材の作成	(学修内容) グループで教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp90～98を読んでおく。 栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。	
第5回	健常者を対象とした集団教育：栄養課題に対応した料理例等の立案と作成	(学修内容) 栄養課題に合致した掲示用料理をグループで考え、作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 料理を考え、栄養価の確認をしておく。	
第6回	健常者を対象とした集団教育：栄養課題に対応した配布物・掲示物の作成	(学修内容) グループで複数の掲示物(ポスター、リーフレット、スライド、卓上メモ、など)を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 栄養教育で用いられる教材の特徴を復習しておく。	
第7回	健常者を対象とした集団教育：栄養課題に対応した使用教材の完成、調査票の完成	(学修内容) 教材を完成させ、実施準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 作成物を管理し、指導案全体の流れを確認しておく。	
第8回	健常者を対象とした集団教育：リハーサルと修正(グループ内フィードバック・ディスカッション)	(学修内容) グループで栄養教育のリハーサルを行い、修正点をグループで話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備をする。	
第9回	健常者を対象とした集団教育：修正後の実施(リハーサル)	(学修内容) 修正点を活かし、グループで栄養教育のリハーサルを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備をする。	
第10回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育実施と評価	(学修内容) 模擬的に栄養教育を実施し、調査票を用いて評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備をする。	
第11回	健常者を対象とした集団教育：模擬栄養教育の振り返り	(学修内容) 評価の結果をまとめ、今後に向けた改善案を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実施した栄養教育の振り返りの表を完成させ提出する。	
第12回	ライフステージ別の集団教育：栄養課題に対応した指導案の作成、使用教材の立案、評価項目の設定	(学修内容) グループでライフステージ別に栄養教育を行う対象を選定し、栄養教育計画を立案する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 対象集団の状況を考え、栄養課題に対応した栄養教育例を検索しておく。	
第13回	ライフステージ別の集団教育：栄養課題に対応した使用教材の完成	(学修内容) グループで教材を作成し、実施準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 対象集団の状況に合う教材を考えておく。	
第14回	ライフステージ別の集団教育：リハーサルと修正	(学修内容) グループで栄養教育のリハーサルを行い、修正する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 模擬栄養教育の準備をする。	
第15回	ライフステージ別の集団教育：栄養教育の発表と評価 全体のまとめ	(学修内容) 模擬的に栄養教育を実施し、調査票を用いて評価を行う。 集団における栄養教育の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 評価の結果をまとめ、今後に向けた改善案を作成し、提出する。	

授 業 名	家族ソーシャルワーク論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3759
英 文 名	Theory of Family Social Work			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を学ぶ。家族を理解し、家族構成員の中に、障害をもっている子どもや介護の必要な高齢者、多くの課題を抱えている家族がいるなど、複雑化した家族問題についての現状を学びます。家族としてとらえた支援が必要となります。家族構成員のライフサイクルに応じた支援の検討やアプローチの理解が求められています。実際に家族を支援していくための機関として身近な保育所、保健センター、児童相談所、地域包括支援センターなどでの多職種・多機関との連携のあり方等を学んでいきます。また、現場経験をもとに具体的な事例を盛り込み授業を展開していきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 家族が抱える問題がどのようなものかを理解することができる。  2) ソーシャルワークの包括的な理解と実際の援助活動への方法を理解することができる。  3) 特に家族をとりまく問題解決を、ソーシャルワークを通して学びを深めることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	適宜資料を配布する。								
参 考 書	授業にて指示する								
課題に対する フィードバック の方法	レポート等の返却について、コメントなどをして返却する。								
留 意 事 項	連続性のある授業となっています。健康管理に気をつけ、授業に参加してください。また、新聞やニュースに関心をもち、取り組むようにしてください。また、こちらから新聞記事を提供することがあります。ノートもしくは、ファイルの準備をお願いします。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義終了時及び研究室に在室している時が、対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士  高齢者施設、児童福祉施設で勤務歴あり</p>								

授業名	家族ソーシャルワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 家族ソーシャルワークとは	(学修内容)オリエンテーション(授業計画や目的の説明) 家族・家庭・世帯とソーシャルワークについてグループワークをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第2回	家族支援の実際	(学修内容)家族が抱える複合的生活課題について理解し、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第3回	家族支援の実際	(学修内容)家族支援の目的、方法、留意点について他者の意見も取り入れながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第4回	事例分析	(学修内容)事例分析の意義と目的について、具体的な事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第5回	事例検討と事例研究	(学修内容)事例検討と事例研究の意義、目的、方法と留意点について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第6回	家族ソーシャルワークの展開方法	(学修内容)家族ソーシャルワークの展開方法-インテークからアフターケアについて、理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第7回	様々な支援方法	(学修内容)インフォーマルな援助とフォーマルな援助の関係性について、グループワークを通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第8回	障害児者・家族支援の意義と活動	(学修内容)障害児者・家族支援の意義と活動(ネットワーキング)について具体的な実践事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第9回	ライフサイクルと家族支援との関係	(学修内容)ライフサイクルと家族支援との関係について、自己の家族を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第10回	家族支援の制度・施策の現状と課題(家族・児童)	(学修内容)家族福祉サービスと児童家庭福祉サービス(セーフティーネット)反転授業を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。反転授業の準備をする。 事後:ノート整理
第11回	家族支援の制度・施策の現状と課題(障害児者・高齢者)	(学修内容)障害児者福祉のサービスと高齢者福祉サービス(セーフティーネット)反転授業を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。反転授業の準備をしておく。 事後:ノート整理
第12回	家族支援と社会資源	(学修内容)社会資源の活用と調整と開発について理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第13回	家族支援と社会資源	(学修内容)重層的な範囲における支援方法について理解し、地域共生社会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第14回	事例:離婚した親と子への支援	(学修内容)実際の支援の展開方法について理解する。離婚の前後の手続きについても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理
第15回	事例:認知症の人と家族への支援	(学修内容)実際の支援の展開方法について学び、具体的な取り組みについても知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:シラバスを読んでおく。 事後:ノート整理

授 業 名	図書館概論 u			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1707
英 文 名	Introduction to Library			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 達 成 目 標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館と知的自由に関する今日的課題を解決するために、「図書館の自由に関する宣言」について理解し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。 3) 公立図書館の管理運営に関して、現状と課題を把握し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テ キ ス ト	『図書館概論』（JLA図書館情報学テキストシリーズ 1）、塩見昇、日本図書館協会、2018年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授業名	図書館概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは	(学修内容)図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.13~P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念:図書館の自由など	(学修内容)「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.57~P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容)図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65~P.67)を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	(学修内容)公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容)欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.225~P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容)日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.229~P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容)「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容)公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.146~P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営について考える	(学修内容)公立図書館の管理運営に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容)学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.161~P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容)大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.177~P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容)専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.190~P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容)国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.203~211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	(学修内容)出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.45~P.48をよく読んでまとめておくこと。

授 業 名	<b>社会保障論</b>			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3782
英 文 名	Theory of Social Security			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	田中 真美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>社会保障は、私たちの人生や生活と深く関わっており、社会保障Iでは、社会保障の全体像を理解しました。          社会福祉士国家試験に社会保障があるのは、社会福祉士として、仕事をする上で、社会保障に基礎があるからであり、          保健、医療、福祉等のサービス関係者との間の連絡、調整を進めていく上で、社会保障制度を理解することは重要になります。          社会保障IIでは、広範多岐にわたる社会保障制度の知識をより具体的に深めて理解すること、現代社会における社会保障制度の役割について理解することを目指します。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)社会保障の概念、対象、理念などを理解する          2)社会保障の個別の制度について理解する          3)生活保護の意義、近年の動向について理解する。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 80 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	授業時、適宜、資料配布する。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内での課題について、次の授業にて振り返って、解答します。								
留 意 事 項	授業内では、それぞれの考えなどを発表する時間を設けますので、積極的に授業に参加してください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	個別の質問など、授業後に受け付け、あるいはメールにも対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育          教員の実務経験など：急性期病院の医療社会事業部、医療ソーシャルワーカー</p>								

授 業 名	社会保障論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代社会と社会保障	(学修内容)人口減少と少子化が社会及び、社会保障に与える影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分たちが生まれた時代から少子化の問題を整理する。
第2回	社会保障を取り巻く環境の変化	(学修内容)社会保障を取り巻く環境の変化により私たちの生活がどのように変化するのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会保障関連の報道などから、現在の社会保障の問題を考え、グループディスカッションをする。
第3回	医療保障の仕組み	(学修内容)医療保険の構造、内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分が今までに医療と関わりがあった事などを振り返り、整理する。
第4回	年金制度の歴史、仕組み	(学修内容)日本の年金制度の歴史を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の生活の中での年金制度との関わりを整理する。
第5回	高齢者に対する支援と介護保険の実際	(学修内容)介護保険制度の成立、仕組みを具体的に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護保険について、身近で知っていることを整理する。
第6回	介護保険の実際	(学修内容)介護保険を使った実際の事例について考え、理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の住む地域で介護保険を使って生活をする高齢者から学び、調べる。
第7回	雇用保険、労災保険	(学修内容)失業者の生活を保障するための雇用保険、業務災害などに被災した労働者の為の労災保険などについて、理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 働くことと社会保障の関係を整理する。
第8回	生活保護の意義、最近の動向	(学修内容)生活保護法の目的、原理、原則が理解出来る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 生活保護についての課題を整理する。
第9回	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	(学修内容)障害者に対する支援と制度を理解出来る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 障害をもって生きていくことを支えるということについて、自分に出来ることを整理する。
第10回	児童手当の意義	(学修内容)児童福祉の中心となる法律は、児童福祉法であることをふまえて、社会保障における児童手当について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 児童について児童手当について、関わりのあることを整理する。
第11回	社会保障の行財政	(学修内容)社会保障の財源は、公費負担と社会保険料であることを理解し、これから国民負担率が高まることを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会保障の財源について、自分が考えた事を整理する。
第12回	諸外国における社会保障	(学修内容)我が国は、諸外国と社会保障協定を発効し、貿易を初め、外国人介護士、看護師の受け入れなども行っている現状について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本がどんな国と協定を結んでいるかを整理する。
第13回	社会保障のまとめ(社会福祉士国家試験の問題から)	(学修内容)社会福祉士国家試験の社会保障の問題を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 問題の解答により、自分の気づきを整理する。
第14回	社会保障のまとめ(社会福祉士国家試験の問題から)	(学修内容)社会福祉士国家試験の社会保障の問題を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 問題の解答により、自分の気づきを整理する。
第15回	社会保障IIのまとめ	(学修内容)社会福祉士国家試験の社会保障の問題を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会保障を通じて、自分の生活や人生と深く関わっていることを整理する。

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2723
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	家庭科は、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、より良い生活のあり方を考え、創造していく力を培う教科である。家庭科教育の成立経緯や教育政策、中学校・高等学校家庭科の教育内容の全体像を把握し、生活における現代的課題と家庭科教育の内容構成を考える。理解を深めるために、適宜ディスカッションを行う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1. 「家庭科」の特徴と独自性、意義を理解できる。 3. 中学校・高等学校の「家庭科」の内容構成を理解できる。 3. 生活における現代的課題を理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	『実践的指導力をつける家庭科教育法』多々納道子・伊藤圭子編著【大学教育出版】								
参 考 書	中学校「新しい技術・家庭科 家庭分野」教科書(東京書籍)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		中等教科教育法 (家庭)
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 現代社会における家庭科教育の意味	(学修内容) 科目の概要と授業の進め方、家庭科を学ぶ意義について  (事前事後学修課題の内容) (10分) これまでに受けた家庭科の授業を振り返る
第2回	家政学、家庭科とは	(学修内容) 家政学、家庭科の目的と領域  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく
第3回	家政学、家庭科の内容	(学修内容) 家政学、家庭科の領域と内容について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料を読む
第4回	家政学、家庭科の現代的意義	(学修内容) 家政学、家庭科の独自性と現代的意味について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第5回	現代社会と家庭科	(学修内容) 現代的生活様式の成立と課題 適宜ディスカッションを行う  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	家庭科教育と男女共同参画社会	(学修内容) 男女共同参画社会について  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	家庭科の歴史：近代教育と家庭科	(学修内容) 近代教育における家事・裁縫  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家庭科の歴史：高度経済成長期の家庭科	(学修内容) 高度経済成長期の教育と女子用科目としての家庭科  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第9回	家庭科の歴史：女性差別撤廃条約と家庭科	(学修内容) 女性差別撤廃条約と男女平等教育  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第10回	家庭科の歴史：男女共修家庭科	(学修内容) 男女共修家庭科の成立と内容の変化  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第11回	授業づくりのための基礎知識：家族・家庭分野	(学修内容) 家族・家庭分野に関する基礎知識  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第12回	授業づくりのための基礎知識：食生活分野	(学修内容) 食生活に関する基礎知識  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第13回	授業づくりのための基礎知識：衣生活・住生活分野	(学修内容) 衣生活・住生活に関する基礎知識  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第14回	授業づくりのための基礎知識：消費生活・環境分野	(学修内容) 消費生活、環境問題に関する基礎知識  (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第15回	これまでのまとめとディスカッション	(学修内容) 家庭科の特徴と内容構成のまとめ 適宜ディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業内容をまとめておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3743
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	馬場 まみ			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>中学校・高等学校の学習指導要領の内容を理解する。さらに、「中等教科教育法 (家庭)」で明確化した生活に関わる現代的課題をふまえ、中学・高校家庭科で展開する授業構成を考える。理解を深め、実践力をつけるため、プレゼンテーションとディスカッションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. 学習指導要領を理解できる。 2. 家庭科で教える内容を理解できる。 3. 生活に関わる課題をふまえた授業構成を考えることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』文部科学省 開隆堂								
参 考 書	中学校教科教育法 (家庭)で使用したテキストを用いる。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く)設定します。ただし、会議や出張などで対応できない場合があります。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 中等家教科教育法 の復習および本講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (20分) 中等教科教育法 の内容を振り返る
第2回	中学校学習指導要領の基本方針	(学修内容) 学習指導要領改訂の経緯と基本方針 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第3回	学習指導要領の理解：家庭科の目標	(学修内容) 家庭科の目標と内容構成について (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第4回	学習指導要領の理解：家族・家庭生活	(学修内容) 家族・家庭・地域分野の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第5回	学習指導要領の理解：食生活	(学修内容) 食生活分野の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第6回	学習指導要領の理解：衣生活・住生活	(学修内容) 衣生活・住生活分野の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第7回	学習指導要領の理解：消費生活・環境	(学修内容) 消費生活・環境分野の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの関連部分を読んでおく
第8回	家族・家庭生活分野の授業づくり	(学修内容) 家族・家庭生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第9回	食生活分野の授業づくり	(学修内容) 食生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第10回	衣生活・住生活分野の授業づくり	(学修内容) 衣生活・住生活分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第11回	消費生活・環境分野の授業づくり	(学修内容) 消費生活・環境分野の授業構成を考え、プレゼンテーションとディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 資料作成と発表の準備
第12回	高等学校学習指導要領の理解：家庭科の目標	(学修内容) 高等学校学習指導要領の家庭科の目標について (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第13回	高等学校家庭科学習指導要領の理解：家族・家庭及び福祉、衣食住	(学修内容) 高等学校学習指導要領家庭科「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の自立と設計」の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第14回	高等学校家庭科学習指導要領の理解：持続可能な消費生活・環境	(学修内容) 高等学校学習指導要領家庭科「持続可能な消費生活・環境」の目標と内容 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読む
第15回	総括	(学修内容) 全体のまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を振り返る

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3771
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	家庭科の特質を活かした学習計画を立て、領域ごとの講義、実習の効果的な指導をするために、基本事項を理解し、具体的な授業設計ができる力をつけ、深く学習指導計画の立案と展開、評価に関する実践的な力を習得する。授業を作る視点とその方法を理解し、教育現場に活かせる、家庭科教員としての指導能力と資質の育成を図る。理解を深めるために、適宜ディスカッションやグループワークを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 実践的体験的学習を多く取り入れて授業が工夫できるようになる。 2) 生徒自身が学習意欲を持ち、主体的に取り組める家庭科模擬授業をすることができる。 3) 学習の評価を考えて指導計画が立てられる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (指導案の作成と模擬授業)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	「新しい技術・家庭 家庭分野」東京書籍、「家庭総合」東京書籍 中等教科教育法 ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究の発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授業名	中等教科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学習の動機付けとは	（学修内容）学習指導要領の確認 家庭科の目標と評価 指導法の特徴を復習する 生徒の学習動機を引き出す工夫を考え、ディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） 学習指導要領の内容を復習しておく 生徒が家庭科を学ぶ動機を考えておく
第2回	参加型アクション志向学習法とは	（学修内容）参加型アクション志向学習法について学ぶ 視聴覚教材の活用や情報機器の活用についても学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 参加型学習法を調べてくる
第3回	実践例 家族・保育領域	（学修内容）家族・保育領域参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 家族・保育領域の学習内容を復習しておく
第4回	実践例 食生活	（学修内容）食生活領域の参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 食生活の領域の学習内容を復習しておく
第5回	実践例 衣生活・住生活	（学修内容）衣・住領域の参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活・住生活の領域の学習内容を復習しておく
第6回	実践例 情報・環境	（学修内容）情報・環境領域の参加型アクション志向学習法のグループワーク 視聴覚教材やICTを活用の活用も視野にいれ授業の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（60分） 情報・環境領域の学習内容を復習しておく
第7回	家庭科の教師としての資質、教育実習	（学修内容）教育実習に臨むにあたっての心構えと準備について話し合うディスカッション （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習の目的、自分の目標を決めておく
第8回	実技、実習を含む授業の衛生と安全管理の指導	（学修内容）調理実習室や家庭科室の安全・衛生管理について考える 調理実習や被服製作実習の指導について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 実技・実習における事故と安全対策について考えておく 調理実習や被服製作の教材について考えておく
第9回	学習指導案の作成 消費生活	（学修内容）消費生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 消費生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第10回	学習指導案の作成 衣生活	（学修内容）衣生活領域の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 衣生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第11回	学習指導案の作成 住生活	（学修内容）住生活領域の生徒の主体的学習の計画 指導案の作成 （事前事後学修課題の内容）（60分） 住生活領域で、授業に活用できる視聴覚教材や情報機器を効果的に活用する授業を視野に入れて授業のイメージを作ってくる
第12回	模擬授業 1回目 消費生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第13回	模擬授業 2回目 衣生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第14回	模擬授業 3回目 住生活 数名	（学修内容）作成した指導案に基づき模擬授業のプレゼンテーションをする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し、板書計画、授業に使用する資料プリントやワークシート、パワーポイントなど
第15回	まとめ 学習集団とは	（学修内容）学習集団の保障と形成について考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの講義をふりかえっておく

授 業 名	中等教科教育法 (家庭)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3772
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Junior High School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習にむけて、具体的な授業教材についての研究とその準備を行う。また、学習効果を上げるため、生徒との学習場面での信頼関係の構築において配慮する点等を確認する。家庭科教育が担う使命を考える。授業の実践力を高めるために、情報機器を活用した授業のプレゼンテーションの実演を取り入れる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 生徒自身の学習意欲を高め、主体的に考え取り組むことができるような授業の工夫ができるようになる。 2) 視聴覚教材や情報機器を効果的に活用して授業を計画することができる。 3) 生徒とのコミュニケーションのとりかたや、学習集団の形成についても考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (教材研究)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 (指導案の作成と模擬授業 )		
テ キ ス ト	中等教科教育法 ・ ・ (家庭) で使用した教科書								
参 考 書	「SDGsと家庭科～カリキュラム・デザイン～」教育図書 荒井 紀子他編著 2020年6月								
課題に対する フィードバック の方法	提出物は添削し講義時に返却する。制作物等は採点し講義時に返却する。レポートは採点し返却日に返却する。								
留 意 事 項	受身で学習せず、常に自分自身で考え、他者の意見も聞くように心がけてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週、授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有								

授業名	中等教科教育法（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教育実習の準備	（学修内容）教育実習の準備 中・高の年間指導計画の立案例に学ぶ （事前事後学修課題の内容）（10分） 自分の教育実習の目標を書き出しておく
第2回	教育実習の準備 指導計画の立案	（学修内容）自身の教育実習で担当する領域について学習内容を確認し、指導計画をたてる （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習で担当する単元の内容に目を通しておく
第3回	教育実習の準備 指導詳案の作成	（学修内容）視聴覚教材や情報機器を活用した授業を視野に入れて、指導詳案を作成する （事前事後学修課題の内容）（15分） 指導案の書き方を復習しておく。教育実習で担当する単元の中での授業を考えて来る
第4回	教育実習の準備 指導詳案の発表と修正	（学修内容）指導詳案を発表しディスカッションする 他者の意見を参考に指導案を修正する （事前事後学修課題の内容）（30分） 発表の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントの作成 視聴覚教材や情報機器を活用した授業を考えて来る
第5回	模擬授業1回目 2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第6回	模擬授業2回目 2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第7回	模擬授業3回目 2名	（学修内容）模擬授業のプレゼンテーションをし、改善、修正をする 発表者以外は教育者の視点で評価し、アドバイスする （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業の準備 指導案の見直し 板書計画 配布プリントのやパワーポイントなどの準備をしてくる
第8回	家庭科の学習集団の形成	（学修内容）実技や実習を通して主体的な学びを支援したい家庭科での、よりよい学習集団の形成に向けてディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（20分） 実技や実習時の注意点を復習しておく
第9回	教材研究 環境・消費	（学修内容）環境・消費についての領域で、シティズンシップ教育を軸として教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） 環境・消費者問題について復習しておく
第10回	教材研究 経済・生活設計	（学修内容）経済・生活設計についての領域で、将来生活を見通した生活の視点を軸として教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） ライフサイクルについて復習しておく
第11回	教材研究 家族・保育	（学修内容）家族・保育の領域で、親となること、子どもと育ちあう家庭生活の視点をいれた教材を考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもの生活環境について復習しておく
第12回	SDGsと家庭科について	（学修内容）SDGsについて学ぶ 家庭科教育の中のSDGsと関連する内容をディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（20分） SDGsについて調べてくる
第13回	シティズンシップ教育と家庭科について	（学修内容）シティズンシップ教育について学ぶ 家庭科教育の中のシティズンシップ教育と関連する内容を話し合う （事前事後学修課題の内容）（30分） シティズンシップ教育について調べてくる
第14回	現代の家庭生活の抱える問題	（学修内容）現代の家庭生活の抱える問題について学ぶ 家族の多様性について学ぶ 生活の中の伝統と伝承について考えディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（20分） 生活の中での伝統と伝承について、受け継ぎ伝え次ぐ必要のあることは何か考えておく 家族の多様性について調べておく
第15回	まとめ 教育実習に向けて	（学修内容）教育実習に向けて、今後の自身の課題を明確にする 家庭科の指導と家庭科の果たす使命についてディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習に向けて自身の課題を見直して来る

授 業 名	教職実践演習(幼・小)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4818
英 文 名	Teaching Practice(Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	平尾 隆史・竹村 伸子・森岡 葉子・柿本 真代・盧 珠妍			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教師として適切な最小限度の資質能力を多角的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。</p> <p>履修カルテや実習の振り返りをもとに、学生の個別的な課題、および、これからの社会情勢にかんがみた教師が身につけるべき全体的な課題を掘り下げ、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、教師としての資質能力をさらに高めることを目的としている。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教師としての使命感、責任感を自覚し、言動に表すことができる。</p> <p>2) 多様な子どもや保護者とのコミュニケーションを想定して対応することができる。</p> <p>3) 新任教師として必要な教科・保育に必要な指導力を身につけ、指導案作成や模擬授業または模擬保育に活かすことができる。</p> <p>4) 語彙力や表現力を豊かにして他者に働きかけができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解						汎用的技能	
		態度・志向性						総合的な学習経験と創造的思考力	
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	<p>&lt;小学校&gt; 『小学校学習指導要領解説総則 平成29年3月』(文部科学省)</p> <p>&lt;幼稚園&gt; 『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』(文部科学省)</p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子編(わかば社)</p>								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	プレゼンテーションやロールプレイなどについては、学生同士のピア評価と教師のコメントと解説をおこなう。リアクションペーパーや小レポートは提出の次週にコメントおよび質問への回答をおこなう。								
留 意 事 項	「教師力を高める」演習形式の授業であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。校種別に活動する。 受講にあたっては、「履修カルテ」の作成・提出が必要となる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	小学校(平尾)、幼稚園(盧・柿本)が担当し随時実施する。非常勤教員については授業後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与 非常勤教員は京都市立幼稚園園長や大津市公立幼稚園園長・教育委員会勤務経験を有している。</p>								

授 業 名	教職実践演習(幼・小)	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教職実践演習の意義と目的	(学修内容)本授業の進め方を理解する。本授業の意義と目的を理解して、入学後これまでの教職課程および教育実習の内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「教育実習振り返りシート」「履修カルテ」の記述および整理。
第2回	個別の課題設定と習得計画の作成	(学修内容)履修カルテや教育実習の振り返りから各自の研修課題を明確にし、必要な知識技能の習得に向けて計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自己の課題をまとめ、課題克服の計画を修正し提出する。
第3回	教師の役割と使命感(対子ども、对学校組織、対保護者や地域という異なる観点から多角的に考える)	(学修内容)教師の使命感・責任感・情熱等について社会の現状や教育実習経験をふまえながらグループ討議を行い、グループごとに発表する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 課題についての自己の経験をまとめてくる。
第4回	困りを抱える子どもの理解と援助方法	(学修内容)困りを抱える子どもへの指導について、事例をもとにロールプレーやグループ討議を通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 困りを抱える子どもについての特性や指導法について調べてくる。
第5回	子ども同士のけんかやトラブルの理解と援助方法	(学修内容)ビデオを見ながら、子ども同士のけんかやトラブルについて考え、グループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習での実際のけんかやトラブルの場面を思い出して書き出し、その時の対応なども整理しておく。
第6回	危機管理への備え	(学修内容)想定されうる危機管理について理解し、具体的な対応について話し合っ て深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習校・園の内外にある「危険」を書き出す。教員の備え、子どもともにする行動について考えておく。
第7回	これからの教師に求められるもの(外部講師)	(学修内容)校長経験者などの講義をもとにこれからの教師に求められる資質能力について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今後の社会状況の変化と教師に求められる力について予測しておく。
第8回	模擬授業または模擬保育の準備	(学修内容)2回の授業から各自の課題を実践するための具体的な案をグループで考 え、各グループごとの模擬授業または模擬保育の準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自の課題を再確認し、模擬授業または模擬保育にどのように取り組むかを考えておく。
第9回	第1グループから第3グループまでの模擬授業または模擬保育	(学修内容)第1-3グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア 評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 指導案作成。
第10回	第4グループから第6グループまでの模擬授業または模擬保育	(学修内容)第4-6グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア 評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 指導案作成。
第11回	第7グループから第9グループまでの模擬授業または模擬保育	(学修内容)第7-9グループが模擬授業または模擬保育を実施し、それについてピア 評価、省察をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教材研究 指導案作成。
第12回	行事と学級通信作成	(学修内容)行事の意味を理解し、それらと関連付けながら、日々のクラス活動を学 級通信にまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 学級通信を書きたい季節を選んで内容について考えておく。
第13回	保護者対応と連携	(学修内容)学校・園と保護者の関係づくりについてロールプレーやグループ討議を 通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 保護者との連携の必要性について考えてくる。
第14回	これからの教育	(学修内容)現場経験者の講義をもとに社会の変化と学校・園の在り方、子どもの育 ちなどの関連をし整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びを踏まえ、各自が社会と学校・園、子どもの関連について考えておく。
第15回	総括	(学修内容)これまでの授業と教職課程全般を振り返り、今後の抱負を相互に伝え合 う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 履修カルテの総括欄に記入しておく。

授 業 名	ソーシャルワーク総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1701
英 文 名	Outline of Social Work			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークとは、とても広く深い仕事です。本講義では、ソーシャルワークの歴史的発展、定義、方法、過程における倫理・価値について学習を進めていきます。ソーシャルワーカーという営みについて、これからの社会で期待されている内容や学習者にソーシャルワークの魅力が伝えられるよう、専門用語の解説や具体的事例を用い、私たちの生活を支えるソーシャルワーカーについて理解ができるよう講義をしていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1．社会福祉士及び精神保健福祉士及び介護福祉士の法的な位置づけについて、理解ができる。 2．ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解できる。 3．ソーシャルワークの価値規範と倫理について、実際に理解できる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	『ソーシャルワークの基盤と専門職』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 = 編集 中央法規出版								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	返却時にコメントを入れて返却をします。								
留 意 事 項	ノートテイク（方法については、初回に説明をします）								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業後及び研究室在室時に対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士を所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり								

授 業 名	ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的位置づけ	(学修内容)オリエンテーション 社会福祉士及び介護福祉士の定義と義務について理解する (事前事後学修課題の内容)(15分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第2回	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的位置づけ	(学修内容)精神保健福祉士法の定義と義務及び福祉専門職の専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第3回	ソーシャルワークの定義	(学修内容)ソーシャルワークのグローバル定義について、グループワークを通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第4回	ソーシャルワークの原理 社会正義・人権尊重	(学修内容)社会正義・人権尊重について具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第5回	ソーシャルワークの原理 集団的責任・多様性の尊重	(学修内容)集団的責任・多様性の尊重について具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第6回	ソーシャルワークの理念 当事者主権・尊厳の保持	(学修内容)当事者主権・尊厳の保持について、具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第7回	ソーシャルワークの理念 権利擁護・自立支援	(学修内容)権利擁護・自立支援について具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第8回	ソーシャルワークの理念 ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション	(学修内容)ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーションについて、自身の経験と照らし合わせて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付資料を学習すること。
第9回	ソーシャルワークの形成過程 慈善組織協会・セツルメント運動	(学修内容)慈善組織協会・セツルメント運動について、概説します。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第10回	ソーシャルワークの形成過程 医療モデル・生活モデル	(学修内容)医療モデル・生活モデルと新たな実践モデルについて概説します (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第11回	ソーシャルワークの形成過程 ソーシャルワークの統合化	(学修内容)ソーシャルワークの統合化について具体的事例を通して学習します。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第12回	専門職の倫理概念	(学修内容)専門職の倫理綱領をグループワークを通して解釈していきます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第13回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲	(学修内容)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、具体的事例を通して学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第14回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携	(学修内容)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について具体的事例を通して学習します。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:テキストを読む
第15回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	(学修内容)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、概説します。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理

授 業 名	ソーシャルワーク総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1711
英 文 名	Outline of Social Work			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>本講義では、社会福祉士の職域と求められている役割について、具体的に理解をするとともにミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象を理解するとともにそれぞれのレベルの関連性について理解を深められるように勤めていきます。一人の事例を理解することは、社会全体としても起こりうることであり、事例の理解を通して、ソーシャルワークの専門的な展開について学びを深めていきます。実践現場での経験をいかし、よりリアリティのある授業展開をしていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の職域と求められる役割について理解できる</li> <li>2. ソーシャルワークに関わる専門職の概念と範囲について理解する。</li> <li>3. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解ができる</li> <li>4. 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解できる</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	適宜、紹介すると同時にプリント配布する。								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物返却時に行う。								
留 意 事 項	身近なニュースに目を向け、興味関心を高めていってください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後及び研究室に在室時、対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士所持</p> <p>高齢者施設、児童福祉施設に勤務経験がある</p>								

授 業 名	ソーシャルワーク総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ソーシャルワーク専門職の概念	(学修内容)オリエンテーション ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:ソーシャルワーク総論 の学びの確認 事後:ノートの整理
第2回	社会福祉士の職域	(学修内容)行政関係、医療関係、司法関係について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第3回	社会福祉士の職域	(学修内容)福祉関係、教育関係、独立型事務所、社会福祉士の職域の拡大について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第4回	福祉行政等における専門職	(学修内容)様々な専門職の役割と機能について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理 事前:諸外国の動向を調べ、反転授業の準備をする。
第5回	ソーシャルワークに関わり専門職-諸外国の動向	(学修内容)諸外国の動向について、反転授業を通して理解します。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第6回	ミクロレベルの対象	(学修内容)ミクロレベルの意味と対象について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第7回	メゾレベルの対象	(学修内容)メゾレベルの意味と対象について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第8回	マクロレベルの対象	(学修内容)マクロレベルの意味と対象について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第9回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際	(学修内容)ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際につて具体的に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第10回	ジェネラリストの視点に基づく包括的な支援	(学修内容)包括的支援体制について具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第11回	ジェネラリストの視点に基づく包括的な支援	(学修内容)フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働・ソーシャルネットワークングについて、具体的に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第12回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ	(学修内容)多職種連携及びチームアプローチの意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第13回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ	(学修内容)機関・団体間の合意形成と相互関係について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第14回	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ	(学修内容)利用者、家族の参画について具体的事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理
第15回	講義の総括	(学修内容)本講義のまとめをし、目標達成度の確認をします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:ノートの整理

授業名	ソーシャルワーク論			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC1701
英文名	Theory of Social Work			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、地域を基盤としたソーシャルワークの理論、ソーシャルワークのプロセス、ソーシャルワークの様々な実践モデルについて理解することを目的とする。社会福祉の枠組みにおけるソーシャルワーク（相談援助）とは何か、人と環境の交互作用としてのシステム理論および地域を基盤としたソーシャルワークの理論をまず押さえる。そして、実践モデルとして、治療モデル、生活モデル等の枠組みを理解しながら実践モデルの実際を理解していく。実践アプローチとして、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、危機介入アプローチ等の方法を併せて理解する。								
学修成果到達目標	1) 地域を基盤としたソーシャルワークとは何かについて理解できる。 2) ソーシャルワークの基礎的な理論やそれぞれのモデル等について理解ができる。 3) ソーシャルワークのプロセスについて理解し説明することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	空閑浩人編著『新・基礎からの社会福祉 ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房（ソーシャルワーク論 と同じ）								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	事前学習の実施状況、内容について確認しながら授業を進める。								
留意事項	自分で考える姿勢を大切にしてください。								
オフィスアワー	研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授 業 名	ソーシャルワーク論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス（学習状況の確認を含む）	（学修内容）授業ガイダンスの中でソーシャルワークに関する基礎力を確認する。社会福祉士養成におけるソーシャルワーク論の位置づけを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスに目を通し、学習内容を確認しておく。
第2回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(1)	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの必要性と基本的視座について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習してくる。
第3回	地域を基盤としたソーシャルワークの視点(2)	（学修内容）地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、ジェネラリストソーシャルワークの理論について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、線を引きノートに要点をまとめて予習してくる。
第4回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク	（学修内容）インテークの意義と定義、留意点、ラポールの形成について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第5回	ソーシャルワークのプロセス(1)～インテーク	（学修内容）インテークの展開とアウトリーチについて理解する。2回の授業内容を踏まえインテークのポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第6回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント	（学修内容）アセスメントの定義と原則、ツールについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第7回	ソーシャルワークのプロセス(2)～アセスメント	（学修内容）ニーズの把握とニーズアセスメントについて理解する。2回の授業内容を踏まえアセスメントのポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第8回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニングの位置づけと展開過程について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第9回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニングのツールについて、各項の意味と関連について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第10回	ソーシャルワークのプロセス(3)～プランニング	（学修内容）プランニング（計画）の作成方法について個別支援計画の様式を活用して実践理解する。計画作成のポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に配布した記入の手引きに目を通してくる。
第11回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション	（学修内容）モニタリングの定義と留意点、方法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第12回	ソーシャルワークのプロセス(4)～モニタリングとエバリュエーション	（学修内容）エバリュエーションの定義と留意点、方法について理解する。2回の授業内容を踏まえモニタリングと終結のポイントについて意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第13回	ソーシャルワークの実践モデル(1)～システム理論と医学モデル	（学修内容）システム理論について基本を押さえた上で、伝統的な医学モデルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第14回	ソーシャルワークの実践モデル(2)～生活モデルと社会モデル、ストレンクスモデル	（学修内容）1980年より展開した現代のソーシャルワークのモデル、生活モデルと社会モデル、ストレンクスモデルについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら疑問点を解消する。また、授業全体について意見交換する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 今までやったところを振り返り、不明な点や質問事項をノートにまとめておく。

授 業 名	ソーシャルワーク論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2731
英 文 名	Theory of Social Work			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	教科書を読み意見交換しながら進める双方向の授業を通して、歴史的な展開も含め、ソーシャルワークの各種アプローチについて、その特徴や定義、展開過程を学ぶ。その上で、ソーシャルワークの方法としてケースワーク（ケアマネジメント）、グループワーク、コミュニティーワーク、ソーシャルアクション、ネットワーキング等について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ソーシャルワークの様々なアプローチについて、定義や展開過程を理解できる。 2) ケースワーク（ケアマネジメント）の定義は展開過程を理解できる。 3) ソーシャルワークの専門性、特徴、独自性について説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	空閑浩人編著『新・基礎からの社会福祉 ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房（ソーシャルワーク論 と同じ）								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	事前学習の状況を確認しながら授業を進める。課題については添削・評価して返却する。								
留 意 事 項	授業で全てを教えることはできないので、自分で学習すること、考えることを大切にする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業中に伝達する。								
実践的教育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ソーシャルワーク論 の内容を踏まえ、科目ガイダンス	(学修内容) ソーシャルワークの特徴、専門性等について振り返り、授業の内容を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく。春学期の内容を復習して疑問点をまとめておく。	
第2回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ (1)	(学修内容) 診断主義的アプローチと機能主義的アプローチ、課題解決アプローチについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第3回	ソーシャルワークの実践モデルと各種アプローチ (2)	(学修内容) エコロジカル、エンパワメント、ナラティブアプローチについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第4回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (1)	(学修内容) 児童の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第5回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (2)	(学修内容) 高齢者の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第6回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (3)	(学修内容) 障害者の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の誓いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第7回	各種実践モデルと各種アプローチによる事例検討 (4)	(学修内容) 多問題家庭の事例を活用し、意見交換を交え、各種モデル・アプローチによる視点や支援方法の誓いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分及び配布した資料を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第8回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク	(学修内容) ソーシャルケースワークの定義と歴史的展開を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第9回	ソーシャルワークの方法(1)～ケースワーク	(学修内容) ケアマネジメントの定義と登場の背景、構成要素、展開過程、留意点について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第10回	ソーシャルワークの方法(2)～グループワーク	(学修内容) グループワークの成立経緯を確認しつつ、定義及び構造、実践原則について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第11回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク	(学修内容) コミュニティワークの概念と定義、展開方法、社会資源の開発について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第12回	ソーシャルワークの方法(3)～コミュニティワーク	(学修内容) ソーシャルアクションやアウトリーチを含む地域を基盤としたソーシャルワークについて復習を含め再度学ぶ。各技法について意見交換する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第13回	これからのソーシャルワーク	(学修内容) スーパービジョンやコンサルテーション等などソーシャルワーク実践の質を高める手法、仕組みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の当該部分を読み、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第14回	これからのソーシャルワーク	(学修内容) 災害ソーシャルワークの事例を題材に、医療・保健との連携を含め今後のソーシャルワークの在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布する資料に目を通し、キーワードや要点をノートに整理して予習してくる。	
第15回	授業の総括と疑問点の解消	(学修内容) 教科書や資料を活用し、また質問に答えながら、これまでの授業を振り返りながら意見交換し、疑問点を解消する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書と資料、ノートに目を通し、疑問点を整理して質問できるようにしておく。	

授 業 名	ソーシャルワーク論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3750
英 文 名	Theory of Social Work			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	武田 康晴			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	教科書の内容を材料とした意見交換など双方向の授業を通じて、ソーシャルワークに関する基本事項を学ぶとともに「ソーシャルワークというモノの見方」を身に付けることに主眼を置く。ソーシャルワーク論 に続く ということになるので、具体的に扱うテーマはソーシャルワークの機能、ソーシャルワークの面接技法、ソーシャルワークの援助関係、スーパービジョンと人材育成、コンサルテーションと事業運営、記録とICT活用といった、より高度で実践的な内容となる。現場の事例を活用し、できる限り実践的な授業内容で進めることを考えている。								
学 修 成 果 達 成 目 標	ソーシャルワークの機能について理解する。 ソーシャルワークの面接技法について理解する。 ソーシャルワークの援助関係について理解する。 スーパービジョン、コンサルテーションについて理解する。 記録の意義と書き方、ICTの活用について理解する。								
学位授与の方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	空閑浩人編著『新・基礎からの社会福祉 ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房（ソーシャルワーク論 と同じ）								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業での疑問点は（事前学習でまとめ）次回の授業で解説する。レポートについては返却時に口頭で説明するか、コメントを付けて返却する。								
留 意 事 項	講義を聴くだけ（知識だけ）では「ソーシャルワークというモノの見方」は身に付かないので、自分で考え、発言し、他者の意見を聴くことを大切にしてほしい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業時に説明する。Gmailでの相談は随時受け付ける。								
実践的教育									

授業名	ソーシャルワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ソーシャルワークの視点（マイクロからマクロへ）	（学修内容）ソーシャルワーク論の内容を確認し、ソーシャルワーク論で扱う内容について説明する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認しておく。の中で不明な点をまとめておく。
第2回	人間と環境（ソーシャルワークの定義、システム理論）	（学修内容）グローバル定義を確認し、システム理論、エコシステムによるソーシャルワークについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第3回	人間と環境（ジェネラリストソーシャルワークへ）	（学修内容）エコロジカルソーシャルワークからジェネラリストソーシャルワークに至る流れについて、その理論的背景も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第4回	ソーシャルワークの機能（調整機能、開発機能）	（学修内容）ケアマネジメントの手法を題材に、ソーシャルワークの調整機能と社会資源開発について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第5回	ソーシャルワークの機能（代弁機能、教育機能）	（学修内容）成年後見制度を材料として、アドボカシーについて学ぶ。また、社会福祉士の職域拡大や人材育成についても学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第6回	ソーシャルワークの面接技術（定義、内容、過程）	（学修内容）面接技術の定義と内容について、インテークから終結に至る面接のプロセスを通じて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第7回	ソーシャルワークの面接技術（理論の適用）	（学修内容）システム理論、社会モデル、エコロジカルアプローチといった各種理論、モデル、アプローチの実践への反映を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第8回	ソーシャルワークの面接技術（面接技術の実際）	（学修内容）事例を活用しながら、個別事例、家族事例、困難事例、多問題事例などにおける面接技術の実際について学ぶ。事例について意見交換をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第9回	ソーシャルワークの援助関係（専門的關係、援助関係、信頼関係、教育関係など）	（学修内容）ソーシャルワーク場面において想定される各種の関係について、関係の実際やポイントについて根拠も含めて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第10回	スーパービジョンと人材育成（定義、歴史、機能）	（学修内容）スーパービジョンの歴史と定義を踏まえ、3つの機能（管理的機能、教育的機能、支持的機能）について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第11回	スーパービジョンと人材育成（内容、実際）	（学修内容）各種の援助場面におけるスーパービジョンの実際について、課題と展望を学ぶ。実習スーパービジョンについても、短い演習を交えて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第12回	コンサルテーションと社会福祉事業運営	（学修内容）多種の専門職によるコンサルテーションの必要性と今後の社会福祉事業運営について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第13回	ソーシャルワークにおける記録（意義、方法、活用）	（学修内容）記録に関する意義と基本事項を確認し、実際のインテークシート、アセスメントシート、記録様式も含めて記入方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第14回	ソーシャルワークにおける事例研究（意義、方法、実際）	（学修内容）事例研究の方法について、実際の事例を活用し、事例検討の持ち方や活用の仕方について学ぶ。事例検討の演習を取り入れる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書の該当部分を読み、重要な部分に印とメモを記入し、不明なキーワードについてはインターネット等で調べてノートに書き出しておく。
第15回	授業の総括と疑問点の解消	（学修内容）ソーシャルワーク論の授業内容を振り返り、疑問点や再度説明が必要な部分について解説して疑問点を解消する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書とノートを振り返り、疑問点を書き出し、発言できるようにしておく。

授業名	ソーシャルワーク演習			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3784
英文名	Social Work Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの専門性は、専門職としての価値観、知識、技術からなるが、本科目では主として価値観と技術に焦点を当て授業を進める。科目名にもソーシャルワーク演習とある通り、演習を通じて専門職としての価値観と技術を体験的に身に付けていく。授業は、今回のテーマに関する短い講義、個人作業・グループ作業、演習のまとめ、振り返り作業という手順で進める。テーマによっては2回ないし3回を使って内容を掘り下げることもある。演習での気づきを材料に、後で理論づけして実践と結び付けていくため「参加」が前提となる。ソーシャルワーク演習では、主として自己覚知、他者理解、自己と他者の関係（コミュニケーション）の基礎に焦点を当て、ソーシャルワークの視点から理解を深めることに取り組む。</p>								
学修成果到達目標	<p>1. 自己覚知の基礎について体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。  2. 他者理解のきそについて体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。  3. コミュニケーションの基礎について体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	特に使用しない。								
参考書	必要に応じて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物（振り返りシートやレポート）については確認後、口頭で解説しながらまたはコメントを付けて返却する。								
留意事項	参加が前提となるので、積極的な参加を期待する。								
オフィスアワー	授業中に指示する。Gmailでの質問にも応じる。								
実践的教育									

授 業 名		ソーシャルワーク演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション（演習における守秘義務を含む）	（学修内容）授業の基本的な進め方、評価方法等について解説する。また、演習（訓練）における守秘義務についても伝える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスに目を通し、不明な点をノートにメモしておく。授業後には、授業スケジュールと守秘義務（資料）を確認しておく。	
第2回	自己覚知の基礎（自分自身についての説明）	（学修内容）自分について説明する（シートにまとめ、口頭で伝える）演習を通じて、私に関する理解、理解の傾向等について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第3回	自己覚知の基礎（ストレングスの発見）	（学修内容）自分自身のストレングスに気付く演習を実施する。シートに書く作業、演習は二人一組になり意見交換する作業を通じて行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第4回	自己覚知の基礎（過去・現在・将来）	（学修内容）自分の人生をグラフで表す演習を通じて、自分の過去および現在と向き合い、将来の展望について考える。（個人作業） （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第5回	自己覚知の基礎（自分史の準備）	（学修内容）前回の演習内容も参考に、演習シートを順番に埋めていくことで自分史作成の材料作りをする。（個人作業） （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。また、演習シートが未完成であれば完成させる。	
第6回	自己覚知の基礎（自分史の作成）	（学修内容）前回の演習で作成した「自分史の準備シート」に基づき、自分史を書いていく。発表はしないが、発表できる状態まで仕上げる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。もしも自分史が未完成であれば完成させる。	
第7回	他者理解の基礎（他者の価値観）	（学修内容）価値観（色々な項目の価値）を確認する演習を通じて、自己と対比的に他者の価値観について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第8回	他者理解の基礎（他者の価値観）	（学修内容）価値観に関してグループでディスカッションする演習を通じて、他者の価値観について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第9回	他者理解の基礎（他者の価値観）	（学修内容）価値観（何を大切にするか）の根拠、理由を掘り下げるグループ演習を通じて、他者の価値観の根拠について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第10回	他者理解の基礎（思考のプロセス）	（学修内容）「考える手順」すなわち思考のプロセスを明らかにするグループ演習を通じて、他者の施行のプロセスについて理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第11回	他者理解の基礎（自己と他者の類似と相違）	（学修内容）自己と他者の類似点と相違点を分類整理するグループ演習を通じて、自己と他者について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第12回	コミュニケーションの基礎（自己と他者）	（学修内容）コミュニケーションについて短い講義を行う。その後、発信者・受信者としての自己と他者についてこれまでの演習を踏まえ考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第13回	コミュニケーションの基礎（言語）	（学修内容）言語のみを使って単純な図形について伝達する演習を通じて、言語コミュニケーションの留意点と限界について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第14回	コミュニケーションの基礎（非言語）	（学修内容）非言語行動による情報の読み取りに関する演習を通じて、非言語コミュニケーションの留意点と可能性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第15回	演習内容の総括と全体の振り返り	（学修内容）演習全体について演習プログラムを示しながらを振り返り、学生の気付き、学びを発表して共有する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの演習内容を事前に振り返り、気付き、学びの焦点を自分の言葉で説明できるようになっておく。	

授業名	ソーシャルワーク演習			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3785
英文名	Social Work Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	武田 康晴			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの専門性は、専門職としての価値観、知識、技術からなるが、本科目では主として価値観と技術に焦点を当て授業を進める。科目名にもソーシャルワーク演習とある通り、演習を通じて専門職としての価値観と技術を体験的に身に付けていく。授業は、今回のテーマに関する短い講義、個人作業・グループ作業、演習のまとめ、振り返り作業という手順で進める。テーマによっては2回ないし3回を使って内容を掘り下げることもある。演習での気づきを材料に、後で理論づけして実践と結び付けていくため「参加」が前提となる。ソーシャルワーク演習では、の内容を踏まえ、主として自己覚知、他者理解、自己と他者の関係（コミュニケーション）に焦点を当て、ソーシャルワーク実践への反映を検討する。また、実践の前段であるソーシャルワーク実習における課題も念頭に授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己覚知について体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。</li> <li>2. 他者理解について体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。</li> <li>3. コミュニケーションについて体験的に学び、ソーシャルワークの視点から説明することができる。</li> <li>4. ソーシャルワーク実習の準備という視点から、演習内容を班絵することができる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	特に使用しない。								
参考書	必要であれば授業中に指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートや振り返りシートは内容を確認後に返却する。その際、口頭または筆記にてコメントを伝える。								
留意事項	演習への参加が前提となるため、積極的な参加を期待する。								
オフィスアワー	授業中にお知らせする。Gmaiでも随時相談を受け付ける。								
実践的教育									

授 業 名		ソーシャルワーク演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	授業のオリエンテーション（守秘義務、実習との連携を含む）	（学修内容）演習プログラムを示し、演習内容について確認する。また、そー者ryワーク実習（及び実習指導）との連携についても説明する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスに目を通してくる。ソーシャルワーク実習について、準備状況を口頭で説明できるように準備してくる。	
第2回	自己覚知に関する演習（自己紹介）	（学修内容）自己紹介準備シートを作成後、様々な場面を想定した自己紹介文を作成する。（個人作業） （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第3回	自己覚知に関する演習（自己紹介）	（学修内容）自己紹介文（実習初日を想定）を参考に、前に出て実際に自己紹介をする。それに対して総度評価を加えブラッシュアップする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回の授業で自己紹介文（実習初日）が未完成であれば完成させてくる。本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。	
第4回	自己覚知に関する演習（理想の援助者像）	（学修内容）演習シートに記入しながら理想の援助者像、そのために必要なことを整理する。またそれをグループで発表・共有して深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第5回	自己覚知に関する演習（実習目標との関連）	（学修内容）前回の授業で整理した理想の援助者像（目的）を見据え、実習目標と課題との関連を考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第6回	他者理解に関する演習（実習先の利用者を例に）	（学修内容）ソーシャルワーク実習の実習先を想定し、事例検討も活用しながら他者を理解する視点を学ぶ。（主に高齢者、障害者） （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第7回	他者理解に関する演習（実習先の利用者を例に）	（学修内容）ソーシャルワーク実習の実習先を想定し、事例検討も活用しながら他者を理解する視点を学ぶ。（主に児童、地域） （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第8回	他者理解に関する演習（記録について）	（学修内容）「他者について記録する」というテーマで演習を進める。演習後に記録の留意点と書き方に関する短い講義を挟んで、さらに演習で深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第9回	他者理解に関する演習（記録について）	（学修内容）ビデオ教材等も活用して記録の実際について学ぶ。また、作成した記録を使ってグループ作業をすることで技術の底上げを図る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第10回	コミュニケーションに関する演習（講義）	（学修内容）コミュニケーションの基本、また一部アイビーのマイクロカウンセリングの技法を交えて講義を行い、講義内容について意見交換を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第11回	コミュニケーションに関する演習（言語）	（学修内容）言語のみで情報（視覚情報・聴覚情報による情報）を伝達する演習を通じて、言語コミュニケーションについて体験的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第12回	コミュニケーションに関する演習（非言語）	（学修内容）会話（言語）をしながら位置・距離・状況等（非言語）を変えていく演習を通じて非言語コミュニケーションの影響を体感する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第13回	コミュニケーションに関する演習（情報伝達・共有）	（学修内容）グループに「自分の持つ情報」を持ち寄って作業を完成させる演習を通じて、情報伝達と共有について留意点やポイントについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第14回	コミュニケーションに関する演習（実習先で出会う利用者）	（学修内容）実習先で出会う利用者を想定し、事例とロールプレイを活用してコミュニケーション方法、留意点等について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本日の演習内容を振り返り「振り返りシート」を記入する。振り返りシートは、次回の授業で回収する。	
第15回	演習の振り返り（学びの共有、疑問点の解消を含む）	（学修内容）演習プログラムに基づきこれまでの演習内容を振り返り、学生が気付き、学びを報告・共有できる時間を設ける。 （事前事後学修課題の内容）（30分） これまでの演習内容を振り返り、気付き、学びを口頭で報告できるように準備する。	

授 業 名	ソーシャルワーク実習指導			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	LC3786
英 文 名	Guidance on Social Work			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	吉島 紀江・野田 隆生			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>本講義では、ソーシャルワーク実習の意義を理解し、社会福祉士として社会から求められている役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としてあるべき姿について、具体的に学習を進めていきます。また、実習後には、実習で得た体験を基に専門的援助技術と知識を結び付け、専門職としての意識、技術が高まるようにしていきます。実践現場の実情に即した内容で展開していきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解できる</li> <li>2. 社会福祉士として求められる役割が理解できる</li> <li>3. 社会福祉士としての価値・倫理に基づく専門職としての姿勢が意識できる</li> <li>4. ソーシャルワークに関する知識と技術について実践的に理解できる</li> <li>5. ソーシャルワークに関する基礎的な能力が習得できる</li> <li>6. 実習を振り返り、体験を専門的援助技術として概念化できる</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	適宜資料を配布する。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物にコメントを入れ返却をします。 必要に応じて個別にフィードバックを対面で実施します。								
留 意 事 項	準備物は予め伝えるが、G-mailもしくはClassroomを使用することがある。定期的に確認をするようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義終了時に対応します。研究室在室時に対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり</p>								

授 業 名		授 業 計 画
ソーシャルワーク実習指導		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講における諸注意の確認 目標達成シートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 事前:目指す社会福祉士像をイメージしておく
第2回	社会福祉専門職における実習の意義	(学修内容)SW実習とSW実習指導との関連とその意義について学ぶ。実習に向けて必要なコミュニケーション力についても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) すでに履修している教科目のテキスト・プリント・ノートを整理し、事前に目を通す。
第3回	実習施設の理解 高齢者福祉施設	(学修内容)高齢者の実態と施設での実習内容について個人ワーク及びグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 紹介した文献資料に目を通す。
第4回	実習施設の理解 障害者・児福祉施設	(学修内容)障害者・児の実態と施設での実習内容について個人ワーク及びグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 紹介した文献資料に目を通す。
第5回	実習施設の理解 児童福祉施設	(学修内容)児童福祉の実態と施設での実習内容について個人ワーク及びグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 紹介した文献資料に目を通す。
第6回	実習施設の理解 社会福祉協議会・児童相談所について	(学修内容)地域福祉の実態と社会福祉関連機関での実習内容について、個人ワーク及びグループワークを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 紹介した文献資料に目を通す。
第7回	実習に必要な知識	(学修内容)高齢者・障害者(児)・児童に関する実習において最低限必要とされる知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 第3回～6回の授業を復習しておく。
第8回	実習先の種別と配属	(学修内容)実習先の種別及び実習施設の発表及び実習施設の具体的理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 配属アンケートを回答し、提出できるようにする。
第9回	配属施設の理解 ～領域・分野の特徴について～	(学修内容)配属された施設について、ワムネット等を活用し、ワークシートに整理する。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前に基礎データを集めておく。
第10回	配属施設の理解? ～地域性、施設の特徴について～	(学修内容)配属された施設について、地域特性や社会資源など具体的に理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前に基礎データを集めておく。
第11回	配属施設の理解? ～施設の法的根拠及び関連施策～	(学修内容)配属された施設について、法的根拠及び関連施策について調べ、整理をする。 (事前事後学修課題の内容)(50分) 事前に基礎データを集めておく。
第12回	実習の理解 ～実習の到達目標と学習方法～	(学修内容)到達目標を理解し、具体的学習方法について、グループワークを通して検討する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第9回～11回の授業内容を復習しておく。
第13回	実習の理解? ～実習目標と課題の作成に向けて～	(学修内容)実習目標と自己課題を明確にするため、実習圏の理解を振り返り、目標を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第12回の授業内容を復習し、目標と課題のシートに必要事項を記入して授業に持参する。
第14回	実習の記録物・事前オリエンテーションについて	(学修内容)実習の記録物・事前オリエンテーションについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日誌の確認をしておく
第15回	ソーシャルワーク実習に向けて	(学修内容)諸注意、連絡方法等について確認をする。チェックシート及びワークシートで確認をする。 (事前事後学修課題の内容)(10分) 授業で使用した資料等を整理しておく。

授業名	ソーシャルワーク実習指導			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3787
英文名	Guidance on Social Work			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	吉島 紀江			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワーク実習では、生活の基盤である施設生活全体に関わり、支援を必要とする人の生活支援や地域の状況、施設・機関等が地域社会の中で果たす役割について、施設利用児・者と起居を共にしながら生活経験を通して学び、多様なものの見方・考え方の視点、創意工夫する力を実践的に理解できるように進めていきます。ソーシャルワーク実習に向けて、実習先の役割や機能について理解を深めるために、講義のみならず施設見学や実習先の職員による講演を通じて学びます。実践的学びから、社会福祉サービス利用者の理解、実習施設・機関の役割・機能の理解、社会福祉援助者の実践（ソーシャルワーク等）の理解、さらに社会福祉援助者としての基本的な知識と技術さらには価値観について修得することを目指す。</p> <p>また、社会福祉専門職として必要な職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるよう他の教科目とも連結させ、具体的な体験や援助活動を概念化・理論化できる能力を促すように進めていきます。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実習の意義について理解できる</li> <li>2. 実習を通じて、大学で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解するための実習準備ができる</li> <li>3. 社会福祉の専門職としての自覚を促し、総合的に対応できる能力を修得できる</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜資料を配布する。								
参考書	随時紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーにはコメントを付して返却をする。 必要に応じて個別面談を行う。								
留意事項	準備物は予め伝えるが、G-mailもしくはClassroomを頻繁に使用することがあるので細目にチェックをするようにして下さい。								
オフィスアワー	講義終了時及び研究室で在室時は対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設での勤務経験あり</p>								

授 業 名		授 業 計 画
ソーシャルワーク実習指導		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講における受講にあたっての諸注意の確認、SW実習とSW実習指導との関連とその意義 (事前事後学修課題の内容)(15分) 体調を整えて、初回の授業に向けて準備する。
第2回	社会福祉専門職における職業倫理の理解	(学修内容)倫理綱領や人権について説明を行い、グループワークを通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 社会福祉士の倫理綱領やバイステックの7原則を事前に読んでおく。
第3回	高齢者福祉施設の実際	(学修内容)見学もしくは施設職員の方による講演を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 紹介した文献資料を読んでおく。
第4回	障害者・児福祉施設の実際	(学修内容)見学もしくは施設職員の方による講演を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 紹介した文献資料を読んでおく。
第5回	児童福祉施設の実際	(学修内容)見学もしくは施設職員の方による講演を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 紹介した文献資料を読んでおく。
第6回	社会福祉協議会もしくは児童相談所の実際	(学修内容)見学もしくは機関職員の方による講演を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 紹介した文献資料を読んでおく。
第7回	配属個別面談 前半	(学修内容)個別面談を行い、希望する実習種別について確認をする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 第3回～6回の授業を復習しておくこと。
第8回	配属個別面談 後半	(学修内容)個別面談を行い、希望する実習種別について確認をする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 第3回～6回の授業を復習しておくこと。
第9回	実習での観察と記録	(学修内容)観察という行為と記録の意義と方法を学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 紹介した文献資料を読んでおく。
第10回	実習に向けた諸手続き	(学修内容)健康診断書、検便検査等諸手続きについて説明を行い、実習準備の理解をする。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 事前に修学支援課より掲出された指示に従い証紙等必要なものを準備しておくこと。
第11回	個別事前面談 前半	(学修内容)実習担当教員による個別面談を行い、実習目標と課題、その他の実習に関する事項について指導を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シートに必要事項を記入し、面談時に持参する。
第12回	個別事前面談 後半	(学修内容)実習担当教員による個別面談を行い、実習目標と課題、その他の実習に関する事項について指導を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シートに必要事項を記入し、面談時に持参する。
第13回	実習計画の理解	(学修内容)実習計画を立てる意味について説明を行う。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 配布資料に必要事項を記入し、それを授業時に持参する。
第14回	実習計画の完成	(学修内容)施設への事前オリエンテーションの内容に基づきながら、実習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 配布資料に必要事項を記入し、それを授業時に持参する。
第15回	実習直前指導と実習壮行会	(学修内容)実習ノートの受け取り、提出、お礼状等について説明を行う。 (事前事後学修課題の内容)(10分) SW実習指導 において配布した資料等を準備しておくこと。

実 習 名	ソーシャルワーク実習（LC3788）	対 象 学 生	現代家政3回生、現代家政4回生
担 当 者	野田 隆生・吉島 紀江		
実習の概要	<p>1．実習の目的          ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を身につけることを目的とします。</p> <p>2．実習の内容          利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成          ?利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価          多職種連携及びチームアプローチの実践的理解          当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ          社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</p> <p>3．実習生に対する指導方法          巡回訪問指導を通じて、実習指導担当教員・実習生・実習指導者の三者が連携を図りながら適宜スーパービジョンを行う。</p> <p>4．実習形態          高齢者・障害者・児童・福祉事務所等関連機関で行う。          ?3回生の2・3月に24日以上、180時間以上の実習を行う。          通勤もしくは宿泊を伴う実習がある。</p> <p>5．事前・事後指導の内容等必要性について          1) 3回生春学期開講「ソーシャルワーク実習指導」ならびに秋学期開講「ソーシャルワーク実習指導」において事前指導を受けた者が実習を行うことができる。          2) 事前指導において無断欠席や提出物などに関して著しく不備があり、改善される兆候が見られない場合には、学外実習への配属を行わないことがある。          3) 事前指導の評価は、現場実習と連動しており単一科目としての評価ではない。すなわち、事前指導への取り組む姿勢が一定の基準に達していないと判断された場合には次の段階に進むことが困難になる。          4) 現場実習の終了後は、「ソーシャルワーク実習指導」において評価に基づくふりかえりを行う。          5) 実習記録ノートや出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>【留意事項】 COVID-19感染症について 最新の情報に注意を払い、自身の健康・体調管理を怠ることなく継続しましょう。</p> <p>1．現場実習に向けた条件          ・「ソーシャルワーク実習指導」ならびに「ソーシャルワーク演習」を受講し、評価の対象となっていること。          ・「ソーシャルワーク実習」の単位を取得するためには、「ソーシャルワーク実習指導」の単位を取得することを条件とする。</p> <p>2．実習態度、参加意欲          ・プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・利用者やその家族の権利擁護を最優先し、安全な実習が行えるよう危険防止ならびに体調管理を万全に行う。</p>		

授 業 名	図書館サービス概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2715
英 文 名	Introduction to Library Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館サービスにかかる理念、構造、活動内容、規範について公共図書館を基本として解説し、学びを深めていく。図書館サービスとネットワーク化の必要性など、現代の図書館における様々なサービスについて、その意味や意義を理解する。また近年の情報社会において図書館で扱う資料や情報提供サービスの基本と展開についても学んでいく。授業では、図書館に関する映像を見たり、ディスカッションやレポートの作成、プレゼンテーションにも取り組む。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 現代の図書館サービスについて、その基本と意義、理念を把握することができる。 2) 図書館における様々なサービスを学び、その多様な在り方について理解し、考察を深める。 3) 今後の図書館サービスの在り方を考えることができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	高山正也・村上篤太郎編『改訂 図書館サービス概論』樹村房、2019年								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	公共図書館等を積極的に訪れてその図書館でどのようなサービスが行われているかなどを注意深く観察してください。授業の予習・復習は欠かさずに行い、わからない点などがあれば次の授業までに調べるなど自ら学習を深める努力を行うようにしてください。出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位は与えません。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	担当授業終了時に実施する。また毎授業時にコメント等を書く用紙を配布するので、質問などがあればその用紙を活用すること。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて図書館サービスについて話をします。								

授業名	図書館サービス概論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業の概要説明、公共図書館における図書館サービスについて	(学修内容) 授業の概要(授業計画、内容、評価方法、本講義の進め方等についての説明)、図書館のサービスとはどのようなものであるのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今まで自分が図書館で体験した、もしくは見聞きしたことのある図書館サービスについて考えておく。
第2回	図書館サービスの意義と理念1 - 図書館サービスの概要 -	(学修内容) 様々な図書館サービスについての解説、その意義や理念などを概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1・2項を読んでおくこと。
第3回	図書館サービスの意義と理念2 - 図書館業務の概要 -	(学修内容) 図書館で行われている業務にはどのようなものがあるのかを考えてくる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章3 - 5項を読んでおくこと。
第4回	公共図書館サービスの変遷	(学修内容) 公共図書館サービスの基盤整備から市民の図書館への流れと今日の公共図書館サービスの確立についてを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第2章を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスとコンプライアンス	(学修内容) 知識のデジタル化・オープンアクセス化についてを中心に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章を読んでおくこと。
第6回	資料提供サービス	(学修内容) 公共図書館を主とした閲覧サービスと貸出サービスを中心に説明し、その意味を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第4章を読んでおくこと。
第7回	情報提供サービス	(学修内容) レファレンスサービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第5章を読んでおくこと。レファレンスサービスに関する課題を課す。
第8回	図書館サービスの協力と連携	(学修内容) 図書館や関係機関との協力・連携について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書第6章を読んでおくこと。
第9回	課題解決支援サービス	(学修内容) 各種課題解決支援サービスを事例映像を観ながら確認及び解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第7章を読んでおくこと。
第10回	利用者対象別サービス - 多文化サービス、障害者サービス、高齢者サービスについて -	(学修内容) 外国の方への図書館サービスや、障害者、高齢者の方への図書館サービスについてを解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第8・9章を読んでおくこと。
第11回	図書館サービスとコミュニケーション	(学修内容) 利用者に対する接遇・広報について理解する。第7回の授業で課した課題の発表とディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 公共図書館のHPや広報物等を確認しておくこと。
第12回	図書館サービスと著作権1 - 著作権の概要 -	(学修内容) 著作権の意義と概要について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第13回	図書館サービスと著作権2 - 図書館における著作権 -	(学修内容) 図書館で行われている複写サービスを中心に解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第3章3項を読んでおくこと。
第14回	図書館サービスの課題と展望	(学修内容) これまで学んできた内容を振り返り、現代の図書館サービスについての理解を深め、これからの課題、問題点などを考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 今まで学んできたことを振り返って復習し、図書館に必要なサービスとは何かを考えてくる。教科書第11章を読んでおくこと。
第15回	図書館サービスの未来：授業まとめ	(学修内容) これからの図書館の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 教科書を再度通読すること。

授 業 名	児童サービス論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2717
英 文 名	Theory of Child Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	杉岡 和弘			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務である。子どもは、生涯続く図書館利用者だからです。知識を得るだけでなく、業務の実際を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成をめざします。</p> <p>子どもの図書館にとって、1. 子どもを知ること、2. 子どもの本を知ること、3. 子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 公共図書館における児童サービスの役割を生涯学習者形成の観点から理解できること。</p> <p>2) 児童図書館員の役割を主眼に、講義中の各テーマについて自分の視点に沿って意見を論述できること。</p> <p>3) グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	使用しない(Google Classroomで授業スライドなどPDF配布)。								
参 考 書	<p>堀川照代編著、『児童サービス論』,日本図書館協会,2014,ISBN9784820413158</p> <p>日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1・2』,日本図書館協会,2011,ISBN9784820411062,ISBN9784820411079</p> <p>杉岡和弘著、『子ども図書館をつくる』(図書館の現場 ; 4), 2005,勁草書房.ISBN9784326098309</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。</p> <p>コメントシートの記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。</p>								
留 意 事 項	<p>授業は、学んだことをグループ討議を通して学習していく。また、グループ学習の報告・課題のレポート提出・小テストが学習システムで求められる。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。課題・小テストは、随時与えられるので、心構えしてほしい。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：香寺町立図書館における館長、姫路市立図書館における司書の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説します。</p>								

授業名	児童サービス論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要や課題、学習方法を説明する。  (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。
第2回	子どもを知る	(学修内容) 子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。  (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの成長と読書の関係を、自分の経験をもとに考えておくこと。また、グループ討議します。
第3回	子どもの図書館を知る	(学修内容) 子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の図書館経験をグループ討議します。また、課題「図書館見学レポート」が出題されます。
第4回	子どもの本を知る(1)	(学修内容) 就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第5回	子どもの本を知る(2)	(学修内容) 学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第6回	本を選ぶ(1)	(学修内容) 児童図書出版状況、選書の実際とその重要性を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童サービスにとって選書の大切さを整理しておくこと。次週、また課題の「書評(レビュー)スリップ」を利用して選書会議をします。
第7回	本を選ぶ(2)	(学修内容) 書評(レビュー)スリップを利用して、グループ討議を通して選書を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 選書会議で、得られた他メンバーの意見の相違点や類似点を書評(レビュー)スリップにまとめておくこと。
第8回	書評を書く	(学修内容) 書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、評価することを学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップをもとに、「書評を書く」課題について、締め切り、字数に留意して作成してください。
第9回	ブックリストを作る	(学修内容) 子ども向けの文章の違いを学び、子どものためのブックガイドの書き方、ブックリストを作成について考えます。  (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「テーマ探し」を参考に、課題「ブックリストを作る」について書評(レビュー)スリップをもとに取り組んでください。
第10回	子どもの本を紹介する	(学修内容) 公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもに直接本を紹介する技術にはどのようなものがあるか、またどのような違いがあるか整理してください。
第11回	子どもの図書館を考える	(学修内容) 図書館計画において子どものために留意する点について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「図書館見学レポート」をもとに、グループ討議をします。子どもに対する配慮や利用しやすい図書館を考えます。
第12回	児童室のレイアウトを考える	(学修内容) 図書館の中の児童室の書架レイアウトを考えます。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「児童室のレイアウトをつくる」が出題されます。グループ討議の意見を参考にし、課題に取り組んでください。
第13回	子どもの図書館の運営	(学修内容) ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学ぶ。  (事前事後学修課題の内容) (60分) ヤングアダルト文学の特徴、それぞれの特別なニーズに対してどのような資料があるか整理してください。
第14回	子ども読書活動推進計画を考える	(学修内容) 児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考える。  (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「子ども読書活動推進計画を考える」を、次回授業時にプレゼンテーションで発表できるように準備をしてください。
第15回	おはなし会の実際とグループ発表「子ども読書活動推進計画」	(学修内容) おはなし会の実際について学ぶ。「子ども読書活動推進計画」をグループ発表します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 他のグループの「子ども読書活動推進計画」との相違や類似について整理してください。

授 業 名	情報サービス論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2716
英 文 名	Theory of Information Services			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	授業にて指示する。								
参 考 書	『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道、樹村房、2012年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	・ 図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・ 本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								

授業名	情報サービス論 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容)図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容)情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容)レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容)レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容)情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容)情報検索システムにおける検索過程の内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容)個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容)著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容)オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容)電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容)レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容)今後の情報サービスあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授業名	図書・図書館史 u			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	LC2719
英文名	History of Books and Libraries			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。  2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。  3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	<p>佃一可『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11)、樹村房、2012年</p>								
参考書	<p>随時指示する。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。</p>								
留意事項	<p>普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察してもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。</p>								
オフィスアワー	<p>毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。</p>								

授業名	図書・図書館史 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容)文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容)修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容)ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容)大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容)紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容)印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容)奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容)鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容)江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容)明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容)第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容)これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容)前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	情報サービス演習 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3781
英 文 名	Information Service Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) バスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点		知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テ キ ス ト	原田智子『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ7）、樹村房、2021年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	<p>・レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。（「情報サービス論」あるいは「情報サービス」を履修済みであることが望ましい。） ・講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかりと復習すること。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。</p>								

授業名	情報サービス演習 u	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。 テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。

授業名	図書館情報技術論 u			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3780
英文名	Theory of Library Information Technology			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	岡 紀子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題や、グループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	改訂 図書館と情報技術(樹村房)2018 4月発刊								
参考書	・図書館情報技術論 田中均 青弓社 2019年 ・新版 デジタルアーキビスト入門 : デジタルアーカイブの基礎 2019年 1100円(税込み) 樹村房 ・新しい産業創造へ(デジタルアーカイブ・ベーシック5) 2021年5月 2750円時実 象一 勉誠出版 ・自然史・理工系研究データの活用(デジタルアーカイブ・ベーシック3) 2020年4月2750円井上 透 勉誠出版 ・検索スキルをみがく 第二版 検索技術者検定3級 公式テキスト編集: 原田智子著: 吉井隆明 森美由紀(樹村房)								
課題に対するフィードバックの方法	・提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。 ・制作物などについては、その実習中に個別に対応します。								
留意事項	・授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せずに各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既成概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。 ・自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。								
オフィスアワー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授 業 名		図書館情報技術論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第8回	図書館の新たなITの活用 その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書管理システムの概要、ICタグ、自動化技術等を活用したシステムについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第9回	図書館の新たなITの活用 その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ、ディスクバリーサービスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第11回	デジタルアーカイブ ・最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 ・図書館における障がい者支援のとりくみ DAISYの作成の概要: アカウントとPWを配布	(学修内容) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習	
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認	
第13回	最終レポート提出 プレゼンテーション(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 課題レポートの発表(1) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第14回	レポートのプレゼンテーション(2) マルチメディアDAISY作成の演習(3) 継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続	
第15回	レポートのプレゼンテーション(3) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成	

授 業 名	図書館情報資源概論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2718
英 文 名	Introduction to Library Information Resource			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8)学文社, 2016年								
参 考 書	馬場俊明編『図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズ 8』日本図書館協会, 2018年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など: レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授業名	図書館情報資源概論 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。
第3回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型、図書、逐次刊行物、小冊子、視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴、などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-25 を読んでまとめておくこと。
第4回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。
第5回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p32-37を読んでまとめておくこと。
第6回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p. 38-43を読んでまとめておくこと。
第7回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。
第8回	コレクション形成の理論	(学修内容) コレクション形成における資源、コレクション形成理論の史的展開について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト8章p. 50-57を読んでまとめておくこと。
第9回	コレクション形成の方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p. 58-63を読んでまとめておくこと。
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと。
第14回	電子書籍、電子ジャーナル	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと。
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと。

授 業 名	図書館基礎特論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3748
英 文 名	Special Lecture on Library			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館司書課程の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的動向を表すサービスの一つである課題解決支援サービスの在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して考察を深める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 図書館サービスに関してテーマを各自で設定し、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。</p> <p>2) 図書館の課題解決支援サービスが求められる背景と今日的意義について説明することができる。</p> <p>3) 公共図書館で行われている課題解決支援サービスを紹介する資料を作成し、プレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留 意 事 項	受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な情報を収集し、整理し、資料を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	公共図書館とは	(学修内容)図書館の定義、公共図書館の意義について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館の定義について調べておくこと。	
第3回	公共図書館の今日的課題について	(学修内容)公共図書館の管理運営やサービス内容からみる今日的な課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。	
第4回	公共図書館運営の新たな動向について	(学修内容)指定管理者制度等の公共図書館をめぐる新たな動向について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。	
第5回	図書館サービスを考える	(学修内容)地域住民に奉仕する公共図書館のサービスの在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、図書館サービスの内容を確認すること。	
第6回	レファレンスサービスについて	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。	
第7回	課題解決支援サービスについて	(学修内容)ビジネス支援サービス等の課題解決支援サービスの意義と課題について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、課題解決支援サービスの内容を調べておくこと。	
第8回	レファレンス協同データベースについて	(学修内容)レファレンス協同データベースの意義について考察する。データベースを用いてレファレンスサービスの具体的事例を検索する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 検索したいテーマを考えておくこと。	
第9回	サードプレイスについて	(学修内容)公共図書館に求められる役割として注目されるサードプレイスの概念について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。	
第10回	ラーニングコモンズについて	(学修内容)ラーニングコモンズが求められる背景とその内容について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。	
第11回	図書館建築の動向(吹き抜け等)	(学修内容)図書館建築に見られる吹き抜け等について、その意義と課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。	
第12回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。	
第13回	発表資料作成	(学修内容)図書館サービスを紹介する資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 図書館で関連する資料を収集する。	
第14回	発表	(学修内容)各自で調べた図書館サービスの内容を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表資料を完成させておく。	
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。	

授 業 名	図書館制度・経営論 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3779
英 文 名	Theory of Library System and Management			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授 業 名		図書館制度・経営論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。	
第2回	図書館の制度	(学修内容)図書館設置を規定する各法律について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第3回	図書館法	(学修内容)図書館法の条文を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文をよく読んでおくこと。	
第4回	他館種の図書館に関する法律	(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。	
第5回	図書館サービスと法律	(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。	
第6回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度	(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。	
第7回	図書館の管理運営の外部化 PFI	(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。	
第8回	図書館のサービス計画	(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第9回	図書館のマーケティング	(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第10回	図書館の建築計画	(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。	
第11回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画	(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。	
第12回	レイアウト図をつくる 書架	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。	
第13回	レイアウト図をつくる 閲覧席	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。閲覧席を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の閲覧席配置について調べておくこと。	
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画	(学修内容)作成したゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。	
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図	(学修内容)コンセプトをふまえてゾーニング計画及びレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。	

授業名	保育実習指導 u a			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子・芹澤 出			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	保育実習を行うために必要な事項について学ぶ。講義形式の授業を通して、保育実習の目的や概要、各実習施設の役割や機能、さらに実習を記録する方法について学ぶ。演習形式の授業を通して、子どもや利用者とのかかわりや記録の書き方を実践的に学ぶ。実習日誌の記述方法や目標設定について、グループワークを行う。子どもや利用者の人権やプライバシー保護に配慮した実習について理解し、保育士の専門性を学ぶ。								
学修成果到達目標	1) 保育実習の目的や概要などについて理解する。 2) 各種施設の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。 3) 人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解する。 4) 実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業でプリントを配布する								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	実習ノートの書き方、実習目標の立て方などの各種課題について、学生相互にチェックしながら学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：芹澤 出先生 母子生活支援施設「野菊荘」施設長 近本佳子先生 元風の子保育園(京都市内)主任								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画	保育実習指導 u a		
第1回	保育実習とは	(学修内容) 保育実習の目的を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 保育実習のイメージを自分なりに考えてみる	
第2回	保育実習について (保育実習全般について)	(学修内容) 保育実習の全体像を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第3回	保育実習について (障害児施設について)	(学修内容) 障害児施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第4回	保育実習について (養護系施設について)	(学修内容) 養護系施設における実習の特性を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のまとめをレポートする	
第5回	実習ノートの書き方の講義	(学修内容) 実習ノートの書き方を解説する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業出された課題を仕上げる	
第6回	実習ノートの書き方の演習	(学修内容) 先週の講義を受けて演習を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を受けて、課題を書き直す	
第7回	実習についての質問の会	(学修内容) 実習にあたっての質問を出す (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問を考えてくる	
第8回	施設実習を成功させるためのポイント	(学修内容) 施設実習を成功させるためのポイントを解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容をまとめておく	
第9回	実習目標の立て方についての講義	(学修内容) 実習目標の立て方について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を成功させるために自分の目標を考える	
第10回	各自の実習目標を検討する	(学修内容) 小グループで実習目標を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習目標を立て直す	
第11回	実習にあたっての諸留意事項	(学修内容) 実習に対する心構え・諸手を伝える (事前事後学修課題の内容) (60分) 諸手を完了する	
第12回	春実習に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談をうけて、課題を見直す	
第13回	名札作製など実習準備	(学修内容) 名札や自己紹介カードをつくる (事前事後学修課題の内容) (60分) 名札や自己紹介カードをつくる	
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の行く施設について調べる	
第15回	春実習直前指導	(学修内容) 春実習の諸注意を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の準備ができているか確認する	

授業名	保育実習指導 ub			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC2729
英文名	Guidance on Child Care Training			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	芹澤 出・西川 由紀子・山川 宏和・近本 佳子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	演習形式の授業を通して、保育実習を円滑にすすめていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化する。施設実習の事後指導としては、実習の評価をみながら、各自の課題を見つけ、新たな学習目標を明確化させていく。保育所実習の事前指導としては、講義で保育士の役割、保育実習の意義、目的、内容について伝えていく。また、設定保育の指導案の立て方の解説を行ったうえで、指導案の立案から実施、振り返りまでを体験する。こうした取り組みをとおして、保育所実習の目標を具体的にしていく。実習日誌の記述方法や、目標設定について、グループワークを行う。								
学修成果到達目標	1) 施設実習の振り返りを行い、保育所実習に生かす。 2) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。 3) 人権やプライバシーの保護など、保育士の専門性と職業倫理を理解する。 4) 実習における記録の方法を理解し、事後には自己評価を行って課題を明確化する。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	授業でプリントを配布する。								
参考書	使用しない。								
課題に対するフィードバックの方法	施設実習の振り返り、保育所実習の目標、設定保育の指導案など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留意事項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為をおこなっている場合については、厳しく対応する。無断欠席、遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習の単位が取得できることを条件とする。								
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	<b>実践的教育</b> <b>教員の実務経験など：</b> 芹澤 出先生 野菊荘施設長 近本 佳子先生 元風の子保育園(京都市内)主任								

授 業 名		保育実習指導 u b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	施設実習の振り返りと今後の実習について	(学修内容)施設実習を振り返り、保育所実習の課題を考える  (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習について振り返る
第2回	施設実習報告会	(学修内容)施設実習での体験を発表する  (事前事後学修課題の内容)(15分) 施設実習での体験をまとめておく
第3回	指導案の立て方	(学修内容)指導案の立て方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる
第4回	指導案の立て方の実際	(学修内容)指導案の展開を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案についてイメージをつくってくる
第5回	施設実習事後面談	(学修内容)個人面談を実施する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 施設実習を振り返る 指導案を立案する
第6回	施設実習からの課題抽出	(学修内容)施設実習を経て自らの課題を抽出する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 施設実習の学んだことをまとめる
第7回	保育士倫理綱領、実習目標の立て方	(学修内容)保育士倫理綱領と実習目標の立て方を学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育士倫理綱領を読んでくる
第8回	保育所実習記録の書き方 実習目標の再検討	(学修内容)実習記録の書き方を解説する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 実習目標を立ててくる
第9回	設定保育とその記録 製作活動	(学修内容)小グループで指導案を実施する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案が実施できるように準備する 実習目標を立て直してくる
第10回	設定保育とその記録 からだを使った遊び	(学修内容)小グループで指導案を実施する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する
第11回	設定保育とその記録 模擬保育を記録する	(学修内容)小グループで指導案を実施する。  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる 指導案が実施できるように準備する
第12回	保育所実習にむけての面談	(学修内容)個人面談を実施する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 指導案実施についてのコメントを書いてくる
第13回	保育所についての事前学習	(学修内容)保育所について学習する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所での自分の課題を考えるための資料を集める
第14回	課題に基づいた事前学習	(学修内容)自分の課題に基づいて事前学習する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 保育所実習の事前学習課題を実施する
第15回	保育所実習直前指導	(学修内容)保育所実習の諸注意を確認する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 提出書類に必要なものを用意する

授 業 名	情報資源組織論 u			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2733
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化につき、その意義の理解を進め目録法等の基礎知識を獲得すると共に、ネットワーク時代の資料・情報組織化の最新状況の理解を目的とする。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 情報資源組織化の手法(記述目録法)の基本的事項を説明できる。 2) 情報資源組織化の手法(分類法・件名法など)の基本的事項を説明できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				
テ キ ス ト	田窪直規 『三訂 情報資源組織論』樹村房 2020年 ISBN;978-4-88367-339-1								
参 考 書	講義で紹介。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物を添削し、コメントをつけて返却する。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて情報資源の組織化について話をします。								

授 業 名	情報資源組織論 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織論資料組織化の目的	(学修内容) 当該科目と図書館司書科目について (事前事後学修課題の内容) (20分) 図書館情報資源の配列やOPACを確認する
第2回	情報資源組織論の概要について	(学修内容) 2つの探し方、検索をする仕組み、情報資源組織論の骨格、専門用語 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章を読む
第3回	情報資源の組織化、図書館情報資源の配列、検索手段について	(学修内容) 情報資源組織、図書館法、記述目録法、主題索引法(主題目録法)、排列(配列)、別置、サイン計画等 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章を読む
第4回	目録について	(学修内容) 目録の役割、書誌分類、目録の種類、OPAC (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章を読む
第5回	目録の機能について	(学修内容) 目録の種類、目録の機能、検索機能、集中機能・識別機能、著者名典拠ファイル、同定識別、分類目録、件名目録 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第2章「1. 目録と目録法の意義」「2. 目録法の基本的な考え方」を読む
第6回	目録の機能、典拠コントロールについて	(学修内容) 書誌コントロール、典拠コントロール、典拠データ(典拠ファイル)、著者とは?、著作とは? (事前事後学修課題の内容) (10分) 教科書第2章「2. 目録法の基本的な考え方」を読む
第7回	FRBR(書誌レコードの機能要件)について FRBR(書誌レコードの機能要件)、著作(Work)、表現形(Expression)、体現形(Manifestation)、個別資料(Item)、国際目録原則覚書	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティについて (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第2章「3. FRBRモデル」～「6. 実体間の関連の記録」を読む
第8回	目録規則の歴史について	(学修内容) 目録規則、RDA、FRBRモデル、日本目録規則、書誌階層、ISBD (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第2章「2. 目録法の基本的な考え方」、「7. 目録法の歴史的発展と現在」を読む
第9回	日本目録規則2018年版、メタデータ、インターネットの検索エンジンについて	(学修内容) 日本目録規則2018年版(NCR2018)、メタデータ、ダブリン・コア、検索エンジン (事前事後学修課題の内容) (40分) 教科書第1章p.14-15、第2章「7. 目録法の歴史的発展と現在」(3)、第3章を読む
第10回	コンピュータ目録について	(学修内容) OPAC(Online Public Access Catalog)、キーワード検索、Nグラム (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第3章p.66-70、p.79-81を読む
第11回	総合目録、書誌ユーティリティ、横断検索、ILL(Inter Library Loan)について	(学修内容) 総合目録、書誌ユーティリティ、横断検索、ILL(Inter Library Loan)、ディスクバリーOPAC (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第3章p.74-84を読む
第12回	主題索引法について	(学修内容) 既知文献検索と未知文献検索、トピックスとサブジェクト、分類目録、日本十進分類法新訂10版、NDC10、分類記号 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第4章p.101-106、第5章p.112-123を読む
第13回	『日本十進分類法 新訂 10 版』について 1	(学修内容) NDC10 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第5章p.122-147を読む
第14回	『日本十進分類法 新訂 10 版』について 2	(学修内容) NDC10 (事前事後学修課題の内容) (20分) 教科書第5章p.122-147を読む
第15回	『基本件名標目表第4版』、シソーラスについて	(学修内容) 自然語、統制語と主題検索、件名目録・件名標目表、シソーラス、事前結合方式と事後結合方式 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書第5章p.136-142、第6章を読む

授 業 名	情報資源組織演習 u			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4819
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	川瀬 綾子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 多様な情報資源に関する書誌データの作成が出来る。 2) メタデータの作成が出来る。 3) NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	北克一、村上泰子共著『資料組織演習 改訂第4版』エム・ビー・エー 201年出版								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	授業中に行う課題については、添削をし、解説をする。								
留 意 事 項	講義内容を復習すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：図書館司書として児童図書館、学校図書館、病院図書室に勤務。実務経験も踏まえて情報資源の組織化について話をします。								

授 業 名	情報資源組織演習 u	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報資源組織化業務について、書誌レコード検索演習	(学修内容) 情報資源組織化の意義と目的、日本目録規則、ISBD、書誌ユーティリティについて解説、書誌レコードの検索演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。
第2回	和図書所蔵登録	(学修内容) 和図書所蔵登録の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第3回	和図書所蔵流用入力、和図書所蔵新規入力	(学修内容) 書誌レコード流用入力、新規入力の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第4回	和図書所蔵新規入力2	(学修内容) 書誌レコード新規入力の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第5回	洋図書所蔵登録、洋図書所蔵流用入力	(学修内容) 洋図書所蔵登録、流用入力の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第6回	洋図書所蔵新規入力	(学修内容) 書誌レコード新規入力の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第7回	洋図書所蔵新規入力2	(学修内容) 書誌レコード新規入力の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第8回	典拠コントロール演習、雑誌所蔵登録演習	(学修内容) 典拠コントロールの演習、雑誌の所蔵登録の演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第9回	メタデータ演習	(学修内容) メタデータの演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。
第10回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。
第11回	基本件名標目表による件名付与	(学修内容) 基本件名標目表の構成、利用の仕方を解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。
第12回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類の概要、一般補助表(形式区分等)・固有補助表、相関索引の活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。
第13回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 日本十進分類法の言語区分、固有補助表(言語共通区分・文学共通区分など)に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。
第14回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 分類規程、図書記号の付与に関する解説、演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。
第15回	日本十進分類法による分類作業	(学修内容) 演習問題 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の該当部分を見て、復習しておくこと。間違えた課題は再度確認しておくこと。

授 業 名	生活科学実験			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コー ド	LC3792
英 文 名	Experiments of Life Science			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>近年の生産・加工技術の進歩や流通の変化等によって、私たちは日常生活において多様な食品を手に入れることが出来るようになりました。多様な食品にアクセスできることは、私たちの食のニーズや好みを満たし、生活の豊かさにつながっています。その一方で、生産・加工や流通のプロセスが複雑化することにより、私たちは普段手に入る食品がどの様にしてつくられているのかを判断し難くなってきています。</p> <p>本実験では身近な食品を取り上げ、実験を行い、食品の特性について理解するとともに、食品を分析して考察する力を養うことを目標としています。講義で学んだ事項について、実験実習をとおして原理や方法を確認するとともに、データ分析などを行うことにより、科学的な視点で考察を深めていきます。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 科学的な視点で分析することができる。</p> <p>2) 食品の特性についての正しい知識を身につける。</p> <p>3) 日常使用する食品の問題点に気づくことができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	毎回プリントを配布します。								
参 考 書	「基礎からの食品・栄養学実験」 村上俊夫編著、建帛社								
課題に対するフィードバックの方法	毎回、提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	実験方法について予習をしておく。講義のあと、グループで実験を行う。 実験後、レポートを作成して次回に提出する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の実験で指示します。								
実践的教育									

授業名	生活科学実験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 私達の身近な暮らしにある食の科学について考える 実験器具等の使用時の注意事項について (事前事後学修課題の内容)(60分) 生活の中でどの様に食べものが加工、調理、保存、消費されているかを意識すること
第2回	実験の基礎	(学修内容) 実験の基本操作(計量、測定値の扱い方)、レポートのまとめ方などを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	調理科学実験1: 野菜	(学修内容) 野菜の色と加熱に伴う変化について考える(野菜染め) 野菜それぞれの特有の色や天然色素の性質について (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第4回	調理科学実験2: 砂糖	(学修内容) 砂糖の加熱による変化について考える(べっこうあめ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第5回	調理科学実験3: 卵	(学修内容) 卵の特性について考える(卵焼き) (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第6回	調理科学実験4: 小麦	(学修内容) 小麦の特性について考える(うどん) (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第7回	食品の安全・衛生に関する実験1: 水質検査	(学修内容) 水の基礎的性情(pH含む)遊離残留塩素などの測定をとおして衛生的な水の管理について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第8回	食品の安全・衛生に関する実験2: 細菌検査	(学修内容) 一般細菌数の測定をとおして食中毒の発生について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第9回	食品加工実験1: 食肉	(学修内容) ソーセージの製造をとおして肉の加工について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第10回	食品加工実験2: 大豆	(学修内容) 豆腐の製造をとおして大豆の加工について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第11回	食品加工実験3: 乳	(学修内容) パターの製造をとおして乳の加工について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第12回	食品学実験1: テクスチャー測定	(学修内容) 寒天とゼラチンのテクスチャーの違いについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第13回	食品学実験2: 官能評価法	(学修内容) 官能検査の種類と方法から味覚について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第14回	食品学実験3: 塩分濃度測定	(学修内容) 身近な食品(みそ汁等)の塩分濃度の違いについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 実験方法等について予習しておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの実験についてのまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの実験を振り返り、実験レポートを整理しておく

授 業 名	食品衛生学(フードスペシャリスト資格)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3762
英 文 名	Food Hygiene			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	桐村 ます美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>飲食等に起因する健康被害を予防し、人の生命と健康を守るために食品の安全性確保のための基礎知識を修得する。生産、加工、保存、流通、調理を経て、消費者により食品として食されるまでの全ての過程において安全な食べ物を確保するための仕組みを理解するために、食品の変質、食中毒、環境汚染や微生物汚染、食品関連の衛生法規について理解するとともに、近年関心の高いHACCPによる衛生管理など新しい知見や安全性確保のための考え方や取り組みを学ぶ。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品の安全性、衛生確保に関連する基本事項である健康被害の原因物質と対策を説明できる。  2) 食品の衛生的取り扱い、安全管理の現状について解説できる。  3) 食品衛生管理のためのHACCPシステムを説明することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	三訂食品の安全性、日本フードスペシャリスト協会 編、建帛社								
参 考 書									
課題に対するフィードバックの方法	確認テストおよびレポート後に解説を行っていく。								
留 意 事 項	テキストを読み、知らない語句について調べる。 興味を持った内容については自主的に調べる習慣を身につける。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：栄養士養成校に教員として勤務経験あり								

授 業 名	食品衛生学（フードスペシャリスト資格）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品衛生とは	（学修内容）食品の安全性、食品生産から消費までの安全性確保 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p1-8読みまとめておく
第2回	食品衛生と微生物	（学修内容）微生物の種類、特性、検査法について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p10-15を読んでおく
第3回	食品の変質とその防止	（学修内容）微生物などによる食品の変質とその防止方法について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p15-24を読み整理しておく
第4回	食中毒と発生状況	（学修内容）食中毒の分類と発生状況について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p25-32を読み近年の食中毒の発生状況を調べておく
第5回	微生物性食中毒	（学修内容）微生物、寄生虫による食中毒について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p33-49を読んでおく 食中毒事件について、背景、経過、関与者について調べておく
第6回	自然毒、化学性食中毒	（学修内容）動物性自然毒、植物性自然毒、化学性食中毒について 食中毒事件について、ディベートを行う （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p50-59を読み、自然毒についてまとめておく。
第7回	食品の安全性：食肉製品、水産加工食品など	（学修内容）食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵について原料や製造工程・流通過程での安全性確保の課題 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p61-74を読み、食品の安全性についてレポートをまとめておく
第8回	食品の安全性：惣菜食品ほか、冷凍食品	（学修内容）冷凍食品、惣菜食品などについて原料や製造工程・流通過程での安全性確保の課題 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p75-84を読みレポートにまとめておく
第9回	家庭における食品の安全保持	（学修内容）微生物の汚染源となる台所用品、冷蔵・冷凍庫、電子レンジなどの取り扱いについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p85-100を読み家庭内での安全が保持されているか調べておく
第10回	環境汚染と食品	（学修内容）環境中の有害化学物質や放射性物質による食品汚染について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p101-114を読み、身近な環境汚染について考える
第11回	食品用の器具および容器包装	（学修内容）食品用の器具、容器包装の安全性について。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p115-122を読んでおく 容器包装の材質識別マークを食品店で探し、グループ討議を行う
第12回	水の衛生、食品の表示	（学修内容）水の安全性に関する水質基準について、食品表示について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p123-137を読んでおく 食品の表示を市販食品の中から確認しておく
第13回	食品添加物	（学修内容）食品添加物の分類、用途、作用、特徴について （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p138-154を読んでおく 食品添加物の添加されている食品を探す
第14回	食品の新しい安全性問題	（学修内容）食品の新しい安全性問題について 遺伝子組換え食品、発がん物質、アレルギー物質を含む食品 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p154-176を読み整理しておく
第15回	食品衛生管理と対策	（学修内容）食品の安全確保に関する法制度や組織を学ぶとともに、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPシステムについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書p177-191を読み食品の安全管理について調べておく

授業名	フードコーディネート論			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3763
英文名	Theory of Food Specialist			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	塩田 二三子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>「食」とは生きるために必要な栄養の摂取のみならず、近年、心の栄養という面でもその重要性が注目されている。だからこそ演出することで、本当においしい状態や心地よい環境で食を提供することは大変重要であるといえる。そこでこの授業では、わが国および諸外国の食文化や調理文化、そしてテーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどについて学ぶとともに、食環境にも触れ、食生活をトータルにコーディネート出来る力を修得する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 「食」の精神的な意義を理解できる。  2) これからの食生活を豊かなものにコーディネートできる。  3) 「食」に関する企画を立てることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( ) ( )			
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』建帛社								
参考書	使用しない								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却する								
留意事項	フードスペシャリスト資格認定試験を意識した授業内容となる。資格取得希望者は、毎時間、試験勉強のつもりで受講すること。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡する。								
実践的教育									

授業名	フードコーディネート論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フードコーディネートの基本理念	(学修内容) おいしさとは、もてなしの意味とは (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.2-13を読んでおくこと。
第2回	食事の文化1 (日本の食文化)	(学修内容) 日本の食事文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.15-29を読んでおくこと。
第3回	食事の文化2 (諸外国の食文化)	(学修内容) 諸外国の食事文化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.29-33を読んでおくこと。
第4回	日本のテーブルウェア	(学修内容) 日本の食器・食具について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.35-43を読んでおくこと。
第5回	西洋および中国のテーブルウェア	(学修内容) 西洋および中国の食器・食具について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.43-51を読んでおくこと。
第6回	テーブルセッティングとテーブルコーディネート	(学修内容) テーブルセッティングの基本ルールとテーブルコーディネートのポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.51-55を読んでおくこと。
第7回	食事のサービスとマナー	(学修内容) 食卓におけるサービスとマナーの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.57-80を読んでおくこと。
第8回	メニュープランニング	(学修内容) 献立作成に必要な知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.81-98を読んでおくこと。
第9回	食空間のコーディネート	(学修内容) 食空間のコーディネートの基礎を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.99-122を読んでおくこと。
第10回	フードビジネスの展開	(学修内容) レストランビジネスの展開について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.123-133を読んでおくこと。
第11回	フードビジネスの投資・収支計画	(学修内容) 投資計画、収支計画の作成について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.134-143を読んでおくこと。
第12回	食企画の実践 (企画案のたてかた)	(学修内容) 食企画のたてかたを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (20分) テキストp.146-163を読んでおくこと。
第13回	食企画の実践 (企画する)	(学修内容) 食企画をたててみる (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で食企画の素案をたててくる
第14回	食企画の実践 (評価)	(学修内容) たててみた食企画について評価しあう (グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (30分) 実際に行われている食企画について調べてくる
第15回	これまでの復習	(学修内容) 認定試験の過去問題を利用して復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの授業内容を振り返って復習しておくこと

授 業 名	食品鑑別論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3760
英 文 名	Theory of Food Discrimination			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山本 明美			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>フードスペシャリストは食品の特性についての深い知識を持つとともに品質を見抜く力が必要である。食品の品質を判定するためには対象である食品の化学的および物理的性質だけでなくその評価法についても理解しておかなければならない。本講義では、これら個々の食品の品質に関する基礎知識について学んでいく。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 食品鑑別の意義や目的について理解することができる  2) 食品の成分と品質の関わりについて理解することができる  3) 食品の鑑別を正しく行うことができる</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編(建帛社)								
参 考 書	食品学-栄養機能から加工まで-第3版								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題、小テストについてはコメントをつけて返却する								
留 意 事 項	テキストは食品の官能評価演習にも使用する								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回授業時に連絡します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		食品鑑別論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食品の品質について	(学修内容) 食品に求められる特性と品質について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P1-2を読んでおく
第2回	穀類の鑑別 米	(学修内容) 米の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P87-94を読んでおくこと
第3回	穀類の鑑別 小麦	(学修内容) 小麦およびその他の穀類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P94-106を読んでおくこと
第4回	イモ類、豆類の鑑別	(学修内容) イモ類、豆類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P107-115を読んでおくこと
第5回	野菜類の鑑別	(学修内容) 緑黄色野菜と淡色野菜の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書P116-124を読んでおく, 自宅の野菜の保存方法について調べておく
第6回	果物類、海藻類、キノコ類の鑑別	(学修内容) 果物類、海藻類、キノコ類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書P126-138を読んでおくこと
第7回	植物性食品の品質変化	(学修内容) 保存に伴う萎凋、加工に伴う色素変化、乾燥、追熟などによる品質の変化などについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p122-124を読んでおくこと 植物性食品の鑑別についてまとめておく
第8回	魚介類の鑑別	(学修内容) 魚介類の種類と成分の季節変動および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p139-150を読んでおくこと
第9回	肉類の鑑別	(学修内容) 肉類の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p151-161を読んでおくこと
第10回	卵とその加工品の鑑別	(学修内容) 卵とその加工品の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p162-168を読んでおくこと
第11回	乳・乳製品の鑑別	(学修内容) 乳・乳製品の種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p168-177を読んでおくこと
第12回	油脂の鑑別	(学修内容) 油脂の種類および分類方法および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p177-183を読んでおくこと
第13回	酒類の鑑別	(学修内容) 酒の種類と主な生産地および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書187-198を読んでおくこと
第14回	茶類、各種飲料の鑑別	(学修内容) 茶類およびコーヒー、ココア、清涼飲料水の種類と主な産地および品質評価について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p198-209を読んでおくこと、ミネラルウォーター類の表示を見ておくこと
第15回	醸造食品・調味料の鑑別	(学修内容) 醸造食品、調味料、香辛料、加工食品、機能性食品などの種類と品質評価について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p209-243を読んでおくこと

授業名	食品の官能評価演習			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3761
英文名	Sensory Food Evaluation Practice			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	塩田 二三子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>農薬や食品添加物、表示の偽装、遺伝子組み換えなど食についての不安が広がる昨今、我々は食品の品質について正しく判断する必要がある。そのためのひとつの方法が人間の五感を用いて行う官能評価であるが、それも正しい方法で行われなければ無意味なものになってしまう。本授業では、官能評価の基本と実施方法、そして得られたデータの統計的解析の手法を学ぶとともに、品質評価に必要な化学的評価法、物理的評価法についても学ぶ。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 官能評価を正しく行うことができる。  2) 官能評価の結果を正しく検定することができる。  3) 正確に食品の品質を判断できる力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』日本フードスペシャリスト協会 編、建帛社								
参考書	資料を配布する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題等についてはコメントをつけて返却する								
留意事項	官能評価はフードスペシャリストにとって大変重要な技術のひとつである。資格取得を目指し、授業に真剣に取り組んでもらいたい。								
オフィスアワー	初回にアナウンスします。								
実践的教育									

授 業 名	食品の官能評価演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	官能評価とは	(学修内容) 官能評価がどのようなものを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認する
第2回	官能評価の管理	(学修内容) 官能評価の管理 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.5-12を読んでおく
第3回	官能評価の手法の選択	(学修内容) 官能評価にどのような方法があるかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.12-30を読んでおく
第4回	官能評価の実施 1 (個室法)	(学修内容) 個室法を用いて、実際に官能評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価の手法 (個室法) について復習しておく
第5回	官能評価の実施 2 (円卓法)	(学修内容) 円卓法を用いて、実際に官能評価を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価の手法 (円卓法) について復習しておく
第6回	統計の基本	(学修内容) 検定に必要な統計の基本知識を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価で得られたデータを整理しておく
第7回	官能評価のデータ処理	(学修内容) 官能評価で得られたデータを用いて検定を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 官能評価で得られたデータを整理しておく
第8回	これまでの復習	(学修内容) 資格認定試験の過去問を使って復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.3-30を読み復習しておく
第9回	化学的評価法 1 (食品成分と品質)	(学修内容) 食品成分と品質の関わりについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.31-50を読んでおく
第10回	化学的評価法 2 (化学的品質評価法)	(学修内容) 化学的品質評価法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.50-58を読んでおく
第11回	物理的評価法 1 (分散系の分類)	(学修内容) 分散系の分類について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.60-63を読んでおく
第12回	物理的評価法 2 (レオロジーとテクスチャー)	(学修内容) 食品の物理的性質について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.64-68を読んでおく
第13回	物理的性質の評価方法	(学修内容) 物理的性質の評価方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.69-85を読んでおく
第14回	これまでの復習	(学修内容) 資格認定試験の過去問を使って復習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.31-85を読み復習しておく
第15回	まとめ	(学修内容) 問題を解きながらこれまでのまとめをおこなう (事前事後学修課題の内容) (30分) 資格認定試験の過去問について復習しておく

授業名	食品加工学			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	LC2735
英文名	Food Processing			開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担当者	山本 明美			対象学生	現代家政2回生				
授業の概要	食品の加工は、食品原材料を精製、調味、発酵などの手法を用いて、貯蔵性に優れ、より安全で、人間の嗜好に合った食品を作ることを行われる。また、この加工によって食品素材よりも商品価値を高めた食品とすることができる。講義形式の授業を通して、食品加工についての理論を学び、主要な加工食品についての製造工程とその原理及び加工食品としての特質、貯蔵法について、また、近年市場に流通している多様な食商品についての知識を深める。								
学修成果到達目標	食品素材の特性を理解できる。 食品加工の原理と方法を理解できる。 食品の保存性と規格を理解できる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	喜多野宜子、上村昭子、久木久美子共著 『食べ物と健康』 化学同人 2016年								
参考書	授業にて指示する								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして各章での理解度確認テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	食品の加工技術は日々進歩しています。新聞などのニュースに注意して最新の技術について調べておく。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育									

授 業 名	食品加工学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	食をめぐる現状と課題	(学修内容) 食品の多様化と加工食品の急増時代における課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 食品の種類や特性を調べておく
第2回	食品加工の原理	(学修内容) 食品の特性を活かした加工法の原理を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 加工食品の原理や食品の特性を調べておく
第3回	穀類の加工食品	(学修内容) 米や小麦等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.1~14を読んでおく
第4回	いも類の加工食品	(学修内容) ジャガイモやサツマイモ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.15~20を読んでおく
第5回	種実類と豆類の加工食品	(学修内容) 大豆やクリ等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.21~34を読んでおく
第6回	野菜類の加工食品	(学修内容) 葉菜類などの特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.35~48を読んでおく
第7回	果実類、きのこ類、海藻類の加工食品	(学修内容) 仁果類や椎茸、緑藻類等の加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.49~65を読んでおく
第8回	魚介類の加工食品	(学修内容) 主な魚介類の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.66~86を読んでおく
第9回	食肉類の加工食品	(学修内容) 牛肉や豚肉、鶏肉等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.87~98を読んでおく
第10回	卵類の加工食品	(学修内容) 鶏卵等の特性とその加工品 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.99~109を読んでおく
第11回	乳類の加工食品	(学修内容) 牛乳等の特性とその加工品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.110~122を読んでおく
第12回	食用油脂	(学修内容) 食用植物油脂や動物油脂等の種類とその特性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.123~127を読んでおく
第13回	調味料、香辛料、嗜好品	(学修内容) 調味料と香辛料、嗜好品の種類と特徴について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.128~150を読んでおく
第14回	食品の保存と規格	(学修内容) 食品の保存法や規格基準、保健機能食品、特別用途食品について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書 p.151~168を読んでおく
第15回	現代の加工技術について	(学修内容) 加工技術の発展と問題点 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループを組んで最新の加工技術について紹介する。 発表の準備をしておく。

授 業 名	フーズスペシャリスト論			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3791
英 文 名	Theory of Food Coordination			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	豊原 容子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	流通・販売分野においてフーズスペシャリストが担っている専門的役割を明確にしていく。また、フーズスペシャリストとして食品の品質評価判定や情報の提供など専門的な仕事に取り組むために必要な知識・技術について学んでいく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) フーズスペシャリストの職責について理解できる 2) 食の専門家として必要な知識と技術について理解できる 3) 食の情報を正しく取捨選択することができる								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	日本フーズスペシャリスト協会 著・編 『四訂フーズスペシャリスト論第6版』(建帛社) 日本フーズスペシャリスト協会 著・編 『フーズスペシャリスト資格認定試験過去問題集』(建帛社)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	予習で解いてきた過去問について時間内で解答・解説を行い、理解度を確認する								
留 意 事 項	資格認定試験過去問題を解き、これまでに学習したフーズスペシャリスト必修科目の復習も同時におこなう。各教科のテキストの用意をしておくこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実 践 的 教 育									

授業名	フーズスペシャリスト論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	フーズスペシャリストとは	(学修内容) フーズスペシャリストの概念について (事前事後学修課題の内容) (30分) フーズスペシャリストの資格科目の教科書・ノートを見直しておく
第2回	フーズスペシャリストの社会における責務	(学修内容) フーズスペシャリストの業務内容、活躍分野と社会においてフーズスペシャリストが果たすべき責務について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p1-28を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第3回	人類のあゆみと食物	(学修内容) 人類の食物調達の変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p28-43を読んでおく、「調理学」の過去問を解いておく
第4回	世界の食 食作法、タブーについて	(学修内容) 世界の食 食作法、タブーについて (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p46-52を読んでおく「フードコーディネート論」の復習をして過去問を解いておく
第5回	世界の食 ヨーロッパ・アジアの食事情	(学修内容) ユーラシア大陸各国の食の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 世界の食糧事情について調べておく、「フードコーディネート論」の過去問を解いておく
第6回	世界の食 アメリカ大陸・アフリカの食事情	(学修内容) 南北アメリカとアフリカ大陸各国の食の現状について (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p55-62を読んでおく、「栄養と健康」の復習をして過去問を解いておく
第7回	日本の食の変化 縄文時代から鎌倉時代の食	(学修内容) 日本の古代から中世の食を概説し、食の伝統について考えていく (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p63-69を読んでおく、「栄養と健康」の過去問を解いておく
第8回	日本の食の変化 江戸、明治・大正の食	(学修内容) 日本の近世から近代の食を概説し、食の伝統について考えていく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書69-73を読んでおく、「食物学」の過去問を解いておく
第9回	日本の食の変化 戦後から現代の食	(学修内容) 日本の戦後から現代までの食の変化について概説し伝統食について考えていく (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p80-89を読んでおく、「食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第10回	現代の食の問題点について	(学修内容) 現代社会が抱える食の問題について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p90-103を読んでおく、食品の官能評価・鑑別論」の復習をして過去問を解いておく
第11回	食品産業の変遷と役割	(学修内容) 我々の食生活を支えている食品産業について体系的に理解できるように概説する (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p104-123を読んでおく、「食品流通・消費」の復習をして過去問を解いておく
第12回	食品の品質規格と表示 JAS法、食品表示法	(学修内容) 食品表示の重要性と法制度について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p124-155を読んでおく、「食品流通・消費」の過去問を解いておく
第13回	食品の品質規格と表示 保健機能食品、表示に関する法律	(学修内容) 特別用途食品と保健機能食品の分類、そのほかの法律による表示について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p156-172を読んでおく、「食品の安全性」の教科書を読みなおして過去問を解いておく
第14回	食情報の信頼性	(学修内容) 食情報の取捨選択について (事前事後学修課題の内容) (90分) 教科書p174-189を読んでおく、「食品の安全性」の過去問を解いておく
第15回	フーズスペシャリストとして取り組むこと	(学修内容) これまでの学びからフーズスペシャリストとしてどのような姿勢で食生活に取り組むかについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの復習を行うとともにこれからのあるべき食生活について考えておく

授 業 名	保育実習指導 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3777
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	保育実習 では、保育所において二回目の保育実習を行う。そのために、保育実習 を振り返り、保育所の役割の理解、保育者の援助の方法の理解を深めた上で、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 保育実習 を実施するために必要な事項について理解する。 2) 授業で学んだことが、実践できるようにする。 3) 保育所の役割を理解し、実習の目標を明確にして実習に臨む。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	保育所保育指針								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	保育所実習の振り返り、保育所実習の目標作成など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
授 業 計 画			
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物をみて実習を振り返っておく	
第2回	保育実習報告会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく	
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で学んだことを整理しておく	
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容) (30分) 面談の内容をまとめる	
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の日誌を見直す	
第6回	2回目の保育所実習についての解説	(学修内容) 保育実習 での課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育の制度について調べておく	
第7回	これまでの実習の振り返り	(学修内容) 2回生と交流し実習での体験を伝える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る	
第8回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた実習目標を見直す。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習目標を作成してくる	
第9回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公立・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問したい項目をまとめておく	
第10回	実習目標の見直しと実習記録の書き方	(学修内容) 実習目標を相互に見直す。二度目の保育所実習にふさわしい記録の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの実習記録を読み直す	
第11回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる	
第12回	これまでの実習で残された課題の精査	(学修内容) これまでの実習を振り返り、最後の実習の課題を明らかにする (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートを読み直す	
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す	
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを先輩から聞く (事前事後学修課題の内容) (30分) 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる	
第15回	保育実習 の直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習に必要な事前準備を完了しておく	

授 業 名	保育実習指導 u			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3778
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	山川 宏和			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>保育実習 では、児童館において保育実習を行う。そのために必要な事項として、保育実習 の振り返り、児童館の機能や対象者の理解、実習課題の設定、保育に関する課題への取り組みなどを学ぶ。これまでの実習日誌の記述内容を自ら分析し、よりよい記録の作成を目指すほか、保育職になるために必要な資質についても、公・私立の保育士の仕事の実際を学ぶなどして、さまざまな角度から考察する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育所実習の振り返りを通して、自己の課題を明確化する。  2) 児童館の役割を理解し、計画を立案して実践できるようにする。  3) 保育士に必要な資質を理解し、実習の目標に反映させることができる。  4) 保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	プリントを適宜配布する								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	保育所実習の振り返り、保育所実習の目標作成など各種課題について、学生相互に共有して学びを深めたり、教員からコメントを行う。								
留 意 事 項	この授業は実習に関する重要事項を学ぶことから、真摯な姿勢での授業参加が要求される。授業中に不適切な行為を行っている場合には厳しく、対応する。無断欠席・遅刻は認めない。単位認定にあたっては、保育実習 の単位が取得できることを条件とする。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		保育実習指導 U
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育実習 の振り返り	(学修内容) 保育実習 を振り返り課題を明らかにする (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 で使用したメモや制作物を見て振り返っておく
第2回	保育実習報告会	(学修内容) 保育実習 での体験を交流する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 での体験を振り返っておく
第3回	保育実習事後面談	(学修内容) 個人面談を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 での学んだことを整理しておく
第4回	保育所実習からの課題抽出	(学修内容) 保育所実習を経て自らの課題を抽出する (事前事後学修課題の内容) (60分) 面談の内容をまとめる
第5回	発展的実習のための事前学習	(学修内容) 抽出された課題を達成する方法を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実習 の日誌を見直す
第6回	児童館についての解説	(学修内容) 保育実習 での課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童館の制度について調べておく
第7回	これまでの実習の振り返り	(学修内容) 2 回生と交流し実習での体験を伝える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育実習 の学びを振り返る。
第8回	保育実習 をふまえた実習目標の設定	(学修内容) 作成してきた実習目標を見直す (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習目標を作成してくる
第9回	公立・私立保育士の仕事の実際	(学修内容) 公立・私立の保育士の仕事の実際を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 質問したい項目をまとめておく
第10回	実習目標の見直しと実習記録の書き方	(学修内容) 実習目標を相互に見直す。福祉施設、保育所を経て、児童館にふさわしい記録の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートを読み直す
第11回	保育実習 に向けての個人面談	(学修内容) 個人面談を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で学びたいことを考えてくる
第12回	これまでの実習で残された課題の精査	(学修内容) これまでの実習を振り返り、最後の実習の課題を明らかにする (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習ノートを読み直す
第13回	課題に基づいた事前学習	(学修内容) 自分の課題に基づいて事前学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) 最後の保育実習で必要な事前学習の資料を探す
第14回	保育士になるための講座	(学修内容) 保育士になるために必要な学びを先輩から聞く (事前事後学修課題の内容) (30分) 就職先の探し方、勉強の仕方など、聞きたいことを考えてくる
第15回	保育実習 直前指導	(学修内容) 保育実習 の諸注意事項を確認する (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習に必要な事前準備を完了しておく

授 業 名	ビジネス実務総論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1702
英 文 名	Business Routine Concept			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	市川 順子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでの準備としてビジネス社会の仕組みや活動について学修します。また、テキストの第3部を予習・復習に使い理解を深め、社会人としての基礎能力を身につけていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) ビジネス社会を理解できる。  2) 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。  3) ビジネス実務全体に必要な情報業務や対人業務に関する知識・スキル・態度およびそれらを活用するための力を身に付けることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	水原道子・大島武 編著 『新版 ビジネス実務総論』 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします。解説については、授業内で行います。								
留 意 事 項	社会人になるまでに社会(世の中のできごと)に対して興味・関心を持ち、新聞や企業のHPなどで自分が目指す業界の情報を積極的に収集してください。受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。  また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マネー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。  秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネス実務総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/ビジネス社会とは	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	企業の種類	(学修内容) 企業の種類・組織について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストを読み、ふりかえりシートを使って予習しておく
第3回	社会と企業	(学修内容) 社会における企業の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業のCSRを調べておく
第4回	企業の会計	(学修内容) 企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業の決算について調べておく
第5回	身の回りの経済	(学修内容) 日常生活と経済についての関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 身の回りのものの値段について調べてみる
第6回	日本経済の流れ	(学修内容) 戦後から現代までの経済の流れについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) ふりかえりシートを使って復習する
第7回	税と社会保険	(学修内容) 税金の種類と社会保険について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 税金の種類、社会保険について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第8回	労働と法律	(学修内容) 労働者を守る法律について学ぶ 正規雇用と非正規雇用の違いを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 労働三法について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第9回	さまざまな働き方	(学修内容) 働く意義や働き方の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 回りの人たち(両親等)がどのような働き方をしているのか調べておく 自分がどのような働き方をしたいのか考える
第10回	グローバル社会とビジネス	(学修内容) グローバル社会がビジネスにもたらす影響について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) インバウンドと観光について調べておく
第11回	企業研究 1	(学修内容) グループで興味のある企業を選び、その企業について調べる (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで選んだ企業について、各人でも調べておく
第12回	企業研究 2	(学修内容) グループで調べた企業について、その内容を発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表のための準備をする
第13回	ボランティア	(学修内容) ボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身ができるボランティア活動を考える
第14回	情報管理の重要性	(学修内容) 情報化社会の中で情報を管理することの重要性について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 情報漏洩の過去の事例を調べておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身のキャリアプランを考える

授 業 名	応用ビジネス実務論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1708
英 文 名	Applied Business Routine Concept			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、ビジネスコミュニケーション、アクティブリスニング、ビジネスプレゼンテーション、KT法による意思決定・問題解決、メンタルヘルス、ビジネス法律などを学習する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。  2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。  3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	授業時に資料を配布する。								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題に対して必要なアドバイスをを行います。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する								
実 践 的 教 育									

授 業 名	応用ビジネス実務論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	ビジネスを考える	(学修内容) ビジネスは何を目指しているのか、説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を読んでおく。
第3回	ビジネス環境をとらえる --グローバル化、情報化について	(学修内容) 経済のグローバル化、高度情報化について解説します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を読んでおく。
第4回	ビジネス環境をとらえる --環境問題、少子高齢化について	(学修内容) 地球環境問題、少子高齢化の問題について解説します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を読んでおく。
第5回	教養について	(学修内容) 教養の問題について解説します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を読んでおく。
第6回	ビジネス教養について	(学修内容) ビジネス教養について説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を読んでおく。
第7回	ビジネス実務の教養について --論理的な思考とは	(学修内容) ビジネス教養について、論理的な思考について説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第8回	ビジネス実務の教養について --基本的な数学	(学修内容) ビジネス実務における、ごく基本的な数学について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第9回	ビジネス実務の教養について-基本的な数学の応用	(学修内容) ビジネス実務における基本的な数学の応用について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第10回	ビジネス実務の活動をとらえる--キャリア形成とコストパフォーマンス	(学修内容) キャリア形成とコストパフォーマンスについて説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) データの作成
第11回	ビジネス実務の創造	(学修内容) これからのビジネス実務について説明します。  (事前事後学修課題の内容) (60分) データの作成
第12回	業界研究	(学修内容) グループワークで、関心のある業界から始まり、それに関連する業種を整理していく (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の興味・関心のある企業を調べる。
第13回	業界研究	(学修内容) 前講から引き続き、グループワークで、業種から企業を絞り、歴史など調べてみる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞記事など企業に関連する記事を収集してみる。
第14回	自分のキャリア形成の方向性について考える	(学修内容) 「生き方・働き方・休み方・楽しみ方」それぞれの選択肢をどのように組み合わせていくのか考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分のキャリア形成について考え、整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 自己啓発について考える。  (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。

授 業 名	ビジネス実務演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1703
英 文 名	Practical Business Affairs			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	藤田 恵美子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	IT化によるビジネス環境の変化とともに仕事の仕方も変化してきている。それに対応するビジネスワーカーの基礎能力を身につける。 ビジネスマナーをベースに電話・来客対応・メール作成、また昨今のテレワークで活用されるGoogleのドキュメント類で文書作成し、ビジネスワーカーとしての基礎を実習と問題を通して身につけ、今後のキャリア形成に役立てる。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ビジネスに必要なマナーについて理解・実践し、効率のよい仕事の進め方ができる。 2) ビジネスコミュニケーションの知識・技能を身につけ、状況に応じて適切な行動ができる。 3) Googleのドキュメント類の基本操作が身につく。 4) 「知る」だけでなく「できる」ようになることを目標とする。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	2022年度版 要点と演習「ビジネス能力検定 3級」(実教出版)								
参 考 書	2022年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト(日本能率協会マネジメントセンター)								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の提出物と課題には添削とコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	* 企業で働くことを希望する学生が履修し、新聞等から社会の動きに興味を持っておくこと。 * 教科書と配布プリントは常に用意すること。 * 次に学ぶ章の教科書部分を予習として読んでおく、また学んだ章の指示の演習問題を課題とし、復習徹底のこと。 * 実習は恥ずかしがらず積極的に参加すること。 * 受講時の言動はオフィスワーカーに求められる、正確・時間・期限・連絡を守ること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業前後に実施する								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：国際線客室乗務員として勤務。その後、接遇インストラクターとして新入社員・秘書・ホテル等各種企業研修を担当。 それらの経験を活かし、光陵女子短期大学・大阪国際大学非常勤講師、大阪学院大学・短期大学部准教授としてビジネス実務・秘書実務・エアライン実務とインターンシップや就職の教育指導。								

授業名	ビジネス実務演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 第1編 キャリアと仕事へのアプローチ	(学修内容)本講義の目標理解とシラバス・授業の進め方説明。キャリアについて (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前)シラバスの確認。教科書準備し、P8~10読んでおく (事後)メール作成の基本(配布プリント)を復習する
第2回	会社活動の基本	(学修内容)組織人としての意識を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P16~24)を読んでおく (事後)指示の演習2問題を実施して復習する
第3回	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	(学修内容)服装と身嗜み、基本的なマナーについて (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P28~35)を読んでおくこと (事後)指示の演習3の問題を実施して復習する
第4回	指示受け方と報告、連絡・相談	(学修内容)仕事の基本の指示と報告について (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P44~48)を読んでおくこと (事後)指示の演習4の問題を実施して復習する
第5回	話し方・聞き方のポイント(1~8)	(学修内容)話し方・聴き方の基本を理解し、身につける (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P56~59)の内容を読んでおくこと (事後)指示の演習5の問題を実施して復習する
第6回	ビジネスの場にふさわしい言葉(9~12)	(学修内容)尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使い分ける演習問題 (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P60~61)を読んでおくこと (事後)指示の演習5の問題を実施して復習する
第7回	電話応対実習 - 受け方(取り次ぎ)	(学修内容)声だけのコミュニケーションの特殊性を実習を通して知る (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P68~69)の内容を読んでおくこと (事後)指示の演習6の問題を実施して復習する
第8回	電話応対実習 - 受け方(不在)、かけ方	(学修内容)不在電話対応の注意点を実習を通して知る (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P70~71)を読んでおくこと (事後)授業内容の復習と指示の演習6の問題実施
第9回	来客応対実習と訪問の基本マナー	(学修内容)来客対応と名刺の扱いを理解し、グループワークで実習する (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P76~89)を読んでおくこと (事後)指示の演習7の問題を実施して復習する
第10回	冠婚葬祭マナー	(学修内容)慶事・弔事の留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P100~103)を読んでおくこと (事後)指示の演習8の問題を実施して復習する
第11回	第2編 仕事の取り組み、仕事の進め方	(学修内容)効率の良い仕事の進め方を身につける (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P108~111)の内容を読んでおくこと (事後)指示の第2編 演習1の問題を実施して復習する
第12回	ビジネス文書(メール)の基本(1~2,17~20)	(学修内容)ビジネスメール・文書作成の基礎知識を身につける (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P114~115、P134~135)の内容を読んでおくこと (事後)指示の演習2の問題を実施して復習する
第13回	社内文書(メール)の種類と作成(3~8)	(学修内容)社内メール・文書の特色と役割を理解し作成する(議事録は共同編集する) (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P116~123)を読んでおくこと (事後)指示の演習2の問題を実施して復習する
第14回	社外文書(メール)の種類と作成(9~16)	(学修内容)社外メール・文書の特色と役割を理解し作成する (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P124~131)の内容を読んでおくこと (事後)指示の演習2の問題を実施して復習する
第15回	統計データの作り方、読み方 情報収集とメディアの活用	(学修内容)表とグラフの読み方、情報の活用とまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前)教科書(P156~164)(P167~173)の内容を読んでおくこと (事後)指示の演習3・4の問題実施して復習とまとめ

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC1709
英 文 名	Business Manner Practice Seminar			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	市川 順子			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	社会に出たときに必要とされる知識とスキルを学び、即、実践できることを目標に、演習を行います。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 職業人として必要な基本的知識を身に付け実践する力をつけることができる。 2) 仕事を進める上での課題を見つけ、問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) さまざまな場面・状況を想定し、臨機応変に対応することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	教科書は現在選定中のため、決まり次第、シラバスを更新します。 秋学期開始時にシラバスまたは教科書販売サイトを確認してください。								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却し、解説については授業内で行います。 実技(ロールプレイング)については、その都度コメントします。								
留 意 事 項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	<b>実践的教育</b> 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。								

授 業 名	ビジネス実務実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について  (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく
第2回	言葉遣い1 敬語・クッション言葉・改まった表現	(学修内容) 敬語を復習し、お客さまとの会話、社内での会話を演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 敬語・クッション言葉・接遇用語について確認しておく
第3回	言葉遣い2 さまざまな場面での言葉遣い	(学修内容) 遅刻しそうなとき、休暇をとるときなど、さまざまな場面での言葉遣いを演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第4回	報・連・相	(学修内容) 社内における報告・連絡・相談のポイントを学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第5回	電話対応(演習)	(学修内容) 電話対応の基本を確認し、演習によって学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第6回	来客対応(演習)	(学修内容) 来客対応の基本(受付・案内・見送り)を確認し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する 名刺交換については、友人や家族と練習しておく
第7回	文書作成1 社内文書(案内文)	(学修内容) 文書作成の基本的ルールを学び、簡単な社内文書を作成する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 文書作成のポイント・レイアウトを確認しておく
第8回	文書作成2 社内文書(報告書)	(学修内容) 報告書のフォーム(レイアウト)を学び、報告書を作成する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告書に必要な項目は何か確認しておく
第9回	文書作成3 社外文書	(学修内容) 社外文書のポイントを学び、簡単な取引文書を作成する  (事前事後学修課題の内容) (60分) 頭語と結語、時候のあいさつについて確認しておく
第10回	慶弔業務	(学修内容) 慶弔業務のそれぞれの対応について学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) 上書き等、学んだことを確認しておく
第11回	郵便の知識・ファイリング	(学修内容) 郵便の知識とファイリングの方法を学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身の資料・プリントをファイリングしてみる
第12回	パブリックスピーキングと雑談力	(学修内容) 公の場での話し方のポイントを学ぶ 初対面の人や親しくない人との会話(話題)を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 面接の場を想定してパブリックスピーキングを考えてみる 親しくない人とも会話ができるように練習する
第13回	接客対応	(学修内容) お客さまを意識した接客対応を学ぶ 相手の立場に立っての声かけを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常で目にする接客について考えてみる
第14回	クレーム対応	(学修内容) 誠実なクレーム対応について学ぶ  (事前事後学修課題の内容) (60分) クレームの理由や対応について確認しておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する  (事前事後学修課題の内容) (90分) これまで学習したことを実践できるよう確認しておく

授業名	教職実践演習（栄養教諭）			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4821
英文名	Educational practice seminar			開講時期	秋学期	必修選択	必修		
担当者	坂本 裕子			対象学生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>大学での授業や栄養教育実習、地域活動やボランティア等を通して修得してきた知識や技能、履修カルテを用いた自己の振り返りを基に、栄養教諭として課題となった事柄や、今後、さらに必要とされる内容を明確にし、講義や演習、グループ討論、ロールプレイ、模擬授業、発表等、実際の教育現場を想定した学習活動等を通し、指導力のある栄養教諭として必要な資質や技能、実践力を習得していく。また、教育現場の講師から指導・助言をいただき、実践力を磨く。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 栄養教諭としての自己の課題を明確にし、課題を解決する力を身につける。  2) 教諭としての使命感、責任感を身につけ、学校での栄養教諭の役割を理解することができる。  3) 児童、生徒理解を深め、対象者に適した食に関する指導を行うことができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストを使います。								
参考書	「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省 「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版								
課題に対するフィードバックの方法	発表については授業の中で評価、解説し、提出物についてはチェックを行い返却し、説明を行う。								
留意事項	栄養教諭担当教員や外部講師（栄養教諭、栄養教諭経験者）が一部参加協力し授業を進める。 履修カルテ、実習ノートを持参すること。								
オフィスアワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務								

授業名	教職実践演習（栄養教諭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 自己の研修課題	（学修内容）履修カルテ、実習ノートを振り返り、課題を明確にする。  （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテや実習ノートなどを振り返り、自己の課題を確認しまとめる。 教職の意義、学校現場についても振り返る。
第2回	教職の意義、学校現場の理解	（学修内容）教員の仕事、学校の役割、責任について講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 教職の意義についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第3回	学校での連携、学校と家庭、地域との連携	（学修内容）教職員との協同、家庭・地域との連携のためのコーディネートについて 講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでに受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第4回	栄養教諭の役割と責任について	（学修内容）栄養教諭の役割と責任について講義、グループ討議による事例研究  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第5回	社会性やコミュニケーション能力について	（学修内容）社会性やコミュニケーション能力の育成について講義、グループ学習 報告資料の作成  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第6回	児童・生徒理解、発達段階と指導法	（学修内容）児童・生徒理解、発達段階と指導法について講義、グループ討議による 事例研究、報告資料の作成  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第7回	食の指導力に関する実践研究 1	（学修内容）栄養教諭の実習指導の事例発表 1、学内教員、栄養教諭資格取得希望の 3 回生に、栄養教育実習の報告を行う。  （事前事後学修課題の内容）（45分） 報告会資料を作成しておく。 今日の授業についてまとめる。
第8回	食の指導力に関する実践研究 2	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 2  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第9回	食の指導力に関する実践研究 3	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 3  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。実習指導を振り返る。
第10回	食の指導力に関する実践研究 4	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 4  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第11回	食の指導力に関する実践研究 5	（学修内容）栄養教諭の実習指導（食に関する指導）の事例発表 5  （事前事後学修課題の内容）（30分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第12回	食の指導の事後反省と教材研究	（学修内容）食の指導の事後反省と改善 教材研究のグループワーク  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第13回	食育指導の模擬授業の構築 1	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 1  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第14回	食育指導の模擬授業の構築 2	（学修内容）望ましい模擬授業の構築 2  （事前事後学修課題の内容）（45分） 今日の授業についてまとめる。これまでの受けた教職の授業を復習し、 次回の学習項目を予習してくる。
第15回	栄養教諭の役割 全体のまとめ	（学修内容）栄養教諭としての課題解決についてまとめる  （事前事後学修課題の内容）（60分） 今日の授業についてまとめる。

授 業 名	教職実践演習（家庭）			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4817
英 文 名	Teaching Practice(Home Economics)			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教職実践演習は、教員養成課程全体を通して、教員として適切な最小限度の資質能力を有機的包括的に身につけることができたかを判断し、不足しているところを補ったり、さらに資質能力を向上させたりするために課程の最終仕上げとしてなされる科目である。これまで身につけた資質能力を、具体的で実践的な演習方式の授業を通して、確実なものとするを目的としている。中学生・高校生の発達特性を踏まえ、現代社会の諸課題とも照らし合わせながら、個々の学生に応じた指導を行う。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 教師として必要な教科指導力について理解し、主体的で対話的な学びを促す授業のための学習指導案を作成することができる。</p> <p>2) 教師として必要な生徒指導力や学級経営力について理解し、学級経営に対する自己の見解を説明することができる。</p> <p>3) 教育実習の成果と課題についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	授業中に指示する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	「教師を目指すため」の演習であるから、子どもの前に立つ人間としての姿勢を示すべく、主体的な授業参画を求める。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授業名	教職実践演習（家庭）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）演習の意義とその進め方を理解する。履修カルテに記入する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 履修カルテの整理をしておくこと。
第2回	自己のこれからの研修課題	（学修内容）教職の意義、教員の役割、職務内容、子どもに対する責任など、実習から気づいたこと、考えたことを振り返る。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容）（30分） 自己の課題をまとめておくこと。
第3回	社会性や対人関係能力についての振り返り	（学修内容）教員組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係について考える。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容）（30分） 課題についての自己の経験をまとめておくこと。
第4回	生徒理解、授業づくりについての振り返り	（学修内容）生徒理解、授業づくりについて振り返る。（グループ討議） （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習校の生徒観をまとめておくこと。
第5回	教育実習報告会	（学修内容）教育実習を振り返り、教育実習の概要や実習の成果・課題について発表資料を作成し、プレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教育実習の概要、実習の成果や課題をまとめた発表資料を作成しておくこと。
第6回	生徒理解と場面指導	（学修内容）実際の生徒指導についてロールプレーやグループ討議を通して考える。（いじめ等） （事前事後学修課題の内容）（30分） 課題について効果的な指導法を調べてくる。
第7回	生徒理解と学級経営	（学修内容）生徒同士の人間関係づくり、学習ルールの確立などを考えた学級経営案を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 学級のルールや教室経営について調べる。
第8回	現在の教育課題について	（学修内容）教育委員会より講師を招き、「現在の教育課題について」の講義を受け、授業法について考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習の授業省察をまとめておく。
第9回	生徒理解と教育方法（特別な支援を要する子どもへの教育支援について）	（学修内容）マルチメディアコンテンツ製作を通して、特別な支援を要する子どもへの教育支援の在り方について考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習校の特別支援教育の内容についてまとめておくこと。
第10回	これからの教師に求められる資質・能力について	（学修内容）教育委員会より講師を招き、「これからの教師に求められる資質・能力について」の講義を受け、求められる教師像について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教育委員会HPを調べ、求められる教師像についてまとめておくこと。
第11回	模擬授業	（学修内容）模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材研究、学習指導案の作成。
第12回	模擬授業	（学修内容）模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材研究、学習指導案の作成。
第13回	模擬授業	（学修内容）模擬授業の実施 相互評価、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材研究、学習指導案の作成。
第14回	教師と保護者の関係づくりについて	（学修内容）教師と保護者の関係づくりについてロールプレイやグループ討議を通して考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 家庭との連携の必要性について考えておくこと。
第15回	まとめ	（学修内容）演習のまとめをする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテへの記入を済ませておくこと。

授 業 名	栄養教育実習事前・事後指導			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC4814
英 文 名	Guidance to Teaching Practicum (Nutrition Teachers)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必 修		
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教育実習を充実したものにすることが、より良い教員への第一歩であることを自覚し、実習に向けての心構えを身につける。これまでの教職に関する科目や食物の専門科目の学びを活かし、実習計画を立案し、対象の児童生徒に適した指導案の作成、準備を行うとともに、責任ある社会人としての態度を育成する。 実習後は、客観的に自己分析を行い、より専門職としての資質を高めるよう学びを深める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教育実習の意義と目的を理解し、必要な知識・技能・態度を習得する。 2) 子ども理解、学校組織の理解ができ、栄養教諭の責任と役割が理解できる。 3) 積極的な態度で臨み、児童生徒の発達段階に応じた食に関する指導ができる。 4) 実習後は実習を振り返り、評価を行い、自己の課題を整理、明らかにし、改善することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	<p>「四訂 栄養教諭論」金田雅代編著 建帛社(「学校栄養教育概論」「学校栄養教育指導論」で使用のテキストを使いません。) 「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省</p>								
参 考 書	<p>「栄養教諭のための学校栄養教育論」 笠原賀子 医歯薬出版</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>実習前はレポート、指導案を点検、添削し、個々の学生に適したアドバイスをを行い、返却する。 実習後は報告会で個々にアドバイスをを行うとともに、学びの成果の共有化をはかる。</p>								
留 意 事 項	<p>実習に必要な伝達事項がある場合や、教育実習の時期に合わせて開講時期、時間が変則的になる可能性があります。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都府立高校で家庭科教員として勤務</p>								

授 業 名		栄養教育実習事前・事後指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	栄養教育実習の法的根拠 学校経営、校務分掌など	(学修内容) 栄養教育実習実施の法的根拠、受け入れの根拠等、 校内の組織、教育計画などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス、テキストを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第2回	栄養教育実習の意義と目指す教師像	(学修内容) 栄養教育実習の意義、教師に求められる資質や職務内容等について理解 する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第3回	教育実習の準備と心構え	(学修内容) 事前準備、一般的な注意事項を理解する。 実習ノートの作成、実習校への挨拶等、留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト、課題プリントを読む。実習校の状況を調べておく。 打合せ等実習準備を進める。	
第4回	児童心理の理解と指導	(学修内容) 児童理解と対象者に応じた指導法についての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第5回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第6回	指導案の作成	(学修内容) 実習時における研究授業の指導案・教材を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案を作成、教材研究する。	
第7回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第8回	模擬授業	(学修内容) 模擬授業を行い、研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 模擬授業の指導案を読んでくる。 評価し、レポートにまとめる。	
第9回	研究授業の指導案・教材を作成、完成	(学修内容) 評価を受けた研究授業の指導案・教材を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 指導案・教材を作成する。	
第10回	教育実習の準備(最終確認)	(学修内容) 実習準備を済ませる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習準備を完了する。	
第11回	教育実習のまとめ	(学修内容) 実習ノートのまとめ、課題のまとめをする。 お礼状の作成と発送を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習ノートをまとめる	
第12回	教育実習のまとめ	(学修内容) 報告会の資料作り (事前事後学修課題の内容) (45分) テキスト、課題プリントを読んでおく。 講義の内容をまとめる。	
第13回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第14回	教育実習の報告会	(学修内容) 教育実習の報告をする。研究協議する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告会の資料を読んでおく。 レポートにまとめる。	
第15回	振り返り・まとめ	(学修内容) 栄養教育実習を総括する。 教育実習ノート、履修カルテを完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。 実習ノート、履修カルテを提出する。	

授業名	学校栄養教育指導論			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	LC4813
英文名	Nutrition education in school			開講時期	春学期	必修選択	必修		
担当者	山下 良子			対象学生	食物栄養4回生				
授業の概要	日本の食文化や児童・生徒を取り巻く社会背景をもとに、食の専門家である栄養教諭としての使命、役割、職務内容を理解する。本講義では学校教育において、食に関する専門的な知識・技能、および教育者としての基礎的な技能を修得する。また、グループワークによる事例検討や模擬授業などを通して実践できる力をつける。								
学修成果到達目標	1) 義務教育諸学校における食に関わる教育を実践するための専門知識及び技能を修得できる。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、方策を考えることができる。 3) 学校給食の実際と食に関する指導や家庭・地域との連携による食の指導について理解できる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	金田雅代編著『四訂栄養教諭論』建帛社 2019年 「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省								
参考書	適宜参考書を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして模擬授業、事例検討協議など実施後に講評を行う。 提出されたレポートはコメントをつけて返却する。								
留意事項	受講者間のディスカッションに積極的に参加すること。								
オフィスアワー	毎回担当している授業終了後に実施。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：全市の視野にわたっての学校給食物資選定委員、学校給食検討委員、学校給食における「和食」の検討会議委員等を務めた。また、京都市児童・生徒の食事調査を実施し、その結果を基に京都市学校給食の栄養管理や指導に活かした。児童・生徒への食に関する指導実践や食に課題を持つ子への支援。「京都市学校給食の手引き」編集に関わった。								

授 業 名		学校栄養教育指導論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション 栄養教諭の役割と学校組織、学校給食や食に関する指導等の位置づけ、自分の食の原風景について考える	(学修内容) 栄養教諭の役割、学校組織と学校給食や食に関する指導等の位置づけについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認。課題として自分の食の原風景について第2回授業までにまとめる(400字)	
第2回	学校給食と日本人の食生活について	(学修内容) 学校給食の食事内容の変遷と日本人の食生活の関係を考察する (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業開始時に第1回の課題である自分の食の原風景についてプレゼンする	
第3回	学校給食の教育的意義と役割について	(学修内容) 学校給食の教育的意義や役割について学校給食法から読み解き、学校現場の実際について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4回に向けて子どもの成長発育に食生活がどのように影響しているかについてまとめる	
第4回	子どもの発達と食生活について	(学修内容) 子どもの健康実態と食生活の関りについて考える (事前事後学修課題の内容) (40分) 第3回の課題子どもの成長発達への食生活の影響についてプレゼンする	
第5回	学校給食献立について	(学修内容) 学校給食献立に関わる様々な給食管理と学校給食への地場産物活用について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第12回に向けて、自分の出身地における地場産物とその食し方について調べる	
第6回	給食の時間における食に関する指導の実際について	(学修内容) 給食の時間における食に関する指導(小・中・支援学校)について、その実際の様子から理解する (事前事後学修課題の内容) (40分) 授業開始時に「学校給食を教材として」とはどのような意味を持っているかについてディスカッションする	
第7回	教科・領域等における食に関する指導について	(学修内容) 小・中・支援学校の教科・領域等授業における食育に関する事項と栄養教諭の関わり方について理解する (事前事後学修課題の内容) (40分) 「生活科」について調べ、その中で栄養教諭はどのように関わることができるかディスカッションする	
第8回	食に関する指導の指導案と教材研究について	(学修内容) 食に関する指導の指導案の作成について理解する (事前事後学修課題の内容) (40分) 第13回の模擬授業に向けて指導案の作成をする	
第9回	食に関する指導の指導案と教材研究について	(学修内容) 食に関する指導の教材研究について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 第13回の模擬授業に向けて媒体計画を作成する	
第10回	個別栄養相談指導・食に課題を持つ子の支援について	(学修内容) 食に課題を持つ子の支援について事例から学ぶ (事前事後学修課題の内容) (40分) 学校における食物アレルギーの対応について留意すべきことをディスカッションする	
第11回	個別栄養相談の事例検討	(学修内容) 食に課題を持つ子の事例からカウンセリングの手法について理解し、模擬カンファレンスを行う (事前事後学修課題の内容) (40分) 事例について短期目標及び長期目標をKJ法によって検討する	
第12回	給食だよりについて	(学修内容) 給食だよりの役割と効果的な活用法について考える (事前事後学修課題の内容) (40分) 第5回出身地の地場産物に関わる給食だよりを作成する	
第13回	家庭・地域社会との連携について	(学修内容) 食育における家庭及び地域社会との連携について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 第12回の課題である自身の地場産物に関する給食だよりを紹介し、提出する	
第14回	模擬授業	(学修内容) 食に関する指導の模擬授業を行う (事前事後学修課題の内容) (90分) 指導案、媒体を完成させて、準備を整え模擬授業を行う	
第15回	「学校栄養教育指導論」全体のまとめ	(学修内容) 15回の講座のまとめ及び給食だより、模擬授業を振り返りを行う (事前事後学修課題の内容) (40分) 15回の講座を振り返り、それぞれの栄養教諭像についてディスカッションする	

授 業 名	学校栄養教育概論			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC4812
英 文 名	Nutrition Education at School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	必修	
担 当 者	坂本 裕子			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	<p>栄養教諭は食育基本法に基づき、学校教育において食育を推進していく主要な食の専門家として位置づけられている。栄養教諭としての使命、役割を理解し、子どもたちに食生活が健康な身体をつくっていく基本であることを教えていくための基礎的な知識と技能を修得する。食に関する指導プラン、他教科との連携の在り方を討論し、学習指導案を仕上げ発表する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 栄養教諭の使命を理解し、食に関する指導を実践するための専門知識及び技能を有する。 2) 児童・生徒の食生活の実態と課題を把握し、課題を解決する方策を考えることができる。 3) 学校給食の中で、また家庭科など他教科担任と連携して、食に関する学習指導案を作成できる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>「四訂 栄養教諭論 -理論と実際-」金田雅代 編著 建帛社 「食に関する指導の手引き - 第二次改定版 - 」 文部科学省</p>								
参 考 書	<p>栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂 笠原賀子編著 医歯薬出版株式会社</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>添削後返却します。</p>								
留 意 事 項	<p>受講者間で課題について討論し、コミュニケーションをとって、優れた食育実践ができる力をつけるよう励んでください。</p>								
オ フ ィ ス ア ウ ー	<p>オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など： 京都府立高校 家庭科教員</p>								

授 業 名	学校栄養教育概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	栄養教諭の制度と役割	(学修内容) 食育基本法と食育推進計画、学校給食法、栄養教諭の使命と職務内容について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく テキストp.1-18をよく読んでおく
第2回	食育推進計画と学校における食育推進について学ぶ	(学修内容) 出身地の食育推進計画を調べ、発表し、地域社会の食育実践状況について理解を深める (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.18-27をよく読み、出身地の食育推進計画を調べてくる
第3回	学習指導要領の意義と食育のあり方	(学修内容) 学習指導要領における食育のあり方と栄養教諭に求められていることについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.47-54をよく読んでおく
第4回	食に関する指導の全体計画?	(学修内容) 「全体計画」の内容と作成の手順、食育推進の評価について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.55-65をよく読んでおく
第5回	食に関する指導の全体計画	(学修内容) 「全体計画」(例)の作成を行い、発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.55-65をよく読んでおく。 出身小学校の全体計画を参考に、全体計画面案を作成してくる。
第6回	「食に関する指導」の展開	(学修内容) 全体計画をふまえ、子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成し、実践、評価していくのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.66-74をよく読んでおく
第7回	「生活科」における食に関する指導	(学修内容) 「生活科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.97-101をよく読んでおく
第8回	「家庭科」「技術・家庭科(家庭分野)」における食に関する指導	(学修内容) 「家庭科」「技術・家庭科(家庭分野)」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.101-108をよく読んでおく
第9回	「体育」「保健体育科」における食に関する指導	(学修内容) 「体育」「保健体育科」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.108-114をよく読んでおく
第10回	「総合的な学習の時間」における食に関する指導	(学修内容) 「総合的な学習の時間」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.114-121をよく読んでおく
第11回	「特別活動」における食に関する指導?	(学修内容) 「特別活動」の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-128をよく読んでおく
第12回	「特別活動」における食に関する指導	(学修内容) 「特別活動」における指導案の作成を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.121-128をよく読んでおく
第13回	「社会科」「理科」「道徳」における食に関する指導	(学修内容) 「社会科」「理科」「道徳」の教科の特徴と栄養教諭の関わり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストp.129-140をよく読んでおく
第14回	まとめ1(食に関する指導例の発表:前半)	(学修内容) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表する。(前半3名) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表の準備をしておくこと
第15回	まとめ2(食に関する指導例の発表:後半)	(学修内容) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表する。(後半2名) (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自教科を選んで食に関する指導の例を考え、発表の準備をしておくこと

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC4807
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択	必修	必修	
担 当 者	林 育代・平 正人・富安 広幸・ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	食物栄養4回生				
授業の概要	これまで学んできた専門分野の内容を横断的に理解するため、医療・行政・福祉施設などにおける食と栄養の課題を設定し、解決策を考察し課題解決に取り組むことで、管理栄養士として必要な栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養う。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 専門分野の内容を横断的に理解して、栄養評価や管理が行える力が修得できる。 2) これまでの専門分野の学びと関連付けて各施設における食と栄養の課題を発見し、課題への解決策をマネジメントサイクルに沿って実施できる。 3) 応用的な現場課題に対し、自ら科学的根拠を基に改善策を提案できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士必携 2022年度版 公益社団法人日本栄養士会 編(第一出版) 「総合演習」で使用した「管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録」を継続して使用します。								
参 考 書	日本人のための食事摂取基準(2020年版)								
課題に対する フィードバック の方法	提出物について、コメントを添えて指導を行う。 プレゼンテーションについて、教員・クラスメイトからのコメントを返す。								
留 意 事 項	管理栄養士としての基礎的な視点を養った上で臨地実習に臨めるよう、健康管理を含め積極的に自らの力を発揮できるよう、総合的な復習・準備をしっかりと行うこと。 国家試験対策セミナーの出席および国試模擬試験結果なども参考に、総合的な学力について判断する。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に貼付します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：総合病院勤務での栄養管理・給食管理業務、国際機関での栄養改善業務の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種連携についても伝えていく。								

授 業 名	総合演習（管理栄養士）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 臨地実習の詳細について	（学修内容）臨地実習についてのスケジュールと準備について知る より成果のある実習記録の取り方について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 臨地実習の意義について確認しておく
第2回	特定給食施設における給食マネジメントについて のこれからの課題	（学修内容）給食マネジメントについて、現場での取り組みの実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 給食経営管理論について復習しておく
第3回	臨床現場での栄養・食事指導における課題	（学修内容）病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ （集団指導 グループワーク） （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第4回	臨床現場での栄養・食事指導における課題	（学修内容）病院や福祉施設などでの栄養・食事指導の実際を学ぶ （個別指導 ロールプレイング） （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学・栄養教育論について復習しておく
第5回	公衆衛生行政におけるこれからの課題・地域住民 への管理栄養士の役割について	（学修内容）保健所・保健センターにおける住民課題について学ぶ 公衆栄養活動のための、地域における役割を確認し活動方法を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） 公衆栄養学について復習しておく
第6回	管理栄養士の役割とその重要性について確認し、 自己の実習目標を設定する	（学修内容）管理栄養士の仕事と役割について理解し、自己の実習目標を定める （プレゼンテーション） （事前事後学修課題の内容）（120分） 前もって、自ら学ぶ点について整理しておくこと
第7回	公衆栄養行政における食環境整備の課題について	（学修内容）社会における食環境整備の課題を掘り下げ、PDCAサイクルに沿った改善 策の提案を行う（グループワーク） （事前事後学修課題の内容）（90分） 地域の情報を収集しておくこと（教科書のみではなく、住民の声や事業 などを検索）
第8回	チーム医療・職種間の連携について	（学修内容）実際の現場での事例を基に、グループで意見を出し合い解決策を考える （事前事後学修課題の内容）（120分） 臨床栄養学・栄養教育論を復習 現場の課題について検索しておくこと
第9回	経腸栄養剤・薬剤について	（学修内容）現場で活用される製剤やその使い方について確認する （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学・給食経営管理論を復習しておくこと
第10回	病院・施設での危機管理対応	（学修内容）感染症・災害などの危機管理体制についての現状を知るとともに、グル ープでディスカッションする （事前事後学修課題の内容）（90分） 危機管理に関する情報を収集し、多くの解決策を導きだせるよう準備す ること
第11回	ケースワーク（高血圧、糖尿病）	（学修内容）課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケア プランを作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学を復習のこと
第12回	ケースワーク （肝臓病・クローン病）	（学修内容）課題症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養ケア プランを作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学を復習のこと
第13回	ケースワーク （経管栄養）	（学修内容）主に高齢者症例について、栄養マネジメント手法を総合的に使い、栄養 ケアプランを作成する （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学を復習のこと
第14回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と 相互評価	（学修内容）取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） （事前事後学修課題の内容）（60分） スムーズな発表ができるように事前準備をする
第15回	取り組んだ課題とその解決方法についての発表と 相互評価 まとめと総括	（学修内容）取り組みを発表する（プレゼンテーション・ディスカッション） 自己の取り組みに対する評価を行う （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業と臨地実習での自己の学びを総合的に評価する

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）u a			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3774
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	平尾 隆史・竹村 伸子・森岡 葉子・柿本 真代・盧 珠妍			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>教育実習事前事後指導は、教育実習に臨む心構えを確かなものにするために、演習形式の授業を通して、教師として求められる姿勢や態度、知識、技能の基本を身につけることを目的とする。</p> <p>具体的には、学習指導要領や幼稚園教育要領などに基づいて、教師として必要な要件を確認したのち、子ども理解の基本を復習する。学校・園現場での観察、指導案作成、模擬授業または模擬保育などによって実践力をつけていく。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。</p> <p>2) 教育実習に臨むにあたり、子どもの発達段階や関わり方、学級経営の基本を理解し、保育・学習指導計画を立てることができる。</p> <p>3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、実習に必要な基本的実践力を身につける。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	<p>&lt; 小学校 &gt; 『小学校学習指導要領解説総則 平成29年3月』（文部科学省）</p> <p>&lt; 幼稚園 &gt; 『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』（文部科学省）</p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子編（わかば社）</p>								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	グループ討議の発表や個人・グループの発表後には必ずコメントやアドバイスをする。提出物については、コメントや解説をする。								
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動する。								
オフィスアワー	小学校（平尾）、幼稚園（盧・柿本）が担当し随時実施する。非常勤教員については授業後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与 非常勤教員は京都市立幼稚園園長や大津市公立幼稚園園長・教育委員会勤務経験がある。</p>								

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） シラバスを確認し、（ある場合は）これまでの実習について振り返る。
第2回	学校文化の理解	（学修内容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 各自の経験から学校文化について整理しておく。
第3回	教師に求められる資質・能力	（学修内容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教師にとって大切な資質能力を最低10項目あげておく。
第4回	子ども理解	（学修内容）幼児理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 小学校学習指導要領総則、幼稚園教育要領からそれぞれの時期の子どもの特性を考えておく。
第5回	人権と教育	（学修内容）子どもの一人一人の背景を多面的に見ることを通して、子どもの人権について考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 困りを持った子ども、虐待が疑われる子ども、性に関する困りを持った子どもなど人権に関する諸問題についてわかる範囲で調べてくる。
第6回	教育実習報告会	（学修内容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。事後課題として、発表から自分なりの課題を整理してみる。
第7回	実習記録のとりかた	（学修内容）観察実習の意義と記録の書き方について理解する。ビデオなどの視聴を通して実際の記録を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配付資料および教科書の該当箇所を読み、まとめる。
第8回	実習記録と考察	（学修内容）実際の授業または保育をビデオ等で視聴し、記録のポイント、考察の書き方についてグループディスカッションを通して理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	（学修内容）指導案の意義とその作成法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業または模擬保育をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	（学修内容）グループごとに指導案の作成、教材研究をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自で指導案の構想を立ててくる。
第11回	第1グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）グループ毎に模擬授業または模擬保育をし、その省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導案を完成してくる。
第12回	第2グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）担当者を交代し、グループ毎の反省会を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の反省会資料をまとめてくる。
第13回	第3グループによる模擬授業または模擬保育と教材研究	（学修内容）担当者を交代し、グループ毎の反省会を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の反省会資料をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	（学修内容）実習校・園でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） オリエンテーションで知りたい情報について書きあげてくる
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習ノートの該当箇所を考えてくる。

授業名	教育実習事前・事後指導（幼・小）u b			開講学年	4回生	単位数	1単位	科目コード	LC3774
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten・Elementary School)			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	平尾 隆史・竹村 伸子・森岡 葉子・柿本 真代・盧 珠妍			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>教育実習事前・事後指導ua（3回生配当）に引き続き、目前の教育実習に向けた、より個別的・具体的な指導を行うことが目的である。</p> <p>実習後には、各自が実習を振り返って、課題を見出し、さらに良い教師を目指して、身につけるべき知識・技能を明らかにする。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えができる。</p> <p>2) 教育実習に臨むにあたり、幼児・児童生徒の理解、保育・学習指導、学級経営、学校組織のあり方等の基礎的・基本的な事柄を理解し、主体的に実習に向けて態度や行動をとることができる。</p> <p>3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>4) 上記1)や2)の観点から客観的に実習を振り返り、教員になるための自分の長所や課題などを明確にすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	<p>&lt;小学校&gt; 『小学校学習指導要領解説総則 平成29年3月』（文部科学省）</p> <p>&lt;幼稚園&gt; 『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』（文部科学省）</p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』小櫃智子編（わかば社）</p>								
参考書	適宜紹介する								
課題に対するフィードバックの方法	個人やグループでのプレゼンテーションなどはその場でコメントやアドバイスをする。提出物は解説やコメントをする。								
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動する。								
オフィスアワー	小学校（平尾）、幼稚園（盧・柿本）が担当し随時実施する。非常勤教員については授業後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与 非常勤教員は、京都市立幼稚園園長や天津市公立幼稚園園長・教育委員会勤務経験者である。</p>								

授 業 名		教育実習事前・事後指導（幼・小）u b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の目的、進め方を確認し、実習に向けての課題を確認する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習事前・事後指導uaの最終講で作成した、課題を見直しておく。	
第2回	実習意義の確認と実習生カードの作成	（学修内容）教師にとって大切な資質能力などについて再確認し、実習生カードを作成する。 （事前事後学修課題の内容）（40分） 実習生カード作成のため、所有する資格や健康状態、ピアノレベルなどの正確な状況を把握しておく。	
第3回	オリエンテーションのねらい	（学修内容）実習前オリエンテーションについて、その意味を知り、事前準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習校・園の概要について調べておく。	
第4回	オリエンテーション事後確認と実習直前準備	（学修内容）オリエンテーション後の確認作業をもとに、実習前の最終準備を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習ノートの該当部分にオリエンテーション報告を記述しておく。	
第5回	学級観察と子ども理解	（学修内容）実習校・園に溶け込もうとし、配属学級における授業や子どもの活動観察とその省察を行う。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 担当教師の授業記録または保育記録をとり、授業または保育を計画する。	
第6回	授業・保育の実践 略案または部分実習	（学修内容）計画を立て担当教師の指導のもとに実践をし、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 部分的な実習や略案による授業実践のためのシミュレーションなどをしておく。	
第7回	子ども理解の実践	（学修内容）教師と子どもの関係性の理解、子ども同士の関係性の理解。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 記録をもとに子ども理解を深める。	
第8回	授業・保育の実践 細案または一日実習	（学修内容）計画を立て担当教師の指導のもとに実践し、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（120分） 教材研究 指導案の作成。	
第9回	実習直後の振り返り	（学修内容）実習直後の記憶を頼りに、自己設定目標との差異を明確にし、そのために必要な今後の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 振り返りシートの作成。	
第10回	実習記録の振り返り	（学修内容）教育実習ノートをもとに、一定時間経過後の実習を振り返り（主に教科指導や研究保育などの）成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 返却された実習ノートの記述から振り返りを整理しておく。	
第11回	グループによる振り返りの共有	（学修内容）グループによる話し合いをそれらのプレゼンテーションによって、自分たちの現状を把握し、課題を考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 振り返りシートと教育実習ノートの持参、事前課題をしておく。	
第12回	教育実習報告会の計画立案	（学修内容）実習報告会の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習ノートなどから報告会のためのテーマを考える。	
第13回	教育実習報告会の資料作成	（学修内容）教育実習報告会の発表資料の作成。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマ別の事前課題をグループでしておく。	
第14回	報告会の具体的な役割分担とシュミレーション	（学修内容）先週に引き続き、資料を作成すると同時に、主体的な報告会を進めるための下準備をする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループごとに役割を分け、プログラムなどの作成案をつくっておく。	
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテの実習部分を記述しておく。	

授業名	教育実習事前・事後指導（家庭）u a			開講学年	3回生	単位数	1単位	科目コード	LC3773
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Home Economics)			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	渡邊 雄一			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的など、その意義を理解するとともに、実習への心構えを確かなものにする。実習に備えて、指導案作成、模擬授業及び児童生徒理解につながるロールプレイ等を通して実習に臨むために必要な力を身につける。実習校の学校組織や教育目標、重点取り組み等の理解を図る中で、実習に向けての自己の課題を明らかにする。ビデオを見たり、グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 必要な教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参考書	適宜紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	主体的、積極的授業参画を求める。原則欠席は認めない。校種別に活動することもある。								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育									

授業名	教育実習事前・事後指導（家庭）u a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。介護等体験を含め、教育実習の意義を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	教育の目的 学校文化の理解	（学修内容）学校教育の目的・学校組織・教師の職務等を再認識する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 配付されたテキストの1章をよく読んでおくこと。
第3回	教師に求められる資質・能力	（学修内容）各学校段階に求められる教師の資質・能力について、共通するものと異なるものを理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマについて、既存の知識をまとめておく。
第4回	生徒理解	（学修内容）生徒理解および生徒指導についての基本認識を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） テキストの該当箇所の下調べをしておく。
第5回	人権と教育	（学修内容）「人権と教育」について、発達障害の生徒の理解を中心に考える。支援を要する生徒への指導の在り方についてグループ討議を行う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 発達障害について調べてくる。
第6回	教育実習報告会	（学修内容）上級生の実習報告を聴講し、実習に向けての心構えを構築する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） これまでの授業を振り返り、実習の意義を確認する。
第7回	観察実習記録の取り方	（学修内容）観察実習の意義と記録の取り方、授業省察について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 授業記録（資料）を読み、記録の取り方を考えてくる。
第8回	実習記録作成と省察	（学修内容）実際の授業を観察し、記録を作成し、グループで省察する。 （事前事後学修課題の内容）（20分） 前回の授業ポイントを整理しておく。
第9回	指導案作成の方法	（学修内容）学習指導案の意義とその作成法について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 模擬授業をする教科や活動の教材研究
第10回	指導案作成の実際	（学修内容）学習指導案を作成し、教材研究をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自で学習指導案の構想を立ててくる。
第11回	模擬授業と教材研究	（学修内容）模擬授業を行い、その省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習指導案を完成してくる。
第12回	模擬授業と教材研究	（学修内容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第13回	模擬授業と教材研究	（学修内容）授業者を交代し、グループ毎の授業研究会を実施する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 前回の授業省察記録をまとめてくる。
第14回	教師とコミュニケーション能力	（学修内容）実習校でのオリエンテーションを想定し、コミュニケーション能力を高める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 実習生カードの内容をまとめてくる。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、4春の教育実習に向けての自己の課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 実習ノート該当箇所を考えてくる。

授 業 名	教育実習事前・事後指導（家庭）u b			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3773
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Home Economics)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	渡邊 雄一			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	教育実習に臨むための事前事後指導科目である。演習形式の授業を通して、実習のねらいと目的、課題を理解するとともに、指導案作成の方法や学校組織の理解、教科外指導のあり方等、実習に臨むために必要な力を身につける。実習後には、各自が実習を振り返り反省し、実習の結果を踏まえた教材研究並びに指導案の再検討など今後の課題を明らかにする。グループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 教育実習の意義・ねらいを理解し、実習への心構えを発表することができる。 2) 教育実習に臨むにあたり、学習指導、児童生徒理解、学級経営等の基礎的・基本的な事柄を理解し、説明することができる。 3) 教育実習に向けての自己の課題を明確にし、論述することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 55 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 45 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	京都華頂大学教職課程編『教育実習事前事後指導テキスト』								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	主体的、積極的授業参画を求める。校種別に活動することもある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導（家庭）u b
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業のねらい、進め方を知る。 （事前事後学修課題の内容）（20分） テキストを読み返しておく
第2回	実習目標の策定	（学修内容）オリエンテーションに際しての注意事項を確認すると同時に、自己の実習目標を確かなものにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習生カードを仕上げておく。
第3回	オリエンテーション計画	（学修内容）オリエンテーションに際して実習校についての理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 実習校の概要について調べておく。
第4回	オリエンテーション結果考察	（学修内容）オリエンテーションの結果交流を図ることにより、さらに課題を明確にする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） オリエンテーション報告を作成しておく。
第5回	模擬学級指導	（学修内容）実習校での生徒への自己紹介等の模擬指導の実践及び省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学級指導の略案を立ててくる。
第6回	授業実践	（学修内容）略案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材研究 略案の作成。
第7回	生徒実践的理解	（学修内容）生徒の参与観察をし、その省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 生徒の観察記録の作成
第8回	授業実践	（学修内容）細案を立て担当教師の指導の下に授業実践を行い、省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教材研究 学習指導案の作成
第9回	生徒実践的理解	（学修内容）生徒の参与観察及びその省察をする。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 生徒の観察記録の作成。
第10回	教育実習の振り返り	（学修内容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に教科指導）その成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習ノートの内容を確認する。
第11回	教育実習の振り返り	（学修内容）教育実習ノートをもとに実習の振り返り（主に児童・生徒理解）その成果と課題を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習ノートの内容を確認する。
第12回	教育実習報告会に向けて	（学修内容）実習報告会の計画を立てる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習ノートをもとに報告する内容を考える。
第13回	教育実習報告会に向けて	（学修内容）教育実習報告会の発表資料を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教育実習ノートや成果物などを読み返し、資料作成の準備をする。
第14回	教育実習から学んだこと	（学修内容）教育実習の振り返り及び教育実習報告会から自己の成果と課題を再度考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 成果物を整理する。
第15回	まとめ	（学修内容）授業を振り返り、自己の課題解決に向けての今後の計画を立てる （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテを作成する。

授 業 名	小学家庭・指導法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3770
英 文 名	Teaching Method of Home Economics in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	守野 美佐子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>小学校家庭科の各領域について基本的な内容を概説する。「子どもたちが家庭生活をみつめ、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、創造していける基礎能力をつけていく」ために、小学校家庭科の指導や教材研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。生活課題を把握し、それに即した指導内容と指導方法を習得する。理解を深めるために、グループ学習を取り入れる。授業の実践力を高めるために、指導案の作成、授業のプレゼンテーションなどを取り入れる。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<p>1) 小学校家庭科の教科としての特徴と独自性を理解する。  2) 小学校家庭科の目標、内容を把握して、教科指導ができる。  3) 小学校家庭科で教える技能を習得し、それらを教えることができる。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (指導案の作成と模擬授業)	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テ キ ス ト	<p>「小学校 家庭科教育法」大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子編著 (2018)  「新しい家庭5・6」東京書籍</p>								
参 考 書	<p>「小学校学習指導要領」文部科学省</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出物は添削し講義時に返却する。模擬授業や教材研究などの発表はその場で評価し助言する。レポートは採点し返却日に返却する。</p>								
留 意 事 項	<p>授業で配布するプリント資料もしっかり読むこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	<p>授業終了後に オフィスアワーを設けます。</p>								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：高校家庭科の教員経験有</p>								

授業名	小学家庭・指導法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	小学校家庭科の新学習指導要領	(学修内容) 新学習指導要領の改訂のキーポイントを理解する 家庭科の目標と評価、内容構成について復習する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習指導要領を読んでくる 家庭科で育てたい力について考えておくこと
第2回	家庭科の指導計画と授業の方法	(学修内容) 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業時数や題材構成を考慮して指導計画を立てる視点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 小学校の家庭科の教科書に目を通しておくこと
第3回	指導案の書き方と授業の工夫	(学修内容) ICT活用とプログラミング教育、実践的・体験的授業の充実、個に応じた指導、家庭や地域との連携、実習指導における配慮点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 指導案の書き方を復習しておくこと
第4回	家庭科の内容 A. 家族・家庭生活	(学修内容) A. 家族・家庭生活 の内容について、家庭生活と家族の今日的課題について1時間の授業を計画する (事前事後学修課題の内容)(30分) この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる
第5回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 1. 食生活	(学修内容) B. 衣食住の生活 1. 食生活 について、食生活の今日的課題と調理実習の指導について学ぶ 調理実習の教材を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 調理実習の意義と調理実習の内容を考えてくる
第6回	家庭科の内容 B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活	(学修内容) B. 衣食住の生活 2. 衣生活・住生活 について、衣生活・住生活の今日的課題と布を用いた製作教材を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 布を用いた製作実習の意義と製作実習の内容を考えてくる
第7回	布を用いた製作	(学修内容) 手縫いでできる作品作りを通して実技指導を含む授業について学ぶ 基本縫いの実技実践 (事前事後学修課題の内容)(30分) 作品作りに必要な布、道具等を準備し、忘れず持参する
第8回	家庭科の内容 C. 消費生活・環境	(学修内容) C. 消費生活・環境 について、消費生活・環境の今日的課題について学び、視聴覚教材を活用した授業の計画をする (事前事後学修課題の内容)(60分) この内容の中で、あなたは何を教えたいか考えてくる 実生活で実践できることを考えてくる
第9回	模擬授業 A. 家族・家庭生活	(学修内容) 4回目の講義で計画した指導案を元に模擬授業のプレゼンテーションをする 発表者以外は、教師の目で授業を評価する (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第10回	家庭科の新授業プラン B. 衣食住の生活	(学修内容) 新授業プランの例から学び、自身の授業のアイデアを話し合う 5回目の講義で各自計画した調理実習の教材をグループで意見交換する (事前事後学修課題の内容)(60分) B. 衣食住の生活の内容で、自分が授業をするイメージをし、自身のアイデアが話せるようにしておく
第11回	模擬授業 C. 消費生活・環境	(学修内容) 8回目の講義で計画した、視聴覚教材を活用した授業プレゼンテーションをする。発表者以外は、教師の目で授業を評価する (事前事後学修課題の内容)(60分) 模擬授業をする者は、配布プリントや板書計画、ITC活用などに必要な準備をしておくこと
第12回	単元の導入にあたる授業の計画	(学修内容) 学習の単元の導入の授業を計画する 学習の動機付けができるよう工夫する(グループ活動) (事前事後学修課題の内容)(60分) 児童の学びたい気持ちを引き出せるような授業の工夫を調べてくる
第13回	児童が主体的に学べる授業の計画	(学修内容) アクティブラーニングの学習方法や、プログラミング教育、実践的・体験的授業などを効果的に取り入れた授業を計画する(グループ活動) (事前事後学修課題の内容)(60分) 児童が主体的に学べる1時間の授業をイメージしてくる 参考になる実践例や必要な情報を調べておくことよい
第14回	単元の導入にあたる授業の発表	(学修内容) 12回目で計画した授業をグループ毎に発表 意見やアドバイスを交換する (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ内で分担し、発表の準備をしておくこと
第15回	児童が主体的に学べる授業の発表	(学修内容) 13回目で計画した授業をグループ毎に発表 意見やアドバイスを交換する (事前事後学修課題の内容)(60分) グループ内で分担し、発表の準備をしておくこと

授 業 名	小学理科・指導法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3769
英 文 名	Teaching Method of Science in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	浅田 浩			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	令和2年度から全面实施されている小学校学習指導要領・小学校理科の目標には、知識・技能の習得だけでなく、めざすべき資質・能力の育成が簡潔に示されている。そこで、小学校理科の指導内容や問題を科学的に解決するための学習過程等について、事前調査をもとにした発表形式の授業で相互の学びを深める。後半は、学習指導案（授業案）の作成演習及び模擬授業を通して、小学校理科担当教員に必要な実践的スキルの体得をめざす。								
学 修 成 果 到 達 目 標	小学校理科指導における要点を、具体的に説明することができる。 問題解決の過程を大切に単元計画を作成できる。 単元の特性を踏まえた学習指導案を作成することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	「イラスト図解ですっきりわかる理科」鳴川哲也ほか（2019年）東洋館出版社 「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」をダウンロードしておくこと。								
参 考 書	小学校3・4・5・6年生用 理科教科書（大日本図書、啓林館など）を持っているとよい。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・学習指導案等についてはコメントを付けて返却します。								
留 意 事 項	3～4名を1グループとして、グループディスカッション・プレゼンテーションを実施する。 各自が作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：元京都市立小学校長。元京都市教育委員会学校指導課指導主事（初等理科担当）。元京都理科研究会長。								

授業名	小学理科・指導法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ガイダンス 講義（１） 「小学校学習指導要領における理科の目標、 内容について」	（学修内容）講座の概要、教材・資料、評価についてのガイダンス グループ編成 （事前事後学修課題の内容）（30分） 予習として、小学校学習指導要領解説（理科編）第２章「理科の目標及び内容」第１節「教科の目標」のキーワードをまとめておく。
第2回	講義（２） 「理科の授業づくり」 単元目標、観察実験、学習展開などについて	（学修内容）実験を踏まえた結果の整理や考察と、グループワークでの改善検討 （事前事後学修課題の内容）（40分） 予習として、次回からのプレゼンテーションで担当する単元の要点を整理しておく。
第3回	演習（１） プレゼンテーション（前半グループ １回目）	（学修内容）3年「光と音の性質」、4年「空気と水の性質」など （事前事後学修課題の内容）（50分） 予習として、学習指導要領解説3～4年のA区分（物質・エネルギー）に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第4回	演習（２） プレゼンテーション（後半グループ １回目）	（学修内容）3年「昆虫のつくり」、4年「雨水の行方を地面の様子」など （事前事後学修課題の内容）（50分） 予習として、学習指導要領解説3～4年のB区分（生命・地球）、に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第5回	演習（３） プレゼンテーション（前半グループ ２回目）	（学修内容）5年「流れる水の働きと土地の変化」、6年「土地のつくりと変化」など （事前事後学修課題の内容）（50分） 予習として、学習指導要領解説5～6年のB区分（生命・地球）に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第6回	演習（４） プレゼンテーション（後半グループ ２回目）	（学修内容）5年「電気がつくる磁力」、6年「水溶液の性質」など （事前事後学修課題の内容）（50分） 予習として、学習指導要領解説5～6年のA区分（物質・エネルギー）に関する単元をまとめておく。発表担当者は、準備をしておく。
第7回	講義と演習 「理科の資質・能力の育成をめざした学習指導案 の作成」	（学修内容）学習指導案（学習問題と展開、板書計画など）の作成について 担当する模擬授業の分担や学習指導案、準備物についての検討 （事前事後学修課題の内容）（90分） 模擬授業に向けた指導案の作成
第8回	模擬授業および授業検討会（１） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第9回	模擬授業および授業検討会（２） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第10回	模擬授業および授業検討会（３） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第11回	模擬授業および授業検討会（４） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第12回	模擬授業および授業検討会（５） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第13回	模擬授業および授業検討会（６） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第14回	模擬授業および授業検討会（７） 「担当グループが設定した単元」	（学修内容）担当グループが事前に準備した指導案に基づいた模擬授業と、授業検討会 （事前事後学修課題の内容）（30分） 模擬授業の担当者は、指導案などの準備をしておく。 復習として、模擬授業からの学びをレポートにまとめる。
第15回	まとめと振り返り （講義およびグループワーク）	（学修内容）本講座で行ってきたプレゼンテーションや模擬授業の振り返りと、小学校理科に関わる指導のあり方や授業改善についての整理 （事前事後学修課題の内容）（60分） 復習として、これまでの模擬授業やプレゼンテーションをもとに、指導案を改善する。

授業名	特別活動（家庭・栄養）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3767
英文名	Special Activities			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	加藤 由美子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、生徒の個性慎重を図ると同時に社会性の育成の場としての意義をもつ教育活動である。人としての生き方を学ぶ領域である。講義形式を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領や実践例をもとに、「特別活動」の教育課程上の位置づけ、基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）や、その教育的意義の理解を図る。特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導・道徳教育との関連を踏まえながら理解を深める。学習指導案を作成する。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。  2) 特別活動の目標と内容について理解し、指導案に書くことができる。  3) 特別活動の指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	文部科学省「中学校指導要領解説 特別活動編」「中学校学習指導要領解説 総則編」平成29年								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	毎時間、授業後の振り返りを回収し、次時に解説を行います。								
留意事項	学級経営に重要な役割を持つ領域であり、よりよい人間関係の形成に取り組みたい人に履修してほしいです。								
オフィスアワー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実践的教育									

授 業 名	特別活動（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動 特別活動の基本的性格についての理解を図る。	（学修内容）授業の進め方について知る。教科と特別活動の指導の在り方を比較することにより、特別活動の基本的性格を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.23～29を読み解き、特別活動の基本的性格を確かなものにしておく。
第2回	学校教育と特別活動 特別活動の教育的意義及びその目標についての理解を図る。	（学修内容）「中学校学習指導要領解説 特別活動編」を読みながら、その教育的意義、目標を話しあう。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.11～22を読み解き、特別活動の教育的意義について確かなものにしておく。
第3回	特別活動の目標と内容 特別活動で育成すべき資質・能力の理解を図る。 特別活動で取り扱う内容を概観する。	（学修内容）改訂に向けての中教審答申をもとに、これまでの特別活動の成果と課題を明らかにし、育成すべき資質・能力を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 自己の経験を想起しながら「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.5～10を読み解いておく。
第4回	学級活動 学級活動（1）「学校や学級における生活づくり」の指導についての理解を図る。	（学修内容）学級活動（1）の具体的な指導実践例をもとに、集団活動の意義、合意形成に向けた話し合い、集団決定などの理解を図る指導法を探る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.40～50をもとに「学級」の機能についてまとめておく。それに資する活動を考えておく。
第5回	学級活動 学級活動（1）の話し合い活動の進め方の理解を図る。	（学修内容）学級活動(1)の話し合い活動の具体的な方法を通して、合意形成に向けた話し合い、集団決定、実践活動等の理解を図る指導法を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の意義を理解し、生徒の活動意欲を高めるワークシートの具体例を調べる。
第6回	学級活動 学級活動（1）の指導略案を作成する。	（学修内容）学級活動（1）の指導案の作成方法の理解を図り、「5 展開の過程」の「（2）本時の指導と生徒の活動」の部分を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.40～50をもとに、題材及び議題をを考えておく。
第7回	学級経営と特別活動 学級経営の意義を明確にする。学級経営に機能する学級活動のあり様についての理解を図る。	（学修内容）集会活動や係活動などの具体例から、特別活動の機能を生かした学級経営について考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.114～116をもとに、今、どのような学級経営が求められているのか考えまとめておく。
第8回	学級活動 学級活動（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の具体的な指導法の理解を図る。	（学修内容）生活上の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健康で安全な生活の構築について考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 授業後深まった理解をレポートにまとめる。
第9回	学級活動 学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の具体的な指導法についての理解を図る。	（学修内容）社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解し、社会的・職業的自立について考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 授業後深まった理解をレポートにまとめる。
第10回	学級経営と特別活動 学級経営と特別活動のかかわりについて実践例を聴く。	（学修内容）実践例を聴き、意見交流を行う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 意見交流により、学級活動の指導についての理解を深め、レポートにまとめる。
第11回	生徒会活動 自治能力を育てるための「生徒会活動」の具体的な内容の理解を図る。	（学修内容）自己の経験してきた生徒会活動を振り返り、その効果と問題点を明らかにし、今後のあり様を話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.74～76を読み、生徒会活動に求められていることを学習資料にまとめておく
第12回	学校行事 学校行事の目標、取り上げる具体的な内容、指導方法等についての理解を図る。	（学修内容）学校行事（儀式的行事、文化的行事、体育的行事、宿泊的行事、奉仕的行事等）の自己の経験を想起しながら、その意義について話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」P.74～76を読み解き、特に取り上げたい学校行事についての具体的な指導方法を考えてくる。
第13回	特別活動と道徳教育 特別活動と道徳教育との関連について、その機能を道徳の視点から明らかにする。	（学修内容）道徳実践指導の場として、道徳教育を機能させる特別活動の実践について、学習資料をもとに考え話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 道徳教育と関連する学級活動の実践事例を調べる。
第14回	特別活動と生徒指導 特別活動と生徒指導との関連について、その機能を生徒指導の視点から明らかにする。	（学修内容）積極的な生徒指導を機能させる特別活動の実践について、学習資料をもとに考え話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 生徒指導と関連する学級活動の実践事例を調べる。
第15回	特別活動まとめ これからの特別活動のあり方について考える。	（学修内容）これまでの学習をもとに、自己の特別活動の指導観を確かなものにする （事前事後学修課題の内容）（240分） これからの特別活動のあり様を考え、自己の特別活動に対する指導観をレポートにまとめる。

授 業 名	総合演習 (管理栄養士)			開 講 学 年	3回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	LC3753
英 文 名	Integrated Study (national registered dietitian)			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	林 育代・平 正人・富安 広幸・ロシニョーリ 正代			対 象 学 生	食物栄養3回生				
授業の概要	<p>専門分野の各講義や実習で学習した内容を発展させ理解を深めるために、臨地実習を想定した課題・情報収集や分析を行い、解決策を自らで考案し課題解決に取り組む。衛生管理や栄養指導の実際を修得する。また、栄養評価や栄養管理に必要な総合的能力を養う。 臨地実習の事前事後指導を行うことで実習を効果的なものにする。管理栄養士としての実践力をつける。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 管理栄養士としての基礎を修得して、実践的な力をつける。 2) 臨地実習に向けて、総合力、応用力をつける。 3) マナーや言葉遣いなど、社会人として必要なスキルが身についている。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	<p>適宜プリント配布 管理栄養士・栄養士養成課程における臨地・校外実習要録(後日配布) 臨地実習・校外実習ハンドブック 藤原政嘉/田中俊治/赤尾正 編(みらい) 管理栄養士・栄養士必携 2022年度版 公益社団法人日本栄養士会 編(第一出版)</p>								
参 考 書	日本人の食事摂取基準(2020年版)								
課題に対する フィードバック の方法	<p>プレゼンテーション時のアドバイス・指導 提出物への各自コメント記入</p>								
留 意 事 項	<p>臨地実習における専門的知識および技術の統合を図るための事前指導を含む。 国家試験対策などの結果も参考に、総合的な学力について判断する。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に貼付します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：総合病院における栄養管理業務等の経験を生かし、現場に即した総合的な指導にあたる。また、職種間の連携についても伝えていく。</p>								

授 業 名	総合演習（管理栄養士）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	管理栄養士の役割と業務について	（学修内容）オリエンテーション 管理栄養士の役割について確認する （事前事後学修課題の内容）（60分） 栄養士法など関連法規を再読しておく
第2回	臨地実習の目的と意義	（学修内容）臨地実習の目的と意義について詳しく学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨地・校外実習要録を熟読し、ポイントをまとめておく
第3回	臨地実習の心構え	（学修内容）実習生としての心構えやマナーについて考える（ロールプレイ） 倫理要綱を確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） マナーや敬語について各自復習をしておく
第4回	臨地実習課題への取り組み方法	（学修内容）病院・福祉施設・保健所など各施設での設定課題取り組む （事前事後学修課題の内容）（60分） 各施設に置ける関連トピックについて検索し、施設の特徴を調べておく
第5回	情報収集	（学修内容）課題の状況や原因などについて現状を調べる （事前事後学修課題の内容）（120分） 既存資料、各種調査結果から必要な資料の収集を行い持参する。
第6回	課題の実践と研究	（学修内容）課題解決策を提案しまとめる（グループワーク） （事前事後学修課題の内容）（60分） グループで協力し、課題解決策案をまとめる
第7回	実習目標の設定	（学修内容）課題への解決策と改善への取り組みについて、各自目標を設定する （事前事後学修課題の内容）（60分） PDCAサイクルなどを復習のこと
第8回	特定給食施設における給食運営について	（学修内容）特定給食施設における給食業務の実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 給食経営管理論（特にHACCP）について復習しておく
第9回	臨地実習「給食の運営」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）臨地実習での目標等を設定する （事前事後学修課題の内容）（90分） 各実習先にあった自己目標を設定できるよう、施設について調べる
第10回	臨床現場での食事・栄養管理情報の取得とミーラウンド	（学修内容）ベッドサイド訪問における管理栄養士の役割と使命について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 栄養教育論を復習しておく
第11回	「臨床栄養学臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）栄養管理計画の作成と評価、チーム医療活動の実際について学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 臨床栄養学について復習しておく
第12回	特定給食施設における給食マネジメントについて	（学修内容）臨地実習先で確認・検討する点等をグループでまとめる （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自の目標設定・実習計画を明確にしておく
第13回	「給食経営管理臨地実習」の実習施設の特徴、実習テーマ設定	（学修内容）臨地実習に向く際の準備や各自のテーマについて考える （事前事後学修課題の内容）（60分） 給食の運営に関して、各自持ち寄った計画へのグループディスカッションを行う
第14回	公衆栄養行政の現状と事業の実際	（学修内容）栄養行政を取り巻く現状の課題と法律や施策との関係を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） 公衆栄養学について復習しておく
第15回	チーム医療・検査値の活用	（学修内容）現場で活用するデータについて確認する （事前事後学修課題の内容）（60分） 症例について各自検討しておくこと

授 業 名	小学外国語・指導法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3747
英 文 名	Teaching Method of Foreign language in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	石井 正			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	児童を対象とした外国語教育法に関する講義の他、授業のビデオを見たり、グループワークやディスカッションをしたり、小学校外国語活動・外国語科（英語）の学習理論と指導法を学ぶ。また、授業づくりのために指導案を書いたり、模擬授業をしたりして、実践的な指導技術を習得する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	(1)「外国語活動」と「外国語」の内容を理解し、説明することができる。 (2)「外国語活動」と「外国語」の指導案を書くことができる。 (3)簡単なクラスルームイングリッシュを使って、模擬授業ができる。 (4)簡単な英語を使って、Small Talkができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	佐藤久美子「小学校英語の教え方 25のルール」講談社2018年								
参 考 書	文部科学省編「小学校学習指導要領解説（平成29年告示）外国語活動・外国語」 文部科学省編「Let's try ! 1・2」 光村図書編「Here We Go ! 5・6」								
課題に対する フィードバック の方法	提出された振り返りレポートはコメントを付けて返却します。 筆記試験については、採点して返却します。 実技については、その都度コメントします。								
留 意 事 項	1) 小学校現場にボランティアに行き積極的に外国語活動・外国語科の授業を見学してください。 2) ラジオ講座などを活用して、自分自身の英語力を上げる努力をしてください。 オフィスアワー：授業終了後に実施します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後に実施します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭・教頭・校長として勤務 2年間英語担当者として小学校英語活動の教材・授業案集を作成 一週間に12コマ程度T1として担任と指導の経験 現職：京都市教育委員会 学校指導課参与（小学校英語担当）年間100コマ以上、小学校英語の授業を指導								

授 業 名	小学外国語・指導法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 小学校における外国語活動・外国語について	(学修内容) 授業の概要説明、学習指導要領に示された外国語活動・外国語科について (事前事後学修課題の内容)(60分) 小学校外国語まとめ「始める前にしておきたい10のこと」(YouTube)を視聴し、レポートにまとめて提出
第2回	クラスルームイングリッシュ 授業ビデオ視聴 授業で使うゲーム	(学修内容) 授業のビデオを視聴しその気づきについてディスカッション、ゲームのワークショップ (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として研修ガイドブックのクラスルームイングリッシュ(文部科学省編)の「授業で使う英語」を覚え、使えるようにする。
第3回	求められる指導者の資質・能力 授業ビデオ視聴 授業で使うゲーム	(学修内容) 求められる指導者の資質・能力について 授業のビデオを視聴しその気づきについてディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習としてテキストRule1~5までを読み、レポートにまとめて提出する。
第4回	スモール・トーク 授業ビデオ視聴 授業で使うゲーム	(学修内容) スモール・トークの意義について 授業のビデオを視聴しその気づきについてディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習としてテキストRule6~10までを読み、レポートにまとめて提出する。
第5回	外国語活動・外国語の授業づくり 授業ビデオ視聴 授業で使うゲーム	(学修内容) 言語活動を大切に授業づくりの在り方 授業のビデオを視聴してその気づきについてディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) Rule11~15までを読み、レポートにまとめて提出する。
第6回	小学校英語「聞くこと」の指導について 授業で使うゲーム	(学修内容) 「聞くこと」の指導の在り方、具体的な方法とワークショップ (事前事後学修課題の内容)(60分) Rule16~20までを読み、レポートにまとめて提出する。
第7回	小学校英語「読むこと」の指導について 絵本の読み聞かせ 授業ビデオ視聴	(学修内容) 単語や簡単な文を読む際の指導のポイント理解 絵本の読み聞かせ(ワークショップ) (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として絵本「はらべこあおむし」を音読しておく。
第8回	小学校英語「話すこと」(やりとり)・(発表)の指導について 授業ビデオ視聴	(学修内容) 話す(やりとり)や(発表)の指導のポイント理解 授業のビデオを視聴してその気づきについてディスカッション (事前事後学修課題の内容)(60分) Rule21~25までを読み、レポートにまとめて提出する。
第9回	小学校英語「書くこと」の指導について クラスルームイングリッシュ ミニテスト?	(学修内容) 「書くこと」「書き写す」ことの指導について アルファベットの指導 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「なるほど! なっとく! 小学校外国語(3)授業づくりのポイント」(文科省)を視聴してレポートにまとめて提出
第10回	クラスルームイングリッシュ ミニテスト? 指導案の書き方、作り方について模擬授業の計画を立てる	(学修内容) 学習目標、指導計画の立て方、指導細案の書き方について グループで模擬授業の計画を立て、担当者を決める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として京都市版外国語科指導案を読み、質問をレポートにまとめて提出。
第11回	クラスルームイングリッシュ ミニテスト? 模擬授業の発表とディスカッション (3年生 Let's try 1)	(学修内容) 担当2グループによる模擬授業と全員でのディスカッション 発表しないグループは子供役で参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当グループは模擬授業の準備をする。子供役のグループは、授業での児童の躡きの可能性を1つ挙げ、対処法を考えレポートにまとめて提出
第12回	クラスルームイングリッシュ ミニテスト? 模擬授業の発表とディスカッション (4年生 Let's try 2)	(学修内容) 担当2グループによる模擬授業と全員でのディスカッション 発表しないグループは子供役で参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当グループは模擬授業の準備をする。子供役のグループは、授業での児童の躡きの可能性を1つ挙げ、対処法を考えレポートにまとめて提出
第13回	クラスルームイングリッシュ ミニテスト? 模擬授業の発表とディスカッション (5年生 Here We Go!)	(学修内容) 担当グループによる模擬授業と全員でのディスカッション 発表しないグループはこども役で参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当グループは模擬授業の準備をする。子供役のグループは、授業での児童の躡きの可能性を1つ挙げ、対処法を考えレポートにまとめて提出
第14回	クラスルームイングリッシュ ミニテスト? 模擬授業の発表とディスカッション (6年生 Here We Go!)	(学修内容) 担当2グループによる模擬授業と全員でのディスカッション 発表しないグループは子供役で参加 (事前事後学修課題の内容)(60分) 担当グループは模擬授業の準備をする。子供役のグループは、授業での児童の躡きの可能性を1つ挙げ、対処法を考えレポートにまとめて提出
第15回	まとめとふりかえり(筆記) クラスルームイングリッシュ評価(筆記)	(学修内容) 小学校外国語活動・外国語科指導のまとめ(筆記テスト) クラスルームイングリッシュ確認(筆記テスト) (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習としてクラスルームイングリッシュに関するドリルを練習する。

授 業 名	小学生生活・指導法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3746
英 文 名	Teaching Method of Life Environment Studies in Elementary School			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	寺田 博幸			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	本授業では、生活科が創設された背景を小学校教育の営みをもつ意味から検証し、生活科の目標や内容、指導計画作成と学習指導とその評価について理解する。また、実践事例をもとに、基礎的な学習指導理論や指導上の留意点を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けるとともに、授業設計に基づく学習指導案を作成し模擬授業を行う。								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活科が創設された背景を踏まえ、生活科に関わる基礎的・基本的な理論について理解することができる。</li> <li>2. 生活科で育成を目指す資質・能力を育てるための指導計画作成や単元構想、学習指導の在り方について理解することができる。</li> <li>3. 生活科における指導と評価の一体化と子供の学習意欲を高める学習指導法について理解することができる。</li> <li>4. 生活科における子供自身の自己評価や相互評価の在り方について理解することができる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編 平成29年7月 文部科学省 東洋館出版社 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程 研究センター 東洋館出版社								
参 考 書	小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン 亀岡正睦 編著 明治図書								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたコメントカードの声を受け止めながら、受講生が課題を共有する。								
留 意 事 項	到達目標に迫るため、15回の授業に出席し学びを深めるとともに、その学びを生かすための事前・事後学習に積極的に取り組むこと。教職を強く志望する学生の履修を望む。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	水曜日の午後の休憩時、及び授業時間								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市立小学校校長として勤務								

授 業 名		学修項目	学修内容・課題
第1回	生活科教育の意義と教科目標や内容、及び全体構造	(学修内容)生活科教育の意義と教科目標や内容、及び全体構造 (事前事後学修課題の内容)(90分) 小学校学習指導要領解説生活編第1章、第2章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第2回	生活科の個別の内容と指導上の留意点	(学修内容)生活科の個別の内容と指導上の留意点 (事前事後学修課題の内容)(90分) 小学校学習指導要領解説生活編第3章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第3回	生活科の学習指導とその評価の考え方、実践上の留意点	(学修内容)生活科の学習指導とその評価の考え方、実践上の留意点 (事前事後学修課題の内容)(90分) 小学校学習指導要領解説生活編第4章、第5章を読み解くとともに、提示する課題について小レポートにまとめる。	
第4回	生活科のカリキュラム・マネジメントを意識した指導計画作成、及び教材研究	(学修内容)生活科のカリキュラム・マネジメントを意識した指導計画の作成、及び教材研究 (事前事後学修課題の内容)(90分) 配布する資料に基づき、指導計画の全体像をイメージする。	
第5回	子供の思考の流れを意識した単元構想と学習指導、及び教材研究	(学修内容)子供の思考の流れを意識した単元構想と学習指導、及び教材研究 (事前事後学修課題の内容)(90分) 配布する資料に基づき、単元構想と学習指導をイメージする。	
第6回	生活科学習指導の実践事例1、ICTを活用した授業設計 単元「ぐんぐん そだて みんなの やさい」関連内容項目(7),(5),(8)	(学修内容)実践事例単元「ぐんぐんそだて みんなのやさい」の授業づくり 関連項目(7),(5),(8) (事前事後学修課題の内容)(90分) 学習指導計画「ぐんぐんそだて みんなのやさい」に基づき、授業設計をイメージする。	
第7回	生活科学習指導の実践事例2、ICTを活用した授業設計 単元「いきものと なかよし」関連内容項目(7),(8)	(学修内容)単元「いきものと なかよし」の授業づくり 関連項目(7),(8) (事前事後学修課題の内容)(90分) 学習指導計画「いきものと なかよし」に基づき、授業設計をイメージする。	
第8回	生活科学習指導の実践事例1、ICTを活用した授業設計 単元「町たんけん」関連内容項目(3),(5),(8)	(学修内容)単元「町たんけん」の授業づくり 関連内容項目(3),(5),(8) (事前事後学修課題の内容)(90分) 学習指導計画「町たんけん」に基づき、授業設計をイメージする。	
第9回	生活科学習指導の実践事例1、ICTを活用した授業設計 単元「かぞく だいすき」関連内容項目(2),(8),(9)	(学修内容)単元「かぞく だいすき」関連内容項目(2),(8),(9) (事前事後学修課題の内容)(90分) 学習指導計画「かぞく だいすき」に基づき、授業設計をイメージする。	
第10回	生活科学習指導の実践事例1、ICTを活用した授業設計 単元「がっこう だいすき」関連内容項目(1),(8)	(学修内容)単元「がっこう だいすき」の授業づくり 関連内容項目(1),(8) (事前事後学修課題の内容)(90分) 学習指導計画「がっこう だいすき」に基づき、授業設計をイメージする。	
第11回	生活科学習指導案作成とグループ別模擬授業1	(学修内容)作成した学習指導案の提案とグループ別模擬授業 (事前事後学修課題の内容)(90分) 作成した学習指導案に基づき、グループ別の模擬授業に取り組むとともに、相互評価を行う。	
第12回	生活科学習指導案作成とグループ別模擬授業2	(学修内容)作成した学習指導案の提案とグループ別模擬授業 (事前事後学修課題の内容)(90分) 作成した学習指導案に基づき、グループ別の模擬授業に取り組むとともに、相互評価を行う。	
第13回	生活科学習指導案に基づく模擬授業の全体提案1	(学修内容)作成した学習指導案に基づく模擬授業の全体提案 (事前事後学修課題の内容)(90分) 作成した学習指導案に基づき、全体の模擬授業に取り組むとともに、相互評価を行う。	
第14回	生活科学習指導案に基づく模擬授業の全体提案2	(学修内容)作成した学習指導案に基づく模擬授業の全体提案 (事前事後学修課題の内容)(90分) 作成した学習指導案に基づき、全体の模擬授業に取り組むとともに、相互評価を行う。	
第15回	教材づくりと模擬授業の総括、生活科学習の充実と総合的な学習の時間への適切な接続	(学修内容)教材づくりと模擬授業の総括、生活科学習の充実と総合的な学習の時間への適切な接続 (事前事後学修課題の内容)(90分) 教材づくりと模擬授業について総括するとともに、総合的な学習の時間への適切な接続についてまとめる。	

授 業 名	小学国語・指導法			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC3745
英 文 名	Teaching Method of Japanese in Elementary School			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	柿本 真代			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	小学校国語科の目標や内容、評価について理解したうえで、物語や昔話、説明文の教材としての特徴や指導上の留意点等をふまえて、実際に教材研究および模擬授業を実施することで、小学校における国語科授業の実践的スキルを身につける。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価について説明できる。 2) 教材や情報機器の効果的な活用法を理解したうえで小学校国語科の授業を計画・立案・実施することができる。 3) 模擬授業とその振り返りを行い、授業の改善ができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』文部科学省、2017年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	指導案および模擬授業については、翌週に講評をします。								
留 意 事 項	模擬授業やその参観が主な内容になるため、十分に準備をしたうえで積極的な受講態度で臨むようにしてください。なお、シラバスの内容は受講生の要望等により変更することがあります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明します。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		小学国語・指導法
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や内容など  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 小学校学習指導要領を読み直しておく
第2回	指導の技術	(学修内容) ICTの活用の方法や計画的な板書の方法について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導要領の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第3回	指導案について	(学修内容) 国語科学習指導案の作成について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導要領の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第4回	教材研究と指導案	(学修内容) 「読むこと」(物語文)の教材研究の方法と指導案の作成  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導要領の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第5回	教材研究と指導案	(学修内容) 「読むこと」(説明文)の教材研究の方法と指導案の作成  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導要領の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第6回	模擬授業	(学修内容) 「書くこと」(手紙、日記)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第7回	模擬授業	(学修内容) 書写の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第8回	模擬授業	(学修内容) 「話すこと・聞くこと」の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第9回	模擬授業	(学修内容) 「知識及び技能」(国語の特質に関する事項)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第10回	模擬授業	(学修内容) 「読むこと」(物語文)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第11回	模擬授業	(学修内容) 「読むこと」(説明文)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第12回	模擬授業	(学修内容) 「書くこと」(作文)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第13回	模擬授業	(学修内容) 「知識及び技能」(伝統的な言語文化)の模擬授業  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導書の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第14回	授業のユニバーサルデザイン	(学修内容) 国語科授業におけるユニバーサルデザインの技法について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導要領の該当箇所を読み直しておく (事後) 教科書の該当箇所を読み、まとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの学びを振り返る  (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) これまでの指導案と教科書を読み直しておく (事後) この授業で学んだことをまとめ、課題に取り組む

授 業 名	子どもの音楽			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC3744
英 文 名	Children and Music			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子・阿久津 啓・千田 浩美・永峯 翠子・服部 さやか			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	子どもの音楽 に引き続きピアノによる初見および弾き歌いを通して、保育・教育現場でのより高い音楽的实践力を身に付ける。また、リズム表現等に必要となる即興の変奏も音楽理論の理解を深めつつ学ぶ。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認の確認および指導を行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 初見での弾き歌いに慣れる。 2) 既存の子どもの歌の弾き歌いを応用した即興の変奏を習得することができる。 3) 子どもの音楽活動に必要な音楽の諸理論を理解し、それらを実践に生かすことができる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	実技および実技を支える楽典等は定期的に小試験を課し、課題の達成度を確認する。								
留 意 事 項	レベルに合わせたクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		子どもの音楽	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	初見（応用編：調）および初見視唱（基礎）・弾き歌い	（学修内容）基本的な調性による初見復習および平易な8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（30分） 音楽 で習得した基本的な初見の手順を復習しておくこと	
第2回	初見（応用編：2拍子）および初見視唱（八長調）・弾き歌い	（学修内容）2拍子の子どもの歌の初見練習および平易な八長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第3回	初見（応用編：3拍子）および初見視唱（へ長調）・弾き歌い	（学修内容）3拍子の子どもの歌の初見練習および平易なへ長調の8小節程度の初見視唱・弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 2回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第4回	初見（応用編：4拍子）および弾き歌い小試験	（学修内容）4拍子の子どもの歌の初見練習および弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 3回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌いを復習しておくこと	
第5回	初見（応用編：符点）および初見視唱（ト長調）・弾き歌い	（学修内容）符点のリズムを用いた初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 4回目に説明した初見・初見視唱のポイント・弾き歌い（小試験）の復習をしておくこと	
第6回	初見（応用編：タイ）および弾き歌い	（学修内容）タイを用いた子どもの歌の初見練習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 5回目に説明した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。	
第7回	初見（応用編：総合演習）および弾き歌い	（学修内容）1回目から6回目までに学習した初見の総合実践演習および弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から6回目までに学習した初見・弾き歌いの復習をしておくこと。	
第8回	初見小テストおよび弾き歌い小試験	（学修内容）初見および弾き歌いの個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から7回目までに学習した初見・弾き歌いの総復習をしておくこと	
第9回	即興的なリズム変奏（マーチ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（マーチ）の実践演習および弾き歌いとその移調の際の理論について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（マーチ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第10回	即興的なリズム変奏（ワルツ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（ワルツ）の実践演習および弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（ワルツ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第11回	即興的なリズム変奏（スキップ）および弾き歌い（移調含む）	（学修内容）即興的なリズム変奏（スキップ）の実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（スキップ）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第12回	即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）および弾き歌い小試験	（学修内容）即興的なリズム変奏（様々なステップパターン）の実践演習と弾き歌い（移調含む）の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） リズム変奏（様々なステップパターン）と弾き歌い（移調含む）の復習をしておくこと	
第13回	即興的なリズム変奏（総合演習）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の総合実践演習と弾き歌い（移調含む）について （事前事後学修課題の内容）（60分） 9回目から12回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと	
第14回	即興的なリズム変奏（小試験）および弾き歌い	（学修内容）即興的なリズム変奏の小試験と弾き歌いについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 9回目から13回目迄に学習したリズム変奏の総復習をしておくこと	
第15回	初見・弾き歌い・移調奏総合実践演習	（学修内容）子どもの歌を用いた初見・弾き歌い・移調奏の総合実践について （事前事後学修課題の内容）（60分） 1回目から14回目までに学習した内容の総復習をしておくこと	

授業名	教育課程総論（家庭・栄養）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	LC3740
英文名	Outline of Curriculum (Home Economics・Nutrition)			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	柘植 誠子			対象学生	現代家政3回生、食物栄養3回生				
授業の概要	<p>本授業では、教育課程の意義や編成の基本原則について考察し理解を深め、学習指導要領に基づいた教育課程の展開方法を学びます。さらに教育課程をめぐる代表的な思想や議論にも触れ、わが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を考えます。また、「カリキュラム・マネジメント」の重要性や「主体的・対話的で深い学び」を理解し、子どもたちの能力や個性を伸ばす教育課程（カリキュラム）について学びを深めます。その上で、個々の取得予定免許のカリキュラム作成に挑戦し、グループワークを通して実践的にカリキュラム編成の基礎的技法を学びます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育課程をめぐるわが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を理解できる。  2) 「カリキュラムマネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」について説明できる。  3) 学習指導要領の内容を通して、生徒や地域の実態を踏まえた指導計画を作成することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編』東洋館出版社  文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編』東洋館出版社  筒井恭子編著「小学校家庭科『資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』」東洋館出版社 2020年  筒井恭子編著「中学校技術・家庭科『資質・能力を育む学習指導と評価の工夫』」東洋館出版社 2021年  取得予定免許に応じて のいずれか、 のいずれかを必携してください。（高等学校免許取得予定者は を選択）</p>								
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領解説 総則編』</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。  プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。</p>								
留意事項	<p>これまでの学校生活におけるカリキュラム、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。</p>								
オフィスアワー	<p>第1回目の授業で告知します。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として勤務</p>								

授 業 名	教育課程総論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	（学修内容）授業を進めるうえでの留意点 教育課程の定義について （事前事後学修課題の内容）（60分） 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	教育課程改訂の経緯、教育課程の基準	（学修内容）改訂の基本方針、教育課程の意義、教育課程に関する法制について （事前事後学修課題の内容）（60分） 改訂の基本方針を読み、ノートに要点をまとめておく。
第3回	学校教育の基本と役割	（学修内容）教育課程編成の原則について 育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメントについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 中学校教育と小学校教育の基本について比較し、違いを発表できるようにしておく。
第4回	教育課程の編成と学習評価	（学修内容）教科横断的な視点に立った資質・能力について 教育課程編成における共通の事項、学校段階間の接続について （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習評価の観点を整理し、発表できるようにしておく。
第5回	生徒の発達支援	（学修内容）生徒及び特別な配慮を必要とする生徒への指導について （事前事後学修課題の内容）（60分） 個に応じた指導について調べ、様々な指導の方法を発表できるようにまとめておく。
第6回	学校運営上の留意事項 道徳教育推進上の配慮事項	（学修内容）学校評価、家庭や地域社会との連携について 道徳教育の指導体制と全体計画について （事前事後学修課題の内容）（60分） 道徳教育の重要性についてレポートを作成し提出する。
第7回	家庭科の目標及び内容	（学修内容）家庭分野の目標、内容構成、内容について （事前事後学修課題の内容）（60分） 家庭分野の内容を、A、B、Cに分けてまとめて記述し、発表できるようにしておく。
第8回	家庭分野の学習を通して「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」	（学修内容）家庭科、家庭分野において育成を目指す資質・能力 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「小・中学校の内容の系統性」を熟読し、ノートに要点をまとめておく。
第9回	家庭分野を「どのように学ぶのか」	（学修内容）家庭分野における学習過程と題材構成および「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導計画例を参考に、自身が作成するカリキュラムについて構想しておく。
第10回	家庭分野の学習を通して「何が身に付いたのか」	（学修内容）家庭分野における学習評価の改善のポイントについて 学習評価の進め方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 評価の進め方や評価方法の工夫についての具体案を構想しておく。
第11回	指導計画の作成と内容の取扱い	（学修内容）指導計画作成の配慮事項について 内容の取扱いと指導上の配慮事項について （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導計画について具体的に考え、用紙に記入しておく。
第12回	カリキュラム作成の実際	（学修内容）授業づくり（モデルプラン）について （事前事後学修課題の内容）（60分） カリキュラムを完成し、プレゼンテーションが行えるようにしておく。
第13回	カリキュラム発表（小学校向けカリキュラム）	（学修内容）各自作成したカリキュラムのプレゼンテーション 他者のカリキュラムを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（60分） カリキュラムを作成し、発表できるようにしておく。
第14回	カリキュラム発表（中学校・高校向けカリキュラム）	（学修内容）各自作成したカリキュラムのプレゼンテーション 他者のカリキュラムを学ぶ （事前事後学修課題の内容）（120分） 各自、プレゼンテーションでの反省、考察、課題をまとめておく。
第15回	カリキュラムと評価	（学修内容）教育評価の考え方、カリキュラム評価の進め方について 様々な評価の実際 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自作成したカリキュラムについて、反省、考察、課題等の評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授 業 名	特別活動（小）			開 講 学 年	3回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE3460
英 文 名	Special Activities (Elementary School)			開 講 時 期	秋学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	加藤 由美子			対 象 学 生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>学校教育の機能としての集団生活を基盤とした特別活動は、児童の個性伸長を図るとともに社会性の育成の場としての意義を持つ教育活動である。人間としての生き方を学ぶ領域である。講義を中心に、グループワークや討議を取り入れ、学習指導要領を基に、教育課程上の位置づけ、特別活動の基本的性格（問題解決を目指した主体的、実践的集団活動）及びその教育的意義の理解を図る。同時に、特別活動の指導のあり方について、学級経営や生徒指導との関連を踏まえながらその理解を深める。学習指導案を作成する。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけを理解し説明することができる。  2) 特別活動の目標と内容について理解し、指導案に書くことができる。  3) 特別活動の実践的な指導の基本を理解し、具体的な指導計画が立てられる。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」平成29年  文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」</p>								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎時間、授業後の振り返りを回収し、次時に解説を行います。								
留 意 事 項	学級経営に重要な役割を持つ領域であり、よりよい人間関係の形成に取り組みたい人に履修してほしいです。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実践的教育									

授 業 名	特別活動（小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学校教育と特別活動 特別活動の基本的性格（実践活動、自主的な活動、集団活動）についての理解を図る。	（学修内容）授業の進め方について知る。教科と特別活動の指導の在り方を比較することにより、特別活動の基本的性格を明らかにする。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.24～29を読み解き、特別活動の基本的性格を確かなものにしておく。
第2回	学校教育と特別活動 特別活動の教育的意義及びその目標についての理解を図る。	（学修内容）「小学校学習指導要領解説編 特別活動」を読みながら、その教育的意義、目標について話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.11～20を読み解き、特別活動の目標をまとめておく。
第3回	学校教育と特別活動 特別活動で育成すべき資質能力の理解を図る。 特別活動で取り扱う内容を概観する。	（学修内容）改訂学習指導要領及び改訂に向けての中教審答申をもとに、これまでの特別活動の成果と課題を明らかにし、育成すべき資質・能力を考える。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 自己の経験を想起しながら「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.5～10を読み解いておく。
第4回	学級活動 学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」の指導についての理解を図る。	（学修内容）学級活動（1）の具体的な指導実践例をもとに、提案理由、合意形成に向けた話し合い、集団決定、実践活動などについて理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.43～P.51をもとに「学級」の機能についてまとめ、それに資する活動を考える。
第5回	学級活動 学級活動（1）学級会の進め方を理解する。	（学修内容）学級活動（1）における、合意形成に向けた話し合いや、集団決定、またその実践についての具体的な指導法について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 学級活動の意義を理解し、児童の活動意欲を高めるワークシートの具体例を調べる
第6回	学級活動 学級活動指導略案を作成する。	（学修内容）学級活動指導案の書き方を理解し、「5 本時の展開」の中の「（3）教師の指導計画」の部分の作成を行う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.43～51を読み解き、特に取り上げたい議題についての具体的な指導を考えてくる。
第7回	学級活動と学級経営 学級活動の具体的な活動について理解する。	（学修内容）学級活動の具体的な活動（集会活動、係活動、教室経営等）について実践例をもとに理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 具体的な活動の実践例をもとに指導法についてまとめる。
第8回	学級活動 学級活動（2）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の具体的な指導法の理解を図る。	（学修内容）学級活動（2）について、話し合いの進め方や意思決定の仕方、実践活動の取り組み方等を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.43～P.51をもとに「学級」の機能についてまとめ、それに資する活動を考える。
第9回	学級活動 学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」の具体的な指導法の理解を図る。	（学修内容）学級活動（3）について、話し合いの進め方や意思決定の仕方、実践活動の取り組み方等を理解する。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.43～P.51をもとに「学級」の機能についてまとめ、それに資する活動を考える。
第10回	学級活動と学級経営 学級経営に関連した取り組みの実践例を聴く。	（学修内容）実践例を聴き、意見交流を行い、理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 意見交流により、学級活動の指導のあり方についての理解を深め、レポートにまとめる。
第11回	児童会活動 クラブ活動 児童会活動、クラブ活動で育成すべき資質・能力及びその活動のあり様についての理解を図る。	（学修内容）児童会の組織づくり、活動の計画・運営、異年齢集団による交流、クラブ活動の内容及びその取扱いについて話し合い理解を図る。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.84～P.115をもとに、児童会活動、クラブ活動の意義についてまとめておく。
第12回	学校行事 学校行事の目標、内容（儀式的行事、文化的行事、体育・健康安全の行事、遠足・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕の行事）の指導法等についての理解を図る。	（学修内容）自己の経験した学校行事を想起しながら、その目標や指導のあり方を話し合い理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 「小学校学習指導要領解説編 特別活動」P.116～135を読み解き、特に取り上げたい行事についての具体的な指導を考えてくる。
第13回	道徳教育と特別活動 道徳教育と特別活動との関連について理解を図る。	（学修内容）道徳実践指導の場としての特別活動、児童理解の場としての特別活動のありようを、具体的な事例をもとに考え話し合う。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 意見交流によって深まった考えをレポートにまとめる。
第14回	生徒指導と特別活動 生徒指導と特別活動の関連について理解を図る。	（学修内容）生徒指導と特別活動の関連についての実践例を聴き、意見交流を行い、理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（240分） 意見交流によって深まった考えをレポートにまとめる。
第15回	特別活動まとめ 特別活動の意義についての理解を図る。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点から特別活動のあり様をまとめる	（学修内容）特別活動の意義について話し合う。 これまでの学習をもとに、今後の特別活動のあり様を考えまとめる。 （事前事後学修課題の内容）（240分） これまでの学習をもとに、自己の特別活動に対する指導観を確立しレポートにまとめる。

授業名	教育課程総論（幼・小）			開講学年	3回生	単位数	2単位	科目コード	HE3451
英文名	Outline of Curriculum (Kindergarten・Elementary School)			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	柘植 誠子			対象学生	現代家政3回生				
授業の概要	<p>本授業では、教育課程の意義や編成の基本原則について考察し理解を深め、学習指導要領に基づいた教育課程の展開方法を学びます。さらに教育課程をめぐる代表的な思想や議論にも触れ、わが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を考えます。また、「カリキュラム・マネジメント」の重要性や「主体的・対話的で深い学び」を理解し、子どもたちの能力や個性を伸ばす教育課程（カリキュラム）について学びを深めます。その上で取得予定免許の校種ごとのカリキュラム作成に挑戦し、グループワークを通して実践的に教育課程編成の基礎的技法を学びます。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教育課程をめぐるわが国の現状と学校・教師が抱える今日的課題を理解できる。  2) 「カリキュラムマネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」について説明できる。  3) 学習指導要領の内容を踏まえ、生徒や地域の実態に即した指導計画を作成することができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解		態度・志向性		汎用的技能		総合的な学習経験と創造的思考力		
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	( ) ( ) ( )			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』2版 東洋館出版社 令和3年3月</li> <li>・河邊貴子編著『幼児教育・保育カリキュラム論』東京書籍2019年</li> <li>・『幼稚園教育要領』</li> <li>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</li> <li>・『保育所保育指針』</li> </ul> <p>いずれも、取得予定免許・資格に応じて使用します。</p>								
参考書	<p>文部科学省『小学校学習指導要領』  その他、その都度関係資料を提供します。</p>								
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。  プレゼンテーションについてはその場で助言・指導を行います。</p>								
留意事項	<p>これまでの学校生活におけるカリキュラム、教科内容、総合的な学習の時間での活動内容、道徳の時間での取組等、レポートなどでまとめることがあります。自分の経験を思い出し、発言できるようにしておきましょう。  取得予定免許に合わせた授業形態をとる場合があります。</p>								
オフィスアワー	<p>第1回目の授業で告知します。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として勤務</p>								

授 業 名	教育課程総論（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 教育課程とは何か	（学修内容）授業を進めるうえでの留意点、教育課程の定義について （事前事後学修課題の内容）（60分） 「教育課程」の意味を調べ、発表できるようにしておく。
第2回	教育課程改訂の経緯、教育課程の基準	（学修内容）改訂の基本方針、教育課程の意義、教育課程に関する法制について （事前事後学修課題の内容）（60分） 改訂の基本方針を読み、ノートに要点をまとめておく。
第3回	学校教育の基本	（学修内容）教育課程編成の原則について 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動について （事前事後学修課題の内容）（60分） 小学校教育と幼稚園教育の基本について比較し、違いを発表できるようにしておく。
第4回	教育課程の役割	（学修内容）育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメントについて （事前事後学修課題の内容）（60分） 育成を目指す資質・能力（3つの柱）について、内容をまとめておく。
第5回	教育課程の編成	（学修内容）教科横断的な視点に立った資質・能力について 教育課程の編成における共通事項、学校段階等間の接続について （事前事後学修課題の内容）（60分） 指導計画の作成に当たっての配慮事項の要点をまとめておく。
第6回	教育課程の実施と学習評価	（学修内容）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について 学習評価の充実について （事前事後学修課題の内容）（60分） 学習評価の観点を整理し、書き出しておく。
第7回	児童の発達と支援	（学修内容）児童の発達を支える指導について 特別な配慮を必要とする児童への指導について （事前事後学修課題の内容）（60分） 個に応じた指導について調べ、様々な指導の方法を理解しておく。
第8回	学校運営上の留意事項 道徳教育推進上の配慮事項	（学修内容）学校評価、家庭や地域社会との連携について 道徳教育の指導体制と全体計画について （事前事後学修課題の内容）（60分） 道徳教育の重要性についてレポートを作成し提出する。
第9回	保育におけるカリキュラムの考え方	（学修内容）乳幼児期独自の発達について カリキュラムと指導計画について （事前事後学修課題の内容）（60分） 教育課程と指導計画の関係について、ノートに要点をまとめておく。
第10回	幼稚園等における教育課程・指導計画	（学修内容）幼稚園、保育所、こども園における教育課程の特徴について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各園における計画について比較し、内容の違いについて発表できるようにしておく。
第11回	年齢に応じた保育内容とカリキュラムの実際	（学修内容）乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳児から5歳児のカリキュラムの実際について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各年齢におけるカリキュラムの特徴をまとめておく。
第12回	小学校、幼稚園のカリキュラム作成の基本	（学修内容）カリキュラムの形式、作成手順、作成方法について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自、取得希望校種のカリキュラムを作成し、発表できるようにしておく。
第13回	カリキュラム発表（小学校カリキュラム）	（学修内容）グループでのプレゼンテーション 他者のカリキュラムからの学び （事前事後学修課題の内容）（60分） 各自、取得希望校種のカリキュラムを作成し発表できるようにしておく。 発表後はプレゼンテーションでの反省、考察、課題をまとめておく。
第14回	カリキュラム発表（幼稚園カリキュラム）	（学修内容）グループでのプレゼンテーション 他者のカリキュラムからの学び （事前事後学修課題の内容）（120分） 各自、プレゼンテーションでの反省、考察、課題をまとめておく。
第15回	カリキュラムの評価	（学修内容）教育評価の考え方、カリキュラム評価の進め方について 様々な評価の実際について （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表したカリキュラムについて、反省、考察、課題等の評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授 業 名	乳児保育 U			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2727
英 文 名	Infant Care			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	安藤 正彦			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。</p> <p>1）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活できるとはどういうことが、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージし、保育園、保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>2）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交換しながら、あそび（手あそび、歌あそび等）づくりにつなげていく。（プレゼンテーション）</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解し実践できる。</p> <p>2）各年齢（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解している。</p> <p>3）実際の保育場面で活かせる、乳児との関わりに適応したあそびを習得する。</p>								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	乳児保育研究会編『改訂5版 資料でわかる乳児保育の保育新時代』								
参 考 書	授業中に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	受講生は「ふり返り用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。								
留 意 事 項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務								

授 業 名	乳児保育 U	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	乳児保育の基本	(学修内容) 子どもと保育士の関係とあり方を理解する。子どもの主体性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6章を読んでくる。(資料1, 2は必ず目を通しておく)
第2回	乳児保育の基本	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章を読んでくる。(資料4, 5, 6, 7は必ず目を通しておく)
第3回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 乳児保育の目標とねらいを理解する。保育園での子どもの姿を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章1, 2を読んでくる。
第4回	乳児保育の内容と方法(生活)	(学修内容) 保育園での生活環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章3を読んでくる。
第5回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児のかかりやすい病気、ケガなどを事前に調べてみる。
第6回	乳児保育における配慮の実際	(学修内容) 集団での生活において、環境の変化や移行に対する配慮等を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児の生活環境で大切なことをまとめてみる。
第7回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(大人とあそび) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。対大人とあそびあそびをいくつか調べておく。
第8回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(物とあそび) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。物を使ったあそびをいくつか調べておく。
第9回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。(友だちとあそび) (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。友だち同士でするごっこあそびを調べておく。
第10回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびとその環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章2を読んでくる。(資料4は必ず目を通しておく)
第11回	乳児保育の内容と方法(あそび)	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章3, 4を読んでくる。(資料5は必ず目を通しておく)
第12回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ふれあいあそびの大切さを調べておく。
第13回	乳児のあそびの実際	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそび等)をグループで考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のあそびを復習し、自分であそびを考えてみる。
第14回	プレゼンテーション(グループ)	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにも(理解)大人にも(説明)伝わるように所定用紙に記入する。
第15回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる。(資料1は必ず目を通しておく)

授 業 名	小学算数・指導法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2726
英 文 名	Teaching Method of Mathematics in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	青山 泰浩			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）では「主体的・対話的で深い学び」が求められています。算数科学習においてそれはどのように実現されるのか、本授業では具体的な教材をもとに指導法を考えます。また、算数科の授業実践において大切な役割を果たす学習指導案を作成し、模擬授業を通して算数科学習の進め方を身に着けます。授業はディスカッションや模擬授業を交えながら進めます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 算数科学習の基本的な進め方と、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法を理解することができる。  2) 算数科学習指導案の内容と書き方を理解し、指導案を作成することができる。  3) 一人一人の能力を高める指導法について自ら工夫し、集団で協議をしたり、レポートにまとめたりすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( )		
テ キ ス ト	毎回の授業時に資料(プリントなど)を配布します。また、資料の一部はclassroomにアップします。								
参 考 書	文部科学省「小学校学習指導要領解説算数編」（平成30年2月、日本文教出版）、算数教科書「わくわく算数1年～6年」（令和2年2月、新興出版社啓林館）								
課題に対するフィードバックの方法	次時の授業やclassroomにてコメントします。								
留 意 事 項	小学校教職に必要な科目であり、自ら実践する内容が多いので、積極的に学ぶ意欲を持った人の受講を望みます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後の教室で、またはメールで対応します。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教員、京都教育大学附属京都小学校教員、京都市総合教育センター指導主事・研修主事、京都市立小学校校長								

授業名	小学算数・指導法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションと算数科指導法を学ぶ意義	(学修内容) 本授業のねらい, 15回の学修の進め方と学修にのぞむ態度について 算数科指導法の概略について (事前事後学修課題の内容)(45分) 自分が受けた算数科学習の進め方を振り返り, 算数科学習の進め方の特徴についてレポートにまとめる。
第2回	1時間の学習の進め方(1): 問題解決を主とした学習展開	(学修内容) 算数科の示範授業(模擬授業)の体験と, 問題解決を主とする学習の進め方について (事前事後学修課題の内容)(45分) 自己の算数科学習の体験と本時の模擬授業を比較しながら, 算数科学習の進め方についての見解をレポートにまとめる。
第3回	1時間の学習の進め方(2): 話し合いを主とした学習展開	(学修内容) 算数科授業のビデオの視聴と, 話し合いを主とする学習の進め方について (事前事後学修課題の内容)(45分) 自己の算数科学習の体験とビデオ視聴した授業を比較しながら, 算数科学習の進め方についての見解をレポートにまとめる。
第4回	1時間の学習の進め方(3): 1時間の学習の進め方のモデル	(学修内容) 第2回と第3回の学修で学んだ学習の進め方の特徴の比較検討と「主体的・対話的で, 深い学び」について (事前事後学修課題の内容)(45分) 「主体的・対話的で, 深い学び」についての見解をレポートにまとめる。
第5回	指導法と教師の役割(1): 教師の発問と話し合い活動	(学修内容) 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための児童の活動, 教師の発問, 話し合いの進め方について (事前事後学修課題の内容)(45分) 具体的な教材を例に, 話し合い活動と教師の発問のモデルを作成する。
第6回	指導法と教師の役割(2): ノート指導, 板書	(学修内容) 「主体的・対話的で, 深い学び」を実現するためのノートの活用, 望ましい板書のあり方について (事前事後学修課題の内容)(45分) 望ましい1時間の板書例を作成する。
第7回	指導法と教師の役割(3): つまずきと支援, 評価, 教育機器の活用	(学修内容) 算数科学習における「つまずき」の具体的事例, 子どもに対する支援のあり方と評価について, 教育機器の活用について (事前事後学修課題の内容)(45分) 子どものつまずきの事例とその対応について, 具体的事例を研究し, レポートにまとめる。
第8回	学習指導案と授業実践(1): 高学年の模擬授業の実施	(学修内容) 指導案にそった模擬授業の実践と高学年の算数科学習の進め方の特徴について (事前事後学修課題の内容)(45分) 模擬授業で取り扱う高学年の教材の内容を研究し, 授業のスケッチを作成する。
第9回	学習指導案と授業実践(2): 高学年の模擬授業の考察	(学修内容) 前時に実施した模擬授業についてのグループ協議(事後検討会)と, 高学年の授業の進め方の留意点について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前時に実施した模擬授業について, 時間配分, 教師の発問, 児童の反応などについて考察し, レポートにまとめる。
第10回	学習指導案と授業実践(3): 中学年の模擬授業の実施	(学修内容) 指導案にそった模擬授業の実践と中学年の算数科学習の進め方の特徴について (事前事後学修課題の内容)(45分) 模擬授業で取り扱う中学年の教材の内容を研究し, 授業のスケッチを作成する。
第11回	学習指導案と授業実践(4): 中学年の模擬授業の考察	(学修内容) 前時に実施した模擬授業についてのグループ協議(事後検討会)と, 中学年の授業の進め方の留意点について (事前事後学修課題の内容)(45分) 前時に実施した模擬授業について, ノート指導と板書, 支援, 評価などについて考察し, レポートにまとめる。
第12回	学習指導案(1): 学習指導案の形式と作成時の留意点	(学修内容) 算数科学習指導案の形式と内容, 作成にあたっての留意点について (事前事後学修課題の内容)(45分) 示された学習指導案の見本を分析し, 書き方と内容を研究する。
第13回	学習指導案(2): 学習指導案の作成	(学修内容) 指定された単元(時間)の学習指導案の作成 (事前事後学修課題の内容)(90分) 1時間分の学習指導案を作成する。
第14回	学習指導案(3): 学習指導案の検討	(学修内容) 第13回の授業で作成した指導案についてのグループ協議(指導案検討会) (事前事後学修課題の内容)(45分) 各自が作成した指導案を点検し, 加筆・修正を行い, 指導案を完成する。
第15回	指導法のまとめ: 私が重視する指導法	(学修内容) 算数科学習の進め方で学んだことからの中から各自で観点を決め, 具体的な事例で指導法を研究する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 本授業で学んだことから, 自分が重視したい学習の進め方についてレポートにまとめる。

授 業 名	小学社会・指導法			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2725
英 文 名	Teaching Method of Social Studies in Elementary School			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	寺田 博幸			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	本授業では、小学校社会科の目標や内容、主な学習指導方法について理解するとともに、今日的な社会科の諸課題について考察する。また、小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案を作成するとともに、模擬授業を通して授業づくりを体験的に学ぶ。								
学 修 成 果 対 達 目 標	1. 小学校社会科の教科目標や育成を目指す資質・能力とともに、小学校社会科に関わる基礎的・基本的な理論について理解することができる。 2. 小学校社会科で育成を目指す資質・能力を育てるための指導計画作成や学習指導の在り方について理解することができる。 3. 小学校社会科における指導と評価の一体化に基づく学習指導案を作成するとともに、模擬授業を通して社会科の学習指導方法を修得することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テ キ ス ト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編平成29年7月 文部科学省 東洋館出版社 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会 令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究 教育課程研究センター 東洋館出版社								
参 考 書	小学校学習指導要領（平成29年告示）平成29年3月 告示 文部科学省 東洋館出版 京都・宇治発地域協働の総合的な学習「宇治学」副読本による教育実践 橋本祥夫編著 ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたコメントカードの声を受け止めながら受講生が課題を共有する。								
留 意 事 項	到達目標に迫るため、15回の授業に出席し学びを深めるとともに、その学びを生かすため事前学習・事後学習を行う								
オ フ ィ ス ア ワ ー	火曜日の昼休憩時、及び授業後の時間								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市立小学校教諭，同教頭，京都市教育委員会指導主事（生活科，総合的な学習担当），京都市 立小学校校長として勤務								

授 業 名	小学社会・指導法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション, 小学校社会科学習の意義, 目標と内容, 及び育成を目指す資質・能力	(学修内容) 小学校社会科学習の意義, 目標と内容, 及び育成を目指す資質・能力 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説社会編第1章, 第2章を読み込むとともに, 提示する課題について小レポートにまとめる。
第2回	小学校社会科の各学年の目標, 及び内容(中学年)	(学修内容) 小学校社会科の各学年の目標, 及び内容(中学年) (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説社会編第3章第1節, 同第2節を読み解くとともに, 提示する課題について小レポートにまとめる。
第3回	小学校社会科の各学年の目標, 及び内容(高学年)	(学修内容) 小学校社会科の各学年の目標, 及び内容(高学年) (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説社会編第3章第3節, 同第4節を読み解くとともに, 提示する課題について小レポートにまとめる。
第4回	小学校社会科の指導計画作成と内容の取扱い	(学修内容) 小学校社会科の指導計画作成と内容の取扱い (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校学習指導要領解説社会編第4章を読み解くとともに, 提示する課題について小レポートにまとめる。
第5回	小学校社会科における指導と評価の一体化	(学修内容) 小学校社会科における指導と評価の一体化 (事前事後学修課題の内容) (90分) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に基づき, 提示する課題について小レポートにまとめる。
第6回	小学校社会科の実践事例1 単元「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」(第3学年内容(3))の目標と指導内容	(学修内容) 単元「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」(第3学年内容(3))の目標と指導内容 (事前事後学修課題の内容) (90分) 単元「火災から人々の安全を守る」「事故や事件から人々の安全を守る」(第3学年内容(3))の目標と指導内容についてまとめる。
第7回	小学校社会科の実践事例2 単元「廃棄物を処理する事業」(第4学年内容(2))の目標と指導内容	(学修内容) 単元「廃棄物を処理する事業」(第4学年内容(2))の目標と指導内容 (事前事後学修課題の内容) (90分) 単元「廃棄物を処理する事業」(第4学年内容(2))の目標と指導内容についてまとめる。
第8回	小学校社会科の実践事例3 単元「米づくりのさかんな地域」(第5学年(2))の目標と指導内容	(学修内容) 単元「米づくりのさかんな地域」(第5学年(2))の目標と指導内容 (事前事後学修課題の内容) (90分) 単元「米づくりのさかんな地域」(第5学年(2))の目標と指導内容についてまとめる。
第9回	小学校社会科の多様な評価方法の事例 第6学年単元「天皇中心の国づくり」, 単元「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」の指導と評価の一体化	(学修内容) 第6学年単元「天皇中心の国づくり」, 単元「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」の指導と評価の一体化 (事前事後学修課題の内容) (90分) 第6学年単元「天皇中心の国づくり」, 「日本国憲法の役割と我が国の政治の働き」を通して, 指導と評価の一体化についてまとめる。
第10回	小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成(グループ別), 及び提案準備	(学修内容) 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成(グループ別), 及び提案準備 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案の作成(グループ別)するとともに, 提案準備をする。
第11回	小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議と提案準備	(学修内容) 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議と提案準備 (事前事後学修課題の内容) (90分) 小学校社会科の指導計画に基づく学習指導案のグループ協議を行うとともに, 提案準備をする。
第12回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案(1)と相互評価	(学修内容) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(1)と相互評価 (事前事後学修課題の内容) (90分) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(1)を行うとともに, 相互評価を行う。
第13回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案(2)と相互評価	(学修内容) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(2) (事前事後学修課題の内容) (90分) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(2)を行うとともに, 相互評価を行う。
第14回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案(3)と相互評価	(学修内容) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(3)と相互評価 (事前事後学修課題の内容) (90分) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(3)を行うとともに, 相互評価を行う。
第15回	学習指導案に基づく模擬授業の全体提案(4)と相互評価, 及び全体講評とまとめ	(学修内容) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(4)と相互評価, 及び全体講評とまとめ (事前事後学修課題の内容) (90分) 学習指導案に基づく模擬授業の提案(4)を行うとともに相互評価, 全体講評を行い, 15回の授業をまとめる。

授 業 名	子どもの音楽			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2724
英 文 名	Children and Music			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子・永峯 翠子・阿久津 啓			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	ピアノによる初見、簡易伴奏法および弾き歌いを通して、保育、教育現場でのより高い音楽の実践力を身に付ける。実技に関しては定期的に小試験を課し、習熟度の確認および指導を行いながら授業を進める。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 初見による弾き歌いの基礎を習得することができる。 2) 子どもの歌の弾き歌いだけでなく、簡易的な即興伴奏法を習得することができる。 3) 子どもとの音楽活動に必要な音楽理論を理解することができる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	『子どものうた』（京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編）								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	実技課題等は定期的に小試験を実施し、課題の達成度を確認する。								
留 意 事 項	レベルに合わせてクラス分けを行う。指定されたクラスで受講すること。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名		子どもの音楽	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	初見の基礎（調）および実践・弾き歌い	（学修内容）基本的な調判定の方法と初見演奏の際の留意事項について （事前事後学修課題の内容）（60分） 調判定の方法を復習しておくこと	
第2回	初見の基礎（拍子）および実践・弾き歌い	（学修内容）初見課題のテンポ設定と拍子の取り方について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題を正しく演奏できるよう復習しておくこと	
第3回	初見の基礎（リズム）及び実践・弾き歌い	（学修内容）初見における理論的なリズム分割について （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業中に与えられた初見課題の復習をしておくこと	
第4回	第1回初見小試験・弾き歌い	（学修内容）初見課題の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の初見課題の復習および任意の初見課題の自主練習をしておくこと	
第5回	第1回弾き歌い小試験	（学修内容）弾き歌い課題曲の個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め与えられた弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第6回	伴奏付け実践演習（ハ・ヘ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ハ・ヘ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ハ・ヘ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと	
第7回	伴奏付け実践演習（ト・ニ長調）・コードネーム・弾き歌い	（学修内容）旋律譜（ト・ニ長調）の初見での伴奏付けについて （事前事後学修課題の内容）（60分） ト・ニ長調のコードおよびコード進行パターンの復習をしておくこと	
第8回	伴奏付け応用実践演習・弾き歌い	（学修内容）既習調性による伴奏付けの応用実践について （事前事後学修課題の内容）（60分） 各調コード進行パターンの総復習をしておくこと	
第9回	伴奏付け小試験	（学修内容）旋律課題に対する伴奏付けの個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 任意の旋律課題による伴奏付けの練習をしておくこと	
第10回	弾き歌い実践演習	（学修内容）弾き歌い小試験に向けた演奏上の個別課題についての検討 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第11回	第2回弾き歌い小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	
第12回	初見応用編（付点リズム・タイ）・弾き歌い	（学修内容）初見における付点リズム・タイ等のパターンの読譜について （事前事後学修課題の内容）（60分） 符点のリズム・タイ等の含まれた初見課題の復習をしておくこと	
第13回	初見応用編（シンコペーション・弱起）・弾き歌い	（学修内容）初見におけるシンコペーションおよび弱起について （事前事後学修課題の内容）（60分） シンコペーション・弱起等の含まれた初見課題の復習をしておくこと	
第14回	初見・弾き歌い総合実践	（学修内容）既習の学習内容の総復習と課題の発見と克服について （事前事後学修課題の内容）（60分） 既習の学習内容の総復習をしておくこと	
第15回	第3回弾き歌い個別小試験	（学修内容）課題曲の弾き歌い個別小試験 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予め指定された弾き歌い課題曲の練習をしておくこと	

授 業 名	教職論（家庭・栄養）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC2714
英 文 名	Teaching Theory (Home Economics・Nutrition)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	盧 珠妍			対 象 学 生	現代家政2回生（発展科目）、食物栄養2回生（資格科目）				
授業の概要	<p>本講義は、「教職とはどのような仕事なのか」「なぜ自分は教師を志望しているのか」という問いから、教職について、また教師としての自己像について深く考えることを目的とする。まず、教職の本質と意義について原理的に考察する。つぎに、教師という仕事と役割、資質能力、職務内容等について概観する。つづいて、教職の歴史の変遷を辿りながらその理念、制度、実態などについて多角的に検討する。それらを踏まえて、教師としての仕事に求められる専門的特性と社会的使命について、教職の在り方と関連づけて吟味する。その上で、教師としての資質向上とキャリア形成、またプロフェッショナル性を構成するものについて理解を深める。</p>								
学 修 成 果 達 成 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校教育の歴史を踏まえ、学校と教職の社会的意義を理解し説明できる。</li> <li>2) 現在の教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割や資質能力を理解し説明できる。</li> <li>3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解し説明できる。</li> <li>4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解し説明できる。</li> <li>5) 教師になるための自分の課題について説明できる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)			
テ キ ス ト	特定のテキストを使用せず、資料を配布する。								
参 考 書	佐久間亜紀・佐伯 胖（編集）『現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019年。 吉田武男（監修，編集）『教職論』ミネルヴァ書房、2019年。 その他、授業時に紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業の際に随時課されるレポートや発表について、指導・助言を行う。								
留 意 事 項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授 業 名	教職論（家庭・栄養）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 教職とは何か	（学修内容）本講義のねらいと概要、授業の進め方について知る。 教職に関わって、教員・教師・教諭の違いについて議論する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教員・教師・教諭の違いについて理解を深める。
第2回	教職をめぐる現状	（学修内容）教員の役割や教職の意義、また教職をめぐる現状について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 自分の教育体験を振り返りながら、現段階における自分自身の「教師像」を明確にする。
第3回	各教育段階における教師の役割・意義	（学修内容）学校教育の目的を理解するなかで、幼・小・中・高校それぞれの教育段階における教員の役割や教職の意義・魅力について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教職について各自の考えをまとめる。
第4回	日本の教職の特徴	（学修内容）グループごとに教職の特色を確認し、発表する。また、他の職種との比較を通して教員の職務内容や勤務形態など教職の特性について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を参照しながら、教員の職務内容や学級規模などをまとめる。
第5回	教員の採用と研修	（学修内容）教員採用のしくみと採用後の研修制度を理解し、それを通して教職の人材確保及び養成について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に、自分の居住地の教員採用試験の内容を調べておく。事後に、配布資料を参照しながら教員研修制度についてまとめる。
第6回	学校と教職の歴史（1） 近代日本の教師：明治期～昭和前期	（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（昭和前期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） それぞれの時代の教師像の背景にある社会状況や教育制度に関する重要な語句について調べておく。
第7回	学校と教職の歴史（2） 近代日本の教師：戦後教育改革～高度成長期	（学修内容）時代によって変化が求められる教職観（高度成長期まで）について考える。それを踏まえて、これからの教師に求められる役割を吟味する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） それぞれの時代の教師像の背景にある社会状況や教育制度に関する重要な語句について調べる。
第8回	教員の服務	（学修内容）教員の各種服務について学ぶとともに、その問題点について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教員の服務について整理し、現代の教員が置かれている実情を理解する。
第9回	教員の権利と身分保障	（学修内容）教員の「職務上の義務」と「身分上の義務」を踏まえたうえで、その権利と身分保障について理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教員の義務および権利について整理し、現代の教員が置かれている実情についての理解を深める。
第10回	教員の職務と課題	（学修内容）教師の職務の全体像を踏まえて、教師の多忙化等の現代的な課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教師の仕事や校務分掌について事前に調べておく。グループでディスカッションを行うので準備する。
第11回	学び続ける教師	（学修内容）教員研修の意義や制度や課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 生涯にわたって学び続ける存在としての教師について理解を深める。
第12回	チームとしての学校	（学修内容）「チームとしての学校」とは何か、その特徴と体制の現状、課題について考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 学校を構成するさまざまな専門職について事前に調べておく。
第13回	専門家としての教師	（学修内容）教師として子どもといかに人間関係を構築し、子どもの成長を支援するかについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 配布資料を読んだうえで、教師の立場に立った場合、生徒に対しどのような関わりかについて、自分の考えをまとめる。
第14回	私のめざす教師像（1） 自分自身の課題と強み	（学修内容）「私のめざす教師像」を構想するうえで、自己の課題と強みについて考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） これまでの学習資料の整理をしておく。
第15回	私のめざす教師像（2） 教師になるためにまとめと考察	（学修内容）これまでの授業を振り返り、自分が目指す教師像を確立する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 「私のめざす教師像」について、まとめる。5～10分程度の発表準備をする。

授 業 名	社会的養護 U			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	LC2712
英 文 名	Social Corporate Parenting			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	芹澤 出			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	社会的養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法について学ぶと共に、施設や職員の役割を理解し援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 社会的養護を必要とする問題の発生状況と求められる支援について理解できる。 2) 被虐待児童の行動特性をアセスメントできる。 3) アセスメントに基づく支援計画を作成すると共に、支援に必要なスキルについて理解できる。								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (総合的に評価します)	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	授業資料、事例のプリントを配布								
参 考 書	新保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児保育 新保育士養成講座編纂委員会/編 全国社会福祉協議会								
課題に対する フィードバック の方法	練習問題等の解答と解説を行います。								
留 意 事 項	積極的に授業に参加し、出された課題や事例について考察することが求められます。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。								
実 践 的 教 育	実践的教育 教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務の現役施設長								

授業名	社会的養護 U	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読んでおく
第2回	社会的養育、社会的養護、代替養育、家庭養護、家庭的養護の確認と理解	(学修内容) 社会的養護を取り巻く体系の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会的養育と社会的養護施設の基本を確認しておく
第3回	社会的養護における子どもの理解	(学修内容) 1支援・対応の前に必要な子どもの理解、2発達障害についての理解、3虐待・ネグレクトの影響についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設を利用する子どもについて確認しておく
第4回	日常生活支援と治療的支援	(学修内容) 安定した生活を前提とする治療的支援についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3回の社会的養護における子どもの理解をしっかりと復習しておく
第5回	事例を通して学ぶ 保育所での相談事例を通して家庭養育支援の実際について学ぶ(視線が合わない事例)	(学修内容) 家庭養育支援の実際理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭養育支援とは何かを確認しておく
第6回	事例を通して学ぶ 事例を通して家庭養育支援とジェノグラムについて学ぶ(弟をいじめる事例)	(学修内容) 事例からジェノグラムを作成し、必要な支援について考察する (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェノグラムについて事前学習しておく
第7回	事例を通して学ぶ 事例を通して家庭養育支援とエコマップについて学ぶ(幼稚園入学に向けた相談事例)	(学修内容) 事例からエコマップを作成し、必要な支援について考察する (事前事後学修課題の内容) (30分) エコマップについて事前学習しておく
第8回	事例を通して学ぶ DVや児童虐待の支援事例の話聞きいて必要な支援について学ぶ	(学修内容) 母子生活支援施設の支援から、DVや児童虐待の事例について学び、支援について考察する (事前事後学修課題の内容) (30分) DVと児童虐待について復習しておく
第9回	事例を通して学ぶ 事例を時系列に整理して考察する(パスジャック事件)	(学修内容) 実際の少年事例から、少年が犯罪に至った経過を考察する (事前事後学修課題の内容) (30分) 不登校引きこもり家庭内暴力について調べておく
第10回	事例を通して学ぶ 事例を通してアサーティブコミュニケーションについて学ぶ(デートDV事例)	(学修内容) デートDV事例を通して共生について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、対等な関係について考察する
第11回	事例を通して学ぶ 身体的虐待事例	(学修内容) 身体的虐待事例を通して支援あり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り身体的虐待対応について考察する
第12回	事例を通して学ぶ 性的虐待事例	(学修内容) 性的虐待事例を通して支援のあり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、性的虐待対応について考察する
第13回	事例を通して学ぶ 心理的虐待事例	(学修内容) 心理的虐待事例を通して支援のあり方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 事例を振り返り、心理的虐待対応について考察する
第14回	事例を通して学ぶ 多くの実習生が体験する事例をロールプレイングを通して体験し、記録の作成と考察について学ぶ	(学修内容) ロールプレイング体験の記録を作成し、感想と考察をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) ストレングス視点とエンパワメントについて理解しておく
第15回	振り返りとまとめ	(学修内容) これまでの授業内容の復習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 振り返り内容を復習し試験勉強する

授 業 名	現代社会と福祉			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	科 目 コー ド	LC1710
英 文 名	Modern Society and Welfare			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政1回生				
授業の概要	現代社会におけるわたしたちのくらしの実態を明らかにしながら、そこで抱える生活課題にどのように関わっていけばいいのか、その根底となる総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割や機能について考える。また、生活課題の構造把握をもとに社会福祉の果たす役割について検討し、さらには原理と政策の視点より今日的な展開・動向・課題について考察を深めていく。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) わたしたちのくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。								
学位授与の方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 70 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	(最新)社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 第4巻『社会福祉の原理と政策』中央法規								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。								
留 意 事 項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	現代社会と福祉	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに～社会福祉の原理とは～	(学修内容)本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 社会福祉の原理の意味やその展開について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト序章(pp.2-14)を読んでおくこと。
第2回	社会福祉の歴史?～欧米の歴史～	(学修内容)歴史を学ぶ視点について解説し、その後、イギリスやアメリカにおける社会福祉の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第1章(pp.16-33)を読んでおくこと。
第3回	社会福祉の歴史?～日本の歴史～	(学修内容)日本の社会福祉の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第1(pp.34-45)を読んでおくこと。
第4回	社会福祉の思想と哲学	(学修内容)社会福祉における思想と哲学との関連性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第2章(pp.48-59)を読んでおくこと。
第5回	社会福祉の定義と論点	(学修内容)社会福祉の定義について日本における展開とその論点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第2章(pp.60-79)を読んでおくこと。
第6回	社会福祉の対象とニーズ	(学修内容)社会福祉における対象とそのニーズについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第2章(pp.80-87)を読んでおくこと。
第7回	社会問題と社会構造	(学修内容)現代の社会問題とその構造的背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第3章(pp.90-108)を読んでおくこと。
第8回	福祉政策の基本的視点	(学修内容)福祉とは何かを再考し、福祉政策の概念と理念について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第4章(pp.110-131)を読んでおくこと。
第9回	福祉政策におけるニーズと資源	(学修内容)福祉政策におけるニーズ(必要)について再考し、資源(リソース)について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第5章(pp.134-163)を読んでおくこと。
第10回	福祉政策の構成要素と過程	(学修内容)福祉政策の構成要素とその評価について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第6章(pp.166-192)を読んでおくこと。
第11回	福祉政策の動向と課題	(学修内容)社会福祉基礎構造改革を例に福祉政策の概要とその課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第7章(pp.194-220)を読んでおくこと。
第12回	福祉政策と関連施策	(学修内容)さまざまな分野の福祉施策と関連する施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第8章(pp.224-251)を読んでおくこと。
第13回	福祉サービスの供給と利用の過程	(学修内容)福祉サービスの供給過程と利用過程について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第9章(pp.254-280)を読んでおくこと。
第14回	福祉政策の国際比較	(学修内容)国際比較の意義とその方法について学び、各国の福祉政策の特徴について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第10章(pp.282-303)を読んでおくこと。
第15回	おわりに～これからの社会福祉～	(学修内容)全体をふりかえりながら、グループワークを通してこれからの社会福祉について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 理想の福祉社会について考え、ノートに記述しておくこと。

授 業 名	教職論（幼・小）			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	HE2427
英 文 名	Teaching Theory (Kindergarten・Elementary School)			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	西川 由紀子			対 象 学 生	現代家政2回生				
授業の概要	<p>保育者や教員に期待されている役割を理解したうえで、備えるべき倫理観、資質や能力を理解していく。また、保育者や教員が役割を推敲するために不可欠な連携の重要性を理解し、ひとりひとりが理想的な保育者像、教員像を思い描けるようにしてゆく。主体的に学ぶために、ディスカッションを行ったり、グループワークを行ったりしながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1) 保育者・教育者の存在意義を理解し、進路選択に向け、保育職・教育職の職業的特徴を理解している。  2) 保育者・教育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。  3) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の職務を含めた保育者・教員の職務の全体像を理解している。  4) 保育者・教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。  5) 職場の同僚と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	授業時にプリントを配布する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、いくつかを紹介して解説する。授業に対する感想や質問は、翌週の授業冒頭にコメントする。								
留 意 事 項									
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後 オフィスアワーを設ける。								
実 践 的 教 育									

授 業 名		教職論（幼・小）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	保育者・教員の役割	(学修内容) 保護者の立場から保育者・教員の役割を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 保護者にとっての保育者、教員像を考えてくる	
第2回	教員養成・免許制度と保育士養成	(学修内容) 教員・保育士がどのようなカリキュラムで養成されるかを知ることによって、それぞれの共通点、特殊性を理解する (事前事後学修課題の内容) (15分) 大学のシラバスの資格科目を見てくる。授業時にシラバスを持参すること。	
第3回	教員の服務と規律	(学修内容) 全体の奉仕者としての教員の服務の基準について解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) プリントを読んでくる	
第4回	保育者・教員の倫理	(学修内容) 保育者・教員のもつべき倫理観を解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) 全国保育士会倫理綱領を読んでくる	
第5回	保育者・教員の資質と能力	(学修内容) 保育者や教員の日を解説し、そこから必要とされる資質、能力について考える (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第6回	保育者・教員養成の歴史	(学修内容) 保育者、教員養成の歴史からその特性を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) プリントを参考にして、保育所、幼稚園、小学校いずれかの歴史を年表にまとめてくる	
第7回	計画と実践・省察	(学修内容) 指導計画の立案から省察までの流れを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) プリントを読んでくる	
第8回	計画立案の実際	(学修内容) 3分間スピーチを実施することによって、導入の方法、展開の方法、結末の作り方を実感する (事前事後学修課題の内容) (60分) 3分間スピーチを考えてくる	
第9回	計画の実践の体験	(学修内容) 指導計画を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画を完成させ、必要な教材を作成してくる	
第10回	保育者・教員の自己評価	(学修内容) 自らの実践を振り返ることから、自己評価の意義を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 実践の自己評価をまとめてくる	
第11回	連携に必要な資質	(学修内容) 連携に必要な資質をワークを通して考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 職員連携に必要な資質を自分に引きつけて考えてくる	
第12回	保護者との連携	(学修内容) 保護者との連携について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保護者対応について調べてくる	
第13回	保護者対応と職員連携	(学修内容) 保護者対応に職員連携が必要なことを解説する (事前事後学修課題の内容) (15分) グループワークで感じた体験を思い出してくる	
第14回	保育施設と小学校の連携	(学修内容) 小学校のスタートをよいものにするための工夫を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) 自分の体験を思い出してくる	
第15回	保育者・教員に求められること	(学修内容) 保育者・教員に求められる資質を考える (事前事後学修課題の内容) (15分) これまでの授業を振り返っておく	

実習名	栄養教育実習（LC4820）	対象学生	食物栄養4回生
担当者	坂本 裕子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          実際の教育実践にふれながら、児童生徒や教職員についての理解を深める。教師としての基盤を確立するために、教育現場における教員の役割・責務等を理解し、教員としての基本的態度を身に付け、教職への使命感を育てる。児童生徒の置かれている食や生活状況の現状を把握し、食に関する指導にあたるための専門的、実践的指導力を身に付ける。また、教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>2. 内容          教員として必要な使命感や責任感、教育的配慮、児童生徒の理解について学ぶ。          栄養教諭の役割と責任について学ぶ。          児童生徒の発達段階に応じた指導法を考え、実践することができる。          学校と家庭、地域との連携について理解する。</p> <p>3. 実習生に対する指導法          実習担当、ゼミ担当教員が実習先を訪問し、実習校の担当教員との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          4回生の春学期後半～秋学期前半に、主に栄養教諭が配置されている小学校（中学校）で、1週間（30～40時間）の実習を行なう。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容（必要性）について          栄養教育実習事前指導を受けた者が実習を行うことができるが、履修状況が悪い場合は実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理も求められる実習であり、事前指導への積極的な参加が求められる。また、実習後は実習報告会を行い、実習の学びを振り返り評価するとともに、実習中の課題を明確にし、課題の解決に向かう。実習ノート、出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など          ・総合基礎演習、総合基礎演習、現代家政学演習、現代家政学演習、人権と社会、教育原理、発達心理学が履修済みであること。          ・教育心理学、教育制度論、教育方法論、教育の方法と技術、生徒指導論、教職論、特別活動（道徳を含む）、学校栄養教育概論、学校栄養教育指導論、栄養教諭実習事前・事後指導、教育課程総論が履修済みまたは履修中であること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・実習先の好意により「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨む。体調管理をしっかり行い安全に実習を行う。</p>		

授 業 名	ソーシャルワーク実習指導			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Guidance on Social Work			開 講 時 期	春学期	必 修 選 択		選 択	
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	ソーシャルワーク実習の事後におけるふりかえりを通して、その課題を抽出し、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士に求められる資質、技能、倫理について学ぶ。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) ふりかえりを通して実習の意義について適切に説明できるようになる。 2) ソーシャルワーカーに求められる基本的な資質や技能を身につけることができる。 3) 自らの得手、不得手を知ることによって今後の課題を明確にし、自覚することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	使用しない。								
参 考 書	講義時に随時、文献や資料を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。								
留 意 事 項	実習での具体的な体験や援助活動をふりかえり、それを報告書にまとめて、スライドを作成し、報告会を行う。 評価方法に記載しているが、制作物として報告書・スライド・まとめのレポート、それぞれの提出をもって本講の評価となる。								
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室（1R-404）に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授 業 名		授 業 計 画
ソーシャルワーク実習指導		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講の進め方、評価の方法等について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(10分) SW実習指導 で使用した資料をファイリングする。
第2回	実習のふりかえり ~個別のふりかえり~	(学修内容)SW実習のふりかえりとして各自が配布シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 実習での体験についてまとめておく。
第3回	実習のふりかえり?~グループでの共有~	(学修内容)SW実習のふりかえりとしてグループにて共有する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 実習での体験についてまとめておく。
第4回	実習のふりかえり?~困難事例の共有~	(学修内容)グループにて困難事例について話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 実習での困難事例を挙げておく。
第5回	実習報告書の作成 ~作成の目標とその内容~	(学修内容)実習報告書を作成する目標とその内容について説明をする。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 先週までの資料をファイリングする。
第6回	実習報告書の作成?~実習体験を踏まえた課題の整理~	(学修内容)実習体験を踏まえた課題を項目毎に整理する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習での体験をできたこととできなかったことに整理する。
第7回	実習評価個別面談 ~実習評価表を確認~	(学修内容)評価表に基づき個別面談を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配付したシートに必要事項を記入する。
第8回	実習評価個別面談?~実習ノートを確認~	(学修内容)実習ノートに基づき個別面談を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配付したシートに必要事項を記入する。
第9回	実習報告書の作成?~完成に向けて~	(学修内容)各自完成した報告書を提出する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 報告書を仕上げる。
第10回	実習報告会の準備 ~報告会の内容検討~	(学修内容)報告会の内容について検討を行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 各自、報告会の流れについて考えておく。
第11回	実習報告会の準備?~配布資料の作成~	(学修内容)報告会にて配布する資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 必要部数の印刷を済ませておく。
第12回	実習報告会の準備?~プレゼンテーションのリハーサル~	(学修内容)リハーサルを行い、効果的なプレゼンテーションの技術を確認する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) スライドや配布資料を作成しておく。
第13回	実習報告会(A班)	(学修内容)A班による報告会。 (事前事後学修課題の内容)(15分) プレゼンテーションに向けて練習をする。
第14回	実習報告会(B班)	(学修内容)B班による報告会。 (事前事後学修課題の内容)(15分) プレゼンテーションに向けて練習をする。
第15回	実習評価全体の総括	(学修内容)総括を教員より行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) 前回のプレゼンテーションを踏まえたシートを完成させる。

授 業 名	小学音楽・指導法			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	山中 信子			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>小学校音楽科の理念、目標、内容を理解するとともに、小学生の資質・能力の育成における音楽科の役割を把握する。またこれらを踏まえた上で音楽科の諸活動(表現・鑑賞)について学習計画・指導案を作成する。グループでの模擬授業およびディスカッション等を行いながら授業を進める。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1)小学校音楽科における学習内容及び指導法に関する基本的事項を理解できる。  2)小学校音楽科の学習指導案の作成方法について理解することができる。  3)模擬授業の実施により、授業の全体構成および指導実践の留意点について理解することができる。</p>								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 5 0 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	『最新 初等科音楽教育法[改訂版]』(初等科音楽教育研究会編 音楽之友社)								
参 考 書	『小学校学習指導要領 解説 音楽編』(文部科学省)								
課題に対する フィードバック の方法	<p>小課題等はコメントを付けて返却する。  模擬授業は毎回振り返りためのディスカッションおよび助言を行い、実践によって明らかとなった課題の確認を行う。</p>								
留 意 事 項	<p>グループでの取り組みと模擬授業を重視する。  ソプラノリコーダーを準備しておくこと。</p>								
オ フ ィ ス ア ワ ー	研究室に日時を掲示するので確認しておくこと。								
実 践 的 教 育									

授業名	小学音楽・指導法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業全般の概要説明および諸注意事項について  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	小学校音楽科学習指導要領の概要	(学修内容) 小学校音楽科学習指導要領の概要と改訂の要点について  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの序章「これからの初等音楽」を読み、学習指導要領の概要と改訂の要点についての基本的理解を深めておく
第3回	小学校音楽科学習指導要領の解説	(学修内容) 小学校音楽科の目標と指導内容について  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの第1部第2章「音楽科の指導内容」第3章「音楽科の学習指導計画」を読んでおく
第4回	歌唱(歌唱共通教材)(指導案作成法の基本的考え方を含む)	(学修内容) 歌唱共通教材の指導実践例と指導案の作成法について  (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp.33「学習指導案の作成」を読み、共通事項を踏まえた歌唱共通教材の指導法についてを考慮しておく
第5回	歌唱(学年別指導法)	(学修内容) 歌唱活動を行う際の各学年の基本事項(目標及び内容)と指導計画について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容)について事前学習をし、指導計画の基本的な立案プロセスについて概ね理解しておく
第6回	器楽	(学修内容) 器楽活動における各学年の基本事項(目標及び内容)と指導計画について  (事前事後学修課題の内容) (60分) 器楽活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容)について事前学習を行い、指導計画の基本的な立案プロセスについて概ね理解しておく
第7回	音楽づくり	(学修内容) 音楽づくり活動における各学年の基本事項(目標及び計画)と指導計画について(映像資料視聴後ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 音楽づくり活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容)について事前学習をし、指導計画の基本的な立案プロセスを理解しておく
第8回	鑑賞(低学年・中学年)	(学修内容) 低・中学年の鑑賞活動における各学年の基本事項(目標及び計画)と指導計画について(映像資料視聴後ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 低・中学年の鑑賞活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容)について事前学習をし、指導計画の立案プロセスを理解しておく
第9回	鑑賞(高学年)	(学修内容) 高学年の鑑賞活動における各学年の基本事項(目標及び計画)と指導計画について(映像資料視聴後ディスカッション)  (事前事後学修課題の内容) (60分) 高学年の鑑賞活動に必要な各学年の基本事項(目標及び内容)について学び、指導計画の立案プロセスを理解しておく
第10回	模擬授業発表(歌唱:低学年・中学年)	(学修内容) 歌唱(低学年・中学年)のグループ別模擬授業発表及びディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱(低学年・中学年)の活動に必要な教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第11回	模擬授業発表(歌唱:高学年)	(学修内容) 歌唱活動(高学年)のグループ別模擬授業発表及びディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (60分) 歌唱(高学年)の活動に必要な事前の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第12回	模擬授業発表(器楽)	(学修内容) 器楽活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (60分) 器楽活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第13回	模擬授業発表(音楽づくり)	(学修内容) 音楽づくり活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (60分) 音楽づくり活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第14回	模擬授業発表(鑑賞)	(学修内容) 鑑賞活動のグループ別模擬授業発表及びディスカッション  (事前事後学修課題の内容) (60分) 鑑賞活動の教材研究及び発表後の振り返りをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学んだ小学校音楽科の諸活動における内容の総括  (事前事後学修課題の内容) (60分) 小学校音楽科諸活動の内容の振り返りと発表等を終えて課題の確認をしておく

授業名	小学図画工作・指導法			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名				開講時期	春学期	必修選択	必修選択	選択	
担当者	平尾 隆史			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>小学校図画工作科の指導にあたって、必要となる基礎的な知識を修得するとともに、授業づくりの実践的スキルを身に付けるための科目である。</p> <p>この授業では、講義と実際の創作体験を組み合わせ、子どもの発達と造形活動の意味を理解し、学習指導要領で示されている図画工作科の目標や内容を理解する。その上で子どもたちが、創造力・構成力・集中力・計画力・正確さ・優しさ・思いやり・我が国の伝統に対する「誇り」などが育つ指導法（知識を知恵に変える活動）や学習指導計画書の作成方法を学ぶ。</p> <p>また、子どもたちが創作活動を通して表現することの喜びを感じることができるよう、材料、道具などの環境構成についての知識や教科指導の工夫や動機づけについての力を、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業をおこないながら身につけられるように授業を進める。</p>								
学修成果到達目標	<p>1) 教師として必要な図画工作の知識と表現力、また、それを実際に指導することができる。</p> <p>2) 指導計画や学習指導案を作成する力などを身につけ、説明することができる。</p> <p>3) 小学校教育の中での図画工作科の意義について、自分の考えをプレゼンテーションすることができる。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解				汎用的技能				
	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力				
テキスト	『図画工作科指導法研究』佐藤洋照・藤江充 著（日本文教出版）令和元年10月1日発行								
参考書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』文部科学省 必要に応じて授業で指示する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出された制作物は、コメントをつけて返却する。								
留意事項	教職を強く希望する学生の履修を望む。理論と実践力をむすびつける。 小学校の公開授業参加、作品展鑑賞を積極的に行う。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。また、研究室前に日時を掲示する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都市立六原小学校 教諭、京都市立桃山南小学校 教諭、京都市立明親小学校 教諭 京都市立石田小学校 教頭、京都市立羽束師小学校 教頭 京都市教育委員会 指導主事、京都市立石田小学校 校長、京都市図画工作教育研究会 会長 京都市教育委員会 京都まなびの街生き方探究館 参与</p>								

授 業 名		小学図画工作・指導法
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 図画工作教育の目的と課題	(学修内容) 授業内容についてオリエンテーション、自己紹介  (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト「図画工作教育の意義・目的」に目を通しておく。
第2回	子どもの発達と造形活動	(学修内容) 子どもの発達と図画工作で育てる力(知識を知恵に変える活動) (事前事後学修課題の内容)(30分) 「子どもの成長・発達と表現活動」に目を通しておく。
第3回	学習指導要領の発展と図画工作	(学修内容) 学習指導要領の変遷を学び、これからの図画工作の指導を考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「学習指導要領」に目を通しておく。
第4回	教育評価の視点	(学修内容) 子どもの作品をどう評価するか。作品鑑賞とディスカッション。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「図画工作科における評価」に目を通しておく。 評価の視点をレポートにまとめておく。
第5回	教材研究・場所と人と関わる造形遊び(1)	(学修内容) 造形遊びとコミュニケーション ビデオによる授業視聴とディスカッション (事前事後学修課題の内容)(30分) 「子どもの姿と授業の実践例」に目を通しておく。
第6回	教材研究・場所と人と関わる造形遊び(2)	(学修内容) 身近な場所の特徴を捉え、空間の奥行きなどを生かしながら、ある1点から見ると何かの形に見えるような工夫をしてつくる活動をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「造形遊びをする活動」に目を通しておく。
第7回	教材研究・工作に表す活動(1) ～仕組みづくり～	(学修内容) 動きのおもしろさを楽しむ活動(1) 身近な材料で動きのある工作の仕組みをつくる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「工作に表す活動」に目を通しておく。
第8回	教材研究・工作に表す活動(2) ～外装づくり～	(学修内容) 動きのおもしろさを楽しむ活動(2) 身近な材料で動きのある工作の外装を仕上げる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「工作に表す活動」に目を通しておく。
第9回	教材研究・鑑賞活動	(学修内容) 制作した作品から見る事、感じる事、調べる事をつなぐ活動。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「鑑賞する活動」に目を通しておく。
第10回	学習指導計画について(作成の留意点)	(学修内容) 図画工作科における授業の特色と授業の組立プロセスについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料に目を通しておく。
第11回	学習指導計画について(全体計画)	(学修内容) 制作した作品をもとに学習指導案(1)を作成する。  (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布資料に目を通しておく。
第12回	学習指導計画について(本時の細案)	(学修内容) 制作した作品をもとに学習指導案(2)を作成する。  (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習指導案を完成させておく。
第13回	学習指導計画について(学習指導案検討会)	(学修内容) 各自の学習指導案を持ち寄りグループで討議する。  (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習指導案について説明できるように考えておく。
第14回	学習指導案をもとに模擬授業	(学修内容) 学習指導案をもとに、グループで模擬授業を行う。  (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習指導案をもとに、模擬授業の準備をしておく。
第15回	まとめと考察・プレゼンテーション	(学修内容) 図画工作科の意義につて5分程度のプレゼンテーションをする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自、授業を振り返りプレゼンテーションをまとめておく。

授業名	小学体育・指導法			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名				開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	藤内 みゆき			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	小学校体育教育の特質と目標、学習指導要領の変遷、内容と指導方法についての知識や技術を習得する。小学校体育授業で学習する基本的・基礎的学習内容（体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健等）を理解することで教師として自己成長するための方法を探求する。学習指導案作成の留意点や体育科評価の視点について学び、指導のポイントを習得する。授業はグループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら進める。								
学修成果到達目標	(1) 体育科の目標・内容を理解することができる。 (2) 体育科の学習指導案を作成することができる。 (3) 模擬授業を通して体育授業を行う上での留意事項を理解することができる。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力		
テキスト	石田智巳・山口孝治編著『初等体育科教育 新しい教職教育講座 教科教育編9』ミネルヴァ書房 2018年								
参考書	・小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 ・梅野圭史編著『小学校ボールゲームの授業づくり』創文企画 2017年								
課題に対するフィードバックの方法	小テストやレポートは、チェックを行い要点を解説する。								
留意事項	運動の得意・不得意は評価に関係しない。積極的な参加を期待する。								
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都市小学校教員として38年間勤務								

授 業 名		小学体育・指導法
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	体育科教育の概念と歴史的変遷	(学修内容) 体育科教育の意義と歴史的変遷を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストを概観し、学びのイメージを深める。
第2回	体育の目標と内容	(学修内容) 体育科の目標と領域内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「体育科の目標」「内容」を読んでおく。
第3回	学習指導の実際 体づくり運動、器械運動、陸上運動の学習指導	(学修内容) 体づくり運動、器械運動、陸上運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第4回	学習指導の実際 水泳、ボール運動の学習指導	(学修内容) 水泳、ボール運動の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第5回	学習指導の実際 表現運動、保健の学習指導	(学修内容) 表現運動、保健領域の内容や指導法の理解を深めるためのディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの上記該当領域の内容を読んでおく。
第6回	学習資料、教育機器の活用	(学修内容) ICTを活用した授業展開を解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) デジタル機器を活用した授業展開を考えておく。
第7回	実技指導の実際 低学年の運動指導	(学修内容) 低学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 低学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第8回	実技指導の実際 中学年の運動指導	(学修内容) 中学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 中学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第9回	実技指導の実際 高学年の運動指導	(学修内容) 高学年の実技指導の留意点についてグループワークを通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 高学年の児童に効果的な教具・用具を考える。
第10回	体育科の年間指導計画	(学修内容) 体育科における年間指導計画の作成の仕方について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「年間計画の作成」を読んでおく。
第11回	学習指導案の作成 単元目標、指導計画	(学修内容) 学習指導案の作成の仕方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布した資料を読んでおく。
第12回	学習指導案の作成 本時の計画	(学修内容) 学習指導案の作成(本時案)の仕方について知る。 (事前事後学修課題の内容) (80分) 本時の展開部分を完成させておく。
第13回	体育の授業研究 模擬授業の実際	(学修内容) 模擬授業(プレゼンテーション)を通して、指導技術について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業のイメージ作りをしておく。
第14回	体育の授業研究 模擬授業の実際	(学修内容) 模擬授業(プレゼンテーション)を通して、特に評価のあり方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「評価の観点」を読んでおく。
第15回	優れた体育授業の創造をめざして(まとめ)	(学修内容) これまでの学習を総復習をする。 (事前事後学修課題の内容) (80分) これまでの学習内容を確認しておく。

授 業 名	簿記演習			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	伏見 康子			対 象 学 生	現代家政3回生・4回生				
授業の概要	個人商店や会社等は、儲け（利益）や財産、借金がどれだけあるのかを明らかにするために、日々の経済活動（取引）を記録して、最終的な儲け（利益）や財産等を計算している。この授業では、小規模な会社が日々行っている経済活動を記録する手段としての商業簿記について学習する。簿記の仕組みについて、演習を通して実践的に学び、損益計算書や貸借対照表の役割についても理解する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 複式簿記の基本原則を理解し、小規模な会社における諸取引の処理に適用できる。 2) 商業簿記について、日常的な経理事務から決算処理までの手続きを理解できる。 3) 貸借対照表と損益計算書の役割を理解し、作成することができる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テ キ ス ト	スッキリわかる日商簿記3級 第13版【テキスト+問題集】								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	毎回の授業で問題を解いてもらい、解答の解説を行います。								
留 意 事 項	毎回の授業を予習・復習（とくに復習）をしっかりと行うこと。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の前後の時間に実施する。								
実 践 的 教 育									

授 業 名	簿記演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス、簿記の意義	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「簿記の基礎」を読み、全体像を把握しておく
第2回	簿記の基礎概念	(学修内容)貸借対照表、損益計算書の構造と簿記の基礎概念を説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「仕訳の基本」を読み、「仕訳」のルールを確認する 練習問題に取り組む
第3回	仕訳のルールと転記	(学修内容)仕訳のルールと総勘定元帳への転記を説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 資産、負債、純資産、収益、費用の5つの要素それぞれの役割を確認し、 練習問題に取り組む
第4回	商品売買	(学修内容)商品売買取引の処理について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 商品売買取引に関する処理について理解し、練習問題を解く
第5回	現金と預金	(学修内容)簿記上の現金と、小切手に関わる処理を説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 通貨代用証券・小切手について調べ、練習問題を解く
第6回	小口現金	(学修内容)小口現金の処理について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「小口現金出納帳への記入」を読み、練習問題を解く
第7回	手形	(学修内容)約束手形の意義と処理について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 約束手形とはなにか、小切手との違いを調べ、練習問題を解く
第8回	有価証券	(学修内容)有価証券について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 有価証券とは何かを理解し、練習問題を解く
第9回	貸付金・借入金 その他の債権・債務	(学修内容)貸付金・借入金、その他の債権・債務について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) お金を貸し借りしたときの仕訳を調べる。
第10回	貸倒れと貸倒引当金	(学修内容)売掛金の貸倒れ処理と貸倒引当金の設定について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「貸倒れと貸倒引当金」を読み、「貸倒れ」と「引当金」につ いて調べ、練習問題を解く
第11回	固定資産と減価償却	(学修内容)固定資産の購入・売却と減価償却について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「有形固定資産と減価償却」を読み、固定資産とは何かを調べ る
第12回	資本金	(学修内容)資本金について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「会社を設立して株式を発行したときの仕訳」を読み、「株式 会社」とな何かを調べる
第13回	決算整理	(学修内容)決算整理仕訳について説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 貸倒引当金と減価償却について復習しておく
第14回	試算表	(学修内容)試算表の作成方法と仕組みを説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト「試算表」を読んでおく
第15回	精算表と帳簿の締め切り	(学修内容)精算表の作成と帳簿の締め切りについて説明する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 貸借対照表と損益計算書の役割について復習しておく

授 業 名	会計演習			開 講 学 年	3・4回生	単 位 数	2単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名				開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	伏見 康子			対 象 学 生	現代家政3回生・4回生				
授業の概要	財務会計に関する基礎地理機を身につけることを目標とした演習形式の授業である。公開されている企業の貸借対照表と損益計算書などから、企業の経営活動の情報を読み解き、さらには財務諸表分析ができるレベルを目指す。「会計」は民間企業のみならず、官公庁や地方公共団体、非営利組織など、あらゆる組織や団体に利用されている。社会人になったときにも実践的に役立つような会計知識を学習する。								
学 修 成 果 到 達 目 標	1) 貸借対照表と損益計算書の役割と構造を理解できる。 2) 収益の認識基準を理解できる。 3) 資産評価基準を理解できる。								
学位授与の 方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 60 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テ キ ス ト	「知識ゼロでも2時間で決算書が読めるようになる!改訂版」佐伯良隆、高橋書店								
参 考 書	スッキリわかる日商簿記3級 第13版【テキスト+問題集】								
課題に対する フィードバック の方法	興味のある企業の決算書を用いて、決算書の数字を読み解き、分析してもらいます。 企業分析に対し、コメントを付して返却します。								
留 意 事 項	本科目を履修するにあたって、「簿記演習」を履修していることが望ましい。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業の前後の時間で実施する								
実 践 的 教 育									

授業名	会計演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス 財務ディスクロージャー制度とは	(学修内容) 本授業の目標を理解し、学習計画を立てる 財務ディスクロージャー制度の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「決算書超入門」を事前に読んでおく 興味のある上場企業のディスクロージャー状況を調べる
第2回	決算書の種類と簿記	(学修内容) 会計のルールを確認し、会計のルールを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「そもそも会計って何？」を事前に読んでおく 興味ある上場企業の決算書を印刷して、第3回に持参する
第3回	決算書の役割	(学修内容) 貸借対照表と損益計算書の役割を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「これが決算書の中身！」を読んでおく 事後学修として、キーワードの説明をノートにまとめる
第4回	損益計算書の役割	(学修内容) 損益計算書の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「損益計算書で何がわかる？」を読んでおく
第5回	損益計算書：利益	(学修内容) 利益について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「損益計算書のしくみ」を読んでおく
第6回	損益計算書：費用	(学修内容) 費用について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「損益計算書は、費用で見る！」を読んでおく
第7回	貸借対照表の役割	(学修内容) 貸借対照表の役割と構造について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「貸借対照表で何がわかる？」、「貸借対照表のしくみ」を読んでおく
第8回	貸借対照表：資産の部	(学修内容) 資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「3つの部 資産の部」を読んでおく
第9回	貸借対照表：負債、純資産の部	(学修内容) 負債の部、純資産の部について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「3つの部 負債の部」「3つの部 純資産の部」を読んでおく
第10回	キャッシュ・フロー計算書	(学修内容) キャッシュ・フロー計算書について説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「キャッシュフロー計算書の話」を読んでおく
第11回	経営分析 - 収益性	(学修内容) 企業の収益性（効率良くもっているか）の分析指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「収益性の話」を読んでおく
第12回	経営分析 - 安全性	(学修内容) 企業の安全性（倒産のリスクはどうか）の指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「安全性の話」を読んでおく
第13回	経営分析 - 成長性	(学修内容) 企業の成長性の指標を説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「成長性の話」を読んでおく
第14回	決算書分析の方法	(学修内容) 企業の決算書を用いて、数値を分析する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト「決算書から会社のホントの姿を見る！」を読んでおく
第15回	決算書分析まとめ	(学修内容) 企業の決算書から企業分析を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 興味のある企業の決算書を用意しておく

授業名	権利擁護の実際			開講学年	4回生	単位数	2単位	科目コード	
英文名				開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	山川 宏和			対象学生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p>								
学修成果到達目標	<p>知識（理解）児童、障がい者や高齢者の現状や権利擁護の課題について理解する。態度（関心・意欲）身近な問題を含む権利擁護についての知識習得への意欲や法制度に関心を持つ。技能（表現）授業内の発表を通じて、ソーシャルワーカーとして適切な表現を身につける。授業での発表等を通じてプレゼンテーションや適切な表現を学ぶ。</p>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価の観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( )	プレゼンテーション能力 ( )	課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 「権利擁護を支える法制度」 中央法規出版								
参考書	適宜配布する								
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは採点し、必要があればコメントして返却する								
留意事項									
オフィスアワー	設定するが、必要に応じて対応する								
実践的教育									

授業名	権利擁護の実際	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	法の基礎 法と規範 法の体系、種類、機能	(学修内容) 憲法をはじめとする法について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第2回	法の基礎 法律の基礎知識、法の解釈	(学修内容) 法律の制定、施行、運用、解釈などを説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第3回	法の基礎 裁判所判例	(学修内容) ソーシャルワークにかかわる判例を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第4回	ソーシャルワークと法の関わり 基本的人権等	(学修内容) 基本的人権の必要性とソーシャルワークの関係を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第5回	ソーシャルワークと法の関わり 民法、規約、不法行為	(学修内容) 民法について説明し、特別養子縁組制度も紹介する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第6回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法 行政処分、行政訴訟制度	(学修内容) 行政訴訟の仕組みについて説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第7回	権利擁護の意義と支える仕組みの適切な利用、苦情解決 福祉サービスの	(学修内容) 福祉サービスの利用と、そのために生じる苦情の解決について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第8回	権利擁護の意義と支える仕組み及び差別禁止法の概要 各虐待防止法	(学修内容) 児童、高齢者などの虐待防止法について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第9回	権利擁護に関わる関係団体 組織・団体の役割	(学修内容) 市町村、家庭裁判所、社会福祉協議会、弁護士などについて説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第10回	権利擁護活動における法的諸問題 プライバシー 秘密保持、	(学修内容) プライバシーや秘密保持などソーシャルワーカーとして身につけるべき知識を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) プライバシーの重要性を過去の実習から考察しておく
第11回	権利擁護活動における法的諸問題 インフォームド・コンセント 個人情報	(学修内容) インフォームド・コンセントについて説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第12回	成年後見制度 成年後見制度の概要	(学修内容) 成年後見制度の成立の背景、制度の概要を説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 高齢者虐待や障害者虐待などの事例を調べておく
第13回	成年後見制度 成年被後見人の能力と後見人の役割	(学修内容) 被後見人と後見人について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第14回	成年後見制度 保佐・補助の概要	(学修内容) 保佐、補助と任意後見について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキストの該当箇所を確認しておく
第15回	成年後見制度 日常生活自立支援事業の概要	(学修内容) 費用負担や支援の運用について説明する (事前事後学修課題の内容) (30分) 非行少年やホームレスなど、ソーシャルワークの対象となる範囲を整理する

授 業 名	ソーシャルワーク演習			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Social Work Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワーク実習での事例に関して、事例検討や事例研究を行い、ソーシャルワーカーに求められている地域共生に向けた、複合化・複雑化した課題を受けとめ、多職種協働による包括的相談支援体制が身につくよう、その意義や方法が具体的に理解できるように進めていきます。ソーシャル機能が発揮できるよう体験的にスーパービジョンを受け、学生自身の理解が深められるようにし、専門職としてのソーシャルワーク実践力が確かなものになるようにしていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<p>1. ソーシャルワーク実践（個別から集団）における倫理・価値・知識を基礎とした技術の獲得ができる 2. 実習体験を通して、意義や方法を具体的に理解できる 3. スーパービジョンを体験的に理解する</p>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 ( )			
テ キ ス ト	<p>ソーシャルワーク演習 に引き続き同じ教科書を使用します。 『ソーシャルワーク演習（専門）』中央法規出版</p>								
参 考 書	必要に応じて適宜紹介します								
課題に対する フィードバック の方法	提出物、返却時にコメントを入れています。								
留 意 事 項	学生参加型の講義方法をとる。積極的な受講態度を希望します。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了時及び研究室在室時に対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士を所持 高齢者施設、児童福祉施設勤務経験あり</p>								

授 業 名		ソーシャルワーク演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題	
第1回	オリエンテーション	(学修内容)オリエンテーション 本講義の到達目標の理解と学習方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:ソーシャルワーク演習 の復習	
第2回	課題別援助方法の獲得 医療福祉	(学修内容)医療福祉課題への支援・退院、社会復帰援助・難病患者へのチーム医療・ についての事例研究をグループワークを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:地域医療について調べる	
第3回	課題別援助方法の獲得 終末期	(学修内容)終末期ケアでのソーシャルワーカーの役割を理解する。DVD視聴により 理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:死を迎える場所について調べる	
第4回	課題別援助方法の獲得 社会的孤立	(学修内容)社会的孤立への支援・予防とアウトリーチについて、ロールプレイを通 して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:引きこもり支援について調べる	
第5回	課題別援助方法の獲得 地域ネットワーク	(学修内容)地域ネットワークの構築について、事例研究を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:社会福祉協議会について調べる	
第6回	課題別援助方法の獲得 非行少年支援	(学修内容)非行への理解と社会復帰について、事例研究を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:非行の現状について調べる	
第7回	課題別援助方法の獲得 犯罪者支援	(学修内容)障害、高齢犯罪者への社会復帰について、事例研究を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:犯罪の種類と刑について調べる	
第8回	課題別援助方法の獲得 災害時支援	(学修内容)災害時の支援・時間経過に伴う生活ニーズの把握・資料 ボランティアコーディネートについて、事例研究を通して理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:災害ボランティアについて調べる	
第9回	対象の理解 基本的事項	(学修内容)4つの視点での対象の理解(情報収集)について、グループワークをし 、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:実習でのケースの振り返り	
第10回	対象の理解 環境の理解	(学修内容)個の置かれている環境の理解(アセスメント)について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:実習でのケースの振り返り ディスカッション	
第11回	実践的インテーク面接の方法	(学修内容)対象に合わせた面接の方法について、ロールプレイングを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:ケースの整理をする	
第12回	対象に応じたアセスメントの方法	(学修内容)アセスメントの方法と視点について、アセスメントシートを作成し理解 する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:アセスメントシートの作成	
第13回	対象に応じた多職種連携と人的資源の活用	(学修内容)人的資源の活用方法について、事例を通して具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:活用できる人的資源を調べる	
第14回	対象に応じた介入方法	(学修内容)介入方法の理解について、具体的事例をとして理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:フォーマルサービスを調べる	
第15回	介入方法に応じた客観的評価の方法	(学修内容)評価技法と実際について、実際の事例を基に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:学びのまとめをする	

授 業 名	ソーシャルワーク演習			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Social Work Practice			開 講 時 期	秋学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>対人援助に必要な基本的事項を学び具体的な事例を活用し横断的、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。事例や実習体験を通して、援助の過程をより実践的技術が習得できるよう、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整、開発等について理解を深めていくようにします。</p> <p>さらに地域福祉の基盤整備と開発についての事例を通して、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価等について実践的に学習を進めていきます。地域課題や個別的な体験を一般化し、実践的なソーシャルワーカーとしての知識と技術として習得できるように進めていきます。</p>								
学 修 成 果 対 象 業	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実践の過程について、様々な演習方法を通じて理解と習得ができる。</li> <li>2. 生活者の理解と横断的・総合的・包括的支援の方法を理解できる。</li> <li>3. 地域課題や対象者の生活課題が理解でき、実践的技術が習得できる。</li> <li>4. 対象者のニーズに対して必要な環境調整や社会資源の活用等の援助計画の立案について理解できる。</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）	グループワーク I C T活用（自主学習支援）	プレゼンテーション					
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テ キ ス ト	<p>ソーシャルワーク演習 及びソーシャルワーク演習 で使用したテキストを使用します。 『ソーシャルワーク演習（専門）』中央法規出版</p>								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物の返却時にコメントを入れて返却するもしくは、口頭でフィードバックをします。								
留 意 事 項	。新聞、ニュースなど社会の時事にも関心をもち、積極的に情報収集すること。関連科目の知識が必要となる。他の科目での学びも事例に関係する分野では、しっかり復習をしておいてください。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了時及び研究室入室時に対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり</p>								

授 業 名		ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 演 習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義の内容及び目標について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) ソーシャルワーク演習 の復習
第2回	地域アセスメントの方法と実際	(学修内容)地域アセスメントの方法と実際について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:指定された地域について調べる(ワークシート)
第3回	地域ニーズの把握方法	(学修内容)社会調査の方法・フィールドワークを通して学ぶ。 小学校区の地図とスケッチブック配布します。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:地域の下見をしておくこと
第4回	地域住民の活動	(学修内容)地域住民のアウトリーチ活動について、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:住民ニーズについて知る方法を調べる
第5回	小規模福祉活動計画	(学修内容)計画の作成方法について、グループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:第4回までの授業の振り返りを整理しておく
第6回	小規模福祉活動計画 実践へのサジェスチョン	(学修内容)実践へのサジェスチョンをプレゼンテーションを行い理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:リーダーシップに必要な要素を挙げておく
第7回	評価技法と具体的サービス評価の方法	(学修内容)評価技法と実際について、実践を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:評価の方法について、他の分野についても調べる
第8回	ソーシャルキャピタルの形成要素とソーシャルワーク	(学修内容)ソーシャルキャピタルの形成について、地域課題の抽出と共に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:ソーシャルキャピタルについて調べる
第9回	スーパービジョンの方法	(学修内容)スーパービジョンについて、ロールプレイング・プレゼンテーションを通して体験的に学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:スーパービジョンの役割と機能を調べる
第10回	ソーシャルアクションの方法	(学修内容)ソーシャルアクションの具体的方法を知る (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:ソーシャルアクションの具体的実践事例を調べる
第11回	権利擁護と実践方法	(学修内容)権利擁護の具体的展開方法を知る (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:成年後見制度を調べる
第12回	共生社会に向けての取り組み	(学修内容)身近な共生社会への取り組みについてグループワークを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:ユニバーサルデザイン、バリアフリーの取り組みを調べる
第13回	施設コンフリクトの理解	(学修内容)実習体験を通して、施設の現状を知る (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前:実習での体験を振り返る
第14回	施設コンクリフトの解決方法	(学修内容)施設困コンクリフトの具体的解決方法を組織論等を通して知る (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:解決方法を知った結果の自己の振り返り
第15回	ソーシャルワーカーの実践力に必要なもの	(学修内容)本講義のまとめ(ソーシャルワーカーの機能について確認する) (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:学びの整理をする

授 業 名	ソーシャルワーク演習			開 講 学 年	4回生	単 位 数	1単位	科 目 コ ー ド	
英 文 名	Social Work Practice			開 講 時 期	春学期		必 修 選 択	選 択	
担 当 者	吉島 紀江			対 象 学 生	現代家政4回生				
授業の概要	<p>ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合を行い、専門職として概念化や理論化し体系立てていく能力が求められています。実習で得たかけがえのない体験を基に学内での教科学習を統合し、社会福祉士として求められている能力を習得できるよう進めていきます。様々な演習方法（グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング）を通して、価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養えるようにしていきます。</p>								
学 修 成 果 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合ができる</li> <li>2. ソーシャルワークの価値規範を理解できる</li> <li>3. ソーシャルワークの倫理的判断能力が養われる</li> <li>4. 支援を必要とする人の総合的かつ包括的な支援について理解できる</li> </ol>								
学位授与の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評 価 方 法	定期試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50 % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テ キ ス ト	「ソーシャルワーク演習（専門）」中央法規								
参 考 書	適宜紹介します								
課題に対する フィードバック の方法	提出物にコメントをつけて返却します。								
留 意 事 項	リーダーシップ、オーナーシップ、メンバーシップと与えられた役割を果たす必要があります。								
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義終了時及び研究室に在室時に対応します。								
実 践 的 教 育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格所持 高齢者施設、児童福祉施設で勤務経験あり</p>								

授 業 名		授 業 計 画
ソーシャルワーク演習		学修項目
		学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本授業について到達目標及び授業の概要を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:資料を読む
第2回	個別援助過程、集団援助過程(グループワーク)	(学修内容)個別援助過程、集団援助過程(グループワーク)についての学びの確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:資料を読む
第3回	グループワークの展開過程	(学修内容)プログラム導入による展開過程について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:資料を読む
第4回	社会福祉における今日的課題について	(学修内容)新聞記事から個人ワークを通して検討する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:新聞記事の切り抜き
第5回	課題別援助方法の獲得 低所得者	(学修内容)低所得者理解(エコシステム論的視点)と支援について事例研究を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:低所得者に関する施策を調べる
第6回	課題別援助方法の獲得 高齢者虐待	(学修内容)高齢者虐待の理解(家族関係の視点から)と支援について、事例研究を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:高齢者虐待に関する施策及び家族支援策を調べる
第7回	課題別援助方法の獲得 認知症高齢者	(学修内容)認知症高齢者の支援・担当者会議のロールプレイを通して理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:認知症家族の手記を読む
第8回	課題別援助方法の獲得 児童虐待	(学修内容)児童虐待のアウトリーチについて事例を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:児童相談所について調べる
第9回	課題別援助方法の獲得 児童虐待	(学修内容)児童虐待の理解(エコシステム論的視点)と支援について、事例研究・ファミリーマップ・プレゼンテーションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:児童虐待事件の記事を読む
第10回	課題別援助方法の獲得 身体障害	(学修内容)身体障害者への支援・障害受容への援助について、DVD視聴し学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:配布資料を読む
第11回	課題別援助方法の獲得 身体障害者への支援	(学修内容)身体障害者への支援『こんなつ夜更けにバナナかよ』から検討する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:『こんなつ夜更けにバナナかよ』を調べる
第12回	課題別援助方法の獲得 環境調整と社会資源	(学修内容)身体障害者への支援・環境調整への援助・社会資源の活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:身体障害者への福祉用具と価格を調べる
第13回	課題別援助方法の獲得 知的障害者への支援	(学修内容)知的障害者への支援について、アドボケイトの視点から学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:知的障害者の就労先を調べる
第14回	課題別援助方法の獲得 知的障害者の就労支援	(学修内容)知的障害者の就労支援について、事例研究を通して学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前:障害者の雇用状況を調べる
第15回	まとめ	(学修内容)本講義の学びのまとめ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事後:実施した課題の整理をする

実 習 名	保育実習（施設）（LC2728）	対 象 学 生	現代家政2回生
担 当 者	山川 宏和・芹澤 出		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。</li> </ul> <p>2. 保育実習（施設）の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設における子ども・利用者の生活と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ</li> <li>健康管理、安全対策、子ども・利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ</li> <li>家庭復帰支援や自立支援など、施設の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ</li> <li>保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</li> </ul> <p>3. 実習生に対する指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</li> </ul> <p>4. 実習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先は、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所支援等のうち、いずれか1か所配当する。期間は、2回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。原則、宿泊だが、一部は通勤になる場合がある。</li> </ul> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合基礎演習 ・ 、現代家政学演習 ・ 、保育原理、発達心理学（保育の心理学）を受講済であること、保育実習指導 ・ 社会的養護 ・ 子ども家庭福祉、子どもの保健 ・ を受講済又は履修中であること。</li> <li>・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導の単位を取得することを条件とする。</li> </ul> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。</li> <li>・子どもと利用者、保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</li> </ul>		

実 習 名	保育実習（保育所）（LC3749）	対 象 学 生	現代家政3回生
担 当 者	西川 由紀子・近本 佳子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は、保育所を含め、多種多様な児童福祉施設に配置される児童福祉の専門職である。専門職として必要な職業倫理、業務について理解し、子どもとのかかわりを通して子どもの理解を深め、保育所保育指針との関係で保育所の役割や機能を具体的に理解することを目的とする。</li> </ul> <p>2. 保育実習（保育所）の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりを学ぶ</li> <li>子どもの観察およびその記録を通して子どもの発達を理解する</li> <li>子どもの発達に応じた保育内容や環境の構成を学ぶ</li> <li>保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</li> </ul> <p>3. 実習生に対する指導法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</li> </ul> <p>4. 実習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習先は、保育所とする。期間は、3回生春学期の8～9月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</li> </ul> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導 への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合基礎演習 ・ 、現代家政学演習 ・ 、保育原理、発達心理学を受講済であること、保育実習指導 ・ 社会的養護 ・ 子ども家庭福祉、子どもの保健 ・ を受講済又は履修中であること。</li> <li>・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導 の単位を取得することを条件とする。</li> </ul> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。</li> <li>・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</li> </ul>		

実 習 名	保育実習 (LC3775)	対 象 学 生	現代家政3回生
担 当 者	西川 由紀子・近本 佳子		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          保育実習 で学んだことに基づいて、養護と教育が一体的に行われるという保育の基本原理や保護者支援、子育て支援、地域連携など保育所の社会的役割を具体的実践から学び取ることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習 の内容          養護と教育が一体となって行われている保育の具体的展開を学ぶ          保育士の援助や関わりを通して、保育を理解する          保護者への支援や地域社会などとの連携を学ぶ          保育士等の連携を学び、自己の課題を明確化する</p> <p>3. 実習生に対する指導法          原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          実習先は、保育所とする。期間は、3回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について          保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導 への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など          ・総合基礎演習 ・、現代家政学演習 ・、保育原理、発達心理学を受講済であること、保育実習指導 、社会的養護 、子ども家庭福祉、子どもの保健 ・を受講済又は履修中であること。          ・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導 の単位を取得することを条件とする。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・プライバシー保護のため、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

実 習 名	保育実習 (LC3776)	対 象 学 生	現代家政3回生
担 当 者	山川 宏和・芹澤 出		
実習の概要	<p>1. 目標・目的          ・保育実習 （入所施設および保育所）での学びを踏まえ、児童館で実習を行う。乳幼児の保育、小学生の学童保育、地域連携の実際等を実習することによって、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。児童館が、児童、家庭、関係機関、地域社会を結ぶ子育て支援の拠点であることを、児童館の活動、保育士のソーシャルワーク的支援などから学ぶ。さらに、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p> <p>2. 保育実習 （施設）の内容          児童館における子ども・保護者の利用状況と、個々に応じた保育士等の援助を学ぶ          健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ          乳幼児クラブや母親サークル、学童保育など、児童館の機能と役割、関係機関との連携について学ぶ          保育士等の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導法          ・原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態          ・実習先は、すべて児童館で行い、学生の居住地域等を参考に配属する。期間は、3回生秋学期の2～3月のうち10日間（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。すべて、通勤で行う。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について          ・保育実習指導 で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導 で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとする場合がある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件など          ・総合基礎演習 ・、現代家政学演習 ・、保育原理、発達心理学（幼・小）を履修済であること、保育実習指導 、社会的養護 、子ども家庭福祉、子どもの保健 ・を履修済又は履修中であること。          ・保育実習 の単位を取得するには、保育実習指導 の単位を取得することを条件とする。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など          ・プライバシー保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。          ・子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理をしっかりと行う。</p>		

実習名	教育実習（家庭）（LC4802）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊 雄一		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 教育実習とは教職に必要な単位数を満たしているものが、一定期間学校現場に身をおき、教師（見習い）として実際の教育活動に取り組むことである。単に現場を体験するのとは異なり、大学で学んだ理論と知識・技術を活かしながら、実習先の教員の指導のもと、あらゆる教育活動に取り組みねばならない。生徒一人ひとりの発達特徴やクラスの雰囲気をつかみ、クラス活動や授業を計画実施するだけでなく、組織としての学校とその中での教員の役割の全体像を学ぶことが求められる。実習を通して、教員としての自覚と責務の重さを新たにし、さらなる資質向上を目指してほしい。</p> <p>2. 教育実習（中・高）の内容 生徒理解： 担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 参加実習： 実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 校務理解： 教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 学校行事への参加： 期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。</p> <p>4. 実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校 4回生 5～6月、8～9月のいずれかで連続3週間 ・高等学校 4回生 5～6月 2週間 ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を3回生秋学期と4回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を4回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。</p>		
備考	<p>実習受講の条件など 総合基礎演習・、現代家政学演習・、人権と社会、教育の基礎と制度、道徳教育論、中等教科教育法（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒・進路指導論、教育の方法と技術、教職論、特別活動、中等教科教育法（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する専門的事項は3回生春学期までに開講する科目の内、6科目12単位以上を履修済み又は履修中であること。中学校実習を希望する学生で、保育実習の施設実習もしくはソーシャルワーク実習を受けていない者は、7日間の介護等体験実習を教育実習の前に受けておくこと。教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むこと。</p>		

実習名	教育実習（幼・小）（LC4800）	対象学生	現代家政4回生
担当者	平尾 隆史・竹村 伸子・森岡 葉子・柿本 真代・盧 珠妍		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。</p> <p>2. 教育実習 の内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。</p> <p>4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習 はこの前半部分とする。</p> <p>5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わる、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済又は履修中であることが、実習にできる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。</p>		

実習名	教育実習（家庭）（LC4803）	対象学生	現代家政4回生
担当者	渡邊 雄一		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 教育実習は、「教育実習事前・事後指導」を履修し、その学修の一端として行われるものである。教員の仕事、授業の進め方、生徒の理解、保護者・地域の願い等、学校教育全体を、大学で学んだ理論・知識・技術等を駆使しながら実践的に理解する学びである。中学校は3週間、実習生として学校現場に身を置き、実習担当教員の指導の下、あらゆる教育活動に主体的に取り組む中で、生徒を育てる意味とその方法はもちろん、学校組織の一員としての役割と責任を見出すことを期待している。</p> <p>2. 教育実習（中）の内容 生徒理解：担当学級の諸活動に入り、生徒についての理解に努める。 参加実習：実習校教員の授業を参観したり、教員の指示のもと生徒の支援・指導にあたる。（参観授業では授業記録をとる） 実習校教員の指導のもとで、授業準備を整え、指導案を作成し、授業をする。 校務理解：教職員の勤務（とくに教育指導以外の職務）について、体験を通して理解する。（職朝、会議、研修等） 地域や家庭との連携について、体験を通して理解する。 学校行事への参加：期間中の学校行事については、可能な限り参加する。行事についての事前指導、準備、事後指導等についても学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回、巡回指導を行い、実習校の実習指導担当者との連携のもとに実習生への指導を行う。</p> <p>4. 実習形態 実習期間は、以下の期間を原則とする。 ・中学校 4回生 5～6月、8～9月のいずれかで連続3週間 ただし、実習校との相談の結果、上記以外の期間に実施する場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・教育実習事前事後指導の授業を3回生秋学期と4回生春学期に実施する。教育実習事前事後指導において、無断欠席並びに提出物の未提出などが続く場合には、実習を行えないとする場合がある。 ・実習報告会を4回生秋学期の教職実践演習の時間に実施することにより、成果と課題を整理し、実習の学びを振り返る。</p>		
備考	<p>実習受講の条件など 総合基礎演習・、現代家政学演習・、人権と社会、教育の基礎と制度、道徳教育論、中等教科教育法（家庭）を履修済みであること。情報処理、教育心理学、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒・進路指導論、教育の方法と技術、教職論、特別活動、中等教科教育法（家庭）、教育実習事前・事後指導、教育課程総論を履修済み又は履修中であること。教科に関する専門的事項は3回生春学期までに開講する科目の内、6科目12単位以上を履修済み又は履修中であること。保育実習の施設実習もしくはソーシャルワーク実習を受けていない者は、7日間の介護体験実習を教育実習の前に受けておくこと。教育実習は、教員を目指そうとする高邁な意志をもつ学生の支援をしようという実習先の好意によって実現されていることをしっかり自覚し、真摯な態度で臨むこと。</p>		

実習名	教育実習（幼・小）（LC4801）	対象学生	現代家政4回生
担当者	平尾 隆史・竹村 伸子・森岡 葉子・柿本 真代・盧 珠妍		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 ・子どもの人格形成や生きる力の基礎の獲得に教員は重要な役割を果たすものである。所定の期間、継続して教育現場に入って実践的に学び、子どもや教職そのものについての理解を深めて教師としての基盤を確立することが本実習の目的である。</p> <p>2. 教育実習 の内容 ・実習校で、自分が入るクラス担任や実習担当教員の指導を受けながら、子どもと関わり、教育実践に取り組む。具体的内容は以下の通り。 教員としての基本的態度を身に付けると同時に教職への意欲や使命感を高める。 子どもを個別に理解すると同時に、集団における指導の意味を理解し、教員として必要な専門的、実践的指導力を身に付ける。 学校と保護者、地域の連携を理解し、学校教育の全体像を把握する。 教員として自らが高めなければならない資質や実践的指導力の課題を明らかにする。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 ・原則として実習中1回の巡回訪問、および、週1回の電話やメールでの状況確認により指導する。 ・実習校には予め実習要項を渡して本学の実習内容について連絡し、連携しながら実習にあたる。</p> <p>4. 実習形態 ・原則として実習生自らが開拓した実習校において4週間連続の実習を行う。教育実習 はこの後半部分とする。</p> <p>5. 事前事後指導などの内容（必要性）について ・教育実習は、学生としてではなく教員として子どもと関わる、責任の重い実践的な学びであることから、その準備および定着のために事前事後指導は必須であり、事前事後指導への真摯な取り組みが教育実習の充実につながる。従って、事前事後指導ではそのことを意識させる指導をし、学生は主体的に参加する自覚と可能な限りの準備をして取り組むことが大切である。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件 ・本学所定の科目を履修済又は履修中であることが、実習にできる条件である。 ・実習と切り離すことのできない科目である教育実習事前指導においては、履修状況が悪い場合は実習に出せない場合がある。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・教育実習は単に資格取得に必要な単位獲得のためのものではなく、実習先の好意によって「実習させていただいている」ことを忘れず真摯な態度で臨むことが期待される。 ・教員として何が大切か主体的に考え、行動すること。 ・子どもの人権に配慮し、また、守秘義務をまもって知りえた個人情報などは第三者に漏らさないこと。</p>		

実習名	給食経営管理臨地実習（給食の運営）（LC3752）	対象学生	食物栄養3回生
担当者	富安 広幸		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 給食経営管理論の講義および実習で学んだ食事の計画や調理、衛生管理等を含めた給食サービス提供に必要な知識や技術を、事業所、福祉施設等の特定給食施設において実践的に体験する。そこで実践活動の場における課題を発見、解決していくことで、これまで学んできた専門的知識とその技術との統合を図り、管理栄養士として具備すべき給食運営に必要な力を体得する。</p> <p>2. 給食経営管理臨地実習（給食の運営）の内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じた実習計画により実施する。 ・献立作成から提供までの実務業務を体験学習し、給食システムを学ぶ。 ・大量調理の特性、安全・衛生管理、事故・災害時対策の実際、適時適温配膳の実際、施設設備・機器を観察学習、食中毒、異物混入等の防止のための衛生管理、衛生教育など集団の栄養管理、衛生管理の実際について学ぶ。 ・喫食者アンケートや行事食など個人対応の実際について学ぶ。 ・調理師や調理員及び他職種とのコミュニケーションや連携の実際について学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所、児童福祉施設等の集団給食施設のいずれかを配当する。期間は、3回生の5月～3月のうち5日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など 食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、調理学実習、調理学実習の7科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。</p>		

実習名	給食経営管理臨地実習（LC4808）	対象学生	食物栄養4回生
担当者	富安 広幸		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 特定給食施設で給食経営管理のマネジメントを行う管理栄養士の業務を観察・体験し、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを養う。マーケティングの原理や応用についても理解する。それとともに、組織管理のマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。</p> <p>2. 給食経営管理臨地実習の内容 ・臨地実習先施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じた実習計画により実施する。 ・給食の組織、人事管理と労務管理等の給食経営と組織について学ぶ。 ・栄養・食事管理の実際、及び食事提供システム、食事温度管理等についての給食の品質保証と標準化について学ぶ。 ・原価管理・食材管理、調理機器の種類と管理、調理の実際の給食の生産について学ぶ。 ・栄養業務上発生する情報とその把握等の給食の情報処理管理について学ぶ。 ・栄養教育の実際について学ぶ。</p> <p>3. 実習生に対する指導法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 実習先は、病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、事業所等の集団給食施設のいずれかを配当する。期間は、5月～3月のうち5日間以上であり、45時間の実習とする。原則、通勤だが、一部宿泊になる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について ・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。 ・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。 ・実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行い、実習の学びを振り返る。また、実習内容の報告と反省・評価のプレゼンテーションを実施し、知識・技術の統合に努める。</p>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など 食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、調理学実習、調理学実習、給食経営管理論、臨床栄養学、臨床栄養学、臨床栄養学の11科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など ・個人情報保護にもとづいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。 ・実習においては、健康管理や衛生管理が重要であり、実習前後及び実習中の自己管理を徹底する。 ・実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、より意義のある実習とすること。</p> <p>3. 「給食経営管理臨地実習（給食の運営）」を原則受講済みであること。</p>		

実習名	公衆栄養学臨地臨地実習（LC4809）	対象学生	食物栄養4回生
担当者	ロシニョーリ 正代		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門知識及び技術の統合を図る。</li> <li>・公衆栄養分野の臨地実習においては、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善に関する施策が法律にもとづいて実施されていることを理解する。</li> <li>・行政栄養士は健康・栄養問題を取り巻く情報の収集・総合的な分析を通して地域の優先的な健康課題に取り組む。また、その背景にある食環境、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、子供や高齢者の健康、社会環境整備にかかわる担い手であることを理解する。</li> </ul> <p>2. 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所・保健センターでは、施設での機能、業務内容に違いがあるため、実習施設の状況に応じた実習計画により実施する。</li> <li>・特に健康日本21（第二次）の取り組みとしての他職種と協働できる調整能力等のマネジメントについて学ぶ。また、健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルに基づく施策を推進するための地域診断や政策立案について学ぶ。</li> </ul> <p>3. 実習生に対する指導法</p> <p>原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態</p> <p>実習先は、京都府と京都市の保健所及び市町村保健センターいずれか1箇所を配当する。期間は4回生の5月～7月中の平日5日間（45時間）とする。配当によっては宿泊を伴う地域での実習となる。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等（必要性）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習におけるマナー教育、演習や提出物作成に積極的に取り組むこと。場合によっては、実習を見直すこともある。</li> <li>・実習後には各々、実習内容の報告と反省・評価をプレゼンし、知識・技術の統合に努める。</li> <li>・配当施設からの実習前課題の準備を行うこと。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など</p> <p>食品学、食品学、基礎栄養学、栄養教育論、調理学実習、調理学実習、給食経営管理論、給食経営管理論、臨床栄養学、臨床栄養学、臨床栄養学、公衆栄養学、公衆栄養学の13科目を履修済みとのこと</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護のため、実習中に知りえた情報を第三者に漏らしてはならない。</li> <li>・実習先指導者、実習担当教員による事前の指導や助言を真摯に受け止め、より充実した実習を目指す。</li> <li>・実習においては健康管理や衛生管理等が重要であり、実習前後の自己管理を徹底する。</li> </ul>		

実習名	臨床栄養学臨地実習（LC4810）	対象学生	食物栄養4回生
担当者	平 正人		
実習の概要	<p>1. 目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内で学んできた知識や技術を活かし、病院や介護老人保健施設において課題発見や問題解決について学ぶ。</li> <li>・傷病者の栄養評価や栄養管理、病態に応じた栄養ケアプランの作成、栄養指導について管理栄養士としての専門知識と技術を修得する。また、チーム医療における管理栄養士の役割について理解を深めることを目的とする。</li> </ul> <p>2. 臨床栄養学臨地実習（ ）の内容</p> <p>病院・施設の経営方式や組織と栄養部門の運営方式、管理体制、栄養部門業務の概要について学び、説明ができる。栄養補給における経腸栄養法、静脈栄養補給法の実際について学び、その技術や知識などを理解し修得する。傷病者の急性期、慢性期の栄養管理方法とチーム医療における栄養ケアプラン、栄養食事指導の実践力を身につける。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法</p> <p>原則として実習中に1回以上巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態</p> <p>実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は4回生「春学期～秋学期」のうち5日間（休みを除く）であり、45時間（事前・事後指含む）の実習を行う。原則として通勤であるが、一部は宿泊となる場合もある。</p> <p>5. 事前事後指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告会と反省会を行う。</li> <li>・施設の実習評価に基づいた評価面談もを行い、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備考	<p>1. 実習受講の条件など：食品学、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、調理学実習、臨床栄養学の11科目を履修済みであること。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲など：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。</p> <p>3. 実習に向けて：実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。</p> <p>4. 給食経営管理臨地実習（給食の運営）を原則として履修済みであること。</p>		

実 習 名	臨床栄養学臨地実習 (LC4811)	対 象 学 生	食物栄養4回生
担 当 者	平 正 人		
実習の概要	<p>1.目標・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場で傷病者の栄養状態を正しく評価し、病態に応じた食事療法や栄養指導を遂行する管理栄養士業務を体験し、各種疾患別、ライフステージ別の身体状況や栄養状態に応じた具体的な栄養管理の実践について学ぶ。</li> <li>・在宅における栄養食事指導の在り方や管理栄養士に課せられた役割について理解を深めることを目的とする。</li> </ul> <p>2.臨床栄養学臨地実習( )の内容</p> <p>チーム医療における管理栄養士の役割を理解し、入院・外来、及び在宅療養患者の栄養食事指導に必要な能力を実体験から学ぶ。代謝、消化管、循環器、癌、免疫、内分泌などの各疾患における栄養ケアプランの実際について理解し、説明ができる。患者・入所者の食事介助と観察記録の作成、摂食状況調査などから、栄養ケアプラン作成と再評価までの実践力を身につける。</p> <p>3.実習生に対する指導方法</p> <p>原則として実習中に1回以上、巡回指導を行い実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4.実習形態</p> <p>実習先は病院、介護老人保健施設のいずれかを配当し、期間は4回生「春学期～秋学期」のうち5日間(休みを除く)であり、45時間(事前・事後指含む)の実習を行う。原則として通勤であるが、一部は宿泊となる場合もある。</p> <p>5.事前事後指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を見直すこともある。また実習後には当該実習先の報告会と反省会を行う。</li> <li>・施設の実習評価に基づいた評価面談も行い、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</li> </ul>		
備 考	<p>1.実習受講の条件など：食品学・、基礎栄養学、栄養教育論、給食経営管理論・、調理学実習・、臨床栄養学・の11科目を履修済みであること。</p> <p>2.実習態度、参加意欲など：プライバシー保護に基づいて、実習中に知りえた情報を第三者等に漏らしてはならない。患者、入所者とその家族の権利擁護を最優先とする。また、安全な実習が行えるように健康管理、衛生管理を徹底する。</p> <p>3.実習に向けて：実習先の指導者、実習担当教員による指導や助言を真摯に受け止め、有意義な臨地実習とすること。実習先施設へ出向くにあたり社会人としてのマナーや礼儀、遵守すべきルールなどは最低限事前把握し、確認しておくこと。</p> <p>4.給食経営管理臨地実習(給食の運営)を原則として履修済みであること。</p>		

実 習 名	ソーシャルワーク現場実習	対 象 学 生	現代家政2回生
担 当 者	吉島 紀江		
実習の概要	<p>ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践力を養うことを目的に実際にのソーシャルワークが行われている現場に出向き実習を行う。支援を必要とする人の理解と専門職としての態度も必要となる。また、実習がスムーズに且つ学びが有機的に行われるよう実習期間中に教員が施設職員と協働し、訪問指導を行いません。</p>		
備 考			